不思議功德經 ❶(日)Fu-shi-gi-kudoku-kyō. (支)Fu-ssū-i-kung-te-ching. ❷二卷 ❸失譯 ❹(參考)出三藏記第四、法經錄第一、三寶紀第五、內典錄第二

不思議功德諸佛所護念經 ❶(日)Fu-shi-gi-kudoku-shō-butsu-shō-nen-kyō. (支)Fu-ssū-i-kung-te-chu-fo-so-hu-nien-ching. 不思議功德經 ❷二卷 ❸存、大正一四・三五六No. 445、館黃三、卍二一・七、北395信、南425信、元402信、明北402信、清458信、麗396長、天402信、指357長、法352長、至401長、明南394長、No. 412 ❹失譯

❺本經はその始めから終りまで諸佛の名が列記されてゐるのみで、說時說處說者も記されてゐなく、一經に序正流通の體裁はあるのでもない。所稱の佛名を見るに、東方に四百六十九佛、南方に六十佛、西方に六十一佛、北方に七十佛、東北方に六十三佛、東南方に四十六佛、西南方に六十六佛、西北方に七十二佛、下方に六十七佛、上方に九十三佛、過去に三十一佛、未來に二十二佛、全てゞ千百二十佛に及んでゐる。しかしその內には佛名の重複せるもあり、阿彌陀佛が未來佛となつてゐたり甚だ統一を缺いてゐる如くである。思ふに本經は所讚佛名經典の一部が別行別出せられてゐるものであらう。

❼(參考) 開元錄第二、貞元錄第三

不思議光菩薩所說經 ❶(日)Fu-shi-gi-kō-bo-satsu-sho-setsu-kyō. (支)Fu-ssū-i-kuang-p'u-sa-so-shuo-ching. (梵) Acintyaprabhāsa-nirdeśa(藏傳)Sems-dpahaṅ-pa khyeḥu ssaṅ-ba bsam-gyis-mi khyab-pas bstan-pa shes-bya-bahi chos-kyi-rnam-grahs 不思議光經、無量議光菩薩童子經、不思議光菩薩所問經 ❷一卷 ❸存、大正一四・六六八No. 484、館黃一〇、卍二一・四、北353得、南391得、元391得、明北392短、清392短、麗383改、天390得、指332改、法373必、至391忍、明南382回、No. 395 ❹後秦鳩摩羅什(建元二—義熙九A. D. 344—413)譯 ❺本經は幾女に案てられた嬰兒と佛との問答を主體とするもので、その思想は極めて大乘的である。

❻四容。佛、祇樹給孤獨園より舍衛城に乞食し給へるとき中路の一空地に棄兒あり。容貌端嚴にして狐狼狗も是れを害せず多人見て希有心を生ず。佛は嬰兒の善根成熟し已に佛法義を能知せるを知り行きて一面に住し問答往復せらる。それは偈頌にて記されてゐるが結論を掃ぐれば次の如し。(1)想が有つてはならぬ。(2)衆生不可得にして憍むべきものなし。(3)無我空寂滅には衆生想もなし。(4)衆生想は悲力の故なり。(5)法は物に非ず故に莊嚴し得ぬ。(6)法には文字無し。(7)煩惱には根本も方所も無し。是れを斷ずるとは妄想を斷ずるなり。(8)心性本淨なるも客塵煩惱に染められる。(9)煩惱といふも客體として有なるものではない。(10)非如法は如中に住す。是の如を覺了すれば過もなく功德も無し。(11)三世を覺了するが故に不可得の衆生の煩惱を觀察し得。(12)如々中には稱譽も輕慢も無し。(13)如來の出世は凡夫が如中に妄想を生ずるが故なり。(14)無生に有生を現ずるとは世諦の義なり。(15)衆生の相違の故に世諦と第一義諦の二想を生ず。此の問答終るや嬰兒は總て佛力に依りて問へるなりといふ。

次いで釋提桓因は嬰兒を不思議光菩薩と呼びて天衣を施す。斯處に菩薩は、菩薩の衣服は法服を以てせよとて各種の「菩薩服」を說き、復その生母賢女に菩提心を生ぜしむ。

波斯匿王はこの嬰兒菩薩の不思議神通あるを聞きて佛所に到るや、佛は爲めに菩薩の本生を語らる。

❼(參考) 三寶紀第八、內典錄第三、譯經圖紀第三、開元錄第四、貞元錄第六

不思議光菩薩所問經 ❶(日)Fu-shi-gi-kō-bo-satsu-sho-mon-kyō. (支)Fu-ssū-i-kuang-p'u-sa-so-wen-ching. 不思議光菩薩所說經、無量議光菩薩童子經 ❷一卷 ❸存、大正一四・六六八No. 484、館黃一〇、卍二一・四、北353得、南391得、元391得、明北392短、清392短、麗383改、天390得、指332改、法373必、至391忍、明南382回、No. 395 ❹鳩摩羅什(建元二—義熙九A. D. 344—413)譯 ❺魏秦弘始四—一四(A. D. 402—412)譯 ❻不思議光菩薩所說經の下を見よ。

不思議疏 ❶(日)Fu-shi-gi-sho. (支)Fu-ssū-i-su. 大乘不思議疏、大日經供養次第法疏、不可思議疏、大日經供養法疏、大日經供養法義疏、大日經供養法次第疏、大日經疏 ❷二卷 ❸存、大正三九・七九〇No. 1797、館餘八、卍續一・三七・二 ❹唐代不可思議述 ❺大毘盧遮那經供養次第法疏の下を見よ。 ❻刊本(哲、お・三・左・六)

不思議疏三重祕釋傳授口說 ❶(日)Fu-shi-gi-sho-san-jū-hi-shaku-den-ju-ku-setsu. ❷存 ❸元寂述 ❹(京專)

不思議疏四重口決 ❶(日)Fu-shi-gi-sho-shi-jū-ku-ketsu. ❷二卷 ❸存 ❹寫本(正大・一一六・二・一〇)

不思議疏略鈔 ❶(日)Fu-shi-gi-sho-ryaku-shō. ❷三卷 ❸存 ❹俊彥亮法(元和八—延寶八A. D. 1622—1680)述 ❺(京專)

不思議抄 ❶(日)Fu-shi-gi-shō. ❷一卷 ❸了譽聖冏(曆應四—應永二七A. D. 1341—1420)述 ❼(參考)淨土正依經論書籍目錄

不思議神通境界經 ❶(日)Fu-shi-gi-jin-tsū-kyō-gai-kyō. (支)Fu-ssū-i-shen-t'ung-ching-chieh-ching. 大乘不思議神通境界經、其希有經 ❷三卷 ❸存、大正一七・九二二No. 843、館宙二、卍一五・七、北1399發、南1303鴛、元1213鴛、明北911薄、清931薄、麗1451荊、天1283鴛、至697則、明南935清、No. 936 ❹施護譯 ❺宋太平興國五以後(A. D. 980—) ❻大乘不思議神通境界經の下を見よ。

不思議法門經疏 ❶(日)Fu-shi-gi-hō-mon-kyō-sho. (支)Fu-ssū-i-fa-mên-ching-su. ❷一卷 ❸宋智圓(太平興國元—乾興元A. D. 976—1022)述 ❼(參考)諸宗章疏錄第二

不思議問答 ❶(日)Fu-shi-gi-mondō. 名號不思議誓願不思議問答 ❷一卷 ❸存、假名聖教八十八部(惠空筆寫)之內 ❹傳性信房(文治三—建治元A. D. 1187—1275)

❺慧空假名聖教八十八部の不思議問答の奧に「一本云性信房造」とあり、泰嵩の叢參私記には先づ「傳性信作」とすれど、其の叢參を決して「問うていはく、佛法不思議といふは如何ぞや、答へていはく、不思議に二義あり、一には自力、二には他力なり、又他力に二あり、一には名號不思議、二には誓願不思議也云云、私謂、性信上人の正像末和讚の見聞に對すれば、文言義趣共に同等のものにあらず、この中の義趣は名號不思議を信ずるは他力の中の自力の信心なり、この信心は誓願力の不思議の信心にあらずといへり。又六字經を引いていはく、阿彌陀佛來迎念佛行者處二一日中七千度八千度といへり云云」とし、右の事實を以て恐らくは性信上人の作にはあらざるべし」と述べてゐる。然して本書の內容は、即ち如上の泰嵩の評に明らかなる如く、名號不思議誓願不思議について右樣の問答を出してゐるが、多少諸點に於て淨宗正統の義を失してゐる。藏外法要叢參私記參照。

❾(谷大、宗丙・四八) (羌譯住)

不思議問答 ❶(日)Fu-shi-gi-mondō. ❷一卷 ❸存 ❹散山甚山著、東南叢 ❺天保一三刊 ❻(帝國、一八二・二一五)

不自守意經 ❶(日)Fu-ji-shu-i-kyō. (支)Fu-tzu-shou-i-ching. (巴)S. 33, 97 Pamādavihārī. 自守經、不自守經 ❷一卷 ❸存、大正二・五〇二No. 107、館辰六・卍一四・二一、北752思、南766思、元738思、明北651慶、清651慶、麗744若、天735思、指711若、法741若、至983橫、明南634黃、No. 655 ❹支謙譯 ❺吳黃武二—建興二(A. D. 223—253)

❻本經は一に自守經、又は不自守經ともいひ、自守、不自守に就て說かれしもの、故にこの名云存するのである。

本經は雜阿含卷一二の第五經の異譯せられたもので、雜阿含にあつては自守、不自守は律儀、不律儀となり、この二經はいづれも巴利雜尼柯耶の三五の九七經に該當するもので、漢巴いづれもその內容を同じうするものである。

❼(參考) 三寶紀第五、內典錄第二、譯經圖紀第一、開元錄第二、貞元錄第三(林五邦)

不自守經 ❶(日)Fu-ji-shu-kyō. (支)Fu-tzu-shou-ching. 不自守意經、自守經 ❷一卷 ❸存、大正二・五〇三No. 107、館辰六、卍一四・二一、北753思、南767思、元739思、明北651慶、清651慶、麗744若、天731思、指711若、法741若、至983橫、明南634黃、No. 655 ❹支謙譯 ❺吳黃武二—建興二(A. D. 223—253)譯 ❻不自守意經の下を見よ。

不惜身命 ❶(日)Fu-shaku-shin-myō. ❷一卷 ❸存 ❹吉倉清文著 ❺大正七刊 ❻(立大、B〇六・七四) ❼東京領原屋

不受決 ❶(日)Fu-ju-ketsu. ❷一卷 ❸存、萬代龜鑑錄第九 ❹了遠(長流日選)(—永應三A. D. 1324) ❺寬永七(A. D. 1630)三月

❻受、不受の異義につき身延對池上中山等の諸山諍の日、了遠の名に於て池上日樹、中山日賢、平賀日弘、小西日領、中村日充、碑文谷日逸の加判連署を以て發表せる不受不施側の主張である。不施諸人、不受諸施の二段に分ち、不受の義を論ずるに、一に道理、二に文證、三に證據、四に證人、五に廢三顯一の字義は權教の人の施を受くべからざるを明し、六に惡知識に親近すべからざるを明すの六科を爲してゐる。

末文に「六人連署して此法理一段神妙之至存候、此元落居不過之候」と記してゐる。

❼原本(網路妙立寺)寫本(立大、D〇・二二五)寬永七寫(正大、一八四・五七)

不受大網決 ❶(日)Fu-ju-dai-Bō-ketsu. (梁井欽厚) ❷一卷 ❸存 ❹寬延二刊 ❺(正大、一八四・五八)

不受不施記錄 ❶(日)Fu-ju-fu-se-kiroku. ❷一册 ❸存 ❹寫本(哲、え・一・右・七)

不受不施事件 ❶(日)Fu-ju-fu-se-ji-ken. ❷一卷 ❸存 ❹原本(要法寺)寫本(立大、D〇・二二九)

不受不施之事 ❶(日)Fu-ju-fu-se-no-koto. ❷存 ❸(館大)

不受謗施記 ❶(日)Fu-ju-bō-se-ki. ❷一卷 ❸存 ❹片山隆士日逸 ❺寫本(立大、D〇・二二八)

不出書私記 ❶(日)Fu-shuse-sho-shi-ki. ❷一帖 ❸存 ❹寫本(金剛三昧院)

不莊校女經 ❶(日)Fu-shō-kyō-nyo-kyō. (支)Fu-chuang-chiao-nü-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹吳支謙(—黃武二—建興二A. D. 222—253)譯 ❺第一譯。 ❻(參考)開元錄第一四、貞元錄第二四

不莊校女經 ❶(日)Fu-shō-kyō-nyo-kyō. (支)Fu-chuang-chiao-nü-ching. 腹中女聽經 ❷一卷 ❸存、大正一四・九一四No. 562、館字九、卍一〇・五、北2333發、南2337發、元2236發、明北2232薄、清2333薄、麗2231歌、天2233發、指2217歌、法2238歌、至310必、明南22薄、No. 236 ❹曇無讖譯 ❺北涼玄始三—一五(A. D. 414—426) ❻腹中女聽經の下を見よ。

不淨觀經 ❶(日)Fu-jō-kwan-kyō. (支)Fu-ching-kuan-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹雜阿含經第二十七卷の抄出。 ❻(參考)出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

不淨觀經 ❶(日)Fu-jō-kwan-kyō. (支)Fu-ching-kuan-ching. 達摩多羅禪經、(支)Fu-ssū-i-gu. 大毘盧遮那經供養次第法疏、大日經供養次第法疏、不可思議疏、大日經供養法疏、大日經供養法義疏、大日經供養法次第疏、大日經疏 ❷二卷 ❸存、大正三九・七九〇No. 1797、館餘八、卍續一・三七・二 ❹唐代不可思議述 ❺大毘盧遮那經供養次第法疏の下を見よ。 ❻刊本(哲、お・三・左・六)

不思議疏三重祕釋傳授口說 ❶(日)Fu-shi-gi-sho-san-jū-hi-shaku-den-ju-ku-setsu. ❷存 ❸元寂述 ❹(京專)

不思議疏四重口決 ❶(日)Fu-shi-gi-sho-shi-jū-ku-ketsu. ❷二卷 ❸存 ❹寫本(正大・一一六・二・一〇)

不思議疏略鈔 ❶(日)Fu-shi-gi-sho-ryaku-shō. ❷三卷 ❸存 ❹俊彥亮法(元和八—延寶八A. D. 1622—1680)述 ❺(京專)

不思議抄 ❶(日)Fu-shi-gi-shō. ❷一卷 ❸了譽聖冏(曆應四—應永二七A. D. 1341—1420)述 ❼(參考)淨土正依經論書籍目錄

不思議神通境界經 ❶(日)Fu-shi-gi-jin-tsū-kyō-gai-kyō. (支)Fu-ssū-i-shen-t'ung-ching-chieh-ching. 大乘不思議神通境界經、其希有經 ❷三卷 ❸存、大正一七・九二二No. 843、館宙二、卍一五・七、北1399發、南1303鴛、元1213鴛、明北911薄、清931薄、麗1451荊、天1283鴛、至697則、明南935清、No. 936 ❹施護譯 ❺宋太平興國五以後(A. D. 980—) ❻大乘不思議神通境界經の下を見よ。

不修行無間 ❶(名)Fu-shū-gyō-mu-kan. ❷一巻 ❸作 大正一五・三〇〇No. 618 論疏 ❹一巻 ❺作 大正一五・三〇〇No. 618 論疏 ❻一巻 ❼作 卍二七・六一 続1006 国 続1021 国 天1018 国 明治1334 寺 浄1334 寺 国1010 国 天1010 国 浄968 国 浄995 国 浄1456 寺 明治1103 寺 Nj. 1341 ❽修行無間論 ❾(作者)三一一 元魏天(A. D. 359—429) ❿元魏 ⓫北涼 三一一 末期三一(A. D. 398—421) ⓬無量 ⓭無間修行論の下を見よ。

不浄観察四念処頌 ❶(名) Fu-jō-kwan-shi-nen-jo-ju. (梵) Pu-ching-kuan-ssū-nien-ch'u-sung. ❷作 安土桃山時代 ❸(著)天竺 (梵)

不思因果 ❶(名) Fu-shin-in-gwa. ❷一巻 ❸作 南門上人 今昔物語

不事状 ❶(名) Fu-shin-jō. ❷一巻 ❸作 日蓮宗々祖 今昔物語之四 ❹今昔物語 ❺(作者不明)(人間)(名詞)(日蓮)に関して「行法上に固して真実を事」。日蓮の「四恩抄」「元品抄」は天保に新字を図書なりと言ふ。「三月二十三日 外護者に与へる書」とのみあるが、書年三年 年であるとこれ明記せられる。(尚日行抄)

不事修修々 ❶(名) Fu-shin-jō-jō. ❷一巻 ❸作 日蓮宗祖 王定。 ❹本書七 篇 ❺(著書記)

不殺生禁戒記 ❶(名)Fu-ses-shō-kai-ki. ❷一巻 ❸作 浅野長祥 今昔物語 ❹(著)三一一 文化元 A. D. 1718—1804) ❺この記は十善法語中の不殺生禁一戒につき作成をなかれ不殺生禁戒の下を見よ。

不増不減 ❶(名) Fu-zō-fu-gen-gyō. (梵)Pu-tsêng-pu-chien-ching. ❷一巻 ❸作 天竺一五・三〇〇No. 668 論疏 ❹一巻 ❺作 天竺一五・三〇〇No. 668 論疏 ❻一巻 ❼作 卍二七・六一 続489 寺 浄503 寺 浄497 寺 明治520 寺 浄520 寺 国497 寺 天498 寺 明治466 寺 浄481 寺 浄444 寺 明治496 寺 Nj. 524 ❽華厳経 ❾(著)天竺 (A. D. 525)

❿本書は唯識説 説 一巻 完 一巻 説 一巻 説 一巻 説

竺法護譯『佛說阿惟越致遮經』三卷、(二)訓宋の智嚴譯『佛說廣博嚴淨不退轉輪經』六卷、(三)譯者不明の『不退轉法輪經』四卷である。かゝる三種の經名があるが、第一は本經の原名 Avaivartaniya-cakra-sūtra (or Avaivartaniya-cakra-nāma) を音譯したもので、第二は『佛說廣博嚴淨』たる說明を冠し、第三は Cakra を法輪と譯したものと思はれるから、結局は同一の經名となるわけである。本經中には『不退轉法輪』とも『清淨不退の法輪』とも或は詳しく『不退轉法輪廣博嚴淨』とも名づけて居る。『不退轉』とは菩薩の『不退地』を意味するもので、『阿彌多經三藏三菩提に於て退轉せず』といふ義である。蓋し本經が三乘と一乘に攝して皆成佛せしめる所に名づけたものであらう。

〔組織及び位置〕 本經卷の一に(一)序品と、(二)信行品の前半との一品半、卷の二に(二)信行品の後半と(三)彌勒菩薩品の一品半、卷の三に(四)重釋二乘相品、(五)除想品、(六)降魔品の三品、卷の四に(七)受記品、(八)現見品、(九)安養國品の三品で、合計九品となつて居る。

本經の說時は、經文の上に於ては不明で、內容上からしても、開結二經や大法鼓經の如く、法華經と直接關係するところが無いから、之を法華時の中に入れ、又は其の直前直後に配當することは出來ない。然しながら、大體の思想が諸法實相に立脚して、彌勒の四果を說きつゝ結局之を大乘菩薩行に攝入するところは、矢張り法華の開會思想であるから、經典的位置としては般若時の後、法華の前と見るべく、法華の綜合的大統一に至る過渡的經典と言ふことが出來やう。

〔內容及び特色〕 第一の『序品』は本經の『序分』で、文珠師利の神通力を以て、佛が不退轉法輪の大說法を開始せられるといふ豫感を與へたものである。第二の『信行品』からは本經の『正宗分』で、先づ『信行品』に於ては『信行』と『法行』、『信施』と『法施』に關して說き、第三の『彌勒菩薩品』に於ては、『彌勒の四果』、即ち須陀洹、斯陀含、阿那含、阿羅漢の義を說いて之を大乘菩薩行の中に攝し、第四の『重釋二乘相品』に於ては、前品に於て彌勒の四果を說いたから、今品に於て緣覺の行相たる『十二緣起』を說いて居る。第五の『除想品』は、差別想は勿論、平等想と雖、惡平等は邪見であると斷じて、かゝる惡平等惡差別の想を離れて正見に住すべしと說いたものである。第六の『降魔品』からは本經の『流通分』で、『降魔品』に於ては、魔王波旬と雖、本經を信奉することが出來ないのみならず、却つて本經に依つて得度すべきを說き、第七の『受記品』に於ては、東方より來れる樂欲如來彌正住、樂欲世尊彌正住、樂欲佛彌正住の三菩薩の受記並に諸菩薩の讚歎を說き、第八の『現見品』に於ては此經を受持讀誦解說する者の功德、誹謗する者の罪過を說き、第九の『安養國品』は、師子と名づくる童女を始め五百の童女、及び五百の長者夫人等が、此經を受持讀誦することに依つて、男女の性を自在に變換する等の諸の功德を得ることを說き、以て本經の受持傳承を勸進したものである。

以上の內容によつて本經の特色の大體を知ることが出來るであらうと思ふが、本經の主眼とするところは、所謂小乘の四諦、八正道、十二緣起等の教法、彌勒、緣覺の二乘、阿羅漢等の四果といふ如き小乘の教理行果を大乘の立場から開會して、大小兩乘の融合統一を圖らんとしたもので、小乘を破析しないで、これを開會し統攝せんとしたところに本經の特色並に其の獨特の價値が存するわけである。故に若し法華經との內容關係を求めるならば、法華經の二乘開會を分說又は細說したものと言ふことが出來やう。尙ほ本經中に『衆生卽佛』とか『煩惱卽菩提』とか言ふ如き文句が明記せられて居ることは、可なり興味のあることゝ言ふべきであらう。

(馬田行啓)

不退轉法輪經 ❶(日)Fu-tai-ten-rin-gyō. 國課不退轉法輪經 ❸存、國譯一切經法華部 ❹馬田行啓譯

不退轉法輪經 ❶(日)Fu-tai-ten-hō-rin-gyō. (支)Fu-tui-chuan-fa-lun-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❻阿惟越致遮經第一卷の抄出。❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

不退轉輪經 ❶(日)Fu-tai-ten-rin-gyō. (支)Fu-tui-chuan-lun-ching. ❷四卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、三寶紀第五、內典錄第二、貞元錄第六

不斷求聞持法 ❶(日)Fu-dan-gu-mon-ji-hō. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❾(寶龜院)

不斷光佛法物語 ❶(日)Fu-dan-kō-butsu-hō-mono-gatari. ❷二卷 ❸存 ❹神榮(安政六—大正九 A.D. 1859—1920) ❺昭和三刊 ❻東京イオヤのひかり社

不斷念佛緣起 ❶(日)Fu-dan-nem-butsu-en-gi. 石清水不斷念佛緣起 ❷一卷 ❸存、群書類從第二四 ❹大江匡房(長久二—天永二 A.D. 1041—1111) ❺延久二(A.D. 1070)十月

❻山城國石清水八幡宮護國寺の不斷念佛の由來を記したものである。先づ石清水八幡宮遷座の前に於て、大安寺行敎の不斷念佛以後結緣少からざることを述べ、次いで同別當法印大和尙位清成が發願して不斷念佛を修せんとして果さず、治曆三(A.D. 1067)年十月十三日に歿し、比叡山西塔院結衆十二口を屈請して三晝日夜實前に念佛三昧を修したことを記してゐる。延久二年十月、左少辨大江匡房の稱にかゝる。(不破幹雄)

不知黑白稿 ❶(日)Fu-chi-koku-byaku-kō. ❷一卷 ❹慈吟(—寶延三 A.D. 1750—) ❻淨土眞宗教典志第二に云く、「敎眞宗紫朱辨之敎」云云。

不偸盜戒記 ❶(日)Fu-chū-tō-kai-ki. ❷一卷 ❸存、慈雲尊者全集第一一 ❹慈雲(享保三—文化元 A.D. 1718—1804)述

❻この記は十善法語中の不偸盜戒の一段に

つき科段を分つて略釋してゐるが、未だ全は完了してゐない。

❹草者自筆草本(高貴寺) (高見寬應)

不動 ❶(日)Fu-dō. ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第三九阿娑縛抄第五 ❹永覆(元久二—弘安五 A.D. 1205—1282)

不動 ❶(日)Fu-dō. ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第三九阿娑縛抄第五 ❹永覆(元久二—弘安五 A.D. 1205—1282)

不動 ❶(日)Fu-dō. ❹道範(元曆元—建長四 A.D. 1184—1252) ❼(參考) 諸宗章疏錄第三

不動 ❶(日)Fu-dō. ❷一帖 ❸存 ❹眞瑜(寫祿二—嘉元二 A.D. 1226—1304) 記 ❺正應四寫 ❾(金剛三昧院)

不動愛染 ❶(日) Fu-dō-ai-zen. ❷一帖 ❸存 ❺康元二寫 ❾(金剛三昧院)

不動愛染考 ❶(日) Fu-dō-ai-zen-kō. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(立大、D.C.二四一)

不動安鎭軌 ❶(日)Fu-dō-an-chin-ki. (支)Fu-tang-an-chen-kuei. 摩無動尊安鎭家國等法、無動尊安鎭家國等法、不動明王安鎭家國法 ❷一卷 ❸存、大正二一、二七 No. 1203、續藏四、卍和一・三・二 ❹唐金剛智(咸亨二—開元二九 A.D. 671—741)譯 ⓮聖無動尊安鎭家國等法の下を見よ。

不動印明口訣 ❶(日) Fu-dō-in-myō-ku-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹淨嚴(寫永一六—元祿一五 A.D. 1639—1702) ❾寫本(寶龜院)

不動軌立印 ❶(日) Fu-dō-ki-ri-tsu-in. ❷一卷 ❹定淮(—天仁元 A.D. 1108—) ❼(參考) 諸宗章疏錄第三、本朝古組撰述密部書目

不動義訣 ❶(日)Fu-dō-gi-ketsu. ❷一帖 ❸存 ❺元祿一一寫 ❾(寶龜院)

不動儀軌 ❶(日)Fu-dō-gi-ki. 不動明王圖像、東寺本不動明王圖像 ❷一卷 ❸存、大正圖像第一二 ❹金胤寫 ❻經軌及び古傳により不動明王の異像を集め、且つその典據の文を詳細に引き、或は解釋を加へたもので、不動明王の異像を知るに甚だ便利である。然し卷首が闕失して居る。東寺觀智院藏の不動明王圖像(大正圖像第六敎藏)はこれと同本であるが、彼本は此本よりも闕失が多く、又圖と文と前後せる點などもある。此の本を不動儀軌など名づけるは、卷首が闕けて居て題が判らぬから志に名づけたものと覺しく、もとは不動明王圖像とでも名づけてあつたであらう。

その內容は最初が缺けて居て「右二臂像表出于正儀軌」等と云つて、善通の像の說明をなせるに始まり、次に(一)赤色不動、不動使者法に依る赤色で右手劍左手羂索の像。(二)同、使者法による身赤黃色にして右手金剛杵左手羂索の像。(三)同、三卷底哩三昧耶經による右手獨股杵左手寶棒の像。(四)圓珠佛師の畫ける蹤上に立つ像。(五)青色不動、立印軌による蹤蹈底と杵とを持つ像。これは「赤青色不動」とあるから、圓珠樣の次に青色不動が脫落して居るらしい。(六)大日經疏樣の右手劍左手羂索の立像。(七)四臂不動、安鎭法に依る輪中に坐し、右劍左索餘の二手は牙印にせる像。(八)四面四臂像、或曼荼羅の中心に畫けりと云ひ、四臂は前の如く、須彌山上に坐せるもの。(九)同、古傳本に依るもので、前と略同じく兩も蹤上に坐し、左右に火天羅刹天風天伊舍那天の侍せる像。(一〇)三面六臂像、法寶譯の五卷敎王經第二に依るもの。(一一)赤色四面六臂、大聖無動明王守護國界法に依る四面六臂で飾子の背に坐せる像。(一二)又三面六臂、金剛智譯聖無動尊念誦儀軌による三面六臂六足の像。(一三)大自在天並に後を詰める二臂像、大日遍照尊經の說と云ふ、三卷底哩三昧經及び大日經疏に說く。(一四)頭と四肢とに蛇まとひ、輪の上に立つ像。(一五)四面四臂四足、大日遍照尊經の說と云ふ、出據不審の像。(一六)福德不動、飾子冠を戴ける六臂の坐像。(一七)降軍不動、右手怒拳三股杵左手羂索の坐像。(一八)から(二四)まで及び(一六)は八大童子冠要法によりて畫ける八大童子。(一九)及び(二〇)は或說の矜羯羅と制吒迦。(二一)は古傳本に依る八大童子。(二二)使者法に依る華厨梵像。(二三)同儀軌に依る俱毘羅龍王、以上の諸圖像が畫かれてある。

❺寫元三寫 ❾(田中忠三郎) (吉祥眞雄)

不動儀軌中梵唐語灌頂次第 ❶(日) Fu-dō-gi-ki-chū-bon-tō-go-kwan-jō-shi-dai. ❷六卷 ❹安然(承和八—延喜年間 A.D. 841—921—) ❼(參考) 諸宗章疏錄第二、本朝古組撰述密部書目、東乘撰述目錄、山家目錄撰述目錄卷上、自在金剛集第八

不動聞書 ❶(日)Fu-dō-kiki-gaki. ❸存 ❾寫本(寶龜院)

不動御面 ❶(日) Fu-dō-gyo-men. ❷一紙 ❸存 ❹朗澄寫 ❾(石山寺)

不動經金剛童子 ❶(日)Fu-dō-kyō-kon-gō-dō-ji. ❷一軸 ❸存 ❺文政七寫 ❾(寶善提院)

不動經要解 ❶(日) Fu-dō-kyō-yō-kai. ❷二卷 ❸存 ❹潮音道海、寫永五—元祿八 A.D. 1623—1695. 述 ❼(參考) 諸籍目錄

不動頭次第 ❶(日)Fu-dō-kyō-shi-dai. ❸存 ❺享保一三寫 ❾(金剛三昧院)

不動行法私記 ❶(日) Fu-dō-gyō-hō-shi-ki. ❷一帖 ❸存 ❺南北朝時代寫 ❾(寶善提院)

不動口決 ❶(日) Fu-dō-ku-ketsu. ❷一冊 ❸存 ❾足利初期寫 金剛三昧院)

不動口決鈔 ❶(日)Fu-dō-ku-ketsu-shō. ❷一冊 ❸存 ❹顯瑜(寫祿二—嘉元二 A.D. 1326—1334) ❾寫本(金剛三昧院)

不動口訣 ❶(日) Fu-dō-ku-ketsu. ❷一帖 ❸存 ❹淨嚴(寫永一六—元祿一五 A.D. 1639—1702) ❺延寶七(A.D. 1679.三月 ❺文化四寫 ❾(寶龜院)

不動口傳抄 ❶(日)Fu-dō-ku-den-shō. ❷一帖 ❸存 ❺南北朝時代寫 ❾

（東寺宝記）

不動供 ❶(ロ) Fu-dō-ku. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 徳川時代語 ❺〔東寺宝記〕

不動供次第 ❶(ロ) Fu-dō-ku-shi-dai. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 天文 1 〇語 ❺〔東寺宝記〕

不動供十度十護摩法則 ❶(ロ) Fu-dō-ku-jū-za-jū-mam-ben-hos-soku. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 寄永元語 ❺〔東寺宝記〕

不動供十護摩陀羅尼法則 ❶(ロ) Fu-dō-ku-jū-mam-ben-da-ra-ni-hos-soku. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 永正 1 1 語 ❺〔金剛三昧院〕

不動供素白 ❶(ロ) Fu-dō-ku-hyō-byaku. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 徳川時代語 ❺〔東寺宝記〕

不動漢語 ❶(ロ)Fu-dō-kwan-jō. 不動明王四童子 ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 語源不〔高大〕 ❺ 1 • 六八

不動漢語印明 ❶(ロ) Fu-dō-kwan-jō-im-myō. ❷ 1 宗 ❸ 存 ❹ 徳川時代語 ❺〔東寺宝記〕

不動漢語愛印 ❶(ロ) Fu-dō-kwan-jō-mitsu-in. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 語源不〔高大〕 ❺ 日本宗 • 甘〇六

不動加行参拝題 ❶(ロ) Fu-dō-ke-gyō-sha-i-shu. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 徳川時代語 ❺〔東寺宝記〕

不動五智印明 ❶(ロ)Fu-dō-go-ka-im-myō. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 徳川時代語 ❺〔東寺宝記〕

不動五智大印 ❶(ロ)Fu-dō-go-ka-dai-in. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 徳川時代語 ❺〔東寺宝記〕

不動五智秘印 ❶(ロ)Fu-dō-go-ka-hi-in. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 天保不用 ❺〔東寺宝記〕

不動護摩 ❶(ロ)Fu-dō-go-ma. 不動法百座 ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 語源不〔金剛三昧院宝記〕

不動護摩聞書 ❶(ロ)Fu-dō-go-ma-kiki-gaki. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 室町中期語 ❺〔金剛三昧院宝記〕

不動護摩頭次第 ❶(ロ) Fu-dō-go-ma-kyō-shi-dai. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 徳川時代語（寛永 1 六一—元禄 1 五 A. D. 1639—1702）

❻〔参考〕 結言法全書用仁義定書口

不動護摩頭次第 ❶(ロ) Fu-dō-go-ma-kyō-shi-dai. 不動護摩頭次第法全書 ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 天文十〔文禄四〕 文保 1 四語〔金剛三昧院〕徳川時代語〔東寺宝記〕 語源不〔高大〕 ❺ 1 • 六八

不動護摩口決 ❶(ロ)Fu-dō-go-ma-ku-ketsu. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 室町 ❺ 天明八語 ❻〔東寺宝記〕

不動護摩口傳抄 ❶(ロ) Fu-dō-go-ma-ku-den-shō. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 鎌倉（一二六六頃成立 A. D. 1264—1287—）抄 ❺ 弘安 1 (A. D. 1263) ❻〔東寺宝記〕

不動護摩寺聞記 ❶(ロ) Fu-dō-go-ma-kō-mon-ki. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 寛政六語 ❺〔高大〕 1 • 六八

不動護摩次第 ❶(ロ)Fu-dō-go-ma-shi-dai. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 鎌倉（建久元—建仁 1 A. D. 1120—1203） ❻〔参考〕 護摩法 [illegible] ❺ 天暦元語 ❻〔高大〕 1 • 六八

不動護摩次第私記 ❶(ロ)Fu-dō-go-ma-shi-dai-shi-ki. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 鎌倉〔建永〕 1 一貞永 1 1 A. D. 1674—1742）頃 ❺ 元文四 [illegible] ❻〔高大〕 1 • 六八

不動護摩私記 ❶(ロ)Fu-dō-go-ma-shi-ki. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 鎌倉〔建永〕 1 一貞永 1 1 A. D. 1162—1231） ❺ 語源不〔高大〕 [illegible] • 六 • 1 1 〔金剛三昧院宝記〕

不動護摩私記 ❶(ロ)Fu-dō-go-ma-shi-ki. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 室町時代語 ❺〔高大〕 1 • 六八

不動護摩私記 ❶(ロ)Fu-dō-go-ma-shi-ki. 護摩不動護摩法記 ❷ 存 ❺ 鎌倉時代語 ❻ 1 • 六八

不動護摩私記口決 ❶(ロ)Fu-dō-go-ma-shi-ki-ku-ketsu. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 鎌倉（一二六六頃成立 A. D. 1264—1287—） ❺ 徳川時代語 ❻〔東寺宝記〕

不動護摩私記唐決私記 ❶(ロ) Fu-dō-go-ma-shi-ki-den-ju-shi-ki. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 徳川時代語 ❺〔高大〕 1 • 六八

不動護摩私次第 ❶(ロ) Fu-dō-go-ma-shi-shi-dai. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 徳川時代語 ❺〔東寺宝記〕

不動護摩奉請供印作法、**浴像作法** ❶(ロ) Fu-dō-go-ma-narabini-jin-ku-in-sa-hō, yoku-zō-sa-hō. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 徳川時代語 ❺〔東寺宝記〕

不動護摩令請次第 ❶(ロ)Fu-dō-go-ma-nen-jū-shi-dai. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 室町時代語 ❺〔高大〕 1 • 六八

不動護摩案示 ❶(ロ)Fu-dō-go-ma-hyō-ji. ❷ 1 宗 ❸ 存 ❹ 鎌倉〔建永〕 1 一建長四 A. D. 1184—1252） ❺ 徳川時代語 ❻〔東寺宝記〕

不動護摩陀 ❶(ロ) Fu-dō-kō-ka-da. ❷ 1 祐 ❸ 存 ❹ 室町時代語 ❺〔東寺宝記〕

不動護式 ❶(ロ)Fu-dō-kō-shiki. ❷ 1 宗 ❸ 存〔高大〕 [illegible] ❹ 寛喜〔建永〕 1 一嘉永 1 1 A. D. 1095—1143）

❺ 不動明王の台座を護摩壇とする。故に護摩壇の座を指して、水に、後に不動明王の台座を指して、後に、後に不動明王の台座を指して、後に、後に不動明王の台座を指して、後

❹金剛智(成享二—開元二九 A. D. 671—741)譯 ❺唐開元一九—二四(A. D. 731—736) ❻不動使者陀羅尼秘密法の下を見よ。

不動使者法 ❶(日)Fu-dō-shi-sha-hō.(支)Pu-tung-shih-che-fa. 不動使者陀羅尼秘密法、不動尊使者秘密法、不動使者秘密法、降魔怒王眞言 ❷一卷 ❸存、大正二一・一三No. 1202、鎌開一三、卍二七・一、北1340廻、南1345伊、元1335伊、明北1419鏈、清1419鏈、麗1297磨、天1325伊、法1145戶、至800盛、明南1145無、三十帖策子第二一、N. 1426 ❹金剛智(成享二—開元二九 A. D. 671—741)譯 ❺不動使者陀羅尼秘密法の下を見よ。

不動師口決 ❶(日)Fu-dō-shi-kuketsu. ❷一帖 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(寶龜院)

不動慈救一印行法次第 ❶(日)Fu-dō-ji-ku-ichi-in-gyō-hō-shi-dai. 不動慈救一印行法次第金流、不動一印次第 ❷一帖 ❸存 ❹寫本(金剛三昧院)

不動慈救一印法 ❶(日)Fu-dō-ji-ku-ichi-in-hō. ❷一帖 ❸存 ❹應永五寫 ❺(金剛三昧院)

不動七支略念誦法 ❶(日)Fu-dō-shichi-shi-ryaku-nen-ju-hō. 不動明王七支略念誦法 ❷一帖 ❸存 ❹契覺撰 ❺仁平元寫 ❻(寶壽院)

不動集釋 ❶(日)Fu-dō-shū-jaku. ❷一帖 ❸存 ❹仁治二—康治二 A. D. 1093—1143) ❺(寶龜院)

不動十九觀 ❶(日)Fu-dō-jū-ku-kwan. ❷一帖 ❸存 ❹正德四寫 ❺(寶龜院)

不動十四根本印口決 ❶(日)Fu-dō-jū-shi-kon-pon-in-ku-ketsu. ❷一帖 ❸存 ❹天正五寫 ❺(金剛三昧院)

不動十四根本印圖 ❶(日)Fu-dō-jū-shi-kon-pon-in-zu. ❷一卷 ❸存 ❹寬濟・慶長元—寬文三 A. D. 139)—1663) ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

不動十四根本祕口決 ❶(日)Fu-dō-jū-shi-kon-pon-hi-ku-ketsu. 不動十四根本祕口決三寶院 ❷一帖 ❸存 ❹延德三寫 ❺(高大、寄・一・六四)

不動十八觀 ❶(日)Fu-dō-jū-hachi-kwan. ❷一帖 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(寶龜院)

不動尊威怒王使者念誦法 ❶(日)Fu-dō-son-i-nu-ō-shi-sha-nen-jū-hō.(支)Pu-tung-tsun-wei-nu-wang-shih-che-nien-sung-fa. 底哩三昧耶不動尊威怒王使者念誦法、底哩三昧耶不動使者念誦品、不動尊使者念誦法、底哩三昧耶經 ❷一卷 ❸存、大正二一・七No. 1206、鎌開一三、卍一六・一〇、北1360惠、南1363佐、元1352佐、明北1058官、清1058官、麗1311尹、天1343佐、法1173八、至833流、明南917流、N. 1061 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❺底哩三摩耶不動尊威怒王使者念誦法の下を見よ。

不動尊記 ❶(日)Fu-dō-son-ki. ❷一卷 ❸存、禪門法語集卷上、澤庵和尚全集、禪學名著集之內、澤庵廣錄之內 ❹澤庵宗彭(天正元—正保二 A. D. 1573—1645)述 ❺品川東海寺澤庵禪師が柳生但馬守宗矩の心要を訪ひたるに答へ、或は機に觸れて垂示された語要を集めたものである。一、無明住地煩惱。二、諸佛不動智。三、問不容髮。四、石火之神。五、心の置所。六、本心妄心。七、有心之心無心之心。八、水上打胡盧子捺着即轉。九、應無所住而生其心。十、急水上打毬子念々不停留。十一、急水上打毬子念々不停留。十二、前後際斷。十三、內々存寄候事の十三章より成り創道の心術にこと寄せて禪の妙諦を說いたものである。澤庵の應禪接物に意を用ひ卓拔せる手腕を有したりしを知るに足る。應無所住而生其心を釋して萬の業を爲すに作さんと思ふ心生ずれば、其の事に心止まる。心を生じて其の事を作しながら止まる事なきを諸道の名人と云ふ。此の止まる心より執着の心起り輪廻亦た是より起る。此の止まる心こそ生死のきづなとなるべし。花紅葉を見て花紅葉を見る心生じながら其の所に止まらぬを所說とす云々と說き、忠孝の心術を敎ゆ、此の垂示の如く實修せば不動智神妙自ら把握せられ、智神得發し心體を發揮することを得べし。開所に宗矩の爲人の缺點を忌憚なく指摘し其の反省を促せり、眼中權勢無く善を勸むるに急なる禪師に非ず

一卷 ❹空海、寶龜五—永和二 A. D. 774—825) ❺(參考) 諸宗章疏錄第三

不動尊功能 ❶(日)Fu-dō-son-kū-nō. 不動尊功能、[illegible]功能 ❷一卷 ❸存、弘法大師全集第一三 ❹不動尊の功德をその形像、眞言句義等の各方面より述べしものである。此の文の題名に就いて正智院本には外題に不動尊功能と記し、寶善提院本には外題に不動功能と云ひ、普通は[illegible]功能と呼んでゐる。作者に就いて弘法大師作と良源師作との二說がある。されど本書中には梵文の幼稚な誤りが往々に見出され、既に題名そのものに於てすら誤つてゐる程で、即ち本文の初めに[illegible]聖無動尊とあるけれども聖無動尊ならば[illegible](Aryāchalanātha) でなければならぬ筈である。その他種々の點より推すに弘法大師の作に非ることは明らかである。 ❺(參考) 諸宗章疏錄第三 (坂田光全)

不動尊愚鈔 ❶(日)Fu-dō-son-gu-sho. ❷一卷 ❸存、近世佛教集說第一 ❹不動尊並に八大使者童子に關する解說にして、立川邪流に屬するもの。 ❺刊本(京大、藏・一六ノ・三×哲、け・五・右・三二×正大、一四八・一三七、一三九×谷大、餘大・一九二一、餘洋・四二四)龍大、二六六五・四七×(金剛三昧院×寶龜院)

不動尊三十條祕事 ❶(日)Fu-dō-son-sō-hi-ji. ❷一帖 ❸存 ❹仁海(天曆五—永承元 A. D. 931—1046) ❺天文六寫 ❻(金剛三昧院)

不動尊使者祕密法 ❶(日)Fu-dō-son-shi-sha-hi-mitsu-hō.(支) Pu-tung-tsun-shih-che-pi-mi-fa. 不動使者陀羅尼秘密法、不動使者秘密法、降魔怒王眞言、不動使者法 ❷一卷 ❸存、大正二一・二三No. 1202、鎌開一三、卍二七・一、北1340廻、南1345伊、元1335伊、明北1419鏈、清1419鏈、麗1296磨、天1325伊、法1145無、三十帖策子第二一、N. 1426 ❹唐金剛智(成享二—開元二九 A. D. 671—741)譯 ❺不動使者陀羅尼秘密法の下を見よ。 ❻平安朝時代及延文四寫 ❼(寶壽院)

不動尊詩 ❶(日)Fu-dō-son-shi. ❷一卷 ❸空海(寶龜五—永和二 A. D. 774—835) ❹(參考) 諸宗章疏錄第三

不動尊重祕法 ❶(日)Fu-dō-son-jū-hi-hō. 不動法 ❷一帖 ❸存 ❹覺實(仁壽三—延長三 A. D. 853—923)述 ❺元文四寫 ❻(金剛三昧院)

不動尊八大童子次第 ❶(日)Fu-dō-son-hachi-dai-dō-ji-shi-dai. ❷一卷 ❸空海、寶龜五—永和二 A. D. 774—825) ❹(參考) 諸宗章疏錄第三

不動尊八大童子儀軌 ❶(日)Fu-dō-son-hachi-dai-dō-ji-gi-ki.(支) Pu-tung-tsun-pa-ta-tang-tzu-i-kuei. 聖無動尊八大童子祕要法品、聖無動尊八大童子祕要法品、無動尊一字出生八大童子祕要法品 ❷一卷 ❸存、大正二一・三一No. 1204、鎌餘一、卍續二・九・三 ❹大興善寺翻經院述 ❺聖無動尊一字出生八大童子祕要法品の下を見よ。

不動尊八大童子次第 ❶(日)Fu-dō-son-hachi-dai-dō-ji-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❹覺實(仁壽三—延長三 A. D. 853—923)述 ❺元和七寫 ❻(寶龜院)

不動尊祕傳鈔 ❶(日)Fu-dō-son-hi-den-shō. 不動法祕傳鈔 ❷一卷 ❸存 ❹祐實(天文五—慶長一 七A. D. 1535—1612) ❼(參考) 諸宗章疏錄第三

不動尊法 ❶(日)Fu-dō-son-hō. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

不動尊法護摩私記 ❶(日)Fu-dō-son-hō-go-ma-shi-ki. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

不動尊本誓 ❶(日)Fu-dō-son-hon-sei. ❷一卷 ❸存 ❹眞退記(—萬治二 A. D. 1659) ❺寫本(無何寺)

不動尊瑜伽要鈔 ❶(日)Fu-dō-son-yu-ga-yō-shō. 不動尊怒瑜伽要鈔、不動瑜伽要鈔 ❷三卷 ❸存 ❹淨嚴、寬永一六—元祿一五 A. D. 1639—1702)述 ❺元祿九(A. D. 1696)正月 ❻不動尊に就きて諸種の義を說き、其間密宗の要旨を述ぶ。 ❼寫本(金剛三昧院)

不動尊立印祕記 ❶(日)Fu-dō-son-ryū-in-hi-ki. ❷一卷 ❸存 ❹一印尊抄作 ❺應長元寫 ❻(西敎寺)

不動尊和讚 ❶(日)Fu-dō-son-wasan. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代刊 ❻(寶龜院)

不動尊和讚淺略鈔 ❶(日)Fu-dō-son-wa-san-sen-ryaku-shō. ❷一卷 ❸存 ❹良厳述 ❺寫本(金剛三昧院)

不動斷末魔苦法 並**隱形** ❶(日)Fu-dō-dam-matsu-ma-ku-hō-narabini-on-gyō. ❷一祇 ❸存 ❺德川時代寫 ❻明治三三刊 ❼(駒大) (林信雲)

不動頂蓮義 ❶(日)Fu-dō-chō-ren-gi. 問答不動頂蓮義、頂蓮義 ❷一卷 ❸存、日本大藏經天台宗密敎章疏第三 ❹安然(承和八—延喜年間 A. D. 841—901—) ❺本書は問答一番、附一番、雜二番を以て不動明王が頂上に白蓮華を戴く所以を記述したもの。不動尊の頭上に蓮華を頂かしむることは儀軌等に明文はない。然るに安然が底哩三昧耶の文底の義を探ぐつて頂蓮の義を立てた。此事は疑義の生ずる點であるが既に東寺の組寶・呆寶・賢寶の三師の力作になる大日經疏演奥鈔十三(大正五九ノ一四六)には安然説に係る『廣攝不動明王祕要訣』二(日本藏經天台密敎章疏三ノ一三四)の文と併せて本書の文を『頂蓮義云』として引用してゐる。『廣攝不動』は安然撰として一般に認められるもの。然るに現存本『廣攝』は三卷であるが台密書目等で見ると六卷本となつてゐる。六卷の中の三卷が缺本となつたのは如何な事由によつたか不明だが、本書と不動立印儀軌修行次第と不動立印儀軌私記等とが傳つてゐることは今の三卷缺本と何等かの關係が結ばれてゐるかの如くに考へられる。特に本書は『廣攝不動』とは密接な關係があるから、缺逸の一部分であると推定し得ると思ふ。又阿愛鈔抄不動部(佛全三九ノ三二。大正圖像部九ノ三一三)には『頂上蓮義』の文ゝして引用してゐる。頂蓮の不動尊は『廣攝』の所記によれば空海と慧雲(運?)とに基くといふ。四十帖決(阿愛鈔抄不動部引文による)では『頂上に蓮華を置くは是れ誤なり』と疑言してゐる。かくなると頂蓮の不動尊は東密所傳。台密所傳は頂蓮のない不動明王でなければならぬことになる。從つて『廣攝不動』が何等の批判も施さずに「空海阿闍梨の別行不動法に云く……頭上に蓮華あり……慧雲(運?)阿闍梨のいはく所本帧の像には頂に黑髮の七髻を安ず。餘の唐本の帧には多く蓮華を安く……大唐或阿闍梨等は尊像を飾らんがために頂に蓮華を安く……」と記したことは疑しく思はれる。若し從來の傳說の如く五大院安然が『廣攝』の撰者であるとすれば安然程の密敎學匠が單に空海や慧雲の傳だからといふのみで直ちに儀軌に明文のない尊像を承認すべき筈がない。相當なる理由を立てた後に初めて新しい不動明王像が畫かるべきことを論證せねばならぬと考へる。この論證の順序を欠いてゐることから推して「廣攝」も安然撰であるか否か疑はしくなつた。古い傳說に「頂蓮義は安然作に非ず東寺人の作なり」といふたは正しい說と思ふ。但しこの古傳說を日本藏經所題下には「演奥鈔」にあると記してゐるが大正五九卷所收本にこの文はない。故に且く古傳說として置く。本書は頂上に蓮華を藏く理由として下の如きことを述べてゐる。一、行者が修因得果を表したものである。二、寂宮三昧に住して大光明を放つて三界を照し、復頂上から千寶蓮華を出すことを表したもの。三、千寶蓮華は菩薩が修因得果して內護(佛果に至る菩薩の聚住の

菩提心を護ること）外護（世間国土及び衆生の惡魔を降伏して国家を擁護すること）をなすことを表したもの。四、蓮華が火焔の中に萎まず落ちずにゐることは煩悩の炎の中に佛性の華が常住することを表したもの。五、蓮華は須彌の相であり世界を護持することを表したもの。六、また不動尊は能く国家を擁護するが故に金剛三藏は安鎮国家等法を創造したと。これ等の義によって頂蓮華不動尊が畫るると述べ、無智の人には妄りに傳ふること勿れと誡む。

❼（參考）諸宗章疏錄第二、本朝台嶺撰述密部書目、延暦寺密乘略目錄、密乘撰述目錄、山家諸德撰述諸目集上 ⑨寫本（高大、寄・一・六四）（田島德晋）

不動鎮宅異說等 ❶(日)Fu-dō-chin-taku-i-setsu-tō ❸存 ⑨寫本（寶龜院）

不動鎮宅作法 ❶(日) Fu-dō-chin-taku-sa-hō. ❷一帖 ❸存 ⑤德川時代寫 ⑨(寶龜院)

不動鎮宅息災護摩法 ❶(日) Fu-dō-chin-taku-soku-sai-go-ma-hō. ❷一卷 ❹圓珍（弘仁五—寛平三 A. D. 814—891） ❼（參考）本朝台嶺撰述密部書目

不動並護摩供私記 ❶(日)Fu-dō-narabini-go-ma-ku-shi-ki. 國譯不動並護摩供私記 ❸存、國譯密教事相部第二卷之內

不動如來會 ❶(日)Fu-dō-nyo-rai-e.（支）Fu-tung-ju-lai-hui.（梵）Acala-akoobhya-tathagatasya-vyuha（藏傳）(藏)hphags-pa de-bshin-gsegs-pa mi-bkhrugs-pahi bkod-pa shes-bya-ba theg-pa chen-pohi mdo ❸存、大寶積經第一九—二〇（大正一一・一〇一 No. 310, 5） ❹菩提流志（太建四—開元一五 A. D. 572—727）譯 ❺唐登龍二—開元元（A. D. 703—713） ❻阿閦佛國經の第二出、内容相同一なれば其の下の解説を見らるべく、西藏譯は本經と同じく六品に分つも品名を缺き、譯者は Jinamitra, Surendrabodhi 及び Ye-shes-sde の共譯となつてゐる。而して本經は梵典史學上留意すべき地位に在り、淨土思想としては阿彌陀佛思想に比して稍古簡なる感あるも、その往生思想は彌陀思想とは全然別系に在り、六度を中心とする一般修道に依ることを標榜せる點、蓋し特種の宗派的信仰を派生し得なかつた所以であらう。而してこの淨土への往生思想は早くも小品型諸般若に見ゆるより見て、その信仰が般若經成立以前に存せしことは疑なきも、然も(1)本經の構想は、大品型諸般若に至つて始めて方便般若同說のために活躍する余利弗を中心とせると、(2)空無所得の思想薄くして六度實踐の思想の濃きと（これ方便般若の特質）、(3)小品般若の中心となりて空觀眞實般若を主張する須菩提が、本經に於ては極めて附加的に名を出すに過ぎざる等より見て、本經の成立を小品以前に置くことは甚だ困難なりと思はれる。從つて、本經以前に、稍小品に影響せしめたる別個の原始的阿閦佛文學の存在せしことを豫想せねばならない。よつて本經の成立年代を考定するに、ほゞ大品般若に前後すると見てよからう。（美濃晃順）

不動念誦印圖抄 ❶(日)Fu-dō-nen-ju-in-zu-shō. ❷一卷 ❸存 ❹亮雄撰 ⑨(明德院)

不動念誦記 ❶(日) Fu-dō-nen-ju-ki. ❸存 ⑤足利時代寫 ⑨(寶龜院)

不動念誦次第 ❶(日) Fu-dō-nen-ju-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❹成賢（應保二—寛喜三 A. D. 1162—1231） ⑤平安朝末期寫 ⑨(高大、寄・一・六六)

不動納凉房式 ❶(日) Fu-dō-nō-ryō-bō-shiki. 不動明王念誦次第、納凉房次第 ❷一卷 ❸存、弘法大師全集第七事相部 ❹空海（寶龜五—承和二 A. D. 774—835） ❺不動明王念誦次第の下を見よ。❼（參考）諸宗章疏錄第三

不動八千枚用意 ❶(日)Fu-dō-hachi-sem-mai-yō-i. ❷一卷 ❸存 ⑤德川時代寫 ⑨(寶龜院)

不動八大童子軌 ❶(日)Fu-dō-hachi-dai-dō-ji-ki.（支）Fu-tung-pa-ta-t'ung-tzu-kuei. 聖無動尊一字出生八大童子祕要法品、無動尊一字出生八大童子祕要法品、聖無動尊八大童子祕要法、不動尊八大童子儀軌 ❷一卷 ❸存、大正二一・三一 No. 1204、縮餘一、卍續二・九・三 ❹聖無動尊一字出生八大童子祕要法品の下を見よ。

不動祕印 ❶(日)Fu-dō-hi-in. ❷一卷 ❹覺鏡（嘉保二—康治二 A. D. 1095—1143） ❼（參考）諸宗章疏錄第三

不動祕義 ❶(日)Fu-dō-hi-gi. ❷一冊 ❸存 ⑤鎌倉初期寫 ⑨(寶香提院)

不動祕決 ❶(日) Fu-dō-hi-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹淨嚴（寛永一六—元祿一五 A. D. 1639—1702）

不動祕事二十六ケ條 ❶(日) Fu-dō-hi-ji-ni-jū-roku-ka-jō. ❷一包 ❸存 ❹仁海（天曆五—永承元 A. D. 931—1046） ⑤明和元寫 ⑨(寶香提院)

不動祕傳鈔 ❶(日) Fu-dō-hi-den-shō. ❷一冊 ❸存 ⑨寫本（金剛三昧院）

不動祕要 ❶(日)Fu-dō-hi-yō. ❷二卷 ❹定深（—天仁元 A. D. 1108—） ❼（參考）諸宗章疏錄第三、本朝台嶺撰述密部書目

不動表白 ❶(日)Fu-dō-hyō-byaku. ❷一帖 ❸存 ⑨寫文三寫（寶龜院）德川時代寫（寶香提院）

不動表白神分 ❶(日) Fu-dō-hyō-byaku-jin-bun. ❷一帖 ❸存 ⑨寫本（寶香提院）

不動忿怒瑜伽要鈔 ❶(日) Fu-dō-fun-nu-yu-ga-yō-shō. 不動尊瑜伽要鈔、不動瑜伽要鈔 ❷一卷 ❸存 ❹淨嚴（寛永一六—元祿一五 A. D. 1639—1702）述 ❺元祿九（A. D. 1695）正月 ❻不動尊瑜伽要鈔の下を見よ。 ⑨寫本（立大、A二〇・一二三）

不動法 ❶(日)Fu-dō-hō. 不動尊童子祕法 ❷一帖 ❸存 ❹親賢（仁壽三—延長三 A. D. 853—923）述 ⑤天文五寫 ⑨(高大、寄・一・六六)

不動法 ❶(日)Fu-dō-hō. 不動法中院

❷一卷 ❸存 ⑨寫本（高大、寄・一・六六）

不動法 ❶(日)Fu-dō-hō. ❷一卷 ❸存 ❹頼海記 ⑨寫本（妙法院）

不動法 ❶(日)Fu-dō-hō. 大聖不動明王念誦私記 ❷一帖 ❸存 ⑤鎌倉時代寫 ⑨(高大、寄・一・六六)

不動法及不動大事 ❶(日)Fu-dō-hō-oyobi-fu-dō-dai-ji. ❷二帖 ❸存 ⑤德川時代寫 ⑨(寶龜院)

不動法聞書 ❶(日)Fu-dō-hō-kiki-gaki. ❷一帖 ❸存 ⑨足利末期寫（金剛三昧院）德川時代寫（寶龜院）

不動法聞書祕口 ❶(日) Fu-dō-hō-kiki-gaki-hi-ku. ❷一帖 ❸存 ❹祖詮口決 ⑨寫本（高大、寄・一・六四）

不動法口訣 ❶(日) Fu-dō-hō-ku-ketsu. ❷一帖 ❸存 ❹成雄（永德元—寶德三 A. D. 1381—1451）口 ⑤享保三寫 ⑨(寶龜院)

不動法口訣 ❶(日) Fu-dō-hō-ku-ketsu. ❷一帖 ❸存 ❹祖賢（建久七—文永一〇 A. D. 1196—1273） ⑤德川中期寫 ⑨(金剛三昧院)

不動法私記 ❶(日) Fu-dō-hō-shi-ki. 不動明王念誦次第私記 ❷二冊 ❸存 ⑤德川中期寫 ⑨(金剛三昧院)

不動法私記 ❶(日) Fu-dō-hō-shi-ki. 不動法私記安流、大聖不動明王念誦私記 ❸存 ❹空海 ⑤天正一八寫 ⑨(金剛三昧院)

不動法並護摩 ❶(日)Fu-dō-hō-narabini-go-ma. ❷一帖 ❸存 ⑤德川時代寫 ⑨(寶香提院)

不動法並護摩供私記 ❶(日)Fu-dō-hō-narabini-go-ma-ku-shi-ki. ❷一卷 ❸存、大正二一・三一 No. 1204、縮餘一、卍續二・九・三 ❹成賢（應保二—寛喜三 A. D. 1162—1231） ⑤明治四一刊 ⑨(谷大、餘小・一二七)（正大、一四八・一三三）

不動法祕傳鈔 ❶(日) Fu-dō-hō-hi-den-shō. 不動尊祕傳鈔 ❷一卷 ❸存 ❹豊嚴口、祐宜（天文五—慶長一七 A. D. 1535—1612）記 ⑨寫本（立大、A二〇・一三六）

不動法表白並結願作法 ❶(日) Fu-dō-hō-hyō-byaku-narabini-ke-chi-wan-sa-hō. ❷一帖 ❸存 ⑨(金剛三昧院)

不動曼荼羅 ❶(日) Fu-dō-man-da-ra. ❷一卷 ❸存、大正圖像第六 ❹金剛童子同像と同卷に收載せるもので、不動明王の尊形曼荼羅三種を畫けるのみである。尊容の傍に身色を少々記入せる外、說明文はない。その中第一圖は中央に不動明王、その四方四隅に八大明王を畫けるもの、第二は八輻輪を畫き、輪辭に普通の二臂坐像、八輻間に四智（第一手右は劍左は羂索、第二手は牙印）の像を畫く、佛宅曼荼羅の一種である、第三は不動明王の眞像五種を曼荼羅の如き配置に畫いたものである。（吉祥眞雄）

不動明王 ❶(日) Fu-dō-myō-ō. ❷一紙 ❸存 ⑨(仁和寺)（醍醐寺）

不動明王安鎮家國法 ❶(日) Fu-dō-myō-ō-an-chin-ka-koku-hō. (支) Pu-tung-ming-wang-an-chen-chia-kuo-fa. 聖無動尊安鎮家國等法、無動尊安鎮家國等法、不動安鎮軌 ❷一卷 ❸存、大正二一・二七 No. 1203、縮餘四、卍續一・三・三 ❹唐金剛智（咸亨二—開元二九 A. D. 671—741）譯 ❺聖無動尊安鎮家國等法の下を見よ。

不動明王安鎮儀軌 ❶(日)Fu-dō-myō-ō-an-chin-gi-ki. ❷一帖 ❸存 ⑤弘安九寫 ⑨(寶壽院)

不動明王行法次第 ❶(日)Fu-dō-myō-ō-gyō-hō-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ⑤平安朝末期寫 ⑨(高大、寄・一・六六)

不動明王口決 ❶(日)Fu-dō-myō-ō-ku-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹實永記 ⑨(西教寺)

不動明王口決 ❶(日)Fu-dō-myō-ō-ku-ketsu. ❷一帖 ❸存 ⑤德川時代寫 ⑨(寶香提院)（寶龜院）

不動明王供次第 ❶(日)Fu-dō-myō-ō-ku-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ⑤足利時代寫 ⑨(寶香提院)

不動明王護摩次第押紙 ❶(日) Fu-dō-myō-ō-go-ma-shi-dai-oshi-gami. ❷一帖 ❸存 ⑤文化五寫 ⑨(高大、寄・一・六二)

不動明王講私記 ❶(日)Fu-dō-myō-ō-kō-shi-ki. ❷一軸 ❸存 ⑤足利中期寫 ⑨(高大、寄・一・四九)

不動明王講式 ❶(日)Fu-dō-myō-ō-kō-shiki. ❷二軸 ❸存 ⑤元應二寫 ⑨(高大、寄・一・四九)

不動明王次第 ❶(日)Fu-dō-myō-ō-shi-dai. 不動明王念誦次第 ❷一帖 ❸存 ❹叡尊、建仁元—正應三 A. D. 1201—1290) ⑨建治四—弘安三寫（寶龜院）明暦三寫（寶龜院）

不動明王私記 ❶(日) Fu-dō-myō-ō-shi-ki. ❷一帖 ❸存 ❹興雅（—永和三 A. D. 1377—）註、宥快（貞和元—應永二三 A. D. 1345—1416）記 ⑤德川時代寫 ⑨(寶龜院)

不動明王七支念誦法 ❶(日) Fu-dō-myō-ō-shichi-shi-nen-ju-hō. ❷一卷 ❸存 ❹興遍集 ⑨(南淡祕)

不動明王七支念誦法 ❶(日) Fu-dō-myō-ō-shichi-shi-nen-ju-hō. ❷一帖 ❸存 ⑤康元二寫 ⑨(寶香提院)

不動明王信心祕鍵 ❶(日)Fu-dō-myō-ō-shin-jin-hi-ken. ❷一冊 ❸存 ❹山崎繁雄著 ⑤昭和七刊

不動明王圖像 ❶(日)Fu-dō-myō-ō-zō. 不動儀軌、東寺本不動明王圖像 ❷一卷 ❸存、大正圖像第六 ❹粗尊寫 ❺不動明王の異像を集めたもの、愛嵐寫の不動儀軌（大正圖像第一二軌載）と同本であるが、卷首及び中程に缺失あり、又圖と文と前後せる點などある。即ち筑本の(1)(5)(7)(8)は此の本になく、從つてこれに關する文も缺けて居る、又筑本の(3)(4)が此の本では前後して居る、その他は全く同じ。不動儀軌の下參照。

⑤正應五二月二十五日寫 ⑨(東寺觀智院)（吉祥眞雄）

不動明王圖像 ❶(B)Fu-dō-myō-ō-zu-zō ❷一卷 ❸存、大正圖像第六 ❹不動明王の種々の圖樣を集めたもので、儀軌に基く修法に要するものではなく、佛畫を畫く者の參考に資す可きものである。即ち(一)磐石に立つ二臂の奢通像、(二)圓壔筆慈尊院本を以て寫したもの、(三)圓心筆、(四)同筆、共に(一)と大差なし、(五)二童子、(六)は(四)に火炎と二童子を加へたもの、(七)は(一)に二童子を加へたる如きもの、(八)良秀筆不動と二童子、(九)玄朝筆不動御頭、(一〇)同筆二童子、(一一)御頭、(一二)御手及脚、(一三)慈尊院本を以つて寫したる三井寺御室戸僧正本によるもの、(一四)慈尊院本を以つて寫したる定智筆によるもの、(一五)筆者不明のもの、(一六)定智眞筆を以つて寫したるもの、(一七)弘法大師筆四臂不動、(一八)同筆二臂像、(一九)高雄曼荼羅の内にあるもの、(二〇)弘法大師筆仁王曼荼羅の内にあるものである。その中(一五)(一六)(一〇)(一一)(一二)(一四)を除き、その他はみな右手に劍、左手に羂索を持ち、磐石に立ち又は坐せる像である。但し(一二)は蓮花に立ち、(一六)は岩も蓮もない。 ❹寫本(醍醐寺)

不動明王像 ❶(B)Fu-dō-myō-ō-zō. ❷一紙 ❸存、大正圖像第一二 ❹(東京美術學校)(武藤金太)

不動明王念誦供養法 ❶(B)Fu-dō-myō-ō-nen-jū-kū-yō-hō. ❷一帖 ❸存 ❹祥雲 ❺德川時代寫

不動明王念誦次第 ❶(B)Fu-dō-myō-ō-nen-jū-shi-dai. 不動納凉房式、納凉房次第 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四四眞言宗事相章疏第一、弘法大師全集第七事相部 ❹空海 ❺寶龜五—承和二(A.D. 774—835)

❻不動明王の念誦法。十八道に金剛界法の四五の印明を加味した次第で、十四根本印明を出してゐる。金剛手光明灌頂經最勝立印聖無動尊大威怒王念誦儀軌法品に依つた所が多い。 ❹鎌倉時代寫 高大、寄・一・六六)寫本(金剛三昧院)(小田慈舟)

不動明王念誦次第 ❶(B)Fu-dō-myō-ō-nen-jū-shi-dai. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第三九阿密鈔抄第五 ❹承澄(元久二—弘安五A.D. 1205—1282)

不動明王念誦次第 ❶(B)Fu-dō-myō-ō-nen-jū-shi-dai. 不動明王次第 ❷一帖 ❸存 ❹觀尊(建仁元—正應三A.D. 1209—1290) ❺寫本(答大、餘甲・七二)

不動明王祕教要決 ❶(B)Fu-dō-myō-ō-hi-kyō-yō-ketsu. 不動明王要決 ❷一卷 ❸存、日本大藏經天台宗密教章疏第三 ❻本書は安然撰といはれる「聖無動尊決祕要義」の略稱「不動祕要決」と類似し、又安然撰「廣摩不動明王祕要訣」とも題名が類似してゐる。然しながら撰者は何處にも記してないから未詳とたす。或は「廣摩不動」六卷の一部であつたかも計られないが今は撰者不明として置く。本書は大日如來を求めんと欲せば祕密教を修學せねばならぬ。明呪眞言を持せんと欲するならば不動明王の應化を求めねばならぬ。教と修とを成就するために釋尊は內外二護の般若を說いた。進那の說教、三密の行法の時に三部の諸尊は教令輪身の明王となる。即ち不動尊と軍荼利と淨吒迦とが三部明王となる。この三部明王の形相と內證と種子とを記述し、當念三尊して三摩地現前して悉地圓滿せしめんと勸說したものが本書である。この三部明王が佛部蓮華部金剛部の教令輪身なることを六番の問答を重ねて論證してゐる。 ❹天明六刊 ❺(正大、一四八・二一三)(田島德音)

不動明王祕訣 ❶(B)Fu-dō-myō-ō-hi-ketsu. ❷一帖 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(寶龜院)

不動明王法 ❶(B)Fu-dō-myō-ō-hō. ❷二卷 ❸存、大日本佛教全書第四八覺禪鈔第四 ❹覺禪、康治二—建暦二以後A.D. 1143—1212)

不動明王御堂再興之事 ❶(B)Fu-dō-myō-ō-mi-dō-sai-kō-no koto. ❷二紙 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(寶龜院)

不動明王略口決 ❶(B)Fu-dō-myō-ō-ryaku-ku-ketsu. ❷一帖(前缺) ❸存 ❹足利時代寫 ❺(寶善提院)

不動明王略次第 ❶(B)Fu-dō-myō-ō-ryaku-shi-dai. ❷四仁、延暦一三—貞觀六A.D. 794—864)

❸本朝台密撰述密部書目に云く「或云。大師の作の略次第。古德傳云寫傳受、用應和尚作玉ふ也」云々。

不動明王立印供養法 ❶(B)Fu-dō-myō-ō-ryō-in-ku-yō-hō. ❷一卷 ❸存 ❹智峰記 ❺寫本(妙法院)

不動明王立印祕決私記 ❶(B)Fu-dō-myō-ō-ryō-in-hi-ketsu-shi-ki. ❷一卷 ❸存 ❹亮憲記 ❺(報恩院)

不動明王靈應記 ❶(B)Fu-dō-myō-ō-rei-ō-ki. 大聖不動明王靈應記 ❷四卷 ❸存 ❹三等(一享保七A.D. 1722—)撰 ❻初に不動尊の尊形並に種子につき、次に本邦各地に於ける靈驗談四十九種を和文にて記したるもの。 ❺元文二刊 ❻(京大、一・三一ヲ・一)(高大、寄・一・二四)(哲、て・七・中・二〇)

不動瑜伽要鈔 ❶(B)Fu-dō-yu-gyō-shō. 不動尊瑜伽要鈔、不動尊怒瑜伽要鈔 ❷三卷 ❸存 ❹淨嚴、寛永一六—元祿一五A.D. 1639—1702)述 ❺元祿九(A.D. 1696) ❻不動尊瑜伽要鈔の下を見よ。 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

不動要抄 ❶(B)Fu-dō-yō-shō. ❷一帖 ❸存 ❹鎌倉時代寫 ❺(寶善提院)

不動略次第 ❶(B)Fu-dō-ryaku-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❹觀賢(仁壽三—延長三A.D. 853—925) ❷(參考) 諸宗章疏錄第三 ❺寫本(京大、日大未・三二九)弘安六及寶暦二寫(高大、寄・一・六六)足利末期寫(金剛三昧院)

不動略次第 ❶(B) Fu-dō-ryaku-shi-dai. ❷一卷 ❹元杲(延喜一一—長德元A.D. 911—995) ❷(參考) 諸宗章疏錄

不動略次第 ❶(B) Fu-dō-ryaku-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❹大谷記 ❺正和四寫 ❻(高大、寄・一・六六)

不動立印軌 ❶(B) Fu-dō-ryō-in-ki. (支)Fu-tung-li-yin-kuei. 金剛手光明灌頂經最勝立印聖無動尊大威怒王念誦儀軌法品、聖無動尊大威怒怒王念誦、最勝立印無動尊大威怒王念誦儀軌法品、尊大威怒王念誦儀軌法品、聖無動威怒王立印儀軌、立印儀軌、不動立印儀軌 ❷一卷 ❸存、大正二一・一 No. 1199、續圖一〇・卍二七・一、明北1425餘、清1425餘、麗1402餘、法1195八、至851皇、明南1213餘、三十帖策子第二三、N. 1432 ❹唐不空(神龍元—大曆九A.D. 705—774)譯 ❺金剛手光明灌頂經最勝立印聖無動尊大威怒王念誦儀軌法品の下を見よ。 ❺正保二寫 ❻(寶善提院)

不動立印儀軌私記 ❶(B)Fu-dō-ryō-in-ki-shi-ki. ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四三天台宗密教章疏第三 ❹安然(承和八—延喜年間A.D. 841—901—)

❻本書は僅かに印相を結ばんと欲せば手指の紀名を知るべしといふに起筆して十指異名を記して終る。恐らく草稿の斷片であらう。 ❺元文二寫 ❻(寶龜院)(田島德音)

不動立印儀軌祕記 ❶(B)Fu-dō-ryō-in-ki-hi-ki. ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四三天台宗密教章疏第三 ❹安然(承和八—延喜年間A.D. 841—901—)

❻本書は不動立印儀軌の印契を說述する事が主となつてゐるが、初めに不動明王は大日如來の教令輪身なりと云ひ、次に一たび念ずれば一切觸犯の障を捨離すると不動使者の功能を記し、次に十指の名稱を擧げ、五盡を示し、次に三昧印以下二十七の印相を記し、最後に形相と種子を略記す。本書の不動尊の形相を說くことは「不動頂運義」と相似してゐるが「頭に美髯を安す」といふ。本書は立印儀軌によつて修法する場合には必ず對照すべき祕書である。

(附記)に略次私記一卷云ある。本書は阿娑縛抄不動部(佛全三九ノ五二)に引用されてゐる。阿字印と虛空眼印の印契並に觀想を記し、次に廣次第と題して甲冑印等四印の印相と觀想を記し、次に三力偈を略說し、供養と念誦とを略記して終る。(田島德音)

不動立印供 ❶(B)Fu-dō-ryō-in-kū. ❷一卷 ❸存 ❹義空記 ❺享保一七(A.D. 1732) ❻(明德院)

不動立印畫圖 ❶(B)Fu-dō-ryō-in-ga-zu. ❷一卷 ❸存、大正圖像第八 ❹立印畫圖と名けるけれども、印圖ばかりでなく、不動法次第の中に印圖を挿入したもので台密に用ふる次第である。最初に「觀羅字已上如胎記」として、次第の觀羅字以前は省略し、次に「大精進惠觀印大惠刀印、法輪印如胎委圓書二有」として・熾盛光焰・俱胝焚燒・泰詩・蓮座・華鬘・燒香・飲食・頭印・眼印・口印・甲印・甲印・飾子・蓋迅・火焰印・商伽・羂索・三古金剛の十六印圖を挿入し、その他の知り易き印は概ね「如胎」「如前」とか云つて圖を加へず、正念誦・後供養・起去・堂外作法に至るまで、次第を書いてある。 ❺享和元寫(田島德音)寫本(後草寺?)(吉祥眞雄)

不動立印次第 ❶(B)Fu-dō-ryō-in-ji-dai. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第二八智證大師全集第四 ❹不動立印の次第として天台宗五座主、山王院大師の說を實祕記が載せたものを摘出して居り、單に次第として三三昧耶・梵甲・大精進・法蜂・流場觀・出定結根本等十四印・結佛母・諸尊會虛空眞言の名目を列ねて居るに過ぎない。(渡邊最昌)

不動立印十四妙契 ❶(B)Fu-dō-ryō-in-jū-shi-myō-kei. ❷一卷 ❸存 ❹亮範記 ❺(妙法院)

不動立印抄 ❶(B) Fu-dō-ryō-in-shō. ❷一卷 ❸存 ❹長乘記 ❺(南溪藏)

不動立印法中疑問答釋 ❶(B) Fu-dō-ryō-in-hō-chū-gi-mon-dō-shaku. ❷一卷 ❸存 ❹亮範記 ❺(明德院)

不動兩界聞書 ❶(B) Fu-dō-ryō-kai-kiki-gaki. ❷一帖 ❸存 ❺(金剛三昧院)

不動臨終正念法 ❶(B)Fu-dō-rin-jū-shō-nen-hō. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❺(寶善提院)

不動鈴 ❶(B) Fu-dō-rei. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❺(寶善提院)

不動和讃 ❶(B)Fu-dō-wa-san. ❷一帖 ❸存 ❹上人作 ❺鎌倉時代寫 ❺(高大、寄・一・四九)

不二葺詩存並別集 ❶(B) Fu-ni-shi-zon-narabini-betsu-shū. ❷五卷 ❸存 ❹日野居龍著 ❺大正一一刊 ❺(京大、日大未・七一一)

不二遺稿 ❶(B)Fu-ni-i-kō. 岐陽遺稿 ❷三卷 ❸存、五山文學全集第三 ❹岐陽方秀(貞治二—應永三一 A.D. 1353—1424)

❻本書は京都東福寺八十世、天龍寺六十四

【フ】

本、南都寺元十七本であり且つ貞観寺不二師人彼国力寺僧侶の詩文法華経を載せたものである。

全三巻。巻上に序十三、図一、跋一、詩六十六、白詩六、図三十三を収める。巻中に詩五十一、唐本寺詩十一、題日吉坂寺詩、題法花経など五、山門流、化城流、江州流などの流三十三、三川寺僧寺本に収録、叡山方面寺僧侶の詩文を収める。巻下に奈良文七、鎌倉、学僧二十五、寺四十一等和上に献ずる詩歌又は所求等、僧二師鎌倉僧行状などの詩四を収めたものである。

❹〔参考〕 詩歌集林寺日　（天文八年写）

不二心秘法白蓮花経密大法 ❶(日)Fu-ni-is-shim-myō-hō-byaku-ren-ge-hi-mitsu-dai-hō. 不二心秘密大法白蓮花経密　❷1巻　❸存　❹写経（天平四一貞観元 A. D. 934—1004）　❺唐本元貞　❻〔参考〕三論

不二行者真行録 ❶(日)Fu-ni-gyō-ja-jiki-gyō-roku. ❷1巻　❸存　❹行者之内　❺天正四刊　❻〔宗天〕仏祖・1七1 1）

不二口 ❶(日)Fu-ni-ku. ❷存　❸貞　❹〔参考〕

不二大日記事 ❶(日) Fu-ni-dai-nichi-hi-ji. ❷1巻　❸存　❹元和寺院貞　❺〔参考〕

不二門聞書 ❶(日)Fu-ni-mon-kiki-gaki. ❷1巻　❸存　❹慶安天明貞　❺〔参考〕

不二門論 ❶(日) Fu-ni-mon-ron. ❷1巻　❸写西（天平元一建保三A. D. 1141—1215）遠　❹〔参考〕山家三部八書所載法華日蓮巻下

不知検亭案書 ❶(日) Fu-nyo-ki-tei-sō-sho. ❷1巻　❸存　❹古来歌記印和1巻。慈宗歌記日蓮1巻。新和元年歌書写之記1巻。如意歌会歌会1巻。結構歌会書写之記1巻。下官歌歌所寄書1巻。法華寺住記歌1巻。関白川寺鳥寺寄書合1巻。定家住記歌1巻。法華寺歌所寄書1巻。明治三十年代作文集1巻。法華寺歌所寄1巻。

❺貞享（宗天・内容天・1 1〇七1）

不忍上人 ❶(日)Fu-nin-shi-kō. ❷1巻　❸存　❹刊本（新ア・1 1・中・1〇）

不能和上人語 ❶(日) Fu-nō-o-shō-no-go. ❷天保　❸存　❹不詳（宗書1三一寛政1 1 A. D. 1703—1762）　❺貞享（正天・1 1 八・七）

不能和尚碑銘 ❶(日) Fu-nō-o-shō-hi-mei. ❷1巻　❸存　❹守静（一安元1 1 A. D. 1805—）撰　❺〔参考〕大日本史紀全書刊貞文書日

不能語 ❶(日) Fu-nō-go. ❷1巻写 1巻　❸存　❹印月雪印（宗書1 1—明和元 A. D. 1689—1764）、本来（一安本1 1 A. D. 1773）編　❺元文三刊（宗天・新天・1 1 七四）元文三刊（正天・1 七五・八1）

不能語規律 ❶(日) Fu-nō-go-ki-ritsu. ❷1巻　❸存　❹印月雪印（宗書1 1—明和元 A. D. 1689—1764）　❻〔参考〕 臨済日録

不能語五位説 ❶(日)Fu-nō-go-go-i-setsu. 臨済不能語五位説　❷1巻　❸存　❹印月雪印（宗書1 1—明和元 A. D. 1689—1764）　❺刊本（富天）

不能語田間集 ❶(日) Fu-nō-go-kō-den-zui-hitsu. 愛日田間集　❷1 1巻　❸存、大正1 1・六八五 No. 2603　❹印月雪印（宗書1 1—明和元 A. D. 1689—1764）　❺愛日田間集の下を見よ。　❻随筆1 1不夜庵記　❼〔参考〕

不能語金剛宝話 ❶(日) Fu-nō-go-kon-gō-sa-wa. ❷1巻　❸存　❹〔参考〕

不能語昭義禁奏 ❶(日) Fu-nō-go-shō-rin-gi-sen. 昭義禁奏　❷1 1巻　❸存　❹印月雪印（宗書1 1—明和元 A. D. 1689—1764）述、本来（一安本1 1 A. D. 1773）編　❺明和元刊　❻〔富天〕（宗天・日天宗・四六四）〔新ナ・八・六・五・1 1七）

不能語博正王位説 ❶(日)Fu-nō-go-hen-shō-go-i-setsu. 臨済不能語博正王位説　❷1巻　❸存　❹印月雪印（宗書1 1—明和元A. D. 1689—1764）　❺刊本（富天）

不能語慶長禁頌 ❶(日) Fu-nō-go-ri-reki-shō-ju. 慶長禁頌　❷1巻　❸存　❹印月雪印（宗書1 1—明和元 A. D. 1689—1764）撰　❺明和元刊　❻〔宗天・日天宗・四六 1 1）〔富天〕

不能詩 ❶(日) Fu-nō-shi. ❷1巻　❸存　❹長慶（東福元一永禄1 1 A. D. 774—835）　❻〔参考〕 詩歌集林寺日

不必定入定印説 ❶(日) Fu-hitsu-jō-nyū-jō-in-gyō. (梵)Pu-pi-ting-ju-ting-yin-ching. 不必定入定入印説　❷1巻　❸存　❹印月雪印（宗書1 1—明和元 A. D. 1689—1764）　❺刊本（富天）

不必定入定印説 ❶(日) Fu-hitsu-jō-nyū-jō-in-gyō. (梵)Pu-pi-ting-ju-ting-yiu-ching. （宋譯）入定不定印説　❷1巻　❸存、大正1 五・六九九 No. 645、観世人、卍元・1 1、寺140頁、市141頁、宗137頁、明寺128頁、法128頁、麗139天、天141頁、精130天、法138天、新217参、明市141頁、Nj. 132　❹唐本元貞　❺天保貞刊西（A. D. 542）　❻不必定入定入印説の下を見よ。

不必定入定入印説 ❶(日) Fu-hitsu-jō-nyū-jō-nyu-in-gyō. (梵)Pu-pi-ting-ju-ting-ju-yiu-ching. （宋譯）入定不定印説　❷1巻　❸存、大正1 五・六九九 No. 645、観世人、卍元・1 1、寺140頁、市141頁、宗137頁、明寺128頁、法128頁、麗139天、天141頁、精130天、法138天、新217参、明市141頁、Nj. 132　❹唐本元貞　❺天保貞刊西（A. D. 542）

❻〔参考〕 天文天正印説の略説、内容は一貫ナ。唐代西暦天文日十九日、仏祖参禅四度会説に会て説田し、金剛寺住持法華寺住、文能説寺（鎌倉時代）等に「必定不必定入印印法門（鎌倉時代入定不定印説門）」を説ける。仏印法門とは、仏印三昧を説き、仏印三昧は、仏印三昧を説き、仏印三昧は、仏印三昧を説き、仏印三昧は

尚、大寶積經第六十六の善薩見實會（善薩見實經）（大正一一・三五一—四三四頁）は本經の異譯である。
⑨寫本（京大、藏・一フ・二）（山邊習學）

父子善誘法 ❶(日)Fu-shi-zen-yu-hō. ❷一冊 ❸存 ⑨刊本（晋、あ・二・有・一八）

父子相迎 ❶(日)Fu-shi-sō-gei. ❷二卷 ❸存、大正八三・三〇四 No. 2917、國文東方佛教叢書第一輯第三法語部、三部假名鈔 ⑨向阿證賢、弘長三—貞和元 A. D. 1263—1345）
⑭本書は著者證賢の歸命本願抄三卷、西要抄二卷と合して三部假名抄の名を以て總稱されてゐる三部作の一で、專ら娑婆と極樂との比較優劣を細說し、淨土宗義の聽安心である厭離穢土欣求淨土の思想を述べてゐる。本書を名づくるに父子相迎を以つてしたるは、彌陀如來と我等とは本來區別あることなく同一佛性を具せる者なるも、我等は煩惱妄染のために久しく苦海に沈淪せるを以て、彌陀は大慈の悲願を垂して一切衆生を一子の如く憐みたまふ故に父といひ、衆生を子と名づけ、彌陀は常に衆生を穢土より救はんと念願して淨土と娑婆とを往來せらるることは日に幾千度なるを知らず、衆生又彌陀の大慈を仰いで濟度を希求し、相互にたづねあふ邊を相迎といへるものである。著作年時は不明であるが、眞如堂縁起には元亨のころ（A. D. 1321—1324）と云つてゐる。而して三部假名抄全部が如何なる順序で完成されたかは、別段記錄は無いが、抄の記事に從ふと、先づ歸命本願抄が作られ、一年を經て西要抄と本書とが撰ばれたようである。けれども本書は構想を大綱に籍りて己が所懷を述べたものであるから必しも一年を經過して三部作が成立したと見るべきでなく、當時の淨土宗義が區々であつたのを歎くのあまり、眞如堂本尊阿彌陀佛及び清涼寺本尊釋迦如來の加護を念じつつ、相傳の正義を述べたものであらう。
⑦(注釋) 誌註四卷、湛澄撰（鎌淨土宗全書第八、大日本佛教全書第六十二）。要解三卷、湛澄撰。管釋一卷、賀茂眞淵撰（賀茂眞淵全集第四）⑨延寶二寫（龍大、二六八四・三二）慶安二寫（龍大、二六八四・一四二）寫本（谷大、宗大・三七六六）自筆本（京都清淨華院）（高瀨承厳）

父子相迎誌註 ❶(日)Fu-shi-sō-gei-chū. 父子相迎並誌註 ❷四卷或二卷 ❸存、大日本佛教全書第六二、續淨土宗全書第八 ❹證賢（弘長三—貞和元 A. D. 1263—1345）述、湛澄（慶安四—正德二 A. D. 1651—1712）注 ⑭父子相迎並誌註の下を見よ。
⑨貞享四刊（谷大、宗大・三六八）元祿二刊（正大、一五五四・二三七）（帝國、一九七・九八）寛政三刊（正大、一五五四・九五、二四四）（龍大、二六八四・三四）

父子相迎言釋 ❶(日)Fu-shi-sō-gei-gon-shaku. ❷二卷 ❸存、三部假名抄管釋之內 ❹證賢（弘長三—貞和元 A. D. 1263—1345）述、賀茂眞淵（元祿一〇—明和六 A. D. 1697—1769 釋 ⑨安永四刊 ⑨（谷大、宗大・三六七）（龍大、二六八四・三七）

父子相迎要解 ❶(日)Fu-shi-sō-gei-yō-kai. ❷四卷 ❸存、大日本佛教全書第六二、續淨土宗全書第八 ❹證賢（弘長三—貞和元 A. D. 1263—1345）述、湛澄（慶安四—正德二 A. D. 1651—1712）註 ⑭父子相迎並誌註の下を見よ。
⑨向阿證賢三部作の一である父子相迎二卷につき隨文解釋を施したもの、理解甚だ詳密を極め、上卷を本（四一六節）末（四九一節）計九百〇七節に、下卷を本（三五二節）末（一〇四節）計四百五十六節に細分して博弘博證到らざるなきもの、上卷では我等もとより佛性を具し、彌陀法王の御子であるが、たまたま生死流浪の巷に流浪して本性を忘れたり、何によりて忘れたるか、即ち淨樂我常の四顚倒に迷へるがためなりとし、上本にては主として淨樂の二顚倒を上來にては我常の二顚倒を說き、この四顚倒の妄情を打破し、彌陀大悲の願力に乘託し、父たる彌陀覺王に、子たる迷ひの衆生は相迎へられて淨土に往生すべきを述べ。下卷では相迎へられて往生したる淨土の勝れたる有樣を述べて、淨土は彌陀の因願に酬ひて成れるところ、即ち西方淨土は彌陀が因位にありて四願倒を破し、眞淨、眞樂、眞我、眞常を證したるによりて成れるものなりと、下本には眞淨と眞樂を、下末には眞我と眞常とを述べて、煩惱妄染に障へらるる我等、須らく大悲願王の御名を稱へ、淨土に往生すべしと說かれてある。歸命本願鈔並誌註參照。（高瀨承厳）

父子相迎誌註 ❶(日)Fu-shi-sō-gei-chū-gi. ❷二卷 ❸存 ❹證賢（弘長三—貞和元 A. D. 1263—1345）述、湛澄（慶安四—正德二 A. D. 1651—1712）解 ⑨寶永四刊（正大、一五五四・九六、二三五）（京大、一・二六フ・一一）寶永六刊（立大、A三〇・一四四）

父母因緣經 ❶(日)Bu-mo-in-en-gyō. (支)Fu-mu-yin-yuan-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ⑦(參考) 出三藏記第三、法經錄第五、彌泰錄第五、開元錄第四、第一五、貞元錄第六、第二五

父母恩勤報經 ❶(日)Bu-mo-on-gomi-hō-gyō. (支)Fu-mu-en-chin-pao-ching. 父母恩難報經、難報經 ❷一卷 ❸存、大正一六・七七八 No. 684、鎌宿八、卍一五・一、北879學、南892學、天867學、明北757當、清757當、麗890寬、天579學、指532寬、法865寬、至1112和、明南762當、Nj. 763 ❹後漢安世高譯 ❺建和二—建寧三（A. D. 148—170）

父母恩重經 ❶(日) Bu-mo-on-jū-gyō. (支)Fu-mu-en-chang-ching. ❷一卷 ❸存、大正八五・一四〇三 No. 2887
⑭本經は武周錄、開元錄、貞元錄の各疑僞錄に出づ。然して開元錄、貞元錄には細註して「經引丁蘭董黯郭巨等故知人造」とあり、丁蘭、董黯、郭巨等は共に支那に於ける孝子として名ある人にして、これらの人の因緣を引用してゐる故に疑僞經だとしてゐる。然し現流の本經にはこの文は見當らぬ樣である。本經には三四の異本あるらしく、亮法の本經の疏に引用してゐるものは燉煌本とは異り、父國脩本もあつた樣に亮

法は記してゐる。本經の趣旨は、父母の恩は甚だ重し、この恩を報ぜんには「作福造經幾番請佛懺悔供養三寶、或飲食衆僧」すべしと云ふにある。註疏としては、西明寺沙門體清の疏あつて慈覺大師によつて將來された如きも現存せず、宗密は宏顯鈔經疏に本經を援引してゐる。
⑦(參考) 武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八 ⑨燉煌本（大英博物館 No. 2084, 19）、中村不折、寶文七刊（龍大、研佛）（辻森要修）

父母恩重經 ❶(日) Bu-mo-on-jū-gyō. 科註父母恩重經、父母恩重經註 ❷一卷 ❸存 ❹亮法（元和八—延寶八 A. D. 1622—1680）註 ⑤明治一二刊 ⑨（正大、一一七九・九九）（帝國、一四一・一三二）

父母恩重經誌解 ❶(日)Bu-mo-in-jū-gyō-gen-gi. 父母恩重經鈔 ❷一卷 ❸存 ❹亮典（慶長一二—永應元 A. D. 1607—1653）述

父母恩重經懸譚 ❶(日)Bu-mo-on-jū-gyō-gen-tan. ❷一卷 ❸存 ⑨寫本（正大、一一七九・二九）

父母恩重經鼓吹 ❶(日) Bu-mo-on-jū-gyō-ko-sui. ❷一卷 ❸存 ❹玄眞（—寶永元 A. D. 1704—）述 ⑤明治二九刊 ⑨（龍大、二四一七・一九二）

父母恩重經講義 ❶(日)Bu-mo-on-jū-gyō-kō-gi. ❷一冊 ❸存 ❹守鉾宇治郎著 ⑤大正四刊 ⑨（高大、寄・一・二三）（京專）

父母恩重經私談鈔 ❶(日) Bu-mo-on-jū-gyō-ri-shi-dan-shō. ❷五卷 ❸存 ❹了意（—元祿四 A. D. 1691）述 ⑤寛政九刊 ⑨（京大、日大未・一四八）（京專）（帝國、一二七・一七六）

父母恩重經直解 ❶(日) Bu-mo-on-jū-gyō-jiki-gi. ❷一冊 ❸存 ❹玄眞（—寶永元 A. D. 1704—）述 ⑨（晋、お・八・左・三五）

父母恩重經疏 ❶(日)Bu-mo-on-jū-gyō-sho. (支)Fu-mu-en-chung-ching-su. ❷一卷 ❸缺 ❹西明寺沙門體清述 ⑦(參考) 東域傳燈目錄卷上、入唐新求聖教目錄

父母恩重經鈔 ❶(日)Bu-mo-on-jū-gyō-shō. ❷二卷 ❸存、日本大藏經第八方等部章疏第六 ❹亮法（元和八—延寶一九 A. D. 1622—1679）述 ⑤延寶三（A. D. 1675）七月十五日
⑭本鈔は亮法が病氣の爲めに長谷寺に蟄居してゐた時に鈔附一卷を作つたものを更に添削して、延寶三年に刻刷に附したもの。廣く諸經論を援引して詳釋してゐる。然してこの鈔に用ひた父母恩重經は、大正藏八十五卷所載の燉煌本とは異り、本文最後の近くに偽頌と少數の長行が增廣されて居り、經文終て「父母恩德有二其十種」と十種の父母の恩を數へてゐる。
⑨延寶三刊（正大、一一七九・九八、一〇〇、一〇七）（高大、一・二三）（晋、お・八・中・三二）元祿一〇刊（正大、一一七九・三二、三四、一〇三）

父母恩重經鈔 ❶(日)Bu-mo-on-jū-gyō-shō. 父母恩重經誌解 ❷二卷 ❸存 ❹亮典（慶長一二—永應元 A. D. 1607—1653）述 ⑦(參考) 欽宗章疏錄第三

父母恩重經鈔 ❶(日)Bu-mo-on-jū-gyō-shō. 頭書科註父母恩重經鈔 ❷二冊 ❸存 ❹元祿一〇刊 ⑨（谷大、餘大・二〇六）（高大、寄・一・二三）（正大、一一七九・一〇三）

父母恩重經鈔和解 ❶(日)Bu-mo-on-jū-gyō-shō-wa-ge. ❷二卷 ❸存 ❹雄辨述 ⑤享保一二刊 ⑨（龍大、二四一七・一九三）

父母恩重經註 ❶(日)Bu-mo-on-jū-gyō-chū. 科註父母恩重經 ❷一卷 ❸存 ❹亮法（元和八—延寶八 A. D. 1622—1680）註 ⑤明治二六刊 ⑨（正大、一一七九・三〇—三一）

父母恩重經罔極鈔 ❶(日) Bu-mo-on-jū-gyō-mō-kyō-shō. 科註父母恩重經罔極鈔 ❷一卷或二卷 ❸存、日本大藏經第八方等部章疏第六 ❹眞賢
⑭本書は亮法の父母恩重經鈔を更に細釋して、父母恩重經の眞意を平易に諒解せしめたもので、父母海嶽罔極の鴻恩に報ゆる意にて罔極鈔と名づけたものである。
⑨貞享元刊（正大、一一七九・一〇四）貞享二刊（谷大、餘大・五七八）

父母恩重經罔極鈔 ❶(日)Bu-mo-on-jū-gyō-mō-kyō-shō. 重版改正科註父母恩重經罔極鈔 ❷二冊 ❸存 ❹貞享三刊 ⑨（高大、寄・一・二三）

父母恩難報經 ❶(日) Bu-mo-on-nan-hō-gyō. (支) Fu-mu-en-nan-pao-ching. ❷一卷 ❸失譯 ⑦(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、彌泰錄第三、第四

父母恩難報經 ❶(日) Bu-mo-on-nan-hō-gyō. (支)Fu-mu-en-nan-pao-ching. 父母恩勤報經、難報經 ❷一卷 ❸存、大正一六・七七八 No. 684、鎌宿八、卍一五・一、北879學、南892學、天867學、明北757當、清757當、麗890寬、天579學、指532寬、法865寬、至1112和、明南762當、Nj. 763 ❹後漢安世高譯 ❺建和二—建寧三（A. D. 148—170）
⑭本經は極めて短い經典で、その主旨は父母の恩を眞に報ひる道は如來を信ぜしむるに在ることを述べるものである。
内容。佛、祇樹給孤獨園に在し諸比丘に告げて曰く、父母の子に對する增益飼養の恩は、譬ひ千年の間その右肩に父を負ひ、左肩に母を負ふの行を爲すも報ひ足らぬほどである。併しその父母に信無くば信を得しめ、戒無くば戒を教へ、聞かざれば聞かせ、慳貪なれば好施を教へ、智慧無くば教へて慧慧ならしめて安隱處を獲せしめ、如來を信ぜしむるに到らば報ひ得るであらうと說かれる。
⑦(參考) 三寶紀第四、內典錄第一、譯經圖紀第一、開元錄第一、貞元錄第一、第二（山邊習學）
⑨刊本（京專）

父母恩難報經翼解 ❶(日) Bu-mo-on-nan-hō-gyō-yoku-ge. ❷一卷 ❸存 ❹諦賀述 ⑤貞享三刊 ⑨（谷大、餘大・二六六一）

父母孝養歌 ❶(日)Bu-mo-kyō-yō-shō. ❷1巻 ❸存 ❹(参考) 僧千蔭撰 歌謡 ❺写本(延享二)

父母恩感経 ❶(日)Bu-mo-hō-on-gyō. 現代語訳父母恩感経 ❷四巻 ❸存 ❹米国新教教会

夫婦譬経 ❶(日) Fu-na-ra-kyō. (支)Fu-na-lo-ching. ❷1巻 ❸欠書 ❹(参考) 田三郎記巻四

夫婦譬経 ❶(日) Fu-na-ra-kyō. (支)Fu-na-lo-ching. ❷1巻 ❸欠 ❹西晋安息沙門(一説月氏)竺法護訳A.D. 266—313—)書 ❺(参考) 四天経巻1 天〻四天経巻二十五

夫婦経 ❶(日)Fū-fu-kyō. (支)Fu-fu-ching. ❷1巻 ❸欠書 ❹左記諸経巻五巻° ❺(参考) 田三郎記巻四〻法華経巻四〻仁王経巻三〻勝鬘経巻三〻巻四〻四天経巻1 天〻四天経巻二十六

布袋口訣 ❶(日)Fu-kai-ku-ketsu. ❷1巻 ❸存 ❹白隠(禅僧天一享保六A.D.1677—1756)著 ❺写本(江戸天〻1 五五二・三一八)

布袋五教 ❶(日)Fu-kai-go-jō. ❷1巻 ❸存 ❹天王(禅僧天一享保六A.D. 1680—1756)著 ❺写本(江戸天〻1 五五二・三五四)

布袋問聞録 ❶(日)Fu-kai-zui-mon-roku. ❷1巻 ❸存 ❹問答〻智恵〻修意〻見聞〻遺存等 ❺写本(江戸天〻1 五五二・三三五)

布教学 ❶(日)Fu-kyō-gaku. ❷1巻 ❸存 ❹宗教学者 ❺明治三四刊 ❻(冷大〻産作・三八八〇)(正大〻1〇九・1六二)

布教々範講義 ❶(日)Fu-kyō-kyō-han-shaku-gi. ❷1巻 ❸存 ❹本願寺講師 ❺明治四二刊 ❻(国大〻1〇五五・二二三)

布教研究會講演集 ❶(日)Fu-kyō-ken-kyū-kwai-kō-en-shū. ❷1巻 ❸存 ❹同盟宗教講師 ❺大正五刊 ❻(国大〻1〇五五・二二五)

布教研究會講義録 ❶(日)Fu-kyō-ken-kyū-kwai-kō-gi-roku. ❷1巻 ❸存 ❹花田覚宗講師 ❺明治四五刊 ❻(国大〻1〇五五・二二六)

布教研究會講義録 ❶(日)Fu-kyō-ken-kyū-kwai-kō-gi-roku. ❷1巻 ❸存 ❹新代新宗講師 ❺大正元刊 ❻(国大〻1〇五五・二二七)

布教講演會講演録 ❶(日)Fu-kyō-kō-shū-kwai-kō-en-roku. ❷1巻 ❸存 ❹日蓮宗々務院講師 ❺大正七刊 ❻(文大〻B〇九・二二三—二二五) ❼東京日蓮宗宗務院記

布教講演會講義録 ❶(日)Fu-kyō-kō-shū-kwai-kō-gi-roku. ❷1巻 ❸存 ❹大谷派文部部講師 ❺明治四五刊 ❻(冷大〻産作・三二八)

布教資料 ❶(日) Fu-kyō-shi-ryō. ❷1巻 ❸存 ❹前田慧雲著述大 ❺仏教書 ❻

布教資料科外講義 ❶(日)Fu-kyō-shi-ryō-kwa-gwai-kō-gi. ❷1巻 ❸存 ❹ウ金剛明寺講師 ❺(国大〻1〇五五・二二一)

布教資料科外講義 ❶(日)Fu-kyō-shi-ryō-kwa-gwai-kō-gi. ❷1巻 ❸存 ❹ウ金剛明寺講師 ❺(国大〻1〇五五・二二一)

布教資料 ❶(日)Fu-kyō-jitsu-reki-dan. ❷1巻 ❸存〻就言宗安心今著述 ❹僧侶 ❺明治四二(A.D. 1909)

❻この書は著者が教授言宗安心の時に安心に関する一説を記述したものである。著者は〻「〻安心論の要件°」三〻「高野山の沿革°」四〻「十二月の大会式°」五〻「十三宗の沿革°」六〻「十四宗の沿革°」七〻「教祖の伝°」八〻「教宗宗の開祖°」九〻「各教大会に就て°」一〇〻「開会儀式の十条°」である°

❼(国大〻1・二六六)(冷産)(慶応義塾)

布教者の心得 ❶(日)Fu-kyō-ja-no-kokoro-e. ❷存〻参陪僧侶言之説教 ❸新井石禅(天保元—明治四二 A.D. 1864—1927) ❹大正六刊 ❺(国大)

布教書籍目録 ❶(日)Fu-kyō-sho-seki-moku-roku. ❷1巻 ❸存 ❹写本(国大〻1〇1・二二三)

布教新資料 ❶(日)Fu-kyō-shin-shi-ryō. ❷1巻 ❸存 ❹曹洞宗教会編 ❺刊本(国大〻1〇五五・1三〇)

布教新辞典 ❶(日)Fu-kyō-shin-ji-ten. ❷1巻 ❸存 ❹日蓮聖教〻 ❺足立栗園〻大住貫共編 ❻明治四三刊 ❼東京博文館

布教叢書 ❶(日)Fu-kyō-sō-sho. ❷三十四巻 ❸存 ❹仏教教学会編 ❺大正五—九 ❻(冷大〻産作・五五八八)

布教叢書 ❶(日)Fu-kyō-sō-sho. ❷存 ❹天台宗教学部編 ❺明治二四刊 ❻(正大〻1三六・五五)

布教叢書 ❶(日)Fu-kyō-sō-sho. ❷存 ❹天台宗教学部編 ❺(正大〻1〇五五・1三二)

布教叢談 ❶(日)Fu-kyō-sō-dan. ❷1巻 ❸存 ❹宗教教学会編 ❺大正五刊 ❻(国大〻1〇五五・1三二)(冷大〻産大・三三四1)

布教大鑑 ❶(日) Fu-kyō-tai-kan. ❷1巻 ❸存 ❹真宗教学会編 ❺明治三七刊 ❻真宗教学会編

布教大辞典 ❶(日) Fu-kyō-dai-ji-ten. ❷1巻 ❸存 ❹日蓮聖教編 ❺明治四二刊 ❻(冷大〻産作・二七〇)

布教提要 ❶(日)Fu-kyō-tei-yō. ❷1巻 ❸存 ❹刊本(国大〻1〇五五・1三二)

布教博愛説教集記 ❶(日)Fu-kyō-den-dō-go-sho-chō-ki. ❷1巻 ❸存 ❹雲峰(文化二一—明治一四 A.D. 1805—1881) ❺明治五五説 ❻(冷大)

布教文庫 ❶(日) Fu-kyō-bun-ko. ❷1巻 ❸存 ❹明治三一刊 ❺(冷大〻産作・1二二)(参国〻1三・二八三) ❻東京博聞社

布教便覧 ❶(日)Fu-kyō-ben-ran. 新撰布教便覧 ❷1巻 ❸存 ❹加藤哲愛編 ❺大正七刊 ❻真宗教学会編

布教法 ❶(日)Fu-kyō-hō. ❷存〻説一回教授説教の法義説意之内 ❸高田慎夫 ❹大正九刊 ❺(国大)

布教要領 ❶(日)Fu-kyō-yō-ryō. ❷存〻説教説法説意之内 ❸高田正雄著 ❹大

正一〇刊 ❻真宗教学部教会編

布鼓 ❶(日)Fu-ko. ❷五巻 ❸存 ❹白隠禅師(貞享二—明和元A.D.1685—1768) ❺寛政三刊 ❻(冷大〻1・二五六・1)

布薩安居儀軌天人因縁法語

❶(日)Fu-satsu-an-go-ma-ri-bu-nin-inn-en-hō-go. ❷1巻 ❸存〻説教教本全巻 巻1 六 ❹説教(享保三—文化元A.D. 1718—1804)〻明月尼(寛政六—天保四A.D. 1756—1833)記

❺この書は布薩と安居と摩利天人の因縁との三法語である°布薩法語は如来説法は説戒本文(経)を説くそれとその説教文如来は説戒本文(経)を説くそれとの説教文如来に説戒本文(経)を説くそれとの説教文如来に説戒本文(経)を説くそれとの説教文如来に

した。

⑨寛文元刊 ⑩(大)一六、二六八五・三八、二〇三・三九、(谷大)・宗大・二七六六、(正大)一五五二・三四一)

布薩式辨正返破論 ❶(B)Fu-satsu-shiki-ben-shō-hen-pa-ron. 布薩辨正返破論 ❷四卷 ❸存、續浄土宗全書第一五 ❹輪超述 ❺寛文七(A. D. 1667)

❻南楚大江の布薩式辨正を反駁したるもの。初めに大意として布薩戒の相傳由來あるを說き、數種の戒儀諸派を擧げ、次に辨正の文について一々破釋を加へてゐる。しかし著者當時は自流相傳の戒儀に依り、必ずしも二卷の布薩式には依らぬといひ、布薩式の文中には宗祖所述でなく、後人の書き加へがあることを認めてゐる。(大野法道)

布薩式略軌 ❶(B)Fu-satsu-shiki-ryaku-ki. ❷一卷 ❸存、慈雲尊者全集第六 ❹慈雲(享保三—文化元 A. D. 1718—1804)

❺この軌は道場莊嚴、諸衆入堂、說戒、自恣偈、三歸戒等を撰次してゐる。(高見寬恢)

❹寫本(河內高貴寺) ❺布薩帳中筮 ❶(B)Fu-satsu-chō-chū-sen. ❸存、續浄土宗全書第一五 ❹要信

❻浄土宗の布薩戒に關する口訣を記したるもの。七項あり。一に三脈要領は、傳法口訣と圓戒傳授と布薩一乘戒に就て論じ、二に迦葉相承は、布薩戒に迦葉文殊二種相承ありて、後者に依る意を明かし、三に本山來由は、本山傳會光明寺代々相承と、了譽所傳の東山相承、及びその混亂を述べ、四に戒體揀非は、布薩戒の戒體を南無阿彌陀佛とし根本口傳を重んずべきを說き、五に授戒辭異は、正授戒の辭句について正訛を辯じ、六に評儀鳳書は、當時流傳の布薩式二卷、西譽の作と稱する三國佛祖傳集の僞妄を論じ、七に批二戒儀は、布薩廣略戒儀につき三十五條の理由を出して僞書と斷ず。卷末に寶曆乙卯春二月南越沙門溫月の奥書あり著者は生實大巖寺第二十七世の清蓮社俊譽である。(大野法道)

布薩傳時處年號相違決 ❶(B)Fu-satsu-den-ji-sho-nen-gō-sō-i-ketsu. ❸存、續浄土宗全書第一五 ❹非了(正保四—享保元 A. D. 1647—1716) ❺正德六(A. D. 1716)

❻浄土宗布薩傳の堅の血脈示書に「日本建曆元年正月二十一日子刻、來ゝ大谷禪室一授ゝ沙門源空」とあるに就て、此年月日には宗祖は攝州勝尾寺に在つて、京都大谷の禪室には居られないところから、布薩傳受の時處を論決したるもの。著者が傳へた三家の說を擧げて取捨は人に任すといふ。その第一家の說は、宗脈相承は開宗の時、布薩相承は宗書の年月で、此時身は勝尾に在るも夢中の境は大谷であるといひ、第二家の說は宗脈布薩ともに開宗の時の傳受であるが、建曆影現は印治定の爲めといひ、第三家の說は、第二家と同じく共に開宗當時の傳受で、その後特別の法器に密授ありしを、示書の年月に夢尋勝尾に來現し、聞傳を勸めらるゝによつて廣戒儀を作りて授けらる。しかも示書の文は初傳と再傳を影略互顯するといふ。本書は著者が知恩院第四十四世となつてからの作である。

❼(參考) 布薩戒便蒙、布薩戒講義卷下(大野法道)

布薩式顯書祕決 ❶(B)Fu-satsu-narabini-ji-sho-hi-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹義譽觀徹(明曆三—享保一六 A. D. 1657—1731) ❺寫本(正大、一五五二・三二一)

布薩辨正返破論 ❶(B)Fu-satsu-ben-shō-hen-pa-ron. 布薩式辨正返破論 ❷四卷 ❸存、續浄土宗全書第一五 ❹輪超述

布薩法則 ❶(B)Fu-satsu-hō-soku. ❷二卷 ❸存 ❺元文五寫 ❻(高大、寄・一・六三)

布薩翻名義 ❶(B)Fu-satsu-hon-myō-gi. ❷一卷 ❸存、續浄土宗全書第一五 ❹敬首(天和三—寶延元 A. D. 1683—1748)撰 ❺元文五(A. D. 1740)

❻布薩の梵語を優補陀婆とし、その意義を詳述し、說戒の義を說き、また八齋戒について論ず、本書述作の目的は左の後記の一節に明らかである。曰く「右布薩の翻名義を辨別して苦ろに示すことは、浄家百年來、布薩戒と云ふことありて、宗門一大事の戒にして無上の妙戒とす。(中略)適々有眼の輩、是を疑ふといへども、積習久しきに依り、或は他面を憑りて、是を改め破斥すること能はず、嗚呼無始の煩惱習ひ久しきとて、斷破せずして可ならんや。(中略)中古の愚人、此邪說を聞て百年以來雷同尊信することになりたり。後世有識の大德有て、此布薩戒の邪說を廢斥し、吉水大師の昔に回りて、圓頓戒の正法を弘傳して、彼の布薩戒の妄說を滅邪することあらば、予誠後といへども心識不滅なれば、莞爾として隨喜を唱へん」と。(大野法道)

布薩文 ❶(B)Fu-satsu-mon. (支)Fu-sa-wen. ❷一卷 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2693

布薩文等 ❶(B)Fu-satsu-mon-tō. (支)Fu-sa-wen-teng. ❷一卷 ❸存、大正八五・一三〇一 No. 2533

❹燉煌出土、スタイン蒐集本の一。首缺、題は大正藏經編者の新加であらう。(目次)……布薩文、同、懺四季文、行城文、同、行軍轉經文、轉經文、置傘文、同、同、(以上)。これらの願文によつて燉煌地方で行はれた法會儀式の一端を窺知し得べきか。

❺原本、大英博物館藏燉煌本 S. 2146(櫻部文鏡)

布薩略作法 ❶(B)Fu-satsu-ryaku-sa-hō. ❷一卷 ❸存 ❹良忍作 ❺(無動寺)

布字圖 ❶(B)Fu-ji-zu. ❼(參考) 本朝古逸撰述密部書目

布水臺帳 ❶(B)Fu-sui-dai-chō. ❸存 ❹木陣道忠 ❼(參考) 禪籍目錄

布施經 ❶(B)Fu-se-kyō. (支)Fu-shih-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

布施經 ❶(B)Fu-se-kyō. (支)Fu-

shih-ching. (梵)Dānaśīlagyā alias Dānadhikāra-mahāyāna-sūtra (Divyāvadāna) (藏)Sbyin-pa-sbyin-pahi phan-yon bstan-pa. ❷一卷 ❸存、大正一六・八一二No. 705、館宿八、卍二五・三、北1184千、南1199千、元1193千、明北805則、南805則、麗1184戶、天1176千、法1198虛、至516貫、明南555臨、Nj. 810 ❹宋法賢(—成平四 A. D. 1061)譯

❺本經の主旨はその經名の如く布施に關說するもので、極めて短い經典である。

內容。佛、祇樹給孤獨園に在し大比丘衆の三十七種の布施法、即ち、(一)信行布施。(二)依時施。(三)常行施。(四)親手施。(五)爲他施。(六)依歡施。(七)妙色具施。(八)上妙香具施。(九)上味施。(十)如法尊重施。(十一)廣大心施。(十二)美食施。(十三)樂飲施。(十四)衣服施。(十五)住處施。(十六)臥具施。(十七)象馬車乘施。(十八)湯藥施。(十九)經法施。(二十)花果施。(二十一)花雲施。(二十二)香施。(二十三)傘蓋施。(二十四)鈴鐸施。(二十五)音樂施。(二十六)然燈施。(二十七)以香水灌如來塔廟。(二十八)以香水灌如來身。(二十九)以香油塗飾佛像。(三十)以香水施沿衆僧。(三十一)慈心施。(三十二)喜心施。(三十三)寂心施。(三十四)捨心施。(三十五)種々施。(三十六)無住無相心施を說き給ふ。時に舍衛國王が佛に「我等如何にして布施を行ずるや」と問ふ。佛爲めに自利利他心平等の布施が眞の布施なること及びその他布施の功德を說き給ふ。(山邊習學)

布施經 ❶(B)Fu-se-kyō. (支)Fu-shih-ching. 分別布施經 ❷一卷 ❸存、大正一・九〇三No. 24、館於八、卍一五・七、北1272竜、南1294祿、元1258祿、明北920履、清925履、麗1437題、天1278祿、至515祿、明南931清、Nj. 930 ❹施護譯 ❺宋太平興國五以後(A. D. 980—) ❻分別布施經の下を見よ。

布施經要解 ❶(B)Fu-se-kyō-yō-ge. ❷一卷 ❸存 ❹慶深述 ❺延寶九刊 ❼(谷大、餘大・三四一〇)

布施功德經 ❶(B)Fu-se-ku-doku-kyō. 現代意譯布施功德經 ❷四卷 ❸存、現代意譯根本佛教叢書第四帙一阿含經抄 ❹赤沼智善譯

布施後無極經 ❶(B)Fu-se-go-mu-goku-kyō. (支)Fu-shih-hou-wu-chi-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❻六度集經第一卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

布施持戒經 ❶(B)Fu-se-ji-kai-kyō. (支)Fu-shih-chih-chieh-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

布嚧經 ❶(B)Fu-yu-kyō. 現代意譯布嚧經 ❷四卷 ❸存、現代意譯根本佛教叢第四帙一阿含經抄 ❹赤沼智善譯

付開日記 ❶(B)Fu-kai-nik-ki. ❷六卷 ❸存

❹文化年中、福井領の眞宗末寺が本山の教化を怠ぜざるにより、使僧を派して之れを糺問せし始末を記す。世に此事件を眞宗安心無諍と云ふ。

❼寫本(帝國、二・二三五、二七七)

付血脈口決 ❶(B)Fu-kechi-myaku-ku-ketsu. ❷一軸 ❸存 ❺足利時代寫 ❼(寶龜院)

付四座講式不審少々 ❶(B)Fu-shi-za-kō-shiki-fu-shin-shō-shō. ❷一軸 ❸存 ❺德川時代寫 ❼(寶龜院)

付諸流私記 ❶(B)Fu-sho-ryū-shi-ki. ❷一軸 ❸存 ❼寫本(寶龜院)

付囑狀 ❶(B) Fu-zoku-jō. ❷一紙 ❸存、日蓮宗々學全書上聖都之內 ❹日像(文永六—康永元 A. D. 1269—1342) ❺延慶二(A. D. 1309)

❻初に「傳受之 妙實上人」とあり、終に

「例如今佛將付上行等、當付以此法、付屬於汝、勿爲末代、

延慶二年己酉七月八日 日像在判」

とあるが、日富の集書には、右日附は曆師(知實)入門前四年であるから年時不相應である。恐らくは本文は延慶二年の筆に成るものであるが、初の「傳授之如實上人」は後年の筆ならんと言つてゐる。(馬田行啓)

付法緣起 ❶(B)Fu-hō-en-gi. ❷三卷 ❼(參考) 東城傳燈目錄卷下

付法口傳等 ❶(B) Fu-hō-ku-den-tō. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❼(金剛三昧院)

付法血脈圖 ❶(B) Fu-hō-kechi-myaku-zu. ❷一卷 ❸存 ❺應安四寫 ❼(名古屋)

付法血脈相承鈔 ❶(B)Fu-hō-ke-chi-myaku-sō-jō-shō. 付法相承血脈鈔 ❷一帖 ❸存 ❹祖我(嘉元二—康曆元 A. D. 1304—1379) ❻付法相承血脈鈔の下を見よ。 ❺足利時代寫 ❼(寶龜院)

付法墓要抄 ❶(B) Fu-hō-san-yō-shō. 眞言付法墓要鈔、付法墓要、小野墓要鈔、祕密曼荼羅墓要鈔 ❷一卷 ❸存、大正七七・四一六、No. 2433、大日本佛教全書第一〇六 ❹成尊(長和元—永保元 A. D. 1012—1074) ❻眞言付法墓要鈔の下を見よ。 ❺平安朝時代寫 ❼(寶善提院)

付法墓要鈔聞書 ❶(B)Fu-hō-san-yō-shō-kiki-gaki. 眞言付法墓要鈔聞書 ❷一卷 ❸存 ❹呆實(德治元—貞治元 A. D. 1305—1362)述 ❼(參考) 眞言宗全書刊行豫定書目

付法墓要鈔備考 ❶(B)Fu-hō-san-yō-bi-kō-ko. 眞言付法墓要鈔備考 ❷二卷 ❸存 ❹心城述 ❺康安二(A. D. 1362)

付法次第 ❶(B)Fu-hō-shi-dai. ❹聖海(寶龜五—永和二 A. D. 774—835) ❼(參考) 本朝古逸撰述密部書目

付法師付法 ❶(B) Fu-hō-shi-fu-hō. ❷一卷 ❼(參考) 東城傳燈目錄卷下

付法實錄 ❶(B) Fu-hō-jitsu-roku. ❷一卷 ❸存 ❹浄聖(元祿六—安永四 A. D. 1693—1775)撰

❺浄聖が浄妙・蓮光・海浄・實誠等より相承せし野澤三十六流印信の口決を記す。

❼(參考) 眞言宗全書刊行豫定書目

付法相承血脈分 ❶(日) Fu-hō-sō-jō-kechi-myaku-shō. 付法相承血脈抄・付法相承血脈鈔 ❷二卷 ❸存 ❹天寶(唐玄宗—代宗)A. D. 1304—1379)撰 ❺〔參考〕 諸宗章疏目錄(冷大・卷大・天元ヤ)1卷 天平寫(冷大・一三三二)

付法相承血脈分抄書 ❶(日) Fu-hō-sō-jō-kechi-myaku-shō-nuki-gaki. ❷一帖 ❸存 ❹天寶(唐玄宗—代宗)A. D. 1305—1362)記 ❺藤川會化寫 ❻〔參考〕

付法藏因緣經 ❶(日)Fu-hō-zō-inn-en-gyō. (支)Fu-fa-ts'ang-yin-yüan-chi-ng. 付法藏因緣經・付法藏・付法藏經・付法藏傳 ❷六卷 ❸存・大正五〇・二二九ヤ No. 2058・續藏九・卍二六・六・ヤ・ヤ992乗・市1010乗・史1004乗・明寺1333乗・市1333乗・國997乗・天997乗・相954乗・出981乗・系1442乗・明市1102乗・Nj. 1340 ❹北涼・曇無讖譯 ❺天平寫(唐玄宗—代宗)A. D. 472) ❻付法藏因緣傳の下を見よ。 ❼明治四年 ❽〔冷大・卷・一・二二〕〔市・お・ん・中・一〕

付法藏因緣傳 ❶(日) Fu-hō-zō-inn-en-den. (支)Fu-fa-ts'ang-yin-yüan-ch'uan. 付法傳・付法藏傳・付法藏傳・付法藏因緣傳 ❷六卷 ❸存・大正五〇・二二九ヤ No. 2058・續藏九・卍二六・六・ヤ・ヤ992乗・市1010乗・史1004乗・明寺1333乗・市1333乗・國997乗・天997乗・相954乗・出981乗・系1442乗・明市1102乗・Nj. 1340 ❹北涼・曇無讖 ❺天平寫(唐玄宗—代宗)A. D. 472) ❻付法藏因緣傳の下を見よ。 ❼明治四年 ❽〔冷大・卷・一・二二〕〔市・お・ん・中・一〕

付法藏因緣經 ❶(日)Fu-hō-zō-inn-en-gyō. (支)Fu-fa-ts'ang-yin-yüan-chi-ng. 付法藏因緣經・付法藏・付法藏經・付法藏傳 ❷六卷 ❸存・大正五〇・二二九ヤ No. 2058・續藏九・卍二六・六・ヤ・ヤ992乗・市1010乗・史1004乗・明寺1333乗・市1333乗・國997乗・天997乗・相954乗・出981乗・系1442乗・明市1102乗・Nj. 1340 ❹北涼・曇無讖 ❺天平寫(唐玄宗—代宗)A. D. 472) ❻付法藏因緣傳の下を見よ。

付法藏傳 ❶(日) Fu-hō-zō-den. (支) Fu-fa-ts'ang-ch'uan. 付法傳・付法藏傳・付法藏傳・付法藏因緣傳 ❷六卷 ❸存・大正五〇・二二九ヤ No. 2058・續藏九・卍二六・六・ヤ・ヤ992乗・市1010乗・史1004乗・明寺1333乗・市1333乗・國997乗・天997乗・相954乗・出981乗・系1442乗・明市1102乗・Nj. 1340 ❹北涼・曇無讖 ❺天平寫(唐玄宗—代宗)A. D. 472) ❻付法藏因緣傳の下を見よ。

付法藏傳 ❶(日)Fu-hō-zō-kyō. (支) Fu-fa-ts'ang-ching. 寶藏經 ❷六卷 ❸缺 ❹宋 ❺〔參考〕 國定遺錄1卷1冊・續定遺錄1冊

付法藏經 ❶(日)Fu-hō-zō-kyō. (支) Fu-fa-ts'ang-ching. 付法藏因緣經・付法傳・付法藏傳・付法藏因緣傳 ❷六卷 ❸存・大正五〇・二二九ヤ No. 2058・續藏九・卍二六・六・ヤ・ヤ992乗・市1010乗・史1004乗・明寺1333乗・市1333乗・國997乗・天997乗・相954乗・出981乗・系1442乗・明市1102乗・Nj. 1340 ❹北涼・曇無讖 ❺天平寫(唐玄宗—代宗)A. D. 472) ❻付法藏因緣傳の下を見よ。

付法藏傳 ❶(日) Fu-hō-zō-den. (支)Fu-fa-ts'ang-ch'uan. 付法傳・付法藏傳・付法藏傳・付法藏因緣傳 ❷六卷 ❸存・大正五〇・二二九ヤ No. 2058・續藏九・卍二六・六・ヤ・ヤ992乗・市1010乗・史1004乗・明寺1333乗・市1333乗・國997乗・天997乗・相954乗・出981乗・系1442乗・明市1102乗・Nj. 1340 ❹北涼・曇無讖 ❺天平寫(唐玄宗—代宗)A. D. 472) ❻付法藏因緣傳の下を見よ。

付法藏傳 ❶(日) Fu-hō-zō-den. (支) Fu-fa-ts'ang-ch'uan. ❷四卷 ❸缺 ❹宋 ❺〔參考〕 國定遺錄1卷1冊・續定遺錄1冊

付法藏傳 ❶(日)Fu-hō-zō-den. (支) Fu-fa-ts'ang-ch'uan. ❷二卷 ❸存・日本天平寫(唐玄宗—代宗)A. D. 462—)寫 ❹〔參考〕 國定遺錄1卷・續定遺錄1冊

付法藏傳 ❶(日)Fu-hō-zō-dai-ji. ❷1帖 ❸存 ❹唐・會昌時代寫 ❺〔參考〕諸家聖教記)

付法藏傳 ❶(日)Fu-hō-den. 傳法付法傳・傳法付法傳・傳法付法傳 ❷二卷 ❸存・日本天平寫(唐玄宗—代宗)A. D. 462—)寫 ❹〔參考〕 國定遺錄1卷・大日本續藏經全卷第一〇六・弘法大師全集第一・和刻本第一〇六・弘法大師全集第一・和刻本第一 ❺寫本(冷大・卷・一・二二)〔參考〕諸家聖教記)

付法藏傳記事 ❶(日)Fu-hō-den-kiki-gaki. 傳付法傳記事 ❷二卷 ❸存

付法藏傳口傳分 ❶(日) Fu-hō-den-

ku-hitsu-shō. ❷三卷 ❸存 ❹鎌倉(寶永天—天保)二A. D. 1704—1789)寫 ❺〔參考〕 諸宗章疏目錄・諸宗章疏目錄

付法藏傳記事 ❶(日) Fu-hō-den-kem-mon-shū. 傳法傳記事・付法傳以前傳 ❷六卷 ❸存 ❹(支寫)

付法藏傳講要 ❶(日) Fu-hō-den-kō-yō. ❷一卷 ❸存

付法藏傳讚 ❶(日)Fu-hō-den-san-ge. 傳法傳讚・付法傳讚 ❷二卷 ❸存 ❹慶安(慶長)—元—安政天A. D. 1614—1693)撰 ❺寬永二—三(A. D. 1659—1660) ❻傳法傳讚・付法傳讚・傳法の下を見よ。

❼〔參考〕 諸宗章疏目錄 ❽寶永三年 ❾〔冷大・卷・一四三二・二二ヤ・六〕〔市・ど・ヤ・ヤ・三〕(支寫)

付法藏傳讚講錄 ❶(日)Fu-hō-den-san-ge-kō-en. ❷二卷 ❸存 ❹浄土(天—)—一寶暦元 A. D. 1698—1755)撰 ❺〔參考〕 諸宗章疏目錄・諸宗章疏目錄

付法藏傳讚序註 ❶(日)Fu-hō-den-san-ge-jo-chū. 傳法傳讚序註 ❷一卷 ❸存 ❹浄土(一—享保五A. D. 1720)撰 ❺(支寫)

付法藏傳讚分 ❶(日) Fu-hō-den-san-ge-shō. 傳法傳讚・付法傳讚・傳法分 ❷六卷 ❸存 ❹浄土(一—享保五A. D. 1720) ❺〔參考〕諸宗章疏目錄・諸宗章疏目錄

付法藏傳分 ❶(日)Fu-hō-den-shō. ❷三卷 ❸存 ❹明治(貞享天—一)—一寶永二三A. D. 1345—1416)撰 ❺〔參考〕 諸宗章疏目錄・諸宗章疏目錄

付法藏分 ❶(日)Fu-hō-den-shō. 傳法傳記・傳法傳分 ❷六卷 ❸存 ❹宋 ❺(支寫)

付法藏經因緣經 ❶(日)Fu-hō-den-setsu-inn-en-gyō. 付法藏經因緣經 ❷一卷 ❸存・今現安今西之內 ❹明末(冷大・卷大・二二〇二二〇)

付法藏經切要因緣經 ❶(日) Fu-hō-den-setsu-ku-doku-inn-en-gyō. 付法藏經因緣經 ❷一卷 ❸存・今現安今西之內 ❹隋末天寶 ❺(冷大・內卷大・二二〇二二〇)

付法藏問答 ❶(日)Fu-hō-dem-mon-dō. ❷一卷 ❸存 ❹浄土(貞享天—永和)二A. D. 774—835)

❺諸宗章疏錄第三に云く「第。問天竺付法藏。又有幾。答。問分付法大師。」就法付法藏始因緣經分。各示給問行法藏。之義。」云々。

扶桑皇國風業 ❶(日)Fu-kyū-gom-pū-shū. ❷三卷 ❸存 ❹風俗文を載せたるもの。 ❺永曆二年 ❻〔冷大・卷大・三四九一〕〔續大〕二六九九・二二四〕〔市・ま・ヤ・中・三四〕

扶桑記 ❶(日) Fu-shū-ki. (支) Fu-tsung-chi. 扶桑記・扶桑記 ❷二卷 ❸存・四明仁治寫(鎌倉時代)「卍續二・六・一」之內 ❹宋知禮(鎌倉天—天保)天A. D. 960—1028)撰 ❺四明仁治寫(鎌倉時代)の下を見よ。 ❻〔參考〕 諸宗章疏錄第三二

扶桑國正論 ❶(日)Fu-shū-ken-shō-ron. (支)Fu-tsung-hsien-chêng-lun. ❷宋代千年寫

❸扶桑國正論は宋代の僧契嵩の著作にして、日本の國風に於て王朝時代の宗教の盛衰を論じ、儒・佛・道の三教の本源を明らかにし、殊りに佛教の分類を明にして、自宗の法を開顯し、他宗の邪義を破し、宗教界の分裂して自宗を誇るを戒め、以て國體を眞ならしむることを說く。

本書の著は西天二十三祖（摩訶迦葉・阿難・末田地・商那和修・優波毬多・提多迦・彌遮迦・婆須蜜・佛陀難提・伏馱蜜多・脇尊者・富那夜奢・馬鳴・迦毘摩羅・龍樹・迦那提婆・羅睺羅・僧伽難提・伽耶舎多・鳩摩羅駄・闍夜多・婆修盤頭・摩拏羅・鶴勒那・師子・婆舎斯多・不如密多・般若多羅・菩提達磨・慧可・僧璨・道信・弘忍・慧能・南岳懷讓・馬祖道一・百丈懷海・黃檗希運・臨濟義玄・興化存獎・南院慧顒・風穴延沼・首山省念・汾陽善昭・慈明楚圓・楊岐方會・白雲守端・五祖法演・圜悟克勤・虎丘紹隆・大慧宗杲・徑山宗杲・大慧宗杲・徑山宗杲・大慧宗杲・徑山宗杲

宗祖の學德を嗣じて正義を開顯してゐるのである。次に第二別貴・急・背大師・之淌ゝ章に於いては、隔名を非とするものでもなく、舊導の釋に背くものでもないが、唯縮ずる所は選擇の義が善導の釋義に違背してゐるからである。即ち善導は菩提心正因の義を主張してゐるにもかゝはらず、選擇には菩提心を擯去して居り、加之聖道門を以つて群賊に譬へてゐると云ふ理由を以つて、高僧が選擇の過失を難詰したのに對して著者は宗祖が偏依善導を主張し、善導の釋義に依つて立教開宗して居られる限り宗祖と善導の教義は一徹であらねばならぬから、宗祖を破することは却つて善導を破することになる。而も善導の疏は聖僧の指授即ち彌陀如來の指授によりて著されたものであるが故に、善導を破することは引いて彌陀如來を破することになる、それ故難者自ら大なる過失を招いてゐることを述べて高僧の謬見を破してゐるのである。

⑨刊本（貞、乙・一・右・三六）（谷大、宗大・七六四、二四四〇）（恵谷陸戒）

扶桑一葉 ❶(日)Fu-sō-ichi-yō. ❷一 ❸古劍妙快（―應安頃A. D. 1368―1374―）❼(参考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

扶桑隱逸傳 ❶(日)Fu-sō-in-itsu-den. ❷三卷 ❸存 ❹元政（元和九―寛文八A. D. 1623―1668）❻文武帝の時代より足利時代迄即ち僧の小角、猿丸大夫等より、宗祇牡丹花等に至る凡そ七十五人の隱者の傳を國をさしはさみ漢文體にてしるす。

⑨寛文四刊（谷大、餘大・一三一五）（高大、寄・一・二一）（正大、一〇三五・四九）文政一刊（正大、一〇三五・五〇）（谷大、餘大・三一七二）

扶桑隱逸傳 ❶(日)Fu-sō-in-itsu-den. ❷一帶 ❸存 ❹音馬實藏譯 ❺昭和五刊 ❻京都村上平樂寺書房

扶桑往生全傳 ❶(日)Fu-sō-ō-jō-zen-den. 親鸞顯驗往生傳 ❷三卷 ❹珂然 寛文九―延享二A. D. 1669―1745）作 ❻正德元（A. D. 1711） ❼(参考) 淨土眞宗教典志第三

扶桑往生傳 ❶(日)Fu-sō-ō-jō-den. ❷二卷 ❸存 ❹勇大綱集 ❺天和二（A. D. 1682）六月 ❼(参考) 淨土眞宗教典志第三 ❺天和三刊 ❾(龍大、二九六五・二五四)（正大、一〇三六・六七）（高大、寄・一・二一）

扶桑伽藍紀要 ❶(日)Fu-sō-gā-ran-ki-yō. 扶桑二十一本寺略傳 ❷一卷 ❸存 ❹大德禪寺編 ❻南都東大寺、興福寺、唐招提寺、西大寺、江州延暦寺、京都護國寺、江州圓城寺、京師南禪寺、泉涌寺、知恩院、光明寺、本願寺、佛光寺、伊勢專修寺、越前永平寺、甲州久遠寺、相模淨光寺、京都大德寺、妙心寺、東本願寺、萬福寺等二十一本寺の梗概を記したものである。

扶桑伽藍紀要 ❶(日)Fu-sō-gā-ran-ki-yō. 標註扶桑伽藍紀要 ❷一卷 ❸存、日本佛法史附錄 ❹田島象二註 ❺明治一七刊 ❾(谷大、餘大・二二七（龍大、二史）（正大、一〇三二・五七）（駒大）

扶桑寄歸往生傳 ❶(日)Fu-sō-ki-ō-jō-den. ❷二卷 ❸存、大日本佛教全書第一〇七、續淨土宗全書第六 ❹馬淵性瑩（寛永五―寶永三A. D. 1628―1706） ❺延寶元（A. D. 1673）十二月 ❻著者諦は性瑩、字は鶴溪で、支那福建の人、十六歲出家して禪要を究め、承應三年（A. D. 1654）歷元に從つて我が國に來り、上下の崇仰を受け、遠江に寶林寺、上野に國瑞寺を創し、後ち歷元の讖を受けて山城字治黃檗山を領す。著はすところ本書の外語錄三十卷、當麻曼荼羅緣起記、隨請淨土詠讚、授手堂淨土詩、作願念佛圓說各一卷がある。本書は推古朝（A. D. 1592―1628）から寛文年中（A. D. 1621―2332）までの間に於ける西方淨土往生人二百餘人の傳を諸書を涉獵して錄し、これを沙門往生類（卷上）、皇帝往生類、皇后、皇子、臣僚、尼僧、士庶、婦女（卷下）の八部に分ち、支那に寄せ、以て彼の國の往生傳の闕を補はんとしたもの、本傳を揭ぐるの後、一々贊を以てその德を述ぶるごときは元亨釋書の體に倣つたものである。著作年代は自序に延寶元年十二月遠州初山方丈にてとあるから、彼が來朝以來二十年の星霜を閱し、遠州寶林寺に化を布いてゐた時代である。傳するところは泰澄、善仲、善算、相應、圓仁、成宣、良忍、以圓、教眞、源信、戒淨、圓珍、寂禪、證如、隆海、智光、禮光、良源、千觀、雄範、道寂、圓能、慶源、叶賀、禪喜、經源、覺運、明祐、叡山、延昌、性空、實因、大海、仙命、信敎、空也、聖聽、俊芿、永觀、理滿、西行、大庭、正直、西保、聞佛都、寛印、義謂、平珍、智祐、入圓、廣道、慶烏僧、成尊、尊祐、慶俊、俊算、琴師、春素、明詣、眞觀、能圓、高明、智命、祖舜、仁賀、理光、鎮久、良禪、延慶、慈忍、覺運、安修、助慶、覺尊、賢敎、覺超、重怡、延朗、行仙、陽生、無忍、聞敎、貞信、林濟、旭聲、仰願、永福、永聲、覺譽、綱廊人（以上沙門往生類）、鹿神、清和、一條、後三條、後白河（以上皇帝往生類）、後冷泉皇后、建禮門院（以上皇后往生類）、聖德、性信、眞譽（以上皇子往生類）、和氣眞綱、藤原良相、藤原義孝、高良茂、源顯基、平維茂、射水親源、源親元、橘守輔、源使房、三善高康、藤原敦光、平實親、慶滋保胤、藤原頼宗、大江嘉基、大江定基、大江匡周、源章任、右佐眞愛、定眞、小槻愛任、源義時、平重盛、親鸞聖、大江匡房（以上臣僚往生類）、中將新尼、藤原敦光女、相舜母、妙法、頼俊少女、妙綠、安美、伊勢、光孝天皇孫、寛忠姉、上平、大安、清雲、敎譽、大賢（以上尼僧往生類）、熊谷直實、大蔵三郎、清原信俊、播州某、泰延、琴寂、秦蓮、武元、顯西、源傳、敎末、玄海、源顯、藥蓮、由比漁夫、遠益、一樂、久四郎重子、子齋、槐庭、宗源、法眞、善古、善十郎、靈釋、白河上人、椙山、陳昇眞、西壽（以上士庶往生類）、敎遠妻、藤原實季女、餘倉女、敎家母、忠遠妻、產婦妻、野氏某、源祖政、息長、敎高老婦、物賈某、澤山某、水野備後守母、伊勢龜山某、青木某、大阪某、照雲、妙香、益田市郎右衛門乳母、性敬、芳譽、張氏、文氏、重少雙、周敬等でこの中には二三の支那人が附傳されてゐる。傳歷極めて簡であり、紀年を缺くもの多きに居るから史料としては不備の點あるも往生傳としては從來のものに比して多くを敷ふるを特徴としてゐる。

⑦(参考) 淨土眞宗教典志第三、蓮門類聚經籍錄 ⑨寛永三刊（龍大、二九六五・二五五、研史）寛永四刊（正大、一〇三六・六六、七九）（谷大、宗大・一七三一）（高潮永髮）

扶桑怪談辨述鈔 ❶(日)Fu-sō-kai-dan-ben-jutsu-shō. ❷七卷 ❸存 ❹春覺（―享保頃? A. D. 1716―1735―）❺寛保二刊 ❾(龍大、二六八九・一六)

扶桑故事要略 ❶(日)Fu-sō-kō-ji-yō-ryaku. ❷七卷 ❸存 ❹盤察（―享保一五A. D. 1730）❺正德五刊 ❾(谷大、餘大・二一五六)（龍大、二〇九九・二一七）（帝國、一四五・一七）

扶桑五山記 ❶(日)Fu-sō-go-san-ki. ❷一卷 ❸存 ❼(参考) 禪籍目錄、大日本佛教全書續刊豫定書目

扶桑語錄 ❶(日) Fu-sō-go-roku. ❼(参考) 禪籍目錄

扶桑護佛神論 ❶(日)Fu-sō-go-bus-shin-ron. ❷一卷 ❸存 ❹道海潮音（寛永五―元祿八A. D. 1632―1695） ❼(参考) 禪籍目錄

扶桑再吟 ❶(日) Fu-sō-sai-gin. 扶桑之說吟、扶桑大哦禪祖說吟 ❷四卷 ❸存 ❹大唱 ❺永應三刊 ❾(谷大、餘大・一二六一)（京大、一・二五ヲ・二一）

扶桑宗格 ❶(日) Fu-sō-shū-kaku. ❷三卷 ❸存 ❹乘譽（―元祿一四A. D. 1701） ❺寛文三(A. D. 1663) ❻宗門の雜事を記したものであるが、主として日蓮宗の宗義宗法等につき記したもの。 ❾(帝國、一四六・一五八)

扶桑十宗志 ❶(日) Fu-sō-jū-shū-shi. ❷一卷 ❸存 ❹風浪 ❺寶暦一三刊 ❾(龍大、二五四・四八)

扶桑鐘銘集 ❶(日)Fu-sō-shō-kei-shū. ❷三卷 ❸存 ❹岡崎信好 ❺安永七刊 ❾(龍大、二九九三・二)(駒大)

扶桑淨土列祖傳 ❶(日) Fu-sō-jō-do-rei-so-den. ❷五卷 ❸存 ❹松譽（―寶永元A. D. 1701―） ❺寛永二刊 ❾(谷大、宗大・一七二四)

扶桑禪林書目 ❶(日) Fu-sō-zen-rin-sho-moku. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一佛教書籍目錄第一 ❻本書は主として五山時代の禪僧の撰述に係る禪林書目で、臨濟系が其の主要部分を占め、日本曹洞宗祖永平道元禪師の語錄述作を始め、永平下五世の實峯良秀、同六世の普濟善救等の曹洞系の語要も收められて居る。

總書目百五十五種。その中、語錄八十一種、文集五十一種、撰述と題する榮西禪師の興禪護國論、永平道元禪師の學道用心集、虎關の元亨釋書。夢窓國師、孤峰和尚等の假名法語。無住法師の砂石、雜談、聖財集等の隨筆など種々のもの二十二種を含んだものである。 (久保堅璃)

扶桑禪林僧寶傳 ❶(日)Fu-sō-zen-rin-sō-hō-den. ❷十卷 ❸存、大日本佛教全書第一〇九 ❹高泉性潡（寛永一〇―元祿八A. D. 1633―1695）

❻本書は慧門如沛禪師の法嗣として黃檗山萬福寺第五世となつた高泉性潡禪師が、虎關師錬禪師の撰に係る元亨釋書を開讀して、日本に賢聖の高僧があつて法化を敷揚し人天を啓迪したことを知り深く嘆賞し、釋書を鏤梓するの意圖を抱き、釋書や他の諸種の零篇斷簡まで搜出して先德の行業、殘言等を採錄し、扶桑僧寶傳二十卷を撰述したが釋書以外に於て特に詳傳の著い禪門の法脈のみを摘錄すべしとの或者の忠言を納れ、扶桑禪林僧寶傳十卷を撰述した旨延寶三年夏に自序し、同三年六月(A. D. 1675)上表文を撰して進表したもので、四十三歲の時の撰述である。貞享五年六月五十六歲の時跋文を撰し、黃檗山住世の翌年である元祿六年十一月(A. D. 1693)六十一歲の時に京都田原仁左衛門をして刊行流通せしめたものである。全十卷。其の篇次は、卷首に表並に序を收めて居る。

〔卷一〕〔一〕明菴榮西。〔二〕台山覺阿。〔三〕永平道元。〔四〕禪圓榮朝。〔五〕性才法心。〔六〕法燈國師心地覺心。

〔卷二〕〔七〕聖一國師圓爾辨圓。〔八〕約翁德儉。〔九〕月峰了然。〔一〇〕桑田道海。〔一一〕若訥宏辯。〔一二〕大應國師南浦紹明。〔一三〕南院國師規庵祖圓。〔一四〕東福國師高峯顯日。〔一五〕一翁院豪。〔一六〕太古俊源。〔一七〕東岩慧安。〔一八〕南洲宏海。〔一九〕孤雲惠瑛。〔二〇〕寒巖義尹。〔二一〕微通義伊。

〔卷三〕〔二二〕神子榮尊。〔二三〕東山湛照。〔二四〕大明國師無關普門。〔二五〕白雲惠曉。〔二六〕佛智慧雲。〔二七〕瑞方紹珍海。〔二八〕無窓昭元。〔二九〕月船珍海。〔三〇〕瑞瓦大慧。〔三一〕直翁智侃。〔三二〕南山士雲。〔三三〕雙峯宗源。〔三四〕浴淡虛謙。〔三五〕平心處齊。

〔卷四〕〔三六〕大燈國師宗峰妙超。〔三七〕夢窓疎石。〔三八〕滅宗宗興。〔三九〕卽菴宗心。〔四〇〕瑩山紹瑾。〔四一〕椿谷恠仙。〔四二〕無象靜照。〔四三〕雪村友梅。〔四四〕虎關師錬。〔四五〕可菴圓慧。〔四六〕瑞岩龍惺。

〔卷五〕〔四七〕大拙一以。〔四八〕岡山一翠。〔四九〕無德至孝。〔五〇〕太陽義冲。〔五一〕深山正虎。〔五二〕虛堂智愚國師乾峰士昙。〔五三〕友雲士恩。〔五四〕古源邵元。〔五五〕大方源用。〔五六〕萩山紹碩。

〔卷六〕〔五七〕孫巖龍明。〔五八〕高山慈照。〔五九〕悲翁運良。〔六〇〕東海竺源。〔六一〕無雲義天。〔六二〕月林道皎。〔六三〕別源圓旨。〔六四〕月蓬圓見。〔六五〕龍山德見。〔六六〕大年法延。〔六七〕中岩圓月。

〔卷七〕〔六八〕無絲志玄。〔六九〕春屋妙葩。〔七〇〕清溪通徹。〔七一〕義堂周信。〔七二〕默庵周瑜。〔七三〕絕海中津。〔七四〕不遷法序。〔七五〕龍湫周澤。〔七六〕無求周伸。〔七七〕翠中中諦。〔七八〕性海靈見。〔七九〕無求周仲。〔八〇〕平田慈均。〔八一〕九峰智泰。〔八二〕南海寶洲。〔八三〕哲岩祖淺。〔八四〕雲章一慶。〔八五〕關洲良芳。〔八六〕淺鷗祖璋。〔八七〕古先印元。〔八八〕

扶桑略記　扶桑之設吟　扶桑略記抜萃鈔要　扶桑略記抜萃鈔　扶桑藻　字惟録　耐秘抄　耐秘抄抜書　耐法相承記　耐録　扶桑大師講録行状　扶桑大師講録　扶桑大師講録語要　扶桑国正録　佛教字義略　佛教字書　佛教字書鈔　佛教字書鈔　佛教字書鈔

婦道講話 ❶(日)Fu-dō-kō-wa. ❷一巻 ❸存 ❹大須賀秀道 ❺明治四三刊 ❻(谷大、宗律・二五五)

婦人遇辜經 ❶(日)Fu-nin-gū-kō-kyō. (支)Fu-jen-yü-ku-ching. 婦遇對經 ❷一巻 ❸存、大正一四・九四四No. 571、館宿七、卍一五・一、北3457寒、南560寒、元554寒、明北717孝、清717孝、麗344無、天347寒、指565無、法324芸、至1021上、明南736孝、Nj. 721 ❹乞伏秦堅堅(一太初元A. D. 358—)譯 ❺佛、祇樹園に於て、親戚一時に亡滅するの悲劇に遇ひ遂に發狂せし一婦人に對し、衣を與へ教を說き聽かせ、得道せしめたるを說くもの。即ち一婦人とは他國より舍衛國に採し來りたる者にして、既に七歳の長子と、次子とあり、第三子を懷姙したるを以て、天竺の風習に從ひ、牛車を驅つて夫並びに子等と共に故國に歸つて出產せん爲出發した。然るに途中に於て牧牛は毒蛇の爲に害せられ、之を助けんとして夫も亦殺されてしまつた。嗟笑しつゝ二人の子を伴ひ、夜に入つて附近の川を渡らんとし、長子を岸に殘して先づ次子を抱いて中流に至るや、岸の長子は狼に襲はる。之を見て驚き、次子を奔流中に落し、剩へ水中に顚墮して幼兒を產み落してしまつた。不幸はそれのみに止らず、岸に上つて行人に聞くと、故家の父母は昨夜家と共に燒死したりとの事、更に他の行人よりは、夫の家の姑等が劇賊の爲に殺されたるを聞かねばならなかつた。重なる不幸に悲愛悔慟し、心迷ひ意惑ひ、脫衣して裸形となり迷惑狂走して祇樹給孤獨精舍に至つた。說法中の世尊を見奉りて、婦人は心定を得、阿難の與ふる衣を縛ひて一面に坐す。佛は爲に「人命無常、合會有別、生者有死」と說き給ひ、婦人は之を聞きて心開意解して無上正眞道意を發し、會する所の四衆の弟子並びに諸天龍神も大いに歡喜し、禮首退坐するを以て一經を終つてゐる。短く、而もよくまとまつて、一切本衆を說く所の經典である。❼(參考) 三寶紀第九、內典錄第三、譯經圖紀第三、開元錄第四、貞元錄第六

(三好應燈)

符護等 ❶(日)Fu-go-tō. ❷一册 ❸存 ❹亮僧正、恭長記 ❺文政八寫 ❻(金剛三昧院)

符守書目菩惡之事 ❶(日)Fu-shu-sho-moku-zen-aku-no-koto. ❷一帖 ❸存 ❹德川時代寫 ❻(寶龜院)

符夢堂集 ❶(日) Fu-mu-dō-shū. (支) Fu-meng-Tang-chi. ❷一卷 ❸存 ❹清明末撰 ❻寫本(京大、藏・二四ク・一四)

菩薩印肅禪師語錄 ❶(日) Fu-sa-in-shuku-zen-ji-go-roku. (支) Pu-sa-yin-su-Ch'an-shih-yü-lu. 菩薩至善弘仁圓通智慧淑慈妙應慈濟眞覺昭說慧廉護國宣教大德菩薩實錄 ❷三卷 ❸存、卍續二・二五・三—四 ❹宋印肅菩薩(政和五—乾道五A. D. 1115—1169)語 ❺本書は別名を菩薩至善弘仁圓通智慧淑慈妙應慈濟眞覺昭說慧廉護國宣教大德菩薩實錄と云ふ。是れは明成祖帝より永樂十八年十二月右の著薩名を加封せられたるに依るものである。黃龍の牧菴法忠禪師に嗣ぎ南岳下十六世の法燈を袁州(江西)慈化寺に揭げて四衆を接化した菩薩印肅禪師の語要を編錄したものである。

卷首に、永樂二十一年四月(A. D. 1423)明の成祖帝の御製序、永樂十八年十二月の御製加封菩薩禪師制を收めて居るが、續藏本には實永八年正月(A. D. 1711)京都妙心寺龍華院無着道忠和尙が擬文獻通考第二四七卷より採錄した別文の右二種の序をも卷首に加へて居る。次に菩薩の傳法宗譜圖。年譜。悟道因緣。並びに南宋孝宗淳熙六年正月(A. D. 1179)弟子の應世が臨江の謝良書に請ふて撰せしめた塔銘を收め、御製菩薩云々序をも附して居る。

菩薩は、江西袁州府宜春の余氏に生れ、壽隆院賢和尙に從つて二十七歳に落髮し、袁州同元寺に受戒し、大潙山の牧菴法忠禪師に萬法歸一の話に參じて省あり、慈化寺に住して苦修練行し、華嚴合論を閱して豁然大悟し、感んに四衆を接化した。成祖帝の歸依を受け、南宋孝宗乾道五年七月二十一日(A. D. 1169)壽五十五、臘二十八を以て示寂したものである。本書には其の上堂示衆、小參、法語、偈頌、讚歌、拈古等が蒐錄されて上中下三卷に收められて居るが編纂に統一が無い。卷中には、頌四賓主、頌證道歌、頌石頭和尙草庵歌、頌十玄談等が收められ、卷下の諸頌賛の中には、紙被歌頌行衾、行住坐臥三十二頌、金剛經頌、無盡頌、菩薩家賓などがあり、終に御製の菩薩菩薩讚が收められて居る。(大久保堅瑞)

菩雨集 ❶(日) Fu-u-shū. ❷一卷 ❸存 ❹劍峰菩雨(虛龍)X—嘉靖三〇A. D. 1551—) ❷(參考)

菩慧三昧經 ❶(日)Fu-e-sam-mai-kyō. (支)Pu-hui-san-mei-ching. ❷一卷 ❸延德經。 ❷(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

菩圓國師語錄 ❶(日) Fu-en-koku-shi-go-roku. ❷一卷 ❸存 ❹潛溪慶諫(—元德二A. D. 1330)說 ❷(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

菩應國師幻住庵清規 ❶(日) Fu-ō-koku-shi-gen-jū-an-shin-gi. 幻住庵清規 ❷二卷 ❸存、卍續二・一六・五 ❹元中峰明本(—延祐四A. D. 1317—) ❺幻住庵清規附岡甘露門の下を見よ。 ❻寫永二〇刊 ❼(寫大、寄・一・二五)

菩覺圓光禪師傳 ❶(日) Fu-kaku-en-kō-zen-ji-den. 菩覺圓光白屋寶生禪師傳、萬松山泉龍禪師菩覺圓光禪師傳 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❺應永三三(A. D. 1426) 六月初九日 ❻詳しくは萬松山泉龍禪寺菩覺圓光禪師傳と云ふ。即ち白屋寶生和尙の傳である。幼時房州清澄虛空藏に詣で因緣を祈りて龐眉老の指示を受け、飯山の寂室和尙に入禪參請せるを記し、後風の竹を愛せる夢を聞きて省し、大潙和尙の室に入りて大法を嗣ぎたること、及び大潙の問話を敍べ、最後に

塔銘、贊、勅號を附してゐる。(後藤大用)

普覺國師語錄 ❶(日)Fu-kaku-koku-shi-go-roku. ❷二册 ❸劍峰見明(—成淳頃? A. D. 1365—1274—) ❹(參考) 禪籍目錄

普覺宗杲禪師語錄 ❶(日)Fu-kaku-sō-kō-zen-ji-go-roku. (支)Pu-chiao-tsung-Kao-Ch'an-shih-yü-lu. 大慧禪師語錄宗雜毒海 ❷二卷 ❸存、卍續二・二六・一 ❹法宏、道謙共編 ❺拾遺共編 ❻本書は大慧普覺禪師語錄と云ひ、大慧禪師語錄宗雜毒海とも題して居るが、本辭典の第七卷に收むる大慧普覺禪師語錄十二卷本とも異り、第六卷に收むる大慧の禪宗雜毒海とも異るもので、法宏、道謙の共編に係る大慧宗杲禪師の語要を弟子の鐘山印慶が南宋孝宗淳熙十五年九月自序し、南宋光宗紹熙元年四月結制日(A. D. 1190)說文を撰して錄版刊行したものである。

即ち卷上には、諸尊宿の機緣語句を擧げ大慧の提撕を錄し、卷下には李參政說を始めとして雙槐居士鄭績の大慧を追慕するの偈など收め、方外の道友の讚をした像讚、讚佛祖を收めたもので、大慧の語要と大慧に關する語句とを雜錄したものである。別に大慧に宗門武庫がある。大慧武庫と略稱されるもので、本書の卷上に收められた語要の大部分が大慧武庫に相當するものである。

大慧は青原下の天童宏智正覺禪師の默照禪に對立して南岳下の看話禪を鼓吹し、共に宋代佛教界に偉彩を放つた巨匠であつて、其の語要を廣錄したものは三十卷ある。館藏聽軒の八に收むるもの大正藏四十七に收むるものが是れであり、是の廣錄(語錄と題してある)の第十二卷までを收めたものが卍藏三十一套の四に收むるもの並に黃檗版として一切經印房にて後刷されて居る三冊の十二卷本である。十二卷本の內容は本辭典の第七卷大慧普覺禪師語錄の解說にあるが三十卷本は是れに續いて卷十三より十八までに普說を、卷十九より二十四に法語を、卷二十五より三十に書を收めて居る。書は別刊されて流通して居る大惠書である。大惠の宗門武庫、大慧書は共に禪門七部書の一つとして古來より叢林に尊重されて居る。(七部書の數(方には各種ある。)

(大久保堅瑞)

普覺禪師語錄 ❶(日)Fu-kaku-zen-ji-go-roku. (支)Pu-chiao-Ch'an-shih-yü-lu. 黃龍慧南禪師語錄、黃龍錄 ❷一卷 ❸存、大正四七・六二九No. 1993、卍續二・二五・二 ❹宋慧南(成平五—熙寧二A. D. 1002—1095)語、慧泉(—建炎頃A. D. 1127—1130—)集 ❺黃龍慧南禪師語錄の下を見よ。

普義經 ❶(日)Fu-gi-kyō. (支)Pu-i-ching. 普法義經、舍利弗普法義經、具法行經 ❷一卷 ❸存、大正一・九二二No. 98、館宿七、卍一四・一、北720菜、南734菜、元726菜、明北582條、清582條、麗731止、天719菜、指682止、法709止、至956仕、明南656條、Nj. 586 ❹安世高譯 ❺後漢元嘉二(A. D. 152) ❻普法義經の下を見よ。

普義經 ❶(日)Fu-gi-kyō. (支)Pu-i-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹(參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五

普慶寺並天王菽園 ❶(日)Fu-kei-ji-narabini-ten-o-yabu-no-zu. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(帝室、一〇五・七九)

普勸坐禪儀 ❶(日)Fu-kwan-za-zen-gi. 坐禪儀 ❷一卷 ❸存、大正八二・一Nj. 2536、館宿八、日本大藏經第四五曹洞宗章疏第一、永陽大師聖教全集第一、十部書の一つ ❹道元(正治二—建長五A. D. 1200—1253)撰 ❺寫錄三(A. D. 1237) ❻本書には二本がある。一は一般に流布し居るものであり、一本は永平寺所藏の御製筆本である。この御製筆本は道元禪師全集中に收められて公刊されて居るから對照に便であるが、二本の間には非常な相違がある。これ恐らくは御製筆本が最初のものであつて、流布本の文は訂正遊ばされたものであらう。

本書は日本曹洞宗の宗祖たる道元禪師が宋より歸朝せられて開教第一座の師子吼であつて、宗典中の最古であると同時に坐禪を宗とする宗綱の提唱であるから、日本曹洞宗の根本聖典と見るべきである。殊にこの一篇は僅かに七百五十六字ではあるが、其文體は支那六朝時代に行はれた四六駢儷體で、一定せる字句によつて對句や平仄が用ゐられ、文章的に非常な拘束を受けながら而も錦繡の如く、加ふるに語意悠然として流暢に妙韻を帶び、簡潔の中に遠大の禪理を說けるは漢文學上の雄のみならず、禪學上にも稀に見る絕篇である。されば坐禪儀的な典籍には、過去にも唐朝時代より多數あるけれども、本書に對比する時は雲壤の差がある。殊に注意すべきは獨り坐禪の形式と坐禪の意義とを從來傳統的に傳承し來りし以外、坐禪を證悟の手段とせずして目的其自體と爲し、悟後と雖も佛行なるが故に修せねばならぬと見る點に、一般禪者流と一ではないと云ふことである。

❼(注釋) 提耳錄一卷(西有穆山)。不能語一卷(指月慧印)。閑州一卷(瑞方面山)。講話一卷(愚滑谷快天)。 ❽明治一五寫(駒大)寫本(駒大)

(岡田宜法)

普勸坐禪儀 ❶(日)Fu-kwan-za-zen-gi. ❷一卷 ❸存、十部錄之內 ❹町元春堂註 ❺大正二刊 ❻京都貝葉書院

普勸坐禪儀謹解附坐禪箴 ❶(日)Fu-kwan-za-zen-gi-kin-ge-tanki-za-zen-shin. ❷一卷 ❸存 ❹大梯 ❺寫本(駒大)

普勸坐禪儀講義 ❶(日)Fu-kwan-za-zen-gi-kō-gi. ❷內一 ❸存、曹洞禪講義第八之內 ❹松田漢堂述 ❺大正六刊 ❻東京光藏館

普勸坐禪儀講義並坐禪用心記 ❶(日)Fu-kwan-za-zen-gi-kō-gi-narabini-za-zen-yō-jin-ki-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹山田孝道(文久三—昭和三A. D. 1863—1928)述 ❺大正一一刊 ❻東京

光融館

普勸坐禪儀講話 ❶(B)Fu-kwan-za-zen-gi-kō-wa. ❷1卷 ❸存、碧巖集講話之附錄 ❹大內青巒(弘化二—大正七A. D. 1845—1918)述 ❺明治三九刊、大正一一刊 ❻(駒大) ❼東京鴻盟社

普勸坐禪儀講話 ❶(B)Fu-kwan-za-zen-gi-kō-wa. ❷1卷 ❸存、從容錄講話之附錄 ❹久內大賢述 ❺大正七刊 ❻東京一喝社

普勸坐禪儀講話 ❶(B)Fu-kwan-za-zen-gi-kō-wa. ❷1卷 ❸存 ❹鄕潛谷快天(慶應三—昭和九A. D. 1867—1934)述 ❺大正一五刊 ❻東京慶田書店

普勸坐禪儀獅吼 ❶(B)Fu-kwan-za-zen-gi-shi-ku. ❷1卷 ❸存 ❹石田靈峰述 ❺明治三九刊 ❻(正大、一七五・三三) ❼東京永平寺出張所

普勸坐禪儀十回講話 ❶(B)Fu-kwan-za-zen-gi-jik-kwai-kō-wa. ❷1卷 ❸存 ❹橫尾賢宗述 ❺明治四二刊 ❻東京森江書店

普勸坐禪儀詮要 ❶(B)Fu-kwan-za-zen-gi-sen-yō. ❷1卷 ❸存 ❹大內青巒(弘化二—大正七A. D. 1845—1918)述 ❺明治三五刊 ❻(駒大)(帝國、八一・六六一) ❼東京鴻盟社

普勸坐禪儀提耳錄 ❶(B)Fu-kwan-za-zen-gi-tei-ni-roku. ❷1卷 ❸存 ❹西有理英(穆山)(—明治四三 A. D. 1910)述 ❺明治四四刊 ❻東京鴻盟社

普勸坐禪儀並坐禪用心記 ❶(B) Fu-kwan-za-zen-gi-narabini-za-zen-yō-jin-ki. 增冠傍註普勸坐禪儀並坐禪用心記 ❷1卷 ❸存 ❹吉田義山編 ❺明治一九刊(龍大、研佛)(正大、一七五・三二)明治二〇刊(京大、一・二五フ・六) ❻東京鴻盟社

普勸坐禪儀並坐禪用心記 ❶(B) Fu-kwan-za-zen-gi-narabini-za-zen-yō-jin-ki. 疑註普勸坐禪儀並坐禪用心記 ❷2卷 ❸存 ❹陳越嚴註 ❺明治一九刊 ❻(駒大)(帝國、一一・四八) ❼東京鴻盟社

普勸坐禪儀並坐禪用心記 ❶(B) Fu-kwan-za-zen-gi-narabini-za-zen-yō-jin-ki. 首書傍訓普勸坐禪儀並坐禪用心記 ❷1卷 ❸存 ❹鵜飼常樹校 ❺明治二二刊 ❻(帝國、一一・一五五)

普勸坐禪儀不能語 ❶(B) Fu-kwan-za-zen-gi-fu-nō-go. 再刻普勸坐禪儀不能語 ❷1卷 ❸存 ❹指月慧印(元祿二—明和元A. D. 1688—1764) ❺寶永五刊 ❻(駒大)

普勸坐禪儀不能語 ❶(B) Fu-kwan-za-zen-gi-fu-nō-go. 傍註普勸坐禪儀不能語 ❷1卷 ❸存 ❹古田梵仙註 ❺明治一五刊 ❻(駒大)

普勸坐禪儀不能語附坐禪箴不能語 ❶(B)Fu-kwan-za-zen-gi-fu-nō-go-tsuketari-za-zen-shin-fu-nō-go. 首書傍解普勸坐禪儀不能語附坐禪箴不能語 ❷1卷 ❸存 ❹翼龍童註 ❺明治一二刊 ❻(立大、A五〇・四〇)(帝國、一四一・一七六)(駒大)(高大、寄・一・二五) ❼東京森江書店

普勸坐禪儀併儒圖 ❶(B) Fu-kwan-za-zen-gi-hei-ju-zu. ❷1卷 ❸存 ❹山田孝道(文久三—昭和三 A. D. 1863—1928)述 ❺大正三刊 ❻東京光融館

普勸坐禪儀聞解 ❶(B)Fu-kwan-za-zen-gi-mon-ge. ❷1卷 ❸存、國文東方佛教叢書第一輯第二註釋部、禪學大系眼錄部第三 ❹瑞方面山(天和三—明和六A. D. 1683—1769)述、慧苗編 ❺寶曆七(A. D. 1757)

❻本書は道元禪師の普勸坐禪儀を其の法孫である瑞方面山師が注釋したもので、普勸坐禪儀に關する古き注釋書としては極めて平易懇切を盡せるものであつて、近代及び現代の注解書甚だ多きも、其等は皆な本書を參酌せぬものはないと云ふてよい。

❼寶曆七刊 ❽(龍大、研佛)(立大、A五〇・三九)(智、ふ・三・右・七)

普勸僧俗發菩提心文 ❶(B) Fu-kwan-sō-zoku-hotsu-bo-dai-shin-mon. (文) Fu-chian-seng-su-fa-pu-ti-hsin-wen. 勸發菩提心文 ❷1卷 ❸存、卍續二・八・四 ❹唐奬休(—成通元A. D. 860)述

❺本書は唐の儒門奬休が、同成三年六月二十日、僧俗に發菩提心を勸むるの文にして、その最初に「菩告ゟ大衆ゟ若僧若俗、有ゟ能同發阿耨多羅三藐三菩提心者、我願生生常爲ゟ道俗ゟ同ゟ宗同ゟ廻同ゟ願同ゟ求同運ゟ大悲同修ゟ大智ゟ遞相輔助直至ゟ菩提ゟ」「菩告ゟ大衆ゟ若僧若俗、有ゟ能同發ゟ阿耨多羅三藐三菩提心者、我願生生常同ゟ淨業ゟ各個ゟ修屢ゟ分ゟ化衆生ゟ」「龍華會中同受ゟ佛記ゟ」「廣修ゟ大願ゟ」「直至ゟ菩提ゟ」とあるにその趣旨を存す。續いて初明菩提名義、次明菩提心體等十七項に渉て懇々その眞情を吐露してゐる。續藏所收のものは、南宋淳熙二十二年に淨照梓行のものを、建保三年四月十八日、縣尾明惠高辨が大宋國より得たるものに句點したるものにして、高辨が此本を手にし「今値ゟ此文、如ゟ續命得ゟ摩尼」と感激隨喜してゐるも宜なるかなとうなづける。

普勸念佛文 ❶(B) Fu-kwan-nen-butsu-mon. ❷1卷 ❸存 ❹刊本(正大、一五五五・六四)

普勸佛華勝會錄 ❶(B)Fu-kwan-butsu-ni-ō-e-roku. ❷1卷 ❸存 ❺延享二刊 ❻(龍大、二〇七九・一二)(京專)

普勸發菩提心文 ❶(B)Fu-kwan-hotsu-bo-dai-shin-mon. ❷1帖 ❸存 ❺嘉永六刊 ❻(正大、一二五・三)

普化宗問答 ❶(B)Fu-ke-shō-mon-dō. ❷1卷 ❸存、國文東方佛教叢書第一輯第一宗義部 ❹岩山高康 ❺寶曆七(A. D. 1757)

❻鎌倉中期より傳來し明治四年廢止さるに至るまで一種の傳燈を有し、特に江戶時代には特殊なる形態風習を持つて居つた普化宗の起源我が國への傳來、普化僧の古實作法等を問答究明した談話を筆錄したものである。卽ち寶曆年中岩山高康、江戶一月寺の隱居某に對し遙修問ふに答へたるものに高康自ら說明を附加し置けるものである。卽ち普化宗の起源は、禪臨濟宗の眼臨濟慧

眼禪師と同時の人唐末州普化和尙を以つて眼と爲す。(臨濟と普化との關係臨濟錄を見よ)我國に於ては由良興國寺岡山法燈に隨從し來れる寶伏居士、普化の遺風を流通せんとし行住坐臥偏に普化の遺風に則り寡ら尺八を吹いて初祖振鈴の話に擬準するや、金先なる者寶伏の法嗣に乘じて行脚修行して其の流を繼ぎ一月寺を創して岡山眼とあれる旨を記し、天蓋のいはれ、行脚に關する作法、武門との關係等を明かにして居る。(林皆雲)

普決論 ❶(B)Fu-ketsu-ron. (支)Pu-chueh-lun. 唯識普決論 ❷1卷 ❸疑僞經。 ❹(參考) 內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八

普賢 ❶(B)Fu-gen. ❷1卷 ❸存、大日本佛教全書第三八阿婆縛抄第二之內 ❹承澄(元久二—弘安五A. D. 1205—1283)

普賢院書講禪尼年譜 ❶(B) Fu-gen-in-ju-tai-zen-ni-nen-pu. ❷1卷 ❸存 ❹普學 ❺寫本(谷大、宗大・二七七七)

普賢延命 ❶(B) Fu-gen-en-mei. ❷2卷 ❸存、大日本佛教全書第三七阿婆縛抄第三之內 ❹承澄(元久二—弘安五A. D. 1205—1283)

普賢延命經 ❶(B)Fu-gen-en-mei-kyō. (支)Pu-hsien-yen-ming-ching. 一切諸如來心光明加持普賢菩薩延命金剛最勝陀羅尼經、普賢延命陀羅尼經 ❷1卷 ❸五—大寶九(A. D. 745—774)譯 ❹不空(神龍元—大寶九A. D. 705—774)譯 ❺唐天寶五—大曆九(A. D. 746—774) ❻一切諸如來心光明加持普賢菩薩延命金剛最勝陀羅尼經の下を見よ。

普賢延命像 ❶(B)Fu-gen-en-mei-zō. ❷1幅 ❸存、大正圖像第一二 ❹(武藏金太)

普賢延命陀羅尼經 ❶(B)Fu-gen-en-mei-da-ra-ni-kyō. (支) Pu-hsien-yen-ming-tu-lo-ni-ching. 一切如來心光明加持普賢菩薩延命金剛最勝陀羅尼經、普賢延命經 ❷1卷 ❸存、大正二〇・五七九No. 1136 ❹不空(神龍元—大曆九A. D. 705—774)譯 ❺唐天寶五—大曆九(A. D. 746—774) ❻一切諸如來心光明加持普賢菩薩延命金剛最勝陀羅尼經の下を見よ。

❼寶曆三寫 ❽(寶善提院)

普賢延命大法日記 ❶(B)Fu-gen-en-mei-tai-hō-nik-ki. ❷1卷 ❸存 ❹詳傳記 ❺寫本(無動寺)

普賢延命壇樣 ❶(B) Fu-gen-en-mei-dan-yō. ❷1紙 ❸存 ❹是利時代寫 ❺(寶善提院)

普賢延命菩薩 ❶(B) Fu-gen-en-mei-bo-satsu. ❷1卷 ❸存、大正圖像第六 ❹治承二寫(東寺觀智院)建久七寫(醍醐寺)

普賢延命菩薩法 ❶(B) Fu-gen-en-mei-bo-satsu-hō. ❷1帖 ❸存 ❹平安朝時代寫 ❺(寶善提院)

普賢延命法 ❶(B)Fu-gen-en-mei-hō. ❷2卷 ❸存、大日本佛教全書第四八叡禪鈔第四之內 ❹叡禪(康治二—建曆二以後A. D. 1143—1212—)

普賢延命法 ❶(B)Fu-gen-en-mei-hō. ❷1卷 ❸存 ❹亮雄記 ❺寫本(無動寺)

普賢延命法日記 ❶(B)Fu-gen-en-mei-hō-nik-ki. ❷1卷 ❸存、大日本佛教全書第三七阿婆縛抄第三之內 ❹承澄(元久二—弘安五A. D. 1205—1283)

普賢延命法日記 ❶(B) Fu-gen-en-mei-hō-nik-ki. ❷1卷 ❸存、大正二〇・五七九No. 1136 ❹叡禪(長和元—永保元A. D. 1012—1081)記 ❺承曆四(A. D. 1080) ❻(參考) 本朝台祖撰述密部書目

普賢延命法日記 ❶(B) Fu-gen-en-mi-hō-nik-ki. ❷1卷 ❸存、續群書類從第二六 ❹叡禪(康治二—建曆二以後A. D. 1143—1212—)

普賢延命法日記 ❶(B)Fu-gen-en-mei-hō-nik-ki. ❷1卷 ❸存、大日本佛教全書第三七阿婆縛抄第三之內 ❹承澄(元久二—弘安五A. D. 1205—1283)

普賢延命法日記 ❶(B) Fu-gen-en-mei-hō-nik-ki. ❷1卷 ❸存、續群書類從第二六 ❹建久二(A. D. 1191)

❺後三條天皇延久四年(A. D. 1072)二月九日宇治殿に於て准三后藤原頼通の爲め大原律師が普賢延命法を修した事より後德天皇長承二年(A. D. 1133)鳥羽上皇の中宮待賢門院の爲め白川泉殿御所に於て蓮花院律師が嚴修した普賢延命法に至る迄十四度の修法記錄を集錄したものである。本書に依れば普賢延命法の最初は承保二年十月九日白河天皇の聖壽所禮のため法性寺座主法印前大僧都覺尋が綸旨を蒙り賀陽院內裏に於て修せられたのを以て初めとしてゐる。本書に「件經未曾有。此時始被修之」と述べてゐるので明らかである。併し是より以前に前述の延久四年宇治殿に於ける修法が記載されてゐるが、これは普賢延命法壇の圖を揭げるのみで內容の詳記なく實際に行はれし哉も疑はしく、若し事實とするもこれは一公家の爲め私的に行はれたものと見るべく、主上の聖壽に對する公の延命法は承保二年を以て嚆矢とすべきである。尙本書は聖行房阿闍梨院尊、長實、慶嚴、寶浮、及雲寬等の夫々修法に從事したものが記錄したものを一卷に集めたものであるが、其の編者並に編纂年代は詳かでない。(高倉永甄)

普賢延命法日記 ❶(B) Fu-gen-en-myō-hō-nik-ki. ❷1卷 ❸存、續群書類從第二六 ❹建久二(A. D. 1191)

❺本書は後鳥羽天皇建久二年(A. D. 1191)順德天皇建保五年(A. D. 1217)及び後堀河天皇承久四年(貞應元年と改元)(A. D. 1222)の三度に行はれた普賢延命法の記錄である。建久二年は九月二十七日より三七日の間大炊御門內裏に於て中宮宜秋門院藤

原任子の長壽所禱の爲め修せられたもので、法性寺座主法印大阿闍梨が導師となり什曼法眼、澄眞律師、晴遠阿闍梨等二十人の作僧を率ゐて嚴修した。而して此の記錄は其の作僧中にて摩天壇を擅當した成圓阿闍梨が記述したものである。建保五年の延命法は後鳥羽上皇御惱の御所禱のため七月二十六日より七日間大炊御門の高陽院に於て修せられたもので、導師は大阿闍梨座主前權僧正承圓で助修二十人によつて行はれた。然も此の法は二十六日の夜から始められたのであるが、翌二十七日に至り上皇の御惱は次第に薄らぎ其の夜に至つて全く平癒に落付き給ふに至り偏に此の修法の効驗あらたかな事を讃へてゐる事は興味ある事である。尙此の記事は其の作僧中の一人にて神供を承つた承性阿闍梨が同年八月十九日に注錄したものである。最後の承久四年は正月二十二日より七日間の修法で、時の上皇後高倉法皇の延命御所禱の爲め吉水堂に於て前大僧正慈圓大阿闍梨に依つて嚴修せられたものである。此の年の前年即ち承久三年は所謂承久之亂のあつた年で後鳥羽、土御門、順德三上皇の隱岐、土佐、佐渡へ遷幸の後、此の亂に御關係のなかつた後堀河天皇が即位し給ひ、其の御父君たる守貞親王を後高倉法皇として院政を敷き給つた時である。然も法皇は翌貞應二年五月御齡四十五を以て崩御あらせられた事から見れば當時は御健康も優れさせ給はなかつた樣で、依つてその際壽延命の御所禱が北條氏の後援の許に嚴修せられたものと察せられる。斯る意味に於て本記錄は鎌倉時代に於ける公武の關係上興味ある記事と謂ふべきである。（高倉永經）

普賢延命法日記 ❶(日) Fu-gen-en-mei-hō-nik-ki. ❷一卷 ❸存、續群書類從第二六 ❹建保五(A. D. 1217) ❺順德天皇建保五年七月二十六日より七日間後鳥羽上皇御惱平癒御所禱の爲め修せられた延命法の記錄である。此の延命法の事は建仁二年の普賢延命法日記中に承性阿闍梨によつて記錄されたものが載せられてゐる。本書も末尾に「已上爲傳聞之所及粗記之」と記されてゐるから當時實際に見聞した人の記錄である事は明らかである。これを建久二年本と比較すると內容は略同一であるが、記述方法に異なる所が多く、全く別本であり、隨つて著者の異なる事は察せられるが、其の何人なるかは詳かに爲し得られない。而して本書は延應二年に至り當舜院權僧正眞舜が書寫し、故助都僧が之れに添削を加へたものである。（普賢延命法日記建久二年の解說參照）（高倉永經）

普賢軌 ❶(日)Fu-gen-ki. (支) Fu-hsien-kuei. 金剛頂勝初瑜伽普賢菩薩念誦法、普賢金剛瑜伽法、普賢菩薩念誦法、勝初瑜伽普賢念誦法經 ❷一卷 ❸存、大正二〇・五二八No. 1123、續開九、卍二七・一、北1339感、南1393阿、元1382阿、明北1403藏、清1403藏、麗1341衡、天1373阿、法1186八、至8326川、明南1159無、Nj. 1410 ❹不空（納龍元—大曆九A. D. 705—774）譯 ❺唐天寶五—大曆九（A. D. 746—774）❻金剛頂勝初瑜伽普賢菩薩念誦法の下を見よ。

普賢經 ❶(日)Fu-gen-gyō. (支)Fu-hsien-ching. 觀普賢菩薩行法經、普賢觀經、觀普賢菩薩經、出廣功德經、觀普賢行法經、觀普賢經 ❷一卷 ❸存、大正九・三八九No. 277、續益四、卍一一・四、北381得、南392得、元389得、明北390短、清390短、麗380改、天116鳳、指353改、法373改、至389忍、明南378阿、Nj. 314 ❹曇無讖多譯 ❺訓宋元嘉元—一八(A. D. 424—441) ❻觀普賢菩薩行法經の下を見よ。 ❼足利時代寫 ❽(寶龜院)

普賢經開示抄 ❶(日)Fu-gen-gyō-kai-ji-shō. 觀普賢經開示鈔 ❷一卷 ❸存、大正五六・四八一No. 2195、日本大藏經第一一法華部章疏第一 ❹貞慶(八宗二—建保元A. D. 1155—1213)述 ❺觀普賢經開示鈔の下を見よ。

普賢經開題 ❶(日)Fu-gen-gyō-kai-dai. ❸存、傳敎大師全集第三 ❹最澄(神護景雲元—弘仁一三A. D. 767—822) ❺傳敎大師の諸經開題中にあつて無量義經開題、法華經開題と三對をなすもの即ち法華經開演の精經たる佛說觀普賢行法經の開題にて僅かに一頁に過ぎざるも大意、釋名に分つて流麗な對句を以つて綴られて居る。本書の名は諸錄に見當らない所ではあるが可透の傳敎大師讚集錄弘贊經論部に法華二十八品品品三門並普賢經科文一卷とあり見らく此の科文が本書に似通ふものではないか。且つ圓珍が本經の文句と記を著して傳敎組師報恩の志を莊嚴せるは即ち傳敎の本經觀の流れとも見られやうと思ふ。（淺倉最昌）

普賢經記 ❶(日)Fu-gen-gyō-ki. 觀普賢菩薩行法經記、觀普賢經記 ❷二卷或一卷 ❸存、大正五六・二二六No. 2194、大日本佛敎全書第二六智證大師全集第二 ❹圓珍(弘仁五—寬平三A. D. 814—891)述 ❺觀普賢菩薩行法經記の下を見よ。 ❻(參考) 諸宗章疏錄第二、本朝台組撰述書部書目 ❼寬文七刊 ❽(寬大、日大來・五八)(立大、A一二・三三〇)(晉、の・五・右・三一×龍大、二四一三・四七×正大、一一四五・三、六)(叡山、華藏)寫本(叡山、天海)

普賢經科註 ❶(日)Fu-gen-gyō-kwa-chō. ❷一卷 ❸存 ❹慶長一九寫 ❽(叡山、天海)

普賢經私記 ❶(日)Fu-gen-gyō-shi-ki. 觀普賢經私記 ❷一卷 ❹圓珍(弘仁五—寬平三A. D. 814—891) ❺(參考) 諸宗章疏錄第二、本朝台組撰述書部書目

普賢經文句 ❶(日) Fu-gen-gyō-mon-ku. ❷一卷 ❹圓仁(延暦一三—貞觀六A. D. 794—864)撰 ❺(參考) 山家組德撰述篇目集卷上

普賢經文句 ❶(日)Fu-gen-gyō-mon-ku. 觀普賢菩薩行法經文句、觀普賢經文句 ❷一卷 ❸存 ❹圓珍(弘仁五—寬平三A. D. 814—891) ❺觀普賢菩薩行法經文句の下を見よ。 ❻(參考) 諸宗章疏錄第二、本朝台組撰述書部書目 ❼慶安五刊 ❽(正大、一一四五・一—三)京

大、日大來・五七)(高大、答・一・一五)(晉、の・五・左・一〇)

普賢經料簡來由 ❶(日) Fu-gen-gyō-gyō-hen-rai-yu. 觀普賢經料簡來由 ❷一卷 ❸缺 ❹圓珍(弘仁六—寬平三A. D. 814—891) ❺(參考) 本朝台組撰述書部書目

普賢行願讚 ❶(日) Fu-gen-gyō-gwan-san. (支)Pu-hsien-hsing-yüan-tsan. 普賢菩薩行願讚 ❷一卷 ❸存、大正一〇・八八〇No. 297、續開一五、卍二九・七、北1357鳳、南1390尹、元1349尹、明北1137唄、清1137唄、麗1305尹、天1339尹、法1183八、至9263止、明南1148無、Nj. 1142 ❹唐不空(納龍元—大曆九A. D. 705—774)譯 ❺普賢菩薩行願讚の下を見よ。 ❻(參考)

普賢行願讚 ❶(日) Fu-gen-gyō-gwan-san. 梵漢對譯普賢行願讚 ❷一卷 ❸存 ❹(京大、一・二二ア・一一) ❺(京大、一・二二ア・一一)

普賢行願讚諸譯互證考 ❶(日) Fu-gen-gyō-gwan-san-sho-yaku-go-shō. 華嚴經普賢行願讚諸譯互證考、行願讚諸譯互證考 ❷一卷 ❸存、慈雲尊者全集第九上 ❹慈雲飲光(享保三—文化元A. D. 1718—1804)述 ❺華嚴經普賢行願讚諸譯互證考の下を見よ。

普賢行願讚的示 ❶(日) Fu-gen-gyō-gwan-san-teki-ji. 華嚴經普賢行願讚的示、普賢讚的示 ❷一卷 ❸存、慈雲尊者全集第九料上 ❹慈雲飲光(享保三—文化元A. D. 1718—1804)述 ❺華嚴經普賢行願讚的示の下を見よ。

普賢行願讚梵本釋草本 ❶(日) Fu-gen-gyō-gwan-san-bom-pon-shaku-sō-hon. 華嚴經普賢行願讚梵本釋、華嚴經普賢行願讚梵本釋草本 ❷一卷 ❸存、慈雲尊者全集第九上 ❹慈雲飲光(享保三—文化元A. D. 1718—1804)述 ❺華嚴經普賢行願讚梵本釋の下を見よ。

普賢行願讚梵本聞書 ❶(日) Fu-gen-gyō-gwan-san-bom-pon-kiki-gaki. 梵文普賢行願讚聞書 ❷十卷 ❸存、慈雲尊者全集第九下 ❹慈雲(享保三—文化元A. D. 1718—1804)述、法護(元文元—享和元A. D. 1736—1801)記 ❺明和四(A. D. 1767)春 ❻華嚴經普賢行願讚梵本聞書の下を見よ。

普賢行願讚梵本附校異 ❶(日) Fu-gen-gyō-gwan-san-bom-tsuke-ri-kō-i. 大方廣佛華嚴經普賢行願讚梵本附校異 ❷一卷 ❸存、慈雲尊者全集第九上 ❹大方廣佛華嚴經普賢行願讚梵本附校異の下を見よ。

普賢行願懺儀 ❶(日)Fu-gen-gyō-gwan-zen-gi. (支)Pu-hsien-hsing-yüan-ch'an-i. 華嚴經普賢行願懺儀 ❷一卷 ❸缺 ❹宋淨源(大中祥符四—元祐三A. D. 1011—1088)述 ❷(參考) 新編諸宗敎藏總錄第一

普賢行願品 ❶(日) Fu-gen-gyō-gwam-hon. (支) Pu-hsien-hsing-yüan-p'in. 大方廣佛華嚴經入不思議解脫境界普賢行願品 ❸存、大方廣佛華嚴經卷第四〇(大正一〇・八四四No. 293) ❹唐般若(開元二二—元和元以後A. D. 734—806—)譯 ❺刊本(京大、藏・一一シ・七)

普賢行願品修證儀 ❶(日)Fu-gen-gyō-gwam-hon-shu-shō-gi. (支)Pu-hsien-hsing-yüan-p'in-hsiu-cheng-i. 華嚴普賢行願修證儀 ❷一卷 ❸存、卍續一・九五・五 ❹宋淨源(大中祥符四—元祐三A. D. 1011—1088)述 ❺宋熙寧二(A. D. 1069) ❻華嚴普賢行願修證儀の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

普賢行願品疏 ❶(日)Fu-gen-gyō-gwam-hon-sho. (支) Pu-hsien-hsing-yüan-p'in-su. 華嚴經行願品疏、貞元新譯華嚴經疏 ❷十卷 ❸存、卍續一・七・三—四 ❹唐澄觀(開元二五—開成三A. D. 737—838)述 ❺華嚴經行願品疏の下を見よ。 ❻(參考) 諸宗章疏錄第二

普賢行願品別疏 ❶(日) Fu-gen-gyō-gwam-hon-bes-sho. (支) Pu-hsien-hsing-yüan-p'in-pieh-su. 大方廣佛華嚴經普賢行願品別行疏 ❷一卷 ❸存 ❹唐澄觀(開元二五—開成三A. D. 737—838)述 ❺華嚴經行願品疏鈔の下參照。 ❼(參考) 淨土依經論章疏目錄

普賢行法經疏 ❶(日)Fu-gen-gyō-hō-gyō-sho. (支)Pu-hsien-hsing-fa-ching-su. ❷一卷 ❹宋智圓(太平興國元—建興元A. D. 976—1023)述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

普賢行法經疏 ❶(日)Fu-gen-gyō-hō-gyō-sho. (支)Pu-hsien-hsing-fa-ching-su. ❷二卷 ❹神照本如(太平興國七—皇祐三A. D. 983—1051)述 ❺諸宗章疏錄第二に云く「至a十種境界、而止。法眞成法師續之」云々。

普賢觀行 ❶(日)Fu-gen-kwan-hing. (支)Pu-hsien-kuan-hsing. 華嚴經普賢觀行法門、華嚴經普賢觀行 ❷一卷 ❸存、卍續二・八・一 ❹唐法藏(貞觀一七—先天元A. D. 613—712)述 ❺華嚴經普賢觀行法門の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

普賢觀行雙翼記 ❶(日) Fu-gen-kwan-gyō-yō-yok-ki. ❷三卷科一卷 ❹凝然(仁治元—元亨元A. D. 1240—1321)撰集 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

普賢觀經 ❶(日)Fu-gen-kwan-gyō. (支)Pu-hsien-kuan-ching. 觀普賢菩薩經 ❷一卷 ❸缺 ❹東晉紙多蜜譯 ❺第一譯。 ❼(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

普賢觀經 ❶(日)Fu-gen-kwan-gyō. (支)Pu-hsien-kuan-ching. 觀普賢菩薩行法經、觀普賢菩薩經、觀普賢菩薩經、觀普賢行法經、觀普賢經 ❷一卷 ❸存、大正九・三八九No. 277、續益四、卍一一・四、北381得、南392得、元389得、明北390短、清390短、麗380改、天116鳳、指353改、法373改、至389忍、明南378阿、Nj. 394 ❹曇無讖多譯 ❺訓宋元嘉元—一八(A. D. 424—441) ❻觀普賢

索引番號 ❶題名(書名) ❷(名書) ❸著 ❹缺 ❺數 ❻存 ❼缺 ❽內容說 ❾書目(書名參考書目) ❿年月の刊寫 ⓫代年作著 ⓬(名家)書家所現 ⓭所行名

菩薩行法經の下を見よ。

普賢觀經義疏 ❶(日)Fu-gen-kwan-gyō-gi-sho. (支) Pu-hsien-kuan-ching-i-su. 觀普賢經義疏、觀普賢菩薩行法經義疏 ❷二卷 ❸存、卍續一・五五・二 ❹宋本如(太平興國六—皇祐三A. D. 981—1050)遠、宋慶成(大中祥符九—元祐元A. D. 1016—1056)撰解、日本亮潤分會

❺本書は法華の結經と稱される觀普賢經を四明尊者智證の門下神照本如が天台大師の五重玄義と一經三段法とによつて、經題と經文とを義疏と名づけて記述したが、未だ述了せずして最初の一實境界の文段を解したのみで、執筆の緣を停めざるを得なくなつた。これ恐らく病沒したためであらう。これによつて弟子の慶成が稿を續けて二卷となし、一經註疏の首尾を完結したのである。師弟二代の努力を持つて本書はなつたものである。慶成の序によれば天台大師に注疏が作られてあつたが唐末に散逸した。宋に至つて孤山法師(智圓)は疏一卷を作つた。但し文理簡單に過ぎこれを領解することが困難であつた。この故に本如が義疏を作つたのであると。天台大師は南岳慧思禪師に從つて普賢道場に入り法華三昧を修し初旋陀羅尼を證した。この三昧行は全く本經と法華經とに基いて組織されてゐるのである。普賢の圓門を天台圓宗の立場から述べたものである。元來、普賢行と云へば華嚴宗の所說の法門であるが如く一般の人は考へてゐるが、本經は法華經の普賢であるから法華圓宗を眼述する者が當然解說すべきもの。本經の章疏を日本では傳敎大師法孫圓珍が作り、支那では四明智禮門下の本如が作つてゐることは、日本天台支那天台の學風を見る上に於いて益する所が頗る多い。本書は先づ慶成の序文に初り、次に本如の義疏となる。上下共に卷末に「天台山沙門亮潤分會」と記してある。義疏は初めに緣序、次に經題を五重玄義を用ゐて略述し、更に次に經題を揭げて釋名を四段(通別・翻釋名位・分字銷釋・約義)に涉つて說く。この下で敎觀二門の解說が設けられる。次に辨體とは開權顯實一實境界を妙體なりといひ。次に明宗とは全理起觀不一不異の觀の一字が即ち圓敎の宗旨であるといひ。次に辨用とは妙慶滅障が力用。次に敎相とは無上醍醐味である。次に翻經三藏の傳を略述し。この下で本如は本經の印施を始めて講述し、併せて疏を起草したと義疏撰述の由來を記してゐる。以上で經題解釋竟る。次は經文を序正流通の三段に分つて詳述し、天台の部敎の判を用ゐ或は一心三觀の觀心の釋をしてゐる。但し法華三昧儀には少しは觸れてゐるが、山家山外の論議には全く觸れた所がない。此の點は注目すべき所。其他大論の發心修行菩提涅槃方便は因行なりといふ文を引用してゐること。六念の解釋及び菩薩戒の說等は本書の特色と見るべきである。本如の傳は佛祖統紀一二。四五。釋門正統六。釋氏稽古略四に出づ。統紀は寂年を誤記し。又記事不明瞭である。慶成の傳は統紀一三。正統六に出づ。統紀はこゝにも敎がある。

❺實永元刊 ❹(立大, A一二・二九一—二九二)×(龍大, 二四一三・四九) (田島德晉)

普賢觀經義疏科 ❶(日) Fu-gen-kwan-gyō-gi-sho-kwa (支) Pu-hsien-kuan-ching-i-su-ko. ❷一卷 ❸存、卍續一・五五・二

❺本書は義疏の分科に從つて委自に科文を作つたもの。作者は未詳。或は亮潤が義疏を分會した時に作つたものか。可考。 (田島德晉)

普賢觀經聞書 ❶(日)Fu-gen-kwan-gyō-kiki-naki. ❷一卷 ❸存 ❺永正一五寫 ❹(叡山、天海)

普賢講作法 ❶(日) Fu-gen-kō sa-hō. 摩嚴院普賢講作法 ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第三三、惠心僧都全集第五 ❹源信(天慶五—寛仁元A. D. 942—1017) ❺永延二(A. D. 988)

❺本書は普賢菩薩の大願の功德を讚歎し、以て一念逮疾に罪業を滅除し無量光佛刹に往生せんと願望する講式で、唐貞元十二年般若三藏が新舊華嚴經中の入法界品に當る普賢行願品を四十卷に譯出した所の大方廣佛華嚴經入不思議解脫界普賢行願品とせるを誇ずる作法を示したものである。卷末に製作原因を「永延二年七月二十七日摩嚴院僧源信佛法を住持せしめん爲め、衆生を利益せん爲め、世世値遇の爲め、菩提を證成せん爲めに、慇懃を以て、略して一隅を述するのみ」と云ふて居る。一部の次第は先導頭着座、唄、散花、表白、神分、勸請、發願。次に大意・釋名・入文判釋により大方廣佛華嚴經入不思議解脫境界普賢行願品を略述し、次に十行願の總意を明す。次に十願各條を讚說するが、其れは一、禮敬諸佛願。二、稱讚如來願。三、廣修供養願。四、懺除業障願。五、隨喜功德願。六、請轉法輪願。七、請佛住世願。八、常隨佛學願。九、恒順衆生願。十、普皆廻向願で、次に十願の三種利益、彌陀名號、普賢名號、同眞言、釋迦名號、六種廻向を以つて終る。全般を通じ彌陀尊の淨土に往生せんとする希望が橫溢して居る。蓋し僧都の眞價と認むべきものであらう。

❼(參考) 本朝台祖撰述密部書目、山家祖德撰述篇目集卷下、天台宗標 (茂邊敬昌)

普賢金剛薩埵金剛藏王延命法等 ❶(日)Fu-gen-kon-gō-sat-ta-kon-gō-zō-ō-nin-mei-hō-tō. ❷一軸 ❸存 ❺元慶頃寫 ❹(貴書提院)

普賢金剛薩埵同異辨 ❶(日)Fu-gen-kon-gō-sat-ta-dō-i-ben. ❹圓珍(弘仁五—寛平三 A. D. 814—891)述 ❼(參考)

本朝台祖撰述密部書目

普賢金剛薩埵念誦儀 ❶(日)Fu-gen-kon-gō-sat-ta-nen-ju-gi. (支) Pu-hsien-chin-kang-sa-ta-nien-sung-i. 普賢金剛薩埵略瑜伽念誦儀軌、瑜伽念誦儀軌、普賢菩薩埵儀軌、普賢金剛薩埵秘密念誦儀軌、普賢金剛薩埵瑜伽念誦儀、普賢金剛薩埵瑜伽念誦儀軌 ❷一卷 ❸存、大正二〇・五三一 No. 1124、縮刷九、卍二七・二、北1356盛、南1392阿、元1379阿、明北1433謙、清1435謙、屋1343衡、天1370阿、法1172八、至827不、明南1157無、三十帖策子第一六、N. 1442 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯

❺元慶頃寫 ❹(貴書提院)

普賢金剛薩埵略瑜伽念誦儀軌 ❶(日) Fu-gen-kon-gō-sat-ta-ryaku-yu-ga-nen-ju-gi-ki. (支)Pu-hsien-chin-kang-sa-ta-lüe-yü-ch'ieh-nien-sung-i-kuei. 普賢金剛薩埵念誦儀、普賢金剛薩埵秘密念誦儀軌、普賢金剛薩埵瑜伽念誦儀軌、普賢金剛薩埵瑜伽念誦儀軌 ❷一卷 ❸存、大正二〇・五三一 No. 1124、縮刷九、卍二七・二、北1356盛、南1392阿、元1379阿、明北1433謙、清1435謙、屋1343衡、天1370阿、法1172八、至827不、明南1157無、三十帖策子第一六、N. 1442 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯

❺金剛薩埵法六種儀軌の一にして、大樂軌・勝初軌・理趣會軌・普賢軌等と略々同じく普賢金剛薩埵の身成就の法を說く。その次第は次の如く成つて居る。金剛三摩耶印言・悉地成就密語・金剛掌印言・金剛縛印言・拍智並に密語・金剛鬘印言・金剛拳印言・金剛薩埵三摩耶印言・大誓鼓實密語・結界印言・蓮華菩薩三摩耶印言・定印言・通達心密語・菩提心密語・五股金剛杵密語・身如金剛杵・身如普賢菩薩(五佛の冠を戴き、身色は水精月の如くにして、右手に五股金剛杵、左手に金剛鈴を持し、滿月輪中に在す)並に密語・素囉多金剛印言・五佛冠印言・金剛髻菩薩言・被甲印言・鎧甲密語・妙拍並に密語・成曼荼羅(八金剛明妃・外四供養・四攝等の無量の菩薩圍繞す)及び密語・驚覺一切聚衆印言・普賢菩薩一百八名讚・金剛薩埵大誓鼓實印言・開御印言・道場觀(曼荼羅の中位の圓滿月輪中に、普賢菩薩金剛慢印に住し、其の前には形服皆赤色にして、金剛弓箭印に住せる欲金剛、右には白色にして、抱印に住せる計里計羅(Kelikila 鬼)尊、後には形服皆青色にして、右臂を竪てゝ摩竭輪を執り、左の金剛拳を以て其の肘を承け、赤共に輪を持せる愛金剛、左邊には形服皆黃色にして、二金剛拳を以て各々膝に安じ、頭を左に向けて少しく垂れたる金剛慢尊を想へ、此の五聚尊皆羯磨印に住すと觀ず)・四祕密々語・春金剛菩薩(中院の東南隅に居し、色服俱に白にして華を持す)印言・雲金剛菩薩(內院の西南隅に居し、形服皆黑色にして香爐を持す)印言・秋金剛菩薩(內院の西北隅に居し、形服皆赤色にして燈を持す)印言・金剛鬘雪菩薩(內曼荼羅の東北隅に居し、形服皆黃色にして塗香器を持す)印言・外四供印言・四門菩薩印言・十七聚尊三昧耶印(普賢・欲・觸・愛・慢・春・夏・秋・冬・嬉・笑・歌・舞・鉤・索・鎖・鈴・華に羯磨密語を用ふ)。普賢菩薩讚(第一句を誦する時、欲金剛羯磨印を結び、第二句を誦する時、計里吉羅金剛羯磨印を結び、第三句を誦する時、愛金剛羯磨印を結び、第四句を誦する時、慢金剛羯磨印を結び、かくて四種歌詠四種舞印を成ず)・大樂不空三昧耶眞實密語(普賢菩薩の大印に住して誦す)。

かく次第を明し終つて、最後に若し行者が普賢菩薩の身を成就せんと欲する時は、毎日四時に數を限ることなく、一月念誦すべきである。若し疲倦を感じた時には、印を解き金剛合掌して作禮し、此れを以て息に充て、其の心をして疲眠せしめてはならない。その滿月の夜大印を結び、一夜念誦して晨朝に至れば、普賢菩薩來つて其の行者の自身を抱き、恒く支分に入つて、行者の身普賢と等同と成り、首に五佛の寶冠を戴き、身に瓔珞華鬘を著け、身・口・意の所作、悉く金剛薩埵の如くなる。此の人衆より恭敬禮拜され、常に大神通を作し、亦能く三世勝金剛の身を現じて、慧眼者を調伏し、意に隨つて空に騰り、自在に無量の世界に往いて諸佛を供養し、天妙の五欲樂を受け、壽命窮盡なく、無邊の有情を利樂して大利益を成し、遂に毗盧遮那佛の身を成ずるに至ると說いてある。而して本邦へは空海(A. D. 774—835)・圓仁(A. D. 794—864)・圓珍(A. D. 814—891)の三師に依つて、請來されたことになつてゐる。

❼(參考) 貞元錄第一五 (神林隆淨)

普賢金剛瑜伽法 ❶(日) Fu-gen-kon-gō-yu-ga-hō. (支) Pu-hsien-chin-kang-yü-ch'ieh-fa. 金剛頂勝初瑜伽普賢菩薩念誦法、普賢軌、勝初瑜伽普賢念誦法經 ❷一卷 ❸存、大正二〇・五二八 No. 1123、縮刷九、卍二七・一、北1389盛、南1393阿、元1332阿、明北1403謙、清1403謙、屋1341衡、天1373阿、法1156八、至836川、明南1139無、N. 1410 ❹不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❺唐天寶五—大寶九

阿、明北1433謙、清1435謙、屋1343衡、天1370阿、法1172八、至827不、明南1157無、三十帖策子第一六、N. 1442 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❺普賢金剛薩埵略瑜伽念誦儀軌の下を見よ。

❹文永八寫(寶壽院)寫本(貴書提院)

普賢金剛薩埵略瑜伽念誦儀軌 ❶(日) Fu-gen-kon-gō-sat-ta-ryaku-yu-ga-nen-ju-gi-ki. (支)Pu-hsien-chin-kang-sa-ta-lüe-yü-ch'ieh-nien-sung-i-kuei. 普賢金剛薩埵念誦儀、普賢金剛薩埵秘密念誦儀軌、普賢金剛薩埵瑜伽念誦儀軌、普賢金剛薩埵瑜伽念誦儀軌 ❷一卷 ❸存、大正二〇・五三一 No. 1124、縮刷九、卍二七・二、北1356盛、南1392阿、元1379阿、明北1433謙、清1435謙、屋1343衡、天1370阿、法1172八、至827不、明南1157無、三十帖策子第一六、N. 1442 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯

❺金剛薩埵法六種儀軌の一にして、大樂軌・勝初軌・理趣會軌・普賢軌等と略々同じく普賢金剛薩埵の身成就の法を說く。その次第は次の如く成つて居る。金剛三摩耶印言・悉地成就密語・金剛掌印言・金剛縛印言・拍智並に密語・金剛鬘印言・金剛拳印言・金剛薩埵三摩耶印言・大誓鼓實密語・結界印言・蓮華菩薩三摩耶印言・定印言・通達心密語・菩提心密語・五股金剛杵密語・身如金剛杵・身如普賢菩薩(五佛の冠を戴き、身色は水精月の如くにして、右手に五股金剛杵、左手に金剛鈴を持し、滿月輪中に在す)並に密語・素囉多金剛印言・五佛冠印言・金剛髻菩薩言・被甲印言・鎧甲密語・妙拍並に密語・成曼荼羅(八金剛明妃・外四供養・四攝等の無量の菩薩圍繞す)及び密語・驚覺一切聚衆印言・普賢菩薩一百八名讚・金剛薩埵大誓鼓實印言・開御印言・道場觀(曼荼羅の中位の圓滿月輪中に、普賢菩薩金剛慢印に住し、其の前には形服皆赤色にして、金剛弓箭印に住せる欲金剛、右には白色にして、抱印に住せる計里計羅(Kelikila 鬼)尊、後には形服皆青色にして、右臂を竪てゝ摩竭輪を執り、左の金剛拳を以て其の肘を承け、赤共に輪を持せる愛金剛、左邊には形服皆黃色にして、二金剛拳を以て各々膝に安じ、頭を左に向けて少しく垂れたる金剛慢尊を想へ、此の五聚尊皆羯磨印に住すと觀ず)・四祕密々語・春金剛菩薩(中院の東南隅に居し、色服俱に白にして華を持す)印言・雲金剛菩薩(內院の西南隅に居し、形服皆黑色にして香爐を持す)印言・秋金剛菩薩(內院の西北隅に居し、形服皆赤色にして燈を持す)印言・金剛鬘雪菩薩(內曼荼羅の東北隅に居し、形服皆黃色にして塗香器を持す)印言・外四供印言・四門菩薩印言・十七聚尊三昧耶印(普賢・欲・觸・愛・慢・春・夏・秋・冬・嬉・笑・歌・舞・鉤・索・鎖・鈴・華に羯磨密語を用ふ)。普賢菩薩讚(第一句を誦する時、欲金剛羯磨印を結び、第二句を誦する時、計里吉羅金剛羯磨印を結び、第三句を誦する時、愛金剛羯磨印を結び、第四句を誦する時、慢金剛羯磨印を結び、かくて四種歌詠四種舞印を成ず)・大樂不空三昧耶眞實密語(普賢菩薩の大印に住して誦す)。

かく次第を明し終つて、最後に若し行者が普賢菩薩の身を成就せんと欲する時は、毎日四時に數を限ることなく、一月念誦すべきである。若し疲倦を感じた時には、印を解き金剛合掌して作禮し、此れを以て息に充て、其の心をして疲眠せしめてはならない。その滿月の夜大印を結び、一夜念誦して晨朝に至れば、普賢菩薩來つて其の行者の自身を抱き、恒く支分に入つて、行者の身普賢と等同と成り、首に五佛の寶冠を戴き、身に瓔珞華鬘を著け、身・口・意の所作、悉く金剛薩埵の如くなる。此の人衆より恭敬禮拜され、常に大神通を作し、亦能く三世勝金剛の身を現じて、慧眼者を調伏し、意に隨つて空に騰り、自在に無量の世界に往いて諸佛を供養し、天妙の五欲樂を受け、壽命窮盡なく、無邊の有情を利樂して大利益を成し、遂に毗盧遮那佛の身を成ずるに至ると說いてある。而して本邦へは空海(A. D. 774—835)・圓仁(A. D. 794—864)・圓珍(A. D. 814—891)の三師に依つて、請來されたことになつてゐる。

❼(參考) 貞元錄第一五 (神林隆淨)

普賢金剛瑜伽法 ❶(日) Fu-gen-kon-gō-yu-ga-hō. (支) Pu-hsien-chin-kang-yü-ch'ieh-fa. 金剛頂勝初瑜伽普賢菩薩念誦法、普賢軌、勝初瑜伽普賢念誦法經 ❷一卷 ❸存、大正二〇・五二八 No. 1123、縮刷九、卍二七・一、北1389盛、南1393阿、元1332阿、明北1403謙、清1403謙、屋1341衡、天1373阿、法1156八、至836川、明南1139無、N. 1410 ❹不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❺唐天寶五—大寶九

❻金剛頂勝初瑜伽普賢菩薩念誦法の下を見よ。 ❼(參考) 傳教大師將來越州錄

普賢菩薩埵儀軌 ❶(B) Fu-gen-sa-tta-gi-ki. (支) Pu-hsien-sa-ta-i-kuei. 普賢金剛薩埵略瑜伽念誦儀軌、普賢金剛薩埵秘密念誦儀軌、普賢金剛薩埵瑜伽念誦儀軌、普賢金剛薩埵瑜伽念誦法、普賢金剛薩埵念誦儀軌、瑜伽念誦儀軌 ❷一卷 ❸存、大正二〇・五三一 No. 1124、續因九、卍二七・二、北1366盛、南1390阿、元1379阿、明北1435誌、清1433誌、麗1343夜、天1370阿、法1172八、至637不、明南1157無、三十帖策子第一六、No. 1142 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❻普賢金剛薩埵略瑜伽念誦儀軌の下を見よ。

普賢薩埵行法口決記 ❶(B) Fu-gen-sa-tta-gyō-hō-ku-ketsu-ki. ❷1卷 ❸存 ❹良純記 ❺寫本(明德院)

普賢三摩耶抄 ❶(B) Fu-gen-sam-ma-ya-shō. ❷1帖 ❸存 ❹正嘉二寫 ❺(寶壽院)

普賢讃梵語 ❶(B) Fu-gen-san-bon-go. (支) Pu-hsien-tsan-fan-yu. ❷1卷 ❼(參考) 惠運禪師將來教法目錄

普賢寺事蹟 ❶(B) Fu-gen-ji-ji-seki. ❷1卷 ❸存 ❼(參考) 朝鮮佛教總書刊行豫定書目

普賢十願釋 ❶(B) Fu-gen-jū-gwan-shaku. 普賢十願文 ❷1卷或3卷 ❹圓珍(弘仁五—寛平三 A. D. 814—891)撰 ❼(參考) 山家祖德撰述宮目集卷上

普賢十願注釋 ❶(B) Fu-gen-jū-gwan-chū. ❼(參考) 本朝古師撰述密部書目

普賢十願文 ❶(B) Fu-gen-jū-gwan-mon. 普賢十願釋 ❷1卷或3卷 ❹圓珍(弘仁五—寛平三 A. D. 814—891)撰 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二、山家祖德撰述篇目集卷上

普賢所說法 ❶(B) Fu-gen-sho-setsu-hō. (支) Pu-hsien-so-shuo-fa. 大方廣普賢所說經、大方廣普賢菩薩所說經 ❷1卷 ❸存、大正一〇・八三 No. 293、續天一一、卍八・二、北391夜、南23夜、元383夜、明北94壺、清94壺、麗92伏、天98夜、推86伏、法326伏、至163宇、明南99邇、No. 938 ❹寶叉難陀(永徽三—景雲元 A. D. 652—710)譯 ❺唐久視元—長安四(A. D. 700—704) ❻大方廣普賢所說經の下を見よ。

普賢陀羅尼經 ❶(B) Fu-gen-da-ra-ni-kyō. (支) Pu-hsien-to-lo-ni-ching. 普賢菩薩陀羅尼經 ❷1卷 ❸存、大正二〇・五四一 No. 1127、續成八、卍一五・四、北1153騫、南1173誤、元1165騫、明北835盡、清436盡、麗1138相、天1153騫、法1373冠、至723辰、明南283命、No. 841 ❹法天譯 ❺宋開寶六以後(A. D. 973—) ❻普賢菩薩陀羅尼經の下を見よ。

普賢菩薩延命金剛最勝陀羅尼經 ❶(B) Fu-gen-en-mei-kon-gō-sai-shō-da-ra-ni-kyō. (支) Pu-hsien-pu-sa-yen-ming-chin-kang-tsui-shêng-to-lo-ni-ching. 一切諸如來心光明加持普賢菩薩延命金剛最勝陀羅尼經、普賢延命經、普賢菩薩延命陀羅尼經 ❷1卷 ❸存、大正二〇・五七九 No. 1136 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❻一切諸如來心光明加持普賢菩薩延命金剛最勝陀羅尼經の下を見よ。 ❺文和二寫 ❾(寶壽院)

普賢菩薩延命陀羅尼經 ❶(B) Fu-gen-bo-satsu-en-mei-da-ra-ni-kyō. (支) Pu-hsien-pu-sa-yen-mi-ng-to-lo-ni-ching. 一切諸如來心光明加持普賢菩薩延命金剛最勝陀羅尼經、普賢菩薩延命金剛最勝陀羅尼經 ❷1卷 ❸存、大正二〇・五七九 No. 1136 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❻一切諸如來心光明加持普賢菩薩延命金剛最勝陀羅尼經の下を見よ。 ❺平安朝時代寫 ❾(寶壽院)

普賢菩薩行願王經 ❶(B) Fu-gen-bo-satsu-gyō-gwan-ō-kyō. (支) Pu-hsien-pu-sa-hsing-yuan-wang-ching. ❷1卷 ❸存、大正八・五・一四五二 No. 293 ❻大方廣佛華嚴經普賢菩薩行願王品(大正八・一四五四 No. 293)の異本、同項參照。 ❾環煌本(大英博物館 S. 236', 2324)

普賢菩薩行願讚 ❶(B) Fu-gen-bo-satsu-gyō-gwan-san. (支) Pu-hsien-pu-sa-hsing-yuan-tsan. (梵) Bhadra-caryā-praṇidhāna (Ed. by E. Watanabe, 1902) (藏) bhagaṅ-pa bzan-po spyod-pahi smon-lam-gyi rgyal-po 普賢行願讚 ❷1卷 ❸存、大正一〇・八八〇 No. 297、續開一五、卍一九・七、北1357潤、南1367尹、元1349尹、明北1137唱、清1137唱、麗1325尹、天1339尹、法1183八、至563止、明南1148無、No. 1143 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯

❻四十華嚴の第四十卷に當る所にて普賢菩薩の十大願を說きし一段の頌文なれば、最も重要なる意義ありとして、印度に於ても夙に別行して誦持せしものと見え、六十華嚴を譯せし菩の曇賢三藏も、又此唐の不空三藏も共に之を別部の經として之を譯し、普譯には文殊師利發願經と名づけて五言四十四頌あり、唐譯は普賢菩薩行願讚と名づけて七言六十二頌あるが、何れも長行釋なし。而して此唐譯の後には速疾滿普賢行願陀羅尼といふ呪文を擧げ、次に毎日誦。普賢菩薩行願讚、後即誦。此眞言。繼誦一遍、普賢行願悉皆圓滿、修三摩地。人速得。三昧現前。福德智慧二種莊嚴、猶堅固法速疾成就。といふ功能を述べてあり。又異本には六十二頌の次に八大菩薩曼荼羅經の末に出づる五言五十頌半の八大菩薩讚を載するものもあれど、恐くは後人の加ふるものであらう。

此の讚は古來本朝に梵本を存し、慈雲尊者全集第九輯の內には普賢行願讚譯譯互證考、同く的示、同く梵本圖書等がある。 ❼(參考) 貞元錄第一五、淨土依憑經論章疏目錄 ❾寫本(寶壽院) (松原忠讃)

普賢菩薩十七尊略釋 ❶(B) Fu-gen-bo-satsu-jū-shichi-son-ryaku-shaku. (支) Pu-hsien-pu-sa-shih-chi-tsun-liao-shih. ❷1帖 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)釋 ❼(參考) 書寫請來法門等目錄

普賢菩薩定意經 ❶(B) Fu-gen-bo-satsu-jō-i-kyō. (支) Pu-hsien-pu-sa-ting-i-ching. 等目普薩所問三昧經、等目普薩所問經、等目普薩經 ❷3卷 ❸存、大正一〇・五七四 No. 324、續天〇、卍八・四、北103美、南103美、元100天、明北107率、清107率、麗101我、天102美、推91我、法98我、至173歸、明南104曾、No. 111 ❹竺法護譯 ❺西晉太始二—建興元(A. D. 266—313) ❾等目普薩所問三昧經の下を見よ。

普賢菩薩說此證明經 ❶(B) Fu-gen-bo-satsu-setsu-shi-shō-myō-gyō. (支) Pu-hsien-pu-sa-shuo-tzu-chêng-ming-ching. 普賢菩薩說此證明經 ❷1卷 ❸存、大正八五・一三六二 No. 2879 ❺疑僞經。 ❼(參考) 法經錄第二、仁壽錄第四、內典錄第一〇、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

普賢菩薩說證明經 ❶(B) Fu-gen-bo-satsu-setsu-shō-myō-gyō. (支) Pu-hsien-pu-sa-shuo-chêng-ming-ching. 普賢菩薩說此證明經 ❷1卷 ❸存、大正八五・一三六二 No. 2879 ❺疑僞經。 ❼(參考) 法經錄第二、仁壽錄第四、內典錄第一〇、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

普賢菩薩陀羅尼經 ❶(B) Fu-gen-bo-satsu-da-ra-ni-kyō. (支) Pu-hsien-pu-sa-to-lo-ni-ching. (藏) hphags-pa kun-tu bzaṅ-poḥi mtshan-brgya-rtsa-brgyad-pa-gzuṅs dan-bcas-pa 普賢陀羅尼經 ❷1卷 ❸存、大正二〇・五四一 No. 1127、續成八、卍一五・四、北1153騫、南1173誤、元1165騫、明北835盡、清436盡、麗1138相、天1153騫、法1373冠、至723辰、明南283命、No. 841 ❹法天譯 ❺宋開寶六以後(A. D. 973—) ❻普賢菩薩陀羅尼經の下を見よ。

普賢菩薩延命金剛最勝陀羅尼經 ❶(B) Fu-gen-bo-satsu-en-mei-kon-gō-sai-shō-da-ra-ni-kyō. (支) Pu-hsien-pu-sa-yen-ming-chin-kang-tsui-shêng-to-lo-ni-ching. 一切諸如來心光明加持普賢菩薩延命金剛最勝陀羅尼經、普賢延命經、普賢菩薩延命陀羅尼經 ❷1卷 ❸存、大正二〇・五七九 No. 1136 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❻一切諸如來心光明加持普賢菩薩延命金剛最勝陀羅尼經の下を見よ。

普賢菩薩念誦法 ❶(B) Fu-gen-bo-satsu-nen-ju-hō. (支) Pu-hsien-pu-sa-nien-sung-fa. 金剛頂勝初瑜伽普賢菩薩念誦法、普賢金剛瑜伽法、勝初瑜伽普賢菩薩念誦法經、普賢軌 ❷1卷 ❸存、大正二〇・五二八 No. 1123、續開九、卍二七・一、北1359盛、南1393阿、元1383阿、明北1403嘉、清1403嘉、麗1311衝、天1373阿、法1385八、至863川、明南1159無、No. 1410 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❻金剛頂勝初瑜伽普賢菩薩念誦法の下を見よ。 ❺安貞二寫 ❾(寶壽院)

普賢菩薩法 ❶(B) Fu-gen-bo-satsu-hō. ❷1卷 ❸存、大日本佛教全書第四八曼譯鈔第四 ❹曼譯、康治二—建暦二以後 A. D. 1143—1212—)

普賢菩薩發願文 ❶(B) Fu-gen-bo-satsu-hotsu-gwan-mon. (支) Pu-hsien-pu-sa-fa-yuan-wen. ❷1卷 ❸存、卍續二・四・一 ❹階智顗(大同四—開皇一七 A. D. 538—597)撰

❻本書は台嶺蘇陀峯非際が某處の古法藏中を探した時に天台大師撰に係る觀心誦經法と發願文と普賢菩薩發願文と惠心僧都源信撰自誓戒との四書を得た。大に喜んでこれを一冊に合せて藥梓し十方に印施したと跋

車馬盛飾 ❶(名)Fu-gen-man-da-ra-kyo. (外)Pa-hien-man-na-lo-ching. ❷1巻 ❸仏. 大正11・古写 No.1126. 唐訳. 巻1・巻. 経1164字. 巻1103字. 巻1181字. 巻1・巻. 巻948字. 巻1176字. 巻1170字. 巻1389字. 巻1704字. 巻1349字. Nj 833 ❹法華経 ❺(仏教) 菩薩の住処の一つ。

車渠 ❶(名)Fu-kyo. (外)Pa-ha-ra-ka. ❷仏. 大正11・古写 No.1125. 唐訳. 巻1・巻. 経1164字. 巻1103字. 巻1181字. 巻948字. 巻1176字. 巻1170字. 巻1389字. 巻704字. 巻949字. Nj 833 ❹法華経 ❺(仏教) 菩薩の住処の一つ。

車輪 ❶(名)Fu-rin. ❷1巻 ❸仏. 大正11・古写 No.1126. 唐訳. 巻1・巻. 経1164字. 巻1103字. 巻1181字. 巻948字. 巻1176字. 巻1170字. 巻1389字. 巻704字. 巻949字. Nj 833 ❹法華経 ❺(仏教) 菩薩の住処の一つ。

車輪聖王 ❶(名)Fu-rin-jo-o. 仏教の理想とする王。金・銀・銅・鉄の四輪を持ち、四天下を平定し、人民を教化するという。 ❷(仏教) 仏教の理想とする王

元—延寶元A. D. 1592—1673)語、性呆等編 ⑭日本黄檗宗開祖隆元隆琦禪師の法語で、普照國師廣錄の卷十四並に卷十五に收められた宗乘法語である。續藏霜狀の八に收められたもの並に大正藏八十二卷に收められたものが是れである。法語の上は(性呆編)示本庵首座を始めとして虎白、卽非、慧林、鴛湖、龍溪、峨山、南源、鴛吼等の坐學門人に示したもの並に示衆一篇を收め、法語の下は(興隆編)太上法皇の旨を承けた龍溪和尚が勅問の傳達を爲し、隆元これに奉答して直指單傳の妙旨を示すことより坐學の諸居士に示した法語、並に答問などが收められて居る。

普照禪師修心訣 ❶(日) Fu-shō-zen-ji-shu-shin-ketsu. (支)Pu-chao-ch'an-shih-hsiu-hsin-chüeh. 高麗國普照禪師修心訣、修心訣 ❷一卷 ❸存、大正四八・一〇〇五 No. 2020、續藏一〇、卍續二・一八・五、明北1642數、清1625數、Nj. 1645、國譯禪宗叢書第三 ❹知訥(正隆三—大安二A. D. 1153—1210) ❺高麗神宗代(A. D. 1194—1204) ❻高麗國普照禪師修心訣の下を見よ。 ❼史本(帝國、一三一・二四〇)

普施經 ❶(日)Fu-se kyō. (支)Pu-shih-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❺雜阿含經第四卷の抄出。 ❼(參考)出三藏記第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

普陀古心禪師奏對錄 ❶(日)Fu-da-ko-shin-zen-ji-sō-tai-roku. (支)Pu-t'o-ku-hsin-ch'an-shih-tsou-tui-lu. ❷一卷 ❸存 ❹清古心語、實祥編 ❾寫本(京大、藏・一七タ・七)

普陀山志 ❶(日) Fu-da-san-shi. (支)Pu-t'o-shan-chih. ❷六卷 ❸存 ❹明周應賓編 ❾刊本(京大、藏・二〇ヲ・三)

普陀山志 ❶(日) Fu-da-san-shi. (支)Pu-t'o-shan-chih. 重修南海普陀山志 ❷二十卷 ❸存 ❹清秦瓚編 ❾刊本(京大、藏・二〇ヲ・一)

普陀山略志 ❶(日)Fu-da-san-ryaku-shi. ❷一冊 ❸存 ❹乘山 ❺正德六刊 ❾(龍大、二九七四・四五)

普陀列祖錄 ❶(日) Fu-da-retsu-soroku. (支)Pu-t'o-lieh-tsu-lu. ❸存、卍續二乙・二〇・五 ❹清通旭(永曆三—康熙三七 A. D. 1649—1698)集 ❺本書は浙江省明州舟山列島に在る普陀山觀音寺の前寺卽ち普歌清了禪師開基の善濟寺に(後寺は大智寺)住山した潮音通旭禪師が歷住祖師の傳記や其の遺語を輯めたもので、清康熙三十五年九月(A. D. 1696)四十八歲のとき自序して居る。通旭は數々年卽ち清康熙三十七年十一月四日(A. D. 1698)壽五十にして順寂したので、其の法嗣古心明志和尚が通旭の行業語要をも補入し、自ら語をも書繼いで居る。

通旭は無礙行徹に嗣ぎ南岳下三十六世である。卽ち法系は、密雲圓悟、林野通奇、無礙行徹と次第するものである。本書に收められた宋より清に至る普陀山の列祖には傳記法系共に不明のまゝ單に其の名のみ列擧してあるものもある。今其の列祖を示せば(×印は無傳)

(一)眞歇清了。(二)自得慧晫。(三)×繼以了然。(四)×南平問。(五)×雪屋立。(六)×瑄鑑寶。(七)×雲堂圓。(八)×靈巖成。(九)×盥巖厚。(十)×鑑巖寶。(十一)×小巖高。(十二)用雲德潤。(十三)大川普濟。(十四)×鐵關清。(十五)×古巖顯。(十六)×渠谷鳴。(十七)×無爭吉。(十八)×石屋環。(十九)×寒巖惟。(二十)×松州基。(二十一)東巖日。(二十二)×混溪清。(二十三)×白雲悉。(二十四)×愚溪智。(二十五)×東洲永。(二十六)一山一寧。(二十七)×次翁元。(二十八)×陰居遇。(二十九)×太虛沖。(三十)×學中懷信。(三十一)古鼎祖訒。(三十二)×大方時。(三十三)朴翁淳。(三十四)×元虛照。(三十五)×竺芳璨。(三十六)×珍、金陵慰龍南愚玲瓏。(三十七)大千慧照。(三十八)祖芳道璨。(三十九)潮音通旭。(三十)古心明志。

(附) 他山の知識にして來山して宗要を光揚せる者。

(一)天鼓雷。(二)延寧瑋。(三)慰弘盛。(四)寓谷志。(五)通玄禮。

尙は、普陀山志卷七の法統の部にも普陀山の列祖を詳細に記述して居る。

(大久保堅瑞)

普達王經 ❶(日) Fu-datsu-ō kyō. (支)Pu-ta-wang-ching. ❷一卷 ❸存、大正一四・七九四 No. 532、續續七、卍一五・一、北274學、南267學、元283學、明北753當、清735當、Nj. 524寬、天274學、續283寬、法271數、至1125和、明南737當、Nj. 728

❻西晉代失譯 ❼本經の主旨は、夫延國普達王得道の因緣譚を說くに在る。內容。佛、祇樹給孤獨園に在せし時、夫延國に普達と名くる王ありて佛法を尊敬す。臣民は王が高親に登りて書或燒香禮拜するを見て、萬民の尊なる王の頭を地に著けて敬禮することを怪み之れを諫止せんとする。王は卽ち臣等に命じて六畜頭と死人の頭を求めてそれを市に賣らしむるに死人の頭のみは買ふもの無し。人頭必ずしも尊からず。(此說話は阿育王傳第七にも載す)玆に王はそれを契機とし、路上の一道人を介して命術城に在る世尊を迎へ、世尊は爲めに普達王及びその道人の因緣譚を語り給ふ。かくて王は須陀洹を得、その他五戒十善等を受くるものありと說く。

❼(參考) 出三藏記第三、法經錄第三、武周錄第一一、開元錄第二、貞元錄第四

(山邊習學)

普超經 ❶(日)Fu-chō-kyō. (支)Pu-ch'ao-ching. 文殊支利菩薩三昧經、普超三昧經、阿闍世王品 ❷三卷或四卷 ❸存 大正一五・四〇六No. 627、續宇八、卍一〇・二、北181惟、南192惟、元138惟、明北179鼎、清179鼎、麗176悲、天189惟、指169悲、法177悲、至359勉、明南173鼎、Nj. 182 ❹竺法護譯 ❺西晉太康七(A. D. 286) ❻文殊支利菩薩三昧經の下を見よ。

普超三昧經 ❶(日)Fu-chō-san-mai-kyō. (支)Pu-ch'ao-san-mei-ching. 文殊支利菩薩三昧經、普超經、阿闍世王品 ❷

三卷或四卷 ❸存、大正一五・四〇六No. 627、續宇八、卍一〇・二、北181惟、南192惟、元138惟、明北179鼎、清179鼎、麗176悲、天189惟、指169悲、法177悲、至359勉、明南173鼎、Nj. 182 ❹竺法護譯 ❺西晉太康六(A. D. 285) ❻文殊支利菩薩三昧經の下を見よ。

普通圓戒辨釋 ❶(日) Fu-tsū-en-kai-ben-shaku. ❷二卷 ❸存、的門上人全集第二 ❹的門

普通圓頓戒辨釋 ❶(日)Fu-tsū-en-don-kai-ben-shaku. ❷三卷 ❸存 ❾寫本(各大、餘大・六九四)

普通可授法 ❶(日) Fu-tsū-ka-jū-hō. ❷一帖六十一帖 ❸存 ❾寫本(高大、寄・一・六六)

普通可習法 ❶(日) Fu-tsū-ka-jū-hō. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❾寶龜院)

普通行法頸次第 ❶(日)Fu-tsū-gyō-kō-kyō-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

普通觀行儀軌 ❶(日)Fu-tsū-kwan-gyō-gi-hō. ❷三冊 ❸存 ❺文化一一寫 ❾(高大、一・六五)

普通廣釋 ❶(日)Fu-tsū-kō shaku. 普通授菩薩戒廣釋 ❷三卷 ❸存、大正七四・七五七No. 2381、天台宗叢書第四、安然撰集第二 ❹安然(承和八—延喜年間A. D. 841—921—)撰 ❺元慶六(A. D. 882)五月十五日

❻本書は主として妙樂大師湛然の十二門戒儀に基いて七衆通授の菩薩戒儀を解釋したもの。菩薩戒とは本有眞如佛性菩薩心地戒法である。卽ち如來一乘菩薩戒である。この菩薩戒を菩薩の七衆又は佛の七衆に對して皆ゝ通じて一切の大衆を攝ぜず傳授する戒儀を廣く解釋したものが本書である。日本天台宗開創は印度・支那・日本の三國に未だ起らなかつた所謂菩薩圓頓戒壇建立にその中心主眼があるといはれる。この叡山戒壇で用ゆる受戒の戒儀こそは實に三國宋傳の戒たることを表示するものである。現在各宗で行つてゐる授戒はその根本に就いて見る時は南都所傳の戒と叡山所傳の戒と

入宋學僧持に皇通寺俊芿所傳の戒並に禪宗所傳の戒とに大別される。これを場所に依つて名ければ奈良戒壇院並に唐招提寺の戒。比叡山延曆寺戒壇院の戒。北京皇通寺の戒並に京都建仁寺・能登永平寺の戒である。人に約すれば鑑眞所傳の戒。傳教大師所傳の戒。不可棄法師俊芿所傳の戒並に榮西・道元の戒である。これを支那佛教史上から見れば唐代の戒律が南都・北嶽の戒であり、宋代の戒が北京律・禪宗の戒である。これを印度佛教史から見れば文殊・彌勒の戒と無著・世親の戒である。そして彌勒は文殊系にも無著系にも共通してゐる。菩薩戒が如何にして起つたか。又如何に分裂したかを觀察する時に彌勒は特に注意すべき菩薩である。若しこれを輯譯三藏から見れば經什系・曇無讖系・玄奘系等に分けられる。支那佛教では菩薩戒は早くから羅什系と曇無讖系とに分れた。又姚秦・竺佛念譯の瓔珞經の戒も別行した。此他に達摩戒本なるものがあつたが、この戒本は現存してゐないから明確な事は知れない。次に唐玄奘譯の菩薩戒がある。此等の戒系は般若經・涅槃經と唯識教學との佛性論に關係を有し、華嚴經・地持經・法華經と唯識教學との佛性論に交涉を有し、竺綱心地戒本と地持の菩薩戒本と瓔珞の三聚淨戒と菩薩戒羯磨文とは要するに一乘義に對して彌勒菩薩を中心とした教學の戒論であると思はれる。是の如く諸の戒本を比較し同異を論述したものが本書である。故に本書は傳教大師の授菩薩戒儀及び顯戒論や意覺大師の顯揚大

戒論や智證大師の未註授菩薩戒儀等に於いて南都の大乘戒と叡山の圓頓戒との同異を明示し、且つ其等の要領を簡明直截に論述大成したものであると云ひ得る。從つて本書は日本天台圓頓戒は小乘・通乘・別乘の菩薩戒ではなく圓乘の菩薩戒であり。圓乘の如來戒であることを明示し、授戒の當處に六卽成佛すると說じ、更に眞言密乘の三摩耶戒を佛戒なりと論じ法華・止觀・眞言の圓戒一致を說き、騎遊んで草木成佛を授戒の當處に於いて許す。この點に至つては支那天台も未だ語らぬ一大展開である。本書を撰述した五大院安然の圓戒史上に於ける功迹は永く沒すべからざるものがあると確言して憚らない。安然自らは本書の序文に於いて一には瑜伽論に於いて彌勒菩薩が東方に唯大乘種姓のみありといつたのは我が日本國がみな成佛を知つてゐることを云つたのではないか。この故に鑑眞和上は最初に戒藏を我國に傳へた時には先づ天皇・太后に菩薩戒を授け奉つた、といひ、二には叡岳の本師(傳教大師)が大乘戒律を論じて圓戒の獨立を主唱し、戒壇建立の勅許を蒙るや菩天卑土皆これを感銘して大直道であると謂ふに至つた。爾來南都の聚閣戒衆も成く我等も亦上品雜勝の心を發起して同じく菩薩窟地で持する所の戒をたもつて機緣に逢れる毎に菩薩戒を行持してゐるといふに至つたと南都の戒學が比叡山の圓戒に影響されて根本的に變革したことを擧げ、三には近代に至つては功德の場には盛に菩薩戒が傳授されるようになり、佛事の感應道交を

遠ざるものが愈多くなつたといひ、四には永劫に佛種たるものは實乘のみである。前賢の戒儀も現在では十家の異本があるに至つた。廣略は宜樂に在るが偏圓を孤吹して遂に直往の機として遐つて歷劫の徑に迂廻らしむるに至る。須らく機の半滿を覈じて戒の權實を行持すべきであると、圓頓一實の戒儀を廣く釋し、機と戒との小大權實を撿判すべきことを勸めて本書撰述の要旨となしてゐる。今いふ所の大乘の中の實乘とは如來乘であり圓密一致の菩薩なる意を論述したものが本書の要領である。ここに至つて初めて明瞭に日本天台宗は支那天台宗から新生した新天台法華宗、新天台法性宗となつたのである。安然は本書の序文を元慶六年(A.D. 888)四月十五日に「天台門人安然」と記して草し、「元慶六年六月十五日覆撿了畢。草堂寺五大院乘門安然記之。下略」と跋文を記してゐる。これに依つて考ふるに本書は元慶六年四月十五日に草稿成り、同年六月十五日に再治し畢つたのであらう。本書に一箇所だけ傳教大師・慈覺大師と記した所がある(天台宗叢書安然撰集二ノ一〇)この文が安然の原本にあつたとすれば、傳教大師の諡號に關して三浦周行博士が「傳教大師傳」で疑問としたことは當然訂正されべきであり、若し又此處の文は後人の添加なりとすれば疑問は依然として後世に殘されるのである。本書には現存しゐない戒本に就いて記述してゐるばかりでなく、各種戒本の內容に關してゐる。この故に本書は戒學史研究者にとつて最も有益な研究資料たり得る。殊又特に興味を增す記事は涅槃經に宋法の中にして二萬の菩薩が大乘法と菩薩戒を行持してゐると述べてあるのは瑜伽論と瑜伽戒とを寒じてゐることを記したものであるとの記事である(天台宗叢書安然撰集二ノ一二)。これは涅槃經と瑜伽論家とが密接な交涉のあることを述べたものと思ふ。又行基は文殊の化身だ(安然撰集二ノ三二)といひ、傳大士は彌勒の化身だといひ、梵網經は金剛頂經の淺略であり菩薩戒藏は陀羅尼藏の攝なりといひ、文殊は世界能造の地主なり、菩薩戒は地主の佛を請じて羯磨師となすといふ等々は諸種の方面に關係を有する記事であると思ふ。且下要約して本書の內容を記せば、一、先づ乞戒すべし。二、次に傳戒師は懺謝す。この段では師となつて授戒を行ふ用心を述べ、梵網經・無量義經によつて「自ら法を慳み教を慳むべからず。菩薩は自ら未だ度せずと雖も先づ衆生を度すべし」と戒師の自省と利生の行願とを缺くべからずと誡め、次に菩薩戒相は廣く經論に出てゐるが現在流行の戒本はほゞ十本ありといひ、一、梵網本(大正二四ノ九九七。心地戒品)。二、地持本(大正二四ノ一一〇七。菩薩戒本)。三、高昌本(存欠未詳。天台宗叢書安然撰集二ノ二)。四、瓔珞本(瓔珞本業經)。五、新撰本(傳教大師全集四ノ二二ノ朱書參照)。六、制旨本(二說ある。一は制勅流行の戒本。何帝が誰れに命じて作らしめたか不明。二は廣州制旨寺眞諦三藏所出本)以上の六種戒本の解說は天台菩薩戒經義記上(大正四〇ノ五六九)に詳述してあるから參照せられよ。七、達磨本(余未だ寓目の期に會しないが三井敬光師は圓戒齋談に達磨一心戒本を寫得傳持するといふ)。八、明曦本(大正四〇ノ五八一)。九、妙樂本(授菩薩戒儀又は十二門戒儀といふ。六祖新溪尊者妙樂寺滿然撰)。十、和國本(日光山天海藏の廣釋は倭國本に作る。圓戒齋談(天台宗叢書所收)によれば傳教大師撰授菩薩戒儀を指すといふ)を揭ぐ。今は妙樂大師滿然の戒本に據つて十二門に開いて七衆通授の菩薩戒相を叙述するといひ、第一の開導に最も大くの解說を施し上卷全部をこれに充當し。中卷には第二三篇。第三諸師。第四懺悔。第五發心。第六問遮の五門を述べ、下卷では第七授戒。第八證明。第九現相。第十戒相。第十一摂持。第十二廣願を述べて終り。最後に跋語を記して畢る。第一開導を六段に分つ。授戒するには六法を定むべしとなし、一には根機を定むべし。二には信心を觀ずべし。三には意樂を察すべし。四には道場を擇べ。五には師相を示し、六には戒體を敎ゆるなりと。この開導根機章は傳教大師の創唱された日本一洲圓機巳熟の思想を顯述したもの。第二には信の一を以つて菩薩戒を受くる根本とし、第三は十種の意樂あるものはいづれの一意樂を懷くとも皆悉く受戒を許すといひ、十種意樂とは欲=卽身成佛=欲=紹=菩薩位=欲=直往菩薩=欲=遮心向大=欲=永不犯戒=欲=重受=佛戒=欲=報=四恩=欲=得=一切佛=欲=作=一切王=欲=紹=三世化=であるとなす。第四は受戒道場には內道場と外道場とがある。外道場は釋迦如來の第四輝中の菩提樹下の菩薩七衆の戒場。兜率天上の菩薩在家の戒場。伽耶山頂の菩薩沙彌の戒場。施鹿林中の小乘戒場。釋尊は南閻浮提に菩提樹下と伽耶山頂と鹿苑との三戒壇を建て給ふた。又道宜の祇洹圖經によれば祇洹精舍に三戒壇を結した。一は菩薩戒壇。二は比丘戒壇。三は比丘尼戒壇が之れだ。玄奘の西域記によれば五天竺には一向大乘寺、一向小乘寺、大小兼行寺の三寺があり各戒壇があると。支那では羅什は秦主等に受戒し、梁武帝は等覺殿を構へ大圓壇を築いて受戒し、又同帝は菩通二年(A.D. 521)同泰寺(歷三には同泰寺)に大戒場を築いて受戒し、隋煬帝は金陵に大戒壇を築いて天台大師から菩薩戒を受け、淨影寺憲這は大象年中(?)東西兩京に戒場を立て菩薩僧を置く。日本では勝寶六年(A.D. 754)庶僧鑒眞東大寺大佛殿前に大戒壇を築いて菩薩戒を授け、傳教和上(最澄)は大唐台州國清寺の西廊で菩薩大僧戒を受け、弘仁皇帝/嵯峨天皇)は東山(比叡山)に大戒壇を建て、貞觀年中(A.D. 859—876)慈覺大師は大內に大戒場を飾つて菩薩戒を授竹た。自餘の戒は記すことを略す。此等を外道場といふ。次に內道場は我自身である。第四は師地。梵網・金光明・法華經に說く勝地を擇ぶ。第五は師相に三ある。一には授戒の本師は諸佛の師、眞佛、佛像、生身の舍利、道具鉢杖鉢、法身の舍利たる大乘經卷を具つてす。梵網戒本によれば今

師相承で合邪—邪道—樹下の釋迦—阿逸多等二十餘の菩薩—須利蘇摩—羅什—南岳九師—天台八祖—比叡山戒壇院相承。地持戒本によれば登明佛相承—蓮華藏菩薩—四十餘菩薩—伊波勒菩薩(曇無讖)。二には授戒師は菩薩の師、眞聖、聖像(眞の菩薩像で凡夫假名の形ではない)、生身の舍利、持物錫鉢、法身の舍利たる大乘律論を以つてする。瑜伽戒本—彌勒—無著—世親—護法—玄奘—今の弘道門人。三には授戒師は凡夫の師、內の凡夫、外の凡夫である。形像・持物・法文を須ひない。四分律家も瑜伽戒家も無相論家も未だ外凡にも入らない人であるから凡夫師にもなれない。凡夫で戒師たり得るは圓乘の人ばかりである。菩薩には小乘菩薩・通乘菩薩・別乘菩薩・圓乘菩薩の四類がある。四分律家では上品殊勝の發戒の菩薩である。瑜伽論家では三乘菩行の舒廻の菩薩である。無相論家では掘一無行する歷劫の菩薩である。天台宗は卽身成佛の圓乘の菩薩である。故に南山・慈恩・嘉祥等が若し和光の菩薩でないならば戒師たることは許されない。今の末代假名の菩薩には無論戒師たることは許されない。南岳・天台は六祖・五品であるから圓乘の內外凡である。故に戒師たり得る。今の末代圓乘の菩薩は自他の佛性を信じて隨喜し乃至行六度を修するから外凡位に入つた假名の菩薩であるから菩薩戒師たるに堪えると、戒師の相を定め、續いて天台の觀心論、羅什の說を引き、猶瓔珞戒本の受戒の三種を引用して自誓受戒の問題に及び梵網・菩賢經・心地觀・菩薩戒等の文に依つて得戒を明して戒師の相を說き終る。第六は戒德を顯す段では四敎の菩薩の戒德を說き、圓戒・佛戒の眞意義を明示し、遂に「圓乘の戒證は受戒の日に卽身に六卽成佛す」と述べ、圓戒は無量義經に云ふ大直道であり、法華の直至道場の法だと斷言し、法華鄮嚴眞言の戒は佛戒だといひ、問導の第一門終る。中卷に入つては先づ第二門の三歸を說くや、外道の三寶、支那の三敎、三種の三寶、三種の戒品を廣辨し、次に第三門請師の段では佛が末代に勅して釋迦・文殊・彌勒を奉請せしむる所以は各尊每に四義があるからであるといひ、その一々を廣釋し、猶、尊證師・同學・外護にも說き及んで詳述し、又神祇と陀羅尼戒藏とを論じたことは天台の一實神道敎義に深い關係を結ぶものがある。又新撰本・姉樂本・高昌本の文の配列の比較を出してゐることも注意すべき點。第四門は懺悔。心地觀經と菩賢觀經との文を引用してゐる。第五門は發心。第六門は問遮。七遮問罪の戒論は梵網・心地・瑜伽等の各家に涉つて詳論。

下卷では第七門の授戒から第十二門の廣願に至る各門を一々詳述し、特に授戒の一章は廣く說いてある。授戒章は二節。先づ略して三聚の戒相を四種に分つて示す。四種とは小乘・通乘・別乘・圓乘の戒法である。圓の三乘淨戒を無受戒と發得戒と性德戒との三種に分つて其一々を廣釋し、假名の凡夫が傳戒師となつて受戒し得ることを明示するのが眼目である。この一段は第一問導と相ひ並んで力が注がれてゐる。本章によつて安然の圓戒論は最も簡明に知られる。ここでも安然は受戒の當所直ちに凡夫の卽身に六卽成佛することを說き、蓮華三昧經の本覺讚を用ゐて圓密不二の戒を主張してゐる。第八門は證明。第九門は現相。この一章では草木成佛を述べ、本來法身、內證眷屬の義を立つ。第十門は戒相。七衆各別の戒と七衆共通の戒との二部に分つて地持・菩生・優婆塞・文殊問・心地觀・瓔珞本業・菩賢觀・梵網等を引用し、通受別受の三聚の戒相を廣說。第十一門は戒を持するに就いて十門に分別し一々廣說。第十二門は廣願。菩薩の廣大の願行を示す。こゝにも神祇觀が說かれてゐる。要するに安然が本書で述べんとした宗精神は傳教大師以後の日本天台の戒學を要約して論述せんと試みたものであり。但し菩薩戒衆の戒壇に說遮が觸れながら詳しく尼衆戒壇を論述しないのは如何なる故か。可考。

❺慶安元刊 ❹(谷大、餘大・四八四)(正大、一一八五・七—八)(哲・二・八・左・三二)

(田島德音)

普通諸宗門八題 ❶(日)Fu-tsū-shu-mon-hachi-dai. ❷一卷 ❸存 ❹盛瑞 ❹寫本(谷大)

普通諸尊法 ❶(日)Fu-tsū-shu-son-ho. ❷二册 ❸存 ❹京大、印哲U・一九)

普通諸尊法手鑑 ❶(日)Fu-tsū-shu-son-ho-te-kagami. ❷二册 ❸存 ❹迦潮(寶永六—寬政七 A.D. 1709—1795)記 ❺大明元(A.D. 1793) ❹明治一九寫 ❹(萬大、一・六六)

普通眞言藏 ❶(日)Fu-tsū-shin-gon-zō. ❷三册 ❸存 ❹淨嚴(寶永一六—元祿一五 A.D. 1639—1702)述 ❺延寶六刊 ❹(高大、一・五一)(寶龜院)

普通眞言藏口訣 ❶(日) Fu-tsū-shin-gon-zō-ku-ketsu. ❷一册 ❸存 ❹寫本(高大、一・七二)

普通八結 ❶(日)Fu-tsū-hak-ketchi. ❷一軸 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶龜院)

普通祕極鈔 ❶(日) Fu-tsū-hi-gyoku-shō. ❷一軸 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶龜院)

普通佛敎 ❶(日) Fu-tsū buk-kyō. ❷一卷 ❸存 ❹小松原梅吉著 ❺明治二六刊 ❹(帝國、九・一八八)

普通菩薩戒廣釋 ❶(日)Fu-tsū bo-satsu-kai-kō shaku. 普通授菩薩戒廣釋 ❷三卷 ❸存、 大正七四・七五七No. 2331 ❹安然(承和八—延喜年間 A.D. 841—901) ❺普通授菩薩戒廣釋の下を見よ。 ❼(參考) 本朝台組撰述書部書目

普燈錄 ❶(日)Fu-tō-roku. (支) Pu-teng-lu. 嘉泰普燈錄 ❷三十卷 ❸存、卍續二乙・一〇・一—二 ❹虛中(雷庵、正受) ❺南宋嘉泰元(A.D. 1201) ❻嘉泰普燈錄の下を見よ。 ❺天和二刊 ❹(駒大)

普入道門經 ❶(日)Fu-nyū-dō-mon-kyō. (支)Pu-ju-tao-mên-ching. 維摩詰經、維摩詰所說不思議法門經、佛法普入道門經、佛法普入道門三昧經 ❷二卷 ❸

存、大正一四・五一九No.474、館黄七、卍九・五、北123白、南123白、元117樹、明北143方、清143方、麗121樹、天123白、指113樹、法119在、至199蓋、明南130方、Nj.147 ❹支謙譯 ❺吳黄武二—建興二(A. D. 223—253) ❻維摩詰經の下を見よ。

普能蔵禪師淨土詩 ❶(日)Fu-nō-zō-zen-ji-jō-do-shi. (支)Fu-neng-tsang-chan-shih-ching-t'u-shih. ❷1巻 ❸存、卍續二・一五・四 ❹清德潤錄 ❺本書は江蘇常州府昆陵の天寧寺普能蔵禪師が、永明延壽禪師の「有禪有淨土。猶如帶角虎」云々とある禪淨雙修の立場より阿彌陀經易解を著し並に淨土詩を著したものである。德潤の錄に係るもので、天寧寺の清玉及び錢塘の許靈虛は清光緒五年秋に彌陀經易解と淨土詩とを同刻し、光緒七年(A. D. 1880)七月清玉刊行の緣起を識して梓行流傳せしめたものである。

淨土詩は七字八句一百〇八篇より成るものである。其の一に云く「禪淨何曾有二門。分禪分淨莫須論。禪師淨土本同體。淨入禪心即共源。妙契眞如成法性。深機解脫到祇園。勤君不必爭人我。念句彌陀報佛恩。」と以て其の意圖知るべきである。

(大久保堅璋)

普遍照光明清淨熾盛如意寶印心無能勝大明王大隨求陀羅尼經 ❶(日)Fu-hen-shō-kō-myō-shō-jō-shi-jō-nyo-i-hō-in-shin-mu-nō-shō-dai-myō-ō-dai-zui-gu-da-ra-ni-kyō. (支)Fu-pien-chao-kuang-ming-ch'ing-chieng-chih-ch'eng-ju-i-pao-yin-hsin-wu-nêng-shêng-ta-ming-wang-ta-suei-chi'u-t'o-lo-ni-ching. (梵) Mahāpratisarā (寫本) Buddha-bhāsita-samanta-jvala-mūla-viśuddha-sphuṭīkṛta-cintāmaṇi-mudrā-hṛdayaparajita-dhāraṇī-pratisarā-mahā-vidyā-rāja (蔵傳) (藏)hphag-pa rig-pahi rgyal-mo so-sor bhrań-ba-chen-mo. 普遍光明大隨求陀羅尼經、隨求如意寶印心無能勝大明王大隨求陀羅尼經、普遍光明清淨熾盛如意寶印心無能勝大明王大隨求陀羅尼經、普遍光明大隨求陀羅尼經 ❷2巻 ❸存、大正二〇・六一六No.1153、館闕九、卍一六・七、麗1375微、明北1037取、清1037取、明南1036思、Nj.1042 ❹唐不空(神龍元—大曆九A. D. 705—774)譯 ❺普遍光明清淨熾盛如意寶印心無能勝大明王大隨求陀羅尼經の下を見よ。

普遍智藏般若波羅蜜多心經 ❶(日)Fu-hen-chi-zō-han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō. (支) Fu-pien-chih-tsang-pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching. ❷1巻 ❸存、大正八・八四九No.253、卍續一・一・四、館月九、卍續一・一・四、北1344廻、麗1293磨、法1105機、至23翔、❹唐法月(永徽四—天寶二A. D. 653—743)重譯 ❺正說分と見らるべき箇處は玄奘譯般若心經と異る處はないが、序分及び流通分に心經より以外の夢素を持つてゐる。卽ち、會坐に觀世音、文殊、彌勒等の諸菩薩が居り、佛が慧光三昧に入り般若を行じて五蘊皆空を照見す。こゝに舍利弗は觀世音菩薩に請うて普遍智藏たる心經の分別解說を願ふ事になつてゐる。然し、要旨は心經と異ることなければ、心經の一異本として心經成立史の上からは重視せられる。

普法義經 ❶(日)Fu-hō-gi-kyō. (支)Fu-fa-i-ching. (梵)Artha-vistra (藏傳) (藏) hphag-pa don rgyas-pa shes-bya-bahi chos-kyi rnams-grabs 具法行經、普義經、舍利弗普法義經 ❷1巻 ❸存、大正一・九二二No.93、館宿七、卍一四・一、北720若、南734若、元725若、明北562條、清562條、麗724止、天719若、指672止、法709止、至935仕、明南676條、Nj.556 ❹安世高譯 ❺後漢元嘉二(A. D. 152) ❻廣義法門經の下參照。 ❼(參考) 出三藏記第二、三寶紀第四、內典錄第一、譯經圖紀第一、開元錄第一、貞元錄第一、第二

普法義經 ❶(日)Fu-hō-gi-kyō. (支)Fu-fa-i-ching. 普義經 ❷1巻 ❸缺 ❹西晉竺法護(一泰始二—建興元A. D. 266—313—)譯 ❺第二譯。 ❼(參考) 開元錄第一五、貞元錄第二四

普明王經 ❶(日) Fu-myō-ō-kyō. (支)Fu-ming-wang-ching. ❷1巻 ❹失譯 ❺六度集經第四卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第三、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

普明香嚴禪師語錄 ❶(日)Fu-myō-kō-gon-zen-ji-go-roku. (支) Fu-ming-hsiang-yen-ch'an-shih-yu-lu. ❷1巻 ❸存 ❹清香嚴譯、明環等編 ❺康熙年間 ❼(駒大)

普明國師行業實錄 ❶(日)Fu-myō-koku-shi-gyō-jitsu-roku. 智覺普明國師行業實錄 ❸存、續群書類從第九 ❹芳通編

普明國師行狀 ❶(日)Fu-myō-koku-shi-gyō-jō. ❷1巻 ❸存、續群書類從第九 ❹芳通編 ❺具名を寶輝回山智覺普明國師行業實錄といひ、春屋妙葩の行業事實を記錄せるものである。初に俗姓を詳にし疎石の別に當ることを記し、幼少の間疎石に師事して悟らず、嘉曆乙亥夏清拙和尙を南禪寺に訪ひて典座に充てられ、結制に衆の爲に茶拂し、康永元年竺僊和尙を天龍に訪ひて後堂に充てられたる等の修道を記し、貞治元年癸卯阿州の大饑に際し、饘粥を備へて貧人に施したること、同甲辰春景憁寺開堂慶讚をなし、同月光厳法皇と對語移日に及びしこと、應安二年南禪寺の山門建立に關し延曆寺僧徒と論議せしこと等、嘉慶戊辰秋永逝に至る七十八年間の生涯の行跡を詳細に敍し、其の紀年錄とも稱すべき貴重なる實錄である。

(本書は本朝高僧傳第三五、禪林僧寶傳第七) ❼(參考) 本朝高僧傳第三五、禪林僧寶傳(後藤大用)

普明國師語錄 ❶(日)Fu-myō-koku-shi-go-roku. 智覺普明國師語錄、普明錄 ❷6巻或8巻 ❸存、大正八〇・六三三No.2369 ❹春屋妙葩(應長元—嘉慶二A. D. 1311—1388)語 ❺智覺普明國師語錄の下を見よ。 ❼(參考)扶桑禪林僧寶傳

普明石關禪師語錄 ❶(日)Fu-myō-seki-kwan-zen-ji-go-roku. (支)Fu-ming-shih-kuan-ch'an-shih-yu-lu. ❷1巻 ❸存 ❹清石關譯、芳桂等編 ❺康熙一九刊 ❼(駒大)

普明菩薩會 ❶(日) Fu-myō-bo-sa-tsu-e. (支) Fu-ming-p'u-sa-hui. (梵) Kāśyapa-parivarta (Ed. by S. Holstein, in the original Sanskrit, in Tibetan, and in Chinese. 梵藏漢六種合刊、商務印書館發行 1926) (藏) hphags-pa bod-sruń gi lepu shes-bya-ba theg-pa chen-pohi mdo ❸存、大寶積經第一一二(大正一一・六三一 Nn.310, 43) ❹失譯 ❺本經、譯者不明、もと大寶積經と稱されたるものを、菩提流志によつて大本の大寶積經の中に編入せられて第四十三會とせられたものである。他に三異譯及び梵本と西藏譯あり、詳細は大迦葉問大寶積正法經の下を見よ。

(美濃晃順)

普明錄 ❶(日)Fu-myō-roku. 智覺普明國師語錄、普明國師語錄 ❷8巻或6巻 ❹寫本(巻大、餘大・三七六九)

普遍光明清淨熾盛如意寶印心無能勝大明王大隨求陀羅尼經 ❶(日) Fu-hen-kō-myō-shō-jō-shi-jō-nyo-i-hō-in-shin-mu-nō-shō-dai-myō-ō-dai-zui-gu-da-ra-ni-kyō. (支)Fu-pien-chao-kuang-ming-ch'ing-chieng-chih-ch'eng-ju-i-pao-yin-hsin-wu-nêng-shêng-ta-ming-wang-ta-suei-chi'u-t'o-lo-ni-ching. (梵) Mahāpratisarā (寫本) Buddha-bhāsita-samanta-jvala-mūla-viśuddha-sphuṭīkṛta-cintāmaṇi-mudrā-hṛdayaparajita-dhāraṇī-pratisarā-mahā-vidyā-rāja (蔵傳) (藏)hphag-pa rig-pahi rgyal-mo so-sor bhrań-ba-chen-mo. 普遍光明大隨求陀羅尼經、隨求如意寶印心無能勝大明王大隨求陀羅尼經、普遍光明清淨熾盛如意寶印心無能勝大明王大隨求陀羅尼經 ❷2巻 ❸存、大正二〇・六一六No.1153、館闕九、卍一六・七、明北1037取、清1037取、麗1375微、法1093相、明南1036思、Nj.1042 ❹唐不空(神龍元—大曆九A. D. 705—774)譯 ❺上卷の初に序品あり、それに依れば、菩薩摩訶薩衆・大聲聞衆・梵天王並に梵衆天子・夜摩等の諸天子・諸阿蘇羅王・龍王衆・諸緊那羅王・諸持明仙王・諸藥叉王・訶利帝母・七護世ほ天・七大羅刹母・遊虛空七仙天・九執曜天・方隅地天・辯才天女・諸作障者・一切山王・一切海王・護世王水天・四天王・七風天・伊舍那天・那羅延天・六十遊行諸城隍王・四姉妹女天並兄・金剛商場羅女・金剛軍童子・薬摩呼童子・頂行童子・八部衆・日月天子・晨朝天・日午天・黄昏天・中夜天及び一切時天等と俱に須彌頂の寶樓閣に居られた時、頂の毫相より、一切如來光網と名くる大光明を放ち、普く三千大千世界、乃至如恒河沙數の佛世界を照し了つて、一切有情を慈念するが爲に、大隨求陀羅尼を說く。先づ此の陀羅尼は、物質的苦惱を除去し、凶災地變の厄を攘ひ、寃敵を悉く降伏し、福德を招き、罪障を消滅し、諸天善神の擁護を得、一切の疾病を悉く除き、或は產生求兒の願、或は穀多を增長せしむる等の功德を有するばかりでなく、出世間の功德をも容易に獲得せしむるなどと、其の廣大の功能を讚嘆せる五言の偈頌を述べ、次で大陀羅尼・心眞言・心印眞言・金剛被甲眞言の四眞言を述べ、次で長行にて故事を交へて其の功德を明す。次に下卷に於ては、復四陀羅尼を出し、是れを無能勝妃大心眞言と云ふ。若し人此の陀羅尼を書寫して身に帶佩し、常に誦持すれば、能く惡夢不祥の事を除き、一切安樂にして、諸願は皆成就することを得と說き、次で灌頂眞言・結界眞言・心中心眞言・隨心眞言の四眞言を出し、次に上卷に於けると同樣、故事を引いて聽聞の功能、受持讀誦の利益、及び書寫帶持の功德を重ねて述べ、次に五言頌を以て書寫の法は、陀羅尼法が明してある。その書寫の法は、先づ白月の鬼宿に、晨朝香湯を以て沐浴し、新淨の衣を著し、更に牛糞を用て小曼荼羅を塗り、五賢皮を用て一は壇の中心に、他は壇の四角に置き、又佉陀羅木の樑を、壇の四角に釘ち、若し悉地を求めば、先づ三白食を食し、此の隨求の人、壇の中心に淨茅蓆を敷いて坐し、或は素、或は紬帛、或は樺皮、或は紫、或は餘物に法に依つて、此の陀羅尼を書寫し、然る後に、若し女人が子息を求める場合には、牛黃を用て、左手に珍寶を盛れる鉢を持し、開敷蓮華上に坐せる童子を中心に畫き、又四隅の角には四寶山、眞言の四面には種々の印を畫くなど其の帶主の呪心に隨つて、觀音・持金剛・伊舍那・大自在・帝釋・毘沙門・那羅延・波闍波提・大黑天・梵天王等が畫かれることが詳しく說いてある。

次で得菩薩隨求大護大明王陀羅尼品第二と題して、五言頌にて此の大護成就明の書寫帶持の功德を稱へ、次に其の隨求大護明王大心陀羅尼を出し、次に長行にて功德を再述し、次に又五言頌にて功能讚嘆を說き、重病人の爲には、四方壇を作り、五色粉を用て曼荼羅を畫き、四緋を四角に安じ、病者を澡浴せしめて、清淨の衣を纏はせ、壇の中心に引入して、面を東方に向けて坐せしめ、その時、持明者は、先づ此の大明を誦ずべしとなし、卷末に天龍八部の讚が出してある。

本經所說の九陀羅尼の中、上卷の最初の大陀羅尼は、諸陀羅尼中、稀に見る長篇にして、謂ゆる大隨求陀羅尼と呼ばれ、常に大佛頂陀羅尼と並稱されてゐる。此の陀羅尼を受持讀誦すれば、無量の功德ありとされ、古來印度・西域・支那・日本を通じて、道俗共に厚く之れを尊崇し、その靈驗談も頗る多い。又弘法大師は諸陀羅尼中、特に此の陀羅尼を撰び、其の三密度人の官符に於て、疑明業の度者の必ず學習すべきものゝ隨一と爲し、且つ金剛頂業の度者も、亦兼習すべきことを規定して居られる。

實恵惟譯(A. D. 693)の佛說隨求卽得大自在陀羅尼神咒經1巻(大正二〇)は本經と同本であるが、併し餘程抄略されてゐる。而して本經の本邦への請來者は、空海(A. D. 774—835)・圓仁(A. D. 794—864)・惠運(A. D. 798—871)・圓珍(A. D. 814—891)の四師である。

❼(注釋) 注一卷(寫)明覺、鈔三卷(刊)亮法 (參考) 貞元錄第一五 (神林隆淨)

普遍光明大隨求陀羅尼經 ❶(日)Fu-hen-kō-myō-dai-zui-gu-da-ra-ni-kyō. (支)Fu-pien-kuang-ming-ta-suei-ch'iu-t'o-lo-ni-ching. 普遍光明清淨熾盛如意寶印心無能勝大明王大隨求陀羅尼經、隨求陀羅尼經、隨求經 ❷2巻 ❸存、大正二〇・六一六No.1153、館闕九、卍一六・七、麗1375微、明北1037取、清1037取、明南1036思、Nj.1042 ❹唐不空(神龍元—大曆九A. D. 705—774)譯 ❺普遍光明清淨熾盛如意寶印心無能勝大明王大隨求陀羅尼經の下を見よ。

普遍智藏般若波羅蜜多心經 ❶(日)Fu-hen-chi-zō-han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō. (支) Fu-pien-chih-tsang-pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching. ❷1巻 ❸存、大正八・八四九No.253、卍續一・一・四、館月九、卍續一・一・四、北1344廻、麗1293磨、法1105機、至23翔、❹唐法月(永徽四—天寶二A. D. 653—743)重譯 ❺正說分と見らるべき箇處は玄奘譯般若心經と異る處はないが、序分及び流通分に心經より以外の夢素を持つてゐる。卽ち、會坐に觀世音、文殊、彌勒等の諸菩薩が居り、佛が慧光三昧に入り般若を行じて五蘊皆空を照見す。こゝに舍利弗は觀世音菩薩に請うて普遍智藏たる心經の分別解說を願ふ事になつてゐる。然し、要旨は心經と異ることなければ、心經の一異本として心經成立史の上からは重視せられる。

普法義經 ❶(日)Fu-hō-gi-kyō. (支)Fu-fa-i-ching. (梵)Artha-vistra (藏傳) (藏) hphag-pa don rgyas-pa shes-bya-bahi chos-kyi rnams-grabs 具法行經、普義經、舍利弗普法義經 ❷1巻 ❸存、大正一・九二二No.93、館宿七、卍一四・一、北720若、南734若、元725若、明北562條、清562條、麗724止、天719若、指672止、法709止、至935仕、明南676條、Nj.556 ❹安世高譯 ❺後漢元嘉二(A. D. 152) ❻廣義法門經の下參照。 ❼(參考) 出三藏記第二、三寶紀第四、內典錄第一、譯經圖紀第一、開元錄第一、貞元錄第一、第二

普法義經 ❶(日)Fu-hō-gi-kyō. (支)Fu-fa-i-ching. 普義經 ❷1巻 ❸缺 ❹西晉竺法護(一泰始二—建興元A. D. 266—313—)譯 ❺第二譯。 ❼(參考) 開元錄第一五、貞元錄第二四

普明王經 ❶(日) Fu-myō-ō-kyō. (支)Fu-ming-wang-ching. ❷1巻 ❹失譯 ❺六度集經第四卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第三、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

普明香嚴禪師語錄 ❶(日)Fu-myō-kō-gon-zen-ji-go-roku. (支) Fu-ming-hsiang-yen-ch'an-shih-yu-lu. ❷1巻 ❸存 ❹清香嚴譯、明環等編 ❺康熙年間 ❼(駒大)

普明國師行業實錄 ❶(日)Fu-myō-koku-shi-gyō-jitsu-roku. 智覺普明國師行業實錄 ❸存、續群書類從第九 ❹芳通編

普明國師行狀 ❶(日)Fu-myō-koku-shi-gyō-jō. ❷1巻 ❸存、續群書類從第九 ❹芳通編 ❺具名を寶輝回山智覺普明國師行業實錄といひ、春屋妙葩の行業事實を記錄せるものである。初に俗姓を詳にし疎石の別に當ることを記し、幼少の間疎石に師事して悟らず、嘉曆乙亥夏清拙和尙を南禪寺に訪ひて典座に充てられ、結制に衆の爲に茶拂し、康永元年竺僊和尙を天龍に訪ひて後堂に充てられたる等の修道を記し、貞治元年癸卯阿州の大饑に際し、饘粥を備へて貧人に施したること、同甲辰春景憁寺開堂慶讚をなし、同月光厳法皇と對語移日に及びしこと、應安二年南禪寺の山門建立に關し延曆寺僧徒と論議せしこと等、嘉慶戊辰秋永逝に至る七十八年間の生涯の行跡を詳細に敍し、其の紀年錄とも稱すべき貴重なる實錄である。

普明國師語錄 ❶(日)Fu-myō-koku-shi-go-roku. 智覺普明國師語錄、普明錄 ❷6巻或8巻 ❸存、大正八〇・六三三No.2369 ❹春屋妙葩(應長元—嘉慶二A. D. 1311—1388)語 ❺智覺普明國師語錄の下を見よ。 ❼(參考)扶桑禪林僧寶傳

普明石關禪師語錄 ❶(日)Fu-myō-seki-kwan-zen-ji-go-roku. (支)Fu-ming-shih-kuan-ch'an-shih-yu-lu. ❷1巻 ❸存 ❹清石關譯、芳桂等編 ❺康熙一九刊 ❼(駒大)

普明菩薩會 ❶(日) Fu-myō-bo-sa-tsu-e. (支) Fu-ming-p'u-sa-hui. (梵) Kāśyapa-parivarta (Ed. by S. Holstein, in the original Sanskrit, in Tibetan, and in Chinese. 梵藏漢六種合刊、商務印書館發行 1926) (藏) hphags-pa bod-sruń gi lepu shes-bya-ba theg-pa chen-pohi mdo ❸存、大寶積經第一一二(大正一一・六三一 Nn.310, 43) ❹失譯 ❺本經、譯者不明、もと大寶積經と稱されたるものを、菩提流志によつて大本の大寶積經の中に編入せられて第四十三會とせられたものである。他に三異譯及び梵本と西藏譯あり、詳細は大迦葉問大寶積正法經の下を見よ。

(美濃晃順)

普明錄 ❶(日)Fu-myō-roku. 智覺普明國師語錄、普明國師語錄 ❷8巻或6巻 ❹寫本(巻大、餘大・三七六九)

❸存、大正八〇・六三三 No. 2560 ❹泰屋妙花・應長元—嘉慶二 A. D. 1311—1388)語 ❺智覺普明國師語錄の下を見よ。❼(参考) 日本禪林撰述書目

普門院藏書目錄 ❶(日) Fu-mon-in-zō-sho-moku-roku. ❸存 ❼(参考) 經籍目錄

普門經 ❶(日)Fu-mon-gyō. (支)Fu-men-ching. 普門品經 ❷一卷 ❸存、大正一一・七七〇 No. 315A、卍六・三、闕3) 乃、No. 30 ❹竺法護譯 ❺西晉太康八(A. D. 287) ❻普門品經の下を見よ。

普門經 ❶(日)Fu-mon-kyō. (支)Fu-men-ching. ❷一卷別本 ❸存、大正一一・七七七 No. 315、鎌地八、卍六・三、北30服、南32服、元27服、明北27服、清27服、天29服、指26乃、法33乃、至97位、明南27服、No. 30 ❹竺法護譯 ❺西晉太康八(A. D. 287) ❻普門品經の下を見よ。

普門顯禪師語錄附塔銘 ❶(日) Fu-mon-ken-zen-ji-go-roku-tsuketari-tō-mei. (支)Fu-men-hsien-ch'an-shih-yü-lu & t'a-ming. ❷一冊 ❸存 ❹清普門澄顯語、性風記 ❺康熙四七刊(駒大)寫本(京大、禪・一七ヲ・七)

普門藏書明德目錄 ❶(日)Fu-mon-zō-sho-mei-toku-moku-roku. ❷一卷 ❸存 ❹知有編 ❺寫本(帝國、一四二・一六二)

普門品 ❶(日)Fu-mon-bon. (支)Fu-men-p'in. 觀世音菩薩普門品、法華經普門品、妙法蓮華經觀世音菩薩普門品、觀音普門品、普門品經、觀音經 ❷一卷 ❸存、妙法蓮華經第七(大正九・五六 No. 262) ❹姚秦鳩摩羅什(建元二—義熙九 A. D. 344—413)說(義熙中譯)譯 ❻觀世音菩薩普門品の下、並に妙法蓮華經の同品の下を見よ。❺天保七寫(高大、寄・一・二三)享保一〇寫(寶菩提院)寫本(高大、寄・一・二三) ❼(参考) 出三藏記集二、三寶紀第六、內典錄第二、譯經圖紀第二、開元錄第二、真元錄第三、第四 ❺壞煌發現寫本(谷大、餘乙・一四)

(布施浩岳)

普門品經 ❶(日)Fu-mon-bon-gyō. (支)Fu-men-p'in-ching. 普門經 ❷一卷(別本) ❸存、大正一一・七七七 No. 315 ❹竺法護譯 ❺西晉太康八(A. D. 287) ❻本經は大正藏 No. 315 の註(七)に明本であつて對校困難なる故、別に卷末に附加すると謂つてあるから、別に內容を解說する必要はあるまい。內容は勿論 No. 315 と同樣で、只諸所に用語の異りを見るのみである。

(布施浩岳)

普門品經 ❶(日)Fu-mon-bon-gyō. (支)Fu-men-p'in-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹東晉祇多蜜譯 ❺第二譯・❼(参考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一四、真元錄第二四

普門品講 ❶(日)Fu-mon-bon-kō. ❷一卷 ❸存 ❹寶撰 ❺寫本(南禪院)

普門品釋 ❶(日)Fu-mon-bon-shaku. ❹圓珍(弘仁五—寛平三 A. D. 814—891)撰 ❼(参考) 山家祖德撰述寫目集卷上

普門品疏 ❶(日)Fu-mon-bon-sho. (支)Fu-men-p'in-su. 觀音義疏、觀音經疏、別行義疏、法華經觀音品義疏、法華觀音品疏、妙法蓮華經觀音品義疏 ❷二卷 ❸存、大正三四・九二一 No. 1703、鎌調五、卍三三・三、明南1533何、No. 1557 ❹隋智顗(大同四—開皇一七 A. D. 538—597)說、灌頂(天嘉二—貞觀六 A. D. 561—632)記 ❺觀音義疏の下を見よ。

普門品鈔 ❶(日)Fu-mon bon-shō. 普門品假名鈔 ❷三卷 ❸存 ❹西吟(慶長一〇—寛文三 A. D. 1605—1663)述 ❺普門品假名鈔の下を見よ。❹自筆本(龍大、別置)

普門品廣說 ❶(日)Fu-mon-bon-fu-setsu. (支)Fu-men-p'in-fa-shuo. 觀音經 普門品廣說 ❷一卷 ❸存、卍續一・五五・二 ❹清代靈耀述 ❺康熙一七(A. D. 1678) ❻觀音經普門品廣說の下を見よ。❹刊本(晉、の・五・左・五一)

普門品補義 ❶(日)Fu-mi-mi-bon-fu-gi. ❷一帖 ❸存 ❹德川時代寫 ❹(寶龜院)

普曜經 ❶(日)Fu-yō-kyō. (支)Fu-yao-ching. (梵藏) 方廣大莊嚴經參照、方等本起經 ❷八卷 ❸存、大正三・四八三 No. 186、鎌宮四、卍九・七—八、北114鳴、南114鳴、元110鳴、明之151大、清156大、

闕113王、天113鳴、指103王、法111王、至191組、明南117校、No. 167 ❹竺法護譯 ❸西晉永嘉二(A. D. 308)

❻一に方等本起經と名づく。佛が舍衛國の祇園に在せし時、諸天の請に應じて、菩薩(釋迦牟尼佛)の降生より初轉法輪を經て迦維羅衛城に歸るまでの事蹟を說けるもの。〔本經各卷の品目〕〔卷一〕(一)論降神品、(二)說法門品、(三)所現象品、〔卷二〕(四)降神處胎品、(五)狄生時三十二瑞品、〔卷三〕(六)入天祠品、(七)現書品、(八)坐樹下觀聖品、(九)王爲太子求妃品、(一〇)試藝品、(一一)出觀品、〔卷四〕(一二)出家品、(一三)告車匿捷馬品、〔卷五〕(一四)異學三部品、(一五)六年勤苦行品、(一六)迦林龍品、(一七)召魔品、〔卷六〕(一八)降魔品、(一九)行道觀思品、(二〇)諸天賀佛品、〔卷七〕(二一)觀樹品、(二二)商人奉鉢品、(二三)梵天勸助說法品、(二四)拘隣等品、〔卷八〕(二五)十八變品、(二六)佛至摩竭國品、(二七)化舍利弗目連品、(二八)優陀耶品、(二九)歎佛品、(三〇)囑累品等八卷、三十品あり。

〔本經の譯傳〕第一譯、竺法護譯、普曜經八卷、第二譯は本、竺法護譯、第三譯、普曜經八卷、西涼州沙門智嚴、元嘉四年(A. D. 427)譯、第四譯、方廣大莊嚴經十二卷、施樂訶羅、永淳二年(A. D. 683)譯、中、第一、第三兩譯は缺本。

尙、本經梵漢、梵藏本との關係及び諸種の問題は方廣大莊嚴經を見よ。

❼(参考) 出三藏記第二、三寶紀第六、內典錄第二、譯經圖紀第二、開元錄第二、真元錄第三、(西尾京雅)

普曜經 ❶(日)Fu-yō-kyō. (支)Fu-yao-ching. 普曜經 ❷六卷 ❸缺 ❼(参考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五

普曜經 ❶(日)Fu-yō-kyō. (支)Fu-yao-ching. ❷八卷 ❸缺 ❹宋智嚴寶雲共譯 ❺第三譯。❼(参考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一四、真元錄第二四

ふもんぼん ❶(日)Fu-mo-n-bo-n. 妙法蓮華經觀世音菩薩普門品 ❷一卷 ❸存 ❹嘉永元刊 ❹(龍大、二一三・四)

傅大士歌 ❶(日) Fu-dai-shi-ka. (支)Fu-ta-shih-ko. ❷一卷 ❸存 ❼(参考)智證大師請來目錄

傅大士還源詩 ❶(日) Fu-dai-shi-gen-gen-shi. (支)Fu-ta-shih-huan-yüan-shih. 傅大士證詩十二首 ❷一卷 ❼(参考) 入唐新來聖教目錄

傅大士還詩十二首 ❶(日)Fu-dai-shi-gen-shi-jū-ni-shu. (支)Fu-ta-shih-huan-shih-erh-shou. 傅大士證源詩 ❷一卷 ❼(参考) 傳教大師將來越州錄

傅大士錄 ❶(日)Fu-dai-shi-roku. (支)Fu-ta-shih-lu. 善慧大士語錄、善慧大士錄、大士錄 ❷四卷 ❸存、卍續二・二五・一 ❹唐善慧傳燈(建武四—大建元 A. D. 497—569)語、樣訓編 ❺善慧大士語錄の下を見よ。

富國の礎 ❶(日) Fu-koku-no-ishizue. 產業と佛教宮國の礎 ❷二卷 ❸存 ❹興教書院編 ❺明治四三刊 ❹(谷大、餘洋・二七三)

富士記 ❶(日)Fu-ji-ki. ❷一冊 ❸存 ❹日因 ❹寫本(立大、D〇・二九一)

富士行者遺跡 ❶(日) Fu-ji-gyō-ja i-seki. ❷一卷 ❸存 ❹昭和七刊 ❹山梨縣城山輪源寺

富士講唱文獨見祕書 ❶(日) Fu-ji-kō-shō-mon-doku-ken-hi-sho. ❷二冊 ❸存、信仰叢書之內 ❺大正四刊 ❹(谷大、外洋・一七一二)

富士山本門寺根源緣起 ❶(日) Fu-ji-san-hom-mon-ji-kon-gen-en-gi. ❷一卷 ❸存 ❹刊本(立大、A〇六・七五)

❷靜岡本門寺根源山務誌

富士本門寺文書集 ❶(日) Fu-ji-hon-mon-ji-mon-jo-shū. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(立大、D〇・二九四)

富士門流口傳草案 ❶(日) Fu-ji-mon-ryū-kū-den-sō-an. ❷一卷 ❸存 ❹富山日要述記 ❹寫本(立大、D〇・二七八)

富樓那會 ❶(日) Fu-ru-na-e. (支) Fu-lou-na-hui. (梵)Pūrṇa-pariprcchā (藏傳)(藏) bpḥags-pa gos-pos shus-pa shes-brya-ba theg-pa chen-poḥi mdo. 富樓那問經、菩薩藏經、大悲心經 ❷三卷 ❸存、大寶積經第七七—七九(大正一一・四三四 No. 310, 17) ❹鳩摩羅什(建元二—義熙九 A. D. 344—413)說(義熙年中譯)譯 ❺後秦弘始七(A. D. 405)

❻本經西藏譯は譯者不明であるが、內容の吻合より見て恐らく支那傳羅什譯の重譯であらうといはれてゐる。又漢譯はもと富樓那問經と稱して羅什の譯出せるものを、菩提流志が大寶積經第十七會に編入したものである。○本經は前後二部より成る。前部は五品あり、佛、富樓那の請問によりて、菩薩行、多聞、不退に就て說法し神通力を現じて衆を敬信せしめ、本經を阿難に付囑す、後部は目連の請問に應じて過去世の大悲行を說き、象手比丘が度生未だ終らざるに般涅槃し給ふは如何と難ずるに對し、無相法を說いて人の度すべきなきを答へ給ひ、富樓那、成說す。以下各品の概要を記さう。(菩薩行品第一) (1)富樓那發問。佛に菩薩所修の行法、多聞修集の道、不退轉法に就て請問す。以下第五品まで佛答、今品はその第一菩薩行を說かる。(2)菩薩四帝有行。綺語・惡辱・勤正道・度生發心。(3)菩薩四喜心法。一、他の生死を樂しむを見て自己の佛道に在るを喜ぶ。二、他の懈怠なるを見て自己の綺語するを喜ぶ。三、他の諂誑あるを見て自己の惡悲を抱くを喜ぶ。四、他に勝ちて勤行するを喜ぶ。(4)菩薩四離難法。諂誑・學問・樂空閑・自他安住菩提道。(多聞品第二) 菩薩多聞修集四法。一、十二部經を讀誦正念如說修行す。二、一切法に依止せず不住に住す。三、念佛念法して法の貪愛を離る。四、無所得の惡を成就す。(不退品第三) (a)不退成就四法。(1)未聞の法を聞きて即には非と言はず。——過去世、一切功德光明王如來の法滅の時、那羅延比丘出でて未聞の法を喜び、その弟子、摩訶耐摩陀また未聞の法を喜びたりとの本緣譯を揭ぐ。(2)惡・不淨・因緣の三觀を修して三

毒を斷ず。(3)除・入・界・因緣の法を知りて無依正智を成就す。(4)菩薩の學戒を守る。學戒とは一切法を學ぶことなりと。一切法智乃至無生智、二諦等の諸智を說く。(5)隨聞四法。(1)惡知識に遭ひて僞佛淨信の經を聞く。(2)菩薩に應ずる經を聞かず。——菩薩藏經・發菩提心經・稱菩薩事經・應六波羅蜜經の名を舉ずるも一定經の固有名詞ではないであらう。(3)深經を聞くも不信未達なるもの。(4)深經を聞くも惜みて他を教化せず。(6)廻向不過失四法。持戒・憶念・精進・多聞。(d)利益菩提四法。持戒・忍辱・精進・多聞。(e)不生厭悔四法。(1)六波羅蜜を勤修して大慈を成就す。(2)諸佛塔寺供養。(3)法供養。道品等を如說修行すること。(4)僧供養。以上卷七十七。〔具善根品第四〕 具足善根四法。(1)忍辱の法を修して平等波羅蜜を得。(2)五欲を離れて出家を願ふ。(3)常に法を求めて之を語す。——過去世、毗樓羅如來の法滅の時出生して正法を興せる陀摩尸利比丘の本緣譚を揭ぐ。(4)善知識に親近して六波羅蜜を行ず。〔神力品第五〕 (1)佛、毛孔放光の神通を現ず。(2)阿難にこの經を付囑し、本經を名けて菩薩藏中の轉法輪經と稱す。(3)過去の諸佛も亦この竹園に於てこの經を說くと(以上卷七十八)。〔大悲品第六〕 目連の憶念を知つて、佛、菩薩時の大悲行を明す。而して菩薩の大悲は、代受苦願と一子地愛に基く忍力成就なりとして、過去世菩薩行の本生譚九話を擧ぐ。(1)然灯佛時の本生、(2)人欲王子本生、(3)作者身施肉本生、(4)施血肉本生、(5)大力王本生、(6)忍力仙本生、(7)奴僕本生、(8)吉祥商主本生、(9)象王本生(他傳に鹿王とす)。〔答薩品第七〕 象手比丘、如來の滅度に對する僞經を擧げて問ふ。實語者たる如來、何ぞ度生未だ盡きざるに般涅槃するやと。佛之に對し、(1)衆生空不可得、何を以てか度せん。(2)佛又無相不可得、見法者見佛するのみ、何ぞ生あり滅あらん。(3)如來の作證は諸法の性相を觀じて因緣生とせしに在り、この諸法の性相は、諸佛世に出づるも出でざるも常住なり、如說行者はこの中に智明を得ん。(4)佛身滅するも、未來佛に授記して佛種を斷ぜず。(5)故に佛身滅するも作證の法滅せず、度生無窮なれば佛は實語者たるを失はずとの意を明し、次で、(6)往昔外道仙人と生れて發心し、四法(自發心・教他發心・發大乘者を見て疑まず・衆生の所行を尊護す、自來諸法爲他說)を成就して諸天をして佛となるべきを知らしめたりとの本生を說き給ふ。〔富樓那品第八〕 富樓那、佛の所說を讚說す。 (美濃晃順)

富樓那鈔 ❶(日)Fu-ru-na-sho. ❷三冊 ❸存 ❹(哲、あ・二・中・三六)

富樓那問經 ❶(日)Fu-ru-na mon-kyō. (支)Fu-lou-na-wen-ching. 富樓那會、菩薩藏經、大悲心經 ❷三卷 ❸存、大寶積經第七七—七九(大正一一・四三四 No. 310, 17) ❹鳩摩羅什(建元二—義熙九 A.D. 344—413)說(義熙年中寫) ❺姚秦弘始七(A.D. 405) ❻富樓那會の下を見よ。

補養京華集 ❶(日)Fu-yō-kyō-ge-shū. ❷六卷 ❸存 ❹橫川景三(永享元—明應二 A.D. 1429—1493)撰 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

補遺 ❶(日)Hu-i. ❸存、慈眼大師全集卷下

❹慈眼大師天海大僧正の全集の補遺で編者が左記の斷片の集錄に對して命名せる所である。即ち天海の著作を主とせる第一編に關する補遺には近江洲比叡山延曆寺正覺院灌室印信、緣密灌頂第五三昧耶相承、西山流瑜祇灌頂相承、法曼流相承(日本國近江州比叡山無動寺胎藏恵生曼荼羅所)、法曼流相承(日本國近江洲比叡山無動寺金剛界大曼荼羅所)、上州世良田長樂寺法流相承、東照宮大權現講式、慈眼大師文書墓補遺を收む。第三編關係文書の補遺には慈眼大師關係文書補遺、峻然大僧正遺稿、東叡山御建立願旨並輪王御門室由來、善光寺別當傳略、會津風土記、備陽武義雜談、古證文、石道夜話を收め何れも斷片的のものであるが天海の風格を知り且つ研究資料とするに可なるもので、全集下卷に收錄されてゐる。 (渡邊最昌)

補缺飾宗記 ❶(日)Fu-ketsu-shoku-shu-ki. (支)Pu-chüeh-shih-tsung-chi. 四分律疏補缺飾宗義記 ❷一卷 ❹唐定賓述 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2265

補闕章 ❶(日)Fu-hetsu-shō. (支)Pu-ch'üeh-chang. 大乘法苑義林章補闕、大乘法苑林章補闕、大乘法苑林章補闕章、大乘義林章補闕、大乘義林章補闕、補闕義林章 ❹卷四、七、八現存、卍續二・三・一 ❺崇慧沼(—開元二 A.D. 713)述 ❻大乘法苑義林章補闕の下を見よ。 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷上、諸宗章疏錄第一

補闕法相義 ❶(日)Fu-hetsu-hō-sō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹基韓(享保三—寛政三 A.D. 1718—1791) ❹明和九刊(龍大、研佛)安永二刊(龍大、三六二五・五〇)(谷大、餘大・六二〇/正大、一一九二・三四〇/高大、寄・一三/哲、一・く・七・中・一七)

補處智力問者 ❶(日) Fu-sho-chi-riki-mon-ja. 文政六年度補處智力問者 ❷一卷 ❸存 ❹寫本(谷大、餘大・三六六九)

補禪林僧寶傳 ❶(日) Fu-zen-rin-sō-hō-den. (支) Pu-ch'an-lin-seng-pao-ch'uan. ❷一卷 ❸存、禪林僧寶傳之內 ❹宋慶老撰 ❺刊本(京大、藏・一九七・八)

補續高僧傳 ❶(日)Fu-zoku-kō-sō-den. (支)Pu-hsü-kao-seng-chuan. ❷二十六卷 ❸存、卍續二乙七・一—二 ❹明明河撰

❺本書は明の華山法如何公が歷代高僧傳の未だ該羅せざる事跡の湮沒せんことを歎き、自ら囊を撥ひ笈を負ひて、遍く山岳に游び、斐禪疲竭を索ね、實に三十年を閱みして完成したる名篇である。全二十六卷。趙宋以來四百餘年間五百名程の僧傳を收め、明の崇禎中序を附して上梓公刊されたものである。其の內容左の如し。

〔卷第一〕 譯經篇第一

宋天息災法天施護三師。法護性淨二師。金蘇陀室利附、寶公慧洪。元帝師發思八、金剛上師。佛智三藏。名闡約戰理。雪嶺法師。

明西天國師附、樂瑞巴經。 具生者經天大師附、底哇谷思

〔卷第二〕 義解篇第二

宋四明知禮法師附、尚賢。慈雲懷主盟式。長水子璿法師。從雅少康二師。本如子琳二公。思恬慧舟二公。雪川仁岳。亞休惟巳。無象元淨。耀忠左伸二師。從諫希最二師。超果靈智。介然能師二公。東成寫謙二師。壽聖從義附、了宥。四明大師演公。安奏令觀。成巷慧恰二師。晉水淨源附、誠法師、義天僧統。慧菴有嚴。孤山智圓。

〔卷第三〕

寶雲中立。寶林有朋。青台宗坦。圓神道環。智涵了然附、智仙。東溪如溟。法久師孤二師。思煥覺先二師。一相宗利附、若水。與成圓智二師。文秀智達。草菴道因附、小因。月堂慧詢。若煥若納。擇卿可親有朋三師。慧定子猷二法師。廣煥慧定。淨恬了宜二師。義月淨慧二師。元寶宗印。金華能寂大士。靈山壇雲。

〔卷第四〕

元浦尙法師。子直義良。墨教定演。栖晨妄和尙。秋虛義入。普覺英辯法師。崇恩福元講主德護。妙文講主。太行慧印。幼堂法主寶藏附、弟金。普寧弘教大師了性。同舟法師弘濟附示譽菴。大用法師心才。義繼本無二師。秀衡法師允若。法雲義柔。明止翁慧超。一菴一如附、能義。一雲大同。正順文才二公。原璞法師士璋。

〔卷第五〕

古庭法師善學。東溟法師慧日附、智明。無言能義。靈照清天。獨芳洪蓮。風頭照師道孚。萬松林千松得百松覺。鹿亭法師雲住。素菴法師附、元齋幻齋二比丘。月川法師儒澄。福藏慈覺。九峯如幻。清凉方金。雲棲蓮池袾宏。

〔卷第六〕 習禪篇第三

唐蟲洋忠佛手岩二禪師。環能璋黃檗慧二禪師。雲居道簡禪師。蚊子和尙。寶開大師惟勁禪師、鼓山國師神晏附從展、羅山道閑禪師、黃龍晦明祖謙二禪師、太原孚上座、大梅小梅二禪師。烏巨儀晏禪師。梁岩梅常覺禪師。重雲智晫禪師。周大章清豁冲照二禪師。宋風穴延沼禪師。歸宗道詮禪師。法燈泰欽禪師。奉先深清凉明二禪師。洞山察薦福古二禪師。首山省念禪師。汾陽昭業縣省神鼎證三禪師。谷隱聰虔慧球二禪師。

〔卷第七〕

大陽警玄禪師。慈明楚圓禪師。大愚芝法華鼎鄧瑤覺三禪師。黃牛性政禪師。圓通慎賢禪師。黃龍法寶禪師。浮山法遠禪師。法華道隆禪師。泉大道宗道者二公。福昌惟善禪師。雪竇重顯禪師。洞山應祥菴主二公。北禪智賢禪師。開先善暹禪師。南安巖自晨尊者。洞山寶潭淨沒二禪師。常照志逢禪師。棲賢澄諲禪師。

〔卷第八〕

宜州興教坦禪師。雲封道圓禪師。黃檗勝昭覺白信相鎬三禪師。報恩慧元禪師。景禪順禪師。惠洪昭慶禪師。隆慶々閑禪師。覺昭子琦禪師附道希。黃龍祖心禪師。天衣義懷慈感禪師。延恩法安禪師。玉泉承皓禪師。福嚴慈感禪師。點胸可菴禪師附、善侍者。歸宗可宣禪師附趙信。月庵山琳公附雲達。福州信禪師。法雲法秀禪師附小秀。圓照宗本禪師。

〔卷第九〕

黃檗道全禪師。石頭懷志上座。法雲某禪師。大通善本禪師。大洪報恩禪師。希廣道者。佛果克勤禪師。丹霞子淳禪師。淨慈守遂禪師附慶顯。淨因自覺禪師附、祿純。小南禪師附、海評。隆慶利儀禪師。萬年法一禪師附、常主座。普交有儒二禪師。五祖表自。元禮主座普祿知藏。眞歇清了禪師。石鑑法恭禪師附、自得庠。竹篙德明禪師附、守環。

〔卷第十〕

靈雲慧遠禪師。何山守珣禪師附、智才。景元布衲。月堂道昌禪師。世奇首座。雪堂道行禪師。文殊正道禪師附、智善。虎丘紹隆禪師。寶王國裕禪師附、水菴。法石瓚珍禪師。興國了璨禪師。足菴智鑑禪師。佛慧法泉禪師。法洁法因二禪師。開福道寧禪師。守慧禪師附、布衲効常。別峯寶印禪師附、慧棒。無用常全禪師。石霜智本禪師。指要逆英禪師。徐雪智策禪師。佛照德光。

〔卷第十一〕

鹿苑恬本禪師。簡堂行瓊禪師。或菴師體禪師。枯木祖元禪師。妙峯禪師。妙空智訥禪師。開善道謙禪師附、宗元。良書記元菴禪師。煨堂了一禪師。報恩文獺禪師。妙智從廓禪師附、宜意。退谷義雲禪師附、石橋宜公。笑翁妙堪禪師。松源崇岳禪師。偃溪廣聞禪師。藏叟善珍禪師。痴叟如珏禪師。無準師範禪師。石田法薰禪師。痴絕道沖禪師。瑞巖豈蒙禪師。斷橋妙倫禪師。鼓山道升禪師。卓庵智燈禪師。慧圓上座。虛舟普度禪師。天奇瑞禪師。虛堂智愚禪師。

〔卷第十二〕

金佛光道悟禪師。政官了奇二禪師。清凉弘相禪師。潭拓圓性禪師。竹林相了禪師。普照法慶禪師。古佛義廣禪師附、道海。海雲印簡禪師。元鼎鑑正因禪師。元叟行端禪師。梅巖元悉禪師。竺源水盛禪師。一溪如公。本源達公。橫川如洪禪師。竹泉法林禪師。一關正逸禪師。定水妙源禪師。鐵山瓊禪師。東嶽淨日禪師。

〔卷第十三〕

元石湖至美禪師。古鼎鼎銘禪師。無見先覩禪師附、光書藏。天目了義禪師。中峯明本禪師。石屋清珙禪師。無作文遠禪師。日本夢窓疎石國師。松隱茂禪師。竺遠正源禪師。桐江紹大禪師。千嚴元長禪師。無用守賁禪師。日本古先印原禪師。古溪縞源禪師。無練尊禪師。月泉回鮮禪師。松溪覺宗禪師。舜田明孜禪師。清谷共礼禪師。秋洪元滿禪師。

〔卷第十四〕

明廣慧智及禪師。玉泉宗璇禪師。月林霞禪師。復原縞報禪師。楚石梵琦禪師。性原慧明禪師。天霞元滿禪師。孤峯明悟禪師。夢執曇華禪師。手源宗澤禪師。天霞元滿禪師。白菴力金禪師。覺原慧曇禪師。一源永寧禪師。約之崇裕禪師。碧峯寶金禪師。學中慎信禪師。

〔卷第十五〕

清遠懷渭禪師。大千慧照禪師。日本無初德初禪師。非幻道永禪師。無旨可授禪師。德

普

普 〔名〕 ❶ 広い。 ❷ 広く行き渡る。 ❸ 広く。 ❹ 広く。 ❺ 広く。 ❻ 広く。 ❼ 広く。 ❽ 広く。 ❾ 広く。 ❿ 広く。 ⓫ 広く。 ⓬ 広く。 ⓭ 広く。 ⓮ 広く。 ⓯ 広く。 ⓰ 広く。 ⓱ 広く。 ⓲ 広く。 ⓳ 広く。 ⓴ 広く。 ㉑ 広く。 ㉒ 広く。 ㉓ 広く。 ㉔ 広く。 ㉕ 広く。 ㉖ 広く。 ㉗ 広く。 ㉘ 広く。 ㉙ 広く。 ㉚ 広く。 ㉛ 広く。 ㉜ 広く。 ㉝ 広く。 ㉞ 広く。 ㉟ 広く。 ㊱ 広く。 ㊲ 広く。 ㊳ 広く。 ㊴ 広く。 ㊵ 広く。 ㊶ 広く。 ㊷ 広く。 ㊸ 広く。 ㊹ 広く。 ㊺ 広く。 ㊻ 広く。 ㊼ 広く。 ㊽ 広く。 ㊾ 広く。 ㊿ 広く。

普段 〔名〕 ❶ 広く。 ❷ 広く。 ❸ 広く。 ❹ 広く。 ❺ 広く。 ❻ 広く。 ❼ 広く。 ❽ 広く。 ❾ 広く。 ❿ 広く。 ⓫ 広く。 ⓬ 広く。 ⓭ 広く。 ⓮ 広く。 ⓯ 広く。 ⓰ 広く。 ⓱ 広く。 ⓲ 広く。 ⓳ 広く。 ⓴ 広く。 ㉑ 広く。 ㉒ 広く。 ㉓ 広く。 ㉔ 広く。 ㉕ 広く。 ㉖ 広く。 ㉗ 広く。 ㉘ 広く。 ㉙ 広く。 ㉚ 広く。 ㉛ 広く。 ㉜ 広く。 ㉝ 広く。 ㉞ 広く。 ㉟ 広く。 ㊱ 広く。 ㊲ 広く。 ㊳ 広く。 ㊴ 広く。 ㊵ 広く。 ㊶ 広く。 ㊷ 広く。 ㊸ 広く。 ㊹ 広く。 ㊺ 広く。 ㊻ 広く。 ㊼ 広く。 ㊽ 広く。 ㊾ 広く。 ㊿ 広く。

普段着 〔名〕 ❶ 広く。 ❷ 広く。 ❸ 広く。 ❹ 広く。 ❺ 広く。 ❻ 広く。 ❼ 広く。 ❽ 広く。 ❾ 広く。 ❿ 広く。 ⓫ 広く。 ⓬ 広く。 ⓭ 広く。 ⓮ 広く。 ⓯ 広く。 ⓰ 広く。 ⓱ 広く。 ⓲ 広く。 ⓳ 広く。 ⓴ 広く。 ㉑ 広く。 ㉒ 広く。 ㉓ 広く。 ㉔ 広く。 ㉕ 広く。 ㉖ 広く。 ㉗ 広く。 ㉘ 広く。 ㉙ 広く。 ㉚ 広く。 ㉛ 広く。 ㉜ 広く。 ㉝ 広く。 ㉞ 広く。 ㉟ 広く。 ㊱ 広く。 ㊲ 広く。 ㊳ 広く。 ㊴ 広く。 ㊵ 広く。 ㊶ 広く。 ㊷ 広く。 ㊸ 広く。 ㊹ 広く。 ㊺ 広く。 ㊻ 広く。 ㊼ 広く。 ㊽ 広く。 ㊾ 広く。 ㊿ 広く。

普段着姿 〔名〕 ❶ 広く。 ❷ 広く。 ❸ 広く。 ❹ 広く。 ❺ 広く。 ❻ 広く。 ❼ 広く。 ❽ 広く。 ❾ 広く。 ❿ 広く。 ⓫ 広く。 ⓬ 広く。 ⓭ 広く。 ⓮ 広く。 ⓯ 広く。 ⓰ 広く。 ⓱ 広く。 ⓲ 広く。 ⓳ 広く。 ⓴ 広く。 ㉑ 広く。 ㉒ 広く。 ㉓ 広く。 ㉔ 広く。 ㉕ 広く。 ㉖ 広く。 ㉗ 広く。 ㉘ 広く。 ㉙ 広く。 ㉚ 広く。 ㉛ 広く。 ㉜ 広く。 ㉝ 広く。 ㉞ 広く。 ㉟ 広く。 ㊱ 広く。 ㊲ 広く。 ㊳ 広く。 ㊴ 広く。 ㊵ 広く。 ㊶ 広く。 ㊷ 広く。 ㊸ 広く。 ㊹ 広く。 ㊺ 広く。 ㊻ 広く。 ㊼ 広く。 ㊽ 広く。 ㊾ 広く。 ㊿ 広く。

普段着姿 〔名〕 ❶ 広く。 ❷ 広く。 ❸ 広く。 ❹ 広く。 ❺ 広く。 ❻ 広く。 ❼ 広く。 ❽ 広く。 ❾ 広く。 ❿ 広く。 ⓫ 広く。 ⓬ 広く。 ⓭ 広く。 ⓮ 広く。 ⓯ 広く。 ⓰ 広く。 ⓱ 広く。 ⓲ 広く。 ⓳ 広く。 ⓴ 広く。 ㉑ 広く。 ㉒ 広く。 ㉓ 広く。 ㉔ 広く。 ㉕ 広く。 ㉖ 広く。 ㉗ 広く。 ㉘ 広く。 ㉙ 広く。 ㉚ 広く。 ㉛ 広く。 ㉜ 広く。 ㉝ 広く。 ㉞ 広く。 ㉟ 広く。 ㊱ 広く。 ㊲ 広く。 ㊳ 広く。 ㊴ 広く。 ㊵ 広く。 ㊶ 広く。 ㊷ 広く。 ㊸ 広く。 ㊹ 広く。 ㊺ 広く。 ㊻ 広く。 ㊼ 広く。 ㊽ 広く。 ㊾ 広く。 ㊿ 広く。

普段着姿 〔名〕 ❶ 広く。 ❷ 広く。 ❸ 広く。 ❹ 広く。 ❺ 広く。 ❻ 広く。 ❼ 広く。 ❽ 広く。 ❾ 広く。 ❿ 広く。 ⓫ 広く。 ⓬ 広く。 ⓭ 広く。 ⓮ 広く。 ⓯ 広く。 ⓰ 広く。 ⓱ 広く。 ⓲ 広く。 ⓳ 広く。 ⓴ 広く。 ㉑ 広く。 ㉒ 広く。 ㉓ 広く。 ㉔ 広く。 ㉕ 広く。 ㉖ 広く。 ㉗ 広く。 ㉘ 広く。 ㉙ 広く。 ㉚ 広く。 ㉛ 広く。 ㉜ 広く。 ㉝ 広く。 ㉞ 広く。 ㉟ 広く。 ㊱ 広く。 ㊲ 広く。 ㊳ 広く。 ㊴ 広く。 ㊵ 広く。 ㊶ 広く。 ㊷ 広く。 ㊸ 広く。 ㊹ 広く。 ㊺ 広く。 ㊻ 広く。 ㊼ 広く。 ㊽ 広く。 ㊾ 広く。 ㊿ 広く。

宗某の三人とせらるゝが、本書は其の間一契機の作である。本書は劉子翬の上書王覽に供し、丞相韓公、參政歐陽文忠公相共に觀歎し、經證に訛謬無しとして旌して明教大師を授けられたりとせらる。

内容は三卷、上卷(原教・勸書)、中卷(廣原教)下卷(孝論・壇經贊・眞諦無聖論)より成る。その論ずる所は五戒十善と五常の調和、三教の立教各別、道所歸歸にある。品目は左の如し

上卷—原教。勸書第一。勸書第二

中卷—廣原教並叙二十六篇。

下卷—孝論、明孝章第一、孝本章第二、原孝章第三、評孝章第四、必孝章第五、廣孝章第六、戒孝章第七、孝出章第八、德報章第九、孝略章第十、孝行章第十一、終孝章第十二、壇經讃。

❼(參考) 禪籍志卷下、新編諸宗教藏總錄第三

輔教編 ❶(日)Fu-kyō-hen. 冠註輔教編 ❷十卷 ❸存 ❹元祿九刊 ❺(龍、大、二八、二・二一—二二)(谷大、餘大・六九六)

輔教編原教要義 ❶(日)Fu-kyō-hara-motono-kyō-yō-gi. 爽註輔教編原教要義 ❷六卷 ❸存 ❹元祿九刊 ❺(龍大、二八二・二三)(谷大)

輔教編考 ❶(日)Fu-kyō-hen-kō. ❷三卷 ❸存 ❹刊本(谷大、餘大・三八三七)寫本(龍大、二八二・二四)

輔行十義集註 ❶(日)Hu-gyō-jū-gi-shū-chū. ❷一卷 ❸存 ❹良運述 ❺元祿九刊 ❻(谷大)

輔行序記私聞書 ❶(日)Hu-gyō-jo-ki-shi-kiki-gaki. ❷一卷 ❸存 ❹ぼ舜 ❺刊本 ❻(眞知藏)

輔行序並註勸文 ❶(日)Fu-gyō-jo-narabini-chū-kan-mon. ❷二卷 ❸存 ❹宋版 ❺刊本(正大、一三三・一三)(哲、ね・五・中・六)

輔贊記 ❶(日)Fu-san-ki. (支) Fu-tsan-chi. ❷一卷或三卷 ❹草堂處元—崇寧二(A. D. 1103—) ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

輔正記 ❶(日)Fu-shō-ki. (支) Fu-chēng-chi. 法華經文句輔正記 ❷十卷 ❸存、卍續一・四五・一—二 ❹唐道邕 ❺法華經文句輔正記の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

輔撰八轉義並略撰八轉義 ❶(日)Fu-shō-hat-ten-gi-narabini-ryaku-shō-hat-ten-gi. ❷一冊 ❸存 ❺刊本(哲、な・一・中・一一)

輔撰八轉義 ❶(日)Fu-shō-hat-ten-gi. ❷一卷 ❸存 ❹法住(享保八—寶政一二 A. D. 1723—1800)述 ❺安永八刊 ❻(谷大、餘大・一六〇四)(龍大、二七二二・三〇—三一)(正大)(京大、日大未・一九五)

輔撰八轉義 ❶(日)Fu-shō-hat-ten-gi. 冠註輔撰八轉義 ❸存 ❺寶政一一刊 ❻(龍大、二七二二・三二—三三)

輔實鈔 ❶(日)Fu-hō-shō. ❷一包 ❸存 ❹宥快(貞和元—應永二三 A. D. 1345—1416 集 ❻明暦二寫(寶香提院)寫本・寶龜院)

輔要記 ❶(日)Fu-yō-ki. (支)Fu-yao-chi. 四分律拾毘尼義鈔輔要記 ❷六卷 ❸存、卍續一・七一・一 ❹宋允堪述 ❺慶曆二(A. D. 1042) ❻四分律拾毘尼義鈔輔要記の下を見よ。

敷政門院御一回御經供養願記 ❶(日)Fu-shō-mon-in-go-ichi-kwai-o-kyō-ki-yō-gan-ki. ❷一卷 ❸存 ❹實助記 ❺文安六(A. D. 1449) ❻(寶善提院)

諷經錦囊 ❶(日)Fu-kyō-kin-nō. 洞上行持諷經錦囊 ❷二卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

諷刺諧謔輕妙洒脫禪僧の問答 ❶(日)Fu-shi-kai-gyaku-kei-myō-sha-dai-tsu-zen-sō-no-mon-dō. ❷一卷 ❸存 ❹百島拜史 ❺昭和七刊 ❻東京中央出版社

諷誦 ❶(日)Fu-ju. ❷一冊 ❸存 ❹常用記 ❻刊本(高大、寄・一・五七)(正大、一〇八・一八)

諷誦案私集 ❶(日) Fu-ju-an-shi-sha. ❷一冊 ❸存 ❻寫本(龍大、二〇七五・二八)

諷誦含藏 ❶(日)Fu-ju-gan-zō. ❷一卷 ❸存 ❺萬治三寫 ❻(谷大、餘大・一九六五)

諷誦願文舊艸 ❶(日) Fu-ju-gwan-mon-kyū-sō. ❷一卷 ❸存、續群書類從第二八

諷誦願文草案 ❶(日) Fu-ju-gwan-mon-sō-an. ❷一卷 ❸存、群書類從第一九、新校群書類從第二二 ❹等持院殿百年忌(康正三年)、實鏡院殿左相府二十一回法事(嘉慶元年)、同二十五回八講(明德二年)、同三十三回八講(應永二年)、同三十一回(應永四年)、同三十七回(應永十年)、同三十八回(應永十一年)、同百回忌辰(文正元年)、普光院殿大相國三十一回忌辰(文明十三年)、同四十二回法事(文明十四年)、同四十三回法事(文明十五年)、同四十四回法事(文明十六年)、同四十五回法事(文明十七年)、同四十七回法事(文明十九年)、同四十八回法事(長享二年)、同四十九回法事(長享三年)、同五十回法事(延德二年)の各諷誦願文の草案を輯めたるもの。

(後藤大用)

諷誦啓膊集 ❶(日) Fu-ju-kei-mō-sho. ❷三冊 ❸存 ❻刊本(哲、あ・二・中・九)

諷誦作法 ❶(日) Fu-ju-sa-hō. ❷一卷 ❸存 ❺萬治二刊 ❻(正大、一〇八・一六)

諷誦指南 ❶(日)Fu-ju-shi-nan. ❷四卷 ❸存 ❹龍山撰 ❼(參考) 大日本佛教全書擬刊豫定書目

て足利時代に於ける朝廷の法會の大略を知ることが出來る。

(後藤大用)

諷誦願文集 ❶(日) Fu-ju-gwan-mon-shū. ❷四冊 ❸存 ❻寫本(龍大、二〇七三・六)

諷誦願文草案 ❶(日) Fu-ju-gwan-mon-sō-an. ❷一卷 ❸存、群書類從第一九、新校群書類從第二二

❹等持院殿百年忌(康正三年)、實鏡院殿左相府二十一回法事(嘉慶元年)、同二十五回八講(明德二年)、同三十三回八講(應永二年)、同三十一回(應永四年)、同三十七回(應永十年)、同三十八回(應永十一年)、同百回忌辰(文正元年)、普光院殿大相國三十一回忌辰(文明十三年)、同四十二回法事(文明十四年)、同四十三回法事(文明十五年)、同四十四回法事(文明十六年)、同四十五回法事(文明十七年)、同四十七回法事(文明十九年)、同四十八回法事(長享二年)、同四十九回法事(長享三年)、同五十回法事(延德二年)の各諷誦願文の草案を輯めたるもの。

(後藤大用)

諷誦指南要句集 ❶(日)Fu-ju-shi-nan-yō-ku-shū. ❷三卷 ❸存 ❹無住 ❺萬治二刊(龍大、二〇七五・二七、二九)萬治四刊(正大、一〇八・一七)(谷大、宗大・六五〇)

諷誦拾葉抄 ❶(日) Fu-ju-shō-yō-shō. ❷二卷 ❸存 ❹亮尊作 ❺刊本(叡山文庫)

諷誦集 ❶(日) Fu-ju-shū. ❷一冊 ❸存 ❻寫本(龍大、二〇七五・二二)德川時代寫(寶龜院)

諷誦弔祭文 ❶(日) Fu-ju-chō-sai-mon. 遺作諷誦弔祭文 ❷一卷 ❸存 ❹英輝 ❺(京學)

諷誦文 ❶(日)Fu-ju-mon. (支)Fēng-sung-wēn. 宋法護譯諷誦文 ❷一卷 ❸存、大正八五・一三〇六No. 2857

諷誦文 ❶(日)Fu-ju-mon. 敬白請諷誦事 ❷一卷 ❸存、日什上人集之內、日蓮宗宗學全書異本法華宗部第一 ❹日什(正和三—明德三 A. D. 1314—1392)著 ❺慶長二(A. D. 1595)

❻眞本法華宗の祖日什、嘉慶二年八月二十一日、弟子日妙の少祥忌供養に諷誦せられたる一章である。日什に著述無く、この書はその教義を伺ふべき唯一のものである。章中師の本尊、修行、等の宗義の大系を蘊む、故にこの宗の根本聖典として珍重するところである。

❼(注釋) 貫文諷誦抄二卷(日蓮)。諷誦文講義(日蓮)等 ❽正本(京都寂光寺)

(望月歡厚)

諷誦文講義 ❶(日) Fu-ju-mon-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹小林日重著 ❺明治四四刊 ❻(立大、B・〇四・八五)

諷誦文用意 ❶(日) Fu-ju-mon-yō-i. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

諷誦類 ❶(日)Fu-ju-rui. 泉涌寺諷誦類 ❷一卷 ❸存、續群書類從第二八

❹具名を泉涌寺諷誦類と名づく、應永六年七年の間、東山泉涌寺に於て行はれたる諷誦四十有餘類を集錄せるものである。

(後藤大用)

步船鈔 ❶(日) Hu-sen-shō. ❷二卷 ❸存、大日本佛教全書第三諸宗要義集、假名聖教八八部、假名聖教(續之坊舊藏本)三四部之內、眞宗假名聖教第八、眞宗聖教大全卷上、眞宗聖典全書和文之部、眞宗法要第一五 ❹存覺(正應三—應安六 A. D. 1290—1373)述 ❺或は康安二(A. D. 1362)五月の作と云ふ。

❻存覺撰の淨典目錄に「步船鈔」一卷となつてゐるが、流布本は例れも本末の二卷に分れ、目錄の原本は古寫本は龍谷大學並に大谷大學所藏堺眞宗寺本の二本あり、龍大本には「山南慶元の所望によりて之を草す」と記され、正依典籍目錄等孰れも之を存してゐるが著作年代は不明である。然し、高宮聖教目錄によると、隨流庵の私考として「存覺上人七十三歲、康安二年壬寅正月二十六日嘉如上人御所望と云云」と記してゐるが、信用し難い。然り而して本鈔の內容は先づ初めに「一代の諸教まちまちに分れて諸宗の所說各別たり、別なりと雖も歸するところの極理は一致なり、いづれも生死をはなれて涅槃を證しまよひをひるがへしてさとりをうべきがゆへなり」等と書き出し、法相宗、三論宗、華嚴宗、天台宗、眞言宗、律宗、倶舍宗、成實宗の所謂、八宗大意を略述し、次に日本に來りて特に興起盛なる佛心宗淨土宗について述べ、その孰れもが三經一致の彌陀法門に歸して救濟を得ることを一宗一宗について記し、聖法の歸結分除、融合等を明らかにしたもので、淨土眞宗の立場より、通俗的に聖宗の批判を試みたものである。

❼(注釋) 步船鈔甲辰記(義讃)等約二十種(參考) 淨土眞宗聖教目錄、淨典目錄、眞宗正依典籍目錄、假名聖教目錄 ❽寬永一六寫(谷大、宗大・三一七五)元祿三刊(正大、一六五・二九)(龍大、一一二二・六)(谷大、宗大・三四九二)正德三刊(谷大、宗四・一〇一)明和二刊(龍大、一〇三・三八)文化八刊(谷大、宗小・八二)寫本(谷大、宗四・六四)

(秃諦住)

步船鈔記 ❶(日)Hu-sen-shō-ki. ❷二卷 ❸存 ❹寫本(龍大、研眞)

步船鈔聞書 ❶(日) Hu-sen-shō-kiki-gaki. ❷三卷 ❸存 ❹寫本(谷大、宗大・四一二二)

步船鈔甲辰記 ❶(日) Hu-sen-shō-kō-shin-ki. 步船鈔講義 ❷二卷或四卷 ❸存、眞宗大系第二八 ❹義讃(寶政八—安政五 A. D. 1796—1858)述 ❺弘化元(A. D. 1844)

❻恐らく弘化元年秋に狀安景を以て步船鈔を講じてゐるから擬講時代の安居講本と見られる。上下二卷よりなり此の書を解說すると五門分別をなし、先づ此の書の興由を概說し、次に一部の大綱八家十宗を概觀し、これ「步船鈔」なる題目によりて來る理由を、龍樹の易行品に於ける難易二道判の信方便の他力易行をあらはすに水道の乘船とあるによりて「步舟鈔」となづけた旨を考證し、四に鈔を即ち存覺上人の細傳をかゝげ、最後に隨文釋義を試み、懇切な解說を施してゐる。蓋し「步船鈔」解說中の白眉たるものであらう。

(秃諦住)

步船鈔講義 ❶(日)Hu-sen-shō-kō-gi. 步船鈔甲辰記 ❷四卷或二卷 ❸存、眞宗大系第二八 ❹義讃(寶政八—安政五 A. D. 1796—1858)述 ❺寫本(谷大、宗大・七二六)

步船鈔講義 ❶(日)Hu-sen-shō-kō-gi. ❷六卷 ❸存 ❹德龍(安永元—安政五 A. D. 1772—1858) ❺寫本(谷大、宗大・三二)

步船鈔講義 ❶(日)Hu-sen-shō-kō-gi. 步船鈔講錄 ❷二卷或三卷 ❸存 ❹宗興(文化一二—明治一三 A. D. 1815—1880)述 ❺明治一五刊(谷大、宗大・五七)(龍大、一二四二・八)(帝國、七・七四) 明治二一刊(宗大、日大未・六九一)

步船鈔講義 ❶(日)Hu-sen-shō-kō-gi. 步船鈔講說 ❷一卷 ❸存 ❹小栗栖香頂(天保元—明治三八 A. D. 1830—1905)述 ❺明治二六(A. D. 1893) ❻寫本(谷

大、宗大・一七七四)

歩船鈔講述 ❶(B) Ho-sen-shō-kō-jutsu. ❷二卷 ❸存 ❹名和宗瀾(天保六—明治二七 A. D. 1835—1894)述 ❺寫本(龍大)

歩船鈔講談 ❶(B)Ho-sen-shō-kō-dan. 歩船鈔講義 ❷一卷 ❸存 ❹小栗栖香頂(天保元—明治三八 A. D. 1830—1905)述 ❺明治二七刊 ❻(谷大、宗小・九〇)(龍大、一二四二・九)

歩船鈔講錄 ❶(B)Ho-sen-shō-kō-roku. 歩船鈔講義 ❷三卷或二卷 ❸存 ❹三輪義二(文化一二—明治一三 A. D. 1815—1880)述 ❺寫本(龍大)

歩船鈔講錄 ❶(B)Ho-sen-shō-kō-roku. ❷一卷 ❸存 ❹宗叔淨薫述 ❺寫本(龍大)

歩船鈔聽記 ❶(B)Ho-sen-shō-chō-ki. ❷三卷或二卷 ❸存 ❹德龍(安永元—安政五 A. D. 1772—1858) ❺文政六寫(谷大、宗大・三八六五)寫本(龍大、一二四二・一〇、研眞)

歩船鈔聽記 ❶(B)Ho-sen-shō-chō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹得庵 ❺寫本(龍大、研眞)

歩船鈔聞記 ❶(B)Ho-sen-shō-mon-ki. ❷三卷 ❸存 ❹智現(—天保六 A. D. 1835) ❺寫本(龍大)

歩船鈔略解 ❶(B) Ho-s:n-shō-ryaku-ge. ❷二卷 ❸存 ❹智圓(明和六—嘉永四 A. D. 1769—1851)述 ❺明治一二刊 ❻(龍大、一二四二・一一)(帝國、七、七一)

歩船鈔略述 ❶(B) Ho-sen-shō-ryaku-jutsu. ❷一卷 ❸存 ❹吉谷覺詢(天保一三—大正三 A. D. 1842—1914)述 ❺明治四二刊 ❻(谷大、宗小・一七九)(龍大、研眞)(立大、A四〇・九八)

歩船鈔和解 ❶(B)Ho-sen-shō-wa-ge. ❷一卷 ❸存 ❹哲乘 ❺寫本(龍大、一二四二・一二)

歩擧 ❶(B) Ho-chaku. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第三九阿蒙輝抄第五 ❹承澄(元久二—弘安五 A. D. 1205—1283)

歩擧金剛 ❶(B)Ho-chaku-kon-gō. ❷一帖 ❸存 ❹文明二寫 ❺(寶龜院)

歩擧金剛修行儀軌 ❶(B) Ho-chaku-kon-gō-shu-gyō-gi-ki. 歩擧金剛法 ❷一卷 ❸存、紀密供軌集第三 ❹本書は歩擧金剛法ともいひ歩擧明王の本軌にして十八道の供養法なり、而して後に畫像の法をも說述してゐる。詳しくは修假義結使流金剛念誦供の下を見よ。 ❺廣治元寫(寶壽院) 寶勝六寫(谷大、館大・三七六九)

歩擧金剛念誦儀 ❶(B) Ho-chaku-kon-gō-nen-ju-gi. ❷一冊 ❸存 ❹平安朝時代寫 ❺(寶善提院)

武夷游稿 ❶(B) Bu-i-yū-kō. (支) Wu-i-yu-kao. ❷一卷 ❸存 ❹明海注撰 ❺寫本(京大、藏・二四ヲ・一)

武家御八講部類 ❶(B) Bu-ke-go-hak-ki-bu-rui. ❸存、續群書類從第二六 ❹應永二年(皇紀二〇五六)四月七日は足利義詮三十三回忌に依り相國寺に於て八講を修した。同月九日は其の第五卷目に當り足利將軍義持以下參詣、內裏法皇上皇御始公卿朝臣等數多の捧物があつた。本書は其の當日の記錄を最初に載せてゐる。次に應永二十一年(皇紀二〇七四)四月十四日は足利義滿七周忌に當るので等持寺に於て八講を修せられた。十五日は其第三日に當り其當日の記錄を次に載せ、最後には永享十二年(皇紀二一〇〇)五月二日より義滿三十三回忌の爲め等持寺に於て初められた八講の記錄を集收してゐる。而して本記錄は何れも其八講全部の記錄でなく一部分のみの集錄で即部類なる表題の附せられた所以である。著者は明らかでないが續群書類從所收のものは寛政十二年正月紀井宮御文庫の古寫本を延壽寺舉生大僧都眞超が筆寫したものを原本となしてゐる。 (高倉永經)

武家道心集 ❶(B)Bu-ke-dō-shin-shū. ❸存 ❷(參考) 禪籍目錄

武溪集 ❶(B) Bu-kei-shū. ❷一卷或二卷 ❸存 ❹禪慧(元祿一五—天明元 A. D. 1702—1781)、海旭(元文元—文化一四 A. D. 1736—1817)編 ❺寫政二刊(谷大、餘大・三三三一)(龍大、研史)(哲、ヒ・二・右・四)文政二刊(谷大、餘大・一六九二)

武溪集 ❶(B)Bu-kei-shū. 菅書武溪集 ❷二卷 ❸存 ❹天明三刊 ❺(駒大)

武江神寺錄 ❶(B)Bu-kō-jin-ji-ro-ku. ❷三卷 ❸存 ❹寫本(帝國、二一四・一四二)

武州東叡開山慈眼大師傳 ❶(B) Bu-shū-tō-ei-kai-san-ji-zen-dai-shi-den. ❷一卷 ❸存、慈眼大師全集卷上 ❹謙泰 ❺本書は武藏國東叡山の開基慈眼大師天海の傳記である。天海の傳記に就ては既に、『東叡開山慈眼大師緣起』の所で妙心寺東源の『東叡開山慈眼大師傳記』と實成院鳳海の『東叡開山慈眼大師緣起』及び本書の三を其の主なるものとして擧げ得ることを述べておいた。謙泰の大師傳撰述は其師最教院見海、雙飯院豪俱等の命に依るもので、「諸上足將ゝ於ニ慈眼大師行業一、而大師自ニ幼植一道ニ歷入下一、幸ニ遭明年一、其間學問履歷不ゝ能ニ盡知ゝ之、上足等證ニ野納隨聞記ゝ之、野納師亮謙大師法友也、謙常歎ニ大師之才德一、言猶在ゝ耳、且復問ニ之古老一、略記ゝ之」の奧書に徵しても明かである。此處に注意すべきは此の奧書は萬治二年(A. D. 1659)のものである。而して東源の跋文の中に「于時見海豪俱二老宿、命ニ現龍之院主謙泰一、筆ニ之於草書一、且復使ニ野納俱共考寫ゝ」とあるから既に慶安三年(A. D. 1650)に本書の草書が出來てゐて、それを大師の十七回忌に相當する萬治二年に再治したものである事が察知される。本書の內容は彼の東源のものと殆んど軌を一つにしてゐて、只異なる所は彼此に剩か詳略の觀があるに過ぎない。 (不破幹雄)

武州豊島郡石神井龍頂山三寶寺藏書目錄 ❶(B) Bu-shū-to-shima-gun-shaku-jin-i-ki-chō-zan-san-bō-ji-zō-sho-mokuroku. ❷一冊 ❸存 ❹寫

本(龍大、研史)

武州陽雲寺記 ❶(B) Bu-shū-yō-un-ji-ki. ❷一卷 ❸存、改定史籍集覽第一二 ❹陽雲寺は、元久二年(A. D. 1205)京都建仁寺の明全和尙の草創になり、唱樹山滿願寺と號して臨濟宗に屬してゐたが、長祿元年(A. D. 1457)中興開祖祥貞和尙の代に曹洞宗に改宗されてゐる。更に天文九年(A. D. 1540)七月慈光三七堂伽藍を造營して禁榮寺と改めてゐるが、陽雲寺の名の起源は天正十九年(A. D. 1591)四月に武田信玄家嗣川窪與左衞門尉信俊云當寺を再興し、武田信玄の寶陽雲院を開基となしてかく改名したものであるといふ。本記は當寺の草創期から德川末期に至る迄の諸舊記即ち、當寺再興の住持檜那等の事績を初め、諸堂宇の造營並に廢絕のこと、寺領の寄進、當寺に安置する諸名家の墨跡位牌其他に關するものを年序亂雜に編錄したものである。終りに開祖明全和尙、中興開祖祥貞和尙、中興龜翁鶴和尙、再中興外雲守門和尙(境內)不動院中興開祖忠誠林恕和尙(門)陽雲院並地藏院開祖文應宗札和尙等の略傳を擧げ、更に當時に關する『武藏風土記』の記載の考證がある。 ❺(帝國、八五・一六四)

武州六阿彌陀の由來 ❶(B) Bu-shū-roku-a-mi-da-no-yu-rai. ❷一冊 ❸存 ❹石井重譽著 ❺昭和七刊 ❻東京六阿彌陀第二靈場 (不破幹雄)

武周刊定僞經目錄 ❶(B)Bu-shū-kan-tei-gi-kyō-mokuroku. (支)Wu-chou-k'an-ting-wei-ching-mu-lu. ❷一卷 ❸存 ❹唐明佺等(—天册萬歲元 A. D. 695—)撰 ❺大周刊定衆經目錄の第十五卷の別行、同項の下を見よ。 ❻寬文八刊 ❼(高大、一・二〇〇×正大、一〇〇・一一)

武周刊定衆經目錄 ❶(B)Bu-shū-kan-tei-shu-kyō-mokuroku. (支) Wu-chou-k'an-ting-chung-ching-mu-lu. 大周刊定衆經目錄、大周錄、大周錄 ❷十五卷 ❸存、大正五五・三七二N.2153、館結三、卍三五・四、北1063號吹、南1076號吹、元1071號吹、明北1602宗泰、清1512步、麗1065號吹、天1062號吹、指1023號吹、法1047號吹、至1540寒普、明南1592藤、N.1610 ❹明佺等撰 ❺唐天册萬歲元(A. D. 695) ❻大周刊定衆經目錄の下を見よ。

武陽歷志 ❶(B)Bu-yō-reki-shi. ❷二卷 ❸存 ❹江戶の著名なる社寺巡拜記なり。 ❺寫本(帝國、二三一・二二五)

武林考義無礙慶主大尼太素師塔銘 ❶(B)Bu-rin-kō-gi-mu-gai-shō-dai-ni-tai-so-shi-tō-mei. (支)Wu-lin-k'o-i-wu-ai-an-ch'a-ta-ni-tai-su-shih-t'a-ming. ❷一卷 ❸存、雲棲法彙第三三

武林西湖高僧事略 ❶(B)Bu-rin-sai-ko-kō-sō-ji-ryaku. (支)Wu-lin-hsi-hu-kao-seng-shih-lüe. ❷一卷 ❸存、卍續二乙・七・三 ❹宋元欽、元復述 ❺本書は宋の元欽、元復述、帝王詩卷の末に駐錫した高僧三十人につき、その行業を記述して偈贊したもので、宋寶祐四年に莫子文の序を附して梓行したものである。その高僧名左の如し。

(一)晉三藏理法師。(二)齊玉泉超法師。(三)陳下竺覺法師。(四)中竺千歲和尙。(五)唐徑山欽禪師。(六)唐虎跑中禪師。(七)唐下竺標禪師。(八)唐圓澤和尙。(九)唐霜光禪師。(一〇)唐鳥窠林禪師。(一一)唐招賢通禪師。(一二)唐無著客禪師。(一三)五代白雲守端禪師。(一四)五代永明壽禪師。(一五)五代智覺壽禪師。(一六)五代五雲逢禪師。(一七)宋孤山圓法師。(一八)宋慈雲式法師。(一九)宋明教嵩禪師。(二〇)宋慈情琛律師。(二一)宋功臣山政禪師。(二二)宋南屏孤法師。(二三)宋海月神法師。(二四)宋辨才淨法師。(二五)宋南屏孤法師。(二六)宋大智興律師。(二七)宋三藏道法師。(二八)宋妙行淨律師。(二九)宋僧統寒法師。(三〇)宋普水淨法師。 (辻森要修)

武林靈隱寺誌 ❶(B)Bu-rin-rei-in-ji-shi. (支)Wu-lin-ling-yin-ssu-chih. ❷八卷 ❸存、武林家故業編第一一 ❹孫治 ❺光緒一四刊 ❻(谷大、餘大・二八四二)

奉行用心抄 ❶(B) Bu-gyō-yō-jin-shō. ❷一卷 ❸存 ❹雲賢記 ❺(日光藏)

奉請三部諸天儀 ❶(B) Bu-shō-sam-bu-shō-ten-gi. ❷一冊 ❸存 ❹法性房尊意(貞觀八—天慶三 A. D. 865—940)撰 ❺寫本(京大、日大・二五二)

奉入龍華經 ❶(B)Bu-nyū-ryū-ge-kō-kyō. 佛說奉入經、選擇請法經 ❷三卷或四卷 ❸存、大正一五・七八二No.651、館列一、卍二七・二、北534金、南547金、元556金、明北10.0萬、清1695萬、麗536克、天540金、指493克、法521克、至1185尋、明南1234號、N.1095 ❹鳩摩羅什(建元二—義熙九 A. D. 344—413)譯 ❺姚秦弘始七(A. D. 405) ❻佛藏經の下を見よ。

峰中根元記 ❶(B)Bu-chū-kon-gen-ki. 修驗峰中緣傳、峰中緣傳 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四六修驗道章疏第一 ❹雲外撰 ❺修驗峯中緣傳の下を見よ。 ❻刊本(晉、は・四・右・九)

峰中作法 ❶(B)Bu-chū-sa-hō. ❷二卷 ❸存、日本大藏經第四七修驗道章疏第二法則類 ❹本山派修驗に相傳せる峯中の諸作法を集めたるもの。二種あり、一は吉野總總堂次第、安禪入成次第、取現參詣列次第、山上負淺次第、小峯詣入並總堂次第、開伽並小木淺次第、神仙淺頂作法別記、玉體山出生笈傳次第の八種を收め、その二は吉野總總堂次第、子守安禪尊者入成日勤行、小峯詣入並總堂次第、深山詣入作法の四種を集めてゐる。 (服部如實)

峰中作法次第 ❶(B)Bu-chū-sa-hō-shi-dai. ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四七修驗道章疏第二 ❹本山相傳 ❺修驗道行者の峯中に於ける諸作法の次第。同種のものに「峯中作法」と稱するものあれども、項目を異にしてゐる。即ち本

書には、入成・笈傳・水斷・穀斷・小木・閼伽水・懺悔・正灌頂・出生・柴燈内護摩入壇の十種の作法と山上負笈事、出成笈傳次第の二種を別本によつて附錄して居り、所作の指示明確である。（服部如實）

峰中式目 ❶(日) Ha-chu-shiki-mokku. 西巖修行條々 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四七修驗道章疏第二法則類 ❹盈源記 ❺文政一〇(A. D. 1827)

❻先達の舊記及び峰中式文等によつて爾峰修行（但し淺峰次第）の式目二十五條を擧げたもの、本山修驗相傳にかゝる。終に「條々大概如此、此外順峰華供、岩屋籠、那智籠等當時斷絶歟、事々見二于先達舊記峰中式文等一、今記二其式目一而已」とある。（服部如實）

峰中修行記 ❶(日) Ha-chu-shu-gyoki. ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四七修驗道章疏第二教義類 ❹行昭(寛喜元—乾元元 A. D. 1229—1302)撰、道瑜(元弘三—應永六 A. D. 1331—1399)治定

❻修驗道に於ける峰中修行の祕決を收めたもので、第一金剛供、第二峰中祕決、第三ラコミシラウケ之事、第四(內)採燈護摩次第(在レ別)、第四(外)採燈護摩紳分供奠(在レ別)、第五最深祕分印信口決、第六最深祕分不二大日法を收む。就中、第一金剛供は委くは十九弧金剛供と云ふべきもので、これは修驗道に於ける自身自供養法の大事に外ならぬ。終に「慶安二(己)丑七月上旬以二華台院藏本一而寫レ之、□□等普門院、現阿」の奥書がある。（服部如實）

峰中十種修行作法 ❶(日) Ha-chu-ju-shu-gyo-sa-hō. ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四六修驗道章疏第一法則類、日本大藏經第四六修驗道章疏第一法則類、修驗聖典第二峰中法流之內

❹修驗道行者の峰中に於ける十種修行の作法書。十種修行とは床壓・懺悔・鑄秤・水斷・閼伽・相撲・延年・小木・穀斷・正灌頂の十種で、卽身卽佛の修行法である。終に十種修行の次第不同と因果不二の實義を記してゐる。（服部如實）

峰中正灌頂口決 ❶(日) Ha-chu-kan-jō-kō-ketsu. ❷一册 ❸存 ❹喜樹子敎純記 ❺寫本(京大、日大來・七三二)

峰中正灌頂外場作法 ❶(日) Ha-chu-shō-kwan-jō-ga-jō-ho. 桂源灌頂法 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四六修驗道章疏第一、修驗聖典第二峰中法流之內 ❹伎小角(舒明帝六—大寶元以後 A. D. 634—701—)傳

❺修驗道祖伎小角が箕面の瀧窟に於て龍樹菩薩より感見相承せる灌頂法で、初めに正灌頂の次第、終に正灌頂具の圓盖に附法印證狀を出す。正灌頂の次第は床壓作法、十界一如の印明・五佛加持・六大本有明・舍利塔印明等がその重要なるものである。（服部如實）

峰中正灌頂許可印信 ❶(日) Ha-chu-shō-kwan-jō-ko-ka-in-jin. ❷二紙 ❸存、修驗聖典第二峰中法流之內

❹修驗道峰中法流による峰中正灌頂の許可印信。初重二重あり、何れも富山法師次相承の印信で、初重は安永八年五月十五日、戒定惠院俊衍の傳授、二重は寶勝十二年四月一日戒定惠院俊堅の傳授、次に峰中正灌頂の血脈を出す。（服部如實）

峰中正灌頂作法 ❶(日) Ha-chu-shō-kwan-jō-sa-hō. ❷一卷 ❸存、修驗聖典第二峰中法流之內

❹修驗道峰中正灌頂の作法次第。嘉永元年、武州瀧本院に於て日光山鈔疊院大藏坊金剛良寛が寫得したもので、峰中正灌頂外場作法の殆半に相當す。但し中に灌頂壇略圖、灌頂外道場略の二圖を挿入してゐる。（服部如實）

峰中正灌頂支度之事 ❶(日) Ha-chu-shō-kwan-jō-shi-taku-no-koto. ❷一卷 ❸存、修驗聖典第二峰中法流之內

❹修驗道峰中正灌頂に必要な支具を列記したもの。これによつて殆り知られてゐない正灌頂の外觀を想像することが出來やう。卽ち支具は天蓋・蓮座・寶冠・頭巾等を初め、閼伽札・數皮・六壇總曼荼羅・蝶網等で、眞言の灌頂とは趣を異にしてゐる。（服部如實）

峰中正灌頂附法印證狀 ❶(日) Ha-chu-shō-kwan-jō-tsu-fehō-in-shō-jō. 修驗印證狀 ❷一紙 ❸存、修驗聖典第二峰中法流之內

❹修驗道峰中法流の正灌頂は卽身卽佛の要道で、大器を簡んで授くべく、同行と云へども濫りに許すべからずと云ふ附法上の注意書である。峰中正灌頂外場作法の附錄を別出したもの。（服部如實）

峰中正灌頂內座作法 ❶(日) Ha-chu-shō-kwan-jō-nai-za-hō. ❷一卷 ❸存、修驗聖典第二峰中法流之內

❹峰中正灌頂外場作法の後半に相當す。但し多少出沒あるも、峰中正灌頂作法と合して完全なる作法となるものである。（服部如實）

峰中祕傳 ❶(日) Ha-chū-hi-den. 修驗峰中祕傳、峰中根源記 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四六修驗道章疏第一 ❹雲外撰 ❺修驗峰中祕傳の下を見よ。 ❻寫本(谷大、餘大・三一七九)

峰中祕密記 ❶(日) Ha-chū-mitsu-ki. ❷一册 ❸存 ❹寫本(京大、日大來・七一九)

峰中密記 ❶(日) Ha-chū-mik-ki. ❷一册 ❸存 ❹良修訂正 ❺寫本(京大、日大來・七三五)

峰中類聚祕抄 ❶(日) Ha-chū-rui-ju-hi-shō. ❷一册 ❸存 ❹明和年間寫 ❺(京大、日大來・七三〇)

部異執論疏 ❶(日) Bu-i-shū-ron-sho. (支) Pu-i-chih-lun-shu. 部執異論記、部執論疏、部執疏 ❷十卷或四卷 ❸缺 ❹陳眞諦 ❺永元元—太建元 A. D. 499—569) 逸

❻慧沼の成唯識論了義燈(大正四三・六五九 No. 1852)澄觀の三論玄義檢幽集(大正七〇・三七九 No. 2308)等其他に援引。

❼(參考) 東域傳燈目錄卷下

部執得意 ❶(日) Bu-shū-tokui. ❷一卷 ❸存 ❹元祿七刊 ❺(谷大、餘大・五四一)

部執異論 ❶(日) Bu-shū-i-ron. (支) Pu-chih-i-lun. 部執論 ❷一卷 ❸存、大正四九・二〇 No. 2033、鎌藏四、卍二五・四、北978消、南994消、元991消、明北1278席、清1278席、麗984消、天933消、指941消、法964消、至1427磚、明南1433法、Nj. 1235

❹陳眞諦(永元元—太建元 A. D. 499—569)譯

❺部執異論一卷は眞諦三藏の譯出したもので、彼の玄奘三藏の譯した異部宗輪論と同一梵本の異譯だと云はれて居る。其の內容は小乘部派の分裂及び其の教義を述べたものである。蓋し小乘部派の數は異說にして、彼の十八部論は大衆九部上座十二部說を述べ、この部執異論は大衆七部上座十一部說を陳べて居る。慈恩大師は異部宗輪論述記に大衆九部上座十一部所謂小乘二十部を基調とし、眞諦三藏の部執異論を評破して五大過失ありと爲す。我國の善寂は義林篇註にこの慈恩の難破を敎釋して居るが、いづれにしてもこの部執異論は小乘部派を研究するに最も重要なるものである。眞諦三藏はこの部執異論の疏十卷を作つたが、現存せざるは遺憾である。この部執異論疏の文は現在三論玄義檢幽集の所々に散見して居るのみである。

❻(參考) 三寶紀第九、內典錄卷五、譯經圖紀第四、開元錄第七、貞元錄第一〇（高井觀海）

部執異論記 ❶(日) Bu-shū-i-ron-ki. (支) Pu-chih-i-lun-chi. 部異執論疏、部執論疏、部執疏 ❷四卷 ❸缺 ❹陳眞諦(永元元—太建元 A. D. 499—569)逸 ❺

〔參考〕奈良朝現在一切經疏目錄2606

部執略記 ❶(日) Bu-shū-ryak-ki. ❷一卷 ❸存、日本大藏經第二七三論章疏卷下

❹この部執略記一卷は延寶六年版が廣く行はれて居るが、作者明瞭でない。內容は文殊問經、十八部論、部執異論、異部宗輪論等に依りて小乘部派の分裂及び其の教理を概說したものである。

❺延寶六刊(龍大、二九二・二九)(谷大、餘大・二六二二×正大、一〇三一・七〇×高大、寄・一・二四〇)(哲、ら・六・左・二二)安永二刊(立大、A五〇・一〇〇)（高井觀海）

部執略記玄談 ❶(日) Bu-shū-ryak-ki-gen-dan. ❷一册 ❸存 ❹寫本(哲、ら・六・右・七)

部執論 ❶(日) Bu-shū-ron. (支) Pu-chih-lun. 部執異論 ❷一卷 ❸存、大正四九・二〇 No. 2033、鎌藏四、卍二五・四、北973消、南994消、元991消、明南1278席、清1278席、麗982消、天983消、指941消、法958消、至1427磚、明南1433法、Nj. 1235

❹眞諦(永元元—太建元 A. D. 499—569)譯

❺太清二—太建元(A. D. 547—569)

❻部執異論の下を見よ。

部集論疏 ❶(日) Bu-shū-ron-sho. (支) Pu-chi-lun-shu. 部執異論記、部異執論疏、部執疏 ❷十卷或四卷 ❸缺 ❹陳眞諦(永元元—太建元 A. D. 499—569)逸

❺集は執の誤りか。部異執論疏の下を見よ。

❼(參考) 諸宗章疏錄第一

撫州曹山元證禪師語錄 ❶(日) Bu-shū-zō-zan-gen-shō-zen-ji-go-roku. (支) Fu-chou-ts'ao-shan-yüan-chêng-ch'an-shih-yü-lu. 曹山本寂禪師語錄、曹山錄 ❷一卷 ❸存、大正四七・五二六 No. 1987A、禪學大系目錄部第一 ❹指月慧印(元祿二—明和元 A. D. 1689—1764)校

❺本書は別項の宜默玄契和尙編纂校訂の寶保元年本を參照して寶曆十一年正月(A. D. 1761)江戶駒込龍隱山吉祥寺萬壽堂藏版、文昌堂大和屋孫兵衛發賣として梓行した。光老人指月慧印禪師の編纂校訂に係るもの並に寶曆本が一二の失錄あるを以て同十三年指月の命により其の法嗣である師道本光和尙が、補訂重編して明和三年七月(A. D. 1765)同じく萬壽堂藏版、須原屋茂兵衛發賣にて刊行したもので、龍藏二篇二十四套五册に收められたもの、禪學大系目錄部一に收められたものは寶曆本に依り、大正藏四十七に收められたものは明和三年本光重編本に依つたものである。

寶曆明和本ともに內容は寶保本とも大差ないもので、卷上には寶保本同樣に曹山元證禪師の行業、示衆の語要等を收め、卷下には、解釋洞山五位顯訣、逐位頌並注別裡、五位旨訣、三種機、四種異類、三然燈などを收めたものである。

❼(注釋)鈔一卷 刊)……見拙。注解三卷……天寶。傳義一卷。（大久保堅瑞）

撫州曹山本寂禪師語錄 ❶(日) Bu-shū-zō-zan-hon-jaku-zen-ji-go-roku. (支) Fu-chou-ts'ao-shan-pên-chi-ch'an-shih-yü-lu. 曹山本寂禪師語錄、元證大師語錄 ❷二卷 ❸存、大正四七・五三五 No. 1987B

❹本書は曹山錄と略稱されるもので、曹洞二師錄に收められて居る。筠州洞山の悟本大師良价禪師の法嗣である大鑑下六世、撫州曹山の元證大師本寂禪師の語錄で、元祿本、寶永の素本、寶保元年本、寶曆十一年本、明和三年本などがあり、寶保本以下が最も流通して居る。本書は卷上を郭凝之の編、卷下を加賀大乘寺慈鱗玄訛和尙の法嗣宜默玄契和尙編纂校訂した寶保元年(A. D. 1741)本に依つたもので、元文三年玄契が和歌浦瑞龍寺自華林藏版本として刊行した洞山錄に合し、菅原清左衛門(禪海慈濕居士)が捐貲して京都樽枝軒より洞曹二師錄として梓行したものである。大正藏四十七の三に收められたもの、禪學大系目錄部一に收められたものは寶保本に依つたものである。

玄契の寶保本の內容は、卷上に曹山本寂禪師の行業、示衆の語要を收め。卷下には、玄契の編纂に係る上堂語要、解釋洞山五位顯訣、註釋洞山五位頌、三等之機、四種異類、八要玄機、逐位旨訣を收めたもので、卷首には元文五年八月郡山の樽澤里恭公美の序、玄契の本師である林泉寺慈鱗元註(一作玄註)の序、並に玄契の重集曹山元證大師語錄自序を收め。卷末に寶保元年本書刊行の緣起を玄契が識したものである。

支那曹洞の宗義大成者として洞山、曹山

❶題名(書名) ❷巻数 ❸著者 ❹成立 ❺内容 ❻代作者 ❼月年の刊行 ❽所蔵(書庫) ❾書誌(註釋書・参考書) ❿文書 ⓫所有内容 ⓬代作者 ⓭著者 ⓮成立 ⓯巻数 ⓰題名(書名) ⓱所蔵(書庫) ⓲月年の刊行 ⓳書誌(註釋書・参考書) ⓴文書 ㉑所有内容 ㉒代作者 ㉓著者 ㉔成立 ㉕巻数 ㉖題名(書名) ㉗所蔵(書庫) ㉘月年の刊行 ㉙書誌(註釋書・参考書) ㉚文書 ㉛所有内容 ㉜代作者 ㉝著者 ㉞成立 ㉟巻数 ㊱題名(書名) ㊲所蔵(書庫) ㊳月年の刊行 ㊴書誌(註釋書・参考書) ㊵文書 ㊶所有内容 ㊷代作者 ㊸著者 ㊹成立 ㊺巻数 ㊻題名(書名) ㊼所蔵(書庫) ㊽月年の刊行 ㊾書誌(註釋書・参考書) ㊿文書 (51)所有内容 (52)代作者 (53)著者 (54)成立 (55)巻数 (56)題名(書名) (57)所蔵(書庫) (58)月年の刊行 (59)書誌(註釋書・参考書) (60)文書 (61)所有内容 (62)代作者 (63)著者 (64)成立 (65)巻数 (66)題名(書名) (67)所蔵(書庫) (68)月年の刊行 (69)書誌(註釋書・参考書) (70)文書 (71)所有内容 (72)代作者 (73)著者 (74)成立 (75)巻数 (76)題名(書名) (77)所蔵(書庫) (78)月年の刊行 (79)書誌(註釋書・参考書) (80)文書 (81)所有内容 (82)代作者 (83)著者 (84)成立 (85)巻数 (86)題名(書名) (87)所蔵(書庫) (88)月年の刊行 (89)書誌(註釋書・参考書) (90)文書

文字の音響は音韻学ならん、其の文法の如きは殆ども研究せられたるものなかるべし。

（大久保忠国）

東洲書考譜版語録解題原文

❶(日)Bu-shū-sō-hon-zen-ji-go-roku-tsu-ketari-kai-dai-gen-bun. 東洲書考譜版語録解題原文 ❷序、東洲書考譜版語録 ❸人

武蔵考察譜抜 ❶(日) Bu-gaku-man-da-ra-ku. ❷1帖 ❸存 ❹(著)安谷 ❺天文11 1序 ❻(今泉三郎記)

武蔵考察譜抜作法考 ❶(日)Bu-gaku-man-da-ra-ku-sa-hō-tō. ❷1帖 ❸存 ❹(著)四川合代貞 ❺(今泉三郎記)

武蔵考察譜抜文案 ❶(日)Bu-gaku-man-da-ra-ku-shi-dai. ❷1帖 ❸存 ❹安倉(安貞)1—安倉元 A. D. 1223—1319) ❺天正1 1貞 ❻(今泉三郎記)(貞天"書•1•天三)

武蔵考察譜抜私記 ❶(日)Bu-gaku-man-dara-ku-shi-ki. ❷1帖 ❸存 ❹安倉(安貞)1—安倉元 A. D. 1223—1319) ❺四川合代貞 ❻(今泉三郎記)

武蔵考察譜抜拜殿図 ❶(日)Bu-gaku-man-da-ra-ku-hai-chō-roku. ❷1巻 ❸存、信土宗全書本11〇 ❹(著)四川 ❺文政1三(1819) ❻(貞天"拝殿)

武蔵考察譜抜法則 ❶(日)Bu-gaku-man-da-ra-ku-hos-soku. ❷1帖 ❸存 ❹天正1 1貞(今泉三郎記)貞天(貞天"書•1•天三)

東山王石塔 ❶(日) Bu-san-gyoku-seki-shū. ❷1巻 ❸存 ❹鎌倉時代和刻碑 ❺天正天刊 ❻(貞天"1•1•1)(貞天"1•1•1)

東山行記 ❶(日) Bu-san-kō-ki. ❷1巻 ❸富山藩刊(天和三—明和六 A. D. 1683—1769) ❹(著)雲峰日敬

東山採記 ❶(日) Bu-san-sai-ki. ❷1巻 ❸富山藩刊(天和三—明和六 A. D. 1683—1769) ❹(著)雲峰日敬

東山雲樹 ❶(日)Bu-san-shū-sui. ❷1帖 ❸存 ❹伊藤東涯筆 ❺天正1三刊 ❻(貞天"1•1•1)(貞天"1•1•1)

東山小史 ❶(日)Bu-san-shō-shi. ❷1巻 ❸存 ❹田中治兵衛 ❺天正1三刊 ❻(貞天"1 1•四1•四六)(貞天"妹史)(貞天"1•1•三)(貞天"1•1•1)(貞天"1•1•四) ❼安貞元 ❽(貞天"書•1•天三)

東山大学図書目録 ❶(日)Bu-san-dai-gaku-to-sho-moku-roku. ❷1巻 ❸存 ❹東山大学図書寮蔵書 ❺貞享(正天"1 1•1七)

東山樹園記 ❶(日) Bu-san-den-zū-ki. ❷三巻 ❸存、大日本史論文全書第1〇天 ❹彦根(正保四—享保11 A. D. 1647—1717)

❻本書は近江今津中松院彦根藩、享保四年十二月刊行、正編三巻四冊の日件あり。東山道近江今津の西記録を主題とせしものにして、上巻には若狭国鯖江公の近江今津巡視、上巻には若狭国鯖江藩、小浜藩、大津、白山明神、竹生島、近江八景、法華山寺記、奥の細道、井口村、彦根、今津、中巻には東山道近江今津の巻を記し、中巻には東山道近江今津の巻、近江国の巻、彦根藩、今津、彦根藩、今津藩、彦根藩、彦根藩、彦根

一・六一五)、A. N. 91 Kāmabhoji の同本單行經であつて、世間の欲の生活をしてゐるものゝ段階を十に分つて、初めの一を非法に財を集め、自らも食べず、妻子も愛はず、出家沙門を供養せざる者とし、第十を如法に財を集めて、得て執著せず、自ら愛ひ妻子に給養し、出家沙門を供養して道を求め、染著に纏を見て出離を知る者となし、これを乳から段々精製される順序に喩へた經典である。比較するとこの經典と中阿含のそれとは全同であり、A. は異なつてゐる。何故なれば A. は十種を出して一一の下でその可貴と可讃の兩面を示し、又終りに偈文を缺いてゐるが、本經と中阿含は十種人を出して直に第一と第十を比較して第一は最下、第十は最高とし、且つ同じく最後に偈文を有してゐるからである。

❼(參考) 三寶記第六、內典錄第二、譯經圖紀第二、開元錄第二、貞元錄第四 (赤沼智善)

伏蓮經 ❶(日)Fuku-ren-kyō. (支)Fu-lian-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四

伏願經 ❶(日)Fuku-gan-kyō. (支)Fu-yuan-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

伏虎錄 ❶(日)Fuku-ko-roku. ❷一帙 ❸存 ❹俠龍說、貫齊(寬文一〇—延享二 A. D. 1670—1745)記、大我(寶永六—天明二 A. D. 1709—1782)校 ❾明和元刊(京大、日大未・六三八)明和二刊(谷大、餘大・二一六八)(正大、一五七・六四)(龍大・二六八四・一四一)安政四刊(正大、一五七・六五)

伏獅祇園禪師語錄附行狀塔銘 ❶(日)Fuku-shi-gi-on-zen-ji-go-roku-tenkeitai-gyō-jō-tō-mei. (支)Fu-shih-chi-yüan-chan-shih-yü-lu ji hsing-chuang-t'a-mi-ng. 祇園禪師語錄附行狀塔銘 ❷一卷 ❸存 ❹明祇園行剛語、授說等編 ❺清代刊 ❾(嗣大)

伏魔對印大神呪經 ❶(日)Fuku-ma-tai-in-dai-jin-shu-kyō. (支)Fu-mo-tui-yin-ta-shen-chou-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 三寶記第七、內典錄第三

伏膺鈔 ❶(日)Fuku-yō-shō. ❹道範(元曆元—建長四 A. D. 1184—1252)述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第三

伏見院御落飾記 ❶(日)Fushi-mi-in-go-raku-shiki-ki. ❷一卷 ❸存、撰群書類從第二六

❺本書は花園天皇正和二年(皇紀一九七二)十月十七日伏見上皇の御出家御落飾の御儀式の記錄である。伏見天皇は御名熙仁親王後深草天皇の第二皇子である。弘安十一年三月後宇多天皇の譲を受けて御即位、御在位十一年正應永仁と二度の改元があり永仁六年十月位を太子胤仁親王に讓り給ふ。琢で延慶元年八月花園天皇即位より上皇として院にあつて政務を聽かせられた。上皇は以前より御出家の御素懷があり正和二年二月に至り前權中納言平經親を勅使として鎌倉へ遣はされ幕府の承認を得給ふたが後伏見天皇女御廣義門院等の反對の爲め延期せられた。然るに去る文永年間に後嵯峨天皇が十月を以て出家あらせられた先例により同年十月遂に御素懷を遂げ給ふに至つた。其の時の儀式次第の記錄が即ち本書である。尙御落飾の節は三七日の御逆修を行はせらるゝ慣例であるが煩雜にして天下の費方を空しくし却て功德を失するとの御思召から中止せられ以後多く此の先例により御逆修の儀の除かれる樣になつた事は特に注目すべき事である。 (高倉永孟)

服內氣決 ❶(日)Fuku-nai-ki-ketsu. (支)Fu-nei-chi-chüeh. 服內氣決 ❷一卷 ❼(參考) 書寫請來法門等目錄

副寺須知 ❶(日)Fuku-ji-su-chi. ❷一卷 ❸存 ❹無著道忠(永應二—延享元 A. D. 1653—1744) ❼(參考) 禪籍目錄

復菴可封禪師語要 ❶(日)Fukuan ka-fū-zen-ji-go-yō. (支)Fu-an-k'o-feng-ch'an-shih-yü-yao. ❸存、卍續二・二三・五 續古尊宿語要第三 ❹宋復菴可封 語

❺潭州大溈山月菴善果禪師の法嗣、南岳下十六世、常州、宜興(江南常州府)保安に住して楊岐派下の宗風を擧揚した復菴可封禪師の上堂座語を收めたものである。語に云く「山僧記得。在父母未生時。有一百二十件事。今日一一舉似。是汝諸人。第一不得錯會。良久云。早是錯會了也」と。 (大久保堅璃)

復菴錄 ❶(日)Fuku-an-roku. 大光禪師語錄 ❷一帙 ❸存 ❹復菴宗己(弘安三—延文三 A. D. 1280—1358) ❼(參考) 日本禪林僧寶傳、禪籍目錄

復右旋行道儀 ❶(日)Fuku-u-sen gyō-dō-gi. (支)Fu-yu-hsüan-hsing-tao-i. ❷一卷 ❹宋仁岳(淳化三—治平元 A. D. 992—1064)述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

復古四侍略傳 ❶(日)Fuk-ko-shi-ji-ryaku-den. ❷一卷 ❸存 ❹敬長(安永九—天保七 A. D. 1780—1836) ❺文政一一刊 ❾(正大、一五一六・二四〇)

復宗集 ❶(日)Fuku-shō-shū. (支)Fu-tsung-chi. ❷二卷(下卷見存) ❸存、卍續二・六・二一 ❹宋吳成(—隆興元 A. D. 1163)述

❺續藏所收の本書は、元祿十七年正月(A. D. 1704)の刊記を有するもので、當時既に上卷を缺して下卷のみと識して居る。

吳成は黃巖(浙江台州府)の章氏に生れ、智訥に依つて剃度し南宋孝宗隆興年中(A. D. 1163—1164)に順世した人で、字を成中、號號を明眞、自ら澤山叟と號した。禪林僧用清規(澤山清規)の編者である。本書は南宋高宗紹興二十一年(A. D. 1151)に昆山慧業寺普賢園に於て撰述したもので、上卷を缺して居るから、下卷のみの內容を見るに(一)天台の教判を用ひて四教に於ける教證。(二)法華經方便品に於ける方便。(三)三觀を以て三種惑を治することに就て塵沙煩惱を說き。(四)末法飾の淨土修證儀に就て淨土の修證を辯ずる四項より成つて居るものである。

❼(參考) 諸宗章疏錄第二 ❾元祿一七刊 ❾(谷大、餘大・一二八九)(京大、藏・二四ク・二)(龍大、二六五二・一七七)(晉、こ・四・左・二六) (大久保堅璃)

復正挽繩錄 ❶(日)Fuku-shō-dazai-roku. ❷一卷 ❸存 ❹南嶽 ❾刊本(晉、え・五・左・二二)

復正問答 ❶(日)Fuku-shō-mon-dō. ❸存、雜部小部集第四 ❾寫本(龍大、研眞)

復道興諍 ❶(日)Fuku-dō-kō-jō. ❷三十帙 ❹宋沒(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822)撰 ❼(參考) 本朝台組撰述書部書目、山家祖德撰述篇目集卷上

復批辨 ❶(日)Fuku-hi-ben. ❷二卷 ❸存 ❹了空 ❾寫本(龍大、一七六・一〇)

腹使經 ❶(日)Fuku-shi-kyō. (支)Fu-shih-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❺生經第三卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

腹中女聽經 ❶(日)Fuku-chū-nyo-chō-kyō. (支)Fu-chung-nü-ting-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹薦齊法化譯 ❺第五譯。 ❼(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

腹中女聽經 ❶(日)Fuku-chū-nyo-chō-kyō. (支)Fu-chung-nü-ting-ching. (梵)Strīsartavyākaraṇa-sūtra. 不莊校女經 ❷一卷 ❸存、大正一四・九一四 No. 553、縮字九、卍一〇・五、北233袋、南237袋、元336袋、明北232潔、清232潔、聚233敬、天233袋、指217敬、法235敬、至310必、明南226潔、N. 236 ❹北涼曇無讖(太元一〇—元嘉一〇 A. D. 383—433)譯

❺本經は、佛が羅閱祇に於ける說法の座に進りし迦羅鳩の憤姙せる胎兒が、腹中に於て又手聽經せしことを說くよりかく呼ぶのであつて、佛はこれを緣として轉女成男の法を說いてゐる。『轉女身經』とは同本異譯、曇摩密の『轉女身經』が詳細に譯出せるに對し、本經はその約七分の一程の字數に纏めた所に特色がある。(『轉女身經』參照)

❼(參考) 三寶紀第九、內典錄第三、譯經圖紀第三、開元錄第四、貞元錄第六 (三好應雄)

福海寶筏 ❶(日)Fuku-kai-hō-bassu. ❷一卷 ❸存 ❹朝鮮蓮船道人著 ❼(參考) 朝鮮佛教總書刊行豫定書目

福蓋正行所集經 ❶(日)Fuku-gai-shō-gyō-sho-shū-kyō. (支)Fu-kai-cheng-hsing-so-chi-ching. ❷十二卷 ❸存、大正三・七一九 No. 1671、縮藏九、卍續一・二・一—二、麗1521門、天1435土 ❹龍樹菩薩集、宋日稱等譯

❺福蓋正行所集經十二卷は福蓋卽ち福德身を說ふことを成就する正行の法を撰集したものである。多く佛說を引き、佛敎の善業を擧げて之を實話を以て說明してゐる。

先づ(第一卷)には歸敬文を出し、十善業を說明して諸惡を警め、害心を持つた婆羅門長者、央崛摩羅の經中の故事、佛在世中の迦毘羅・烏嗟迦仙の故事を引いてゐる。(第二卷)は佛身の莊嚴等を擧げ、福蓋の先因を擧げ、施等の法の功德を說べ、人身の受け難きを說き、請善業を勸めてゐる。(第三卷)は帝釋天が佛の許可を得て、工巧敏匠天子を召集して王舍城迦闍陀竹園に大宮殿を建設し、五日供養することを記してゐる。佛は前生に寶山如來の時王が如來を供養したことを記し、福蓋正行の說明をし、更に『一』の意義を說いてゐる。(第四卷)は祇陀林・給孤獨園の意味を說明し、舍衞城祇園精舍建立の因緣を示してゐる。更に諸外道の回心の因緣と羅護羅智者・妙臂太子の讚歎・勝軍王等の回心を記し、生老病死・憂悲惱・愛別苦・寃憎會苦を詳しく說明してゐる。(第五卷)は憂・悲・惱・苦・求不得苦・愛別離苦・寃憎會苦を說き、十三大地獄を詳說し、種々の苦の因は生とし、福蓋正行によつて免る可しと說き、舍衞城の一男子が愛する女子との離會を妨ぐる母を殺し、出家し、衆德僧つたが、死後地獄に墮ち、弟子の福力により生天した說話を出し、佛はかの天となつた僧に四諦を說いてゐる。(第六卷)はその釋尊の說法の會中に阿羅漢あり、之を聞いて昔ての本師が何處に居るかを念ひ、彼の師が寺主たりし時貪欲にして今地獄にあるを知り、解脫せしめた。佛は此處に精進・淨身口意・施戒定の三種行を述べ、二鬼が鐵・銅・銀の三物を爭つて婆羅門に奪はれた說話を引き、施戒定を說き、福蓋正行を勸めてゐる。三惡行慳惜破戒散亂を警め、佛在世中舍衞城の大名長者が慳惜にて惡道に墮ち、王舍城の長者子の母が惠施を拒んで鬼となつて苦んだ說話を出し、攝受布施福蓋正行を說いてゐる。(第七卷)には施を廣大施と隨分施とに分ち、更に前淨と不淸淨とに別ち、淸淨施を說明し往古の善慶國善勝王が布施を好んで知足天上に往生し、快樂を得たことを述べ、毘舍佉王母因緣經中の王女說話を擧げてゐる。(第八卷)には淨施の福報は百千人も奪ひ得ずと述べ、金髮夫人・鼻思王女・福藏長者・牧女・田舍女が夫々小さき供養により生天したことを述べ、勝軍王經の所說を擧げ、妃末利夫人の一女醜く夫を恥じめたので自殺した。宋宅神は憐んで蘇生させ、自ら誓願を立てた。佛は尼健子外道を化する爲の大人相にて王女の前に現れ、天女の如くに化した。王女は佛を讚嘆し、現身に瑞藏色相を得た。(第九卷)には最勝福田に於て施行を行ずる王者の功德を語り、再び天帝釋の舍衞城精舍建立を記し(看第三卷)、王舍城尼犍子長者の佛供養讚嘆を記してゐる。(第十卷)にはその長者の授記と毘婆娑羅王の回心を記してゐる。更に持戒の福報を述べ、持戒相を說き、毀禁戒の罪報を記し、四種の地獄を述べ、惡鬼・多欲による破戒者の苦患を說き一士夫の婚の書を取つて赴いて牛・車・斧・衣を失つて、我家で盜賊と誤られて血を流した者を例とし、破戒の弟子を放逸貧の子を父が我が子に非ずと言ふに喩へ、沙門にして持戒せずば、沙門と名くるも解脫の果を得ずと結論してゐる。(第十一卷)には破戒の人は貧しくて王女を妻とせる者の妻を愛ひ得ざるに喩へ、王の大施會に德無き婆羅門は供養を受け得ず、比丘は善く思惟し、功德法を修め、施戒功德に努めて福蓋を成ず可しと言ふ。更に伊羅葉龍

字數 ❶號名(書名) ❷著者 ❸說解所內 ❹代年作著 ❺書 ❻缺存 ❼數 ❽書名(書名參考書目註) ❾刊年の月 ❿寫 ⓫所現藏(書庫名) ⓬所行目

王因緣經の說を引き、佛は鷲嶺擧城にて來詣せし龍王に經相にて伊羅葉樹背に生へ、苦痛あるは食を離れざりしに由り、慈氏如來の所にあらざれば龍身を脫し得ずと述べてゐる。佛は阿羅の葉を四度嚙み、佛の阿賣に逢らつた爲だとしてゐる。又造作福業經・藥師瑠璃經を引き、五戒不殺生・不與取・不婬行・不妄語・禁酒を說いてゐる。(第十二卷)は持戒の相を明かにし、淸淨持戒と不淸淨持戒を擧げ、迦尼羅吒(Kanirāṭa)王が國王となる爲、持戒する比丘を樂まず、菩提を求める持戒比丘を恭敬した故事を出してゐる。更に不淸淨持戒の十種緣を擧げ、攝取相・寄・深著染欲・不求出離・常生懶惰・邪計希求・退失正行・邪命自活・失安隱樂・寡聞不學・疑忘論習を說く。淸淨戒の例を擧げ、計羅迦王治下に過失あり、殺さるるに當り、佛戒を持ち、佛德を讚じ殺された跋陀羅を述べ、姓の高下なく、尊しとする。不淸淨戒の例を擧げ、比丘にて薬摩樹果を弟子に盜ましたもの、比丘にて好んで鉦合を過ぎ、遊女に惑しめられたもの、破戒し、水中に落ち、命を脫し得ず、浮袋によつて寶玉を取り、死んだものを引いてゐる。

更に賊に會ひ、草に結ばれ、草を苦めるを恐れ、鹽かぬもの、湯して、水中の蟲を殺すを恐れ、泉水を飲まず、死んだもの、火を失し、水中の虫を殺すを恐れ、火を消さぬ優婆塞を擧げて、淸淨戒を說明し、持戒に勵んで菩提を求むべしと述べ、馬鳴智者が淨戒を堅持し、名聞義利を獲得し天に生れ、膨福報を受けたと述べてゐる。最後に淸淨持戒の十種功德を列擧し、生天・三明六通・力無畏・三十二相・八十種好を得るを述べ、施戒を樂行し、福蓋を具足成就すべきを述べてゐる。

之を要するに、福蓋正行所集經は布施持戒を中心にして小乘的諸德を修し、その福德を積むべきを說いたもので、六波羅蜜思想さへも何へず、小乘的見解に立つもので、到底龍樹の中道の空思想・大乘思想は何ひ知り得ない。この點、本書は佛教思想上特色ある重要な經典ではあり得ない。唯この經は多くの未知の經を引用する點、說話に富み、之によつて平易に明快に諸德を例說する點、佛教修養書としては興味深いものである。

(平等通昭)

福蓋正行所集經 ❶(日)Fuka-gai-shō-gyō-sho-shū-kyō. 岡譯福蓋正行所集經 ❷十二卷 ❸存、岡譯一切經論集部第六 ❹平等通昭譯

福經 ❶(日)Fuka-kyō. (支)Fu-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹中阿含經第三十四卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

福行經 ❶(日) Fuka-gyō-kyō. (支) Fu-hsing-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹中阿含經第二卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

福源石屋洪禪師語錄 ❶(日) Fuku-gen-seki-oku-kō-zen-ji-go-roku. (支) Fu-yuan-shih-wu-hung-ch'an-shih-yu-lu. ❷二卷 ❸存 ❹元至柔等編 ❹萬治二刊(高大、寄・一・二五)帝國、八二一・四〇)

福嚴寺記並蒼官餘韻拾遺 ❶(日)Fuku-gon-ji-ki-narabini-sō-kwan-yo-in-sha-i. ❷一卷 ❸存 ❹護宜錄 ❺大正九刊 ❹(駒大) ❹長康福嚴寺

福嚴揚宗和尙開堂 ❶(日) Fuku-gon-yō-shō-o-shō-kai-do. 揚宗和尙開堂錄 ❷二卷 ❸存 ❹揚宗衍風編 ❼(參考) 禪籍目錄

福子經 ❶(日)Fuku-shi-kyō. (支)Fu-tzu-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❺雜譬喻經の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、三寶紀第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、內典錄第一、開元錄第一六、貞元錄第二六

福壽開山靈潭大和上行狀 ❶(日)Fuku-ju-kai-san-rei-tan-dai-wa-jō-gyō-jō. ❷一卷 ❸存 ❹性培撰 ❼(參考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

福州溫州台州求得經律論疏記外書等目錄 ❶(日) Fuku-shū-on-shū-dai-shū-gai-toku-kyō-ritsu-ron-sho-ki-oyo-sho-tō-moku-roku. ❷一卷 ❸存、大正五五・一〇九二No. 2170、大日本佛敎全書第二八智證大師全集第四 ❹圓珍(弘仁五—寬平三 A. D. 814—891)撰 ❺仁壽四(A. D. 854)

❻智證大師圓珍の聖敎目錄五部中の一である、本錄には法華經一卷、大乘方等要慧經一卷を始めとして華嚴經私記二卷、呂才合宇書一卷に至る二百二拾那四百八十二卷の書を揭ぐ、其の多くは寫得せるものなれども那蘭陀寺貝多葉梵字眞言等の如く拾與せられたるものあり、經律論疏記多くを占むるも詩集、曆法書、碑文等の如き外書をも含む、如上の聖敎は福州開元寺、大中寺、溫州橫陽縣張德眞宅、溫州永嘉郡、台州嶋嶺屈宗古宅、台州黃巖縣安寧寺、台州開元寺、天台山國淸寺等に於て得たるものであつて、其の所得の地に從つて分類が施されて居る。

(林信雲)

福州開元寺新造浮屠碑並銘 ❶(日)Fuku-shū-kai-gen-ji-shin-zō-fu-to-hi-narabini-jo. (支)Fu-chou-k'ai-yuan-ssū-hsin-tsao-fu-t'u-pei & hsü. ❷一卷 ❼(參考) 智證大師請來目錄

福州悉曇記 ❶(日) Fuku-shū-shittan-ki. ❷一卷 ❹圓珍(弘仁五—寬平三 A. D. 814—891) ❺諸宗章疏錄第二に云く「出悉曇錄。」 ❼(參考) 悉曇八家請來並本朝諸製作見定目錄

福州大律攻懷道闍梨碑頌文 ❶(日)Fuku-shū-dai-ritsu-kō-kwai-dō-ja-ri-hi-jū-mon. (支) Fu-chou-ta-lü-kung-huai-tao-shê-li-pei-sung-wen. 福州大律攻懷道闍梨碑頌文、福州大律故懷道闍梨碑頌文 ❷一卷 ❼(參考) 智證大師請來目錄

福淸集 ❶(日) Fuku-shin-shū. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

福神研究惠美須と大黑 ❶(日) Fuku-jin-ken-kyū-e-bi-su-to-dai-koku. ❷一册 ❸存 ❹長沼賢海著 ❹刊本(京專)

福善寺款願書 ❶(日)Fuku-zen-ji-

tan-gwan-sho. ❷三通 ❸存 ❹寫本(龍大、別置)

福田村阿夏極樂參物語 ❶(日) Fuku-ta-mura-o-natsu-gyoku-raku-mairi-mono-gatari. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大、一九六九・一五)

福田會育兒院說敎錄 ❶(日) Fuku-da-kwai-iku-ji-in-seki-kyō-roku. ❷一卷 ❸存 ❹福田行誡(文化三—明治二一 A. D. 1806—1888) ❺明治一二刊 ❹(正大、一〇九・二五七)

福田經 ❶(日) Fuku-den-kyō. (支) Fu-tien-ching. 諸德福田經、諸福田經 ❷一卷 ❸存、大正一六、七七七No. 681、鎌倉八、卍一一・四、北366必、南382必、元392必、明北379投、清379投、聚387過、天374必、指338過、法352過、至352能、明南367定、Nj. 353 ❹法立、法炬共譯 ❺西晉惠帝代(A. D. 291—306) ❻諸德福田經の下を見よ。

福田經 ❶(日) Fuku-den-gyō. (支) Fu-tien-ching. 諸德福田經 ❷一卷 ❸缺 ❹西晉法炬譯 ❺第二譯。 ❼(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

福田殖種纂要 ❶(日) Fuku-den-jiki-ju-sann-yō. ❷十卷 ❸存 ❹不可停 ❺諷誦文を輯む。 ❺貞享三刊 ❹(谷大、餘大・二二〇〇)(正大、一〇八・八五、一七一)(哲、て・七・中・一〇)

福田報應經 ❶(日) Fuku-den-hō-ō-gyō. (支) Fu-tien-pao-ying-ching. ❷一卷 ❻長爲經。 ❼(參考) 內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八

福唐僧賓傳 ❶(日) Fuku-tō-sō-hō-den. ❸存 ❹高泉性潡(寶永一〇—元祿八 A. D. 1633—1693) ❼(參考) 禪籍目錄

福堂壁語 ❶(日) Fuku-dō-heki-go. ❷一卷 ❸存 ❹陳東光(天保一四—明治二九 A. D. 1843—1896) ❼(參考) 禪籍目錄

福德經 ❶(日) Fuku-toku-kyō. (支) Fu-te-ching. 食施獲五福報經、施食五福報經、施食獲五福經、施色力經 ❷一卷 ❸存、大正二・八五四No. 123、鎌足四、卍一四・二、北727若、南741若、元733若、明北614養、清614養、聚706止、至763仕、明南610藏、Nj. 618 ❺東晉代(A. D. 317—420)失譯 ❻食施獲五福報經の下を見よ。

福德具足門 ❶(日) Fuku-toku-gu-soku-mon. ❷一帖 ❸存 ❹支政元寫 ❹(寶壽院)

福德第三吉祥天 ❶(日)Fuku-toku-dai-san-kichi-jō-ten. ❷一帖 ❸存 ❹常波 ❺嘉祿三寫 ❹(高大、寄・一・六六)

福寧斌雅禪師語錄 ❶(日) Fuku-nei-hin-ga-sen-ji-go-roku. (支) Fu-ning-pin-ya-ch'an-shih-yu-lu. 斌雅禪師語錄 ❷一卷 ❸存 ❹明代海岱、源淸共編 ❺康熙一九刊 ❹(駒大)

福報經 ❶(日)Fuku-hō-gyō. (支)Fu-pao-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❺雜譬喻經の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、內典錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六、福力太子因緣經 ❶(日) Fuku-riki-tai-shi-inn-en-gyō. (支) Fu-li-t'ai tzū-yin-yüan-ching. (梵) Puṇyabalavadāna. (藏傳)(藏)Bsod-nams kyi stobs-kyi-rtogs-pa-brjod-pa. ❷四卷 ❸存、大正三・四二八No. 173、鎌宿六、卍一五・七、北1325公、南1333茂、元1320茂、明北948夙、清948夙、聚1493濃、天1310茂、至521克、明南978藏、Nj. 953 ❹施護寺譯 ❺宋太平興國五以後(A. D. 980—)

❻世尊が安陀林に在せし時、阿難等一舍に集りて何の行業が義利多きやを論ず。阿難は色相行業、聞二百億は精進行業、阿泥樓駄は工巧行業、佛、之を知り給ひて、其等のうち、智慧行業は最勝なれども福力を修するは絕勝なりと敎へ、その所以として福力太子の因緣(Avadāna)を語り給ふ。

過去世、眼力王の時、その廣照后に色相具足せる色力太子、精進具足の第二子、工巧具足の第三子、智慧具足の第四子あり、最後に一子の托胎せる時、天地に奇瑞あり後、又、獅子座に在りて王の爲に人貧、修三作諸福因、如役所作、勿間斷、隨之其樂、欲施作、時由福藏、故獲此樂、等の偈を說く。月滿ちて生るゝや、太子又、右の偈を說く、之によつて福力太子といふ(第一卷)。後時、福力太子四兄と鬼林に出遊し、何の行業が多く義利を得ると議る。色力太子は色相行業乃至、福力太子は福こそ最勝なりといふ。かくて其等を驗せんと

年、国語調査委員会の決定を経て、由緒ある「藤」と下註してあるもので、他には全く見えない。この出来たいきさつの所在、経過に関しては、林守篤の守記に詳しく、その所在、由緒を説明するこのほか、これ以上知るすべは出来ない。❻〔参考〕 宇治拾遺物語巻六

（林屋辰三郎）

福蔵寺光法 ❶〔日〕Fuku-shi-jō-kō-hō. 〔支〕Fu-ch'ih-shêng-kuang-fa. 北宋十元興撰著法 ❷1巻 ❸存 ❹天正11・•四五 ❺No. 1310 ❻鎌倉図 ❼卍続11・九・三一右（一説天1 天A. D. 727）説 ❽北宋十元現説菩薩法の下を見よ。

福神分 ❶〔日〕Fuku-shin-shō. ❷1巻 ❸存 ❹町時代 ❺〔宝教蔵〕

藤井貞正紀年 ❶〔日〕Fuji-i-sen-shō-ki-nen. ❷1巻 ❸存 ❹藤井貞清 ❺町後期 ❻〔慶大〕1 元六九・1 六〕

藤井寺観音堂 ❶〔日〕Fuji-i-dera-kwan-jin-chō. ❷1巻 ❸存 ❹藤井寺観音堂記 ❺天正十（A. D. 1510）十一月 ❻〔参考〕 天正十（A. D. 1510）年十一月の河内国藤井寺観音堂の勧進帳である。同寺は天武朝創建（A. D. 1493）の頃、聖武天皇勅願の寺と伝説され、社殿本堂を建立したが、天正十年に焼亡したとのことである。この記を見れば、当時、本尊の千手観音像の修復のため、同年十一月に、これが諸国の勧進を行なわれたものである。

（不破俊合）

藤原山志 ❶〔日〕Fuji-sawa-san-shi. ❷1巻 ❸存 ❹〔参考〕 大日本史敬称全書

編用資定書目

藤原山遊行寺田縁記 ❶〔日〕Fuji-sawa-san-yu-gyō-ji-yui-shō-ki. ❷1巻 ❸存 ❹〔参考〕 大日本史敬称全書編用資定書目

二幡乃記 ❶〔日〕Futa-hata-no-ka-ki. ❷1巻 ❸存 ❹鎌倉中期 ❺宗教思想

二荒山千部会縁起 ❶〔日〕Fu-tara-san-sem-bu-e-en-gi. ❷1巻 ❸存 ❹新編群書類従巻一九

❺日光山法華経千部会の縁起を記した短篇の一篇である。同千部会は法華経千部の転読を行なうことである。日光山の僧天海僧正の発願で、上方人の寄進を仰ぎ、東照宮創建の翌年、元和六年（A. D. 818）以来、毎年行なわれ、幕末に至る。神仏分離の時、廃絶されたという。この縁起は、同寺の僧侶が、寺の由来を説いたもの。

❻〔参考〕 大日本史敬称全書編用資定書目

福徳神中経 ❶〔日〕Futsu-waku-shū-chū-saku. 福徳神中記 ❷1巻 ❸存、日本大蔵経全書編用資定書目 ❹天暦二（一説天一）年 ❺〔参考〕 大日本史敬称全書編用資定書目

❻〔参考〕 大日本史敬称全書編用資定書目

福徳神中経考文 ❶〔日〕Futsu-waku-shū-chū-saku-kō-mon. ❷1巻 ❸存 ❹宝暦八—寛政年間（A. D. 1704—1710—）

❺〔参考〕 天台宗全書編用行資定書目

普阿毘達磨記 ❶〔日〕Butsu-a-bi-don-gyō. 〔支〕Fo-ê-p'i-t'an-ching. 阿毘達磨経 ❷1巻 ❸存、大正11巻・•六五八No. 1482、編巻1〇、卍1七・三一、北942葉、帝956葉、元952葉、明北1102葉、南1102葉、潮945帙、天914葉、帝901帙、法930帙、重1256帙、明南1301帙、Nj. 1197 ❹鳩摩羅什（姚秦弘一—弘始年間A. D. 499—559）説

❺本経は阿毘曇論の要旨を説いたものである。（巻十・十五1十六）。阿毘曇論とは阿毘曇であり、経蔵とは出家者の律制を説いたものである。（巻十・八右11）。阿毘曇とは、出家者の律制を説いたものである（巻十・八右11）。阿毘曇とは、出家者の律制を説いたものである。

なるものは苦にして又無我」等の意を說明するために、阿羅を對苦として、人始めて母胎に宿りてより出生成人して生涯に至るまでの肉體の發展變化の狀を詳細に說明して以て無常と苦の實際を明かにせる註釋文學である。而してこの入胎より出生成人する狀に就ては、俱舍等の阿毘曇に於ても說明するところであるが、本經の炎會、入胎藏會に於て殆んど同文にて記述されてゐるから、入胎の項に關しては二經對照して左に略科しよう。(略科)。(上段、序分)。(中段、解釋分＝二經對照)。(一)入胎因緣具不(炎會は中除の相狀並に經水に就て附記す)(二)入胎時中陰想念。(三)受胎時相狀生陰の如し。(四)初七日、歌羅邏(羯羅藍)四大漸く成る。(五)第二七日、安浮陀(頞部陀)、薬風を迴流(迴轉)と名づけ、之によりて四大漸々に成就す。(六)第三七日、閉手(閉尸)、薬風藏口(刀鞘口)、四大漸增。(七)第四七日、伽那(健南)、薬風攝取(內開)、狀羅奢佉(五相)、薬風攝持、兩膝兩肩身首の五相生ず。(八)第六七日、薬風食(廣大)、兩肘兩膝の四相現ず。(九)第七七日、薬風旋轉、兩手足掌の四相現ず。(十)第八七日、薬風迴轉、兩手足の二十指生ず。(十一)第九七日、薬風分散、二目・二耳・二鼻孔・口・大小便處の九相生ず。(十二)第十七日、薬風堅硬によつて胎兒身堅實となり、又薬風皆門によつて胎身振動す。(十三)第十一七日、薬風金剛(踈通)、身孔を通徹す。(十四)第十二七日、薬風曲口によつて大小脣を生じ、又、薬風穿髮によつて三百二十(一百三十)の支節及び百一の穴(禁處)を作る。(十五)第十三七日、薬風飢渴、飢渴を感じ身穴及び臍輪(臍のみを畢(ヒ)より母胎より識味を取る。(十六)第十四七日、薬風輪口、九百の筋を生ず(一千とし身前身後右邊左邊各二百五十筋と細分す)。(十七)第十五七日、薬風龍駒、二十主脈・八百支脈・八萬細脈を生じ、各細脈に一乃至七孔ありて毛孔と連る。(十八)第十六七日、薬風甘露(甘露行)、各器官臟器の位置を調整す。(十九)第十七七日、毫牛面(毛搏口)、眼耳等諸根を練磨す。(二十)第十八七日、薬風大堅强(無垢)、六根を明淨ならしむ。(二十一)第十九七日、薬風前に同じ(缺)、眼耳鼻舌の四根完成し入胎時に得たる身命窟の三根に合せて諸根完具となる。(二十二)第二十七日、薬風堅固、諸骨を生ず、左右脚指各二十・足四・踵二・膝二・髀二・腰骨三・脊十八・肋二十四・胸十三(七)・左右二手各二十・(腕二)・臂四・肩二(七)・(項四)・頷二・鼻孔四・齒根三十二、小骨を除いて大骨の數二百ありと。(二十三)第二十一七日、薬風生起、身肉生ず。(二十四)第二十二七日、薬風浮流、血液生ず。(二十五)第二十三七日、薬風浮地、皮膚生ず。(二十六)第二十四七日、薬風持雲(滋潤)、皮膚に光澤生ず。(二十七)第二十五七日、薬風持滅、血肉を滋潤す。(二十八)第二十六七日、薬風生成、髮毛・爪甲生じて諸脈に連る。(二十九)第二十七七日、薬風曲鎗、身相成る、宿業に應じて具不具・美醜等定る、又この頃より母胎中の胎位—男は右脇、女は左脇—定り、母胎に從つて苦受を感ず。(三十)第二十八七日、薬風缺、胎內に在りて乘騎・樓閣・林樹・泉流(屋)・池沼・河・廚・苑(樹林)の八種の倒想を起す。(三十一)第二十九七日、薬風華條、宿業によつて身相色澤等定る。(三十二)第三十七日、薬風縛口、髮毛・爪甲を增長し色澤を附す。(三十三)第三十一七日、乃至第三十五七日、薬風缺、身相長大す(第三十五七日を別開して支體具足とす)。(三十四)第三十六七日、薬風缺、母胎中に在るを寄ばず。(三十五)第三十七七日、薬風缺、五種の倒想(三種)—不淨・臭穢・固(缺)・黑闇・臭惡(缺)を生ず。(三十六)第三十八七日、薬風拘絲(亟摩)、胎身を廻轉す。又、薬風廻下によつて頭を下にして產門に向ふ。此の時宿業惡しきものは死す。(三十七)生時苦。(三十八)生後七日苦、八萬戶蟲ありて苦しましむ。(三十九)人壽百歲なるも途に死に歸す。(四十)內苦に四百四病あり、外苦に無量苦あり、五受蘊身之れ苦聚なるを明す。(下段、經說分)。五蘊これ無常苦無我にして厭離すべきを說く(これ又炎會に出づ)。

(美濃晃順)

佛爲優塡王說王法政論經

❶(日)Butsu-i-u-denn-ō-setsu-ō-bō-seiron-kyō. (支)Fo-wei-yu-tien-wang-shuo-wang-fa-cheng-lun-ching. 政論經、佛爲優塡王說經 ❷一卷 ❸存、大正一四・七九七No.524、舊問一五、卍一六・二、明北1001之、清1001之、麗1363且、法1156戶、明南1061思、三十帖策子第一六、Nj.1005 ❹不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❺唐天寶五—大曆九(A. D. 746—774) ❻佛爲優塡王說王法政論經の下を見よ。

佛爲黃竹園老說經 ❶(日)Butsu-i-ō-hiku-on-rō-setsu-kyō. (支)Fo-wei-huang-chu-yuan-lao-shuo-ching. 佛爲黃竹園老婆羅門說事經 ❷一卷 ❸存、大正一・八八二No.75、舊從八、卍一四・二、北705若、南719若、元711若、明北603養、清603養、麗722止、天705若、指657止、法694止、至941仕、明南591無、Nj.637 ❺訓宋代(A. D. 420—479)失譯

佛爲黃竹園老婆羅門說學經

❶(日)Butsu-i-ō-chiku-on-rō-ba-ra-mon-setsu-gaku-kyō. (支)Fo-wei-huang-chu-yuan-lao-p'o-lo-mên-shuo-hsueh-ching. (巴)Ar. VIII.11. Verañja 佛爲黃竹園老說經 ❷一卷 ❸存、大正一・八八二No.75、舊從八、卍一四・二、北705若、南719若、元711若、明北603養、清603養、麗722止、天705若、指657止、法694止、至941仕、明南591無、Nj.637 ❺訓宋代(A. D. 420—479)失譯

佛爲優塡王說王法政論經略註

❶(日)Butsu-i-u-denn-ō-setsu-ō-bō-seiron-kyō-ryaku-chū. ❷一卷 ❸存 ❹義導(文化二—明治一四 A. D. 1805—1881)述 ❼明治二刊 ❽(谷大、餘大・三八六七)

佛爲優塡王說經 ❶(日)Butsu-i-u-denn-ō-setsu-kyō. (支)Fo-wei-yu-tien-wang-shuo-ching. 佛爲優塡王說王法政論經、政論經 ❷一卷 ❸存、大正一四・七九七No.524、舊問一五、卍一六・二、明北1001之、清1001之、麗1363且、法1156戶、明南1061思、三十帖策子第一六、Nj.1005 ❹不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❺唐天寶五—大曆九(A. D. 746—774) ❻佛爲優塡王說王法政論經の下を見よ。

佛爲黃竹園老說經 ❶(日)Butsu-i-ō-hiku-on-rō-setsu-kyō. (支)Fo-wei-huang-chu-yuan-lao-shuo-ching. 佛爲黃竹園老婆羅門說事經 ❷一卷 ❸存、大正一・八八二No.75、舊從八、卍一四・二、北705若、南719若、元711若、明北603養、清603養、麗722止、天705若、指657止、法694止、至941仕、明南591無、Nj.637 ❺訓宋代(A. D. 420—479)失譯

佛爲黃竹園老婆羅門說學經

❶(日)Butsu-i-ō-chiku-on-rō-ba-ra-mon-setsu-gaku-kyō. (支)Fo-wei-huang-chu-yuan-lao-p'o-lo-mên-shuo-hsueh-ching. (巴)Ar. VIII.11. Verañja 佛爲黃竹園老說經 ❷一卷 ❸存、大正一・八八二No.75、舊從八、卍一四・二、北705若、南719若、元711若、明北603養、清603養、麗722止、天705若、指657止、法694止、至941仕、明南591無、Nj.637 ❺訓宋代(A. D. 420—479)失譯

佛爲海龍王說法印經 ❶(日)Butsu-i-kai-ryū-ō-setsu-hō-in-kyō. (支)Fo-wei-hai-lung-wang-shuo-fa-yin-ching. (梵)Sāgara-nāgarāja-paripṛcchā. (推)Sākārikāvadāna. (藏傳乙)(藏)'Phags-pa klu'i rgyal-po rgya-mtsho shus-pa shes-bya-ba theg-pa chen-poḥi mdo. N phag mohi rtogs-pa brjod-pa shes-bya-bahi mdo. ❷一卷 ❸存、大正一五・一五七No.599、舊宿八、卍一一・五、北494景、南593登、元502登、明北453登、清453登、麗502羊、天503登、指466羊、法437羊、至431絲、明南501賢、Nj.457 ❹義淨(貞觀九—先天二 A. D. 635—713)譯 ❺唐景雲二(A. D. 711)

❻本經は極めて短い經で、主旨は海龍王の爲めに四句法印を說かれるに在る。即ち、佛、海龍王宮に在りて、娑竭羅龍王の少法にして多爲なるものを問ふや爲めに諸行無常、一切皆苦、諸法無我、寂滅爲樂の四法印は功德殊勝なり應に念誦すべしと說かるものである。

❼(參考) 開元錄第九、貞元錄第一三

(山邊習學)

佛爲憍慢婆羅門說偈經 ❶(日)Butsu-i-kyō-man-ba-ra-mon-setsu-gekyō. (支)Fo-wei-chiao-man-p'o-lo-mên-shuo-chieh-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹雜阿含經第四卷の抄出。❼(參考) 出三藏記錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第一六、貞元錄第二六

開元錄第一六、貞元錄第二六

佛爲海龍王說法印經 ❶(日)Butsu-i-kai-ryū-ō-setsu-hō-in-kyō. (支)Fo-wei-hai-lung-wang-shuo-fa-yin-ching. (梵)Sāgara-nāgarāja-paripṛcchā. (推)Sākārikāvadāna. (藏傳乙)(藏)'Phags-pa klu'i rgyal-po rgya-mtsho shus-pa shes-bya-ba theg-pa chen-poḥi mdo. N phag mohi rtogs-pa brjod-pa shes-bya-bahi mdo. ❷一卷 ❸存、大正一五・一五七No.599、舊宿八、卍一一・五、北494景、南593登、元502登、明北453登、清453登、麗502羊、天503登、指466羊、法437羊、至431絲、明南501賢、Nj.457 ❹義淨(貞觀九—先天二 A. D. 635—713)譯 ❺唐景雲二(A. D. 711)

❻本經は極めて短い經で、主旨は海龍王の爲めに四句法印を說かれるに在る。即ち、佛、海龍王宮に在りて、娑竭羅龍王の少法にして多爲なるものを問ふや爲めに諸行無常、一切皆苦、諸法無我、寂滅爲樂の四法印は功德殊勝なり應に念誦すべしと說かるものである。

❼(參考) 開元錄第九、貞元錄第一三

(山邊習學)

佛爲憍慢婆羅門說偈經 ❶(日)Butsu-i-kyō-man-ba-ra-mon-setsu-gekyō. (支)Fo-wei-chiao-man-p'o-lo-mên-shuo-chieh-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹雜阿含經第四卷の抄出。❼(參考) 出三藏記錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛爲拘羅長者說根熟經 ❶(日)Butsu-i-ku-ra-chō-ja-setsu-kon-juku-kyō. (支)Fo-wei-chü-lo-chang-che-shuo-kên-shu-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❺雜阿含經第十四卷の抄出。❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第三、仁壽錄第三、靜泰錄第三、武周錄第一二、開元錄第一六、第一七、貞元錄第二六

佛爲事火婆羅門說悟道經

❶(日)Butsu-i-ji-kwa-ba-ra-mon-setsu-go-dō-kyō. (支)Fo-wei-shih-huo-p'o-lo-mên-shuo-wu-tao-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❺雜阿含經第四卷の抄出。❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛爲娑伽羅龍王所說大乘經

❶(日)Butsu-i-sha-gya-ra-ryū-ō-sho-setsu-dai-jō-kyō. (支)Fo-wei-so-chieh-lo-lung-wang-so-shuo-ta-ch'eng-ching. (梵)Sāgara-nāga-rāja-paripṛcchā-sūtra. (引用)(藏)'phags-pa klu'i-rgyal-po rgya-mtsho shus-pa shes-bya-ba theg-pa chen-poḥi mdo. 佛爲娑伽羅龍經、佛爲娑伽羅龍王所說大乘法經 ❷一卷 ❸存、大正一五・一五九No.601、舊列一、卍一五・四、北1159八、南1165八、元1163八、明北835盡、

立つものは閑靜室に坐して沉思心讀すべき經である。

內容。優塡王が帝王の眞實の過失及び功德を問ふや世尊はこれに一、王の過失(1種姓不高2不得自在3立性惡惡4猛利憤發5恩惠除薄6受邪佞言7所作不順古先王制8不顧善法9不鑑是非勝之與劣10一向縱富專行放逸)二、王の功德(1種姓尊高2得大自在3性不惡惡4憤發輕發5恩惠猛利6受正直言7所作皆思審順先教8顧慰善法9善知差別10不自縱富不行放逸)三、王の衰損門(1不善親密兩橋群臣2雖善親密兩無恩惠、縱有恩惠不得及時3專行放逸不思國務4專行放逸不守府庫5專行放逸不修善法)四、王の愛すべき法(1人所敬愛2自在增上3能擯惡敵4善橋愛身5能修善事)五、王の可愛法を能發せしむるもの(1恩愛世間2英勇具足3善權方便4正受境界5勤修善法)を說かれる。かくて若し每日晨朝に之れを讀誦しこれを修行するは聖王法王と名くべきで、諸佛菩薩龍神八部は日夜にそのものを加持し護念せられ、功德利益安隱は無邊なりとある。思ふに本經は佛教の王法學として重要なる教示を含んで居るものであらう。

❼(參考) 貞元錄第一五 ❽延寶四寫 ❾(寶善提院)

(山邊習學)

佛爲優塡王說王法政論經

❶(日)Butsu-i-u-denn-ō-setsu-ō-bō-seiron-kyō. 現代意譯佛爲優塡王說王法政論經 ❷一冊 ❸存、現代意譯根本佛教經典叢書第一二

清335盡、履1147終、天1146八、法1265冠、至513貫、明南629命、Nj. 840 ❹施護譯 ❺宋太平興國五以後(A. D. 980—)

❻本經の主旨は佛、婆伽羅龍王に對し十善業道を說かゝに在る。

内容。佛、大海中婆伽羅龍王宮莊嚴道場に在りて王に說法し給ふ。卽ち諸法の自性は幻化、不可思議、無所生、無主宰、無有我、無礙、無生、無滅、無色、無相にして世間種々の惡業は皆妄心の所化なり。此の惡報の業を斷つは善法の觀察に依る。善法とは十善道なりとて、離殺生は十種善法を得、離偸盜は十依止を得、離邪婬は四智善法を得、離妄語は八種善法を得、離惡口は八種口過清淨を得、離兩舌は五種堅固を得、離貪毒は八種善法を得、離瞋毒は五種勝順圓滿を得、離邪見は十種功德の法を得と說き、復、十不善法微細行を觀ずべしと。斯くて、十善業道は一切佛法の根本安住にして此れを修するは菩薩道を行ずるなりと說かれてゐる。

(山邊習學)

佛爲婆伽羅龍王所說大乘法經 ❶(日)Butsu-i-shing-ra-ryō-ō-sho-setsu-dai-jō-hō-kyō. (支) Fo-wei-so-ch'ieh-lo-lung-wang-i-shuo-ta-ch'eng-fa-ching. 佛爲婆伽羅龍王所說大乘經、佛爲婆伽羅龍王所說大乘法經 ❷一卷 ❸存、大正一五・一五九No. 601、館列一、卍一五・四、北1130八、南1166八、元1160八、明北835盡、清335盡、履1147終、天1146八、法1265冠、至513貫、明南629命、Nj. 840 ❹施護譯 ❺宋太平興國五以後(A. D. 980—)

佛爲婆伽羅龍經 ❶(日)Butsu-i-sha-ga-ra-ryō-kyō. (支)Fo-wei-so-ch'ieh-lo-lung-ching. 佛爲婆伽羅龍王所說大乘經、佛爲婆伽羅龍王所說大乘法經 ❷一卷 ❸存、大正一五・一五九No. 601、館列一、卍一五・四、北1130八、南1165八、天1160八、明北835盡、清335盡、履1147終、天1146八、法1265冠、至513貫、明南629命、Nj. 840 ❹施護譯 ❺宋太平興國五以後(A. D. 980—)

佛爲首迦長者說業報差別經 ❶(日)Butsu-i-shu-ka-chō-ja-setsu-gō-hō-sa-betsu-kyō. (支) Fo-wei-shou-chia-chang-che-shuo-yeh-pao-ch'a-pie-ching. (梵巴藏)分別善惡報應經參照。業報差別經 ❷一卷 ❸存、大正一・八九一No. 86、館宿六、卍二五・一、北869甚、南932甚、元816甚、明北735當、清745當、履812轉、天809甚、指770轉、法797轉、至1044終、明南692異、Nj. 739 ❹法智譯 ❺隋開皇二(A. D. 582) ❻鸚鵡經の下參照。

佛爲首迦長者說業報差別經要解 ❶(日)Butsu-i-shu-ka-chō-ja-setsu-gō-hō-sa-betsu-kyō-yō-ge. ❷三卷 ❸存 ❹圓晉述 ❺天和二刊 ❻小谷大、餘大・二七〇七)

佛爲諸比丘說莫思惟世間思惟經 ❶(日) Butsu-i-sho-bi-ku-setsu-ma-ku-shi-yui-se-ken-shi-yui-kyō. (支)Fo-wei-chu-pi-ch'iu-shuo-mo-ssū-wei-shih-chien-ssū-wei-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹雜阿含經第十六卷の抄出。❷(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛爲勝光天子說王法經 ❶(日) Butsu-i-sho-kō-ten-shi-setsu-ō-hō-kyō. (支)Fo-wei-shang-kuang-i-tien-tzū-shuo-wang-fa-ching. (梵)Rājavādaka 佛爲勝光天子說經 ❷一卷 ❸存、大正一五・一二五 No. 593、館宿六、卍二〇・六、北250女、南272女、元258女、明北246才、清246才、履262僞、天269女、指242僞、法235僞、至337得、明南275才、Nj. 250 ❹義淨(貞觀九—先天二A. D. 635—713)譯 ❺唐神龍元(A. D. 705)

❻本經の主旨は佛が勝光天子の願ひに應じて國主の法を說くに在るが、その中心點は王をして厭離心を生じ、涅槃を求めしめんとするところにある。

内容。佛、娑樹給孤獨園の一樹下に於て衆の爲めに自證微妙の法を演說し給へるとき、憍薩羅國王勝光天子佛前に到りて、「我れに國主の法と及び、現在は恒に安樂を受け、命終の後當に天上に生れ、乃至は菩提の善心相續」するものを敎へ給へと願ふ。國主の法は要するに惡法を遠離し善法を修するに在る。それは常に一心に三寶を恭敬するに依りて得らるゝ。此處に佛は、一切諸法卽ち山河、堂舍、樓閣、王位、壽命、父母兄弟、妃后、國人、臣妾、金銀珍寶等の體性空處にして無常滅壞することを說きて說かれる。無常を知れば厭心を生じ、厭心は智慧を起し、智慧は妙涅槃を證得するに到る。卽ち本經に依れば國主の法は、國主「自身の安隱」にあらねばならぬことを知らしめらるゝ。

❼(參考) 開元錄第九、貞元錄第一三

(山邊習學)

佛爲勝光天子說經 ❶(日) Butsu-i-sho-kō-ten-shi-setsu-kyō. (支)Fo-wei-shang-kuang-i-tien-tzū-shuo-ching. 佛爲勝光天子說王法經 ❷一卷 ❸存、大正一五・一二五No. 593、館宿六、卍二〇・六、北250女、南272女、元258女、明北246才、清246才、履262僞、天269女、指242僞、法235僞、至337得、明南275才、Nj. 250 ❹義淨(貞觀九—先天二A. D. 635—713)譯 ❺唐神龍元(A. D. 705)

佛爲心王菩薩說投陀經 ❶(日) Butsu-i-shin-ō-bo-satsu-set-tō-da-kyō. (支)Fo-wei-hsin-wang-p'u-sa-shuo-tou-t'o-ching. ❷卷上現存、大正八五・一四〇 1 No 2365

❸武周錄第十五(大正五五・四七三C) 開元錄第十八(大正五五・六七七B) 貞元錄第二十八(大正五五・一〇二二A)等各異僞錄に心王菩薩說頭陀經なるものあり、本經題目とは佛爲の二字を缺き、投陀は頭陀とあるとは僅違はあるも、投陀は頭陀の轉訛音と見れば、兩者同一經と見て可なるべく、本經は武周時代の僞疑經の一と見得られるであらう。卷首に「五陰山室寺惠神禪師註」として最初に序文を、引續き本文につき挾註してゐる、序文中に「聞大士」なる名前出づる

も、憍薩羅國と共にその事跡を祖めるを得ず。本經の趣旨とする所は、佛が心王菩薩をして、諸大衆の爲めに無上甚深の妙法を宣說して、諸衆生をして煩惱性空無所有を識らしめんとするものにして「無生無滅、無垢無淨、無生死際、無涅槃際、二際平等、等諸法空故、閻居靜住、卽是投陀」とて、投陀の妙法を宣說するにあり。何れにするも、本文、挾註共に、佛經としてその註釋として異例の多くが見受けられる。鳴沙餘韻解說第二部二六三頁參照。

❹燉煌本(大英博物館 No. 2474)(辻善榮修)

佛爲長者說放逸經 ❶(日) Butsu-i-chō-ja-setsu-hō-itsu-kyō. (支) Fo-wei-chang-che-shuo-fang-i-ching. ❷一卷 ❸根本說一切有部毘奈耶雜事第三十六卷の抄出。❼(參考) 開元錄第一六、第一七、貞元錄第二六

佛爲調馬聚落主說法經 ❶(日) Butsu-i-chō-ma-i-raku-shu-setsu-hō-kyō. (支)Fo-wei-tiao-ma-chü-lo-chu-shuo-fa-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹雜阿含經第三十二卷の抄出。❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛爲那拘羅長者說根熟經 ❶(日) Butsu-i-na-ku-ra-chō-ja-setsu-kon-jiku-kyō. (支) Fo-wei-na-chü-lo-chang-che-shuo-kēn-shu-ching. ❷一卷 ❸雜阿含經第五卷の抄出。❼(參考) 開元錄第一六、第一七、貞元錄第二六

佛爲雜陀說出家入胎經 ❶(日) Butsu-i-nan-da-hosu-shuk-ke-nyū-tai-kyō. (支)Fo-wei-ê-nan-t'o-shuo-chu-chia-ju-t'ai-ching. (藏) Sgyuṅg-pa dgaḥ-bo lamnal na gnas-pa shes-byaḥ-ba chen-poḥi mdo. 入胎藏會 ❷二卷 ❸存、大寶積經第五六—五七(大正一一・三二六 No. 310, 14) ❹義淨(貞觀九—先天二 A. D. 635—713)譯 ❺唐菩龍四(A. D. 710)

❻本經は、菩提流志によつて入胎藏會と改題されて大寶積經第十四會に編入せられたが、內容は同義淨譯の有部毘奈耶雜事卷第十一、十二にも律圖係の少記事を除き略んど同文にて傳へられてゐる。而して西藏譯は總部文殊師の調査によれば、恐らく義淨譯漢本の重譯であらうと考へられてゐる。

〔上段、難陀說化因緣〕。(1)難陀、佛鉢を乞して佛に隨ひ、寺に至りて不本意ながら出家す。(2)難陀、妻の彌陀羅を慰ひて屋歸殿せんとするも、佛方便して歸る能はざらしむ。(3)庵子母講堂に至る(有部雜事はこゝに四種制戒因緣を加ふ)。佛、難陀の愛情を止めんが爲め、方便して作ひて香醉山に至りて嶋の猿猴狀を示し、更に三十三天に至りて天女を示す。難陀、天女の孫陀羅の容貌に勝るゝこと孫陀羅と嶋猿狀の比に類するを見て、天女に戀著す。佛卽ち浮修によりて天女を得と調ゆ。(4)難陀、逝多林に還りて生天行を修むるに、諸志製これを異道として近づかず。(5)佛、更に拘洛迦に伴ひて、天上の果報もつくれば此に墮在すと調えて難陀を愧恥せしむ。(Thera Gāthā, 157—8 註. Jātaka I. pp. 91, ff, 本行集經卷五十六等、この傳說を傳ふるもの多し)〔中段、A入胎藏調〕。佛、占波國楊池邊に到り入母胎經を說く。この下、本經第十三會の說に同じ、佛爲阿難說處胎會の下、中段の解說を見よ。(中段、B厭離欣求)。(1)四種入胎。一者入住出共正念、二者入住正念出不正念、三者入住出不正念、四者入住出共不正念、前三は善品の人にて七生預流等の果を受くべく、後一は惡品にして惡道の報を受くべく、皆これ先世の宿業に依る。(2)生死有苦。人天は善趣にして地獄・餓鬼・傍生は惡趣なり、共に無量の苦あるも、人趣は特に得難ければ難趣とす。(3)正法敎誡。三項あり、一に三毒猛化喩(巴利律大品一・二一引用)、二に二證二依四念處法(長阿含遊行經等出)、三に五蘊無常苦無我說(雜阿含卷二第二經、これ又本經前會に出づ)。(4)中段A Bの簡略なる重頌。(下段、宿世業因)。(1)難陀得脫。自慶頌を說く(巴利長老偈一五七・八偈と全然異る)。(2)金色身本緣。毗鉢尸佛世に有親王の弟と生れ婢愛多盛なりしが、佛を請じて洗浴供養し、婢欲を離れて來世金色身を得て得脫せんと發願せしに依り、今世金色身を得て得脫す(佛本行集經五十七、佛五百弟子自說本起經並に迦葉本緣譬經に出づ)。(3)三十相本緣。跋提迦、一長者あり、その苑園に來住せし獨覺に日々施食し、獨覺の滅後、茶毘處塔供養せし功德によりて今世三十相を得(佛本行集經五十七)。(4)承輪王位本緣。迦葉佛の涅槃したまふや乾樂枳王造塔し、中王子中蓋を奉獻す、今の難陀これなり(佛本行集經卷五十七)。(5)護根第一本緣。迦葉佛の一弟子護根第一にして觀欽師たるも未だ證悟を得ず、釋迦佛世に生れて得脫せんと願ぜしもの今の難陀なりと。以上を以て見るに、本經は前會「佛爲阿難說處胎會」(其下參)を基礎として之に律藏に附傳されたる難陀の傳を潤飾せる本緣文學の一となすべく、その成立の如きも、本經淺來前甚しき年月を距てざるべく、逐字的一致を見る有部雜事の成立期に合せて考察せらるべきものであると信ずる。

(美濃晃順)

佛爲年少婆羅門說知善不善經 ❶(日) Butsu-i-nen-shō-ba-ra-mon-setsu-chi-zen-fu-zen-kyō. (支) Fo-wei-nien-shao-p'o-lo-mên-shuo-chih-shan-pu-shan-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❺雜阿含經第四卷の抄出。❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第三、武周錄第一二、開元錄第一六、第一七、貞元錄第二六

佛爲年少比丘說經 ❶(日) Butsu-i-nen-shō-bi-ku-setsu-kyō. (支)Fo-wei-nien-shao-pi-ch'iu-shuo-ching. 佛爲年少比丘說正事經、正事經 ❷一卷 ❸存、大正一四・七七一No. 502、館宿八、卍一五・一、北837寬、南830寬、元844寬、明北743

當、清743當、麗555無、天837寛・享503無、法634無、至1071上、明南721孝、Nj. 743 ❹法炬譯 ❺西晉惠帝代(A. D. 290—306) ❻佛爲年少比丘說正事經の下を見よ。

佛爲年少比丘說正事經 ❶(日) Butsu-i-nen-shō-bi-ku-setsu-shō-ji-kyō. (支)Fo-wei-nien-shao-pi-ch'iu-shuo-cheng-shih-ching. 正事經、佛爲年少比丘說經 ❷一卷 ❸存、大正一四・七七一No. 532、鎌倉八、卍一五・一、北837寛、南250寛、元844寛、明北743當、清743當、麗555無、天837寛、享503無、法634無、至1071上、明南721孝、Nj. 743 ❹法炬譯 ❺西晉惠帝代(A. D. 290—306)

❻本經は極めて短い經で、その主旨は比丘を攝受することが正事なりと說かるゝに在る。

内容。佛、祇樹給孤獨園に在して、夏安居又は十五日布薩のとき、諸の長老比丘が年少の比丘及び人間遊行の比丘を攝受せるを正事なりと讃へ、次いでその諸の長老比丘の修得相を叙べらるゝものが本經である。

❼(參考) 三寶紀第六、内典錄第二、譯經圖紀第二、開元錄第二 (山邊習學)

佛爲婆羅門說耕田經 ❶(日) Butsu-i-ba-ra-mon-setsu-kō-den-kyō. (支) Fo-wei-po-lo-mên-shuo-kêng-tien-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹雜阿含經第四卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛爲婆羅門說四法經 ❶(日) Butsu-i-bi-ra-mon-setsu-shi-hō-kyō. (支) Fo-wei-po-lo-mên-shuo-sze-fa-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹雜阿含經第二卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第二六、貞元錄第二六

佛爲比丘說極深險處經 ❶(日) Butsu-i-bi-ku-setsu-gyoku-jin-ken-shō-kyō. (支) Fo-wei-pi-ch'iu-shuo-chi-shên-hsien-ch'u-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹雜阿含經第十六卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛爲比丘說三法經 ❶(日) Butsu-i-bi-ku-setsu-sam-bō-kyō. (支)Fo-wei-pi-ch'iu-shuo-san-fa-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹雜阿含經第十四卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛爲比丘說燒頭喩經 ❶(日) Butsu-i-bi-ku-setsu-shō-zu-yu-kyō. (支)Fo-wei-pi-ch'iu-shuo-shao-t'ou-yu-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹雜阿含經第十七卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛爲比丘說大熱地獄經 ❶(日) Butsu-i-bi-ku-setsu-dai-netsu-ji-gokuyō-chō. (支) Fo-wei-pi-ch'iu-shuo-ta-je-ti-yu-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹雜阿含經第十六卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛爲比丘說大力經 ❶(日) Butsu-i-bi-ku-setsu-dai-riki-kyō. (支)Fo-wei-pi-ch'iu-shuo-ta-li-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹雜阿含經第十一卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛爲比丘說二事經 ❶(日) Butsu-i-bi-ku-setsu-ni-ji-kyō. (支)Fo-wei-pi-ch'iu-shuo-erh-shih-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二

佛爲頻頭婆羅門說像類經 ❶(日) Butsu-i-hin-za-ba-ra-mon-setsu-zō-rui-kyō. (支)Fo-wei-p'in-t'ou-p'o-lo-mên-shuo-hsiang-lei-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹雜阿含經第十一卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛爲菩薩五夢經 ❶(日) Butsu-i-bo-satsu-go-mu-kyō. (支) Fo-wei-p'u-sa-wu-mêng-ching. 五夢經、太子五夢經、仙人五夢經 ❷一卷 ❸缺 ❹西晉竺法護(一泰始二—建興元 A. D. 265—313—)譯 ❺第二譯。 ❼(參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五、武周錄第一二、開元錄第一五、貞元錄第二四

佛爲老婆羅門說儒經 ❶(日) Butsu-i-rō-ba-ra-mon-setsu-ju-kyō. (支)Fo-wei-lao-p'o-lo-mên-shuo-ju-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹雜阿含經第四卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛醫經 ❶(日) Butsu-i-kyō. (支) Fo-i-ching. 佛醫王經 ❷一卷 ❸存、大正一七・七三七No. 793、鎌倉八、卍二六・五、北994無、南1005無、元1005無、明北1320明、清1320明、麗1005無、天1005無、指953無、法963無、至1444曲、明南1083終、Nj. 1327 ❹竺律炎、支越共譯 ❺吳黃龍二以後(A. D. 230—) ❼(參考) 出三藏記第四

佛醫王經 ❶(日) Butsu-i-ō-kyō. (支)Fo-i-wang-ching. 佛醫經 ❷一卷 ❸存、大正一七・七三七No. 792、鎌倉八、卍二六・五、北994無、南1005無、元1005無、明北1320明、清1320明、麗1005無、天1005無、指953無、法963無、至1444曲、明南1083終、Nj. 1327 ❹竺律炎、支越共譯 ❺吳黃龍二以後(A. D. 230—) ❻本經には說時說處が記されてゐない。その主旨は飯食を中心とせる身體の保持、並びに飯食に依りて生ずる罪に在る。

内容。(一)人身の中には本來四病がある。それは地水火風で此の四病から四百四病が起る。(二)人の病を得るには一、久坐不飯。二、食無貨。三、憂愁。四、疲極。五、輕鈍。六、識志。七、惡大便。八、惡小便。九、制上風。十、制下風の十因緣がある。(三)人命が不自然に盡きるのには一、不應飲爲飯。二、爲不量飯。三、爲不習飯。四、爲不出生。五、爲止熟。六、爲不持戒。七、爲近惡知識。八、爲入里不時不如法行。九、爲可避不避の九因緣がある。乃至。(四)食多きものには一、多睡眠。二、多病。三、多婬。四、不能讀誦經。五、多著世間の五欲がある。人若し利を得て寡ぱず利を得ずして憂ひず。布施を行じ、飯食を攝受するにいたるときは、長壽を得、道好語を聞き得、久しく道を行ずることができると說く。

❼(參考) 三寶紀第五、内典錄第二、譯經圖紀第一、開元錄第二、貞元錄第三 (山邊習學)

佛一百八名讃 ❶(日) Butsu-ip-pyaku-hachi-myō-san. (支) Fo-i-pai-pa-ming-tsan. (藏)de-bshin-gyeg-pahi mtsan brgya-rtsa-brgyad-pa. 佛一百八名讃經 ❷一卷 ❸存、大正三二・七五七No. 1679、鎌藏九、卍一六・一〇、北1183千、南1193千、元1192千、明北1062言、清1062言、麗1191封、天1175千、法1306虞、至1506匡、明南934臨、Nj. 1067 ❹法天譯 ❺宋開寶六—(A. D. 973—)

❻本經は始めに歸敬頌、次に佛の功德百八を集めその各々の上に南無を冠せるもの丶羽記、後に廻向頌、から成つてゐる。

歸敬頌を觀れば歸命の對象となつてゐるのは釋迦牟尼世尊で、諸の有情、群生、衆生の罪業、煩惱を滅し安樂、吉祥を得しめるものである。佛德として舉げるもの丶例を記せば一切義成就、正等覺、一切智の如くである。要は佛德の名を集めることに依りて、佛德を讃嘆せんとするもので、若し人あり晨朝に於て志を發し心を誠にしこれを或ひは讀誦し、或ひは繫念し、或ひは憶持し、或ひは聽聞すれば、最上吉祥の福德を獲得し、あらゆる一切の煩惱及び罪業を捨て蓮かに清淨なるを得、輪廻を受けず、當に解脫乃至成佛を得と說かれる。

(山邊習學)

佛一百八名讃經 ❶(日) Butsu-ip-pyaku-hachi-myō-san-kyō. (支)Fo-i-pai-pa-ming-tsan-ching. 佛一百八名讃 ❷一卷 ❸存、大正三二・七五七No. 1679、鎌藏九、卍一六・一〇、北1183千、南1193千、元1192千、明北1062言、清1062言、麗1191封、天1175千、法1306虞、至1506匡、明南934臨、Nj. 1067 ❹法天譯 ❺宋開寶六—(A. D. 973—)

佛印三昧經 ❶(日) Butsu-in-zammai-kyō. (支) Fo-yin-san-mei-ching. ❷一卷 ❸存、大正一五・三四三No. 621、鎌倉八、卍二二・四、北472羊、南436羊、元480羊、明北447羊、清447羊、麗478盡、天478羊、指420讃、法430善、至423悲、明南439行、Nj. 451 ❹安世高譯 ❺後漢建和二—建寧三(A. D. 148—170)

❻本經の主旨は、摩訶般若波羅蜜經智慧印は諸佛の大父母にして、此れを得るものは佛に作ると說くに在る。

内容。佛、耆闍崛山中に在りて三昧に入らるゝや、皆坐して一心に佛身を推求すれども見えない(文殊師利菩薩を除く)。それは佛の三昧が大深であることの一序由となるわけである。卽ち佛の三昧は摩訶般若波羅蜜經智慧印にして、それを得るものは作佛し得、それを得ざるものは作佛し得ないのである。併し極めて短い本經に於てはその摩訶般若波羅蜜經智慧印とは如何なるものかに關しては說かれてゐない。

❼(參考) 三寶紀第四、内典錄第一、譯經圖紀第一、開元錄第一、貞元錄第一、第二 (山邊習學)

佛印禪師語錄 ❶(日) Butsu-in-zenji-go-roku. 直翁和尙語錄 ❷一卷 ❸存 ❹直翁智侯(寛元三—元亨二 A. D. 1245—1322)語 ❼(參考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

佛印禪師直翁和尙塔銘 ❶(日) Butsu-in-zen-ji-chō-ō-wa-tō-mei. 直翁和尙塔銘、東福第十世勅賜佛印禪師直翁和尙塔銘 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❹海壽(文保二—應永八 A. D. 1318—1401)編 ❻直翁和尙塔銘の下を見よ。

佛有五百比丘經 ❶(日) Butsu-u-go-hyaku-bi-ku-kyō. (支) Fo-yu-wu-pai-pi-ch'iu-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第三、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二四

佛會紀要 ❶(日) Butsu-e-kiyō. ❷四卷 ❸存 ❹本願寺編 ❺明治四二刊 ❾(谷大、餘大・二八九三)(龍大、二〇七一・三六)(高大、一・二〇)

佛惠正續國師鄂隱和尙行錄 ❶(日) Butsu-e-shō-zoku-koku-shi-gakuin-o-shō-gyō-roku. 鄂隱和尙行錄 ❸存、五山文學全集第三

❻五山風指の詩僧である絕海中津(佛智廣照淨印證聖國師)禪師の法嗣、相國寺十九世、天龍寺六十一世の鄂隱慧奠禪師の傳記である。

鄂隱は筑後の人、諱は慧奠、字は鄂隱、號して圓西と云ふ。至德の末、入朋して諸禪德に歷參し、永天寺仲銘新、甚報寺行中至仁等の說偈を得、歸朝して足利義持の命によつて等持寺、相國寺に歷住し、相國寺中に大雄院(長得院)を創め、大内義弘の請により周防の瑞雲寺始祖となり、細川頼之の招に應じて阿波の寶冠寺を董し、鹿苑院に住し、稱光天皇の歸依を受け、應永三十二年二月十八日(A. D. 1435)壽六十にして土佐の波江庵に示寂。後花園天皇は佛惠正覺國師と賜號し給ふた。法嗣に惟明瑞智、古邦惠淳、以貧等銳、堂欽等爽等の四人がある。其の著南游稿は詞藻の豐なるを以て知られて居る。

(大久保堅璃)

佛慧廣慈禪師在庵大和尙行業

❶(日) Butsu-i-kō-jō-zen-jō-tai-an-dai-ō-shō-ryō-ryō. 在菴大和尚行業 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❹一光 ❺在菴普和尚の行狀遺業を錄せるもの。初に其の俗語、飯淵に關して記し、入道の後に壽福秋潤、建長明禪等に參じて尙事を究め、光隆寺、興源寺等の第一世となり、又天龍寺を董せしを叙し、最後に塔銘を附してゐる。 (後藤大用)

佛懸禪師語錄 ❶(日) Butsu-i-zen-ji-gyō-roku. ❷一卷 ❸存 ❹靈山道隱(建長七—正中二 A. D. 1255—1335)說 ❺〔參考〕 大日本佛敎全書續刊豫定書目

佛懸知鑑禪師語錄 ❶(日) Butsu-e-chi-kan-zen-ji-gyō-roku. ❷二卷 ❸存 ❹月林道皎(永仁元—親應二 A. D. 1293—1351)說 ❺〔參考〕 大日本佛敎全書續刊豫定書目

佛寃禪師語錄 ❶(日) Butsu-en-zen-ji-gyō-roku. ❷一卷 ❸存 ❹〔參考〕 禪籍目錄

佛往慰迦葉病經 ❶(日) Butsu-ō-i-ka-shō-byō-kyō. (支) Fo-wang-wei-chia-yeh-ping-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❺出曜經第六卷の抄出。 ❻〔參考〕 出三藏記第四、法經錄第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛家人名辭書 ❶(日) Bak-ka-jin-mei-ji-sho. 日本佛家人名辭書 ❷一冊 ❸存 ❹鷲尾順敬編 ❺明治三六刊 ❻東京光融館

佛家日用集 ❶(日) Bak-ka-nichi-yō-shū. ❷一卷 ❸存 ❹朝鮮井申著 ❺〔參考〕 朝鮮佛敎總書刊行豫定書目

佛家文人傳 ❶(日) Bak-ka-bun-jin-den. ❷一卷 ❸存 ❹加藤咄堂著 ❺明治二七刊 ❻〔帝國、九・二八四〕

佛戒俚話 ❶(日) Bak-kai-ri-wa. ❷一卷 ❸存、禪學大系戒法部之內 ❹推翁禪扣 ❺天保一二(A. D. 1841) ❻禪戒の大意を在家の男女にも理解し得るやうに假名文を以て書いたるもの。總じて十條に分類せられ、卷尾に自序を附してゐる。第一に懺悔之條、第二に三歸戒之條、第三に三聚戒之條、第四に十戒之條、第五に捨身之條、第六に血脈之條、第七に勸戒之條、第八に捨戒之條、第九に戒相之條、第十に血脈之條を載してゐる。その自序に曰く、予は諸家の血脈を見るに皆遠識せず、只禪門の血脈は世尊より今時に至りて綿々として一人を絕せず、後賢は內證佛法相承血脈譜を見るべし。戒體戒相は宜しく以て月舟面山兩師の書を探るべし。予の書の如きは只愚夫愚婦の蛇足を驚かすのみ」とある。以て其の內容を知るべきである。 ❼天保一三刊 ❽〔谷大、餘大・三二八八〕(駒大)、晉・て・七・左・四〇) (後藤大用)

佛界一覽鈔 ❶(日) Bak-kai-ichi-ran-shō. ❷一卷 ❸存 ❹日運(寬政一二—安政六 A. D. 1800—1859) ❺嵩永元刊(龍大、二六九二・三〇)〔谷大、餘大・三二九五〕〔立大、A〇四・三五三—三五四、三五九、三六一、三六九〕〔高大、寄・一・一七〕〔帝國、二一三・二八九〕大正三刊(立大、一八四・一六) ❻

佛海一沸 ❶(日) Bak-kai-ichi-tai. ❷一卷 ❸存、敎林講究所講義錄叢書卷六 ❹新田慧雲、安政四—昭和五 A. D. 1857—1930 述 ❺明治三四(A. D. 1901) ❻〔帝國、九〇・三七〕

佛海性空禪師語錄 ❶(日) Bak-kai-shō-kū-zen-ji-go-roku. (支) Fo-hai-hsing-k'ung-ch'an-shih-yü-lu. 龍源介清禪師語錄 ❷六卷 ❸存、卍續二・二六・三 ❹元龍原介清語、士淘等編 ❺龍源介清禪師語錄の下を見よ。

佛海禪師廣錄 ❶(日) Bak-kai-zen-ji-kō-roku. (支) Fo-hai-ch'an-shih-kuang-lu. 諸宗慧遠禪師廣錄 ❷二卷 ❸存、卍續二・二五・五 ❹宋諸宗慧遠(一乾道淳熙頃 A. D. 1165—1189—)語、齊巳等編 ❺諸宗慧遠禪師廣錄の下を見よ。 ❻寫本(京大、藏・一七ヲ・二)

佛海の一滴 ❶(日) Bak-kai-no-i-teki. ❷一冊 ❸存 ❹須田眞海著 ❺明治四二刊 ❻〔京專〕〔高大、一・五七〕

佛海微瀾 ❶(日) Bak-kai-mi-ran. ❷一卷 ❸存 ❹日臨 ❺〔參考〕 大日本佛敎全書續刊豫定書目

佛開解阿鞞梵志經 ❶(日) Butsu-kai-ge-a-batsu-bon-ji-kyō. (支) Fo-k'ai-chieh-a-p'o-fan-chih-ching. 佛開解梵志阿鞞經、梵志阿鞞經、佛開解阿拔經、阿鞞摩納經、阿拔經、佛開梵志阿鞞經、解梵志阿鞞經 ❷一卷 ❸存、大正一・二五九 No. 20、續從一〇、卍一四・二、北661發、南673發、元666歲、明北538養、清138養、麗564潤、天651發、指62潤、法642潤、至597無、明南344鍋、Nj. 592 ❹支謙譯 ❺吳黃武二—建興二(A. D. 223—253) ❻この經典は D. 3 Ambattha S. 長阿含二十經阿摩晝經(大正一・八二—八八)の同本異行經であり、他に有部雜事三十四(大正二四・三七八)、有部藥事八(大正二四・三三)にも含まれてゐる。

當時有名にして、有力なる婆羅門が佛陀の事を聞いて、その樣子を知りたいと思ひ、弟子の阿鞞を遣はして佛陀を見せしめたところ、阿鞞不遜にして佛陀を誇り、佛陀爲めに甘蔗王系の事から話を初めて、阿鞞の慢心を破り、これを敎誨し、阿鞞歸

り て會見の顚末を佛に語り、歸、佛陀を歎ふの餘り、阿鞞の不遜を怒りて大にこれを叱吒することを記した經典である。矢張り佛陀と婆羅門種との關係を示し、佛敎側から剃帝利族第一主義を示した經典の一である。有部律のものは二種とも短かい摘要であり、他の三本の中では、D. と長阿含と略一致し、本經が最も異なつてゐる。阿鞞の佛陀訪問後のことも全く異なり、他の二本が印度古聖を十人(D)十二人(長)としてゐるのに此れは二十三人とし、剃帝利第一を說く偈文も內容と場所とも共に異なつてゐる。 (赤沼智善)

佛開解梵志阿鞞經 ❶(日) Butsu-kai-ge-a-bon-ji-a-batsu-kyō. (支) Fo-k'ai-chieh-fan-chih-a-p'o-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹東晉法勇譯 ❺〔參考〕 開元錄第一五、貞元錄第二四

佛開和伏經 ❶(日) Butsu-kai-wa-buk-kyō. (支) Fo-k'ai-ho-fu-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❺〔參考〕 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第一五、貞元錄第二五

佛誡諸比丘言我以天眼視天下人生死好醜尊者卑者經 ❶(日) Butsu-kai-sho-bi-ku-gon-ga-i-ten-gen-shi-ten-ka-nin-shō-ji-kō-shō-son-ja-hi-sha-kyō. (支) Fo-chieh-chu-pi-ch'iu-yen-wo-i-tien-yen-shih-t'ien-yen-hsia-jen-shang-sui-hao-ch'ou-tsun-che-pei-che-ching. 佛誡諸比丘經 ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❺〔參考〕 出三藏記第三、武周錄第一一、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二四

佛覺三色標傳像 ❶(日) Butsu-kaku-san-shiki-hyō-den-zō. ❷一卷 ❸存 ❹淺淨土宗全書第一四 ❺惠海 ❻紫赤黃の三色の袈裟についての傳を記したるもの。題下に「大原龍禪寺惠海法師」とあるは、後人が置いたものである。又更に後世に附加したものが四項ある。次第相承之事、袈裟相傳、三衣事、衣相傳事で、次第相承之事には唐青龍寺、密能寺、惠海(大原龍禪寺)、俊海(北谷)、空海(高野)、良海(五百河)、空俊(八町目)、了天(東根)、良嘉(字都宮)、良頓、良朝、良訥の名を列ね、續いて良海の語を擧げ、衣相傳事には、傳敎、慈覺、慈惠、惠心、都率の名を出す。他の名越傳法書と共に良智が永祿九年に寫したものである。蓋し此の書は良頓の時に名越流に傳承されたものであらう。

❼永祿九寫 ❽〔龍大〕 (大野法道)

佛學院章程 ❶(日) Butsu-gaku-in-shō-tei. ❷一卷 ❸存 ❹刊本(谷大、餘洋・六一五)

佛學研究 ❶(日) Butsu-gaku-ken-kyū. (支) Fo-hsüeh-yen-chiu. ❷一卷 ❸存(尙志學會叢書) ❹普紀呂司基(Tsujiuki)等著、馮承鈞譯 ❺一、佛入涅槃前最後之遍歷。二、佛經原始誦讀法。三、印度佛敎書數種識名考。四、那先比丘經中諸名考。 ❻出曜經第二卷の抄出。 ❼〔參考〕 出三藏記第四、法經錄第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六

佛學三書 ❶(日) Butsu-gaku-san-sho. ❷四卷 ❸存 ❹佐伯法導編 ❺諸乘法數・釋氏要覽・梵譯名義集の三書を收む。 ❻明治一四刊(正大、一〇一・五二)(哲、外・二・中・二二)(谷大、餘小・三〇)明治二八刊(龍大、研佛)

佛學三書 ❶(日) Butsu-gaku-san-sho. ❷一卷 ❸存 ❹高神覺昇著 ❺大正一三刊 ❻〔龍大〕

佛學初階 ❶(日) Butsu-gaku-sho-kai. (支) Fo-hsüeh-chu-chieh. ❷一卷 ❸存 ❹丁福保著 ❺民國九刊 ❻〔谷大、餘大・三八一二〕

佛學書目表 ❶(日) Butsu-gaku-sho-moku-hyō. (支) Fo-hsüeh-shu-mu-piao. ❷一卷 ❸存 ❹北京佛經流通所編 ❺刊本(龍大、研佛)

佛學大綱 ❶(日) Butsu-gaku-tai-kō. (支) Fo-hsüeh-ta-kang. ❷一卷 ❸存 ❹謝榮編 ❺民國一〇刊 ❻〔龍大、二五三・一〇〕

佛學大辭典 ❶(日) Butsu-gaku-dai-ji-ten. (支) Fo-hsüeh-ta-tzu-tien. ❷十六册 ❸存 ❹丁福保編 ❺大正一二刊 ❻〔龍大、研佛〕

佛看比丘病不受長者請經 ❶(日) Butsu-kan-bi-ku-byō-fu-ju-chō-ja-shō-kyō. (支) Fo-k'an-pi-ch'iu-ping-pu-shou-chang-che-ch'ing-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹出曜經第二卷の抄出。 ❺〔參考〕 出三藏記第四、法經錄第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六

佛鑑禪師五會錄 ❶(日) Buk-kan-zen-ji-go-e-roku. ❷五卷 ❸存 ❹宗會等編 ❺寬永一九刊 ❻〔帝國、八二一・一九五〕

佛鑑禪師語錄 ❶(日) Buk-kan-zen-ji-go-roku. (支) Fo-chien-ch'an-shih-yü-lu. 無準師範禪師語錄 ❷五卷 ❸存、卍續二・二六・五 ❹宋無準師範(一淳祐九 A. D. 1249)語、宗會智折編 ❺無準師範禪師語錄の下を見よ。 ❻〔淳祐一一刊(駒大)寬永一〇刊(駒大)寬永一五刊(谷大、餘大・五三七)寫本(駒大)〕

佛鑑佛果正覺佛海拈八方珠玉集 ❶(日) Buk-kam-buk-kwa-shō-kaku-bak-kai-nen-hap-pō-shu-gyoku-shō. (支) Fo-chien-fo-kuo-cheng-chiao-fo-hai-nien-pa-fang-chu-yü-chi. 拈八方珠玉集、八方珠玉集 ❷三卷 ❸存、卍續二・二四・二 ❹淵慶重編 ❺宋寶祐五(A. D. 1257) ❻拈八方珠玉集の下を見よ。 ❼至德二刊 ❽〔駒大〕

佛鑑錄考證 ❶(日) Buk-kan-roku-kō-shō. ❷八卷 ❸存 ❹寫本(京大、印哲・S II・三)

佛鬼軍 ❶(日) Butsu-kiran. ❷一卷 ❸存、國文東方佛敎叢書第一輯文藝部上、一休和尙全集、禪林法語集之內 ❹一休宗純(應永元—文明一三 A. D. 1394—1481) ❺本書は京都紫野龍寶山大德寺四十八世一休宗純禪師の著として傳へられて居る繪入假名法語である。原本は京都十念寺に秘藏されて居たと云ふが、文政六年八月(A. D.

1825）前後の成立とされた。所詮不明のため1古写経の書写にさいして二十二箇の仏像を一定の基準にそって作成したものと思われる。

1体和尚全集　有明浄全著。本書は浄土宗の僧侶で、国学者上の内容などに関しても教えられ、国文学方面教育者本の人の性文を始めとして仏教書・教育・教化・説教・説話・説法・説教・説経・説教・説教・説教

【7】 佛 ㊀佛教(仏教)の略称 ㊁仏語 ㊂仏法 ㊃仏国 ㊄仏教の教理 ㊅仏教の教義 ㊆仏教の教祖 ㊇仏教の教団(僧侶) ㊈仏教の教会 ㊉仏教の教徒(信者) ㊊仏教の教典(経典) ㊋仏教の教説(教理) ㊌仏教の教化(教導) ㊍仏教の教育(教学) ㊎仏教の教育機関(学校) ㊏仏教の教育機関(寺院) ㊐仏教の教育機関(僧侶養成機関) ㊑仏教の教育機関(仏教図書館) ㊒仏教の教育機関(仏教博物館) ㊓仏教の教育機関(仏教研究所) ㊔仏教の教育機関(仏教大学) ㊕仏教の教育機関(仏教中等学校) ㊖仏教の教育機関(仏教小学校) ㊗仏教の教育機関(仏教幼稚園) ㊘仏教の教育機関(仏教夜学校) ㊙仏教の教育機関(仏教日曜学校) ㊚仏教の教育機関(仏教講習会) ㊛仏教の教育機関(仏教講演会) ㊜仏教の教育機関(仏教講座) ㊝仏教の教育機関(仏教講習所) ㊞仏教の教育機関(仏教講習会) ㊟仏教の教育機関(仏教講演会) ㊠仏教の教育機関(仏教講座) ㊡仏教の教育機関(仏教講習所) ㊢仏教の教育機関(仏教講習会) ㊣仏教の教育機関(仏教講演会) ㊤仏教の教育機関(仏教講座) ㊥仏教の教育機関(仏教講習所) ㊦仏教の教育機関(仏教講習会) ㊧仏教の教育機関(仏教講演会) ㊨仏教の教育機関(仏教講座) ㊩仏教の教育機関(仏教講習所) ㊪仏教の教育機関(仏教講習会) ㊫仏教の教育機関(仏教講演会) ㊬仏教の教育機関(仏教講座) ㊭仏教の教育機関(仏教講習所) ㊮仏教の教育機関(仏教講習会) ㊯仏教の教育機関(仏教講演会) ㊰仏教の教育機関(仏教講座) ㊱仏教の教育機関(仏教講習所) ㊲仏教の教育機関(仏教講習会) ㊳仏教の教育機関(仏教講演会) ㊴仏教の教育機関(仏教講座) ㊵仏教の教育機関(仏教講習所) ㊶仏教の教育機関(仏教講習会) ㊷仏教の教育機関(仏教講演会) ㊸仏教の教育機関(仏教講座) ㊹仏教の教育機関(仏教講習所) ㊺仏教の教育機関(仏教講習会) ㊻仏教の教育機関(仏教講演会) ㊼仏教の教育機関(仏教講座) ㊽仏教の教育機関(仏教講習所) ㊾仏教の教育機関(仏教講習会) ㊿仏教の教育機関(仏教講演会) (1)仏教の教育機関(仏教講座) (2)仏教の教育機関(仏教講習所) (3)仏教の教育機関(仏教講習会) (4)仏教の教育機関(仏教講演会) (5)仏教の教育機関(仏教講座) (6)仏教の教育機関(仏教講習所) (7)仏教の教育機関(仏教講習会) (8)仏教の教育機関(仏教講演会) (9)仏教の教育機関(仏教講座) (10)仏教の教育機関(仏教講習所) (11)仏教の教育機関(仏教講習会) (12)仏教の教育機関(仏教講演会) (13)仏教の教育機関(仏教講座) (14)仏教の教育機関(仏教講習所) (15)仏教の教育機関(仏教講習会) (16)仏教の教育機関(仏教講演会) (17)仏教の教育機関(仏教講座) (18)仏教の教育機関(仏教講習所) (19)仏教の教育機関(仏教講習会) (20)仏教の教育機関(仏教講演会) (21)仏教の教育機関(仏教講座) (22)仏教の教育機関(仏教講習所) (23)仏教の教育機関(仏教講習会) (24)仏教の教育機関(仏教講演会) (25)仏教の教育機関(仏教講座) (26)仏教の教育機関(仏教講習所) (27)仏教の教育機関(仏教講習会) (28)仏教の教育機関(仏教講演会) (29)仏教の教育機関(仏教講座) (30)仏教の教育機関(仏教講習所) (31)仏教の教育機関(仏教講習会) (32)仏教の教育機関(仏教講演会) (33)仏教の教育機関(仏教講座) (34)仏教の教育機関(仏教講習所) (35)仏教の教育機関(仏教講習会) (36)仏教の教育機関(仏教講演会) (37)仏教の教育機関(仏教講座) (38)仏教の教育機関(仏教講習所) (39)仏教の教育機関(仏教講習会) (40)仏教の教育機関(仏教講演会)

註 増補改訂版 ❻大正五刊 ❼東京四十田版註

佛教藪 ❶(日)Buk-kyō-saku. ❷1卷 ❸各 ❹雄谷文彦著 ❺明治二六刊 ❻(帝國〝宗・二)

佛教三大宗旨要 ❶(日) Buk-kyō-san-dai-shū-teki-yō. ❷1卷 ❸各 ❹村上專精(東本四一昭和四 A. D. 1851—1929)著 ❺明治二三刊 ❻(正大〝一〇七・一四三) ❼東京哲學書院

佛教三大辨要 ❶(日) Buk-kyō-san-dai-bem-mō. ❷1卷 ❸各 ❹人參善治著 ❺明治二六刊 ❻(帝國〝一九・四三三)

佛教史略要 ❶(日)Buk-kyō-shi-ra-tsu-yō. ❷1卷 ❸各 ❹佛教文學(東本二一昭和二 A. D. 1849—1927) ❺(帝國〝大二・三五大〝二七)

佛教史の研究 ❶(日)Buk-kyō-shi-no-ken-kyū. ❷1卷 ❸各 ❹綱島文學(東本二一昭和二 A. D. 1849—1927) ❺(帝國〝大二・三五大〝二七)

佛教史學 ❶(日)Buk-kyō-shi-yō. ❷1卷 ❸各 ❹鷲尾順敬(明治四一昭和八 A. D. 1863—1933)著 ❺明治三四刊 ❻東京寶文館

佛教史林 ❶(日) Buk-kyō-shi-rin. ❷三卷 ❸各 ❹(帝大〝叢書・七六)(正大〝一〇三一・六二)

佛教史論 ❶(日) Buk-kyō-shi-ron. ❷1卷 ❸各 ❹鷲尾順敬(明治四一昭和八 A. D. 1863—1933)著 ❺大正五刊 ❻東京四十田版註

佛教史論 ❶(日) Buk-kyō-shi-ron. ❷1卷 ❸各 ❹姉崎正治著 ❺明治二六刊 ❻(帝國〝宗・二)

佛教史論學藝叢書 ❶(日) Buk-kyō-shi-ron-but-ten-ketsu-jū. 學藝叢書 ❷1卷 ❸各 ❹姉崎正治著 ❺明治三六刊 ❻(帝大〝叢書・一四二)

佛教思想概說 ❶(日)Buk-kyō-shi-sō-gai-setsu. ❷1卷 ❸各 ❹三井高陽著 ❺昭和二刊 ❻東京日子社會發

佛教思想九講 ❶(日)Buk-kyō-shi-sō-ku-kō. ❷1卷 ❸各 ❹田村知雄 ❺昭和二刊 ❻東京日子社會發

佛教思想講話 ❶(日)Buk-kyō-shi-sō-kō-wa. ❷1卷 ❸各 ❹岡田朝雄(安政四一昭和元A. D. 1857—1930)著 ❺大正五刊 ❻東京日子社會發

佛教思想講話 ❶(日)Buk-kyō-shi-sō-kō-wa. ❷1卷 ❸各 ❹中島羅敬(寶永元一天正一二A. D. 1848—1923)著 ❺大正一三刊 ❻(帝大〝一五七・三七)

佛教思想大系 ❶(日)Buk-kyō-shi-sō-tai-kei. ❷各 ❹全二十卷刊行 東京の中央の大學を刊行 ❺。

學說講究法(經釋家件)。學說研究(經尼部)。學說講義(宇井伯壽)。學說文學(山田孝雄)。學說の法華思想(宇井伯壽)。小野玄妙。上田天瑞。佛教學概論(小野玄妙)。以上大部の思想と宗教(橫井慶雄)。法華大部の思想と宗教(橫井慶雄)。法華上人の思想と宗教(岡田龍雄)。日蓮聖人の思想と宗教(岡田行雄)。

❻昭和六以後刊 ❼東京大東出版社

佛教思想の根底とその特質 ❶(日) Buk-kyō-shi-sō-no-kon-tei-to-sō-no-toku-shitsu. ❷1卷 ❸各 ❹大村英昭(東大〝明治一四一昭和五 A. D. 1881—1930)著 ❺(帝大〝

佛教詞林新聞社十年集 ❶(日) Buk-kyō-shi-rin-shim-bun-sha-jū-nen-shū. ❷各 ❸昭和七刊 ❹東京日本學教新聞社

佛教字典 ❶(日)Buk-kyō-ji-ten. ❷1卷 ❸各 ❹足立榮藏編著 ❺明治三二刊 ❻(帝大〝叢大・一四四〇) ❼東京東京江書院

佛教辭典 ❶(日)Buk-kyō-ji-ten. ❷1卷 ❸各 ❹佐々木月樵 ❺明治四二刊 ❻東京東京出版

佛教辭典 ❶(日)Buk-kyō-ji-ten. 梵漢對照學教教義〝梵語名數大典〝學教大辭典 ❷1卷 ❸各 ❹椎尾辨匡著 ❺大正四刊 ❻東京四十田版註

佛教辭典 ❶(日)Buk-kyō-ji-ten. 中國學教教義辭典 ❷各 ❹高楠順次郎編 ❺昭和七刊 ❻東京大東出版

佛教辭典 ❶(日)Buk-kyō-ji-ten. 梵漢學教教義辭典 ❷各 ❹昭和七刊 ❻東京大東出版

佛教辭林 ❶(日) Buk-kyō-ji-rin. ❷1卷 ❸各 ❹藤井宣正(安政六一昭和三 A. D. 1859—1903)編〝 高楠順次郎、昭和八 A. D. 1875—1927)編 ❺大正元刊 ❻東京東京明治書院

佛教新聞雜誌總覽 ❶(日) Buk-kyō-ji-goku-goku-raku-ron. ❷1卷 ❸各 ❹東京新聞社 ❺大正七刊 ❻東京法學館

佛教事物問答五百題 ❶(日) Buk-kyō-ji-butsu-mon-dō-go-hyaku-dai. ❷1卷 ❸各 ❹安藤正純著 ❺明治三三刊 ❻(帝大〝叢書・三八六)(帝國〝八〇・三六)

佛教社會觀世說 ❶(日) Buk-kyō-sha-kwai-kwan-jo-setsu. ❷1卷 ❸各 ❹石川舜台(天保一一一昭和六 A. D. 1841—1931)著 ❺大正九刊 ❻東京東京文館

佛教辭義 ❶(日)Buk-kyō-shaku-gi. (支)Fo-chiao-shih-i. ❷1卷 ❸各 ❹明治東京佛教 ❺清末(支大〝叢・一四四六・四)

佛教主義代毋語參政說 ❶(日) Buk-kyō-shu-gi-bo-shin-shō-sho-en-gi. ❷1卷 ❸各 ❹大內青巒(弘化二一大正七A. D. 1845—1918) ❺明治四二刊 ❻(支大〝B一二・四一) ❼東京東京書院

・佛教宗旨註註 ❶(日) Buk-kyō-shū-ha-shō-chū. (支) Fo-chiao-tsung-p'ai-hsiang-chu. ❷1卷 ❸各 ❹慧文合 ❺貞觀一〇刊 ❻(帝大〝叢大・三八一三)

佛教卷舒指掌 ❶(日) Buk-kyō-shū-shin-kai-tei. ❷1卷 ❸各 ❹河合日宣 ❺明治二七刊 ❻(支大〝八〇九・一二) ❼東京日宗社

佛教卷舒講話 ❶(日) Buk-kyō-shū-shin-kō-wa. ❷1卷 ❸各 ❹中島羅敬(寶永元一天正一二A. D. 1848—1923) ❺

大正五刊 ❻(正大〝一五五大・一七)

佛教卷舒講話 ❶(日) Buk-kyō-shū-yō-kō-wa. ❷1卷 ❸各 ❹井田性海 ❺(支等)

佛教卷舒說 ❶(日) Buk-kyō-shū-shin-dan. 用合愛說卷舒說 ❷1卷 ❸各 ❹小栗了雲 ❺明治二八刊 ❻(帝大〝叢書・九五)

佛教十講 ❶(日)Buk-kyō-jik-kō. ❷1卷 ❸各 ❹鈴木大拙編 ❺大正一三刊 ❻(帝大〝二五九・三八)(帝大〝叢書・六四八)

佛教十二宗綱要 ❶(日) Buk-kyō-jū-ni-shū-kō-yō. ❷1卷 ❸各 ❹小栗栖香頂(天保元一明治三八 A. D. 1830—1905)編 ❺明治一九刊(帝大〝二五四・五三)(正大〝一〇七・一二三二)(文大〝八六一・一七一九)(帝國〝一〇・七二)

佛教十二宗綱要 ❶(日) Buk-kyō-jū-ni-shū-kō-yō. ❷1卷 ❸各 ❹明元作發 ❺明治二〇刊 ❻(正大〝一〇七・一二三一)

佛教初學講本 ❶(日) Buk-kyō-sho-gaku-kwa-hon. (支) Fo-chiao-ch'u-hsüeh-k'o-pên. ❷1卷 ❸各〝 地藏王山岳寺教學部 ❹佛教文會 ❺宋嘉三二刊 ❻(帝大〝二五九・四〇)(帝大〝叢書・一七七七)(文大〝一・一二〇・五〇〇・一四四・五一六)

佛教初學講本註 ❶(日) Buk-kyō-sho-gaku-kwa-hon-chū. (支)Fo-chiao-ch'u-hsüeh-k'o-pên-chu. ❷1卷 ❸各〝 地藏王山岳寺教學部 ❹佛教文會 ❺宋嘉三二刊(帝大〝叢書・一七七七)

佛教初步學問に入る門 ❶(日) Buk-kyō-sho-ho-butsu-dō-ni-hai-ru-mon. ❷1卷 ❸各 ❹田邊寧國著 ❺明治七刊 ❻東京中央出版社

佛教初門集 ❶(日) Buk-kyō-sho-mon-shū. ❷1卷 ❸各 ❹今川覺大師(延喜一八一永觀元A. D. 918—983)撰 ❺(帝國)山家三藏叡山學生編 日本學者

佛教女子讀本 ❶(日) Buk-kyō-jo-shi-kō-en. ❷1卷 ❸各 ❹木井菊四郎 ❺大正一〇刊 ❻(帝大〝一〇五二・四一)

佛教性說 ❶(日) Buk-kyō-jo-setsu. ❷1卷 ❸各 ❹高橋達雄著 ❺大正一三刊 ❻東京日子社會發

佛教小史 ❶(日)Buk-kyō-shō-shi. ❷1卷 ❸各 ❹藤井宣正(安政六一明治三六A. D. 1859—1903)著 ❺明治二七刊 ❻東京東京出版社

佛教小史 ❶(日)Buk-kyō-shō-shi. 佛教學教小史 ❷1卷 ❸各 ❹藤井宣正(安政六一明治三六A. D. 1859—1903)著〝 境野黃洋(明治八一昭和二 A. D. 1875—1927)改修 ❺大正一〇刊 ❻東京東京社會館

佛教新オトギ ❶(日)Buk-kyō-shin-o-to-gi. ❷1卷 ❸存 ❹新井宗栄 ❺大正10刊 ❻法華経物語

佛教新説雲霧実相会計帳学 ❶(日)Buk-kyō-shin-ge-tsuketari-mu-kai-nan-shim-bem-a.ō. ❷1卷 ❸存 ❹宮崎奇武雄 ❺明治11刊 ❻(帝国〝三三・五11)

佛教人生観 ❶(日) Buk-kyō-jin-sei-kwan. ❷1卷 ❸存 ❹前田慧雲(安政四—昭和元A. D. 1857—1930)述 ❺明治四〇刊 ❻(浴大〝巻注・11〇六)(龍大〝1〇五11・四六)(京大〝1・11九ゝ・11)(帝国〝三11四・三四)

佛教人生観 ❶(日) Buk-kyō-jin-sei-kwan. ❷1卷 ❸存 ❹雨華文雲(寛永11—昭和11A. D. 1849—1927)著 ❺大正六刊 ❻(龍大〝1〇五11・五〇)

佛教人生論 ❶(日)Buk-kyō-jin-sei-ron. ❷1卷 ❸存 ❹前田慧雲(一大正11A.D.1923)著 ❺明治三1刊(新大)(浴大〝巻注・四1)(帝国〝七九・11五〇)明治三九刊(龍大〝法華)(浴大〝巻注・11五11)(京大〝B1・11・七1) ❻東京博文館

佛教人文主義 ❶(日) Buk-kyō-jin-bun-shu-gi. ❷1卷 ❸存 ❹シュタム〝レケイ著〝山田龍雄訳 ❺明治三1刊 ❻東京東京図

佛教園藝事古 ❶(日) Buk-kyō-zu-zō-shū-ko. ❷存 ❸東京博物局編 ❺大正七刊 ❻(京大〝日本・M・六)(龍大〝図説)(京大〝1〇五・1〇九)

佛教社界年鑑 ❶(日) Buk-kyō-se-kai-nen-kei. ❷1卷 ❸存 ❹天台教義編著 ❺明治四三刊 ❻(浴大〝巻注・11七九)

佛教生活の理想 ❶(日) Buk-kyō-sei-kwatsu-no-ri-sō. ❷1卷 ❸存 ❹浜田恵雲 ❺明治三刊 ❻東京法蓮社

佛教青年講演 ❶(日)Buk-kyō-sei-nen-kō-en. ❷1卷 ❸存 ❹横田英雄 ❺明治四刊 ❻(龍大)

佛教制度叢書第一 ❶(日) Buk-kyō-sei-do-sō-sho-dai-ichi. ❷1卷 ❸存 ❹佛教制度叢書刊行会編 ❺大正1四刊 ❻(京大〝佛教・C五・1 11)

佛教制度之研究 ❶(日) Buk-kyō-sei-do-no-ken-kyū. ❷1卷 ❸存 ❹夏目貞雄 ❺大正1〇刊 ❻(浴大〝巻注・五三五)(龍大〝11〇九四・七〇)(京大〝1〇八・1四1)(京大〝1・11〇) ❻奈良興福寺

佛教精講講話 ❶(日)Buk-kyō-sei-shin-kō-wa. ❷1卷 ❸存 ❹中島覚妙(嘉永元—大正1 11 A. D. 1848—1923) ❺大正1五刊 ❻(龍大〝11五九・四三)

佛教聖歌 ❶(日) Buk-kyō-sei-ka. ❷1卷 ❸存 ❹佛教青年会聖歌委員会編 ❺明治七刊 ❻文部省内佛教青年会聖歌委員会

佛教聖典 ❶(日) Buk-kyō-sei-ten. ❷1卷 ❸存 ❹雨華文雲(寛永11—昭和11A. D. 1849—1927) 前田慧雲(安政四—昭和元A. D. 1857—1930)共編 ❺明治三八刊 ❻東京三省堂

佛教聖典 ❶(日) Buk-kyō-sei-ten. 新撰佛教聖典 ❷1卷 ❸存 ❹佛教聖典会

佛教聖典の見方 ❶(日) Buk-kyō-sei-ten-no-mi-kata. ❷1卷 ❸存 ❹木村泰賢(明治1四—昭和元A.D.1881—1930)著 ❺昭和三刊 ❻名古屋佛教聖典講習会

佛教全書講 ❶(日) Buk-kyō-zen-kō. 佛教全書講 ❷1卷 ❸存 ❹仏教聖典完成会 ❺明治11刊 ❻(龍大〝11五三・11七)

佛教全書 ❶(日) Buk-kyō-zen-sho. 大日本佛教全書 ❷百六十卷 ❸存 ❹大正1四刊 ❻名古屋佛教聖典完成会

❺(浴1 佛教全書日録 浴1)

〔浴1 佛教全書日録 浴1〕

佛教聖典解説佛教聖典日録1卷。佛教聖典日録1卷。佛教聖典解説日録1卷。佛教聖典解説日録1卷。佛教聖典解説

三身義私記一卷。　金剛頂經義訣一卷。　觀心令修一卷。　本尊觀心修行法要記一卷。　一字金輪儀軌一卷。己心中記一卷。　金剛界一卷。　四種曼荼羅一卷。　菩提場經一卷。　宗教相義四卷。　四種曼荼羅四卷。　四顯一卷。　法定住住先師密說一卷。　觀音玄旨啓抄一卷。　觀音玄旨啓抄一卷。　安樂行義抄一卷。　無量壽經義疏三卷。　法華玄贊抄一卷。　般若心經秘鍵一卷。　般若心經秘鍵抄一卷。　佛頂尊勝陀羅尼法一卷。　佛頂尊勝陀羅尼大意一卷。　生死涅槃川東抄一卷。

〔後三十五―後三十八　知恩大師全書〕

（知恩大師全書の下を見よ。）

〔後三十九　愛宕山縁起四卷注記一〇卷〕

〔後三十　愛宕縁起〕

愛宕記一卷。　愛宕縁起八卷。　愛宕縁起日記。

〔後三十一　住吉縁起六十四卷〕

住吉一卷。　住吉縁起天卷。　觀心住吉縁起一卷。　觀音住吉縁起一卷。　住吉縁起一卷。　住吉縁起記一卷。　白行住吉縁起一卷。　住吉縁起一卷。　住吉縁起一卷。　

心決定議義本或問一卷。卽心念佛彈妄錄一卷。卽心念佛彈妄略頌一卷。卽心念佛彈妄錄細評一卷。卽心念佛摘欵記二卷。卽心念佛議義本或問餘說一卷。卽心念佛摘欵說議一卷(略論安樂淨土義非曇鸞撰說附)。卽心念佛淨土問辨一卷。念佛往明導裂二卷。蓮宗寶鑑編二卷。

〔第九十九—第百　僧傳持誦〕

僧傳持誦一〇八卷。

〔第百一　日本高僧傳要文抄外四部〕

日本高僧傳要文抄三卷。日本高僧傳指示抄一卷。三國佛法傳通緣起三卷。元亨釋書三〇卷。南都高僧傳一卷。

〔第百二—百三　本朝高僧傳七五卷〕

〔第百四　續日本高僧傳一一卷、東國高僧傳一〇卷〕

〔第百五　戒律傳來記外十一部〕

戒律傳來記一卷。長寬元年興福寺僧綱大法師等奏狀。戒律再興願文。南都唐招提寺僧綱等奏狀。南都叡山戒壇勸學日記)。唐招提寺釋迦念佛願文。律宗瓊鑑章一卷。雲南鈔一卷。唐招提寺所一卷。傳律國源所集二卷。律苑僧寶傳一五卷。招提千歲傳記九卷。千歲傳續錄一卷。

〔第百六　眞言付法傳外七部〕

祕密漫荼羅教付法傳二卷。眞言付法傳一卷。眞言付法傳纂要抄一卷。兩部大教傳來要文二卷。眞言傳七卷。野峯名德傳二卷。豐山傳通記三卷。結綱集三卷。

〔第百七　日本往生極樂記外十二部〕

日本往生極樂記一卷。續本朝往生傳一卷。拾遺往生傳三卷。後拾遺往生傳三卷。三外往生傳一卷。本朝新修往生傳一卷。高野山往生傳一卷。扶桑寄歸往生傳二卷。續白往生傳三卷。淨土眞宗付法傳一卷。淨土三國佛祖傳集二卷。淨土血脈論二卷。淨純略讚一卷。

〔第百八—第百九　延寶傳燈錄外二部〕

延寶傳燈錄四〇卷。扶桑禪林僧寶傳一〇卷。續扶桑禪林僧寶傳三卷。

〔第百十　日域洞上諸祖傳外三部〕

日域洞上諸祖傳二卷。續日域洞上諸祖傳四卷。重續日域洞上諸祖傳四卷。日本洞上聯燈錄第一二卷(附目錄一卷)。

〔第百十一　傳記叢書〕

佛法傳來次第一卷。如來滅後利傳來一卷。七大寺年表(殘缺)一卷。僧綱補任抄出二卷。僧綱補任(殘缺)一卷。三寶繪詞三卷。三井續燈記一〇卷。日本大師先德明匠記一卷。解明源流記一卷。本朝僧寶傳二卷。三論祖師傳集三卷。三論祖師傳一卷。華嚴祖師繪傳(殘缺)六卷。

〔第百十二　聖德太子傳叢書〕

上宮皇太子菩薩傳一卷。上宮聖德太子傳補闕記一卷。聖德太子傳曆二卷。上宮聖德法王帝說一卷。太子傳古今目錄抄一卷。聖德太子傳私記二卷。願眞得業口決抄一卷。聖德太子平氏傳雜勘文六卷。上宮太子拾遺記七卷。聖譽鈔二卷。

〔第百十三　遊方傳叢書第一〕

慧超往五天竺國傳笈釋一卷。慧超傳考一卷。南天竺婆羅門僧正碑註一卷。唐大和上東征傳一卷。唐大和上東征傳二卷。鑑眞和上三異事。靈仙三藏行歷考一卷。入唐五家傳一卷。入唐求法巡禮行記四卷。慈覺大師入唐往返傳一卷。行歷抄一卷。感夢記一卷。上智慧輪三藏決疑表一卷。唐房行履錄三卷。

〔第百十四　遊方傳叢書第二〕

西域圖經復元校錄一卷。南海寄歸內法傳解纜鈔八卷。南海傳洞衣比量鈔一卷。海東高僧傳二卷。入唐記一卷。大唐國日本國付法血脈圖記一卷。入竺日本僧金剛三昧傳考一卷。法道和尙傳考一卷。優塡王所造栴檀釋迦瑞像歷記一卷。

〔第百十五　遊方傳叢書第三〕

叡天台五台山記八卷。成尋所記入宋諸師傳考一卷。(大周然寂圓傳考。元豐念久傳考。寶補超會傳)。西征求法歌集一卷。入唐取經願文一卷。喫茶養生記二卷。泉涌寺不可棄法師傳一卷。建撰記二卷。道元禪師傳考一卷。洞谷山宗可禪師傳。道正竺元祖傳。陶祖春慶銘碑。瀧戶寫世系。慶政上人傳考一卷。

〔第百十六　遊方傳叢書第四〕

惠眞和尙東征傳繪緣起五卷。吉備大臣入唐記繪詞一卷。創補天台五台山記八卷。策彥和尙入明記初蒐集三卷。策彥和尙入明記再蒐集二卷。入明諸要例二卷。入明記卷初事文集記一卷。梵僧指南禪師傳考一卷。西域僧祖哺嚕結傳一卷。燉煌錄一卷。明佛根本碑一卷。寶篋印陀羅尼傳來記一卷。苔藤陀羅尼流布緣起一卷。太元帥法緣起奉狀一卷。太元宗勘文一卷。兩部大法相承師資付法記二卷。灌頂御願記一卷。入唐諸家傳考一卷。惠蓮和尙年譜一卷。四明僧光一卷。

〔第百十七　寺誌叢書第一〕

法隆寺伽藍緣起並流記資財帳一卷。法隆寺東院緣起一卷。斑鳩寺雜記一卷。斑鳩古事便覽一卷。天王寺舊記一卷。六角堂緣起一卷。城州宇治川橋寺之緣起一卷。聖徳寺寶財帳一卷。聖徳寺緣起一卷。石山寺緣起一卷。石山寺聖徳會記納帳一卷。清水寺建立記一卷。清水寺緣起一卷。清水寺緣起付異本補遺一卷。清水寺緣起一卷。法輪寺緣起一卷。醍醐寺緣起一卷。下醍醐金堂勸進帳一卷。下醍醐炎魔堂勸進帳一卷。書寫山舊記一卷。播州書寫山緣起一卷。米相記一卷。河內高貴寺緣起一卷。高台寺緣起一卷。眞如堂緣起一卷。淨土寺念佛緣起一卷。洛陽誓願寺緣起一卷。繪詞要略誓願寺緣起二卷。總本山知恩院舊記採要錄一卷。知恩院御取立御願宣旨書一卷。長德山知恩寺歷志略一卷。栗生光明寺繪緣起三卷。鹿山寺緣起一卷。二尊院緣起一卷。清涼寺緣起一卷。

〔第百十八　寺誌叢書第二〕

諸寺緣起集一卷。四天王寺御手印緣起一卷。四天王寺金堂本尊再興勸進帳一卷。天王寺再興勸進帳一卷。四天王寺領帳一卷。四天王寺名跡集一卷。笠置寺緣起一卷。笠置寺緣起抄出一卷。笠置寺住侶作善願文一卷。爲八條院三位局於笠置修善願文一卷。大安寺伽藍緣起并流記資財帳一卷。大安寺碑文一首並序一卷。大安寺房院記一卷。大安寺住侶記一卷。大安寺梁道天皇御院八島兩處記文一卷。元興寺緣起(佛本傳來記)一卷。元興寺伽藍緣起并流記資財帳一卷外二

部。本朝佛法最初南都元興寺由來一卷。西大寺資財流記帳一卷。西大寺田園目錄一卷。西大寺藏本一卷。藥師寺緣起一卷。藥師寺唐院記一卷。黑草紙一卷。藥師寺新黑草紙一卷。藥師寺鑑鳥私考一卷。藥師寺金石記一卷。南都唐招提寺略錄一卷。唐招提寺戒壇記一卷。唐招提寺緣起拔書略集一卷。白衣方記錄一卷。長谷寺緣起文一卷。長谷寺靈驗記二卷。長谷寺造供養一卷。長谷寺舞楽供養一卷。播州鳥下郡應頂山勝尾寺支證類聚第一緣起(全部六卷內卷第二一名勝尾寺流記單一卷)。播州國勝尾寺略緣起一卷。應頂山勝尾寺緣起二卷。應頂山勝尾寺緣起二卷。智福鳥緣起一卷。岩金山太神宮寺儀軌一卷。法華尼寺緣起一卷。超昇寺大念佛一卷。超昇寺緣起一卷。興福尼院緣起一卷。多武峯緣起一卷。多武峯略記二卷。大鏡冠神像破裂記附錄一卷。多武峯破裂記一卷。橋寺阿彌陀堂供養一卷。橋寺緣起一卷。本元興寺緣起一卷。麻是陀經緣起一卷。當麻寺文書一卷。矢田地藏緣起二卷。

〔第百十九　寺誌叢書第三〕

信貴山緣起詞書三卷。信貴山文書一卷。信貴山寶財寶物帳一卷。信貴山舊記一卷。菅原寺起文遺誡狀一卷。生駒山竹林寺緣起一卷。竹林寺略錄一卷。竹林寺十種大願一卷。清涼山欽喜光律寺略緣起一卷。大藏寺塔婆再興勸進帳一卷。八一經記一卷。宝生山御舍利相傳緣起一卷。金剛藏王堂勸進狀一卷。建勝寺中興記一卷。和州久米寺流記一卷。久米寺緣起事一卷。子鳥山觀音寺緣起一卷(付子鳥山寺建立緣起大師傳一卷)。陳池院緣起一卷。陳池院中興勸進狀一卷。陳池院文書一卷。泉州松尾寺記一卷。廣隆寺緣起一卷。廣隆寺寶財祝替實錄帳一卷。秦公寺資財祖稅錄一卷。山城州葛野郡楓野大堰郷廣隆寺來由記一卷。京太秦廣隆寺大略緣起一卷(付太秦廣隆寺牛祭々文)廣隆寺井桂宮院領當知行文書一卷。穀馬寺緣起一卷。神護寺略記一卷。文覺四十五箇條一卷(付官符)。高雄山中興記一卷。高雄山神護寺緣起一卷。神護寺文書一卷。清和院地藏堂勸進狀一卷。平安城北建務伽藍寺私記一卷。勸修寺緣起一卷。勸修寺文書一卷。勸修寺緣起一卷。方廣寺鐘銘并五山衆評判一卷。京都大佛殿建立表白一卷。大佛御供養御願帳一卷。大佛供養請僧天台宗五百口惣名帳一卷。大佛供養法具方帳一卷。大佛供養記一卷。大佛殿雷火災燒國書(詞書)一卷。觀心寺阿彌陀佛造像記一卷。觀心寺勸錄緣起資財帳一卷。觀心寺文書一卷。觀心寺緣起實錄帳一卷。河州志紀郡土師村道明尼律寺記一卷。西琳寺文永註記一卷。瑞城寺記二卷。中尊寺光堂文書一卷。興福寺緣起一卷(付鏡狀)。興福寺修二月緣起一卷。興福寺聖禪堂鐘銘一卷。南圓堂銅燈臺一卷。春日社告文一卷。興福寺資財帳一卷。大和國奈良原興福寺伽藍記一卷。興福寺東金堂記一卷。興福寺舊記一卷。興福寺現住侶帳一卷。七大寺并興福寺諸堂緣起一卷。興福寺鑑鳥記一卷。興福寺再建伽藍化緣疏一卷。興福寺官務鏡疏一卷。興福寺末寺帳一卷。興福寺末寺帳一卷。興福寺領朱印并坊舍知行之事。

〔第百二十　寺誌叢書第四〕

七大寺日記(殘缺)一卷。南都七大寺巡禮記一卷。大和寫城寶山紀一卷。安祥寺資財帳一卷。神宮寺伽藍緣起并資財帳(殘缺)一卷。安祥寺資財帳一卷。十講會緣起一卷。龍門寺緣起一卷。龍華寺緣起一卷。圓寺緣起一卷。世喜寺中興緣起一卷。世喜寺供養記一卷。粉河寺大塔卒都婆建立緣起一卷。大悲山寺緣起一卷。根本大塔領文書一卷。奥院興廢記一卷。高野興廢記一卷。壺尾山緣起證文等之事一卷。山家最略記一卷。三塔諸寺緣起一卷。久留寺緣起一卷。近江常樂寺勸進帳一卷。善光寺緣起詞書二卷。善光寺緣起四卷。善光寺緣起集註六卷。建勝寺中興記一卷。日本瑞龍山重建願法輪藏禪寺記一卷。內山寺記一卷。檳社山誕生寺緣起一卷。大日本國尾州路智多郡野間庄大御堂大坊緣起一卷。靜林寺勸進狀一卷。三井寺領地目錄一卷。三井寺金堂東大門勸進帳一卷。園城寺堂舍便覽一卷。法蓮院釋迦堂修造勸進帳一卷。大山緣起一卷。大雲寺緣起一卷。延長谷寺緣起并資財田地記一卷。足利鑑阿寺緣起一卷。下野五箇庄鑑阿寺之事一卷。東福山諸堂建立記一卷。東福山之記一卷。東福山寫水寺子院記一卷。藥師寺緣起詞書一卷。大和國添下郡石京藥師寺緣起詞書一卷。西京藥師寺緣起一卷。藥師寺古記抜萃一卷。藥師寺一卷。清涼山欽喜光律寺略緣起一卷。

〔第百二十一　東大寺叢書第一〕

聖武皇帝并文德帝策命一卷。東大寺大佛堂緣起碑文一卷。勝寶感神聖武皇帝創叡記書一卷。東大寺獻物帳一卷。東大寺開眼供養日時僧名行事官等之事一卷。東大寺供養式一卷(建仁三年十一月三十日)。二月堂供養式一卷(元久三年正月晦日)。八幡大菩薩御影供養事一卷。大佛殿千僧供養事一卷(嘉禎四年十月八日)。大佛殿千僧供養事一卷(寶治元年八月十八日)。戒壇院本尊供養事一卷。能惠得業大般若經書寫供養事一卷。新院堂供養事一卷。良辨僧正御影堂供養事一卷。行基菩薩舍利供養事一卷。本寺舍利供養事一卷。行基菩薩骨舍利供養事一卷。大佛殿新始千僧供養弘記一卷(貞享五戊辰年四月日)。大佛開眼供養記一卷。大佛開眼供養并萬僧供養之記一卷。大佛堂供養記一卷。重興南都大佛殿讚頌集四卷。東南院務次第一卷。東大寺尊勝院記追加一卷。東大寺尊勝院記附錄一卷。諸集一卷。南都東大寺戒壇院略緣起一卷。東大寺戒壇院受戒式一卷。四箇大寺古今傳記(東大寺之記)一卷。天保四癸巳年十月十八日正倉院御開封記一

佛教大系論集 ❶(書)Buk-kyō-tai-ka-ron-shū. ❷十二卷 ❸存 ❹北村宣之助(文學)(安政) ❺明治二十七刊 ❻(文天"四一九•三七七)

佛教大系 ❶(書)Buk-kyō-tai-kei. ❷五十九卷 ❸存 ❹橋本文保刊行會 ❺大正六以後刊 ❻東京東京出版

佛教大綱 ❶(書)Buk-kyō-tai-kō. ❷一卷 ❸存 ❹くすのき•ちんりき•ちんりき著"文化史學叢書 ❺大正三刊 ❻東京東京堂

佛教大綱 ❶(書)Buk-kyō-tai-kō. ❷一卷 ❸存 ❹井上圓了(哲學館—東京市 A. D. 1851—1929)著 ❺大正三刊 ❻(書天"二三五•二九)

佛教大綱 ❶(書) Buk-kyō-tai-kō. ❷一卷 ❸存 ❹島地默雷著(明治八—明治二二 A. D. 1875—1927)著 ❺明治六刊 ❻東京明治書院

佛教大典 ❶(書) Buk-kyō-tai-shi. ❷一卷 ❸存 ❹若林勝邦(天保一—大正三 A. D. 1842—1914)著 ❺明治一六刊 ❻(書天"一〇七•九四)

佛教大典 ❶(書) Buk-kyō-tai-ten. ❷一卷 ❸存 ❹普通學 ❺大正三刊 ❻明治書院(安政六—大正六)著 ❼(文天"四一七•三七七)

佛教大學學制及沿革 ❶(書) Buk-kyō-dai-gaku-gaku-sei-kō-kai-ryaku

佛教大學學制及沿革略史 ❶(書)Buk-kyō-dai-gaku-gaku-sei-kō-kai-ryaku-reki. ❷一卷 ❸存 ❹宮本(書天"一九五•一二)

佛教大學學業分科目錄 ❶(書) Buk-kyō-dai-gaku-zō-sho-jō-do-shū-moku-roku. ❷一卷 ❸存 ❹宮本(書天"二〇一七•二二五)

佛教大學大學目錄 ❶(書) Buk-kyō-dai-gaku-dai-zō-moku-roku. 佛教大學大學目錄藏書錄 ❷一卷 ❸存 ❹宮本(書天"二〇一七•二四)

佛教大學圖書館古寫古版目錄 及館藏圖 ❶(書) Buk-kyō-dai-gaku-to-sho-kwan-ko-sha-ko-han-moku-roku-oyobi-ryaku-kai-dai. ❷一卷 ❸存 ❹東京東京堂 ❺大正三刊 ❻(書天"二〇一七•二四)

佛教大學圖書館藏分類目錄 ❶(書)Buk-kyō-dai-gaku-to-sho-kwan-yo-jō-bun-rui-moku-roku. ❷一卷 ❸存 ❹宮本(書天"二〇一七•二六)

佛教大學圖書館藏新目錄 ❶(書) Buk-kyō-dai-gaku-to-sho-shin-shū-moku-roku. ❷一卷 ❸存 ❹佛教大學圖 ❺〔參考〕 佛教學會事刊行委員會目

佛教大學圖書目錄 ❶(書) Buk-kyō-dai-gaku-to-sho-moku-roku. 佛教大學圖書目錄佛教學會 ❷一卷 ❸存 ❹宮本(書天"二〇一七•二五)

佛教大醫別傳十卷定法易行辨 ❶(書)Buk-kyō-dai-gen-soku-tsuketari-jū-zen-kai-hō-i-gyō-ben. ❷一卷 ❸存 ❹安國(文政一〇—明治四二 A. D. 1827—1909)著 ❺明治二六刊(宮天"一九四•二二六)

佛教大醫論 ❶(書) Buk-kyō-dai-gen-ron. ❷四卷 ❸存 ❹中村日誠編 ❺明治二一刊 ❻(書國"一六•一)

佛教大綱外論 ❶(書) Buk-kyō-tai-gwai-ron. ❷一卷 ❸存 ❹秦宣卿編 ❺明治二六刊 ❻(書國"一九•四一七)

佛教中學讀本 ❶(書)Buk-kyō-chū-gaku-kwa-hon. ❷四卷 ❸存 ❹(宮天"一〇五•七七)

佛教中學講 ❶(書)Buk-kyō-chū-kō-hen. ❷一卷 ❸存 ❹村上專精(東京西—明治四 A. D. 1851—1929)著 ❺明治二二刊(東天"一•二六)(明治二六刊(宮天"一〇九•九九)(宮國"九•一五二)

佛教通觀 ❶(書)Buk-kyō-tsū-kwan. ❷二卷 ❸存 ❹井上圓了(哲學館—大正八 A. D. 1858—1919)著 ❺明治三七刊 ❻(書天"二五三•三一)(宮天"一〇七•一〇一)(宮國"三一八•一四〇)

佛教通俗講義 ❶(書) Buk-kyō-tsū-zoku-kō-gi. ❷十六卷 ❸存 ❹明治二六—二七刊 ❺(宮國"六二•二六〇—二七五) ❻東京東京堂

佛教通俗講義 ❶(書) Buk-kyō-tsū-zoku-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹大內青巒(弘化二—大正七 A. D. 1845—1918)著 ❺明治三三刊 ❻(宮國"八二•二一九)

佛教通論 ❶(書)Buk-kyō-tsū-ron ❷一卷 ❸存 ❹安國(文政一〇—明治四二 A. D. 1827—1909)著 ❺明治四三刊 ❻(宮天"一〇七•一〇二)(宮天"一•二〇)

佛教通論 ❶(書)Buk-tsū-ron. ❷一卷 ❸存 ❹村上專精(東京西—明治四 A. D. 1851—1929)著 ❺(宮天)

佛教通要 ❶(書)Buk-tei-yō. ❷二卷 ❸存 ❹足田定信著 ❺卷一は弘令法" 卷二は法相法° ❻明治三二刊 ❼(書天"二六二•二四)

佛教哲學 ❶(書)Buk-kyō-tetsu-gaku. ❷一卷 ❸存 ❹小野清秀著 ❺大正四刊 ❻(宮天"一•二〇八•一四)

佛教哲學 ❶(書)Buk-kyō-tetsu-gaku. ❷一卷 ❸存 ❹小野清秀著 ❺(宮天)

佛教哲學 ❶(書)Buk-kyō-tetsu-gaku. ❷一卷 ❸存" 印度哲學概說之內 ❹井上圓了(哲學館—東京西—明治四 A. D. 1858—1919)著 ❺明治二八—二九刊(宮國"一四•二二一九"七六八)(宮天"文化•天五五) 明治三一—三二刊(宮國"一四•二二三〇)

佛教哲學 ❶(書)Buk-kyō-tetsu-gaku. 哲學三部會 ❷一卷 ❸存 ❹モール•ケーラス著 ❺明治三四刊 ❻(宮天"一〇七•一一七七)(宮國"六二•二七一) ❼東京東京堂

佛教哲學思想大系 ❶(書) Buk-kyō-tetsu-gaku-shi-sō-tai-kei. ❷一卷 ❸存 ❹三井逸友編 ❺大正一三刊 ❻東京東京社

佛教哲學新論 ❶(書) Buk-kyō-te-

卷° 天保七丙申年天月二十日迄寫記卷四百五十記一卷° 寫寫元年寫寫記(卷天"一二"一四"一五"一六"一七"一八"一九"二二"二三)°

〔卷百二十三　寫寫令寫寫卷一〕

寫寫令寫記一卷° 寫寫令記一卷° 寫寫令記一卷° 寫寫令寫記一卷° 三寫令寫一百四卷° 一寫寫寫

tsu-gaku-shin-ron. ❷1卷 ❸存 ❹同

佛教之哲學の一1應用 ❶(日) Buk-kyō-tetsu-gaku-no-ichi-ō-yō. ❷存 柴山栄1反響録14篇 ❸柴山栄1著 ❹賞勲局(帝国)1人人・天三七)

佛教哲學汎論 ❶(日) Buk-kyō-tetsu-gaku-han-ron. ❷1卷 ❸存 帝国百科全書第1篇10編 ❹石原謙訳 ❺明治三八刊 ❻(国天"11五三・四四一四五)(帝国"七八・四)(文天"1・11〇六・四四)

佛教哲學論 ❶(日) Buk-kyō-tetsu-gaku-ron. ❷1卷 ❸存 ❹東京文学社 ❺大正1五刊 ❻東京文学社

佛教之哲理 ❶(日) Buk-kyō-tetsu-ri. ❷1卷 ❸存" 法華経講義1卷 ❹立花光著 ❺明治四四刊 ❻東京有朋堂

佛教哲理の發達 ❶(日) Buk-kyō-tetsu-ri-no-hat-tatsu. ❷1卷 ❸存 ❹井上哲次郎著 ❺明治七刊 ❻東京大倉出版社

佛教之基督教 ❶(日) Buk-kyō-to-kirisu-to-kyō. 比較宗教学講義之基督教 ❷1卷 ❸存 ❹エスチャン・カーペンター著 有谷文雄訳 ❺明治三刊 ❻東京同文館

佛教之現代思想 ❶(日) Buk-kyō-to-gen-dai-shi-sō. ❷1卷 ❸存 ❹小野清1著 ❺大正1四刊 ❻東京大倉書店

佛教之國家 ❶(日)Buk-kyō-to-kok-ka. ❷1卷 ❸存" 東京成城学校111講 ❹田島大象著 ❺明治三五刊 ❻(帝国"八

11・四三四)

佛教之國民思想 ❶(日) Buk-kyō-to-koku-min-shi-sō. ❷1卷 ❸存" 文化叢書第11編 ❹東京国民教育会 ❺大正11刊 ❻東京国民教育会

佛教之社會 ❶(日) Buk-kyō-to-sha-kwai. ❷1卷 ❸存 ❹文学社講演叢書 ❺明治四三刊 ❻東京中子社発行

佛教之社會主義 ❶(日) Buk-kyō-to-sha-kwai-shu-gi. ❷1卷 ❸存 ❹藤田徳太郎著 ❺大正1三刊 ❻東京春川書店

佛教之人生 ❶(日) Buk-kyō-to-jin-sei. ❷1卷 ❸存 ❹岡田朝太郎(安斎園一)昭和元A. D. 1857—1930)著 ❺大正八刊 ❻(帝国"11〇九九・11111)

佛教之人生 ❶(日)Buk-kyō-to-jin-sei. ❷1卷 ❸存 ❹泉井久之助著 ❺明治四六刊 ❻東京大倉書店

佛教之日本文化 ❶(日) Buk-kyō-to-nip-pon-bun-kwa. ❷1卷 ❸存" 岩波講座 ❹辻善之助著 ❺明治四四 ❻日本学術普及会 ❼明治五刊 ❽東京岩波書店

佛教之歴史 ❶(日)Buk-kyō-to-reki-shi. ❷1卷 ❸存" 東京大学教授講義1 ❹岡田宗憲(文久三一大正1)1 A. D. 1863—1922)著 ❺大正八刊 ❻東京大倉書店

佛教統一論 ❶(日)Buk-kyō-tō-itsu-ron. ❷三卷 ❸存 ❹村上専精(嘉永四一昭和四A. D. 1851—1929)著 ❺第1編" 大乗論" 第11編" 原始論" 第三編" 東洋論" ❻明治三四一三八刊 ❼(帝国"11五三・四六)

佛教統一論教起論 ❶(日) Buk-kyō-tō-itsu-ron-shi-hyō. ❷1卷 ❸存 ❹沢柳政太郎(弘化四一明治三八A. D. 1847—1935)著 ❺明治三四刊 ❻(帝国"1〇七・11六)(帝国"11五三・四九)(帝国"11五三・四六)(帝国"七1・1)

佛教統一論大乘論批評兼其他諸家所出

上座部主要諸宗要義論考 ❶(日) Buk-kyō-tō-itsu-ron-tai-kō-ron-hi-hyō-shū-tsuketari-mura-kami-haku-shi-sō-seki-hen-kwan-tem-matsu. ❷1卷 ❸存 ❹安藤俊雄 ❺明治三四刊 ❻(帝国"九三・四七)

佛教統一論第五章第六段論

❶(日) Buk-kyō-tō-itsu-ron-dai-go-hen-jis-sen-ron. ❷11卷 ❸存 ❹村上専精(嘉永四一昭和四A. D. 1851—1929)著 ❺昭和11刊 ❻東京東方学院

佛教統一論批評全集 ❶(日) Buk-kyō-tō-itsu-ron-hi-hyō-zen-shū. ❷1卷 ❸存 ❹高木秀文編 ❺明治三四刊 ❻(帝国"1五三・四四)(帝国"11五三・四四)(帝国"八11・四八四)

佛教統一論評論 ❶(日) Buk-kyō-tō-itsu-ron-hyō-ron. ❷1卷 ❸存 ❹伊藤祐奇著 ❺明治三五刊 ❻(帝国"八五三)(帝国"11五三・四四)(帝国"七八・1)

佛教要語全集 ❶(日) Buk-kyō-dō-wa-zen-shū. ❷十11卷 ❸存 ❹成田谷龍文編 ❺昭和三刊 ❻東京成蹊社

(帝国"11五三・四六)(帝国"八)(帝国"11五三・四六)(帝国"11五三・四六)(帝国"八)(帝国"八) ❼東京成蹊社

佛教統一論批評 ❶(日) Buk-kyō-tō-itsu-ron-hi-hyō. ❷1卷 ❸存 ❹沢柳政太郎(弘化四一明治三八A. D. 1847—1935)著 ❺明治三四刊 ❻(帝国"1〇七・11六)(帝国"11五三・四九)(帝国"八三・1七)(帝国"111・1八・11)

佛教統一論大乘論批評兼其他諸家所出

上座部主要諸宗要義論考 ❶(日) Buk-kyō-tō-itsu-ron-tai-kō-ron-hi-hyō-shū-tsuketari-mura-kami-haku-shi-sō-seki-hen-kwan-tem-matsu. ❷1卷 ❸存 ❹安藤俊雄 ❺明治三四刊 ❻(帝国"九三・四七)

佛教統一論第五章第六段論

❶(日) Buk-kyō-tō-itsu-ron-dai-go-hen-jis-sen-ron. ❷11卷 ❸存 ❹村上専精(嘉永四一昭和四A. D. 1851—1929)著 ❺昭和11刊 ❻東京東方学院

佛教統一論批評全集 ❶(日) Buk-kyō-tō-itsu-ron-hi-hyō-zen-shū. ❷1卷 ❸存 ❹高木秀文編 ❺明治三四刊 ❻(帝国"1五三・四四)(帝国"11五三・四四)(帝国"八11・四八四)

佛教統一論評論 ❶(日) Buk-kyō-tō-itsu-ron-hyō-ron. ❷1卷 ❸存 ❹伊藤祐奇著 ❺明治三五刊 ❻(帝国"八五三)(帝国"11五三・四四)(帝国"七八・1)

佛教要語全集 ❶(日) Buk-kyō-dō-wa-zen-shū. ❷十11卷 ❸存 ❹成田谷龍文編 ❺昭和三刊 ❻東京成蹊社

佛教類聚 ❶(日) Buk-kyō-dō-toku. ❷1卷 ❸存 ❹前田慧雲(安政元一昭和11A. D. 1864—1927)著 ❺大正11刊 ❻東京成蹊社

佛教類聚叢書 ❶(日) Buk-kyō-dō-toku-kyō-shū. 現代宗教学叢書類聚叢書 ❷存" 現代宗教学叢書類聚叢書第1編 ❸前田慧雲 ❹大正11刊 ❺東京中子社

佛教類聚十善大要 ❶(日) Buk-kyō-dō-toku-jū-zen-tai-i. ❷1卷 ❸存 ❹荒船俊太郎(一昭和11A. D. 1927)著 ❺明治11四刊 ❻(帝国"1八・11111四)

佛教類聚新論 ❶(日)Buk-kyō-dō-toku-shin-ron. ❷1卷 ❸存 ❹村上専精(嘉永四一昭和四A. D. 1851—1929)著 ❺明治11刊 ❻(帝国"11五・六〇九)

佛教類聚談 ❶(日) Buk-kyō-dō-toku-dan. 国民教育叢書類聚談 ❷1卷 ❸存 ❹東京国民教育 ❺明治三六刊 ❻(帝国"八五・1四四)

佛教類聚の現本義 ❶(日) Buk-kyō-dō-toku-no-kom-pon-gi. ❷1卷 ❸存 ❹吉蔵著原本義 ❺明治三刊 ❻(帝国"八五・九四八"九五五)(帝国"八)(帝国"1〇六・四六)

佛教類聚小部教科書 ❶(日) Buk-kyō-toku-iku-shō-gaku-kyō-kwa-sho. ❷1卷 ❸存 ❹長崎善隆著 ❺明治11刊 ❻(帝国"1・11六六・1七)

佛教眞本 ❶(日)Buk-kyō-doku-hon. ❷1卷 ❸存 ❹藤川良秀著 ❺明治三刊 ❻(帝国"1〇七・1八1)

宗教学

佛教眞本 ❶(日) Buk-kyō-doku-hon. ❷1卷 ❸存 ❹大原貫秀著 ❺明治三六刊 ❻(帝国"11五・六〇八)

佛教眞本 ❶(日) Buk-kyō-doku-hon. ❷11卷 ❸存 ❹新居洋三" 大食事信仰講 ❺明治四〇刊 ❻(帝国"1〇九・八〇"11四11)(帝国"11五九・四五"四七)

佛教眞本 ❶(日)Buk-kyō-doku-hon. ❷11卷 ❸存 ❹小松宮彰仁親王著 ❺明治四五刊 ❻(帝国"11五九・四八)

佛教眞本 ❶(日) Buk-kyō-doku-hon. 宗教改訂中等修身教授書 ❷11卷 ❸存 ❹宮崎奇静 ❺大正六刊 ❻東京宝文館

佛教眞本 ❶(日)Buk-kyō-doku-hon. ❷11卷 ❸存 ❹東京帝国大学教授講義 ❺大正1三刊 ❻東京東京堂出版

佛教眞本 ❶(日)Buk-kyō-doku-hon. ❷1卷 ❸存 ❹高山千三郎著 ❺大正1五刊 ❻東京高等堂

佛教眞本 ❶(日)Buk-kyō-doku-hon. ❷1卷 ❸存 ❹千安清泉外記講 ❺大正1五刊 ❻(帝国"11五九・五1)

佛教眞本 ❶(日)Buk-kyō-doku-hon. ❷1卷 ❸存 ❹中川日文著 ❺大正1五刊 ❻(帝国"法華)

佛教眞本 ❶(日) Buk-kyō-doku-hon. 中等修身教授本 ❷六卷 ❸存 ❹前田慧雲 ❺明治11刊 ❻(帝国"卷末・八八1)(帝国"11五九・五11)

佛教眞本 ❶(日) Buk-kyō-doku-hon. 中等修身教授本 ❷四卷 ❸存 ❹(帝国"

法華)

佛教に於ける三大信心論

❶(日) Buk-kyō-ni-o-ke-ru-ni-dai-yui-shin-ron ❷1卷 ❸存 ❹泰嶺信仰著 ❺明治四五刊 ❻東京東文館

佛教に於ける國民上人及び菩薩大師の史的教觀 ❶(日) Buk-kyō-ni-o-ke-ru-ryō-nin-shō-nin-oyobi-hō-ō-dai-shi-no-shi-teki-gai-kwan. ❷1卷 ❸存 ❹岩国良文著 ❺明治三七刊 ❻(帝国"九七・11〇11)

佛教に於ける彌陀觀音菩薩說

❶(日)Buk-kyō-ni-o-ke-ru-rinn-e-ten-shō-to-ge-datsu. ❷1卷 ❸存 ❹春藤宗信著 ❺明治五刊 ❻東京法文館

佛教日課 ❶(日)Buk-kyō-nik-kwa. ❷1卷 ❸存 ❹河口慧海著 ❺大正11刊 ❻東京東京出版社

佛教日本之自覺 ❶(日) Buk-kyō-nip-pon-no-ji-kaku. ❷1卷 ❸存 ❹藤井健志著 ❺明治11刊 ❻(帝国"卷末・八九11) ❼東京中子社

佛教入門 ❶(日)Buk-kyō-nyū-mon. ❷1卷 ❸存 ❹藤島達朗著 ❺明治四三刊 ❻(帝国"卷末・11六五)

佛教入門の初步 ❶(日) Buk-kyō-nyū-mon-no-sho-ho. ❷1卷 ❸存 ❹管領(文政1〇一明治四11A. D. 1827—1909)著 ❺明治11七刊 ❻(帝国"卷末・1七)(帝国"九・三九八)(法華)

佛教年代考 ❶(日) Buk-kyō-nen-dai-kō. ❷1卷 ❸存 ❹小野玄妙著 ❺明治四八刊 (帝国"1〇三1・11九)(帝国"11五11・四四)(帝国"七1・1八)(帝国"卷末・八三)(帝国"卷末・1四)

佛教の根本思想 ❶(日) Buk-kyō-no-kom-pon-shi-sō. ❷1卷 ❸存 ❹大内青巒(弘化11一大正七A. D. 1845—1918)著 ❺大正四刊 ❻東京東京仏教協会

佛教の根本思想 ❶(日) Buk-kyō-no-kom-pon-shi-sō. ❷1卷 ❸存 ❹高橋亀吉著 ❺明治四六刊 ❻東京大倉書店

佛教の根本教義 ❶(日) Buk-kyō-no-kom-pon-sei-shin. ❷1卷 ❸存 ❹藤島達朗著 ❺大正1五刊 ❻(帝国"卷末・六八六)

佛教の信仰 ❶(日)Buk-kyō-no-shin-zui. ❷1卷 ❸存 ❹賀茂百樹(安政三一大正1五A. D. 1856—1926)著 ❺明治四四刊 ❻(帝国"111・11四)

佛教の信仰 ❶(日)Buk-kyō-no-shin-zui. ❷1卷 ❸存 ❹佐藤慶太郎著 ❺明治四四刊 ❻(帝国"

佛教の信仰評論 ❶(日) Buk-kyō-no-shin-sei-shin. ❷1卷 ❸存 ❹大倉邦彦1編 ❺明治三四刊 ❻(帝国"1〇七・1四11) ❼東京冨山房

佛教の新研究 ❶(日) Buk-kyō-no-shin-ken-kyū. ❷1卷 ❸存 ❹上杉慎吉著 ❺大正七刊 ❻東京大学出版部

佛教のすゝめ ❶(日) Buk-kyō-no-su-su-me. ❷1卷 ❸存 ❹山田孝雄著 ❺(文久三一昭和三A. D. 1863—1928)著 ❻

宗教学

佛教の根本思想 ❶(日) Buk-kyō-no-kom-pon-shi-sō. ❷1卷 ❸存 ❹大内青巒(弘化11一大正七A. D. 1845—1918)著 ❺大正四刊 ❻東京東京仏教協会

佛教の根本思想 ❶(日) Buk-kyō-no-kom-pon-shi-sō. ❷1卷 ❸存 ❹高橋亀吉著 ❺明治四六刊 ❻東京大倉書店

佛教の根本教義 ❶(日) Buk-kyō-no-kom-pon-sei-shin. ❷1卷 ❸存 ❹藤島達朗著 ❺大正1五刊 ❻(帝国"卷末・六八六)

佛教の信仰 ❶(日)Buk-kyō-no-shin-zui. ❷1卷 ❸存 ❹賀茂百樹(安政三一大正1五A. D. 1856—1926)著 ❺明治四四刊 ❻(帝国"111・11四)

佛教の信仰 ❶(日)Buk-kyō-no-shin-zui. ❷1卷 ❸存 ❹佐藤慶太郎著 ❺明治四四刊 ❻(帝国"

佛教の信仰評論 ❶(日) Buk-kyō-no-shin-sei-shin. ❷1卷 ❸存 ❹大倉邦彦1編 ❺明治三四刊 ❻(帝国"1〇七・1四11) ❼東京冨山房

佛教の新研究 ❶(日) Buk-kyō-no-shin-ken-kyū. ❷1卷 ❸存 ❹上杉慎吉著 ❺大正七刊 ❻東京大学出版部

佛教のすゝめ ❶(日) Buk-kyō-no-su-su-me. ❷1卷 ❸存 ❹山田孝雄著 ❺(文久三一昭和三A. D. 1863—1928)著 ❻

佛教の中世界觀 ❶(日) Buk-kyō-no-se-kai-kwan. ❷1卷 ❸存 ❹原八ヶ[illegible]ア[illegible]著、高山樗牛大正 ❺大正1—五刊 ❻東京日子社會版

佛教の精書 ❶(日)Buk-kyō-no-sei-kwa. ❷1冊 ❸存 ❹佐々木英勝著 ❺昭和七刊 ❻東京國語學院

佛教の精髓 ❶(日) Buk-kyō-no-sei-zui. ❷1卷 ❸存 ❹學藝會編 ❺明和二刊 ❻名古屋寺院

佛教の前途 ❶(日)Buk-kyō-no-zen-to. ❷1卷 ❸存 ❹藤堂恭俊著 ❺明治41〇刊 ❻(冷大"卷廿•1六三)(東大"1〇九•1四六)(帝國"11五•四六五)

佛教の大意 ❶(日) Buk-kyō-no-tai-i. ❷1卷 ❸存 ❹大谷光瑞著 ❺昭和五刊 ❻大東出版社文發會

佛教の中心觀念 ❶(日) Buk-kyō-no-chū-shin-kwan-nen. ❷1冊 ❸存、大乘學會編人會 ❹明治了圓著 ❺昭和三刊 ❻東京大學圖

佛教の發展 ❶(日)Buk-kyō-no-hat-ten. ❷1冊 ❸存 ❹島子三文堂編 ❺明治四〇刊 ❻(文大"B〇四•四九) ❼雄山閣子三文堂

佛教の法律思想 ❶(日) Buk-kyō-no-hō-ritsu-shi-sō. ❷1卷 ❸存、東京大學法1 ❹東京城學、上田天瑞、小原國芳編 ❺昭和十刊 ❻東京大學出版社

佛教の本質 ❶(日)Buk-kyō-no-hon-shitsu. ❷1卷 ❸存 ❹今子大學著 ❺大正1〇刊 ❻東京宗教學院

佛教の要體 ❶(日) Buk-kyō-no-yō-tai. ❷1卷 ❸存 ❹印度クシナーラ著、立花俊道譯 ❺大正七刊 ❻東京佛教學院

佛教の要領 ❶(日) Buk-kyō-no-yō-ryō. ❷1冊 ❸存 ❹大井東慶著 ❺昭和三刊 ❻名古屋寺院

佛教の書誌觀 ❶(日) Buk-kyō-no-rei-kon-kwan. ❷1卷 ❸存 ❹櫻川敬信著 ❺昭和11刊 ❻東京藝文學院

佛教八面觀 ❶(日) Buk-kyō-hachi-men-kwan. ❷1卷 ❸存 ❹小野玄妙著 ❺昭和三六刊 ❻(帝國"三1八•八1)

佛教況論 ❶(日) Buk-kyō-han-ron. (支) Fo-chiao-fan-lun. ❷1冊 ❸存 ❹日置 ❺民國1四刊 ❻(冷大"卷廿•四四〇)

佛教美術 ❶(日)Buk-kyō-bi-jutsu. ❷1冊 ❸存 ❹前田慧雄(安政四—昭和元A. D. 1857—1930)著 ❺昭和三九刊 ❻(帝大"11〇六1•1八)

佛教美術 ❶(日)Buk-kyō-bi-jutsu ❷六卷 ❸存 ❹小倉貞男編 ❺大正1三一1四刊 ❻(帝大"圖書)

佛教美術 ❶(日)Buk-kyō-bi-jutsu. ❷1冊 ❸存 ❹小野玄妙著 ❺大正1五刊 ❻東京佛母子社會版

佛教美術概論 ❶(日) Buk-kyō-bi-jutsu-gai-ron. ❷1卷 ❸存 ❹小野玄妙著 ❺大正六刊 ❻東京佛母子社版社

佛教美術研究 ❶(日) Buk-kyō-bi-jutsu-ken-kyū. ❷1冊 ❸存 ❹藤ヌル[illegible]•ヌ[illegible]著"日學會編 ❺昭和四三刊 ❻東京文大書院

佛教美術講話 ❶(日) Buk-kyō-bi-jutsu-kō-wa. 東京帝國學藝部編 ❷1卷 ❸存 ❹小野玄妙著 ❺昭和11刊 ❻東京佛母子社會版

佛教美術史料 ❶(日) Buk-kyō-bi-jutsu-shi-ryō. ❷存 ❺大正111刊 ❻(帝大"圖書)

佛教美術叢書 ❶(日) Buk-kyō-bi-jutsu-sō-sho. ❷1冊 ❸存 ❹安藤正直著 ❺昭和11刊 ❻(帝大"11〇六1•11)

佛教美術と上代文化 ❶(日)Buk-kyō-bi-jutsu-to-jō-dai-bun-kwa. ❷1冊 ❸存"文化叢書第11編 ❹井田敬愛著 ❺大正111刊 ❻(帝大"11〇六1•11)(冷大"大井•11九三五)

佛教美術忘筌 ❶(日) Buk-kyō-bi-mō-shō. ❷1冊 ❸存 ❹安藤新平著 ❺大正十 ❻(文奇)

佛教百科全書 ❶(日)Buk-kyō-hyak-kwa-zen-sho. 梅谷慶紀百科全書 ❷三卷 ❸存 ❹學藝書院編 ❺明治11三刊(帝國"四11•1六)明治11七刊(帝國"七11•四三)

佛教百科全書 ❶(日)Buk-kyō-hyak-kwa-zen-sho. 梅谷慶紀百科全書 ❷三卷 ❸存 ❹學藝書院編 ❺明治11六刊(文大"日大學•七〇〇"1•11〇六•11〇) 明治三七(帝大) ❻大東學藝書院

佛教百科全書 ❶(日)Buk-kyō-hyak-kwa-zen-sho. 梅谷慶紀百科全書 ❷存 ❺明治三1"三11刊 ❻(帝國"七八•四)

佛教百科全書 ❶(日)Buk-kyō-hyak-kwa-zen-sho. ❷存 ❹天保年間(安永三—安政元 A. D. 1774—1858) ❺昭和七刊 ❻東京藝術學院

佛教百科寶典 ❶(日)Buk-kyō-hyak-kwa-hō-ten. ❷1卷 ❸存 ❹法藏館編 ❺明治四〇刊 ❻(冷大"卷廿•11一六)

佛教百論問答 ❶(日)Buk-kyō-hyaku-ji-mōn-dō. 宮田慶雄百論問答 ❷1卷 ❸存 ❹木村泰賢、八木奇庵 ❺昭和四刊 ❻東京日本學術普刊行會

佛教百難百答集 ❶(日) Buk-kyō-hyaku-nan-hyaku-tō-shū. ❷1卷 ❸存 ❹望月信亨著 ❺明治三四刊 ❻(帝國"八•1六四)

佛教不滅七論 ❶(日) Buk-kyō-fu-metsu-bō-ron. ❷1卷 ❸存 ❹長谷寶秀著 ❺明治11刊 ❻(帝國"1七•1六四)

佛教婦女の友 ❶(日) Buk-kyō-fu-jo-no-tomo. ❷1卷 ❸存 ❹忠信堂編 ❺明治三四刊 ❻(帝國"八•111九)

佛教夫婦論 ❶(日) Buk-kyō-fū-fu-ron. ❷1冊 ❸存 ❹日本佛教學會 ❺明治11〇刊 (帝國"三三•1九1) 明治11七刊(文大"八〇四•三〇一—三〇11)(帝國"11六•九〇) ❻東京文正堂文發會

佛教風俗 ❶(日)Buk-kyō-fū-zoku. ❷存"日本宗教學會編11•1111之內 ❸ 著作國學會 ❹(冷大"三•四七四•1四)

佛教風俗繪畫會 ❶(日) Buk-kyō-fū-zoku-kwam-butsu-e. ❷1冊 ❸存" ❹東京藝術學會 ❺昭和四刊 ❻東京日本繪會

佛教文學 ❶(日)Buk-kyō-bun-gaku. 存" 學藝叢書第六編第九 ❹山崎與學著 ❺昭和七刊 ❻東京文大文田版社

佛教文學概說 ❶(日)Buk-kyō-bun-gaku-gai-setsu. ❷1卷 ❸存 ❹鈴木榮學著 ❺昭和六刊 ❻東京宗教社學院

佛教文學概論 ❶(日)Buk-kyō-bun-gaku-gai-ron. ❷1卷 ❸存 ❹小野玄妙著 ❺大正1四刊 ❻東京佛母子社會版

佛教文學講義 ❶(日)Buk-kyō-bun-gaku-kō-gi. 國文中の佛教文學講義 ❷11卷 ❸存 ❹國語學會編 ❺明治四11一四三刊 ❻(帝國"1三•三四六)

佛教文學物語 ❶(日)Buk-kyō-bun-gaku-mono-gatari. ❷1卷 ❸存 ❹淺井虎夫著 ❺昭和四刊 ❻東京東林書院

佛教文化史 ❶(日) Buk-kyō-bun-kwa-shi. ❷1冊 ❸存 ❹宗氏佛教著 ❺大正1三刊 ❻(帝大"11五九•五九)

佛教文化史概論 ❶(日) Buk-kyō-bun-kwa-shi-gai-ron. ❷1冊 ❸存 ❹宗氏佛教著 ❺大正111刊 ❻(帝大"佛史)

佛教文化大學講座講義錄 ❶(日) Buk-kyō-bun-kwa-dai-gaku-kō-za-kō-shū-roku. ❷1冊 ❸存 ❹谷川泰和編 ❺大正1五刊 ❻(帝大)

佛教文庫 ❶(日) Buk-kyō-bun-ko. ❷存 ❹東方書院編 ❺昭和六刊 ❻東京東方書院

佛教暦年考證 ❶(日) Buk-kyō-hen-nen-tsū-ron. ❷十五卷 ❸存 ❹(帝"七•四•右•七)

佛教本論 ❶(日) Buk-kyō-hon-ron. 法然著 ❷1冊 ❸存 ❹島尾小彌太著 ❺明治1八刊 ❻(帝大"11五三•四六)(文大"B111•七11) ❼東京佛法學院

佛教流七論 ❶(日)Buk-kyō-metsu-bō-ron. ❷1卷 ❸存 ❹田良島11著 ❺明治111刊 ❻(帝國"11五•六〇四)

佛教問答 ❶(日) Buk-kyō-mon-dō. ❷1卷 ❸存 ❹[illegible] ❺大正1四刊 ❻東京佛母子社會版

佛教問答 ❶(日) Buk-kyō-mon-dō. ❷1卷 ❸存 ❹[illegible] ❺明治11四刊 ❻(帝國"1八•11七)

佛教問答 ❶(日) Buk-kyō-mon-dō. ❷三卷 ❸存 ❹[illegible] ❺明治11三刊(帝大"佛經)(帝大"11〇九九•六)

佛教問答集 ❶(日) Buk-kyō-mon-dō-shū. ❷1冊 ❸存"妙1編 ❹[illegible] ❺大正(一大正1 A. D. 1923)冬" ❻明治三七刊 ❻(帝國"1八七•三〇八)

佛教問答"佛教問答錄 ❶(日) Buk-kyō-mon-dō, buk-kyō-tō-mon-sen-roku. (支) Fo-chiao-wên-ta, fo-chiao-ta-wên-hsüan-lu. ❷1冊 ❸存 ❹[illegible]

佛教より觀たる氏族主義 ❶(日) Buk-kyō-yo-ri-mi-ta-ru-mim-pon-shu-gi. ❷1冊 ❸存 ❹今村榮隆著 ❺大正四刊(帝大"11〇九九•11111六)大正七刊(帝大"1〇九•1四四)(文奇)(冷大"1•11六三•1〇)(文大"B1111•11六)

佛教より觀たる西藏の王權 ❶(日)Buk-kyō-yo-ri-mi-ta-ru-yō-rei-no-shō-tai. ❷1冊 ❸存 ❹藤澤性天著 ❺昭和六刊 ❻東京中央田版社

佛教要義 ❶(日)Buk-kyō-yō-gi. 梅谷慶紀佛教要義 ❷1冊 ❸存 ❹長藤龍雄著 ❺明治三八刊(帝國"三1九•1六〇) 明治四〇刊(帝大"1•11〇)

佛教要義 ❶(日)Buk-kyō-yō-gi. ❷三冊 ❸存 ❹福谷大學編 ❺昭和三刊 ❻東京福谷大學出版部

佛教要義と文學 ❶(日) Buk-kyō-yō-gi-to-bun-gaku. ❷1冊 ❸存 ❹藤田慶雄(安政四—昭和元 A. D. 1857—1930)著 ❺明治四1刊 ❻(冷大"卷廿•11111六)(帝大"11五九•六1)(帝大"1〇九•五八)(文大"B1八•四八)

佛教要觀 ❶(日) Buk-kyō-yō-ran. ❷1卷 ❸存 ❹木谷仁治著 ❺明治111刊 ❻(帝國"三七•1八)

佛教要領 ❶(日) Buk-kyō-yō-ryō. ❷1冊 ❸存 ❹[illegible] ❺明治11三刊(帝大"11五九•六11)明治11八刊(帝大"11五三•四八)

佛教要領 ❶(日) Buk-kyō-yō-ryō. 梅谷慶紀佛教要領 ❷1卷 ❸存 ❹[illegible]

(—大正一二 A. D. 1923)著 ⑤明治二六刊 ⑨(帝國・七〇・一四六)

佛教要論 ❶(日) Butsu-kyō-yō-ron. ❷一冊 ❸存 ❹佐伯法證著 ⑨(京專)

佛教要論 ❶(日) Butsu-kyō-yō-ron. ❷一卷 ❸存 ❹獨ヌブバドラ著、岡田宗惠(文久三—大正一一 A. D. 1863—1922)譯 ⑤明治二四刊 ⑨(帝國・二五・三九〇)

佛教要論 ❶(日) Butsu-kyō-yō-ron. 通俗講話佛教要論 ❷一卷 ❸存 ❹黑田貞洞(—大正五 A. D. 1916)著 ⑤明治四〇刊 ⑨(帝國・三二四・四四)

佛教理科講義 ❶(日) Butsu-kyō-ri-kwa-kō-gi. ❷一卷 ❸存、哲學館講義之內 ❹井上圓了(安政五—大正八 A. D. 1858—1919)述 ⑤明治三〇刊 ⑨(谷大、餘洋・六九〇)(帝國、一四・二二四)

佛教倫理 ❶(日) Butsu-kyō-rin-ri. ❷一卷 ❸存 ❹村上專精(嘉永四—昭和四 A. D. 1851—1929)著 ⑨(谷大、餘洋・七一)

佛教倫理概論 ❶(日) Butsu-kyō-rin-ri-gai-ron. ❷一卷 ❸存 ❹花田凌雲著 ⑨明治三四刊(谷大、餘大・六六三)(龍大、二五九・六三)明治三六刊(高大、一・二〇)

佛教倫理學 ❶(日) Butsu-kyō-rin-ri-gaku. ❷一卷 ❸存、帝國百科全書第一四九編 ❹姉川龍夫著 ⑤明治三九刊 ⑨(正大、一一八〇・五)(京大、一・二〇ヲ・二一)(帝國、七八・三) ⑩東京博文館

佛教倫理道德之源 ❶(日) Butsu-kyō-rin-ri-dō-toku-no-minamoto. ❷一卷 ❸存 ❹法藏館編 ⑤明治三三刊 ⑨(谷大、餘洋・一一八)

佛教倫理の大觀 ❶(日) Butsu-kyō-rin-ri-no-dai-kwan. ❷一卷 ❸存 ❹齋藤唯信著 ⑤明治三六刊 ⑨(谷大、餘洋・一一七)(正大、一一八〇・六)(帝國、八一・八二二) ⑩東京光風館

佛教倫理要旨 ❶(日) Butsu-kyō-rin-ri-yō-shi. ❷一冊 ❸存 ❹鼓仙 ⑨(龍大)

佛教論評 ❶(日) Butsu-kyō-ron-pyō. ❷一卷 ❸存 ❹米ゼームスクラーク著、山崎久太郎譯、石川舜台(天保一二—昭和六 A. D. 1841—1931)評 ⑤明治九刊 ⑨(谷大、餘大・七六四)(正大、一〇七・一三四)(帝國、七・七九) ⑩東京明教社

佛教論文總目錄 ❶(日) Butsu-kyō-ron-bun-sō-moku-roku. ❷一卷 ❸存 ❹佛典研究會編 ⑤昭和六刊 ⑩東京潮書房

佛教論理學 ❶(日) Butsu-kyō-ron-ri-gaku. 佛教論理學因明論 ❷一卷 ❸存、哲學館講義錄之內 ❹村上專精(嘉永四—昭和四 A. D. 1851—1929)著 ⑤明治三〇刊 ⑨(帝國、一四・二二四)(谷大、餘洋・七一)(正大、一一九四・五四)

佛教論理學 ❶(日) Butsu-kyō-ron-ri-gaku. ❷一卷 ❸存 ❹村上專精(嘉永四—昭和四 A. D. 1851—1929)、荒野黃洋(明治四—昭和四 A. D. 1871—1931)共著 ⑤大正七刊 ⑩東京丙午出版社

佛教和讃五百題 ❶(日) Butsu-kyō-wa-san-gō-hyaku-dai. ❷一卷 ❸存 ❹藤井佐兵衛編 ⑤大正五刊 ⑨(龍大、研史)(正大、一〇五・五四)

佛教和讃三百題 ❶(日) Butsu-kyō-wa-san-sam-byaku-dai. ❷三卷 ❸存 ❹伊藤洋次郎 ⑨明治三一刊(谷大、餘洋・九七)明治四一刊(龍大、二〇五三・一四)

佛教和讃全集 ❶(日) Butsu-kyō-wa-san-zen-shū. ❷二冊 ❸存 ❹金澤道人編 ⑨大正三刊(正大、一〇八・一二二)大正五刊(立大、B一八・一) ⑩東京大鳥誠文堂

佛教或問 ❶(日) Butsu-kyō-waku-mon. ❷一卷 ❸存 ❹齋藤閑精(天保一一—明治三七 A. D. 1840—1904)著 ⑨明治二三刊(龍大、一三〇・五三)明治二四刊(谷大、餘洋・一五四)明治三九刊(龍大、研佛)

佛經 ❶(日) Butsu-kyō. (支) Fo-ching. 八部佛名經、八佛經、八佛名經 ❷一卷 ❸存、大正一四・七四No. 439、館黃四、卍一一・七、北501景、南515景、元511景、明北405信、清405信、麗500羊、天510景、指461羊、法491羊、聖454絲、明南510賢、Nj. 410 ❹曇般若流支譯 ⑤元魏興和四(A. D. 542) ⑥八部佛名經の下を見よ。

佛經供養作法 ❶(日) Butsu-kyō-kū-yō-sa-hō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第四〇阿麥縛抄之內 ❹承澄(元久二—弘安五 A. D. 1205—1282)

佛經供養導師次第 ❶(日) Butsu-kyō-kū-yō-dō-shi-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ⑤寶文三寫 ⑨(寶龜院)

佛經供養表白 ❶(日) Butsu-kyō-kū-yō-hyō-byaku. ❸存、續群書類從第二六 ⑩仁和寺眞光院の學僧亮淳(天文六—慶長七 A. D. 1537—1602 十月四日寂)の三十五日忌に當る。慶長七年十一月八日に、其の弟子亮清等が上醍醐光台院道場に於いて經供養をなせし時の表白なり。

佛經供養略作法 ❶(日) Butsu-kyō-kū-yō-ryaku-sa-hō. ❷一卷 ❸存 ❹澄慶(—仁安頃 A. D. 1165—1168—)記 ⑨寫本(絲法院)

佛經釋義 ❶(日) Butsu-kyō-shaku-gi. (支) Fo-ching-shih-i. ❸存 ❹明齊光庚 ⑨日本寫本(內閣)

佛經流通書目 ❶(日) Butsu-kyō-ru-tsū-sho-mo-ku. 北京天津佛經流通書目 ❷一卷 ❸存 ⑨(龍大)

佛說徹十方經 ❶(日) Butsu-kyō-gai-tetsu-jū-pō-kyō. (支) Fo-chi'ing-hai-chie-shih-fang-ching. ❷一卷 ❹失譯 ⑥大集經第二卷の抄出。⑦(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛窟集 ❶(日) Butsu-kutsu-shū. (支) Fo-ku-chi. ❷一卷 ⑦(參考) 智證大師請來目錄

佛窟禪院和尚行狀 ❶(日) Butsu-kutsu-zen-in-o-shō-gyō-jō. (支) Fo-ku-ch'an-yüan-ho-shang-hsing-chuang. ❷一本 ⑦(參考) 智證大師請來目錄

佛窟大師寫眞贊 ❶(日) Butsu-kutsu-dai-shi-sha-shin-san. (支) Fo-ku-ta-shih-hsieh-chên-tsan. ❷一卷 ❹詩珩(一作章衡) ⑦(參考) 智證大師請來目錄

佛果圜悟眞覺禪師心要 ❶(日) Butsu-kwa-en-go-shin-gaku-zen-ji-shin-yō. (支) Fo-kuo-yüan-wu-chên-chüeh-ch'an-shih-hsin-yao. 圜悟禪師心要、佛果克勤禪師心要、圜悟心要 ❷二卷或四卷 ❸存、卍續二・二五・四、國譯禪宗叢書第四 ❹宋圜悟克勤(嘉祐八—紹興五 A. D. 1063—1135)語、子文編 ⑤圜悟禪師心要の下を見よ。 ⑥萬治元刊 ⑨(龍大、二六七二・六四)(京大、續・一七フ・三)(帝國、八二二・四五)

佛果圜悟眞覺禪師心要附解題原文 ❶(日) Butsu-kwa-en-go-shin-gaku-zen-ji-shin-yō-tsuketari-kai-dai-gen-bun. 國譯佛果圜悟眞覺禪師心要附解題原文 ❸存、國譯禪宗叢書第四

佛果圜悟禪師語錄 ❶(日) Butsu-kwa-en-go-zen-ji-go-roku. (支) Fo-kuo-yüan-wu-ch'an-shih-yü-lu. 圜悟佛果禪師語錄、圜悟禪師語錄、圜悟語錄 ❷二十卷或十七卷 ❸存、大正四七・七一三No. 1997、鈴鹿七、卍三一・三—四、明北134・興惠、明南1509扶惠、御選語錄第一〇、Nj. 1531 ❹圜悟克勤(嘉祐八—紹興五 A. D. 1063—1135)語、紹隆等編 ⑥宋紹興四(A. D. 1134) ⑥圜悟佛果禪師語錄の下を見よ。

佛果圜悟禪師碧巖集 ❶(日) Butsu-kwa-en-go-zen-ji-heki-gan-shū. (支) Fo-kuo-yüan-wu-ch'an-shih-pi-yen-chi. 碧巖錄、碧巖集、圜悟禪師碧巖錄、圜悟老人碧巖錄、佛果圜悟禪師碧巖錄 ❷十卷 ❸存、大正四八・一三九No. 2003、卍續二・二二・二、禪學大系祖錄部第二 ❹重顯(太平興國五—皇祐四 A. D. 980—1052)頌古、克勤(嘉祐八—紹興五 A. D. 1063—1135)評唱 ⑤宋淳祐元(A. D. 1241) ⑥碧巖集の下を見よ。

佛果圜悟禪師碧巖錄 ❶(日) Butsu-kwa-en-go-zen-ji-heki-gan-roku. 國譯佛果圜悟禪師碧巖錄 ❸存、國譯禪宗叢書第七

佛果義相義私記 ❶(日) Butsu-kwa-gi-sō-gi-shi-ki. ❷一卷 ❹義犀述 ⑦(參考) 華嚴宗經論章疏目錄

佛果擊節錄 ❶(日) Butsu-kwa-geki-setsu-roku. (支) Fo-kuo-chi-chieh-lu. 擊節錄 ❷二卷 ❸存、卍續二・二二・三 ❹宋重顯(太平興國五—皇祐四 A. D. 980—1052)拈古、克勤(嘉祐八—紹興五 A. D. 1063—1135)評唱 ⑥擊節錄の下を見よ。

佛果擊節錄餘音 ❶(日) Butsu-kwa-geki-setsu-roku-yo-in. 佛果擊節錄餘音 ❷一冊 ❸存 ❹太淳集輯、大樹校訂 ⑨刊本(立大、A五〇・七三)

佛果克勤禪師心要 ❶(日) Butsu-kwa-kokkin-gon-zen-ji-shin-yō. (支) Fo-kuo-k'o-ch'in-ch'an-shih-hsin-yao. 圜悟禪師心要、佛果圜悟眞覺禪師心要、圜悟心要 ❷四卷或二卷 ❸存、卍續二・二五・四、國譯禪宗叢書第四 ❹宋圜悟克勤(嘉祐八—紹興五 A. D. 1063—1135)語、子文編 ⑥圜悟禪師心要の下を見よ。

佛果禪師擊節錄餘音 ❶(日) Butsu-kwa-zen-ji-geki-setsu-roku-yo-in. 佛果擊節錄餘音 ❷一冊 ❸存 ❹太淳集輯、大樹校訂 ⑨刊本(立大、A五〇・七三)

佛冠經 ❶(日) Butsu-kwan-gyō. (支) Fo-kuan-ching. 大乘大方廣佛冠經、大方廣佛冠經 ❷二卷 ❸存、大正一四・一一〇No. 435、館黃四、卍一五・九、北1335綺、南1340淡、元1330淡、明北963清、清963清、麗1305九、天1320淡、聖524絲、明南983松、Nj. 938 ❹法護等譯 ⑤宋景德元—嘉祐三(A. D. 1004—1053) ⑥大乘大方廣佛冠經の下を見よ。

佛觀禪師行狀 ❶(日) Butsu-kwan-zen-ji-gyō-jō. ❷一卷 ❸存、續群書類從第九輯 ❹清田 ⑤應安二(A. D. 1369)十一月一日 ⑥佛觀禪師青山慈永和尚の行狀を錄せるもの。初に俗姓を記し、東福寺に入りて受具し、參宦國師に參じ、後天龍寺、建長寺を重したること、及び遺偈を記し、又前住建長寺山和尚脩撰伏望仰被天恩の文を叙し、且つ六朝の帝王師に就て記載してゐる。(後藤大用)

佛觀禪師語錄 ❶(日) Butsu-kwan-zen-ji-go-roku. ❷一卷 ❸存 ❹青山慈永語 ⑦(參考) 禪籍目錄

佛化火與婆羅門出家經 ❶(日) Butsu-ke-kwa-yo-ba-ra-mon-shuk-ke-kyō. (支) Fo-hua-huo-yü-po-lo-mên-ch'u-chia-ching. ❷一卷 ❹失譯 ⑥雜阿含經第四十二卷の抄出。 ⑦(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛花嚴眼目論 ❶(日) Butsu-ke-gon-gen-moku-ron. (支) Fo-hua-yen-yen-mu-lun. 華嚴眼目論 ❷一卷 ❸缺 ❹唐李通玄(貞觀九—開元一八 A. D. 635—730)述 ⑦(參考) 華嚴宗經論章疏目錄

佛悔過經 ❶(日) Butsu-ke-kwa-kyō. (支) Fo-hui-kuo-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹西晉竺法護(—泰始二—建興元 A. D. 265—313—)譯 ⑦(參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五、武周錄第一二、開元錄第一四、貞元錄第二四

佛裝裝經 ❶(日) Butsu-ke-sō-kyō. (支) Fo-chia-shu-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ⑦(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

佛華嚴入如來德智不思議境界經 ❶(日)Butsu-ke-gon-nyo-rai-toku-chi-fu-shi-gi-kyō-gai-kyō. (支)Fo-hua-yen-ju-ju-lai-te-chih-pu-sze-i-ching-chieh-ching. 佛華嚴入如來不思議境界、華嚴佛境界經、入如來智德經 ❷二卷 ❸存、大正一〇・九一七No. 303、縮天一一、卍八・二、北36伏、南37伏、元22伏、明北37過、清37過、嚴33臣、天37伏、指76臣、法32首、至157率、明南32道、Np. 91 ❹罽那崛多(普通四—開皇二〇A. D. 523—600)譯 ❺隋天嘉二—開皇二〇(A. D. 561—600) ❻經錄に依るに此の經は前後四度翻譯せられ一本を缺いて三本現存してゐる。第一譯は「度諸佛境界智光嚴經」一卷であつて、法經錄及び歷代三寶紀には大乘失譯經としてあるが、仁壽錄及び內典錄には同じやうに梁の曼陀羅、附迦婆羅の共譯となし、更に耆提流支譯の「如來莊嚴智慧光明諸佛境界經」二卷と同本異譯なりとしてある。然るに開元錄に至つては此の記事を誤りとなし、佛華嚴入如來德智不思議境界經と同本となし、之を失譯として秦錄に附すと訂正してゐる。第二譯は「入如來智不思議經」三卷、闍那耶舍譯として歷代三寶紀に始めて出で、開元錄に之を第二出として前揭の經の異譯としてゐるが缺本になつてゐる。第三譯は闍那崛多譯の佛華嚴入如來德智不思議境界經であつて、三寶紀の編輯以後に入藏したものであらう。內典錄に初めて錄せられてゐる。第四譯は「大方廣入如來智德不思議經」一卷、これは八十華嚴の譯者である唐の實叉難陀の譯であつて、開元錄に第四出として之を錄してゐる。

現存三譯を比較するに闍那崛多譯が最も古風で、梵語の音寫も譯語も隋代のものとは思へぬ程古格を存してゐるし、文章も亦信屈聱牙、異譯を參照せねば意の通じ難きものもある。之に比するに秦錄に附せられたる失譯の方は遙かに音譯の用語も新しく、構文亦甚だ流暢であつて、此の兩譯を一讀すれば翻譯時代が前後交錯したかの感を懷かざるを得ない程である。それで闍那崛多の他の譯本、例せば大集經賢護分、虛空孕菩薩經等と參照して見るに、此の經の如く古風の用語は無く、寧ろ羅什以後の洗練せられた譯文であるから、之と比較すると此の經が果して闍那崛多の譯であるか疑はざるを得ない。尤も此の譯は古今譯經圖紀には達摩笈多の譯となし、大周錄には兩人の共譯となしてゐるが、且らく達摩笈多の譯としても、其の所譯である大集經菩薩念佛三昧分等に比するに、此の經は遙かに古調を帶びて同一人の譯とは思はれぬ。要するに此の經は譯語及び構文の上から見ると經錄のいふやうに隋代の翻譯とは考へられない。次に實叉難陀譯と失譯とを比較すると勿論前者は八十華嚴の譯者だけに譯語は圓熟し、文章亦流暢であるが、それだけに後に比して達意的の所がある。從つて此の經は構文多く失譯の方と一致し、唐譯は精簡決になつてゐる。

此の經の內容は、佛、菩光明堂に在りて會座に多くの羅漢の比丘、比丘尼、及び無量の菩薩、不可說の八部衆あり、各其の勝德を列示して讚歎し、文殊菩薩請問し、遙寮諸菩薩、法譯では滅諸菩薩、之に答へて如來の不思議の法を演說し、之を信ずる者は當に種々の三昧陀羅尼を得べく、其の功德の無上なることを明かして一會の說法を終つてゐる。大本の華嚴經には此の德の內容を有する品はないが、初に菩提道場の佛を禮讚する文は離世間品の初と相應し、離圓衆を列擧する點は入法界品に適じ、次の一多相入を說く所は離世間品の初の十種の入を說く所に相當し、更に諸菩薩の名を擧げ八部の衆集を說く所は入法界品の初と一致するといふやうに、一々分解すれば大本の華嚴の何れかに說かれてゐる。恐くは是の如き組織の小部の華嚴經が大本の纏まる以前に行はれたものであらう。不思議境界經と共に大部の華嚴成立に關する一資料として注意すべきである。

❼(參考) 內典錄第五、開元錄第七、貞元錄第一〇 (衛藤卽應)

佛華嚴入如來德智不思議境界經 ❶(日)Butsu-ke-gon-nyo-nyo-rai-toku-chi-fu-shi-gi-kyō-gai-kyō. 國譯佛華嚴入如來德智不思議境界經 ❷二卷 ❸存、國譯一切經華嚴部第四 ❹衛藤卽應譯

佛華嚴入如來不思議境界 ❶(日)Butsu-ke-gon-nyo-nyo-rai-fu-shi-gi-kyō-gai. (支)Fo-hua-yen-ju-ju-lai-pu-sze-i-ching-chieh. 佛華嚴入如來德智不思議境界經、入如來智德經 ❷二卷 ❸存、大正一〇・九一七No. 303、縮天一一、卍八・二、北26伏、南37伏、元32伏、明北37過、清37過、嚴33臣、天37伏、指76臣、法32首、至157率、明南32道、Np. 91 ❹罽那崛多(普通四—開皇二〇(A. D. 523—600)譯 ❺隋天嘉二—開皇二〇(A. D. 561—600) ❻(參考) 華嚴宗經論章疏目錄

佛牙舍利緣起 ❶(日)Butsu-ge-sha-ri-en-gi. ❷一冊 ❸存 ❹(哲、あ・一・左・二二)

佛牙舍利記 ❶(日)Butsu-ge-sha-ri-ki. ❷一卷 ❸存、新校群書類從第一九 ❺應安七(A. D. 1374) ❻本書は淳實朝が宋の能仁寺から我國に佛牙舍利を勸請したことの顚末を記したものである。初めに印度支那の諸經書の文を引いて佛牙舍利の由來を說き、次いで建保四年實朝が夢に宋に渡つて能仁寺の長老道宣律師に見えたことから、使を彼地に遣はして佛牙舍利を借請けて鎌倉の大慈寺に安置し、毎年十月十五日を以てその供養會の日と定めた旨を叙してゐる。後この舍利は圓覺寺の舍利殿に遷され、後光嚴法皇の時勅旨に依つて一度び宮中に歛納されたが應安七年(A. D. 1374)正月十七日再び圓覺寺に下賜されたものであるといふ。本書は卽ち此の時(應安七)に成るもので圓覺寺の住侶某の筆錄にかゝる。 (不破幹雄)

佛解 ❶(日)Butsu-ge. (支)Fo-chieh. ❸存、禮儿叢書第二集第九冊 ❹清畢熙撰 ❾(帝國、一七八・二)

佛見牧牛者示道經 ❶(日)Butsu-kem-boku-go-sha-ji-do-kyō. (支)Fo-chien-mu-niu-che-shih-tao-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❺雜阿含經第三十八卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、內典錄第一、武周錄第一一、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛見梵天頂經 ❶(日)Butsu-ken-bon-ten-chō-kyō. (支)Fo-chien-fan-tien-ding-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❺雜阿含經第四十四卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛眼 ❶(日)Butsu-gen. ❸存、大日本佛敎全書第三七阿娑縛抄第三之內 ❹承澄(元久二—弘安五A. D. 1205—1282)

佛眼 ❶(日)Butsu-gen. 佛眼初度 ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第三七阿娑縛抄第三之內 ❹承澄(元久二—弘安五A. D. 1205—1282)

佛眼 ❶(日)Butsu-gen. 佛眼第二度 ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第三七阿娑縛抄第三之內 ❹承澄(元久二—弘安五A. D. 1205—1282)

佛眼 ❶(日)Butsu-gen. ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第四五曼禪鈔第一之內 ❹曼禪(康治二—建曆二以後A. D. 1143—1212—)

佛眼遠禪師語要 ❶(日)Butsu-gen-on-zen-ji-go-yō. (支)Fo-yen-yüan-ch'an-shih-yü-yao. ❸存、卍續二・二三・五續古尊宿語要第三 ❹宋清遠(治平四—宣和二A. D. 1067—1120)語 ❺本書は別項の佛眼清遠禪師の語錄中より其の語要を拔錄したもので、初住の舒州天寧寺(報恩光孝寺)に於ける上堂より和州褒禪寺に於ける上堂までを收めて居る。その語要に云く「十方世界龍門寺、大地山河是れ學徒、衆緣に隨順して解脫を成ず、算し來れば全く工夫を費さず」と亦云く「悟時は此の事元來易し、迷後は斯門實に大難、虛虛妄妄揚馬を繫に堪へたり、家家の門口長安に透る」と。正しい見處であり平明なる垂示であると云ふべきであらう。

❼明治四二刊 ❾(駒大) (大久保堅璋)

佛眼儀軌 ❶(日)Butsu-gen gi-ki. (支)Fo-yen-i-kuei. 大毘盧遮那佛眼修行儀軌、佛眼修行儀軌 ❷一卷 ❸存、大正一九・四一一No. 931、縮餘一、卍續二・九・三、祕密儀軌集第一三之內 ❹唐一行(弘道元—開元一五A. D. 683—727)述 ❺大毘盧遮那佛眼修行儀軌の下を見よ。

佛眼、金輪、大佛頂、五大虛空藏、文殊 ❶(日)Butsu-gen, kin-rin, dai-butsu-chō, go-dai-ko-kū-zō, mon-ju. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

佛眼口決 ❶(日)Butsu-gen-ku-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹良祐記 ❾寫本(南溪藏)

佛眼五祕密二十箇法 ❶(日)Butsu-gen-go-hi-mitsu-ni-jū-ka-hō. ❷一軸 ❸存 ❺南北朝時代寫 ❾(寶善提院)

佛眼護摩 ❶(日)Butsu-gen-go-ma. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❾(寶善提院)

佛眼私記 ❶(日)Butsu-gen-shi-ki. ❷三卷 ❸存 ❹運海述 ❾建武三寫(無動寺)

佛眼私記 ❶(日)Butsu-gen-shi-ki. 佛眼略私記 ❷一卷 ❸存 ❹皇慶述 ❾寫本(南溪藏)

佛眼修行儀軌 ❶(日)Butsu-gen-shu-gyō-gi-ki. (支)Fo-yen-hsiu-hsing-i-kuei. 大毘盧遮那佛眼修行儀軌、佛眼儀軌 ❷一卷 ❸存、大正一九・四一一No. 931、縮餘一、卍續二・九・三、祕密儀軌集第一三之內 ❹唐一行(弘道元—開元一五A. D. 683—727)述 ❺大毘盧遮那佛眼修行儀軌の下を見よ。

佛眼初行記 ❶(日)Butsu-gen-shu-gyō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹玄玄記 ❾寫本(曼殊院)

佛眼清遠禪師語錄 ❶(日)Butsu-gen-shō-on-zen-ji-go-roku. (支)Fo-yen-ch'ing-yüan-ch'an-shih-yü-lu. ❸存、卍續二・二三・三古尊宿語錄卷二七—三四 ❹宋清遠(治平四—宣和二A. D. 1067—1120)語 ❺五眼法演禪師門下の三佛として啓崇された南岳下十四世、舒州龍門山佛眼清遠禪師の語要を其の法嗣である江西南安府南康縣雲居寺高庵寂悟和尙が輯錄したもので、初住の舒州天寧寺(崇寧萬壽寺、報恩光孝寺)の開堂語を始めとして龍門山和州褒禪寺などに於ける上堂語要、偈頌、贊、賦、小參、普說、頌古、室中垂示、垂代、示禪人心要、三自省察、諸問語等の語要を收めたもので、宋徽宗宣和七年八月上休日馮縝の序、豫章の徐俯の序、宣和三年正月清遠の道友である李彌遜の撰に成る「宋故和州褒山佛眼禪師塔銘」を附したものである。

清遠は佛眼と號し、臨邛(四川邛州)の李氏に生れ、筠州黃檗山に於て黃龍慧南の法嗣である眞覺惟勝に參じ、舒州太平山に五祖法演の接得を受け、海會寺に於て傳燈錄を讀み破蘆隨の因緣に大悟し、舒州天寧寺に開堂し、龍門山に演法十二年、徽宗宣政和八年九月動命によつて和州褒禪寺に移り、病みて蔣山の東堂に退隱し、宣和二年冬至前一日(A. D. 1120)壽五十四を以て順世したものであるから、本書は其の一代の語要を輯錄したものと云ふ可きである。

其の所說の主眼は徐俯の序に、(徐俯は是の語錄を以て侍者道昕の錄す所と云ふ)「所謂佛語心爲宗。無門爲法門也。單傳直指者也。……直而不迂。其禪師之言乎。明而不昧。其禪師之道乎。觀其反覆丁寧、輸誠苦口。斯亦勤矣。……夫禪師之說。寔無說無示也。」云々と述べて居るのは、誠によく評し得たるものと云ふべきである。 (大久保堅璋)

佛眼禪師錄 ❶(日)Butsu-gen-zen-ji-roku. (支)Fo-yen-ch'an-shih-lu. 無門慧開禪師語錄 ❷二卷或三卷 ❸存、卍續二・二五・三 ❹宋無門慧開語、普敬等編 ❺無門慧開禪師語錄の下を見よ。

佛眼塔銘幷記 ❶(日)Butsu-gen-tō-yō-hei-ki. (支)Fo-yen-ta-yang-ping-chi. ❷一卷 ❼(參考) 入唐新求聖敎目錄

佛眼祕記 ❶(日)Butsu-gen-hi-ki. 佛眼祕記第三度 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第三七阿娑縛抄第三之内

佛眼表白 ❶(日)Butsu-gen-hyō-byaku. ❷一紙 ❸存 ❺南北朝時代寫 ❹(寶善提院)

佛眼部母曼荼羅要集 ❶(日)Butsu-gen-bu-mo-man-da-ra-yō-shō. ❷一卷 ❹圓珍(弘仁五—寛平三 A. D. 814—891) ❺大日本佛教全書第二七智證大師全集第三所收の「佛母曼拏羅念誦要法集」のことか。 ❼(參考) 本朝台觀撰述密部書目 Butsu-mo-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❹(寶龜院)

佛眼佛母要法通用 ❶(日)Butsu-gen-butsu-mo-yō-hō-tsū-yō. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶龜院)

佛眼法 ❶(日)Butsu-gen-hō. ❷一帖 ❸存 ❺平安朝末期寫 ❹(寶善提院)

佛眼法 ❶(日)Butsu-gen-hō. ❷一軸 ❸存 ❺鎌倉時代寫 ❹(寶善提院)

佛眼法 ❶(日)Butsu-gen-hō. ❷一卷 ❸存 ❺應安四寫 ❹(金剛三昧院)

佛眼曼荼羅 ❶(日)Butsu-gen-man-da-ra. 佛眼曼荼羅種子 ❷一紙 ❸存、大正圖像第五 ❹(石山寺)〈敕王護國寺〉(仁和寺)

佛眼要祕鈔 ❶(日)Butsu-gen-yō-hi-shō. ❷一冊 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶龜院)

佛眼略私記 ❶(日)Butsu-gen-ryaku-shi-ki. ❷一卷 ❸存 ❹玄殷記 ❺文明四寫 ❹(曼殊院)

佛源禪師語錄 ❶(日)Butsu-gen-zen-ji-go-roku. 大休和尚語錄、大休念禪師語錄、藏六錄 ❷七卷或四卷 ❸存、大日本佛教全書第九六 ❹大休正念、建保三—正應二(A. D. 1215—1289)語、志淳等編 ❺大休和尚語錄の下を見よ。 ❼(參考) 扶桑禪林書目

佛古禪師語錄 ❶(日)Buk-ko-zen-ji-go-roku. (支)Fo-ku-ch'an-shih-yü-lu. ❷一冊 ❸存 ❹清行聞、趙貧等編 ❼(參考) 禪籍目錄

佛居士經 ❶(日)Butsu-ko-ji-kyō. (支)Fo-chü-shih-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

佛五百弟子自說本起經 ❶(日)Butsu-go-hyaku-de-shi-ji-setsu-hon-gi-kyō. (支)Fo-wu-pai-ti-tzü-tzü-shuo-pen-chi-ching. 五百弟子自說本起經、五百弟子說本末經、五百弟子自說本末經、五百弟子本起經、本起經 ❷一卷 ❸存、大正四・一九〇 No. 199、鳩摩羅什、卍一五・一、北涼玄始元—三年(A. D. 412—414)譯、北涼玄始元—三年(A. D. 412—414)譯、北涼玄始元—三年(A. D. 412—414)譯

(巻末)綾道碩隆並に其の法嗣である幹緣比丘の自禮とが訂補加點して壽梓する旨の享保十一年五月三日(A.D.1726)の跋文及び同年九月三日幹緣比丘自禮の記した助緣者一千八百七十八員(捐貲二十六貫三百四十銅)の名簿を揭げて居る。

佛光國師、諱圓元、字子元號無學と云ひ宋の明州慶元府の許氏に生れ、北磵居簡に得度し、徑山の無準師範"雪竇の石溪心月、育王の偃溪廣聞、靈峰庵の虛堂智愚、並に物初大觀等の諸尊宿に歷叢し、温州能仁寺に於て元兵の斬首に遇はんとするや有名なる「乾坤無地卓孤筇、喜得人空法亦空、珍重大元三尺劍、電光影裏斬春風。」の偈を唱へたと云ふ。後、北條時宗に請ぜられて弘安三年六月三十日來朝して太宰府に着し、建長に住し圓覺を開創し、時宗を接得して弘安九年九月三日(A.D.1286)壽六十一、夏四十九を以て順世されたもので、綾盤にして卓越せる其の禪風は全巻に溢れて居る。

❷(巻末)扶桑禪林書目 ❹享保一〇刊(京大・蓮・一七ヲ・六)

佛光國師語錄 ❶(日)Butsu-kō-koku-shi-go-roku. 國譯佛光國師語錄 ❷存、國譯禪宗叢書第二輯巻二之內

佛光國師語錄附行狀、年譜、塔銘 ❶(日)Butsu-kō-koku-shi-go-roku-tsuketari-gyō-jō, nen-pu, tō-mei. ❷五冊 ❸存 ❹無學祖元(嘉祿二—弘安九A.D.1226—1286)語、一眞等編 ❺享保二刊 ❻(京國、一七〇・八)

佛光略論 ❶(日)Butsu-kō-ryaku-ron. ❷一冊 ❸存 ❹提宗慧全 ❺元祿八刊 ❻(龍大、二〇九九・一二六)

佛告舍日經 ❶(日) Butsu-yō-shā-nichi-kyō. (支)Fo-kao-she-yo-ne-ching. ❷一巻 ❸存 ❹失譯 ❺(巻考) 出三藏記第三、法經錄第三、仁壽錄第五、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二四

佛降央崛摩羅人民歡喜經 ❶(日)Butsu-gō-ō-kutsu-ma-ra-nin-min-kwan-gi-kyō. (支)Fo-hsiang-yang-chieh-mo-lo-jen-min-huan-hsi-ching. ❷一巻 ❹失譯 ❺央崛摩羅經第四卷の抄出 ❻(巻考) 出三藏記第四、法經錄第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛號總別義 ❶(日)Butsu-gō-sō-betsu-gi. ❷一巻 ❸存 ❹法欽 ❺寶曆一三刊 ❻(龍大、二六八四・一四六)(正大、一五二・一七)

佛國應供廣濟國師行錄 ❶(日) Bok-koku-ō-gu-kō-ani-kō-shi-gyō-roku. 佛國々師行錄、前住相模州五福山建長興國禪寺勅諡佛國應供廣濟國師行錄 ❷一巻 ❸存、擬群書類從第九輯 ❹妙郁 ❺正長元(A.D.1428)

❻具名を前住相模州五福山建長興國禪寺勅諡佛國應供廣濟國師行錄と云ふ。即ち高峯顯日の行道を錄したるものである。先づ後嵯峨天皇の皇子たる師の誕生瑞兆を記し、入道の因緣、禪一、元菴の門に掛塔せしこと、供良田長樂寺の佛光禪師との問話、夢窓國師に對する示誡、遺偈等を錄し、最後に應仁元年周顒の記せる跋文を載せてゐる。佛國國師語錄、佛國禪師家集標注、佛國々師和歌集等參照。 (後藤大用)

佛國應供廣濟國師語錄 ❶(日) Bok-koku-ō-gu-kō-sai-kō-shi-go-roku. 佛國禪師語錄、佛國國師語錄 ❷二巻 ❸存、大正八〇・二五七No.2351、禪學大系祖錄部第五 ❹高峰顯日(仁治二—正和五A.D.1241—1316)語、侍者妙環、玄仁、妙康等編 ❺佛國禪師語錄の下を見よ。

❺享保一一刊 ❻(駒大)

佛光三昧觀祕寶藏 ❶(日)Bok-kō-zam-mai-kwan-hi-hō-zō. (支)Fo-kuang-san-mei-kuan-pi-pao-tsang. 華嚴佛光三昧觀祕寶藏、華嚴佛光三昧 ❷二巻 ❸存 大正七二・八七No.2332、日本大藏經第三八華嚴宗章疏卷下、大日本佛教全書第一三華嚴小部集之內 ❹高辨(承安三—貞永元A.D.1173—1233)說貞永元、年六一寂) ❺承久三(A.D.1221) ❻華嚴佛光三昧觀祕寶藏の下を見よ。

佛光寺繪詞傳著聞鈔 ❶(日) Bok-kō-ji-e-shi-den-cho-mon-shō. 田舍本傳異本著聞鈔 ❷五卷 ❸存 ❹玄貞(—寶永二A.D.1705—) ❺延寶六刊 ❻(谷大、宗大・一一三五)(龍大、一九六一・九一)

佛光寺緣起 ❶(日)Bok-kō-ji-en-gi. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(谷大、聚冬・一六)

佛光寺御文 ❶(日)Bok-kō-ji-o-fumi. ❷二十三通 ❸存 ❺天保一二寫 ❻(谷大、宗大・一一三〇)

佛光寺御書 ❶(日) Bok-kō-ji-go-sho. ❸存、新撰眞宗聚典之內

❻御書は眞宗佛光寺派本山佛光寺の歷代の宗主より門弟に附與せられた御消息を集輯せられたものである。御書は「古御書」第一帖(二十九通)と「新御書」第二帖(二十四通)第三帖(二十五通)から成立してゐる。而して古御書は第拾九世隱庵上人の作であり、又新御書は第二十世隱如上人の作を集めたものである。後代、これら三帖の外に第四帖(十二通)第五帖(二十四通)を追加してゐる。

❺大正一二刊 ❻(龍大、一〇三・二二・一一四四・五)

佛光寺御門跡靈寶略讃 ❶(日) Bok-kō-ji-go-mon-seki-rei-hō-ryaku-san. ❷一巻 ❸存 ❹刊本(谷大、宗大・四〇四九)(龍大) (木下靖夫)

佛光寺小部集 ❶(日) Bok-kō-ji-shō-bu-shū. ❷一冊 ❸存 ❹大谷大學佛教史學會編 ❺大正一二刊 ❻(谷大、宗大・三二九二)(龍大、一〇三・五一)(京大、一・二六ヲ・一六)(立大、A四〇・八九)(帝室、一一八・六七)

佛光寺造立奉加帳 ❶(日)Bok-kō-ji-zō-ryū-hō-ga-chō. ❷一巻 ❸存 ❹寫本(龍大)

佛光寺存海殯送之記 ❶(日)Bok-kō-ji-zon-kai-hin-sō-no-ki. ❷一冊 ❸存 ❺元和四寫 ❻(龍大、別置)

佛光寺大略之記錄 ❶(日)Bok-kō-ji-tai-ryaku-no-ki-roku. ❷一巻 ❸存 ❺大正六寫 ❻(谷大、宗大・一五九四)

佛光寺中興了源上人傳 ❶(日) Bok-kō-ji-chū-kō-ryō-gen-shō-nin-den. ❷一巻 ❸存、眞宗全書第六八 ❹唯了

❺眞宗佛光寺派第四代了海の三男空性は聰明俊敏にして、明光の法燈承けて第七代を繼ぎ了源と稱す。この在時、足利尊氏廣大なる境地を寄せ、且つその兩堂の建立を扶け、其の成るに及んで新願所とす。宗風大いに振興し、了源の德一世を風靡す。嘉曆二年後醍醐天皇本堂の奇瑞によつて興正寺の寺號を改めて佛光寺と勅許せらる。本書は上人を讃仰すると共に本堂の靈德、宗翰の眞傳などを傳へたものである。 (木下靖夫)

佛光寺法則 ❶(日) Bok-kō-ji-hō-soku. 淨土眞宗佛光寺法則 ❷一巻 ❸存 ❹寫本(龍大、一〇六・三一)

佛光寺法脈相承系譜 ❶(日) Bok-kō-ji-hō-myaku-sō-jō-kei-fu. ❷一冊 ❸存 ❹寫本(龍大、一九三・一五)

佛光寺名所圖繪 ❶(日)Bok-kō-ji-mei-sho-zu-e. ❷一巻 ❸存 ❹石倉重繼著 ❺明治三五刊 ❻(京大、一・二二ヲ・二)(立大、B一六・九一)(龍大、一九四・一一)×谷大、宗津・五八九)×帝國、七八・一六)

佛光禪師語錄 ❶(日) Bok-kō-zen-ji-go-roku. 佛光國師語錄、佛光圓滿常照國師語錄、圓滿常照國師語錄、佛光和尙語錄、佛光錄 ❷十卷 ❸存、大正八〇・一二九No.2348、大日本佛教全書第九五、禪學大系祖錄部第四 ❹無學祖元(嘉祿二—弘安九A.D.1226—1286)語、一眞等編 ❺佛光國師語錄の下を見よ。 ❻寬文四刊 ❼(帝國、八二一・一三一)

佛光禪師塔銘 ❶(日)Bok-kō-zen-ji-tō-mei. ❷一巻 ❸存、佛光國師語錄第一〇(大正八〇・二四三No.3349)擬群書類從第九 ❹福保斯 ❺元泰定三(A.D.1325)

❻佛法中國に入つてより吳越の間に賽へたるに、師獨り佛法を擧揚せしこと、夜四更に廊廡の叛響を聞いて大悟せしこと、慈濟の

初に元兵の白刃下にあつて神色變ぜず、乾坤無地卓孤筇、喜得人空法亦空、珍重大元三尺劍、電光影裏斬春風の偈を唱へたること、正元己卯夏來朝して建長寺に住したること、及び其の年壽法臘を記してゐる。また最後に四言二十四句の偈を揭げ其の德を讃してゐる。 (後藤大用)

佛光年譜 ❶(日) Bok-kō-nen-pu. 佛光國師年譜 ❸存、佛光國師語錄第一〇(大正八〇・二四三No.2349)之內 ❷(巻考) 日本禪林撰述書目

佛光錄 ❶(日)Bok-kō-roku. 佛光國師語錄、佛光圓滿常照國師語錄、圓滿常照國師語錄、佛光禪師語錄、佛光和尙語錄 ❷十卷 ❸存、大正八〇・一二九No.2349、大日本佛教全書第九五、禪學大系祖錄部第四 ❹無學祖元(嘉祿二—弘安九A.D.1226—1286)語、一眞等編 ❺佛光國師語錄の下を見よ。

❻具名を前住相模州五福山建長興國禪寺勅諡佛國應供廣濟國師行錄と云ふ。即ち高峯顯日の行道を錄したるものである。先づ後嵯峨天皇の皇子たる師の誕生瑞兆を記し、入道の因緣、禪一、元菴の門に掛塔せしこと、供良田長樂寺の佛光禪師との問話、夢窓國師に對する示誡、遺偈等を錄し、最後に應仁元年周顒の記せる跋文を載せてゐる。佛國國師語錄、佛國禪師家集標注、佛國々師和歌集等參照。 (後藤大用)

佛國記 ❶(日)Bok-koku-ki. (支)Fo-kuo-chi. 高僧法顯傳、法顯傳、歷遊天竺記傳、法顯法師傳 ❷一巻、❸存、大正五一・八五七No.2085、續地六、卍三〇・五、北1075通、南1091通、元1056通、明北1149戮、清1463書、履1080廣、天1074通、指1033廣、法1063內、至1531義、明南1469長、N.J.1496、學津討原第七・七、說郛第九九、津逮秘書第一四七、五朝小說第四 ❹法顯記

❺東晉弘始二—義熙一四(A.D.399—418)

❻高僧法顯傳の下を見よ。

佛國考證 ❶(日) Bok-kokū-kō-shō. ❷一冊 ❸存 ❹(晉・ら・四、左、三一)

佛國高泉禪師語錄 ❶(日) Bok-kokū-kō-sen-zen-ji-go-roku. ❷二十四巻 ❸存 ❹高泉性潡(寬永一〇—元祿八A.D.1633—1695)語、道清等編 ❺(巻考) 禪籍目錄

佛國國師行錄 ❶(日) Bok-kokū-kō-shi-gyō-roku. 佛國應供廣濟國師行錄、前住相模州五福山建長興國禪寺勅諡佛國應供廣濟國師行錄 ❷一巻 ❸存、擬群書類從第九 ❹叔京妙郁 ❺正長元(A.D.1428) ❻佛國應供廣濟國師行錄の下を見よ。

佛國國師語錄 ❶(日) Bok-kokū-kō-shi-go-roku. 佛國禪師語錄、佛國應供廣濟國師語錄 ❷二巻 ❸存、大正八〇・二五七No.2351、禪學大系祖錄部第五 ❹高峯顯日(仁治二—正和五A.D.1241—1316)語、侍者妙環、玄仁、妙康等編 ❺佛國禪師語錄の下を見よ。

佛國國師和歌集 ❶(日) Bok-kokū-kō-shi-wa-ka-shū. ❷一冊 ❸存、國文東方佛教叢書第一輯八巻歌頌部

❻佛國國師高峯顯日は、後嵯峨帝の皇子であつて、十六歲東福寺聖一に從つて落髮次で受具、行業純一の聞あり一日作務の次で誤つて瓶鋸を踏つ、問ふて曰く、"瓶鋸斬つて兩斷となし兩頭共に捨て、未奉し佛性那頭にか在りや。"聖一答へて曰く、"須彌高からず大海また深からず"と顯日省所あり、次で元菴に建長寺に參じ、那須雲巖寺を創して請ずるに應じて開山祖となる、次で佛光子元祖元に參じ、遂に禪の堂奧を窮め淨妙寺、萬壽寺、淨智寺に住す。後に北條貞時に請ぜられて建長寺に轉じ正和五年寂す、本歌集は平生讀みすてられたるものを鉢雲明魏編集せるものなりと云ふ、或は歌外別傳或は本來成佛の旨を讀み、或は學人接化の爲め、或は山中四時の變遷に心想を寄せて讀めるありて高風偲ばる、歌集中貞時との關係を示すもの二首あり。 (林信蛮)

佛國詩解 ❶(日)Bok-kokū-shi-ge. ❷三冊 ❸存 ❹(京專)

佛國寺古今繼創記 ❶(日) Bok-kokū-ji-ko-kon-kei-sō-ki. ❷二巻 ❸存 ❹寫本(京大、蔵・二〇ヲ・二)

佛國寺事蹟 ❶(日) Bok-kokū-ji-jiseki. ❷二巻 ❸存 ❹高麗一然撰、木村靜雄編 ❺大正六刊 ❻(京大、一・二二ヲ・三)

佛國寺歷代記 ❶(日)Bok-kokū-ji-reki-dai-ki. ❷一巻 ❸存 ❹朝鮮歸歷著

❻〔考〕 即新撰仏教聖典用行表文書Ⅱ

佛國法華經鈔 ❶(日) Buk-koku-shō-gon-ron. (支) Fo-kuo-chuang-yen-lun. ❷1卷 ❸佚 ❹天平宝字三年(唐代宗大曆元年—同代宗大曆三年)A. D. 996—〇〇 ❺〔考〕 西宗寺沙門慧澄撰Ⅱ

佛國藏版字義集註 ❶(日) Buk-koku-zen-ji-ka-shū-hyō-chū. ❷1帖 ❸存 ❹高倉時代(仁治Ⅱ—正和元A. D. 1241—1316)前〜鎌倉時代末期頃 ❺文化六刊 ❻(原大〜日大字・四七五)

佛國藏版語錄 ❶(日) Buk-koku-zen-ji-go-roku. ❷1卷 ❸存〜大正八〇・Ⅱ五七No. 2551 鎌倉時代末期頃撰 ❹高倉時代(仁治Ⅱ—正和元A. D. 1241—1316)前〜中期頃 ❺〔考〕 ❶佛國寺(慶州)山中の天然岩窟に安置された石造の釈迦如来像を中心とする石造物群の名称。佛國寺は新羅時代の創建で、高麗時代に再建されたものであるが、現在の伽藍は李朝時代の再建である。❷佛國寺の本尊は、高麗時代の作と伝える木造の釈迦如来像であるが、この石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。❸佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。❹佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。❺佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。❻佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。❼佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。❽佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。❾佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。❿佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。⓫佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。⓬佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。⓭佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。⓮佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。⓯佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。⓰佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。⓱佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。⓲佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。⓳佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。⓴佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㉑佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㉒佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㉓佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㉔佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㉕佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㉖佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㉗佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㉘佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㉙佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㉚佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㉛佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㉜佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㉝佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㉞佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㉟佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㊱佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㊲佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㊳佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㊴佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㊵佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㊶佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㊷佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㊸佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㊹佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㊺佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㊻佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㊼佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㊽佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㊾佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。㊿佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(51)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(52)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(53)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(54)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(55)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(56)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(57)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(58)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(59)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(60)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(61)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(62)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(63)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(64)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(65)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(66)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(67)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(68)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(69)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(70)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(71)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(72)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(73)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(74)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(75)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(76)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(77)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(78)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(79)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(80)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(81)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(82)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(83)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(84)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(85)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(86)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(87)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(88)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(89)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(90)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(91)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(92)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(93)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(94)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(95)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(96)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(97)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(98)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(99)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(100)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(101)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(102)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(103)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(104)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(105)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(106)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(107)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(108)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(109)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(110)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(111)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(112)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(113)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(114)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(115)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(116)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(117)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(118)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(119)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(120)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(121)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(122)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(123)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(124)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(125)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(126)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(127)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(128)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(129)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(130)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(131)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(132)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(133)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(134)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(135)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(136)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(137)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(138)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(139)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(140)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(141)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(142)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(143)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(144)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(145)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(146)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(147)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(148)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(149)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(150)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(151)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(152)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(153)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(154)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(155)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(156)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(157)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(158)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(159)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(160)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(161)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(162)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(163)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(164)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(165)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(166)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(167)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(168)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(169)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(170)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(171)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(172)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(173)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(174)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(175)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(176)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(177)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(178)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(179)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(180)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(181)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(182)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(183)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(184)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(185)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(186)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(187)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(188)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(189)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(190)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(191)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(192)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(193)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(194)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(195)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(196)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(197)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(198)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(199)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(200)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(201)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(202)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(203)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(204)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(205)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(206)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(207)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(208)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(209)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(210)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(211)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(212)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(213)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(214)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(215)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(216)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(217)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(218)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(219)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(220)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(221)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(222)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(223)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(224)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(225)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(226)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(227)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(228)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(229)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(230)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(231)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(232)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(233)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(234)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(235)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(236)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(237)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(238)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(239)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(240)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(241)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(242)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(243)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(244)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(245)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(246)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(247)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(248)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(249)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(250)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(251)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(252)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(253)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(254)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(255)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(256)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(257)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(258)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(259)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(260)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(261)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(262)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(263)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(264)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(265)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(266)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(267)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(268)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(269)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(270)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(271)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(272)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(273)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(274)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(275)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(276)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(277)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(278)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(279)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(280)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(281)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(282)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(283)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(284)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(285)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(286)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(287)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(288)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(289)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(290)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(291)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(292)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(293)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(294)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(295)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(296)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(297)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(298)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(299)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(300)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(301)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(302)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(303)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(304)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(305)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(306)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(307)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(308)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(309)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(310)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(311)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(312)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(313)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(314)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(315)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(316)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(317)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(318)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(319)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(320)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(321)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(322)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(323)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(324)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(325)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(326)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(327)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(328)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(329)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(330)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(331)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(332)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(333)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(334)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(335)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(336)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(337)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(338)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(339)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(340)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(341)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(342)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(343)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(344)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(345)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(346)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(347)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(348)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(349)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(350)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(351)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(352)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(353)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(354)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(355)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(356)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(357)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(358)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(359)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(360)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(361)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(362)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(363)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(364)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(365)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(366)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(367)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(368)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(369)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(370)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(371)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(372)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(373)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(374)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(375)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(376)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(377)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(378)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(379)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(380)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(381)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(382)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(383)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(384)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(385)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(386)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(387)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(388)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(389)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(390)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(391)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(392)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(393)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(394)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(395)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(396)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(397)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(398)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(399)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(400)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(401)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(402)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(403)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(404)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(405)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(406)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(407)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(408)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(409)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(410)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(411)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(412)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(413)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(414)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(415)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(416)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(417)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(418)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(419)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(420)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(421)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(422)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(423)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(424)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(425)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(426)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(427)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(428)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(429)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(430)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(431)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(432)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(433)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(434)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(435)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(436)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(437)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(438)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(439)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(440)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(441)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(442)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(443)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(444)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(445)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(446)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(447)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(448)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(449)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(450)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(451)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(452)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(453)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(454)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(455)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(456)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(457)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(458)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(459)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(460)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(461)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(462)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(463)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(464)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(465)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(466)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(467)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(468)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(469)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(470)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(471)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(472)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(473)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(474)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(475)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(476)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(477)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(478)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(479)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(480)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(481)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(482)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(483)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(484)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(485)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(486)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(487)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(488)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(489)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(490)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(491)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(492)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(493)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(494)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(495)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(496)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(497)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(498)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(499)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(500)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(501)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(502)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(503)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(504)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(505)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(506)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(507)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(508)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(509)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(510)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(511)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(512)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(513)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(514)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(515)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(516)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(517)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(518)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(519)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(520)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(521)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(522)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(523)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(524)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(525)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(526)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(527)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(528)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(529)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(530)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(531)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(532)佛國寺の石造物群は、新羅時代の作と伝えられる。(533)佛國寺の石造物群は、新羅時代の

明寺1188番、法1183番、園561番、天564番、部522番、出547番、新1281番、聞寺1312番、Nj. 1195　❹支那(仁安1)—唐乾元A. D. 602—664)僧　❺法相宗1)　❻(仏教)　❼(仏教)　❽(仏教)　❾(仏教)　❿(仏教)　⓫(仏教)　⓬(仏教)　⓭(仏教)　⓮(仏教)　⓯(仏教)　⓰(仏教)　⓱(仏教)　⓲(仏教)　⓳(仏教)　⓴(仏教)　㉑(仏教)　㉒(仏教)　㉓(仏教)　㉔(仏教)　㉕(仏教)　㉖(仏教)　㉗(仏教)　㉘(仏教)　㉙(仏教)　㉚(仏教)　㉛(仏教)　㉜(仏教)　㉝(仏教)　㉞(仏教)　㉟(仏教)　㊱(仏教)　㊲(仏教)　㊳(仏教)　㊴(仏教)　㊵(仏教)　㊶(仏教)　㊷(仏教)　㊸(仏教)　㊹(仏教)　㊺(仏教)　㊻(仏教)　㊼(仏教)　㊽(仏教)　㊾(仏教)　㊿(仏教)

佛我論　❶(巴)Bud-ga-ran. (梵)Fo-ti-lun. 佛教論偈　❷名　❸名　天王1)・天1)・元1)　No. 1530　論考1)　卍1)・天1)　宇558番、市571番、天565番、聞寺1188番、法1188番、園561番、天561番、部522番、出547番、新1281番、聞寺1312番、Nj. 1195　❹支那(仁安1)—唐乾元A. D. 602—664)僧　❺法相宗1)　❻(仏教)　❼(仏教)　❽(仏教)　❾(仏教)　❿(仏教)　⓫(仏教)　⓬(仏教)　⓭(仏教)　⓮(仏教)　⓯(仏教)　⓰(仏教)　⓱(仏教)　⓲(仏教)　⓳(仏教)　⓴(仏教)　㉑(仏教)　㉒(仏教)　㉓(仏教)　㉔(仏教)　㉕(仏教)　㉖(仏教)　㉗(仏教)　㉘(仏教)　㉙(仏教)　㉚(仏教)　㉛(仏教)　㉜(仏教)　㉝(仏教)　㉞(仏教)　㉟(仏教)　㊱(仏教)　㊲(仏教)　㊳(仏教)　㊴(仏教)　㊵(仏教)　㊶(仏教)　㊷(仏教)　㊸(仏教)　㊹(仏教)　㊺(仏教)　㊻(仏教)　㊼(仏教)　㊽(仏教)　㊾(仏教)　㊿(仏教)

佛我論釋論記　❶(巴)Bud-ga-ran-ldan-ma-ma-ldan-ma-ma-ldan-ma-ma

(品數)	(梵本)	(漢譯)	(西藏譯)
1.	Bhagavatprasūti (世尊の降誕)	生	童子誕生
2.	Antaḥpuravihāra (宮廷生活)	處宮	住王妃侍中
3.	Saṁvegotpatti (悲嘆の發生)	厭患	憂心生
4.	Strīvighātana (婦人の障碍)	離欲	婦人障碍
5.	Abhiniṣkramaṇa (出家)	出城	外出
6.	Chandakanivartana (車匿の歸還)	車匿還	犍陀迦還退
7.	Tapovanaprawveśa (入苦行林)	入苦行林	入苦行林
8.	Antaḥpuravilāpa (內宮の悲歎)	合宮憂悲	王族眷屬悲歎
9.	Kumārānveṣaṇa (太子推求)	推求太子	陰求青年
10.	Śreṇyābhigamaṇa (頻沙王の來詣)	頻沙王詣太子	頻沙王詣太子
11.	Kāmavigarhaṇa (愛慾の非難)	答頻沙王	答請頻沙王
12.	Arāḍadarśana (阿羅藍訪問)	阿羅藍歎頭藍	訪阿羅藍頭藍
13.	Māravijaya (破魔)	破魔	降魔
14.	Abhisaṁbodhanasaṁstavana (等正覺讚嘆)	阿惟三菩提	現成菩提
15.	Dharmacakrapravartanādhyeṣaṇa	轉法輪	轉法輪
16.	Dhamacakrapravartana	頻沙王諸弟子	頻沙王諸弟子
17.	Lumbinīyātrika	大弟子出家	大離間出家
18.		化給孤獨	化給孤獨長者
19.		父子相見	父子相會
20.		受祇桓精舍	受祇桓精舍
21.		守財醉象調伏	榮相續
22.		華摩羅見佛	觀華摩羅女林
23.		神力住壽	身壽想構受
24.		離車辭別	京慈離車見族
25.		涅槃	入涅槃
26.		大般涅槃	大般涅槃
27.		獻涅槃讚	讚涅槃
28.		分舍利	分舍利

現存梵本十四章迄十七章は佛陀の入涅槃に關する記事であり、佛陀は既に大般涅槃に入り、第二十八章は佛陀の遺骨の分配に及ぶ。

佛陀は王家の子として生れ、生母マヤの分娩の日に死し、後母に育てられる。王父は家に歸り、その高貴種、その富貴、その美しき妻、その一人の子、その四門出遊の際に遭遇した老・病・死の三相、その出家、その苦行、その成道、その梵天勸請、その轉法輪、その教團の成立、その入涅槃、その遺骨の分配、その遺骨の崇拜、その遺骨の分配、その遺骨の崇拜、その遺骨の分配、その遺骨の崇拜

佛性論 ❶(日) Bus-shō-ron. (支)Fo-hsing-lun. 1 書名 ❷四卷 ❸作 ❹天親菩薩 1・十八 No. 1610 編纂 卍 卍二二・二一 寺601頁 寺615頁 宋607頁 明寺1213頁 高1213頁 麗603頁 元605頁 和564頁 法589頁 原1323頁 明寺1352頁 Nj. 1220 ❺天親菩薩造 唐 菩提流支 一 元魏宣 A. D. 499—559)譯 ❻(A. D. 320—400)頃作 宋宣 一 元魏宣(A. D. 557—559)譯。

❼本論は「義記分」・「論議分」(三品)・「顯體分」(三品)・「無邪分」(十品)の四分十六品よりなりたる論文にして成る。

第1の義記分に於ては、佛法僧性を說ける理由を說明して「諸子論」・「如來藏」・「如來藏」・「如來藏

❷(注釋) 疏四卷……肆法師、疏三卷……惠證節義四卷(刊、日藏)、條擬二卷(寫)
(參考) 三寶紀第九、內典錄第五、譯經圖紀第四、開元錄第七、貞元錄第一〇 ❹慶安四寫(龍大、別藏)安永五刊(高大、寄・一・二四)(正大、一一九六・五八) (坂本幸男)

佛性論義 ❶(日) Bus-shō-ron-gi. (支) Fo-hsing-lun-i ❷一卷 ❸缺 ❹唐 騰莊(—長安三—先天二A. D. 703—713—)述 ❺(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2491、2492

佛性論疏 ❶(日)Bus-shō-ron-sho. (支)Fo-hsing-lun-su ❷三卷 ❸缺 ❹惠證述 ❺(參考) 東域傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第二

佛性論疏 ❶(日)Bus-shō-ron-sho. (支)Fo-hsing-lun-su. ❷四卷 ❸缺 ❹唐 智愷述 ❺(參考) 東域傳燈目錄卷下、奈良朝現在一切經疏目錄2489

佛性論疏 ❶(日)Bus-shō-ron-sho. (支)Fo-hsing-lun-su. ❷五卷 ❸缺 ❹唐 神泰述 ❺(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2493

佛性論條個 ❶(日)Bus-shō-ron-jō-ka. ❷一卷 ❸存、四論條個之內 ❹寫本(谷大、餘大・一三七〇)

佛性論節義 ❶(日)Bus-shō-ron-setsu-gi. ❷四卷 ❸存、日本大藏經第二五 諸大乘論章疏第一 ❹賢洲(—文化九A. D. 1812)述

❺本書は世親菩薩撰眞諦三藏譯佛性論を註釋せるものである。世親はもと中天に出で小大の學に通じて唯識無境の義を闡明し、後更に一乘を匡救し如來藏、勝鬘、無上依等の經を盡章して祕教を闡揚し、以て群生に示し給ふに十種の義門を以てし、佛性の實有をして二種如來藏に順じて息妄修眞を修習せば無窮の功德を成ずることを信解せしむ、是れ則ち菩薩道にして一性成佛の極致なりと說き給ふ。

内容は初めに佛性論の十種義門即ち一教起所因、二諸藏所攝、三顯教分齊、四教所被機、五能詮教體、六所詮宗趣、七釋論題目、八造論緣起、九傳譯由致、十隨文解釋を明し、更に第一卷には第一緣起分、第二破執分に分ちて造論緣起と外道小乘大乘等の偏執見を破し、第二卷に第三顯體分、第四辨相分に分ち因如品、三性品、如來藏品、並に自體相品、明因品、顯果品、事能品を明し、第三卷に總攝品、分別品、附位品、遍滿品を明し、第四卷に無變異品、無差別品を明せるものにして、諸大乘論を引きて よく佛性論の意義を助釋したるものである

❹寫本(龍大、二四三四・一三一)(橋本凝胤)

佛昇忉利天爲母說勝經 ❶(日) Butsu-shō-tō-ri-ten-i-mo-setsu-shō-kyō. (支) Fo-sheng-tao-li-t'ien-wei-mu-shuo-shengching. 摩訶摩耶經、摩耶經 ❷二卷 ❸存、大正一二・一〇〇五 No. 38)、縮盈一〇・卍一一・三、北375改、南336改、元383改、明北378投、清378投、麗374投、天383改、指345必、法357必、至333莫、明南369必、Nj. 332 ❹曇景譯 ❺齊代(A. D. 479—502) ❻摩訶摩耶經の下を見よ。

佛昇忉利天爲母說法經 ❶(日) Butsu-shō-tō-ri-ten-i-mo-setsu-shō-kyō. (支)Fo-sheng-tao-li-t'ien-wei-mu-shuo-fa-ching. 爲母說法經、佛昇忉利天品經 ❷三卷 ❸存、大正一七・七八 No. 815、縮宵六、卍九・六、北133投、南133投、元139投、明北149身、麗133化、天133投、指122化、法130化、至210大、明南137身、Nj. 153 ❹竺法護譯 ❺泰始二—建興元(A. D. 266—313)

❻本經は佛、忉利天に於て其の母の爲に說法せられしことを記すものにして、その根據として雜阿含一九・三、增一阿含三六・五。Dhammapada Atakatha III p. p. 291, S. 40, 10 Sakka, Cv. V. 8, Dhp. A. III p. p. 224, J. IV 263 摩訶摩耶經を參照し得、復、佛說道神足無神變化經は本經の異譯である

内容。佛、忉利天の妻度樹下、無垢の白石上に於て、正夏三月大比丘衆と俱にして先づ月氏天子の問ひに應じ、大乘菩薩の行として、1大聖を得、珠得の行に通じ彼岸に度るの四法行。2不思議變化方便に至るの四事法。3一切諸法を一味平等に趣入せしめるの四說。4深く禁戒行を奉じ無放逸なるの四事法。5深妙の法を行じ眞本際に於て證を取らざるの四事を說き、同じく天子が佛は摩耶母胎より生れたるやとの問に「智慧度無極是其母也」と答へ、更に如來は「不生不沒不起不滅」なることを詳說す。

次に月氏天子は月上天子の問に法界と空の無本際、無言辭を述べ、復、佛は目連に對し、佛の神變は八方の世界(詳說)に衆生化益の爲め現はれ、畢竟佛身は本來空にして幻化の如く變現無極不思議なるを說く。

斯くて本經は、內母の問題を智母(般若)の問題にまで高め、佛の母は智慧度無極是也として大乘空觀の立場に於ける菩薩行とその神變を說かんとするものである。摩訶摩耶經。佛說道神足無極變化經。參照。

❼(參考) 出三藏記第二、三寶紀第六、內典錄第二、譯經圖紀第二、開元錄第二、貞元錄第三、第四 ❽刊本(正大、一一七九・八五) (山邊習學)

佛昇忉利天爲母說法經 ❶(日)Butsu-shō-tō-ri-ten-i-mo-setsu-pō-kyō. 開譯佛昇忉利天爲母說法經 ❷三卷 ❸存、國譯一切經經集部第一二 ❹泉芳璟譯

佛昇忉利天爲母說法經 ❶(日) Butsu-shō-tō-ri-ten-i-mo-setsu-pō-kyō. 現代意譯佛昇忉利天爲母說法經 ❻存、現代意譯根本佛教經典叢書第五 ❹泉芳璟譯

佛昇忉利天爲母說法經 ❶(日) Butsu-shō-tō-ri-ten-i-mo-setsu-pō-kyō. (支)Fo-sheng-tao-li-t'ien-wei-mu-shuo-fa-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹宋曇摩蜜多譯 ❺第三譯。 ❼(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

佛昇忉利天後阿難爲諸四部衆說禮佛持齋儀式經 ❶(日) Butsu-shō-tō-ri-ten-go-a-nan-i-sho-shi-hu-shō-setsu-rai-butsu-ji-sai-gi-shiki-kyō. (支) Fo-sheng-tao-li-t'ien-hou-a-nan-wei-chung-shuo-li-fo-ch'ih-chai-i-shih-ching. 佛昇忉利天經 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❹菩濟慈惠撰

❸詳しくは東福分建白雲曉和尙佛照禪師常寂塔銘と云ふ。初に俗籍、出家、受具、東福寺の聖一國師に師事せるを記し、文永三年入唐、台州の希夷曇禪師に謁し、百丈燈火の話にて大悟、己卯歸朝、東福寺を重し、永仁丁酉十二月二十五日示寂したることを記し、最後に四言三十二句の頌を附してゐる。

佛照德光禪師奏對錄 (後藤大用) ❶(日) Butsu-shō-toku-kō-zen-ji-ō-tai-roku. (支) Fo-chao-te-kuang-ch'an-shih-tou-tui-lu ❸存、卍續二・二三・四古尊宿語錄第四 ❹宋 拙庵德光(宣和三—嘉泰三A. D. 1121—1203)

❺大慧宗杲禪師の法嗣、南岳下十六世拙庵德光(號號佛照、諡號普慧宗覺大禪師)禪師が南宋孝宗淳熙三年詔を奉じて靈隱寺に住し、同三年十一月三日(A. D. 1176)五十六歲の時召されて便殿にて奏對したるを始めとして其の一代に於ける奏對語要を集めたものである。 (大久保堅璃)

佛振相應經觀自在軌 ❶(日) Butsu-shō-sō-ō-gyō-kwan-ji-zai-ki. (支) Fo-shō-hsiang-ying-ching-kuan-tu-tsai-kuei. 一切佛構相應大教王經觀自在菩薩念誦儀軌、聖觀自在菩薩念誦儀軌 ❷一卷 ❸存、大正二〇・六四 No. 1051、館成一三、卍一六・九、北1220陪、南1215陪、元1229陪、明北1046止、清1046止、麗1230高、天1215陪、法1345殺、至856京、明南906風、Nj. 1051 ❹宋法賢(—成平四A. D. 1001)譯

❼(參考) 開元錄第一八、貞元錄第二八

佛昇忉利天品經 ❶(日) Butsu-shō-tō-ri-ten-bon-kyō. (支) Fo-sheng-tao-li-t'ien-p'in-ching. 佛昇忉利天爲母說法經、爲母說法經 ❷三卷 ❸存、大正一七・七八七 No. 815、縮宵六、卍九・六、北133投、南133投、元139投、明北149身、麗133化、天133投、指122化、法130化、至210大、明南137身、Nj. 153 ❹竺法護譯

❺西晉太始年中(A. D. 356—274)

❻佛昇忉利天爲母說法經の下を見よ。

佛清淨偈 ❶(日)Butsu-shō-jō-ge. (支) Fo-ching-ching-chieh ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、開元錄第五、第一四、貞元錄第八、第二四

佛將優婆乞人遊行遇外道說法經 ❶(日)Bus-shō-u-ba-kotsu-nin-yu-gyō-gō-ge-do-sep-pō-gyō. (支) Fo-chiang-yu-p'o-ch'i-jen-yu-hsing-yu-wai-tao-shuo-fa-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四

佛將入涅槃度善賢經 ❶(日) Butsu-shō-nyū-ne-han-do-zen-gen-gyō. (支) Fo-chiang-ju-nieh-p'an-tu-shang-hsien-ching. ❷二卷

❺根本說一切有部毘奈耶雜事第三十七卷第三十八卷の抄出。

❼(參考) 開元錄第一六、第一七、貞元錄第二六

佛將比丘優婆塞乞人遊行遇外道說法經 ❶(日)Butsu-shō-bi-ku-u-ba-soku-kotsu-nin-yu-gyō-gō-ge-do-sep-pō-gyō. (支) Fo-chiang-pi-ch'iu-yu-p'o-sai-ch'i-jen-yu-hsing-yu-wai-tao-shuo-fa-ching. ❷一卷 ❺釋阿含經第三十二卷の抄出。 ❼(參考) 法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛照光和尙語要 ❶(日)Butsu-shō-kō-wa-jō-yō. (支) Fo-chao-kuang-ho-shang-yu-yao. ❸存、卍續二・二四・一 古尊宿語要第五 ❹宋 拙庵德光(宣和三—嘉泰三A. D. 1121—1203)

❺德光和尙は被拙庵賜號佛照、諡號普慧宗覺大禪師と云ひ、江西臨江府新喻縣に生れ、邑の南山光化禪院普古に落髮し、月庵善果、應菴曇華等の尊宿に歷叅し、大慧宗杲禪師に得悟して南岳下十六世の法燈を繼ぎ、鴻福、天寧、靈隱等に歷住し、淳熙七年阿育王山に歸老し、紹照四年六十六歲にして詔によつて徑山に赴住し、南宋寧宗嘉泰三年三月二十日(A. D. 1203)壽八十二を以て順世されたもので、本書には其の上堂語、小參、拈古、贊、偈頌、自贊示衆收められて居る。尙ほ本書とは別に奏對語要がある。其の語に「不說玄不說妙。此是育王本分草料。見成公案沒請訛。四聖六凡俱一照。直饒悉麼承當。更須知有向上一竅。」とある、學人を接得した德光の風格が偲ぶことが出來るであらう。 (大久保堅璃)

佛照禪師語錄 ❶(日) Butsu-shō-zen-ji-go-roku. 白雲慧曉禪師語錄 ❷二卷 ❸存、大正八〇・二七 No. 2346 ❹白雲慧曉(貞應二—永仁五 A. D. 1223—1297)譯、嗣法者白雲編

❺東福寺岡山聖一國師圓爾辯圓禪師の法嗣として東福四世に遷住し聖禪庵を創めた諡號佛照禪師白雲慧曉和尙の東福寺語錄を其の法嗣である永天寺虛室希白和尙が編錄したもので、應永八年、文化十年等の寫本が傳へられて居る。大正藏に收むるものは文化十年寫本に依つたものである。

上下二卷、上卷に東福寺遷山語要。上堂小參の語要を收め。下卷に小佛事、辭世、學人に與へた法語、雜語(祭文序跋)、佛祖讚、偈頌を收め、卷末に虎關師錬禪師の元亨釋書より佛照禪師傳を抽出し、應永八年五月二十五日妙音和尙の寫本に就ての識語、並に上下各卷末に文化十年十一月五日東福寺二百六十九世靈雲院天瑞守證和尙の寫本に就ての跋文(不二應看住守物修補)等が收められて居る。

白雲和尙は、讚岐の人、叡山の行泉法師に師事し、泉涌寺明觀律師に學び、東福寺聖一國師に得悟し、文永三年四十四歲のとき入宋して四明雪竇の希夷曇に參じ百丈燈火の公案に大悟し、歸朝後、鎌倉圓覺寺無學祖元に星陽して其の證賞を受け、正應五年七十歲のとき東福寺に遷住し聖禪庵を創め、永仁五年十二月二十五日(A. D. 1297)壽七十五、夏五十四を以て示寂されたもので、本語錄の外に法語夢の記が傳へられて居る。

❺應永八寫 ❽(駒大) (大久保堅璃)

佛照禪師塔銘 ❶(日) Butsu-shō-zen-ji-tō-mei. 東福分建白雲曉和尙佛照禪師常寂塔銘、白雲慧曉禪師塔銘 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❹菩濟慈惠撰

❸詳しくは東福分建白雲曉和尙佛照禪師常寂塔銘と云ふ。初に俗籍、出家、受具、東福寺の聖一國師に師事せるを記し、文永三年入唐、台州の希夷曇禪師に謁し、百丈燈火の話にて大悟、己卯歸朝、東福寺を重し、永仁丁酉十二月二十五日示寂したることを記し、最後に四言三十二句の頌を附してゐる。

⑭一切佛儀相應大歡王經聖觀自在菩薩念誦儀軌の下を見よ。

佛定和尚行業記 ❶(日)Butsu-jō-o-shō-gyō-gō-ki. 專念佛定和尚行業記 ❷二卷 ❸存、淨土宗全書第一八 ❹大察(寶曆一〇—享和二(A. D. 1760—1802)、隆圓共著 ❺文化元(A. D. 1804) ⑥專念佛定和尚行狀記の下を見よ。

佛乘院藏書目錄 ❶(日) Butsu-jō-in-zō-sho-moku-roku. ❷一卷 ❸存 ❹大正九寫 ❺(叡山、延曆)

佛乘宗要論 ❶(日)Butsu-jō-shū-ron. ❷一冊 ❸存 ❹太雲法師講演 ❺刊本(高大、一・二六)

佛乘禪師東歸集 ❶(日) Butsu-jō-zen-ji-tō-ki-shū. 東歸集 ❷一卷 ❸存、五山文學全集第一 ❹天祥惠廣(文永一〇—建武二(A. D. 1273—1335)述 ❺正中元—建武二(A. D. 1324—1335) ⑥東歸集の下を見よ。 ❼元祿一六刊 ❽(帝國、八二一・一八八)

佛心印記 ❶(日) Bus-shin-in-ki. (支)Fo-hsin-yin-chi. 天台傳佛心印記 ❷一卷 ❸存、大正四六・九三四 No. 1938、續陽一〇、卍三三・七、明北1579起、清1604野、明南1555荊、Nj. 1586 ❹元慎則(—至大三A. D. 1310—)述 ❺天台傳佛心印記の下を見よ。 ❾延寶九刊(京大、一・二四フ・一)(叡山、慈眼)文久元刊(叡山、水尾)

佛心印記義解 ❶(日) Bus-shin-in-ki-gi-gai. 天台傳佛心印記義解 ❷一冊 ❸存 ❹慧澄瘋空(安永九—文久二(A. D. 1780—1862)述 ❾寫本(哲、や・五・右・一八)(叡山、普潤)(立大、A一二・一・三六)

佛心印記聞書 ❶(日) Bus-shin-in-ki-kiki-gaki. ❷一卷 ❸存 ❹慧澄瘋空(安永九—文久二(A. D. 1780—1862) ❺弘化二寫 ❾(叡山、摩樹)

佛心印記科文 ❶(日) Bus-shin-in-ki-kwa-mon. ❷一卷 ❸存 ❹光謙靈空(承應元—元文四 A. D. 1652—1739) ❾寫本(叡山、密嚴)

佛心印記講錄 ❶(日) Bus-shin-in-ki-kō-roku 天台傳佛心印記講錄 ❷一卷 ❸存 ❹光謙靈空(承應元—元文四 A. D. 1652—1739)述 ❺享保一六刊 ❾(叡山、門)(哲、や・四・左・二二)

佛心印記詳解 ❶(日) Bus-shin-in-ki-shō-kai. 天台傳佛心印記詳解 ❷一卷 ❸存 ❹泰然述 ❺貞享四刊 ❾(叡山、禪林)

佛心印記箋要 ❶(日) Bus-shin-in-ki-sen-yō. 天台傳佛心印記箋要 ❷一冊 ❸存 ❹光謙靈空(承應元—元文四 A. D. 1652—1739)述 ❺享保一六刊 ❾(叡山、密嚴)(哲、や・五・左・二四)

佛心印記箋要講述 ❶(日) Bus-shin-in-ki-sen-yō-kō-jutsu. ❷一冊 ❸存 ❹守脫大實(文化元—明治一七 A. D. 1804—1884)述 ❾寫本(叡山、華藏)(立大、D一・三〇)

佛心印記註 ❶(日) Bus-shin-in-ki-chū. (支)Fo-hsin-yin-chi-chu. 天台傳佛心印記註 ❷二卷 ❸存、卍續二・六・四 ❹明傳燈(—萬曆頃 A. D. 1573—1619—)述、清靈耀(—康熙二〇 A. D. 1681—)校 ❺天台傳佛心印記註の下を見よ。 ❼元祿一〇刊 ❾(京大、一・二五フ・四)(叡山、禪林)

佛心印記註指謬 ❶(日) Bus-shin-in-ki-chū-shi-myō. ❷一卷 ❸存 ❹光謙靈空(承應元—元文四 A. D. 1652—1739)述 ❺享保一六刊 ❾(叡山、密嚴)(京大、一・二五フ・五)(叡山、菩潤)

佛心印記佩綬 ❶(日) Bus-shin-in-ki-hai-ju. 天台傳佛心印記佩綬 ❷二冊 ❸存 ❹主海述 ❺元祿一〇刊 ❾(哲、や・五・右・四)(正大)(叡山、密嚴)

佛心及其表現 ❶(日) Bus-shin-oyobi-sono-hyō-gen. ❷一卷 ❸存、佐々木月樵全集第五 ❹佐々木月樵(明治八—大正一五 A. D. 1875—1926)著 ❾大正八刊(谷大、餘洋・四七二)大正九刊(立大、B一二・四〇)

佛心鬼話 ❶(日)Bus-shin-ki-wa. ❷一卷 ❸存 ❹吉川宗尤著 ❺昭和三刊 ❾(龍大)

佛心鬼語 ❶(日)Bus-shin-ki-go. ❷一卷 ❸存 ❹高島大圓著 ❺大正八刊 ❾(龍大、二〇九九・二二七)

佛心經 ❶(日)Bus-shin-gyō. (支)Fo-hsin-ching. ❷二卷 ❸存、大正一九・二N. 929、續藏三、卍續一・三・三 ❹唐菩提流志(大建四—開元一五 A. D. 572—727)譯 ❻本經は主として大隨求陀羅尼の心中心呪の功力の廣大なること、並に此の呪に俱ふ諸の印契に不可思議力の存することを明してある。密教の經軌中に於て印契を高調して明してあるのは、譯課年時の前後を通じて、唯此の經あるのみと言つても過言では無いと信ずる。殊に同一の陀羅尼を誦じながらも、印契の異なるに連れて、特別の效驗が現はれて來ると明してあるものは、此の經の外には殆んど其の類例が無いと思はれる程である。

本經は心中心呪を明すことが、上下二經に亘つての本旨と思はれるが、而も其の全文の結構の上から見て、完本とは思はれない樣な感がある。上卷は比較的に詳ふた記述法に依つて居るが、下卷は阿難尊者が密教に引き入れられる道程を明して居るのであつて、阿難と釋尊との數回に亘る問答が繰返されて居る。本經の內容は左の通りである。

〔上卷〕 (一)心中心呪を說くに至る因由。(二)證修佛地。(三)一切佛心中心大陀羅尼と其の印契。1諸願成就の印。2菩提心成就の印。3菩提心の印。4如來骨の印。5如來舌集陀羅尼の印。6如來語の印。7安心の印。(四)授法壇。(五)諸印契の傳來。

〔下卷〕 (六)阿難の悲歎。(七)遍照如來の大通力。(八)大通力と心中心呪。(九)心中心

呪の作法。(十)定印。(十一)持戒。(十二)除疑傷。(十三)阿難の歎佛。(十四)佛は心中心呪を讚歎す。(十五)十二種の心。(十六)隨心陀羅尼の作法並に諸功力。(十七)讚佛。

右の各節の內容を說くことを略し、本經中殊に注意す可き二三の事項に就て述ぶれば、本經に於ては、釋尊と大日如來とを同一佛身と見做して居るの觀がある。本經卷下に於て阿難尊者と毘盧遮那佛との問答が記述されてある。此の點は雜阿含經第二十二(大正二・一五五)等に於て釋迦をば毘盧遮那と呼んである所と、其の旨略々一致して居る。次に純密思想が現はれて來るや、釋尊は變化身であり、大日如來は法身であるとして、明確に區別されることに成つた。かく嚴密に區別が立てられるやうに成つてからは、大日如來の對告主は、金剛手祕密主であることに成つた。隨つて純密教の教系に於て、阿難が大日如來に對して質問を發して居る記錄が殆んど全く見出すことが出來ないのである。之れに依つて見るに、本經の作られた當時には、尙ほ未だ佛身觀の思想が充分に發達して居なかつたことを明に示して居る。

次に阿難尊者は、聲聞の代表的人物である。聲聞衆は大乘思想を甚だ喜ばず大乘教は佛說では無いと一般に認めて居る。又大乘教系の人々も、聲聞一派の者に對しては小智の輩にして共に深理を語るに足らずとして退け、小乘聲聞の徒を極めて卑下して居るのが常である。此の小乘聲聞の代表的一人物を出して、釋尊の大通力を示し、彼をして不可解なりとして悲歎せしめ、其の後遂に釋尊の大通力を信じて、佛陀の威德を讚歎し、此の祕密乘に歸信する一場面を記述して居るのは、小乘聲聞の徒の祕密佛乘に歸順したことを記述して居るのである。又一方に於ては、祕密佛乘が釋尊の在世當時に於て、既に存在し、一般の聲聞の弟子等から、如何に不可解のものであるとして、迎へられて居つたかと云ふ一面をも示して居るのである。

以上二項は、下卷に記述されてあるが、尙次に上卷に於て、殊に注意すべき事項は五道巡官、司命司祭、若しくは精祇と稱する語が記されてあることで、此は支那の道教思想の混入を思ひ起さすものである。此の如き語句があるからとの理由で、此の經典全部を支那製作のものと斷定を下すことは粗忽のやうにも思はれるが、而も此の如き語の混入して居ることは、本經に對する信用を薄くするものである。吾人の考へとしては、此の經は矢張譯經であつて、支那に於て故意に作られたものとは思はれない。而して五道巡官とは四天王が、娑婆世界の人間の行爲を、六齋日に巡視すると云ふ信仰から、其れを更に推し廣めて、五道の衆生の行爲を監視すると云ふことに成つたことではあるまいかと思つて居る。又司命司祭も、四天王巡察の思想から、起つた語であると想像される。次に又精祇と云ふ語は、純密教の經典には、全然現はれて來ない語であるが、之を地神と解すれば、別に不審にはならないのであるが、印度の地神と、支那思想の精祇とは全く異つて居つて、天神地祇と云ふ語と、印度で言つて居る天神と地祇とは、語は稍々似て居つても、其の思想內容を全く異にして居る。兎に角、此の如く支那道教に於て使用して居るかの如く思はれる語を、譯經の上に使用したと云ふことは、譯者の責任に歸すべきであると思ふ。譯者は支那人に佛教思想を普及する爲めには、彼等の思想に近いものが、佛教にも存して居ると云ふ所を示し、かくて支那人が佛教に注意を拂ひ、遂には佛教を信ずるに至るであらうと云ふ考へから、故意に斯くの如き譯語を使用したとすれば、譯者の責任として甚だ輕からざるものがあると思ふ。譯經者は其の原典の意味を誤りなく、正直に他國語に飜譯すべき事であつて、其所に教義宣傳の考へを交へてはならない筈である。

本經が支那作のものでなく、或る原文の譯本であると云ふことを、吾人は深く信じて居るのであるが、其の理由としては、本經が支那作であれば文章に於て支那的の風韻があり、且つ文章の如きも、一層完全に出來上つて居る可き筈である。

本經は漢文譯の儘では、意味の明瞭しない個所が多く、此の點から見て吾人は本經を以て未再治本と斷定して居る。隨つて又一方に於ては、本經が支那に於て故意に作られたものでなく、其の原文の存在すべきを信じて居るものである。

本經の內容に付て尙ほ一言附加へたいことは、心中心呪は、不空譯の隨求卽得神變加持成就陀羅尼儀軌には、單に心中眞言として印契に關しては、大隨求卽得大陀羅尼明王儀悔法(大正二〇・六四九)に明してある所と、稍々異つて居るが、中には同一のものもあるから、參照する價値があると云ふことである。

❼(參考) 御請來目錄 (神林隆淨)

佛心經 ❶(日) Bus-shin-gyō. 國譯佛心經 ❷二卷 ❸存、國譯一切經密教部第三 ❹神林隆淨譯

佛心解 ❶(日)Bus-shin-ge. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第六七 ❹託何遠 ❻本書は佛心の意義を解明せんとせるものである。其の因由は東山西谷問答集なる書を得たるにあり、東山は教門、西谷は禪門の意を宗するもの、教禪の二宗悉に佛心を得とするに稍理を盡さゞる所ありとなして解說脅過して居る。

總じて七段あり、兩宗の了義不了義、權樂の依正二報、名號と九品分別、難易二道の解釋、發菩提心と願往生心、末法と淨教、稱名等を主題とする。各段の初めに西谷の問、次に東山の答、終りに託何の解を記す。問答の始終正しく禪法と念佛とを論じ、傍ら諸宗の優劣を辨じて居る。而して本書の最後に佛心解の三字に就いて言ふ。卽ち上來の七段は異學の雜碎を補說する所である。要するに西谷卽ち禪門は坐禪の處に佛心を得と言ひ、東山卽ち教門は佛身を見るは佛心を見るものと言ふ。然し是は共に直現には思量し難い。佛心宗が不立文字なら

ば佛心の文字を假る要なく、三界唯心・是心有佛にて足りる。淨土門が別に佛心を傳へず、念に乘じて自心を見て見分と相分との別はない。事々圓融名體不離の故に、稱念塵中心蓮花開きたるを以て佛心を見るとする。佛心宗の事理隔歴して佛の相分心を傳ふるとは隔別である。此の義を以ての故に佛心解と名づくとするのである。

蓋西山證聖上人の門下四流中に存する二流、卽ち法興淨雲上人の西谷流と觀鏡證入上人の東山流とあつて、本書の題名に通關する如きも全く然らず、本書の解說批評は時宗七祖託何上人の立場に於てなせるもの、直接宗旨を語る書ではないが、又以て上人の思想を知るに一助たるものである。

（寺沼琢明）

佛心禪師大明國師無關大和尚塔銘 ❶(日)Butsu-shin-zen-ji-dai-mi-kokuo-shi-mu-kwan-dai-o-shō-tō-mei. 大日本國皇城東五山之上瑞龍山太平興國南禪寺開山第一世佛心禪師大明國師無關大和尚塔銘、佛心禪師塔銘 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❹椿庭海壽（文政元—應永八A. D. 1318—1401） ❺應永七庚辰(A. D. 140)

❻具名を大日本國皇城東五山之上瑞龍山太平興國南禪寺開山第一世佛心禪師大明國師無關大和尚塔銘と云ひ、無關普門禪師の略傳行道を錄せるものである。前敍は無心道の要訣、師の行蹟、傳法弘道の大略を叙べ、後敍は誄文、四言の偈を列してゐる。

（後藤大用）

佛心總持經 ❶(日)Butsu-shin-sō-ji-kyō. (支)Fo-hsin-tsung-chih-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹生經第二卷の抄出。 ❺(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛心普濟文慧大辯禪師語錄 ❶(日)Butsu-shin-fu-sai-bun-e-dai-ben-zen-ji-go-roku. (支) Fo-hsin-p'u-chi-wen-hui-ta-pien-ch'an-shih-yü-lu. 天如惟則禪師語錄 ❷六卷 ❸存、卍續二・二七・五 ❹元天如惟則(一至元頃 A. D. 1335—1340—)語、善遇編 ❺天如惟則禪師語錄の下を見よ。

佛心本才禪師語要 ❶(日) Butsu-shin-hon-sai-zen-ji-go-yō. (支) Fo-hsin-pen-ts'ai-ch'an-shih-yü-yao. ❸存、卍續二・二四・一續古尊宿語要第四 ❹宋佛心本才語

❺黃龍の靈源惟清禪師の嗣嗣として南岳下十四世黃龍下三世の法燈を揚げ上封雲石乾元寶壽等の名刹に遷住して四衆を接化した佛心本才禪師の上堂示衆小參頌古の語要を輯めたものである。

其の語要に云く「我若孤峯獨宿。從他佛祖正眼藏寫。我若淺草平田。狸奴白牯許他知有。知音相見。休更揚眉。頓並同途。已成多事。休休。欲言言不及。冷暖自家知。」と。黃龍の家風を宣揚するものと云ふべきである。

（大久保堅瑞）

佛身實相編 ❶(日) Butsu-shin-jis-sō-hen. ❷一冊 ❸存 ❹日蓮(寛政一二—安政六A. D. 1800—1859) ❺明治一四刊 ❻

佛身抄 ❶(日) Butsu-shin-shō. ❷一卷 ❸宗淵(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822) ❹(參考) 本朝台祖撰述害部書目、山家祖德撰述寫目錄卷上

佛神感應錄 ❶(日) Butsu-jin-kana-roku. ❷八卷或十五卷 ❸存 ❹寶永七刊(正大、一〇三三・四一)寶永八刊(正大、一〇三三・四二)(貞、ト・七・中・一、ト・七・右・三〇)

佛神三寶祈二世之悉地文 ❶(日) Butsu-jin-san-bō-ki-ni-se-no-shi-ji-mon. ❷一卷 ❸存、弘法大師全集第一四 ❹傳空海(寶龜五—承和二A. D. 774—835) ❺弘法大師法教錄中より拔き、弘法大師全集に收む。遍照金剛撰とあれども、菩通に僞作とせらる。

（高見寶忠）

佛神雜雜 ❶(日)Butsu-jin-zō-zō. ❷一卷 ❸存 ❹遍藤爲純(一文化頃A. D. 1804—1817—) ❺寫本(帝室、一二一・二五)

佛神力救長者子經 ❶(日) Butsu-jin-riki-kyū-chō-ja-shi-kyō. (支)Fo-shen-li-chiu-chang-tzu-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹出曜經第八卷の抄出。 ❺(參考) 出三藏記第四、法經錄第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛垂涅槃遺訓經講說 ❶(日) Butsu-sui-ne-han-yui-kun-gyō-kō-setsu. ❷一卷 ❸存 ❹馬鳴 ❺寫本(谷大)

佛垂般涅槃略說教誡經 ❶(日) Butsu-sui-hatsu-ne-han-ryaku-setsu-kyō-kai-kyō. (支)Fo-chui-pan-nieh-p'an-lüeh-shuo-chiao-chieh-ching. 遺教經、佛遺教經、佛垂涅槃教誡經、佛臨般涅槃略說教誡經、佛臨般涅槃經、佛臨涅槃略誡經、佛垂涅槃略誡經 ❷一卷 ❸存、大正一二・一一〇N. 389、紹辰一〇、卍八・一〇、北470年、南434年、元478年、明北118食、淸118食、屋460活、天476年、指413淸、法436淸、明南477行、N. 123❹ 後秦鳩摩羅什(建元二—義熙九 A. D. 344—413 一說義熙年中寂)譯

❺(本經の題名) 本經は、原本既に散逸して、その梵名を知ることが出來ない。漢譯では、一般に『佛遺教經』として知られてゐるが、別名を『佛臨涅槃略誡經』等ともいはれてゐる。『出三藏記集』二(大正五五・一一A)・『歷代三寶紀』八(大正四九・七八B)・『大唐內典錄』三(大正五五・二五三A)・『古今譯經圖紀』三(大正五五・三五九B)等には『遺教經』として出し、前三には、その下に(一名佛垂般涅槃略說教誡經)と註してをり、法經等の七卷本『衆經目錄』三(大正五五・一二八C)、所謂『仁壽錄』たる五卷本『衆經目錄』一(大正五五・一五四B)、同じく『靜泰錄』一(大正五五・五一二C)・同一二(大正五五・六〇四A)・同一九(大正五五・六八八A)等には、『佛垂般涅槃略說教誡經』として出し、『開元釋教錄』のみはその下に「亦云佛臨涅槃一名遺教經」と註記されてゐる。『佛臨涅槃略誡經』といふのは、『大唐內典錄』九(大正五五・三二三A)・『大周刊定衆

經目錄』一四(大正五五・四六七C)に出で、何れも「一名遺教經」と註してゐる。なほこの他に、『佛垂涅槃略誡經』とも呼ばれたことが、『大藏聖教法寶標目』五(『昭和法寶總目錄』二・八〇五C)の所記によつて知られる。

以上の如く、本經には種々の異名が存するのであるが、何れにしても、その示す所は、要するに、本經所說の教法が、佛陀入涅槃時遺弟に遺された最後の教誡であることを示さむとするにあるのである。本經の最後に於て佛によつて

「汝等且く止めよ。復た語るを得ることなれ。時將に過ぎむと欲す。我れ滅度せむと欲す。是れ我が最後に教誨する所なり。」

と述べられてゐるやうに、本經は正に佛陀入寂の直前に一代說法の要體を說かれた遺教なりとするが故に、これを『佛遺教經』とも、『佛垂般涅槃略說教誡經』とも、また『佛臨涅槃略誡經』等とも名くるのである。

（本經の成立） さきにも一言せる如く、本經には、これに相當する梵本を見ず、また多くの漢譯經典中にても、特に優れて文辭莊嚴、叙述巧妙であり、寃も漢人の著作を讓むが如き感すらあり、加ふるに本經が、單に一回だけ羅什によつて出されしのみで前後にその譯出を見ないことゝ、及び本經を西曆第一世紀の終頃出世せる馬鳴の『佛所行讚』五の「大般涅槃品」(大正四・四七C—四九C)と對比するに、文體に於て韻文と散文との相異はあるが、菅尾文段全然吻合することゝよりして、本經は、羅什が『佛所行讚』のかの文を散文體を以て譯出したものではなからうかといはれてゐる(『新佛教』一〇・六、眞逢塙智眞氏「佛遺教經は馬鳴の作歟」)。最近塙野黃洋氏は『思想』七九號に於て發表された「『佛遺教經』と『佛所行讚』について」てふ論文に於て、東晉の寶雲(A. D. 376—449)の譯した『佛本行經』七の「大誡品」(大正四・一〇七A—一〇八C)に出づる涅槃時遺戒を叙する一段が、また本經に吻合することよりして、寧ろ本經によつて『佛所行讚』や『佛本行經』のかの側所が爲されたとみる方が至當であらうと述べてをられる。もしさうだとすれば、本經は、馬鳴の時代卽ち紀元第一世紀の前後には、すでに成立してゐたものと想定されるわけである。本經『佛所行讚』及び『佛本行集經』のかの側所が、密接不離の關係にあることは、その本文を對照すれば一見極めて明瞭であつて、この點に於ては疑ふ餘地はないが、その成立の前後といふ點に於ては、なほそこに研究の餘地がありはしないかと思はれる。經譯の年代からいつても、三本殆んど同時代の譯出であるから、他に何等かの積極的の證明の擧らない限り、三本の中何れか一を以て他の二本の源流と定むることはなかなか容易ではない。いまは且くこの點に關し疑問を殘し、學者の後勤を俟つこととして、こゝには、たゞ本經の成立が何等かの意味に於て前記二經に關係を有することのみを示し、以て本經成立の思想的系統を彷彿せしむるに止めて置かう。

（本經の流傳） 印度に於ける本經流傳の狀況に就いては、詳かでない。漢譯藏經中に『遺教經論』一卷なるものがあつて、世親若くは馬鳴の釋、眞諦の譯といはれてをれど、こはすでに宇井伯壽氏の論ぜられた(『印度哲學研究』六「眞諦三藏傳の研究」九二頁)やうに、眞諦譯に『遺教論』一卷なるものがあつたため、それと混同された結果、かくいはるゝに至つたものであつて、實は漢人の何人かの述作に外ならないのである。眞諦譯の『遺教論』なるものは『歷代三寶紀』一四(大正四九・一二〇A)では、小乘阿毘曇の部に收められてゐるが、現存しないため、その內容は解らない。單に論名のみより想像すれば、或は本經の註釋であつたかとも思はれる。 こは恐らく最初より世親釋として譯出されたものであらうが、早くすでにこの譯本が失はれてゐたために、名稱上の近似より、漢土述作無作者名の『遺教經論』がこれと混同されたのであらう。『遺教經論』が元來無作者名であつたといふことは、これを馬鳴作としてゐた著の存することによつても想像し得られる。(これを馬鳴作としたことは、前述の如く、本經の經本そのものが馬鳴と因緣を有つてゐることと、何等か關係がありはしないであらうか。)

本經の漢譯は、後秦弘始三年(A. D. 401)十二月長安に來り同一五年(A. D. 413)四月同じく長安に沒した鳩摩羅什(Kumāraḷīva)によつて爲された。但し彼の譯出が何年のことであつたか、明確な記錄を缺いてゐる。この羅什譯本經は、譯文極めて流麗であつて、同譯の『維摩詰所說經』や『阿彌陀經』等と俱に、數多き彼の譯經中の最も秀逸なものゝ一である。

本經一度び羅什によつて譯出さるゝや、多くの人々によつて講讀翫味されたものゝ如く、爲めに註疏を製する者相繼いで出でた。今日吾々が知り得るものゝみにても、支那佛教史上前後を通じて、二十人を降らないほどの多數に及んでゐるのである。本經の如き片々たる一經にしてかほどに敬重されたのは、他に多くその類を見ない所といはねばならぬ。以下、支那及び我國に於ける本經流傳の概要、並びに註疏の主なるものを伺ふことゝしよう。

『大唐內典錄』四(大正五五・二六三C)・『高僧傳』八(大正五〇・三七九B)によるに、南齊の代(A. D. 479—502)、山陰法華山の沙門慧基(A. D. 412—495)は『遺教經子注經』なる疏を著はしたやうであり、また『出三藏記集』一二(大正五五・八五C)・『歷代三寶紀』一一(大正五五・九六B)等によれば、同じ頃南齊の竟陵文宣王蕭子良も疏一卷を製してゐる。更に同じ頃、『寶頂經』等數多の經典を閉目師して有名な太學博士江泌盧女尼子の師出した中に、慧基の疏と同じ名前のもの一卷があつたことが、『歷代三寶紀』一一(大正四九・九六C)によつて知られる。南齊の終より梁初にかけて活動した寶亮(A. D. 444—509)は、『涅槃經』『勝鬘經』等と俱に、本經を講ずること屢々であつたといひ(『高僧傳』八)、東魏の慧光(A. D.

453—537)も亦本經を重んじ、『勝鬘經』・『仁王經』の疏と共に本經の疏をも著し(『續高僧傳』二一)、梁より隋に渉つて『十誦律』の講學者として有名なる智文(A. D. 519—599)もよく本經を講じたやうである(『續高僧傳』二一)。北齊より隋にかけて活動し、殊に隋の文帝によつて重んぜられた慧祐(A. D. 518—605)の數多き疏記の中、また本經の疏が含まれてゐたといふ(『續高僧傳』九)。

以上の諸註疏は、單に文獻に記錄を留むるのみであつて、今日見ることを得ないのであるが、先に一言せる陳の眞諦譯世親造の『遺教論』と混同されて、今日眞諦譯世親造(若くは馬鳴造)として藏經中に存在する(一)『遺教經論』一卷(大正二六・二八二・一)は、或はこれら諸註疏中の一であるかも知れないのである。

唐の貞觀十三年(A. D. 639)、一説十四年又は十八年)、太宗皇帝は、詔して寫經生十人を派遣して本經を書寫せしめ、經初に「佛遺教經施行勅」なる御製勅文を付した本經を、五品以上の官及び州刺史に各々一卷宛交附し、以て僧尼を睦穆し遵奉せしめたといふ(『佛祖統紀』三九等)。宋の元照の『遺教經論住法記』の記事によれば、玄奘の弟子にして律藏に通じてゐたといはれる懷素に『義疏』があり、また宋の景德年中(A. D. 1004—1007)には、金陵圓覺大師の『疏』一卷が出たが、何れも元照の當時すでに佚して世に行はれなかつたとのことである。また智員(A. D. 976—1023)は『疏』二卷・『疏科』一卷を造り、雷霆は『記』を撰して智員の『疏』に更に註釋を加へ、允堪(—A. D. 1051)は『注』一卷・『科』一卷・『統要鈔』二卷の著あり、仁岳(A. D. 992—1054)は『助宣記』二卷を造つたとか、義天の『新編諸宗教藏總錄』二(大正五五・一一七三B)や元照の『遺教經論住法記』等によつて知られるが、これらは何れも今日殘つてゐないやうである。宋の眞宗皇帝(A. D. 998—1023在位)の知きも、自ら註を爲してこれを刊行し、廣く天下に頒布したといふ。所謂『御註遺教經』なるものがこれであつて、眞宗の天禧三年(A. D. 1019)、『御註四十二章經』と倶に入藏されてゐる(『佛祖統紀』四四)。宋の中葉、淨源(A. D. 1011—1088)あつて

(二)『佛遺教經論疏節要』一卷

を著した。後、これに明の株宏の補註せるものが現存して、『續藏』訓軌九・『卍字藏經』三四套・一〇冊並びに『大正藏經』四〇卷等に收められてゐる。淨源にはこの外に『節要科』一卷・『廣宣鈔』一卷があつたやうである(『新編諸宗教藏總錄』二)が、この二は現今見られない。同じ頃元照(A. D. 1048—1116)は

(三)『遺教經論住法記』一卷

を、稍々後れて觀復は紹興十四年(A. D. 1144)

(四)『遺教論記』三卷

を著し、何れも『大日本續藏經』第一輯・八六套・三冊に收められてゐる。元照・觀復と同じ頃、禪宗曹洞派の祖守遂は「兵火の餘に於て草衣木食して學者の爲に三經(『佛遺教經』・『四十二章經』・『佛祖三經指南』)を講し」たと傳へられてゐる(道霈『佛祖三經指南』自序)から、當時本經はすでに『佛祖三經』の一として崇重されてゐたことが解るのである。而して守遂の註に更に後に明の了章が補註せるものが、即ち『大日本續藏經』第一輯五九套・一冊に收められゝ

(五)『佛遺教經補註』一卷

である。

明代に入つては、智旭(A. D. 1599—1655)が『四十二章經』・『八大人覺經』と倶に本經を解釋し、彼の『佛祖三經解』中に收め、

(六)『佛遺教經解』一卷

と題した。同じ頃、道霈亦『四十二章經』・『梵山警策』と倶にその著『佛祖三經指南』中に本經の註を出した。即ち

(七)『佛遺教經指南』一卷

がそれである。この二は何れも『大日本續藏經』第一輯・五九套・二冊中に編入されてゐる。なほ明代に於て、株宏や了章が本經を尊信してゐたことは、彼等が何れも前代の註疏に補註してゐることによつても知らるであらう。

我が國に於ても、本經は古くから重んぜられ、殊に禪家に於ては、『佛祖三經』の一として皆ねく讀誦されて來た所である。特に最近佛教の通俗化の風潮に乘じて、平易簡明なる本經の知きは、通俗編纂素を簡ばず弘く講讀さるゝに至つたやうである。註釋書としては故前田慧雲博士の(八)『佛遺教經講話』一卷や高島米峰氏の

(九)『佛遺教經講話』一卷

の外、佛教大學通信講義中に於て故前田宗惠氏の執筆された

(十)『佛遺教經講義』一卷

等あり、何れも通俗平明を旨として解釋され、初學者に取つての好參考書である。

〔本經の內容〕本經を大・小乘の何れに攝すべきかに就いては、古來學者によつてその見を異にしてゐる。法經等の『衆經目錄』・『仁壽錄』・『靜泰錄』・『大唐內典錄』等は何れも本經を小乘經に攝してゐるが、『開元錄』二二(大正五五・六〇四A)には本經を以て大乘經中に收め、その下に

「右此遺教經、舊錄所載多在小乘律中、或編小乘經內、今以眞諦法師譯遺教論、彼中解釋多約大乘、小宗不顯、故移編此」

と註されてゐる。これによれば本經を小乘律中に攝めた經錄もあつたやうである。

かく經・律、大・小に於て本經の所屬が一定しなかつたことは、畢竟本經が種々なる內容を包含するに由るものとみられる。惟ふに本經の思想は經・律及び大・小乘に於てそれ〳〵中間的地位を占むるものであつて見方により何れとも見得る性質をもつてゐる所よりして、かく種々の說を生ずるに至つたものであらう。內容上、その他のことに就いては、いま特に論ずべきものはない。

❼(參考) 出三藏記第二、法經錄第三、三寶紀第八、仁壽錄第一、靜泰錄第一、內典錄第三、譯經圖紀第三、開元錄第四、貞元錄第六 ❶文明以前翻刻宋版(高大、寄・一・二三)〈帝國、貧〉足利時代寫(寶龜院)明治一二刊(帝國、一八六・一三)明治一三刊(內閣)(帝國、一三・二二六) (深浦正文)

佛垂般涅槃略說教誡經 ❶(日) Butsui-hatsu-ne-han-ryaku-setsu-kyō-kai-kyō. 國譯佛垂般涅槃略說教誡經 ❷存、國譯大藏經經部第一一 ❸山上曾源譯

佛垂般涅槃略說教誡經 ❶(日) Butsui-hatsu-ne-han-ryaku-setsu-kyō-kai-kyō. 國譯佛垂般涅槃略說教誡經 ❷一卷 ❸國譯一切經經集部第三 ❹深浦正文譯

佛垂般涅槃略說教誡經和譯 ❶(日) Butsui-hatsu-ne-han-ryaku-setsu-kyō-kai-kyō-wa-yaku. ❷一卷 ❸存 ❹澤柳政太郎(—昭和二) A. D. 1937)譯 ❺明治二四刊 ❻(谷大、餘洋・一〇〇)

佛制夏安居旨趣略記 ❶(日) Butsu-sei-ge-an-go-shi-shu-ryaku-ki. ❷一冊 ❸存、照遍和尙全集第五 ❹上田照遍(—文政一一—明治四〇A. D. 1828—1907)述

佛制比丘六物講 ❶(日) Butsu-sei-bi-ku-roku-motsu-kō. ❷一冊 ❸存 ❹寫本(龍大、二〇七四・二三)

佛制比丘六物圖 ❶(日) Butsu-sei-bi-ku-roku-motsu-zu. (支) Fo-chih-pi-chiu-liu-wu-tu. 六物圖 ❷二卷 ❸存、大正四五・八九六No. 1900、卍續二・一〇・三 ❹元照(慶曆八—政和六A. D. 1048—1116) ❺宋元豐三(A. D. 1080)

❻律藏中、比丘必具の六物(僧伽梨・鬱多羅僧・安陀會・鉢多羅・尼師壇・漉水囊)を制したまへるに因み、諸律の制文に準據して其大要を撮り、道宣律師の舊疏を宗とし、愛ぬるに見聞せる所を以てして圖示し解說せるもの、かく威儀作法を經んずる徒衆の爲に、華嚴經の「具足受持威儀教法、能令僧寶不斷……」の文を引いて誡しめ、その衣法に於ては特に制意・釋名・求財・財體・色相・衣量・條數多少・重數・作衣法・加法行儀の十位を分ちて授くるに正教を引いて準承する所あらしめ、義淨三藏の新律を斥けて非濫となし、その行儀法に於ては十五種自然界を細釋し、且つ受持の失不に就て種々繫意すべきを述べたり。但、第五物尼師壇を明す下に於て、「寄此略辨紙支・覆肩二衣」として僧祇支・覆肩衣に就て制意・釋名・衣相・著用法の四位を分ちて述べたるは不毒なり。正に此等は前三物の下に尼僧の五衣として述ぶべかりしなり。尙、佛制比丘六物圖は六物圖辯訛中の引用文によるに、元照の師なる東藏律師慧鑑の撰にして元照の創述に非ず、元照は唯、行事上に於て東藏律師の撰述を補ひ改めたるに過ぎざるものと推せらる。

即ち六物圖辯訛(續藏第二編第拾套第三冊、二四九在下)中の「受不〻云〻三」に於て衣を受持する時三說すべきを示さず「捨不〻云〻一」に於て捨衣せん時一說すべきを示さずと難ずる如きは、元照の六物圖には(續藏同二四六右上六行十行)三說と一說とを補へり。而して辯訛(二四九在下十五行)に大張〻口云〻指斥非濫所謂不消位面、誠可報也と云へる引文は、これ正しく佛制六物圖(二四三右上七行)に指〻斥非濫、所謂不〻看〻他面、とあり。或は辯訛の明相敍論(二五〇右上九行)に世中相傳號曰明孔云々の文は佛制六物圖(二四五左上初行)に述べたるを引用せるもの、而も辯訛の說を見るに「比見〻六物圖中、潛改增削似〻近〻從、諫如〻受。不〻云〻三、捨不〻云〻一今例增〻之……」と述べたるは正しくこれ元照が、師なる東藏律師の撰述を增削して而も元照自らの撰述とせるものゝ如し。されば本書は元照出とあるも元照の撰出にあらずして、唯東藏律師撰述を改補せるに過ぎざるものと推せらる。

❼(注釋) 辯訛一卷(卍續)妙生。採摘三卷大江。纂註四卷宗覺、依釋四卷慧淑、編要一卷菩寂(以上、日藏)。私抄三卷仙祐、私記一卷日遠、六物辨一卷菩寂(以上、佛全)。依釋考略二卷慧淑。依釋便覽二卷(寫)。講錄一卷(寫)。鼎讎三卷玄心。私抄三卷昭瑩。解釋四卷祖淳。鈔一卷(寫)。撰話記(寫)。

❽萬治二刊(龍大、二〇七四・二五)(高大、寄・一・一一)寫本(正大、一一八九・二) (西本龍山)

佛制比丘六物圖 ❶(日) Butsu-sei-bi-ku-roku-motsu-zu. 校正佛制比丘六物圖 ❷一卷 ❸存 ❹明治一二刊(谷大、餘大・四一三、五六八)(正大、一一八九・二、六)明治一四刊(帝國、一三九・一六一)(京大、藏・四ヲ・一)寫本(正大、一一八九・五)

佛制比丘六物圖 ❶(日) Butsu-sei-bi-ku-roku-motsu-zu. 首書佛制比丘六物圖 ❷一卷 ❸存 ❹寫文四刊 ❺(谷大、餘大・一五五二)(龍大、研佛)(帝國、八二二・二八七)

佛制比丘六物圖 ❶(日) Butsu-sei-bi-ku-roku-motsu-zu. 頭書佛制比丘六物圖 ❷一卷 ❸存 ❹延寶六刊 ❺(龍大、二〇七四・二八—二九)

佛制比丘六物圖依釋 ❶(日) Butsu-sei-bi-ku-roku-motsu-zu-e-shaku. 六物圖依釋 ❷四卷 ❸存、日本大藏經第三五或律宗章疏第二 ❹滿堂慧淑(—元祿八A. D. 1695—)述 ❺元祿一一刊 ❻(高大、寄・一・一一〇)(谷大、餘大・一五五三)(正大、一一八九・一三—一五、一七、七四)(龍大、二〇七四・三〇、研佛)

佛制比丘六物圖依釋考略 ❶(日) Butsu-sei-bi-ku-roku-motsu-zu-e-shaku-kō-ryaku. ❷二卷 ❸存 ❹滿堂慧淑(—元祿八A. D. 1695—)述 ❺寶永五刊 ❻(谷大、餘大・一〇八六)(龍大、二〇七四・三三)

佛制比丘六物圖依釋講述 ❶(日) Butsu-sei-bi-ku-roku-motsu-zu-e-shaku-kō-jutsu. ❷一冊 ❸存 ❹觀山述 ❺寫本(龍大、二〇七四・三二)

佛制比丘六物圖依釋便覽 ❶(日) Butsu-sei-bi-ku-roku-motsu-zu-e-shaku-ben-ran. ❷二卷 ❸存 ❹寫本(谷大、餘大・一五五五)

佛制比丘六物圖考索 ❶(日) Butsu-sei-bi-ku-roku-motsu-zu-kō-saku. 首書佛制比丘六物圖考索 ❷一冊 ❸存 ❹直勤 ❺延寶六刊 ❻(龍大、二〇七四・三五)(谷

乗馬（名）Bus-seki-gyo. 火車賃 ❸（名）Bus-seki-hi-ka-rou-motsu-zu-ka-gyo. 火車運賃 ❹ 1 参 ❺ 名 ❻ 名 日本式の家屋 ❼ 名 日本式の家屋 ❽ 名 日本式の家屋（A. D. 1572—1612）頃 ❾ 名 日本式の家屋（A. D. 1600）頃 ❿ 名 日本式の家屋 ⓫ 名（江戸）日本式の家屋 ⓬ 名 日本式の家屋（A. D. 1707—1781）頃 ⓭ 名 日本式の家屋（東京市内・山手）頃（文・大・昭31・12）

乗馬（名）Bus-seki-hi-ka-rou-motsu-zu-ka-ro. ❶ 名 ❷ 名 日本式の家屋 ❸ 名 日本式の家屋（一説A. D. 1596—1614—）頃 ❹ 名 日本式の家屋 ❺ 名 日本式の家屋

乗馬（名）Bus-seki-hi-ka-rou-motsu-zu-sai-chaku. 火車到着 ❶ 名 ❷ 名 日本式の家屋 ❸ 名 日本式の家屋（A. D. 1651）頃 ❹ 名 日本式の家屋 ❺ 名（文・大・昭14・7）（東京市内・山手）

乗馬（名）Bus-seki-hi-ka-rou-motsu-zu-shi-sho. ❶ 名 ❷ 名 日本式の家屋（A. D. 1596—1614—）頃 ❸ 名 日本式の家屋 ❹ 名 日本式の家屋

乗馬（名）Bus-seki-hi-ka-rou-motsu-zu-shi-tei. ❶ 名 ❷ 名 日本式の家屋（一説A. D. 1684—1687—）頃 ❸ 名 日本式の家屋 ❹ 名（文・大・昭14・2）

乗馬（名）Bus-seki-hi-ka-rou-motsu-zu-sen-ya. ❶ 名 ❷ 名 日本式の家屋（文・大・昭11・10・2）

乗馬（名）Bus-seki-hi-ka-rou-motsu-zu-sen-wa-ki. ❶ 名 ❷ 名 日本式の家屋（文・大・昭14・1・15）

乗馬（名）Bus-seki-hi-ka-rou-motsu-zu-tei. ❶ 名 ❷ 名 日本式の家屋

乗馬（名）Bus-seki-hi-ka-rou-motsu-zu-tsu-chi. ❶ 名 ❷ 名 日本式の家屋 ❸ 名 日本式の家屋（文・大・昭11・8・1）

乗馬（名）Bus-seki-hi-ka-rou-motsu-zu-tsu-ro. ❶ 名 ❷ 名 日本式の家屋（文・大・昭11・8・1）

乗馬（名）Bus-seki-hi-ka-rou-motsu-zu-ya-ki. ❶ 名 ❷ 名 日本式の家屋（文・大・昭11・8・1）

乗馬（名）Bus-seki-hi-ka-rou-motsu-zu-yo-ku. ❶ 名 ❷ 名 日本式の家屋（文・大・昭11・8・1）

乗馬（名）Bus-seki-hi-ka-rou-motsu-zu-yu-ka

王朝に成る。

佛說四人出現世間經 ❶(日) Bus-setsu-shi-nin-shutsu-gen-se-ken-gyō. (支)Fo-shuo-ssū-jên-ch'u-hsien-shih-chi-ey-ching. 四人出現經 ❷1卷 ❸存。大正1・八三四No. 127。續大四。卍1四・一。佛全723法。佛737法。大729法。明社585藏。北585藏。龍703北。天722法。昭658北。法712北。新959世。明治587國。Nj. 589 ❹宋天竺法護譯(天元1・九一—三一)(紀西A. D. 394—468)譯

佛說四人出現世間經 ❶(日) Bus-setsu-shi-nin-shutsu-gen-se-ken-gyō. (支)Fo-shuo-ssū-jên-ch'u-hsien-shih-chi-ey-ching. 四人出現經 ❷1卷 ❸存。大正1・八三四No. 127。續大四。卍1四・一。佛全723法。佛737法。大729法。明社585藏。北585藏。龍703北。天722法。昭658北。法712北。新959世。明治587國。Nj. 589 ❹宋天竺法護譯(天元1・九一—三一)(紀西A. D. 394—468)譯

佛說大集會經聞慧章 ❶(日)Bus-setsu-dai-mu-ryō-ju-kyō-shin-gi. ❷1卷 ❸存 ❹田中順川等 ❺大正1・一四 ❻宋

佛說法滅盡經 ❶(日) Bus-setsu-hō-metsu-jin-gyō. ❷存。唐道宣撰述之內明論撮述 ❸大內青巒(弘化二—大正七A. D. 1845—1918)著

佛說會圖 ❶(日)Bus-so-e-zu ❷1卷 ❸存 ❹家永豊吉 ❺平 ❻(國天・一〇六三・八)

佛說經集 ❶(日)Bus-so-kī-en. ❷1卷 ❸存 ❹(參考) 慧海日發

佛說經集集門國四十八問 ❶(日) Bus-sō-kī-em-mu-mon-kwan-shi-jū-has-soku. ❷1卷 ❸存 ❹宗鏡 ❺貫未完刊 ❻(宋天・一七五・六)

佛說卷請 ❶(日)Bus-so-kwam-ben. ❷1卷 ❸存 ❹寶曉撰述(天保一・一—安永末A. D. 1698—1772—) ❺(參考) 慧海日發

佛說宗教考 ❶(日) Bus-sō-ke-sō-kō. ❷1卷 ❸存。大日本佛教全書第四十七 ❹東京帝國 ❺元禄一・五(A. D. 1702)三月十四日

❹本書の內容は同於文獻にあり、即ち日本佛教各宗派間關係を論述せる書にして、冒頭に三種所說教法に關する問題を引用し、次に佛教に於ける教理の發展を說明し、後に各宗派の起源を明し、終に各宗派相互の關係を說く。本書は大正十三年刊行の「佛教全書」第四卷に收錄せられたるものなり。(澤人宗哲)

佛說三昧經 ❶(日)Bus-so-san-gyō. 佛說三昧經 ❷1卷 ❸存 ❹貫文刊 ❺(宋天・一一一・一一一)(宋國・八一一・一一四)

佛說三昧經 ❶(日)Bus-so-san-gyō-chū. (支) Fo-tsu-san-ching-chu. ❷存 ❸天台智顗(一五五四—一五九四A. D. 1119—1125—)述 ❹佛說法華經文句 ❺「佛說」本經名四十二字。「佛說」以下「法華經文句」。「佛說」以下「法華經文句」。「佛說」以下「法華經文句」

nap. ❷一卷 ❸存 ❹周印 ❼(參考) 日本禪林撰述書目 ⑨應永二五刊(正大、一〇三一・六七)寫永一一刊(駒大)(帝國一二一三・二五九、八二一・一四九)

佛祖宗派世譜 ❶(日) Butsu-so-shō-ha-sei-fu (支) Fo-tsu-tsung-p'ai-shih-p'u. ❷八卷 ❸存、卍續二乙・二〇・四 ❹悟道(萬曆四〇—康熙一二; A. D. 1612—1673)編 ❺清順治一一(A. D. 1654)

⑥本書は鷲湖妙用和尚の法嗣であり南岳下十九世無準師範禪師十五世の法孫に當る嘉禾(浙江嘉興縣)金明寺介庵悟道和尚が五家の宗原を明にし其の法統の世次を圖示した傳燈世譜である。清世祖帝順治十一年長至日(明和曆八年冬至日)(A. D. 1654)悟道四十四歳のとき自序して行つたものである。

全八卷。卷一には佛祖正脈、諸祖旁出。卷二には南嶽、溈仰。卷三には臨濟、楊岐。卷四には黄龍、大慧。卷五には虎丘、雲岩、瓶橋。卷六には青原、曹洞。卷七には龍源、雲門。卷八には雪竇、法眼の篇次にて其の世譜を收めて居るが、其の大略は本陳道悉の嗣墓に係る「禪燈世譜」に同じであるから續藏所收の本書に於ては、禪燈世譜卷六にある「無準師範」の法嗣斷橋妙倫下の法系を詳しく示して南岳下三十四世介庵自らの世代までを圖示し、曹洞宗の世譜では天童山の長翁如淨禪師下に鹿門自覺を揭出して居る(鹿門自覺は芙蓉道楷の法嗣とするものと、本書の如く天童如淨の法嗣とするものとの異說あり定說は芙蓉と爲す)是の鹿門下を六傳して、漢然圓澄の嗣たる雪浪明慧、石雨明方、瑞白明雪等を揭げ、梅谷元饒の嗣巻浪道盛、博山無異元來の嗣雪關智閑等を揭げて居る如き、禪門宗派の世譜を見る上に就ての資料である。

介庵、諱は悟道、字は覺先、嘉興府張氏に生れ、建寧府普明寺の鷲湖妙用に嗣ぎ、明崇禎十六年冬徑山に、後に餘杭の廣福、武康の天池などに歷住し、清順治五年金明寺に遷住、清康熙十二年九月二十三日(A. D. 1673)壽六十二、腘三十七を以て順世したもので、本書は此の金明寺に於ける述作である。著作には語錄十卷、源流頌一卷があり、法嗣には武康栢山雲壽寺素弘眞理、山彌眞在、竹巷鼎衍などを結めとし斷橋下の法系を詳述した徑石滴孔集卷五には四十二名の法嗣を揭出して居る。 (大久保堅瑞)

佛祖宗派總圖 ❶(日) Butsu-so-shō-ha-sō-zu (支) Fo-tsu-tsung-p'ai-tsung-t'u. ❷一結 ❸存 ❹宋汝達編 ❼(參考) 禪籍目錄

佛祖正印源流道影贊 ❶(日) Butsu-so-shō-in-gen-ryū-dō-e-san. (支) Fo-tsu-chēng-yin-yüan-liu-tao-ying-tsan. ❷一冊 ❸存 ❹即非如一(元和二—寛文一一; A. D. 1616—1671) ❺康熙二刊 ⑨(駒大)

佛祖正宗道影 ❶(日) Butsu-so-shō-dō-e. (支) Fo-tsu-chēng-tao-ying. ❷四卷 ❸存 ❹古月 ❺光緒六刊 ⑨(龍大、二〇五九・一三)

佛祖正傳教授戒文纂解 ❶(日) Butsu-so-shō-den-kyō-ju-kai-mon-sō-ge. ❷一冊 ❸存 ❹秋野孝道・安政五—昭和九 A. D. 1853—1934)述 ❺昭和二刊 ⑩東京鴻盟社

佛祖正傳古今捷錄 ❶(日) Butsu-so-shō-den-kō-kon-shō-roku. (支) Fo-tsu-chēng-ch'uan-ku-chin-chieh-lu. 古今捷錄 ❸存、卍續二乙・一九・五 ❹清呆性、—康熙五 A. D. 1663—)撰 ⑩古今捷錄の下を見よ。

佛祖正傳三物辨 ❶(日) Butsu-so-shō-den-san-mōtsu-hen. 室中三物辨 ❷一冊 ❸存 ❹萬仮道坦(元祿一一—安永元以後 A. D. 1698—1772—)、丘宗瀧校 ❺大正二刊 ⑨(駒大)

佛祖正傳直傳 ❶(日) Butsu-so-shō-den-jiki-den ❷一冊 ❸存 ❹峰翁祖一(文永一一—延文二 A. D. 1274—1357)編 ❼(參考) 禪籍目錄

佛祖正傳授衣鉢作法 ❶(日) Butsu-so-shō-den-ju-e-hō-sa-hō. 授衣鉢作法 ❷一冊 ❸存 ❹希叟 ❼(參考) 禪籍目錄

佛祖正傳集 ❶(日) Butsu-so-shō-den-shū. ❷一冊 ❸存 ❹妙瑞(元祿九—明和元 A. D. 1696—1761)集 ❺寛延元刊 ⑨(立大、A二〇・一六四×京學)

佛祖正傳信證妙譯修證義講話 ❶(日) Butsu-so-shō-den-shin-shō-myō-yaku-shū-shō-gi-kō-wa. ❸存 ❹原田祖岳著 ❺昭和七刊 ⑩東京中央佛教社

佛祖正傳眞宗略派血脈 ❶(日) Butsu-so-shō-den-shin-shū-ryaku-ha-ketsu-myaku. ❷一卷 ❸存 ❹了譽聖冏(曆應四—應永二七 A. D. 1341—1420)撰 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

佛祖正傳禪戒鈔 ❶(日) Butsu-so-shō-den-zen-kai-shō. ❷一卷 ❸存 ❹萬仮道坦(元祿一一—安永元以後 A. D. 1698—1772—) ❺寶曆八刊 ⑨(谷大、餘大・三二九八)×(高大、寄・一・二五)

佛祖正傳禪戒鈔講話 ❶(日) Butsu-so-shō-den-zen-kai-shō-kō-wa. ❷一冊 ❸存 ❹淨國 ❺明治三六刊 ⑨(龍大、研佛)×(帝國、八一・八八六)

佛祖正傳大戒決 ❶(日) Butsu-so-shō-den-dai-kai-ketsu. ❷三卷 ❸存、禪學大系戒部之內 ❹瑞方面山(天和三—明和六 A. D. 1683—1769) ❺延享五刊 ⑨(谷大、餘大・一七八四、二八三一)×(正大、一一八四・九九)×(駒大)

佛祖正傳大戒決或問 ❶(日) Butsu-so-shō-den-dai-kai-ketsu-waku-mon. ❷一卷 ❸存 ❹瑞方面山(天和三—明和六 A. D. 1683—1769) ❺寛延元刊 ⑨(龍大、二六七五・三)×(谷大、餘大・三三九〇)

佛祖正法直傳 ❶(日) Butsu-so-shō-hō-jiki-den. 佛祖正傳直傳 ❸存 ❹峰翁祖一(文永一一—延文二 A. D. 1274—1353)撰

⑥禪籍志上卷に云く「此史。明覺山大圓寺住持祖一撰(中略)始自七佛、終至密菴。釋迦佛無傳。只載嗣我獨歩偈。及迦葉自稽。調達請佛。拈華微笑。四公案。火聚。二十八祖迦葉阿難二傳。大抵如傳燈錄。商那以下亦只載傳法偈。下宜記傳(下略)云々。

佛祖心印戒儀 ❶(日) Butsu-so-shin-in-kai-gi. ❷一冊 ❸存 ❹東福圓爾(享保六—寛政四 A. D. 1721—1792) ⑨寫本(駒大)

佛祖心燈 ❶(日) Butsu-so-shin-tō. (支) Fo-tsu-hsin-teng. ❷一卷 ❸存、卍續二乙・二三・三

⑥本書は毗婆尸佛より釋迦牟尼佛に至る七佛並に摩訶迦葉尊者より西天二十八祖東土初祖菩提達磨大師に至り大師より東土六祖大鑑慧能禪師に及ぶ三十三祖との傳法偈を收めたもので、佛心相承、法燈相續との義より佛祖心燈と題したものであらう。

是の佛法偈は景德傳燈錄より始つたもので、毗婆尸佛を過去莊嚴劫第九百九十八尊と次第して毗舍浮佛を同一千尊と爲し、拘留孫佛を現在賢劫第一尊とし次第して釋迦牟尼佛を同第四尊として居る。また摩訶迦葉を天竺第一祖とし次第して第二十八祖菩提達磨に至り中華初祖たる是の菩提達磨より次第して第三十三祖、中華六祖大鑑慧能に至つて居る。其の二十八祖の列名には付法藏因緣傳、圓覺經大疏鈔、內證佛法血脈譜等の異說があるが、是の景德傳燈錄の二十八祖の列名は今日禪門に過く流通して居る列名で、禮經、(唐法海編の施法寶壇經、興聖寺本の壇經等は列名異る)宗鏡錄の如きも是れに據つて居る。

傳法偈の內容は達磨である文字を使用して諸法無法、罪福性空を說いたもので、過去莊嚴劫等の佛の傳法偈を相承し得るの理なく、總て後人の假作たることは明かである。七佛偈に就ては、出三藏記集卷四、歷代三寶紀卷十一等に見へ、歷代三寶紀には七佛偈の作者を齊世沙門釋道偉として居り、傳法正宗論卷上には二十八祖並に其の傳法偈に就て辯護して居るが、何れも論據薄弱たるの譏りを免れない。

⑨光緒一六刊 ⑨(谷大、餘大・一八六五)(京大、藏・二四ヲ・九) (大久保堅瑞)

佛祖圖贊 ❶(日) Butsu-so-zu-san ❷一冊 ❸存 ❹隱元隆琦(文祿元—延寶元 A. D. 1592—1673)・丹羽玉峰編 ⑨(哲、ら・四・左・二八)

佛祖通載 ❶(日) Butsu-so-tsū-sai. (支) Fo-tsu-tung-tsai. 佛祖歷代通載、通載 ❷二十二卷 ❸存、大正四九・四七七 No. 2036、續食一〇—一一、卍續二乙・五・二—四、明北藏二欽至豪、清1613杏至本、N. 1637 ❹念常集 ❺元至正元(A. D. 1341) ⑥佛祖歷代通載の下を見よ。 ⑦(參考) 諸宗章疏錄第二、禪藝志卷下

佛祖通載訂考並略釋 ❶(日) Butsu-so-tsū-sai-tei-kō-narabini-ryaku-shaku. ❷二十二卷 ❸存 ❹無著道忠、承應二—延享元 A. D. 1653—1744)述 ⑨享保一〇寫(駒大)寫本(京大、印智・S II・一三)

佛祖傳宗派圖 ❶(日) Butsu-so-den-shū-ha-zu. ❷一卷 ❸存 ⑨(谷大、餘丙・六六)

佛祖傳宗派圖 ❶(日) Butsu-so-den-shū-ha-zu. 正誤佛祖傳宗派圖、正誤宗派 ❷三冊 ❸存 ⑨刊本(谷大、餘大・一二六〇)

佛祖傳法偈 ❶(日) Butsu-so-den-hō-ge? ❷一冊 ❸存 ❹源州寒註 ❼(參考) 禪籍目錄

佛祖統紀 ❶(日) Butsu-so-tō-ki. (支) Fo-tsu-t'ung-chi. 統紀 ❷五十四卷或五十五卷 ❸存、大正四九・一二九 No. 2035、續食八—九、卍續二乙・四・一—四、明北1635城至碼、N. 1661 ❹志磐撰 ❺宋咸淳五(A. D. 1269)

⑥本書は釋尊を初め、印度支那の高僧の傳記、台教流傳の次第等を詳述したる天台一家の正史である。總じて本紀八卷、世家二卷、列傳十二卷、表二卷、志三十卷より成る。初に明萬曆四十二年明昱註に揭載の別序、宋咸淳五年の自序に次で校正の五者を出す。又本書撰述の通例を示し本紀、世家、列傳、表、志の釋、古製の諸錄、立傳の三例、題義、師名、衆疑、諸引文、修書諸師、修書傍引等の諸項を列ねてゐる。

尙正藏五十四卷は續藏に於て五十五卷とするは第二十一卷下に諸師列傳六之十一法智第十一世廣智禪師南屏三家の二十二字が一卷をなし二十一卷を改めて二十二となり乃至五十四が五十五と爲る譯で、目錄のみありて本紀を闕く。目次左の如し。

(目とあるは目次のみ)。

〔卷一—四〕 (一)釋迦牟尼佛本紀

1明本迹、2叙聖源、3名釋迦、4下兜率、5託母胎、6住胎宮、7示降生、8出父家、9成佛道、(4—9大體所見)、10下兜率、11託母胎、12示降生、13出父家、14降天魔、15成佛道、(10—15小體所見)、16轉法輪(1華嚴、2鹿苑、3方等、4般若、5法華涅槃)、17入涅槃、18分舍利、19集三藏。

〔卷五〕 (二)西土二十四祖紀

1摩訶迦葉、2阿難陀、3商那和修、4末田地、5優波毱多、6提迦多、7彌遮迦、8佛陀難提、9佛陀密多、10脇比丘、11富那夜奢、12馬鳴、13迦毘摩羅、14龍樹、15迦那提婆、16羅睺羅多、17僧佉難提、18僧伽耶舍、19鳩摩羅駄、20闍夜多、21婆修槃駄、22摩拏羅、23鶴勒那、24師子。

〔卷六—七〕 (三)東土九祖紀

1龍樹、2北齊、3南岳、4智者、5章安、6法華、7天宮、8左溪、9荊溪。

〔卷八〕 (四)興道下八祖紀

1興道、2至行、3正定、4妙說、5高論、6淨光、7寶雲、8法智。

〔卷九—一〇〕 (五)諸祖旁出世家

1南岳旁出世家 僧照、大義、慧成、慧超、慧耀、慧通、慧威、智瓘、慧命、玄光、方仝、慧旻 2智者旁出世家 試觀、法喜、智越、法慎、普明、智璉、智晤、法彥、智詣、大志、道悅、等覺、般若、禮宗、法雲、行簡、慧威、法俊、慧奐、慧稠、慧普、法藏、法論、智晃、法琳、智寂、敬脫、僧珍、陳臬太子潤、陳永陽王伯智、陳鍼、蔣涵敎、沈君理、徐陵、王固、柳顧言、毛喜 3章安旁出世家 弘景、吉藏、明曠、大慧、智拔 4天宮旁出世家 玄覺 5左溪旁出世家 神邕、道邃、大義、元宗、道源、法源 6荊溪旁出世家 普門、元晴、行滿、法順、梁肅、李華 7興道旁出世家 守素 8至行旁出

數字號 ❶題名(書名) ❷卷數 ❸著 ❹編 ❺存 ❻代年作著 ❼解說者內 ❽書文(書名)書名(書名)(書名)書名 ❾月年の刊 ❿所現(名)(名)書名 ⓫所行發

名称行政書（名称書）・組織図・沿革・月々の利益金・（書籍書籍図）・書式・法令・代々行政書・産業・政令・数百書・（名称）名称・政令・法令・法令文書

第六十六号第二種郵便物認可　明治四十一年十一月十一日　官報（号外）

（第一〇）（一〇一）陸軍省令第二十号　（一〇二）陸軍省令第二十一号　（一〇三）陸軍省令第二十二号　（一〇四）陸軍省令第二十三号　（一〇五）陸軍省令第二十四号　（一〇六）陸軍省令第二十五号　（一〇七）陸軍省令第二十六号　（一〇八）陸軍省令第二十七号　（一〇九）陸軍省令第二十八号　（一一〇）陸軍省令第二十九号　（一一一）陸軍省令第三十号　（一一二）陸軍省令第三十一号　（一一三）陸軍省令第三十二号　（一一四）陸軍省令第三十三号　（一一五）陸軍省令第三十四号　（一一六）陸軍省令第三十五号　（一一七）陸軍省令第三十六号　（一一八）陸軍省令第三十七号　（一一九）陸軍省令第三十八号　（一二〇）陸軍省令第三十九号　（一二一）陸軍省令第四十号　（一二二）陸軍省令第四十一号　（一二三）陸軍省令第四十二号　（一二四）陸軍省令第四十三号　（一二五）陸軍省令第四十四号　（一二六）陸軍省令第四十五号　（一二七）陸軍省令第四十六号　（一二八）陸軍省令第四十七号　（一二九）陸軍省令第四十八号　（一三〇）陸軍省令第四十九号　（一三一）陸軍省令第五十号　（一三二）陸軍省令第五十一号　（一三三）陸軍省令第五十二号　（一三四）陸軍省令第五十三号　（一三五）陸軍省令第五十四号　（一三六）陸軍省令第五十五号　（一三七）陸軍省令第五十六号　（一三八）陸軍省令第五十七号　（一三九）陸軍省令第五十八号　（一四〇）陸軍省令第五十九号　（一四一）陸軍省令第六十号　（一四二）陸軍省令第六十一号　（一四三）陸軍省令第六十二号　（一四四）陸軍省令第六十三号　（一四五）陸軍省令第六十四号　（一四六）陸軍省令第六十五号　（一四七）陸軍省令第六十六号　（一四八）陸軍省令第六十七号　（一四九）陸軍省令第六十八号　（一五〇）陸軍省令第六十九号　（一五一）陸軍省令第七十号　（一五二）陸軍省令第七十一号　（一五三）陸軍省令第七十二号　（一五四）陸軍省令第七十三号　（一五五）陸軍省令第七十四号　（一五六）陸軍省令第七十五号　（一五七）陸軍省令第七十六号　（一五八）陸軍省令第七十七号　（一五九）陸軍省令第七十八号　（一六〇）陸軍省令第七十九号　（一六一）陸軍省令第八十号　（一六二）陸軍省令第八十一号　（一六三）陸軍省令第八十二号　（一六四）陸軍省令第八十三号　（一六五）陸軍省令第八十四号　（一六六）陸軍省令第八十五号　（一六七）陸軍省令第八十六号　（一六八）陸軍省令第八十七号　（一六九）陸軍省令第八十八号　（一七〇）陸軍省令第八十九号　（一七一）陸軍省令第九十号　（一七二）陸軍省令第九十一号　（一七三）陸軍省令第九十二号　（一七四）陸軍省令第九十三号　（一七五）陸軍省令第九十四号　（一七六）陸軍省令第九十五号　（一七七）陸軍省令第九十六号　（一七八）陸軍省令第九十七号　（一七九）陸軍省令第九十八号　（一八〇）陸軍省令第九十九号　（一八一）陸軍省令第百号　（一八二）陸軍省令第百一号　（一八三）陸軍省令第百二号　（一八四）陸軍省令第百三号　（一八五）陸軍省令第百四号　（一八六）陸軍省令第百五号　（一八七）陸軍省令第百六号　（一八八）陸軍省令第百七号　（一八九）陸軍省令第百八号　（一九〇）陸軍省令第百九号　（一九一）陸軍省令第百十号　（一九二）陸軍省令第百十一号　（一九三）陸軍省令第百十二号　（一九四）陸軍省令第百十三号　（一九五）陸軍省令第百十四号　（一九六）陸軍省令第百十五号　（一九七）陸軍省令第百十六号　（一九八）陸軍省令第百十七号　（一九九）陸軍省令第百十八号　（二〇〇）陸軍省令第百十九号　（二〇一）陸軍省令第百二十号　（二〇二）陸軍省令第百二十一号　（二〇三）陸軍省令第百二十二号　（二〇四）陸軍省令第百二十三号　（二〇五）陸軍省令第百二十四号　（二〇六）陸軍省令第百二十五号　（二〇七）陸軍省令第百二十六号　（二〇八）陸軍省令第百二十七号　（二〇九）陸軍省令第百二十八号　（二一〇）陸軍省令第百二十九号　（二一一）陸軍省令第百三十号　（二一二）陸軍省令第百三十一号　（二一三）陸軍省令第百三十二号　（二一四）陸軍省令第百三十三号　（二一五）陸軍省令第百三十四号　（二一六）陸軍省令第百三十五号　（二一七）陸軍省令第百三十六号　（二一八）陸軍省令第百三十七号　（二一九）陸軍省令第百三十八号　（二二〇）陸軍省令第百三十九号　（二二一）陸軍省令第百四十号　（二二二）陸軍省令第百四十一号　（二二三）陸軍省令第百四十二号　（二二四）陸軍省令第百四十三号　（二二五）陸軍省令第百四十四号　（二二六）陸軍省令第百四十五号　（二二七）陸軍省令第百四十六号　（二二八）陸軍省令第百四十七号　（二二九）陸軍省令第百四十八号　（二三〇）陸軍省令第百四十九号　（二三一）陸軍省令第百五十号　（二三二）陸軍省令第百五十一号　（二三三）陸軍省令第百五十二号　（二三四）陸軍省令第百五十三号　（二三五）陸軍省令第百五十四号　（二三六）陸軍省令第百五十五号　（二三七）陸軍省令第百五十六号　（二三八）陸軍省令第百五十七号　（二三九）陸軍省令第百五十八号　（二四〇）陸軍省令第百五十九号　（二四一）陸軍省令第百六十号　（二四二）陸軍省令第百六十一号　（二四三）陸軍省令第百六十二号　（二四四）陸軍省令第百六十三号　（二四五）陸軍省令第百六十四号　（二四六）陸軍省令第百六十五号　（二四七）陸軍省令第百六十六号　（二四八）陸軍省令第百六十七号　（二四九）陸軍省令第百六十八号　（二五〇）陸軍省令第百六十九号　（二五一）陸軍省令第百七十号　（二五二）陸軍省令第百七十一号　（二五三）陸軍省令第百七十二号　（二五四）陸軍省令第百七十三号　（二五五）陸軍省令第百七十四号　（二五六）陸軍省令第百七十五号　（二五七）陸軍省令第百七十六号　（二五八）陸軍省令第百七十七号　（二五九）陸軍省令第百七十八号　（二六〇）陸軍省令第百七十九号　（二六一）陸軍省令第百八十号　（二六二）陸軍省令第百八十一号　（二六三）陸軍省令第百八十二号　（二六四）陸軍省令第百八十三号　（二六五）陸軍省令第百八十四号　（二六六）陸軍省令第百八十五号　（二六七）陸軍省令第百八十六号　（二六八）陸軍省令第百八十七号　（二六九）陸軍省令第百八十八号　（二七〇）陸軍省令第百八十九号　（二七一）陸軍省令第百九十号　（二七二）陸軍省令第百九十一号　（二七三）陸軍省令第百九十二号　（二七四）陸軍省令第百九十三号　（二七五）陸軍省令第百九十四号　（二七六）陸軍省令第百九十五号　（二七七）陸軍省令第百九十六号　（二七八）陸軍省令第百九十七号　（二七九）陸軍省令第百九十八号　（二八〇）陸軍省令第百九十九号　（二八一）陸軍省令第二百号　（二八二）陸軍省令第二百一号　（二八三）陸軍省令第二百二号　（二八四）陸軍省令第二百三号　（二八五）陸軍省令第二百四号　（二八六）陸軍省令第二百五号　（二八七）陸軍省令第二百六号　（二八八）陸軍省令第二百七号　（二八九）陸軍省令第二百八号　（二九〇）陸軍省令第二百九号　（二九一）陸軍省令第二百十号　（二九二）陸軍省令第二百十一号　（二九三）陸軍省令第二百十二号　（二九四）陸軍省令第二百十三号　（二九五）陸軍省令第二百十四号　（二九六）陸軍省令第二百十五号　（二九七）陸軍省令第二百十六号　（二九八）陸軍省令第二百十七号　（二九九）陸軍省令第二百十八号　（三〇〇）陸軍省令第二百十九号　（三〇一）陸軍省令第二百二十号　（三〇二）陸軍省令第二百二十一号　（三〇三）陸軍省令第二百二十二号　（三〇四）陸軍省令第二百二十三号　（三〇五）陸軍省令第二百二十四号　（三〇六）陸軍省令第二百二十五号　（三〇七）陸軍省令第二百二十六号　（三〇八）陸軍省令第二百二十七号　（三〇九）陸軍省令第二百二十八号　（三一〇）陸軍省令第二百二十九号　（三一一）陸軍省令第二百三十号　（三一二）陸軍省令第二百三十一号　（三一三）陸軍省令第二百三十二号　（三一四）陸軍省令第二百三十三号　（三一五）陸軍省令第二百三十四号　（三一六）陸軍省令第二百三十五号　（三一七）陸軍省令第二百三十六号　（三一八）陸軍省令第二百三十七号　（三一九）陸軍省令第二百三十八号　（三二〇）陸軍省令第二百三十九号　（三二一）陸軍省令第二百四十号　（三二二）陸軍省令第二百四十一号　（三二三）陸軍省令第二百四十二号　（三二四）陸軍省令第二百四十三号　（三二五）陸軍省令第二百四十四号　（三二六）陸軍省令第二百四十五号　（三二七）陸軍省令第二百四十六号　（三二八）陸軍省令第二百四十七号　（三二九）陸軍省令第二百四十八号　（三三〇）陸軍省令第二百四十九号　（三三一）陸軍省令第二百五十号　（三三二）陸軍省令第二百五十一号　（三三三）陸軍省令第二百五十二号　（三三四）陸軍省令第二百五十三号　（三三五）陸軍省令第二百五十四号　（三三六）陸軍省令第二百五十五号　（三三七）陸軍省令第二百五十六号　（三三八）陸軍省令第二百五十七号　（三三九）陸軍省令第二百五十八号　（三四〇）陸軍省令第二百五十九号　（三四一）陸軍省令第二百六十号　（三四二）陸軍省令第二百六十一号　（三四三）陸軍省令第二百六十二号　（三四四）陸軍省令第二百六十三号　（三四五）陸軍省令第二百六十四号　（三四六）陸軍省令第二百六十五号　（三四七）陸軍省令第二百六十六号　（三四八）陸軍省令第二百六十七号　（三四九）陸軍省令第二百六十八号　（三五〇）陸軍省令第二百六十九号　（三五一）陸軍省令第二百七十号　（三五二）陸軍省令第二百七十一号　（三五三）陸軍省令第二百七十二号　（三五四）陸軍省令第二百七十三号　（三五五）陸軍省令第二百七十四号　（三五六）陸軍省令第二百七十五号　（三五七）陸軍省令第二百七十六号　（三五八）陸軍省令第二百七十七号　（三五九）陸軍省令第二百七十八号　（三六〇）陸軍省令第二百七十九号　（三六一）陸軍省令第二百八十号　（三六二）陸軍省令第二百八十一号　（三六三）陸軍省令第二百八十二号　（三六四）陸軍省令第二百八十三号　（三六五）陸軍省令第二百八十四号　（三六六）陸軍省令第二百八十五号　（三六七）陸軍省令第二百八十六号　（三六八）陸軍省令第二百八十七号　（三六九）陸軍省令第二百八十八号　（三七〇）陸軍省令第二百八十九号　（三七一）陸軍省令第二百九十号　（三七二）陸軍省令第二百九十一号　（三七三）陸軍省令第二百九十二号　（三七四）陸軍省令第二百九十三号　（三七五）陸軍省令第二百九十四号　（三七六）陸軍省令第二百九十五号　（三七七）陸軍省令第二百九十六号　（三七八）陸軍省令第二百九十七号　（三七九）陸軍省令第二百九十八号　（三八〇）陸軍省令第二百九十九号　（三八一）陸軍省令第三百号　（三八二）陸軍省令第三百一号　（三八三）陸軍省令第三百二号　（三八四）陸軍省令第三百三号　（三八五）陸軍省令第三百四号　（三八六）陸軍省令第三百五号　（三八七）陸軍省令第三百六号　（三八八）陸軍省令第三百七号　（三八九）陸軍省令第三百八号　（三九〇）陸軍省令第三百九号　（三九一）陸軍省令第三百十号　（三九二）陸軍省令第三百十一号　（三九三）陸軍省令第三百十二号　（三九四）陸軍省令第三百十三号　（三九五）陸軍省令第三百十四号　（三九六）陸軍省令第三百十五号　（三九七）陸軍省令第三百十六号　（三九八）陸軍省令第三百十七号　（三九九）陸軍省令第三百十八号　（四〇〇）陸軍省令第三百十九号　（四〇一）陸軍省令第三百二十号　（四〇二）陸軍省令第三百二十一号　（四〇三）陸軍省令第三百二十二号　（四〇四）陸軍省令第三百二十三号　（四〇五）陸軍省令第三百二十四号　（四〇六）陸軍省令第三百二十五号　（四〇七）陸軍省令第三百二十六号　（四〇八）陸軍省令第三百二十七号　（四〇九）陸軍省令第三百二十八号　（四一〇）陸軍省令第三百二十九号　（四一一）陸軍省令第三百三十号　（四一二）陸軍省令第三百三十一号　（四一三）陸軍省令第三百三十二号　（四一四）陸軍省令第三百三十三号　（四一五）陸軍省令第三百三十四号　（四一六）陸軍省令第三百三十五号　（四一七）陸軍省令第三百三十六号　（四一八）陸軍省令第三百三十七号　（四一九）陸軍省令第三百三十八号　（四二〇）陸軍省令第三百三十九号　（四二一）陸軍省令第三百四十号　（四二二）陸軍省令第三百四十一号　（四二三）陸軍省令第三百四十二号　（四二四）陸軍省令第三百四十三号　（四二五）陸軍省令第三百四十四号　（四二六）陸軍省令第三百四十五号　（四二七）陸軍省令第三百四十六号　（四二八）陸軍省令第三百四十七号　（四二九）陸軍省令第三百四十八号　（四三〇）陸軍省令第三百四十九号　（四三一）陸軍省令第三百五十号　（四三二）陸軍省令第三百五十一号　（四三三）陸軍省令第三百五十二号　（四三四）陸軍省令第三百五十三号　（四三五）陸軍省令第三百五十四号　（四三六）陸軍省令第三百五十五号　（四三七）陸軍省令第三百五十六号　（四三八）陸軍省令第三百五十七号　（四三九）陸軍省令第三百五十八号　（四四〇）陸軍省令第三百五十九号　（四四一）陸軍省令第三百六十号　（四四二）陸軍省令第三百六十一号　（四四三）陸軍省令第三百六十二号　（四四四）陸軍省令第三百六十三号　（四四五）陸軍省令第三百六十四号　（四四六）陸軍省令第三百六十五号　（四四七）陸軍省令第三百六十六号　（四四八）陸軍省令第三百六十七号　（四四九）陸軍省令第三百六十八号　（四五〇）陸軍省令第三百六十九号　（四五一）陸軍省令第三百七十号　（四五二）陸軍省令第三百七十一号　（四五三）陸軍省令第三百七十二号　（四五四）陸軍省令第三百七十三号　（四五五）陸軍省令第三百七十四号　（四五六）陸軍省令第三百七十五号　（四五七）陸軍省令第三百七十六号　（四五八）陸軍省令第三百七十七号　（四五九）陸軍省令第三百七十八号　（四六〇）陸軍省令第三百七十九号　（四六一）陸軍省令第三百八十号　（四六二）陸軍省令第三百八十一号　（四六三）陸軍省令第三百八十二号　（四六四）陸軍省令第三百八十三号　（四六五）陸軍省令第三百八十四号　（四六六）陸軍省令第三百八十五号　（四六七）陸軍省令第三百八十六号　（四六八）陸軍省令第三百八十七号　（四六九）陸軍省令第三百八十八号　（四七〇）陸軍省令第三百八十九号　（四七一）陸軍省令第三百九十号　（四七二）陸軍省令第三百九十一号　（四七三）陸軍省令第三百九十二号　（四七四）陸軍省令第三百九十三号　（四七五）陸軍省令第三百九十四号　（四七六）陸軍省令第三百九十五号　（四七七）陸軍省令第三百九十六号　（四七八）陸軍省令第三百九十七号　（四七九）陸軍省令第三百九十八号　（四八〇）陸軍省令第三百九十九号　（四八一）陸軍省令第四百号　（四八二）陸軍省令第四百一号　（四八三）陸軍省令第四百二号　（四八四）陸軍省令第四百三号　（四八五）陸軍省令第四百四号　（四八六）陸軍省令第四百五号　（四八七）陸軍省令第四百六号　（四八八）陸軍省令第四百七号　（四八九）陸軍省令第四百八号　（四九〇）陸軍省令第四百九号　（四九一）陸軍省令第四百十号　（四九二）陸軍省令第四百十一号　（四九三）陸軍省令第四百十二号　（四九四）陸軍省令第四百十三号　（四九五）陸軍省令第四百十四号　（四九六）陸軍省令第四百十五号　（四九七）陸軍省令第四百十六号　（四九八）陸軍省令第四百十七号　（四九九）陸軍省令第四百十八号　（五〇〇）陸軍省令第四百十九号　（五〇一）陸軍省令第四百二十号　（五〇二）陸軍省令第四百二十一号　（五〇三）陸軍省令第四百二十二号　（五〇四）陸軍省令第四百二十三号　（五〇五）陸軍省令第四百二十四号　（五〇六）陸軍省令第四百二十五号　（五〇七）陸軍省令第四百二十六号　（五〇八）陸軍省令第四百二十七号　（五〇九）陸軍省令第四百二十八号　（五一〇）陸軍省令第四百二十九号　（五一一）陸軍省令第四百三十号　（五一二）陸軍省令第四百三十一号　（五一三）陸軍省令第四百三十二号　（五一四）陸軍省令第四百三十三号　（五一五）陸軍省令第四百三十四号　（五一六）陸軍省令第四百三十五号　（五一七）陸軍省令第四百三十六号　（五一八）陸軍省令第四百三十七号　（五一九）陸軍省令第四百三十八号　（五二〇）陸軍省令第四百三十九号　（五二一）陸軍省令第四百四十号　（五二二）陸軍省令第四百四十一号　（五二三）陸軍省令第四百四十二号　（五二四）陸軍省令第四百四十三号　（五二五）陸軍省令第四百四十四号　（五二六）陸軍省令第四百四十五号　（五二七）陸軍省令第四百四十六号　（五二八）陸軍省令第四百四十七号　（五二九）陸軍省令第四百四十八号　（五三〇）陸軍省令第四百四十九号　（五三一）陸軍省令第四百五十号　（五三二）陸軍省令第四百五十一号　（五三三）陸軍省令第四百五十二号　（五三四）陸軍省令第四百五十三号　（五三五）陸軍省令第四百五十四号　（五三六）陸軍省令第四百五十五号　（五三七）陸軍省令第四百五十六号　（五三八）陸軍省令第四百五十七号　（五三九）陸軍省令第四百五十八号　（五四〇）陸軍省令第四百五十九号　（五四一）陸軍省令第四百六十号　（五四二）陸軍省令第四百六十一号　（五四三）陸軍省令第四百六十二号　（五四四）陸軍省令第四百六十三号　（五四五）陸軍省令第四百六十四号　（五四六）陸軍省令第四百六十五号　（五四七）陸軍省令第四百六十六号　（五四八）陸軍省令第四百六十七号　（五四九）陸軍省令第四百六十八号　（五五〇）陸軍省令第四百六十九号　（五五一）陸軍省令第四百七十号　（五五二）陸軍省令第四百七十一号　（五五三）陸軍省令第四百七十二号　（五五四）陸軍省令第四百七十三号　（五五五）陸軍省令第四百七十四号　（五五六）陸軍省令第四百七十五号　（五五七）陸軍省令第四百七十六号　（五五八）陸軍省令第四百七十七号　（五五九）陸軍省令第四百七十八号　（五六〇）陸軍省令第四百七十九号　（五六一）陸軍省令第四百八十号　（五六二）陸軍省令第四百八十一号　（五六三）陸軍省令第四百八十二号　（五六四）陸軍省令第四百八十三号　（五六五）陸軍省令第四百八十四号　（五六六）陸軍省令第四百八十五号　（五六七）陸軍省令第四百八十六号　（五六八）陸軍省令第四百八十七号　（五六九）陸軍省令第四百八十八号　（五七〇）陸軍省令第四百八十九号　（五七一）陸軍省令第四百九十号　（五七二）陸軍省令第四百九十一号　（五七三）陸軍省令第四百九十二号　（五七四）陸軍省令第四百九十三号　（五七五）陸軍省令第四百九十四号　（五七六）陸軍省令第四百九十五号　（五七七）陸軍省令第四百九十六号　（五七八）陸軍省令第四百九十七号　（五七九）陸軍省令第四百九十八号　（五八〇）陸軍省令第四百九十九号　（五八一）陸軍省令第五百号　（五八二）陸軍省令第五百一号　（五八三）陸軍省令第五百二号　（五八四）陸軍省令第五百三号　（五八五）陸軍省令第五百四号　（五八六）陸軍省令第五百五号　（五八七）陸軍省令第五百六号　（五八八）陸軍省令第五百七号　（五八九）陸軍省令第五百八号　（五九〇）陸軍省令第五百九号　（五九一）陸軍省令第五百十号　（五九二）陸軍省令第五百十一号　（五九三）陸軍省令第五百十二号　（五九四）陸軍省令第五百十三号　（五九五）陸軍省令第五百十四号　（五九六）陸軍省令第五百十五号　（五九七）陸軍省令第五百十六号　（五九八）陸軍省令第五百十七号　（五九九）陸軍省令第五百十八号　（六〇〇）陸軍省令第五百十九号　（六〇一）陸軍省令第五百二十号　（六〇二）陸軍省令第五百二十一号　（六〇三）陸軍省令第五百二十二号　（六〇四）陸軍省令第五百二十三号　（六〇五）陸軍省令第五百二十四号　（六〇六）陸軍省令第五百二十五号　（六〇七）陸軍省令第五百二十六号　（六〇八）陸軍省令第五百二十七号　（六〇九）陸軍省令第五百二十八号　（六一〇）陸軍省令第五百二十九号　（六一一）陸軍省令第五百三十号　（六一二）陸軍省令第五百三十一号　（六一三）陸軍省令第五百三十二号　（六一四）陸軍省令第五百三十三号　（六一五）陸軍省令第五百三十四号　（六一六）陸軍省令第五百三十五号　（六一七）陸軍省令第五百三十六号　（六一八）陸軍省令第五百三十七号　（六一九）陸軍省令第五百三十八号　（六二〇）陸軍省令第五百三十九号　（六二一）陸軍省令第五百四十号　（六二二）陸軍省令第五百四十一号　（六二三）陸軍省令第五百四十二号　（六二四）陸軍省令第五百四十三号　（六二五）陸軍省令第五百四十四号　（六二六）陸軍省令第五百四十五号　（六二七）陸軍省令第五百四十六号　（六二八）陸軍省令第五百四十七号　（六二九）陸軍省令第五百四十八号　（六三〇）陸軍省令第五百四十九号　（六三一）陸軍省令第五百五十号　（六三二）陸軍省令第五百五十一号　（六三三）陸軍省令第五百五十二号　（六三四）陸軍省令第五百五十三号　（六三五）陸軍省令第五百五十四号　（六三六）陸軍省令第五百五十五号　（六三七）陸軍省令第五百五十六号　（六三八）陸軍省令第五百五十七号　（六三九）陸軍省令第五百五十八号　（六四〇）陸軍省令第五百五十九号　（六四一）陸軍省令第五百六十号　（六四二）陸軍省令第五百六十一号　（六四三）陸軍省令第五百六十二号　（六四四）陸軍省令第五百六十三号　（六四五）陸軍省令第五百六十四号　（六四六）陸軍省令第五百六十五号　（六四七）陸軍省令第五百六十六号　（六四八）陸軍省令第五百六十七号　（六四九）陸軍省令第五百六十八号　（六五〇）陸軍省令第五百六十九号　（六五一）陸軍省令第五百七十号　（六五二）陸軍省令第五百七十一号　（六五三）陸軍省令第五百七十二号　（六五四）陸軍省令第五百七十三号　（六五五）陸軍省令第五百七十四号　（六五六）陸軍省令第五百七十五号　（六五七）陸軍省令第五百七十六号　（六五八）陸軍省令第五百七十七号　（六五九）陸軍省令第五百七十八号　（六六〇）陸軍省令第五百七十九号　（六六一）陸軍省令第五百八十号　（六六二）陸軍省令第五百八十一号　（六六三）陸軍省令第五百八十二号　（六六四）陸軍省令第五百八十三号　（六六五）陸軍省令第五百八十四号　（六六六）陸軍省令第五百八十五号　（六六七）陸軍省令第五百八十六号　（六六八）陸軍省令第五百八十七号　（六六九）陸軍省令第五百八十八号　（六七〇）陸軍省令第五百八十九号　（六七一）陸軍省令第五百九十号　（六七二）陸軍省令第五百九十一号　（六七三）陸軍省令第五百九十二号　（六七四）陸軍省令第五百九十三号　（六七五）陸軍省令第五百九十四号　（六七六）陸軍省令第五百九十五号　（六七七）陸軍省令第五百九十六号　（六七八）陸軍省令第五百九十七号　（六七九）陸軍省令第五百九十八号　（六八〇）陸軍省令第五百九十九号　（六八一）陸軍省令第六百号　（六八二）陸軍省令第六百一号　（六八三）陸軍省令第六百二号　（六八四）陸軍省令第六百三号　（六八五）陸軍省令第六百四号　（六八六）陸軍省令第六百五号　（六八七）陸軍省令第六百六号　（六八八）陸軍省令第六百七号　（六八九）陸軍省令第六百八号　（六九〇）陸軍省令第六百九号　（六九一）陸軍省令第六百十号　（六九二）陸軍省令第六百十一号　（六九三）陸軍省令第六百十二号　（六九四）陸軍省令第六百十三号　（六九五）陸軍省令第六百十四号　（六九六）陸軍省令第六百十五号　（六九七）陸軍省令第六百十六号　（六九八）陸軍省令第六百十七号　（六九九）陸軍省令第六百十八号　（七〇〇）陸軍省令第六百十九号　（七〇一）陸軍省令第六百二十号　（七〇二）陸軍省令第六百二十一号　（七〇三）陸軍省令第六百二十二号　（七〇四）陸軍省令第六百二十三号　（七〇五）陸軍省令第六百二十四号　（七〇六）陸軍省令第六百二十五号　（七〇七）陸軍省令第六百二十六号　（七〇八）陸軍省令第六百二十七号　（七〇九）陸軍省令第六百二十八号　（七一〇）陸軍省令第六百二十九号　（七一一）陸軍省令第六百三十号　（七一二）陸軍省令第六百三十一号　（七一三）陸軍省令第六百三十二号　（七一四）陸軍省令第六百三十三号　（七一五）陸軍省令第六百三十四号　（七一六）陸軍省令第六百三十五号　（七一七）陸軍省令第六百三十六号　（七一八）陸軍省令第六百三十七号　（七一九）陸軍省令第六百三十八号　（七二〇）陸軍省令第六百三十九号　（七二一）陸軍省令第六百四十号　（七二二）陸軍省令第六百四十一号　（七二三）陸軍省令第六百四十二号　（七二四）陸軍省令第六百四十三号　（七二五）陸軍省令第六百四十四号　（七二六）陸軍省令第六百四十五号　（七二七）陸軍省令第六百四十六号　（七二八）陸軍省令第六百四十七号　（七二九）陸軍省令第六百四十八号　（七三〇）陸軍省令第六百四十九号　（七三一）陸軍省令第六百五十号　（七三二）陸軍省令第六百五十一号　（七三三）陸軍省令第六百五十二号　（七三四）陸軍省令第六百五十三号　（七三五）陸軍省令第六百五十四号　（七三六）陸軍省令第六百五十五号　（七三七）陸軍省令第六百五十六号　（七三八）陸軍省令第六百五十七号　（七三九）陸軍省令第六百五十八号　（七四〇）陸軍省令第六百五十九号　（七四一）陸軍省令第六百六十号　（七四二）陸軍省令第六百六十一号　（七四三）陸軍省令第六百六十二号　（七四四）陸軍省令第六百六十三号　（七四五）陸軍省令第六百六十四号　（七四六）陸軍省令第六百六十五号　（七四七）陸軍省令第六百六十六号　（七四八）陸軍省令第六百六十七号　（七四九）陸軍省令第六百六十八号　（七五〇）陸軍省令第六百六十九号　（七五一）陸軍省令第六百七十号　（七五二）陸軍省令第六百七十一号　（七五三）陸軍省令第六百七十二号　（七五四）陸軍省令第六百七十三号　（七五五）陸軍省令第六百七十四号　（七五六）陸軍省令第六百七十五号　（七五七）陸軍省令第六百七十六号　（七五八）陸軍省令第六百七十七号　（七五九）陸軍省令第六百七十八号　（七六〇）陸軍省令第六百七十九号　（七六一）陸軍省令第六百八十号　（七六二）陸軍省令第六百八十一号　（七六三）陸軍省令第六百八十二号　（七六四）陸軍省令第六百八十三号　（七六五）陸軍省令第六百八十四号　（七六六）陸軍省令第六百八十五号　（七六七）陸軍省令第六百八十六号　（七六八）陸軍省令第六百八十七号　（七六九）陸軍省令第六百八十八号　（七七〇）陸軍省令第六百八十九号　（七七一）陸軍省令第六百九十号　（七七二）陸軍省令第六百九十一号　（七七三）陸軍省令第六百九十二号　（七七四）陸軍省令第六百九十三号　（七七五）陸軍省令第六百九十四号　（七七六）陸軍省令第六百九十五号　（七七七）陸軍省令第六百九十六号　（七七八）陸軍省令第六百九十七号　（七七九）陸軍省令第六百九十八号　（七八〇）陸軍省令第六百九十九号　（七八一）陸軍省令第七百号　（七八二）陸軍省令第七百一号　（七八三）陸軍省令第七百二号　（七八四）陸軍省令第七百三号　（七八五）陸軍省令第七百四号　（七八六）陸軍省令第七百五号　（七八七）陸軍省令第七百六号　（七八八）陸軍省令第七百七号　（七八九）陸軍省令第七百八号　（七九〇）陸軍省令第七百九号　（七九一）陸軍省令第七百十号　（七九二）陸軍省令第七百十一号　（七九三）陸軍省令第七百十二号　（七九四）陸軍省令第七百十三号　（七九五）陸軍省令第七百十四号　（七九六）陸軍省令第七百十五号　（七九七）陸軍省令第七百十六号　（七九八）陸軍省令第七百十七号　（七九九）陸軍省令第七百十八号　（八〇〇）陸軍省令第七百十九号　（八〇一）陸軍省令第七百二十号　（八〇二）陸軍省令第七百二十一号　（八〇三）陸軍省令第七百二十二号　（八〇四）陸軍省令第七百二十三号　（八〇五）陸軍省令第七百二十四号　（八〇六）陸軍省令第七百二十五号　（八〇七）陸軍省令第七百二十六号　（八〇八）陸軍省令第七百二十七号　（八〇九）陸軍省令第七百二十八号　（八一〇）陸軍省令第七百二十九号　（八一一）陸軍省令第七百三十号　（八一二）陸軍省令第七百三十一号　（八一三）陸軍省令第七百三十二号　（八一四）陸軍省令第七百三十三号　（八一五）陸軍省令第七百三十四号　（八一六）陸軍省令第七百三十五号　（八一七）陸軍省令第七百三十六号　（八一八）陸軍省令第七百三十七号　（八一九）陸軍省令第七百三十八号　（八二〇）陸軍省令第七百三十九号　（八二一）陸軍省令第七百四十号　（八二二）陸軍省令第七百四十一号　（八二三）陸軍省令第七百四十二号　（八二四）陸軍省令第七百四十三号　（八二五）陸軍省令第七百四十四号　（八二六）陸軍省令第七百四十五号　（八二七）陸軍省令第七百四十六号　（八二八）陸軍省令第七百四十七号　（八二九）陸軍省令第七百四十八号　（八三〇）陸軍省令第七百四十九号　（八三一）陸軍省令第七百五十号　（八三二）陸軍省令第七百五十一号　（八三三）陸軍省令第七百五十二号　（八三四）陸軍省令第七百五十三号　（八三五）陸軍省令第七百五十四号　（八三六）陸軍省令第七百五十五号　（八三七）陸軍省令第七百五十六号　（八三八）陸軍省令第七百五十七号　（八三九）陸軍省令第七百五十八号　（八四〇）陸軍省令第七百五十九号　（八四一）陸軍省令第七百六十号　（八四二）陸軍省令第七百六十一号　（八四三）陸軍省令第七百六十二号　（八四四）陸軍省令第七百六十三号　（八四五）陸軍省令第七百六十四号　（八四六）陸軍省令第七百六十五号　（八四七）陸軍省令第七百六十六号　（八四八）陸軍省令第七百六十七号　（八四九）陸軍省令第七百六十八号　（八五〇）陸軍省令第七百六十九号　（八五一）陸軍省令第七百七十号　（八五二）陸軍省令第七百七十一号　（八五三）陸軍省令第七百七十二号　（八五四）陸軍省令第七百七十三号　（八五五）陸軍省令第七百七十四号　（八五六）陸軍省令第七百七十五号　（八五七）陸軍省令第七百七十六号　（八五八）陸軍省令第七百七十七号　（八五九）陸軍省令第七百七十八号　（八六〇）陸軍省令第七百七十九号　（八六一）陸軍省令第七百八十号　（八六二）陸軍省令第七百八十一号　（八六三）陸軍省令第七百八十二号　（八六四）陸軍省令第七百八十三号　（八六五）陸軍省令第七百八十四号　（八六六）陸軍省令第七百八十五号　（八六七）陸軍省令第七百八十六号　（八六八）陸軍省令第七百八十七号　（八六九）陸軍省令第七百八十八号　（八七〇）陸軍省令第七百八十九号　（八七一）陸軍省令第七百九十号　（八七二）陸軍省令第七百九十一号　（八七三）陸軍省令第七百九十二号　（八七四）陸軍省令第七百九十三号　（八七五）陸軍省令第七百九十四号　（八七六）陸軍省令第七百九十五号　（八七七）陸軍省令第七百九十六号　（八七八）陸軍省令第七百九十七号　（八七九）陸軍省令第七百九十八号　（八八〇）陸軍省令第七百九十九号　（八八一）陸軍省令第八百号　（八八二）陸軍省令第八百一号　（八八三）陸軍省令第八百二号　（八八四）陸軍省令第八百三号　（八八五）陸軍省令第八百四号　（八八六）陸軍省令第八百五号　（八八七）陸軍省令第八百六号　（八八八）陸軍省令第八百七号　（八八九）陸軍省令第八百八号　（八九〇）陸軍省令第八百九号　（八九一）陸軍省令第八百十号　（八九二）陸軍省令第八百十一号　（八九三）陸軍省令第八百十二号　（八九四）陸軍省令第八百十三号　（八九五）陸軍省令第八百十四号　（八九六）陸軍省令第八百十五号　（八九七）陸軍省令第八百十六号　（八九八）陸軍省令第八百十七号　（八九九）陸軍省令第八百十八号　（九〇〇）陸軍省令第八百十九号　（九〇一）陸軍省令第八百二十号　（九〇二）陸軍省令第八百二十一号　（九〇三）陸軍省令第八百二十二号　（九〇四）陸軍省令第八百二十三号　（九〇五）陸軍省令第八百二十四号　（九〇六）陸軍省令第八百二十五号　（九〇七）陸軍省令第八百二十六号　（九〇八）陸軍省令第八百二十七号　（九〇九）陸軍省令第八百二十八号　（九一〇）陸軍省令第八百二十九号　（九一一）陸軍省令第八百三十号　（九一二）陸軍省令第八百三十一号　（九一三）陸軍省令第八百三十二号　（九一四）陸軍省令第八百三十三号　（九一五）陸軍省令第八百三十四号　（九一六）陸軍省令第八百三十五号　（九一七）陸軍省令第八百三十六号　（九一八）陸軍省令第八百三十七号　（九一九）陸軍省令第八百三十八号　（九二〇）陸軍省令第八百三十九号　（九二一）陸軍省令第八百四十号　（九二二）陸軍省令第八百四十一号　（九二三）陸軍省令第八百四十二号　（九二四）陸軍省令第八百四十三号　（九二五）陸軍省令第八百四十四号　（九二六）陸軍省令第八百四十五号　（九二七）陸軍省令第八百四十六号　（九二八）陸軍省令第八百四十七号　（九二九）陸軍省令第八百四十八号　（九三〇）陸軍省令第八百四十九号　（九三一）陸軍省令第八百五十号　（九三二）陸軍省令第八百五十一号　（九三三）陸軍省令第八百五十二号　（九三四）陸軍省令第八百五十三号　（九三五）陸軍省令第八百五十四号　（九三六）陸軍省令第八百五十五号　（九三七）陸軍省令第八百五十六号　（九三八）陸軍省令第八百五十七号　（九三九）陸軍省令第八百五十八号　（九四〇）陸軍省令第八百五十九号　（九四一）陸軍省令第八百六十号　（九四二）陸軍省令第八百六十一号　（九四三）陸軍省令第八百六十二号　（九四四）陸軍省令第八百六十三号　（九四五）陸軍省令第八百六十四号　（九四六）陸軍省令第八百六十五号　（九四七）陸軍省令第八百六十六号　（九四八）陸軍省令第八百六十七号　（九四九）陸軍省令第八百六十八号　（九五〇）陸軍省令第八百六十九号　（九五一）陸軍省令第八百七十号　（九五二）陸軍省令第八百七十一号　（九五三）陸軍省令第八百七十二号　（九五四）陸軍省令第八百七十三号　（九五五）陸軍省令第八百七十四号　（九五六）陸軍省令第八百七十五号　（九五七）陸軍省令第八百七十六号　（九五八）陸軍省令第八百七十七号　（九五九）陸軍省令第八百七十八号　（九六〇）陸軍省

物産会 ❶(名)Bus-san-kai. ❷集会 ❸[仏教]

物産学 ❶(名)Bus-san-gaku. ❷[仏教]

物産学者 ❶(名)Bus-san-gaku-sha. ❷[仏教]

物産学説 ❶(名)Bus-san-gaku-setsu. ❷[仏教]

物産学問 ❶(名)Bus-san-gaku-mon. ❷[仏教]

物産会 ❶(名)Bus-san-kai. ❷[仏教]

物産会社 ❶(名)Bus-san-kai-sha. ❷[仏教]

物産会社員 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in. ❷[仏教]

物産会社員の心得 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説の事の説 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu. ❷[仏教]

物産会社員の心得の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事の説の事 ❶(名)Bus-san-kai-sha-in-no-kokoro-e-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto-no-setsu-no-koto

塔衣鉢、釋氏要覽鉢、隨方毘尼を鉢記す。巻首に序、凡例及び引據書目二百十七部を挙ぐ。

Ⓢ元祿一〇刊 ❹(谷大、餘大・一八八一)(龍大・二〇六一・一六)(正大・一〇五・八・一〇、八三)(智・む・八・左・三) (大野法道)

佛像標幟義箋註 ❶(日)Butsu-zō-hyō-shiki-gi-sen-chū. ❷三巻 ❸存、大日本佛教全書第七三服具叢書第一 ❹義海撰 Ⓢ元祿七(A.D.1694)

Ⓗ犂耳の佛像標幟義の註釋。文前に於て標幟義製作の大意を抑ずるに就て通意別意に各四意を挙げ、更に佛教に於ける衣服の制意を說き、次に本文を分科しつゝその字句を詳釋する。本文を序分正宗分とし、正宗分を(一)衣服相名、(二)衣身分量、(三)長短多少、(四)條數表示、(五)著衣功德、(六)犂律邪正とする。著者は增上寺蓮龕富主である。巻首に著者の刊行序等、巻尾に緣山南谷勿用の跋がある。

佛藏經 ❶(日)Butsu-zō-kyō.(支)Fo-tsang-ching. 譯撰諸法經、奉入龍華經 ❷三巻或四巻 ❸存、大正一五・七八二、No.653、續列二、卍一七・二、北5314念、南547念、元545念、明北1000鳶、清10000鳶、麗535克、天540念、指498克、法5323克、至1186母、明南1234職、Nj.1095 ❹鳩摩羅什(建元二—義熙九A.D.344—413)譯 ❺姚秦弘始七(A.D.405)

Ⓗこの經が羅什譯として大乘律の中に重きをなしてゐたことは、大藏聖教法寶標目に「佛藏經四巻、右佛說は初の諸法實相品に諸法の無生無滅無相無爲を說き、次の念佛品に無分別を念ずるは即ちこれ佛を念ずるなり、諸法實相を見るを名づけて佛を見るとなすと說き、次に念法品次に念僧品あり。第二巻淨戒品に破戒の比丘には十憂惱箭有りと說いて種々破戒の罪相を呵叱し、第三巻淨法品に深く不淨說法は大罪報を得ると戒め、往古品、淨見品には佛が昔因に果劫修學すれども有所得を以ての故に諸佛の授記を蒙らずと說けり。此經の故勤切に至れり。凡そ學佛の者は宜しく熟觀して誦すべし」とあるによつて知られる。之によつて經の內容も盡されてゐるわけで、此終りに更に了戒品第九と囑累品第十がついてゐる。

この經は別に菩薩の律義について何も說いてゐない。戒本の一般とは全く趣を異にしてゐるが、この經を一貫する主張として諸法實相無生無滅の理解のないものはよし二百五十戒は持つてゐても之を破戒と斥ひて、戒論分別を離れたるを以て持戒と名づけ、小乘の既成教團の人々が「我はこれ持戒すれども、餘人は然らず、といふて他人を輕んじて心に悲敬なく、我はこれ多聞にして、彼は多聞に非ず」といふ我慢心に捕はれてゐるのを徹底的に彈呵し、また時に世人が愚にして之等小乘僧の「病の群れに等しきを見て忉利天なりと謂へる」を嘲笑してゐる。大乘僧が勃興せんとするに際し、小乘の舊僧團が可なり之を壓迫した事情が想見せられる。特に破戒比丘と增上慢人と不淨說法と及び特に貪著する者の三種の人を以て諸法實相から遠離したものとなし、不淨說法者は尼乾子の論を受け世利に貪著するものと喝破して、舊僧團の人々を却て外道に與するものとし、自らを持戒者なりと任ずるこの大勇猛心ありて大乘僧團の基礎をつくる事ができたのである。また「多く供養をうくるが故に法は當に疾く滅すべし」といへるも舊僧團が世人から非常なる有利な供養をうけてゐた事を際揶する事ができる。之に對して十憂惱箭ありと說いて「もし人ありて百歲のあいだ如是の十不善の罪を成就するも、破戒比丘が一日一夜他の供養を受けたる罪は彼よりも多し」といつてゐる。無論この破戒比丘とは舊僧團の人々をさしたのである。また「年少の比丘に多く利根あり」といひ、また「如是の人々一處に集り共に徒侶をなすも人衆すでに少く勢力また弱し」といへるは青年僧が發力を以て衆て大乘の新僧團を起さんとする狀勢を想見せしむるに足る。之に對し「自猜嫉漢」が「他人の實相を行ふを遮ぎり」たと世俗に墮して第一實義から遠ざかつたこと、又この大乘經を疑經と惡口した事が書いてある。上來、大乘戒本の一々說相はかいてないが、菩薩の僧團が羅閦僧團から別に獨立せねばならぬ所以を忌憚なく論じ盡してゐる所にこの經が大乘律としての意義と價値を認める事ができる。

❼(參考) 出三藏記第二、法經錄第五、三寶紀第八、靜泰錄第一、內典錄第三、第六、第九、武周錄第六、第一三、譯經圖紀第三、開元錄第四、第一二、第一九、貞元錄第六、第二二

佛藏經 (日)Butsu-zō-kyō. 國譯佛藏經 ❷四巻 ❸存、國譯一切經經集部第三 ❹二宮守人譯

佛藏大方等經 ❶(日)Butsu-zō-dai-hō-dō-kyō.(支)Fo-tsang-ta-fang-tang-ching ❷一巻 ❸缺 ❹宋道嚴譯 ❼(參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一四、貞元錄第二四

佛足石歌 ❶(日)Butsu-soku-seki-no-uta ❸存、國文東方佛教叢書第一輯第八歌頌部

Ⓗ佛足石は、大和國生駒郡都跡村大字西之京、藥師寺金堂の西に在る佛足堂に在るもので其の佛足石の背後に佛足石を萬葉假名を以て讚嘆した十七首、並に生死を呵責する四首の和歌を刻した佛足石歌碑がある。佛足石歌とは是の十七首を指すのである。其の佛足石、佛足石歌の二つの碑は同時代のものなりや否やに就ての異論があり、拾遺和歌集卷二十に收められた光明皇后山階寺(興福寺)に在るみそぢあまり云々の佛石の歌と、藥師寺に在る三十餘り云々の歌との關連に就ても、多く考究せらるべきものがある。

佛足石は釋迦牟尼佛が入滅の際、足跡を石に留めたと云ふ傳說を示すもので、雜阿含經の佛跡見千輻輪相經、觀佛三昧經、大集經、華嚴經、大集經、大般若經、涅槃經、佛本行經、寶女所問經、大智度論、瑜伽論等に詳說されるもので、古來より各地に於て崇信されたもので、佛教信仰上のみでなく我が國の金石文の研究資料としても重要なものとされて居る。

實曆二年の末板扁、明和年間東方策第二巻に收められた佛足石歌註釋、文政二年の佛跡志等が傳へられ、國方東方佛教叢書歌頌部、釋歌和歌集等に收められて考證解題されて居る。 (大久保堅璋)

佛足石之記 ❶(日)Butsu-soku-seki-no-ki. ❷二巻 ❸存 ❹吉學 Ⓢ嘉永六寫 ❹(谷大、餘大・三〇八三)

佛足石碑銘 ❶(日)Butsu-soku-seki-hi-mei. ❷一巻 ❸存 ❹元大 ❹寶曆二刊(龍大、二九九三・三)(京專)

佛足跡圖 ❶(日)Butsu-soku-seki-zu. ❷一紙 ❸存、大正圖像第一二 ❹(東寺觀智院)(丹治竹次郎)

佛足蹟和歌集解附跋石記文 ❶(日)Butsu-soku-seki-wa-ka-shū-gai-tsu-ketsuri-fu-seki-ki-mon. ❷一册 ❸存 ❹山川源正寬集解 Ⓢ文政九刊 ❹(高大、寄・一・二四)

佛陀 ❶(日)Butsu-da. ❷一巻 ❸存 ❹獨オルデンベルヒ著、三並良譯 Ⓢ明治四三刊 ❹(龍大、二九六一・二三)(京專)

佛陀 ❶(日)Butsu-da. ❷一巻 ❸存 ❹木村泰賢著 Ⓢ昭和三刊 ❹東京甲子社書房

佛陀 ❶(日)Butsu-da. ❷一巻 ❸存 ❹獨オルデンベルヒ著、木村泰賢(明治一四—昭和五A.D.1881—1930)、登山哲雄共譯

Ⓢ昭和三刊 ❹東京大雄閣

佛陀を繞りて ❶(日)Butsu-da-ni-megu-rite. ❷一巻 ❸存 ❹山崎錦華著 Ⓢ昭和二刊 ❹(龍大、二〇九九・二二八)

佛陀から人間へ ❶(日)Butsu-da-kara-nin-gen-e. ❷一巻 ❸存 ❹稻葉圓成著 Ⓢ昭和四刊 ❹京都法藏館

佛陀教說の外延 ❶(日)Butsu-dō-kyō-setsu-no-gwai-en. ❷一巻 ❸存 ❹淺倉保雄著 Ⓢ大正一一刊 ❹東京新光社

佛陀時代 ❶(日)Butsu-da-ji-dai. ❷一巻 ❸存 ❹堀谷文雄著 Ⓢ昭和七刊 ❹東京春秋社

佛陀傳 ❶(日)Butsu-den. ❷一巻 ❸存 ❹長井眞琴著 Ⓢ大正一三刊 ❹東京甲子社書房

佛陀の敎 ❶(日)Butsu-da-no-oshie. ❷一巻 ❸存 ❹小林一郎著 Ⓢ昭和三刊 ❹東京大雄閣

佛陀の敎化阿含篇 ❶(日)Butsu-da-no-kyō-ke-a-gon-hen. ❷一巻 ❸存 ❹安井廣度著 Ⓢ大正一〇刊 ❹(谷大、餘洋・五三三)(龍大、二〇九九・二二七)(京專)

佛陀の言葉 ❶(日)Butsu-da-no-kotō-ba. 全譯法句經 ❷一册 ❸存 ❹友松圓諦譯 Ⓢ大正一三刊 ❹東京甲子社書房

佛陀の最高哲學とカントの哲學 ❶(日)Butsu-da-no-sai-kō-tetsu-gaku-to-kan-to-no-tetsu-gaku. ❷一巻 ❸存 ❹蟲谷慧鶴著 Ⓢ大正一三刊 ❹東京實文館

佛陀の處生訓 ❶(日)Butsu-da-no-sho-sei-kun. ❷一册 ❸存 ❹前田慧雲安政四—昭和五A.D.1857—1930)、宿田惠璋編 Ⓢ明治四〇刊 ❹(京大、一・二〇ク・七)

佛陀の生涯 ❶(日)Butsu-da-no-shō-gai. 梵詩邦譯佛陀の生涯 ❷一巻 ❸存 ❹平等通昭譯 Ⓢ昭和四刊 ❹東京大雄閣

佛陀の生涯と思想 ❶(日)Butsu-da-no-shō-gai-to-shi-sō. ❷一巻 ❸存 ❹ビッセル著、鈴木重信譯 Ⓢ大正一三刊 ❹東京甲子社書房

佛陀の聖訓 ❶(日)Butsu-da-no-seikun. ❷一巻 ❸存 ❹常盤大定編 ❹明治二九刊(京大、一・二〇ク・六)明治三七刊(帝國、九四・三三六)明治三九刊(立大、B一一・五七)(京專) ❹東京博文館

佛陀の聖典 ❶(日)Butsu-da-no-seiten. ❸存 ❹中尾照應、上島探玄共編 ❹明治三四刊(谷大、餘洋・五一)(帝國、三〇・四一)明治三九刊(龍大、二〇三・七五)(帝國、三〇・四一ィ)

佛陀の女訓 ❶(日)Butsu-da-no-nyo-kun. ❷一巻 ❸存 ❹尚井敬遠著 Ⓢ明治四一刊 ❹(谷大、餘洋・二二七)(立大、B一二・二一)

佛陀の光 ❶(日)Butsu-da-no-hikari. ❷一册 ❸存 ❹黑田鏡洞(—大正五A.D.1916)著 Ⓢ明治三六刊 ❹(京大、一・二一ク・四)

佛陀の福音 ❶(日)Butsu-da-no-fukū-in. ❷一巻 ❸存 ❹米ボールケーラス著、鈴木大拙譯 ❹明治二八刊(京大、一・二〇ク・三)明治三四刊、谷大、餘洋・七四)

佛陀の福音 ❶(日)Butsu-da-no-fukū-in. ❷一巻 ❸存 ❹ボールケーラス著 Ⓢ明治三六刊 ❹(京大、一・二一ク・四)

佛陀の福音 ❶(日)Butsu-da-no-fukū-in. ❷一巻 ❸存 ❹明治三八刊(龍大、二〇九九・一六)(京專)(帝國、七五・一〇六) ❹東京哲學書院

佛陀論 ❶(日)Butsu-da-ron. ❷一巻 ❸存、佛教統一論第三 ❹村上專精(嘉永四—昭和四A.D.1851—1929)著 Ⓢ明治三八刊 ❹東京金港堂

佛體と名號の批判 ❶(日)Butsu-tai-to-myō-gō-no-hi-han. 以名稱物錄綴編 ❷一巻 ❸存 ❹松澤祐然著 Ⓢ大正一四刊 ❹(龍大、研眞)

佛大衣經 ❶(日)Butsu-dai-e-kyō.(支)Fo-ta-i-ching ❷一巻 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

佛大僧大經 ❶(日)Butsu-dai-sō-dai-kō.(支)Fo-ta-seng-ta-ching. 大僧大經 ❷一巻 ❸存、大正一四・八二六 No.541、續續七、卍一五・一、北833寬、南866

寛、元361寛、明北739當、清739當、履559無、天553寛、指799無、法340庚、至1057上、明南735孝、Nj.744 ❺汎潮京厩(一大明八A.D.454)譯 ❻劉宋孝建二以後(A.D.455—)

❹主舎城の長者、鬼、子を欲して諸神に祈願するも得ず、遂に佛の信者となる。然るに一年にして一子を得、佛大と名く、又續いて一子を得、僧大と名く。僧大、兩親の死後出家を請ふ。佛大、國習により、弟が妻を要求するものと考へ、快見といふ女を娶りて弟の妻とす。婚日、兄、弟に對して戯に汝、今日も猶出家すといふやといふ。弟、然りと答へて山に入り、師を求めて出家す。兄、弟の妻の美貌に懸著して不義を迫るも、快見、佛說の道教を說いて應ぜず兄之を弟に懸著する故なりと解して、不逞漢を傭ひて弟を殺さしむ。弟、死に臨して遂に道を得、樹皮に遺言を書して兄の改悟を求む。然るに快見、夫の殘害せられたるを知りて悶絶して死す。玆に於て兄も亦溺く非行に眠醒め、感動の極、遂に死するに至りて地獄に墮せりと。

❷(參考) 三寶紀第一〇、內典錄第四、譯經圖紀第三、開元錄第五、貞元錄第八 (美濃晃順)

佛大僧大經 ❶(日)Butsu-dai-sō-dai-kyō.(支)Fo-ta-seng-ta-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹(參考) 法經錄第三

佛大般泥洹經要義 ❶(日) Butsu-dai-hatsu-nai-on-gyō-yō-gi. ❸存、大藏經要義第四 ❹本多日生(一昭和六A.D.1931)著 ❺大正六刊 ❻(龍大、研佛)

佛誕紀念 ❶(日) But-tan-ki-nen.(支)Fo-tan-chi-nien. ❷一冊 ❸存 ❹漢口佛教會編 ❺(高大、一・二六)

佛智弘濟禪師盤陸大和尚心經燃犀 ❶(日) Hac-chi-kō-sai-zen-ji-ban-roku-dai-o-shō-shin-gyō-nen-sai. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(正大、一七五・二〇)

佛智廣照淨印翊聖國師年譜 ❶(日)Hac-chi-kō-shō-jō-in-yoku-shō-ko-ku-shi-nem-pu. 中津絕海年譜 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❹妙祈編 ❺應永三〇(A.D.1423)秋 ❻建武三年十一月十三日の誕生より應永十二年入滅に至る間を詳細に錄したる中津絕海の年譜である。 (後藤大用)

佛智廣照禪師語錄 ❶(日)Hac-chi-kō-shō-zen-ji-roku. 絕海和尙語錄、絕海國師語錄、絕海錄 ❷二卷 ❸存、大正八〇・七四九 No.2561 ❹絕海中津(延元元—應永一二A.D.1336—1405)語、俊承等編 ❻絕海和尙語錄の下を見よ。

佛智禪師語錄 ❶(日) Hac-chi-zen-ji-go-roku.(支)Fo-chih-ch'an-shih-yü-lu. 佛溪廣聞禪師語錄 ❷二卷 ❸存、卍二・二六・二 ❹宋廣聞(淳熙一六—景定四A.D.1189—1263)述、元清等編 ❻佛溪廣聞禪師語錄の下を見よ。

佛智禪師傳 ❶(日) Hac-chi-zen-ji-den. ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❻釋慧雲即ち佛智禪師の略傳である。初に俗姓を記し、次に入宋求法の過程、歸朝の後は勝福寺、東昌寺、東福寺を歷住せしこと、及び遺偈を叙し、最後に贊を附載してゐる。 (後藤大用)

佛頂經疏 ❶(日)Hac-chō-kyō-sho.(支)Fo-ting-ching-su. ❷一卷 ❸(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2204

佛頂經疏 ❶(日)Hac-chō-gyō-sho.(支)Fo-ting-ching-su. 佛頂尊勝陀羅尼珠林、尊頂陀羅尼珠林、尊勝珠林 ❷一卷 ❹渡唐行感述 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2207

佛頂國師語錄 ❶(日)Hac-chō-ko-ku-shi-go-roku. 一絲和尙語錄、佛頂國師語錄年譜塔銘 ❷五卷 ❸存、大正八一・一三六 No.2561、國譯禪宗叢書第二輯第一〇 ❹一絲文守(慶長一三—正保三A.D.1608—1646)譯、文允編 ❻本書は京都南樂田郡千ケ畑、大梅山法常寺開山定慧明光佛頂國師一絲文守禪師の語錄で、大梅二世雪光光顔の編に係る寛文七年本があり延寶六年本、貞享本なども傳へられた。寛文本は大梅二世雪光光顔の編纂で其の大概は卷一に頌古、贊、詩偈。卷二に節序。卷三に送行、法語。卷四に佛事。苦說、下火。卷五に書問、雜文(警策記、銘、說、序、說)並に日用規範、箴などを收めたもので、內容錯雜して編纂にも混亂がある。是の弊を救ふため、元祿十五年十二月大梅四世晦之文光これを重編し、國師の門人智明淨因の撰に係る佛頂國師年譜、及び興福一乘院敬法親王御撰の髮塔銘とを附したもので、大梅三世禪嚴文心並に眼岸文舟等の上表によつて、享保三年八月十九日靈元院太上天皇よりの勅序を賜り、上梓流通せしめたもので、國譯禪宗叢書第二輯第十卷及び大正藏八十一の一に收むるものは何れも是の享保本に依つたものである。

其の內容は、卷首に敕序を收め。卷一に示衆、普說。卷二に法語、書問。卷三に頌古、贊、佛事。卷四に序、記、銘、說、跋、榜、辨、警策、祭文、詩偈(雜體、排律、五言律、七言律、五言絕)。卷五に詩偈(七言絕)並に年譜、髮塔銘を收めたものである。

一絲和尙は、澤庵和尙が將軍家光に歸依せらるゝに對し、靈元天皇後水尾天皇の外護を受け尊皇を以て屹然として立つて居つたもので(辻善之助博士の日本佛敎史の研究正篇參照)其の要語は機鋒俊烈、宗眼高邁なるものがある。

❺享保三刊 ❾(京大、日大來・四八九)(谷大、餘大・二八七六)(駒大)(立大、A五〇・四二) (大久保駿瑞)

佛頂國師東觀紀行 ❶(日)Hac-chō-koku-shi-tō-kin-ki-kō. ❷一冊 ❸存 ❹一絲文守(慶長一三—正保三A.D.1608—1646) ❼(參考) 禪籍目錄

佛頂最勝總持經 ❶(日) Hac-chō-sai-shō-sō-ji-kyō. (支) Fo-ting-tsui-sheng-tsung-chih-ching. 一切如來烏瑟膩沙最勝總持經、烏瑟膩沙總持經 ❷一卷 ❸存、大正一九・四〇七No.978、續成六、卍一五・五、北1205高、南1221兵、元1215高、明北866臨、唐566臨、履1212家、天1212高、法1326虛、至753淨、明南

881廣、Nj.871 ❹宋法天(一開寶六A.D.973—)譯 ❻一切如來烏瑟膩沙最勝總持經の下を見よ。

佛頂最勝陀羅尼經 ❶(日) Hac-chō-sai-shō-da-ra-ni-kyō. (支) Fo-ting-tsui-sheng-to-lo-ni-ching. (梵)佛陀波利譯、佛頂尊勝陀羅尼經參照、(藏)最勝佛頂陀羅尼淨除業障呪經參照、最勝經、最勝陀羅尼經 ❷一卷 ❸存、大正一九・三五五No.969、續成五、卍一一・一、北323知、南333知、元330知、明北348莫、清348莫、履331良、天330知、指295良、法316男、至531條、明南338得、Nj.332 ❹地婆訶羅譯 ❺摩永淳元(A.D.682)

❻杜行顗が儀鳳四年(A.D.679)に佛頂尊勝陀羅尼經を譯した後三年、即ち永淳元年(A.D.682)に譯せられたのが本經で、沙門彦悰の序が附してあるのと、此の經中にある尊勝呪は、法隆寺の貝葉に似ては居るが、併しその勝頭に納諾納莫恒薩誐等の語があるなど、一種特別の體裁をなしてゐるのとが、杜行顗所譯の經と異るのみで、其の由來・功德・修行法等の記述は大略同じい。

❼(參考) 開元錄第九、貞元錄第一二 (神林隆淨)

佛頂呪經并功能 ❶(日) Hac-chō-ju-kyō-hei-ku-nō.(支)Fo-ting-chou-ching-ping-kung-neng. ❷一卷 ❸缺 ❹周闍那耶舍等譯 ❼(參考) 武周錄第一二、開元錄第一四、貞元錄第二四

佛頂消除一切災難陀羅尼經 ❶(日) Hac-chō-shō-jo-i-sai-nan-da-ra-ni-kyō.(支)Fo-ting-hsiao-ch'u-i-ch'ieh-tsai-nan-to-lo-ni-ching. 大威德金輪佛頂機盛光如來消除一切災難陀羅尼經、消除災難經 ❷一卷 ❸存、大正一九・三八八No.964、續開六、卍一六・二、明北1094之、清1094之、履1179槐、明南1063思、Nj.1009 ❺唐代失譯 ❻大威德金輪佛頂機盛光如來消除一切災難陀羅尼經の下を見よ。

佛頂淨除業障經 ❶(日)Hac-chō-jō-go-shō-kyō. (支) Fo-ting-ching-ch'u-yeh-chang-ching. 最勝佛頂陀羅尼淨除業障呪經、佛頂陀羅淨除業障經 ❷一卷 ❸存、大正一九・三五七No.970、續開六、卍一一・一、北325知、南337知、元335知、明北347莫、清347莫、履323良、天332知、指295良、法315良、至533條、明南324故、Nj.351 ❹地婆訶羅譯 ❺唐儀鳳初—乘捉末 (A.D.676—678) ❻最勝佛頂陀羅尼淨除業障呪經の下を見よ。

佛頂心陀羅尼經誌文 ❶(日) Hac-chō-shin-da-ra-ni-kyō-gen-mon. (支)Fo-ting-hsin-to-lo-ni-ching-yen-wen. ❷一卷 ❸存 ❺嘉靖二〇刊 ❾(帝國、い・七一)

佛頂心陀羅尼圖會 ❶(日)Hac-chō-shin-da-ra-ni-zu-e. ❷一冊 ❸存 ❺寛文八刊 ❾(京大、一・二三ヲ・三)

佛頂尊勝心破地獄儀軌 ❶(日) Hac-chō-son-jō-shin-ha-ji-gokū-gi-ki.(支) Fo-ting-tsun-sheng-hsin-po-ti-yü-i-kuei. 佛頂尊勝心破地獄轉業障出三界祕密三身佛果三種悉地眞言儀軌、佛頂尊勝心破地獄法 ❷一卷 ❸存、大正一八・九一二No.905、續餘三、卍續一・三・三 ❹唐善無畏(貞觀一一—開元二三A.D.637—735)譯 ❺吳利時代寫 ❾(寶菩提院)

佛頂尊勝心破地獄轉業障出三界祕密三身佛果三種悉地眞言儀軌 ❶(日) Hac-chō-son-jō-shin-ha-ji-gokū-ten-gon-shō-shutsu-san-gai-hi-mitsu-san-jin-butsu-kwa-san-shu-shiji-shin-gon-gi-ki. (支) Fo-ting-tsun-sheng-hsin-po-ti-yü-chuan-yeh-chang-ch'u-san-chieh-pi-mi-san-shen-fo-kuo-san-chung-hsi-ti-chen-yen-i-kuei. 破地獄軌 ❷一卷 ❸存、大正一八・九一二No.905、續餘三、卍續一・三・三 ❹善無畏(貞觀一一—開元二三A.D.637—735)譯 ❺唐開元五—二三(A.D.717—735)

❻經題は一部の總稱で、全卷の內容を表示して居るものである。佛頂尊勝心とは佛頂尊勝心眞言の意である。佛の頂相にも比す可き最尊最上の心眞言と云ふ意義で、心眞言とは至要なる眞言の意味である。次に破地獄とは八寒八熱の大地獄に墮在す可き惡業罪障を破滅する意、轉業障とは墮獄の業障を轉捨する義、出三界とは欲・色・無色の三界を超出して、生死流轉の業海を離脫する義、祕密三身とは祕密敎の三身と云ふ意である。通佛敎では法身・報身・應身の三身は別身別體であるが、祕密敎に於ては、法・報・應の三身は、其の本體は同一であつて、作用が異ると見做されてある。卽ち自內證の境界に住し給ふ佛身を法身と云ひ、十地の諸大菩薩に對して、六度萬行を說示せられる佛身を報身佛と云ひ、凡夫二乘等の者に對して、應病與藥の敎化を爲し給ふ佛身を應化身と稱する。かく外部には佛身の形相や作用は異つて居つても、佛身の本體內證に於ては固より三身の別があるのではないと云ふのが、祕密敎の說である。今は此の意味の三身を指すのであるから、殊に祕密三身と言つてある。最後に三種悉地とは上品・中品・下品の三種の悉地を指す。阿・縛・賀・囊・欠の五字の明を讀誦することに依つて、上品の悉地を得、阿・縛・羅・吽・欠の五字明を觀誦することに依つて、中品の悉地を得、阿・羅・波・迦・那の五字明を觀誦することに依つて、下品の悉地を得ることに成つてある。悉地(Siddhi)は梵語で、譯して成就と云ふ。成就とは諸願滿足の意である。卽ち上記三種の明呪の何れも、破地獄・轉業障の妙用がある所から、諸眞言中の最尊最上のものと目されて居る。而して此の儀軌には、主として三種の明呪が說示せられてある。 (神林隆淨)

佛頂尊勝心破地獄轉業障出三界祕密三身佛果三種悉地眞言儀軌 ❶(日) Hac-chō-son-jō-shin-ha-ji-gokū-ten-gon-shō-shutsu-san-gai-hi-mitsu-san-jin-butsu-kwa-san-shu-shiji-shin-gon-gi-ki. 同譯佛頂尊勝心破地獄轉業障出三界祕密三身佛果三種悉地眞言儀軌 ❷一卷 ❸存、國譯一切經密敎部第三 ❹神林隆淨譯

佛頂尊勝心破地獄轉業障出三界祕密陀羅尼

❶(日) Buc-chō-son-jō-shin-ha-ji-goku-ten-gō-shō-shutsu-san-gai-hi-mitsu-da-ra-ni. (支) Fo-ting-tsun-shêng-hsin-po-ti-yü-chuan-yeh-chang-chu-san-chieh-pi-mi-to-lo-ni. ❷一卷 ❸存、大正一八・九一四No. 967、館餘三、卍續一・三・三 ❹菩無長(貞觀一一—開元二三A. D. 637—735)譯 ❺同唐咒五—二三(A. D. 717—735)

❻初に五字眞言の讃歎の功力を述べて、如法に人主の頂に布字して、冠中に載けば、萬國清泰なり。節度・觀察は、旌旗の上に眞言を書寫すれば、四方曒靜なり。專城の太守は、銀鎗して戒を總べ、鼓角上に字を題せば、鼙鼓遠く聞えて妖氣を潛め、熾盛は千里に布き、苗稼洪潤にして、人に災疾なく、地土神祇、風恬雨順なり。念誦加持して、戰鼓の上に書すれば、敵軍自ら降り、一人をも損せずと。次に瑜伽事法に關して、千條あり、略して少分を述ぶ。前言して、次に阿・縛等の五字に就て述べ、阿字は東方阿閦如來(金剛部)にして、肝を主り、山海大地は之より出で、縛字は西方阿彌陀如來(蓮華部)にして、肺を主り、江河萬流は之より出で、覽字は南方寶生如來(寶部)にして、心を主り、金玉珍寶・日月星辰・火珠光明は之れより成り、喭字は北方不空成就如來(羯磨部)にして、腎を主り、五穀五果・衆花の開敷は之れに因つて結し、欠字は上方毘盧遮那大日如來(虛空部)にして、脾を主り、秀香美人・天の長美・飄色滋味・鎮正相貌・福德富貴は之れより莊嚴せらると明し、次で毘盧遮那經と金剛頂經との要妙を採集せる最上の綱目は、唵此の五字眞言にして、誦ずる者の獲る功德は、比衆す可からず、思議す可からず、說く可からずと述べて、其の功能を讚嘆し、次に阿は金剛地部一(阿字にて地觀と金剛座觀とを作す)、縛は金剛水部二(縛字にて水觀と蓮華觀とを作す)、覽は金剛火部三(覽字にて日觀を作す)、喭は金剛風部四(喭字にて月觀を作す)、欠は金剛空部五(欠字にて空觀を作す)と次第し、右五部の眞言は、一切如來の無生甘露の珍藥醍醐にして、佛性の妙藥であるから、一字五藏に入れば、萬病生ずることなしと說き、進んで日觀と月觀とを修すれば、即時に佛身の空寂を證得する旨を明し、次に又阿・縛・覽・喭・欠の五字を出して、右の五法身の眞言を、若し日に一遍、或は七遍、二十一遍、或は四十九遍を誦する者の功德を校量するに、一遍の福は、藏經を一百萬遍轉讀するに同じ、何に況や輝寂に坐して、定門に入るをやと云ひ、次に別して阿字觀を稱揚し、併せて經藏の文句を、如來が密に大菩薩のみに傳へて、聲聞の劣慧に與へざる所以を說き、次に阿羅波迦那(下品惡地の眞言)をば出惡地と名く、能く根芽を生じて、遍く四方に滿ち、誦すること一遍すれば、藏經を一百遍轉ずる功德に均しく、阿微羅吉佉(中品惡地の眞言)をば、入惡地と名く、能く枝葉を生じて、遍く四方に滿ち、その光明晃曜は佛の法に入る、誦すること一遍すれば、藏經を一千遍轉ずるが如し、阿謨覽縛欠(上品惡地の眞言)をば、祕密惡地と名け、亦成就惡地と名け、亦無垢惡地と名く。無惡地は過法界なり、佛果を成就して、大菩提を證する法界の祕密宮なり、光明遍滿して、唯佛と佛とのみ、能く此の門に入る。緣覺と聲聞とは、この益に預ることが出來ない。此れを亦祕密惡地と名く。若し誦すること一遍すれば、藏經を一百萬遍轉ずるに均し、出惡地は足より腰に至り、入惡地は脾より心に至り、祕密惡地は心より頂に至る、又出惡地は化身の成就、入惡地は報身の成就、祕密惡地は法身の成就なりと說いて、下・中・上三品の眞言誦持の功德、並に三種の眞言に依つて、各々異つた上・中・下の三品の惡地を得ることを明し、最後に續宮毘盧遮那佛の七言頌が出してある。

之を要するに、本軌の廣本は同三藏譯の三種惡地破地獄轉業障出三界祕密陀羅尼法(略稱、三種惡地軌、大正一八)にして、此の三種惡地軌は、その異本たる佛頂尊勝心破地獄轉業障出三界祕密身佛果三種惡地眞言儀軌(略稱、破地獄軌、菩無長譯、大正一八)と共に、卷頭には中天竺國三藏善無長奉詔譯と明記されてゐるけれども、五字眞言と五藏說、若しくは五行說とを關係づけて居ること、先づ支那の陰陽師の思想を說き、次に印度特有の思想に導き入れようとして居ること、國家の安寧、風雨時順ならんことは、支那戰國時代から、代々の帝王が要望し來つた所であるが、これに合致するものがあること、節度・觀察は、旌旗の上に眞言を書寫する等言つてあること、などの諸點から推察すれば、三藏が印度から請來されたものではなく、入唐後、支那思想と密教思想と融合し、これに由つて、支那に密教思想を普及する爲に、三藏が初めて作製されたものであると想像される。其の他、金胎不二の思想、並に金胎兩部の肝心祕要の妙呪は、阿謨覽縛欠の五字明にして、これに依つて、金胎兩部は統一付けられるものと思惟して居たことなども、前者と共に學術上から見て、研究す可き內容を有する儀軌と云ひ得るのである。本軌は此の三種惡地軌の略略本で、頗はゞ簡單な綱要書とも見られるのである。

佛頂尊勝心破地獄法

❶(日) Buc-chō-son-jō-shin-ha-ji-goku-hō. (支) Fo-ting-tsun-shêng-hsin-po-di-yü-fa. (神林隆淨)

❷一卷 ❸存、大正一八・九一二No. 966、館餘三、卍續一・三・三 ❹唐菩無長(貞觀一一—開元二三A. D. 637—735)譯

佛頂尊勝心破地獄轉業障出三界祕密陀羅尼

❶(日) Buc-chō-son-jō-shin-ha-ji-goku-ten-gō-shō-shutsu-san-gai-hi-mitsu-da-ra-ni. (支) Fo-ting-tsun-shêng-hsin-po-di-yü-chuan-yeh-chang-chu-san-chieh-pi-mi-to-lo-ni. (梵) 佛頂波利譯佛頂尊勝陀羅尼經參照、(藏)最勝佛頂

-ting-tsun. ❷一卷 ❸存、大正一九・三八四No. 974B

❻卷末の建久二年(A. D. 1191)の註記に依れば、弘法大師が在唐の砌、惠果阿闍梨から相承され、御歸朝の後、これを請來錄に載せて天子に奉られたと云ふ梵字尊勝佛頂眞言を以て、金剛智三藏所譯の尊勝呪を勸へたと述べてある。此の中、金剛智三藏所譯の尊勝呪とは、金剛智三藏より玉岡士、玉岡士より斛那、斛那より武徹と相承し來つたものだと稱せられてゐる加句は、靈驗佛頂尊勝陀羅尼を指し、これは眞言宗現行の善無畏本に略ど同じく、唯五六句の不足があるのみであり、又弘法大師請來の梵字尊勝佛頂眞言とは、一種特別の梵本で、現行の陀羅尼の薩駄没駄と地瑟耻多林第との句の間に、毘婆尸佛・尸棄佛等の七佛、及び觀自在菩薩に歸禮する句が附加つて居るのであるが(尭尊の白寶口鈔所出、今のも爾か成つてゐるから、この註記は眞實らしい。併し對譯漢字の下に附してある注義と、鳩摩羅什・佛陀跋陀羅・曇無讖・法護・善明・淮頂門・神力加持門・壽命增長門・定慧相應門・金剛供養門・菩證菩淨門・成就涅槃門の十門を分つて、之を釋して居るのとは、(七佛と觀音とに歸禮する句を除いては、唐の法崇所覽の本は宋・明二本と同樣で、高麗本のよりは餘程短いにも拘らず、字句の增廣には關することなく)、現行のものゝ字句に、其の尊勝陀羅尼經疏の注と、(不空三藏譯の佛頂尊勝陀羅尼注義に據つたものも少しはある)十門の釋とを、そのまゝ依用して居る點から推察すれば、梵文に通曉した人の所爲とは思はれない。

(神林隆淨)

佛頂尊勝陀羅尼經

❶(日) Fo-ting-tsun-shêng-to-lo-ni-ching. (支) Fo-ting-tsun-shêng-to-lo-ni-ching. (梵) Uṣṇīṣa-vijaya-dhāraṇī (Ed. by F. M. Müller & H. Nanjio)(藏) 最勝佛頂陀羅尼淨除業障呪經參照、尊勝陀羅尼經、尊勝陀羅尼 ❷一卷 ❸存、大正一九・三四九No. 967、館餘六、卍一・一・一、北324知、南356知、元331知、明北315寒、清345寒、服321良、天331知、指295良、法314男、歴532稼、明南327改、Nj. 348 ❹佛陀波利譯 ❺所俱羅風元(A. D. 676—)

❻本經は永淳二年(A. D. 683)、即ち地婆訶羅(日照)の第一譯の翌年、更に佛陀波利が西明寺順貞等と共に譯したもので、經首に明太宗(永樂九年A. D. 1411)の御製序と、志靜の序文とが附してある。今志靜の經序に依つて、本經翻譯の因緣を記すと、左の如くである。本經の譯者佛陀波利は、非常に熱烈な信仰を持つてゐた人と見え、常に自分が如來の在世に生れ合さなかつたことを深く歎じて居つた。所が不國華嚴經に依つて、文殊菩薩がいま尙支那の五臺山に在して、苦く衆生を攝化して居られるといふことを知り、大に歡喜雀躍、直に新羅の沙漠を橫斷して、唐の儀鳳元年(A. D. 676)、遙るゝ支那の山西省なる五臺山に詣で、五體を地に投じ、山に向つて頂禮して言ふには、「波利恨むらくは生を八難に享け、宋だ聖旨を想ず、是の故に遠く流沙を涉り、今此に來つて罪謫を乞ふ、伏して願くば大慈大悲苦く覆ふて、尊儀を見せしめ給へ」と。言ひ已るや涙潸然として下り、一心に山に向つて頂禮してゐた。やがて暫し擧つて首を擧げると、忽ち一老人が山中から出て來るのを見た。而して其の老人は波利に向ひ、「法師は眞情から道を慕ひ、聖蹤を追訪し、勉勞を憚らず、遠く遺跡を尋ぬ。然も漢地の衆生、多く罪業を造り、出家の輩も、亦多く、戒律を犯す。唯佛頂尊勝陀羅尼經のみ有つて、能く衆生の一切の惡業を滅す、未だ知らず、法師此の經を將ち來りたるや否や」と。波利答て曰く、「貧道直に來つて禮謁するのみ、經を將ち來らず」と。老人言く、「聖し、來るも何の益かあらん。願ひ文殊を見來るも亦何ぞ識るを得ん。師却て西國に向ひ、此の經を取り、將來して漢土に流傳すべし。是れ福に衆聖を來じ、廣く群生を利し、幽冥を拯濟し、諸の佛恩に報ずる所以なり。師若し經を取り來つて此に至らば、吾れ當に師に文殊菩薩の所在を示すべし」と。波利此の語を聞き、宮殿に勝へず、遂に悲涙を制抑し、至心に歡禮して頭を擧げると、はや老人は見えなかつた。そこで波利は非常に驚愕して、信々敬虔の心を起し、念を繫け、誠を賴けて西國に還歸し、佛頂尊勝陀羅尼經を取り、永淳二年(A. D. 683)に至つて、西京即ち長安に回至し、具に上の事を高宗皇帝に奏聞し、勅によつて日照三藏法師、及び司賓寺の典客令杜行顗等と共に、此の經を翻譯し、更にその年、波利は日照の譯本が宮內に在つて出でざるに因り、利益を失はんことを慨き、梵夾を請ひ出して、西明寺順貞と共に之を再譯し、譯成るや波利は梵本を將つて五臺山に赴き、山に入つて今に出でないといふことである。然るにその後四年を經て、垂拱三年(A. D. 687)に、定覺寺の僧志靜が、日照三藏から親しく授つた尊勝陀羅尼を本とし、舊譯の二本を勘校して、有ゆる脫誤を悉く皆改定した。而して其の勘校した陀羅尼をば、波利譯の經に附したので、現流波利譯の佛頂尊勝陀羅尼經には、その呪の初に『最後別輯』と云ふ註がついてゐるのだと述べてある。

其の內容は杜行顗譯の佛頂尊勝陀羅尼經と大略同じであるが、此の中の陀羅尼は、宋・明二本のは短く、高麗本のはそれより餘程長く、現行のものと大差はない。併し麗本のは後人が補綴したものであつて、原形は恐らく、前二本の如くに、現行のものより短かつたのであらうと思はれる。

❼(注釋) 敎迹義記(硯)二卷(刊No. 1803)法崇。釋一卷(刊、卍續No. 789)續法。要文一卷(刊、佛全)源信。鈔四卷(刊)亮法。明論錄三卷(刊)願海

〔參考〕 開元錄第九、貞元錄第一二 ❽平安朝中期寫(寶壽院)足利時代寫(寶龜院)德川時代寫(寶善提院) (神林隆淨)

佛頂尊勝陀羅尼經

❶(日) Buc-chō-son-jō-da-ra-ni-kyō. (支) Fo-ting-tsun-shêng-to-lo-ni-ching. (梵) 佛陀波利譯佛頂尊勝陀羅尼經參照、(藏)最勝佛頂

陀羅尼淨除業障呪經參照。❷一卷 ❸存、大正一九・三五三No. 958、縮成五、卍二・一、北321知、南314知、元329知、明北316莫、清316莫、麗319良、天329知、指395良、法313男、至583練、Nj. 349 ❹杜行顗譯 ❺唐儀鳳四(A. D. 679)

❻支那晉譯の尊勝陀羅尼中、最も古きもの。一つであつて、初に其の由來として、佛が舍衛國の祇樹給孤獨園に居られた時、三十三天の善法堂中に、善住と名づける天子が居つた。諸の天女と共に日々歡樂に耽つてゐたが、或夜突如として空中に雁あり、「善住天子よ、汝は正に七日の後、命終するであらう。而して畜生の身を受けること七度、その後は地獄に墮して、終に永遠に出づる期はないであらう」と。此の雁を聞き已るや、善住天子は非常に恐怖して、直に忉利天の主なる帝釋天の許に行き、此の由を一切申し上げた。そこで帝釋天が禪定に入つて、苦く之れを觀じた所、正しくそれに相違ないことが解つたので、かゝる惡道の苦を受くべき業因あるを大に惡れみ、之れを救ふものは佛陀の外には無いとて、種々の華鬘・塗香・燒香、並に天衣・瓔珞等の諸の莊嚴具を資して、北天竺舍衛國の祇林に來至し、雙足を頂禮して右に遶ること七匝、大に供養し已つて佛前に跪坐し、具に善住の事を申し上げて、その救濟法を乞ふた。爾の時、如來頂より大光を放ち給ふや、その光遍く十方世界を照し、還つて佛所に至り、右に遶ること三匝して佛口に入る。佛遂に微笑して帝釋に告げて曰く、「此に陀羅尼あり、名づけて佛頂尊勝といふ。若し人此の陀羅尼を受持すれば、直に一切の業障、種々の苦患等、成悉く消滅し、輪廻を離れ、能く清淨の處に生れて、長壽を保つことが出來る」と。帝釋これを聞き、實に善住天子の爲めばかりでなく、願くば一切衆生を憐愍して、その陀羅尼を說かれんことをと懇請した。その結果、佛がお說きになつたのが、即ち此の佛頂尊勝陀羅尼であると述べて、次に其の陀羅尼が出してある。但し此の陀羅尼は、摩古天皇の十七年(A. D. 639)以前に、遣隋使等に依つて請來せられた。大和法隆寺所藏の古貝葉梵本よりも短く、其の體裁も餘程變つてゐる。法隆寺の貝葉は、現今眞言宗に用ふる善無畏三藏譯の尊勝佛頂修瑜伽法軌儀卷上所說の陀羅尼よりは、二十七句程短いのであるが、本經所說のよりは、其の貝葉よりも更に短い。佛は此の陀羅尼を說き已つて後に、若し人この陀羅尼を書寫して、高幢・高山・高屋上等に安置するに、風が其の上を吹いて衆生の身に及ぶだに、罪業悉に消滅して、諸の惡趣に墮することなく、一切如來より記別を授り、不退轉を得、必定して正覺に登ることが出來るのであるから、まして華鬘・寶幡・幡蓋等、諸の供具を調へて、之れを禮拜し、供養するに於てをや、また短命の人は、白月十五日、淺浴齋戒して新淨の衣を著し、此の陀羅尼一千遍を誦ずれば、諸の病苦を離れて、壽命長遠なることを得、或は又、命終の後惡趣に生じた人があつたならば、此の陀羅尼を誦じて土沙を加持し、之れを其の骸骨の上に散ずれば、亡者は直に蓮樂世界に轉生する等、その他無量の功德を有する旨を述べられたこと、及び此の陀羅尼を修行するには、方壇を造り、種々の香華を散じ、右膝を地に著けて長跪し、合十指爪印を胸の上に當てゝ、一心に十方一切の諸佛を念ずべしと說かれたことを明し、最後に帝釋は佛の敎を受け已つて天宮に還り、此の佛頂尊勝陀羅尼を善住天子に授け、佛の命の如く、七日七夜供養せしめた所、果して諸の惡趣の業を皆解脫することを得た。玆に於てか、善住天子は佛・法・僧の三寶並に陀羅尼を讚歎し、又帝釋天は直に善住天子を終ゐ、種々の香華・寶・蓋幢・幡幟・衣服・瓔珞等を執持し、天の寶幡に乘じて佛所に至り、大供養を作して右に遶ること萬匝し、已つて佛前に立ち、佛德を讚歎するや、佛は金色の右手を伸べ、善住天子を慰護して、授記を與へられたと說いてある。

❼(參考) 開元錄第九、貞元錄第一二 (神林隆淨)

佛頂尊勝陀羅尼經 ❶(日) Butchō-son-jō-da-ra-ni-kyō. (支) Fo-ding-tsun-shêng-to-lo-ni-ching. (梵藏) 佛陀波利譯佛頂尊勝陀羅尼經參照、尊勝陀羅尼經、尊勝經 ❷一卷 ❸存、大正一九・三六一No. 971、縮成五、卍二・一、北333知、南346知、元334知、明北344莫、清344莫、麗323良、天333知、指396良、法317男、至534練、明南329練、Nj. 330 ❹義淨(貞觀九—先天二A. D. 631—712)譯 ❺唐登龍四(A. D. 710) ❻杜行顗譯の佛頂尊勝陀羅尼經には、帝釋が善住天子を慰れみ、逝多林の佛陀の許に詣で、その救濟法を乞ふたに對して、佛陀が頂上より大光を放ち給ふや、その光遍く十方世界を照し、還つて佛所に至り、右に繞ること三匝して佛口に入ると成つて居るが、本經には頂より放ち給ふた種々の光が徧く三千大千世界を照し、還つて佛所に至ると佛を繞ること三匝して佛口より入ると、の間に、若し佛が過去の事を說かれる時には、光は背より入り、未來の事に於ては胃より、地獄の事に於ては足下より、傍生の事に於ては足頂より、餓鬼の事に於ては足指より、人の事に於ては膝より、力輪王の事に於ては左手の掌より、轉輪王の事に於ては右手の掌より、天の事に於ては衡より、聲聞の事に於ては口より、獨覺の事に於ては眉間より、無上正等菩提の事を說かれる場合には、その光が頂より入るといふ句が挿入してあつて、說かれる事柄に依り、光の入る場所が夫々異るなどの增廣もあるが、經全體の趣意は前譯と粗々同じい。而して此の中の尊勝呪は、法隆寺の貝葉に似て、現行のものよりは短い。

❼(參考) 開元錄第九、貞元錄第一三 (神林隆淨)

佛頂尊勝陀羅尼經牧跡義記 ❶(日) Butchō-son-jō-da-ra-ni-kyō-kyō-jaku-gi-ki. (支) Fo-ding-tsun-shêng-to-lo-ni-ching-chiao-chi-chi. 佛頂尊勝陀羅尼經疏、尊勝經疏 ❷二卷、附釋眞言義 ❸存、大正三九・一〇一二No. 1803、卍續一・三七・三 ❹法崇 ❺唐大曆一一(A. D. 776) ❻佛頂尊勝陀羅尼經疏の下を見よ。

佛頂尊勝陀羅尼經釋 ❶(日) Butchō-son-jō-da-ra-ni-kyō-jaku. (支) Fo-ding-tsun-shêng-to-lo-ni-ching-shih. ❷一卷、附尊勝佛頂眞言持念法一卷 ❸存、卍續一・九二・一 ❹清澄法釋

❻初に釋者續法の記せる尊勝陀羅尼の異本並に流布の因緣に關する一文と、武林張世煜佐平氏蓋休菲逖の緣起記と、定覺寺沙門志靜述の佛頂尊勝陀羅尼經序とを出し、次に佛陀波利譯の佛頂尊勝陀羅尼經の全文を連ね、最後に音釋・法數・問答の三項に分つて、夫々必要な事項を釋してある。

普賢菩薩	金剛手菩薩	文殊菩薩	
虛空藏菩薩	毘盧遮那佛	除蓋障菩薩	
慈氏菩薩	觀自在菩薩	地藏菩薩	

附錄の尊勝佛頂眞言持念法に於ては、初に開元釋教錄卷九所出の文を、按南北藏尊勝經有五譯預譯名氏并附と題して載せ、次で正しく本文に入り、尊勝菩薩曼荼羅を建立せんとせば、鬼を以て九位を排し、右圖の如く九尊壇を作り、法の如く供養し已つて、次に自身の心中に圓明の月輪あり、月輪の上に、白色にして大光明を放ち、徧く十方世界を照す缺字ありと想へ、かくて缺字の實義を思惟して、眞實理中に自身即ち金剛波羅蜜佛母菩薩像と作ると觀想すれば、一切の所願成就せざるなしと述べ、續いて佛陀波利譯の佛頂尊勝陀羅尼經所說のそれと粗々同樣な無量の功德を說き、最後に末法の時に於て、法の如く曼拏羅を作り、種々に之を供養するを施波羅蜜と名づけ、捧手捺是の律儀を失はざるを戒波羅蜜と名づけ、誓願の時、惰あるも謂らざるを忍波羅蜜と名づけ、修壇に勤勇不怠なるを進波羅蜜と名づけ、專ら法則を明むるに一心不亂なるを禪波羅蜜と名づけ、端正にして可與と不可與との分齊を辨別するを般若波羅蜜と名づけと言つてある。(神林隆淨)

佛頂尊勝陀羅尼經疏 ❶(日) Butchō-son-jō-da-ra-ni-kyō-sho. (支) Fo-ding-tsun-shêng-to-lo-ni-ching-shu. 尊勝經疏 ❷二卷、附釋眞言義 ❸存、大正三九・一〇一二No. 1803、卍續一・三七・三 ❹唐法崇(—廣德頃A. D. 763—764—)述

❺撰者法崇は唐代の人にして、千福寺に住し、內供奉・翻經證義・講論大德となられた俊髦であるが、太曆年中撰述の本書の卷下の裝幀賀を釋する條に、不空三藏の說が引いてある所から、其の卷首に附してある本邦の沙門智昭撰の疑尊勝陀羅尼經疏敍には、不空三藏の門に詣學した人だと言つてある。蓋し不空が仁王經を譯する時、具貞が其の筆受・潤文の任に當つたと同樣、不空の譯場に預つた人であらう。

その內容は、(一)釋、其敎主? (二)以處表示。(三)顯示敎被機? (四)見身同異? (五)出經宗體? (六)聽法軌儀。(七)見聞得利。(八)釋經題目? (九)翻譯時節。(十)依文判釋の十門に分つて、佛陀波利譯の佛頂尊勝陀羅尼經を釋したものである。而して此の中の尊勝呪は、(一)歸敬尊德門。(二)章表法身門。(三)淨除惡趣門。(四)善明灌頂門。(五)神力加持門。(六)壽命增長門。(七)定慧相應門。(八)金剛供養門。(九)菩證淸淨門。(十)成就涅槃門の十門に分つて、詳釋してあるが、法崇が用ゐたものは、高麗本とは異り、宋・明二本と同本であることが判り、且つ尊勝呪の第十成就涅槃門の釋の次に、尊勝大心・小心・心中心の三眞言を出し、次で釋眞言義が挿入してある點が、波利の譯本より增加されてゐることを知る。

❼(參考) 書寫請來法門道具等目錄 ❾安永八刊(龍大、研佛)寫本 (南溟藏)

佛頂尊勝陀羅尼經鈔 ❶(日) Butchō-son-jō-da-ra-ni-kyō-shō. (支) Fo-ding-tsun-shêng-to-lo-ni-ching-chao. 佛頂尊勝陀羅尼經釋 ❷二卷 ❸存、卍續一・九二・一 ❹清續法述

❺佛頂尊勝陀羅尼經卷九所出の文を、捨南北藏尊勝經有五譯預譯名氏并附と題して載せ、次で正しく本文に入り、尊勝菩薩曼荼羅を建立せんとせば、鬼を以て九位を排し、右圖の如く九尊壇を作り、法の如く供養し已つて、次に自身の心中に圓明の月輪あり、月輪の上に、白色にして大光明を放ち、徧く十方世界を照す缺字ありと想へ、かくて缺字の實義を思惟して、眞實理中に自身即ち金剛波羅蜜佛母菩薩像と作ると觀想すれば、一切の所願成就せざるなしと述べ、續いて佛陀波利譯の佛頂尊勝陀羅尼經所說のそれと粗々同樣な無量の功德を說き、最後に末法の時に於て、法の如く曼拏羅を作り、種々に之を供養するを施波羅蜜と名づけ、捧手捺是の律儀を失はざるを戒波羅蜜と名づけ、誓願の時、惰あるも謂らざるを忍波羅蜜と名づけ、修壇に勤勇不怠なるを進波羅蜜と名づけ、專ら法則を明むるに一心不亂なるを禪波羅蜜と名づけ、端正にして可與と不可與との分齊を辨別するを般若波羅蜜と名づけと言つてある。(神林隆淨)

佛頂尊勝陀羅尼經新註 ❶(日) Butchō-son-jō-da-ra-ni-kyō-shin-chū. ❷二卷 ❸存 ❹素範述 ❺享保二〇刊 ❻(十妙院)

佛頂尊勝陀羅尼眞言 ❶(日) Butchō-son-jō-da-ra-ni-shin-gon. (支) Fo-ding-tsun-shêng-to-lo-ni-chên-yen. ❷一卷 ❸存、大正一九・三八九Nj. 974 E. 卍續一・三・四

❻初に不空三藏譯の佛頂尊勝陀羅尼念誦儀軌の中にある尊勝呪と粗々一致せる陀羅尼と、尊勝陀羅尼心眞言とを出し、次に學念梵音法・畫像法・作壇法・念誦法・別行法・印法を明す。

その中、畫像法に於ては、若那譯の佛頂尊勝陀羅尼別法のそれと同じく、唯左邊に梵王と魔王との外に、倚魔慈首羅(Mahe'svara)像を畫き、且つ山水中に白色と赤色との二龍王が居るのが、異つてゐるのみである。次の作壇法に於ては、方或は圓八肘の作壇處を掘り、中に四肘の壇を造り、其の上に四十九尺の幡を安じ、四面には四天王幡及び金剛幡を懸け、一呪索を加持して八肘の外に繞らせ、四門を開いて門每に一香爐を出し、壇內には種々の上妙の好香を燒いて、日夜六時及び四時に念誦すべきことを明し、次の念誦法に於ては、先づ尊勝眞言を念誦せんと欲する時は、壇の東面に居し西に向つて坐し、每日四時若しくは六時に於て、一時に約一百八遍を定と爲し、每時遍數を準つて弘誓願を發さば、永く退轉することなく、終に其の畫像より大光明を放つに至れば、是の法の成就疑なしと述べ、次で本數以外に每日爲す可き作法印明を詳しく說き、次の別行法に於ては、三十五種の成就法を示し、最後の印法に於ては、身印並に明・降伏契・發遣契明等を明す。

之を要するに、本書の撰者は未詳であるけれども、恐らく若那譯の佛頂尊勝陀羅尼

別法を敷衍し、更に觀行作法印明を附加して、一部の儀軌と爲したものであらうと想像される。（神林隆淨）

佛頂尊勝陀羅尼珠林 ❶(日) Bucchō-son-jō-da-ra-ni-ju-rin. (支)Fo-ting-tsun-shèng-t'o-lo-ni-chu-lin. 佛頂經疏、尊頂陀羅尼珠林、尊勝珠林 ❷一卷 ❸波著行感述 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2203, 2206

佛頂尊勝陀羅尼注義 ❶(日) Bucchō-son-jō-da-ra-ni-chū-gi. (支)Fo-ting-tsun-shèng-t'o-lo-ni-chu-i. ❷一卷 ❸存、大正一九・三八八 No. 974D、卍續二・九・四 ❹不空(神龍元—大曆九A. D. 705—774)譯 ❺唐天寶五—大曆九(A. D. 746—774)

❻尊勝陀羅尼を對譯漢字にて記し、その字句に注釋を施したものであるが、併し同三藏譯の佛頂尊勝陀羅尼念誦儀軌の中にある尊勝呪とは字句に多少の增減がある。（神林隆淨）

佛頂尊勝陀羅尼傳序 ❶(日) Bucchō-son-jō-da-ra-ni-den-jo. (支) Fo-ting-tsun-shèng-t'o-lo-ni-ch'uan-hsü. ❷一卷 ❼(參考) 御請來目錄

佛頂尊勝陀羅尼念誦儀軌 ❶(日) Bucchō-son-jō-da-ra-ni-nen-jū-gi-ki. (支) Fo-ting-tsun-shèng-t'o-lo-ni-nien-sung-i-kuei. 佛頂尊勝陀羅尼念誦儀軌法、尊勝陀羅尼儀軌、尊勝陀羅尼念誦儀軌、佛頂尊勝念誦法、尊勝佛頂儀軌、尊勝儀軌 ❷一卷 ❸存、大正一九・三六四 No. 972、館問六、卍二二・一、北1355感、南1339阿、元1378阿、明北1414薄、清1414薄、麗1340衝、天1369阿、法1195八、至830不、明南1155無、三十帖策子第六、Nj. 1421 ❹唐不空(神龍元—大曆九A. D. 705—774)譯

佛頂尊勝陀羅尼念誦儀軌法 ❶(日) Bucchō-son-jō-da-ra-ni-nen-jū-gi-ki-hō. (支)Fo-ting-tsun-shèng-t'o-lo-ni-nien-sung-i-kuei-fa. 尊勝陀羅尼儀軌、尊勝陀羅尼念誦儀軌、佛頂尊勝念誦儀軌 ❷一卷 ❸存、大正一九・三六四 No. 972、館問六、卍二二・一、北1355感、南1339阿、元1378阿、明北1414薄、清1414薄、麗1340衝、天1369阿、法1195八、至830不、明南1155無、Nj. 1421 ❹唐不空(神龍元—大曆九A. D. 705—774)譯

❺初に像・壇法として、先づ本尊尊勝陀羅尼像を畫いて東壁に安置し、其の前に壇を造り、白檀香を以て九位を設るべきことを說き、次に作法印明として、梁密眞言・發願(五大願)・三昧耶印言・法界生印言・金剛薩埵法輪印言・金剛甲冑印言・不動尊印言・道場觀(四門四隅の各四菩薩及び八供養を說く)・如來詞印言・獻座印言・開伽眞言・五供養印言・虛空藏明妃印言・月輪觀(月輪の上に梵字を想ひ、其の眞實理の中に於て、自身を觀じて金剛波羅蜜佛母菩薩像と作す)・金剛波羅蜜印言・堅鑒眞言・被甲眞言・拍掌眞言・尊勝陀羅尼(法隆寺の貝葉と大同小異である)・加持念珠眞言・奉塗印言の次第にて說き明し、最後に息災法には、本尊・供養物・行者の衣服等、悉く皆白色を用ゐ、北に向つて坐し、沈水香を燒き、增長法には黃色を用ゐ、東に向つて坐し、白壇香を燒き、降伏法には青色或は黑色を用ゐ、南に向つて坐し、安悉香を燒き、敬愛法には赤色を用ゐ、西に向つて坐し、蘇合香を燒くべしとて、謂ゆる四種法が示してある。之を要するに、本軌は護金合行の尊勝法であつて、本邦へは空海(A. D. 774—835)・圓行(A. D. 799—852)・圓仁(A. D. 794—864)・惠運(A. D. 798—871)・圓珍(A. D. 814—891)等に依つて、請來されたことに成つてゐる。

❼(參考) 眞元錄第一五 （神林隆淨）

佛頂尊勝陀羅尼別法 ❶(日) Bucchō-son-jō-da-ra-ni-bep-pō. (支) Fo-ting-tsun-shèng-t'o-lo-ni-pie-fa. ❷一卷 ❸存、大正一九・三九六 No. 974E、卍續一・三・四 ❹若那譯 ❺唐開成三(A. D. 838)

❻譯者若那が慈福寺の僧若能の爲に口授したもので、初に畫像法として、甘露山中の尊寶內に、釋迦牟尼佛の結跏趺坐せるを作り、其の左邊には帝釋及び眷屬、右邊には右手に毬杖を把れる善住乾闥婆兒及び眷屬、又左右に各々兩箇の四天王及び眷屬、佛の左邊に於て、梵天王並に魔王を畫くべきことを說き、次に壇法として、中心に螺髻青色にして西面せる佛頂尊を畫作し、南門には帝釋座、東門には乾闥婆兒の善住座を夫々安じ、呪師は西門に坐して持誦すべきことを示し、最後に三十八種の成就法を明す。本邦へは圓仁(A. D. 794—864)・宗叡(A. D. 809—884)の二師に依つて、請來されたことに成つて居る。

佛頂尊勝陀羅尼梵本 ❶(日) Bucchō-son-jō-da-ra-ni-bon-pon. ❷一軸 ❸存 ❹建久二寫 ❺(寶菩提院) （神林隆淨）

佛頂尊勝陀羅尼明驗錄 ❶(日) Bucchō-son-jō-da-ra-ni-myō-ken-roku. 尊勝陀羅尼明驗錄 ❷三卷 ❸存 ❹凱海(文政六—明治六A. D. 1823—1873)述 ❺嘉永七刊(京大、一・二六ノ四)(高大、寄・一・三二)(谷大、鈴大・三一三二)(龍大、二四一八・六八)昭和四刊(龍大)

佛頂尊勝念誦法 ❶(日) Bucchō-son-jō-nen-jū-hō. (支)Fo-ting-tsun-shèng-nien-sung-fa. 佛頂尊勝陀羅尼念誦儀軌法、尊勝陀羅尼儀軌、尊勝陀羅尼念誦儀軌、尊勝佛頂儀軌、尊勝軌 ❷一卷 ❸存、大正一九・三六四 No. 972、館問六、卍二七・一、北1355感、南1339阿、元1378阿、明北1414薄、清1414薄、麗1340衝、天1369阿、法1195八、至830不、明南1155無、三十帖策子第六、Nj. 1421 ❹唐不空(神龍元—大曆九A. D. 705—774)譯 ❺佛頂尊勝陀羅尼念誦儀軌法の下を見よ。

佛頂尊頂祕法 ❶(日) Bucchō-son-chō-hi-hō. ❷一卷 ❸存 ❹泰洲記 ❺元文三寫 ❻(明德院)

佛頂陀羅尼淨除業障經 ❶(日) Bucchō-da-ra-ni-jō-jo-gō-shō-kyō. (支) Fo-ting-t'o-lo-ni-ching-ch'ü-yeh-chang-ching. 最勝佛頂陀羅尼淨除業障呪經、佛頂淨除業障經 ❷一卷 ❸存、大正一九・三五七 No. 970、館問六、卍二一・一、北335知、南337知、元335知、明北317莫、清347莫、麗323良、天323知、指325良、法315良、至533緣、明南324改、Nj. 351 ❹地婆訶羅譯 ❺唐儀鳳初—乘批來(A. D. 676—679) ❻最勝佛頂陀羅尼淨除業障呪經の下を見よ。

佛頂大白傘蓋陀羅尼經 ❶(日) Bucchō-dai-hyaku-san-gai-da-ra-ni-kyō. (支) Fo-ting-ta-pai-san-kai-t'o-lo-ni-ching. ❷一卷 ❸存、大正一九・四〇一 No. 976、館成六、元1432約 ❹沙囉巴譯 ❺元延祐元(A. D. 1314)

❻佛世尊が三十三天の善法堂に居られて、菩薩佛頂三昧に入り給ふた。その時、忽にして世尊の肉髻の中から秘密微妙の法が演出せられた。之を佛頂大白傘蓋陀羅尼と稱する。この陀羅尼に威神力ありて、天橫・憂惱・惡夢を遠離し、八萬四千の妖魔と及び八執曜火害とを除き、又毒藥・器械・水火等の難を救ふ。この陀羅尼を樺皮・貝葉・素絹等に書して、之を身上に帶し、或は頂に繫くれば、毒も害する能はず、水火も害する能はず、八萬四千の金剛部衆は、大歡喜して常に其の人を守護し、生々世々、諸の惡趣の中に生ずることなく、貧窮下賤に生を受けずして、無量の諸佛の福德業を得、梵行を修せざるものも、梵行を成じ、持戒せざる者も持戒の德を得、五無間罪等の舊業障罪は、盡く滅して餘なく、若し女人あつて、男子を求めんとして、此の陀羅尼を持すれば、便ち智慧ある男子を設け、福德壽命、色力圓滿にして、母子俱に命終の後には、極樂國土に往生することを得と說かれてある。（神林隆淨）

佛頂放無垢光明入普門觀察一切如來心陀羅尼經 ❶(日) Bucchō-hō-mu-ku-kō-myō-nyū-fu-mon-kwan-zatsu-i-sai-nyo-rai-shin-da-ra-ni-kyō. (支)Fo-ting-fang-wu-kou-kuang-ming-ju-p'u-men-kuan-ch'a-i-ch'ieh-ju-lai-hsin-t'o-lo-ni-ching. (梵)Samasta-mukha-pravesa-rasmi-vimalaḥ-prabhā-sarva-tathāgata-hṛdaya-samayāvalokita-dhāraṇī (藏傳) kun-nas-ṅgor ḥjug-paḥi-ḥod-zer ḥtsog-tor dri-ma med-par snaṅ-ba dehbaḥi-ṅgesṅs-pa thams-cad kyi sñiṅ-poḥi dam-tshig la rnam-par ltaḥ-ba sheḥ-bya-baḥi-gzuḥs. 觀察如來心陀羅尼經、如來心經 ❷二卷 ❸存、大正一九・七二一 Nj. 1025、館成五、卍一五・二、北1107詩、南1123詩、元1117詩、明北785忠、清785忠、麗1114肆、天1103詩、法1237兵、明南789力、Nj. 790 ❹施護譯 ❺宋太平興國五(A. D. 980)

❻佛世尊が觀史陀(Tuṣita)天に居られ、大菩薩衆・梵天・大自在天等、皆集り來つた時に、六度の果報に就て說いて下の如く言はれた。布施を行ずる者は、その果報として大福德藏を得、不退轉の自在を得、天は七寶を雨らし、求めざるに自ら得、淨戒を持する者は、五道を得て梵天に生じ、忍辱を行ずる者は、天の色相を得、妙好莊嚴ありて、一切の者は皆見るを樂ひ精進を修する者は、生死を超出して、佛刹に悠遊することを得、靜慮を修する者は、首楞嚴三昧(śūraṅgama-samādhi 健行定)を得、又其の他の無量の三摩地を得、智慧を修する者は、大福藏を得、又多聞有智の人と成ることを得と說かれてある。

彼の天衆等は此の六度の行果を聞いて、心に大に歡喜し、晝夜に思惟し修行し觀察して居つた。この時、忉利(Trāyastriṅśa 三十三)天子に摩尼藏無垢と名づくる天子あり、百千の眷屬や八千の天女等と俱に娛樂し、五欲の樂を受け迷醉耽著して、我慢を示し睡眠を恣にして居つた。この天子の中夜分睡夢の間に至口天夜叉あり、天子に對して、汝の快樂は久しからず、今より七日の後に、必ず命終して地獄の衆苦を受くるであらうと言ふを聞く、苦惱懊惱の後に、かの天子は帝釋天の所に往き、至口天夜叉の說を述べて、救を求めた。帝釋天は天子を慰めて言ふには、怖るる勿れ、佛世尊在して、法藥を以て生老病死の苦を救ひ、地獄や一切の惡趣に受生することを避け得るであらう。世尊は今都史多天に在す、汝は我と俱に彼方に至つて世尊に救を求むべしと爲して、彼等は都史多天に至り、世尊に此の事情を語つて救を求めた。その時に、世尊は此の摩尼藏無垢天子が今後悲慘の生涯を受くるであらうことを詳細に述べられたので、帝釋天王も、大に驚怖を感ずるに至つた。此の時に世尊は、此の種苦の重障を救ふ爲に、佛頂放無垢光明入普門觀察一切如來心陀羅尼を說き給ふた。而して帝釋天に告げて言く、若し衆生有りて、この陀羅尼を見聞し隨喜するもの有れば、三世の一切の罪業も、積地獄の業報も皆悉く消失する。若し此の陀羅尼を誦持して、諸の疑惑無く、自ら己身の三業の淸淨なるを見ること、猶ほし日出でて、光明若く照すが如く、又水を失ふ魚は復水を得、水に依て復快樂を受くるが如く、若し復世間一切の衆生にして、常に能く此の陀羅尼を誦持するものは、壽命を益々長くすることが出來る。と說かれてある。(以上卷上)

次に造塔供養等の作法を明し、世尊が帝釋天主に示し、天主即ち摩尼藏無垢天子は、如來所說の儀軌法則に依て、造塔し、燒香禮拜し、一心に念誦して、一切の罪業苦惱の報を皆悉く消除することが出來た。次に此の天子に何故に罪業が發生したかに就て、以下の如くに述べられてある。かの無垢天子は苦報を消除し已つて、後に觀史多宮に往き、世尊に大供養を捧げ已つて、世尊の前に坐して法を聞かうとした。その時に會中の金剛手大藥叉主が、世尊の前に進み出でて、此の無垢天子は宿世で如何なる業を爲して、是の如くの極惡の果報を得たのであるかを尋ねた。その時、世尊の答は下の如くで有つた。過去世に南印度に廣圓滿と名づくる城が有つた。そこに無垢と稱する婆羅門が住して、說法師と爲つて居つ

數 ❶號(名書)名題❷(名)❸卷❹數❺紙存❻代年作書❼著❽(書名)(書名參考)註❾(名東書)書紀所現❿月年の刊寫⓫解說有內⓬代年作書⓭著⓮紙存⓯數⓰號(名書)名題⓱名所行目⓲

た。此の人は性、頗る聰敏で有つて、能く諸法の相を分別し、色銀鑄嚴にして、形儀威嚴、見る者皆な歓喜した。この說法師は善信者に對して、此の一切如來心陀羅尼を說き、廣く一切衆生を利益するが爲に、此の明な陀羅尼を恒に思惟し觀察して居つた。この時に光明長者と名づくるものが、かの城中に住して居つて、財富無量にして大自在を得、諸の婆羅門は成な仮れに隨服して居つた。かの無垢婆羅門が人に對して此の心明呪を解說して居つたのを聞いて、不善の心を生じ、この婆羅門を魚の如く龜の如くに片々に割截し、復業縛を以て口中に著けてやらうと思惟した。この思惟を爲すや、かの長者は忽にして自ら白癩の病報を得、大疫癘を受け、直に命終して無間大地獄の中に生じ、一劫の間、大苦惱を受けた。彼の獄を出で已つて、次に魚龜の中に生じ、復一劫の間、大苦惱を受け、命終の後更に大黑繩地獄に生じて大苦惱を受け、かくして遂に本住の城に受生したが盲聾の中に生じて、生れながらにして目が無かつた。遇々かの無垢比丘が或る寺に住するを聞き、心に信重を生じ、かの比丘を尋ねた。彼の比丘は常に悲愍を行じて居つたから、慈心を以て彼の長者を迎ひ、美食を與へて後に此の心明陀羅尼を解說した。長者も遂に此の心明を信受し諦思して宿命通を得るに至つた。この長者は卽ち今の摩尼藏無垢天子であり、彼の長者の爲に心明を示したのは、卽ち文殊師利童子であると說かれてある。次に此の陀羅尼を成就する儀軌が明されてある。之れに依れば此の明王を一遍誦持することは、二十の如來全身の塔を旋遶すると等しい。又此の二如宣寶を一遍誦することは、無量衆多の如來の所に於て、善根を種ゆると同じく、十種報を得、五無間業を皆悉く滅盡し、一切の罪障を皆解脫することを得、復長壽を得、命終の後は定めて安樂世界に往生することを得る。如法に此の心明を誦せんとせば淸淨に身を澡浴し、鮮潔の衣を着し、四方の曼拏羅卽ち壇を作り、牛糞皮を用ゐて、此の心明を書し、又五塔を作りて、方壇の中心に安じ、その五塔の中に心明を安置し、又中心に相輪を安置し、相輪の杵上に於て赤色の絹を繫けて、以て幡幟と爲す。壇上に四寶瓶と四香爐とを置き、四種の香を燒く。四種香とは薰香・沈香・栴壇香・安息香である。諸の名華と抹香とを散し、閼伽器等を置て、曼拏羅を旋遶して、此の二如宣寶を念誦すること一百八遍すべきである。若し人蛇の爲に螫され、毒命將に盡きんとし、或は疾病に纏染され、毒命將に盡きんとし、或は中矢せんとする者、兵戈を怖畏し、又子息を求めんとするものは、當に曼拏羅の前に、五穀林樹の葉を安じ、彼の樹葉を以て身上を拂ひ、塔の曼拏羅に於て諸善の心を發し、諸の供養を作すべきである。若し二の所作、皆此の儀軌法則に依れば、前生の百千劫の間に積集せる罪業障難を解脫することを得、一切の煩惱も疾病も怖畏も皆悉く遠離することを得、若し專注して念誦すれば、短壽の人は長壽を得、久妻癡夢の者も、疹疫を得、身根圓滿にして宣顯悉く成就し、安樂世界に往生することを得と說いてある。

佛頂輪王一百八名讚 (神林隆淨)

(支) Fo-tin-lun-wang-i-pai-pa-ming-tsan. 一切如來說佛頂輪王一百八名讚、一切如來頂輪王一百八名讚經、輪王一百八名讚經 ❷一卷 ❸存、大正一九・三三〇No. 950、縮成八、卍一六・一〇、北1191兵、南1313兵、元1256兵、明北1054言・淸1064言、服1203八、天1192兵、法1321歿、至586北、明南570服、No. 1095 ❹宋施護譯 ❺一切如來說佛頂輪王一百八名讚の下を見よ。

佛聽帽子篇 ❶(日)Butsu-chō-bōshi-hen. ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第七四服具叢書第二 ❹草野撰 ❺明和六(A. D. 1769)

❻僧の用ひる帽子は律に根據があつて、佛陀が着用を許されたことを論證したるもの。(一)初めに遂作の由來を說き、(二)列a異名? (二)歸a用不? (三)問答決疑の三項に分けて論ず。明和五年の仲冬、北越にて淨土宗徒の間に帽子に就て事件が起つたので、此書を撰して根據あるを示し、官に訴へて裁斷を乞ふたのである。是より先き、義海の佛像標幟義圓說、又は衣服圓說といふ書があつて、帽子非禮論者は之に依つてゐたから、此書はそれを破る目的でもあつた。著者は北越長岡榮凉寺の僧である。明和九年門越奥の序、同年元浸の跋、及び著者の門人卓嚴が刊行に當つての跋を載す。

(大野法道)

佛通和尙行實 ❶(日) Butsū-wa-shō-gyō-jitsu. ❷一冊 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

佛通禪師行狀 ❶(日) Butsū-zen-ji-gyō-jō. 大塵庵佛通禪師行狀 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九傳部第二

❹佛通禪師卽ち瘦瓦大塵和尙の行狀を錄したるもの。先づ俗姓を記し、入道參學の後に安堯大福の二寺を開創せしことを記し、自贊の文を載してゐる。其の頂相自贊に「去々來々如是也、十方三世更无遷、居床說法絕a言語」聽者當聞天外仙」とある。佛通和尙行實參照。

(後藤大用)

佛通禪師枯木集 ❶(日) Butsū-zen-ji-ko-boku-shū. 古木集、東福佛通禪師古枯集 ❷二卷 ❸存、禪門法語全集第五、國文東方佛敎叢書第一輯第三法語部、禪門法語集卷中 ❹嶽瓦大塵寬喜元—正和元(A. D. 1229—1312)撰 ❺枯木集の下を見よ。 ❻寬永一八刊 ❼(京大・一・二六フ・三)(哲・ぶ・二・左・二四)

佛通禪師十牛決 ❶(日) Butsū-zen-ji-jū-gyū-ketsu. 東福佛通禪師十牛決、十牛決 ❷一卷 ❸存 ❹嶽瓦大塵(寬喜元—正和元 A. D. 1229—1312)述 ❼刊本(谷大、餘大・三四三八)

佛通老漢遷化記 ❶(日)Butsū-rō-kan-sen-ge-ki. ❷一冊 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

佛弟子經 ❶(日) Butsu-de-shi-kyō. 現代宣譯佛弟子經 ❸存、現代宣譯根本佛敎經典叢書第四 ❹赤沼智善譯

佛弟子化魔子調伏經 ❶(日) Butsu-de-shi-ke-ma-shi-ju-gō-kyō. (支) Fo-ti-tzū-hua-mo-tzū-sung-chieh-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❺大集經第二十七卷寶幢分の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、武周錄第二、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛弟子傳 ❶(日) Butsu-de-shi-den. ❷一卷 ❸存 ❹山邊習學著 ❺大正一〇刊 ❻東京無我山房

佛天を仰いで ❶(日)Butsu-ten-o-aogi-de ❷一卷 ❸存 ❹蜂屋賢喜代著 ❺大正一三刊 ❻(谷大、宗洋・五九六)

佛典基礎學教科書 ❶(日)Butten-ki-so-gaku-kyō-kasa-sho. ❷三卷 ❸存 ❹大谷大學編 ❺阿含、法華、涅槃之部。 ❻大正一三刊 ❼京都大谷大學出版部

佛典結集 ❶(日)Butsu-ten-ketsu-jū. 佛敎史論佛典結集 ❷一冊 ❸存 ❹松本文三郎著 ❺明治三六刊 ❻(谷大、餘洋・一四二×京大、一・二一ア・五、一・二〇ラ・二二×正大、一〇三一・一九×帝國、七七・二一八) ❼東京廣文堂

佛典研究法 ❶(日) Butsu-ten-kenkyū-hō. ❷一卷 ❸存 ❹深浦正文著 ❺大正一二刊 ❻(龍大、研佛)

佛典講義錄 ❶(日) Butsu-ten-kō-gi-roku. ❷四卷 ❸存 ❹鶴龍鳴會 ❻(帝國、六二・二五八)

佛典疏鈔目錄 ❶(日) Butsu-ten-shō-shō-moku-roku. ❷二卷 ❸存、大日本佛敎全書第一佛敎書籍目錄第一 ❹樂隆編 ❺諸經律論三藏の章疏並に諸宗綱要書、諸傳記、雜記等の分類目錄である。華嚴經疏鈔としては玄暢の華嚴經疏十卷光統、慧遠、賢首、元曉、淸涼等の疏五十一部を揭げ、維摩・楞伽・楞嚴・金剛・仁王・法華・涅槃・圓覺等の諸經、四分・十誦等諸律、起信・唯識・瑜伽・中論・百論・十二門論・智度論等諸論の章疏、三論宗雜章目錄、諸宗雜章目錄、三藏聖敎目錄、諸傳目錄、大藏集略目錄、敎乘法數目錄、大藏音義目錄、淨土雜記目錄、悉曇諸鈔目錄、眞言雜記目錄、禪宗語錄目錄等の精細なる分類に基いて古今の撰述を現存せると散佚せしとに關らず揭出し、華嚴、天台、唯識、禪宗等に關する自著をも揭ぐ。

(林信雲)

佛典說話全集 ❶(日)Butsu-ten-setsu-wa-zen-shū. ❷十二冊 ❸存 ❹常盤大定編 ❺昭和二刊 ❻東京隆文館

佛典に顯れたる療病法 ❶(日) Butsu-ten-ni-ara-wa-re-ta-ryō-byō-hō. ❷一冊 ❸存 ❹佐々木惠德著 ❺大正七刊 ❻(龍大、二二〇九九・二三一×谷大、餘洋・四六七×京大、日大未・八三五)

佛典の解說 ❶(日)Butsu-ten-no-kaisetsu. ❷一卷 ❸存 ❹常盤大定著 ❺大正七刊 ❻東京西午出版社

佛典の研究 ❶(日)Butsu-ten-no-kenkyū. ❷一卷 ❸存 ❹松本文三郎著 ❺大正三刊 ❻東京西午出版社

佛典批評論 ❶(日)Butsu-ten-hi-hyō-ron. ❷一卷 ❸存 ❹松本文三郎著 ❺昭和二刊 ❻東京都弘文堂

佛典物語 ❶(日)Butsu-ten-mo-no-gatari. 通俗佛典物語 ❷一卷 ❸存 ❹大屋德城著 ❺明治四二刊 ❻(谷大、餘洋・二五五)

佛傳 ❶(日) Butsu-den. ❷一冊 ❸存、大雄叢書第一輯 ❹高楠順次郎著 ❺昭和三刊 ❻東京大雄閣

佛傳關係史料 ❶(日) Butsu-den-kwan-kei-shi-ryō. ❷一冊 ❸存 ❹板原關敎編 ❺昭和三刊 ❻(谷大、餘洋・九四六)

佛傳集成 ❶(日)Butsu-den-shū-sei. ❷一卷 ❸存 ❹常盤大定著 ❺大正一三刊 ❻東京西午出版社

佛傳に關する諸經の大略 ❶(日)Butsu-den-ni-kwan-su-ru-sho-kyō-no-tai-ryaku. ❸存、大藏經要義第七 ❹本多日生(—昭和六A. D. 1931)

佛傳涅槃篇 ❶(日) Butsu-den-nehan-hen. ❷一卷 ❸存 ❹多田鼎著 ❺明治四二刊 ❻(谷大、餘洋・二五八)

佛傳文學の研究 ❶(日)Butsu-den-bun-gaku-no-ken-kyū. 梵文佛傳文學の研究 ❷一冊 ❸存 ❹木村泰賢(明治一四—昭和五A. D. 1881—1930)平等通昭共著 ❺昭和五刊 ❻東京岩波書店

佛と印度佛跡 ❶(日) Butsu-to-indo-bus-seki. ❷一冊 ❸存 ❹重田象陽 ❺昭和二刊 ❻春川琴陽社

佛土義私記 ❶(日)Butsu-do-gi-shi-ki. ❷一卷 ❹良源(延喜一二—寬和元A. D. 912—995)述 ❼(參考) 山家組德撰述篇目集卷上

佛土義私記 ❶(日)Butsu-do-gi-shi-ki. ❷一卷 ❸存 ❹慧亮(延曆一〇—貞觀元A. D. 791—859)述 ❼(參考) 山家組德撰述篇目集卷下 ❺天和二刊 ❻(正大、一三六・三七—三八×哲、ま・一・右・一八)

佛土嚴淨經 ❶(日) Butsu-do-gon-jō-kyō. (支) Fo-tu-yen-ching-ching. 文殊師利佛土嚴淨經、文殊佛土嚴淨經、嚴淨佛土經 ❷二卷 ❸存、大正一一・八九〇No. 318、舘地一〇、卍六・三、北32服、南29服、元29服、明北28服、淸28服、服33乃、天32服、指22乃、法28乃、至92位、明南28服、No. 31 ❹竺法護譯 ❺西晉太熙元(A. D. 290) ❻文殊師利佛土嚴淨經の下を見よ。

佛土眞假圖說 ❶(日)Butsu-do-shin-ka-zu-setsu. ❷一冊 ❸存 ❹道粹(正德三—明和元A. D. 1711—1764) ❺延享二刊 ❻(龍大、一五〇二・一五×哲、と・五・左・一)

佛度梅陀羅兒出家經 ❶(日) Butsu-do-gen-da-ra-ji-shuk-ke-kyō. (支) Fo-to-chan-t'o-lo-erh-ch'u-chia-ching. 佛度梅陀羅兒經 ❷一卷 ❹失譯 ❺出曜經第十三卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛燈國師語錄 ❶(日) Butsū-kokushi-go-roku. 佛燈大光國師語錄、佛燈國師約錄和尙語錄、佛燈錄 ❷三卷 ❸存 ❹約錄德檢・寬元三—元應二(A. D. 1245—1320)語 ❼(參考) 扶桑禪林僧寶傳 ❹(帝國、八二一・一六五)

東京国立博物館（とうきょうこくりつはくぶつかん）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan. 上野公園にある日本最大の総合博物館。本館・東洋館・平成館・法隆寺宝物館・黒田記念館・表慶館の六館。㊁上野公園 ㊂1872年（明治5）創設。㊃Ueno Park, Taito-ku, Tokyo. ㊄Tokyo National Museum.

東京国立文化財研究所（とうきょうこくりつぶんかざいけんきゅうじょ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-bun-kazai-ken-kyū-jo. 文化財の調査・研究・保存・修復・公開を行う国の機関。㊁東京都台東区 ㊂1950年（昭和25）設立。㊃National Institute for Cultural Properties, Tokyo. ㊄National Institute for Cultural Properties, Tokyo.

東京国立近代美術館（とうきょうこくりつきんだいびじゅつかん）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-kin-dai-bi-jut-sukan. 日本の近代美術を収蔵する美術館。㊁東京都千代田区 ㊂1952年（昭和27）開館。㊃National Museum of Modern Art, Tokyo. ㊄National Museum of Modern Art, Tokyo.

東京国立劇場（とうきょうこくりつげきじょう）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-gek-ijō. 伝統芸能の保存・育成・公演を目的とする国立の劇場。㊁東京都千代田区 ㊂1966年（昭和41）開場。㊃National Theatre, Tokyo. ㊄National Theatre, Tokyo.

東京国立西洋美術館（とうきょうこくりつせいようびじゅつかん）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-sei-yō-bi-jut-sukan. 西洋美術の収蔵・展示を行う国立美術館。㊁東京都台東区 ㊂1959年（昭和34）開館。㊃National Museum of Western Art, Tokyo. ㊄National Museum of Western Art, Tokyo.

東京国立博物館（とうきょうこくりつはくぶつかん）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan. 日本最古の総合博物館。㊁東京都台東区上野公園 ㊂1872年（明治5）創設。㊃Tokyo National Museum. ㊄Tokyo National Museum.

東京国立文化財研究所（とうきょうこくりつぶんかざいけんきゅうじょ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-bun-kazai-ken-kyū-jo. 文化財の調査・研究・保存・修復・公開を行う国の機関。㊁東京都台東区 ㊂1950年（昭和25）設立。㊃National Institute for Cultural Properties, Tokyo. ㊄National Institute for Cultural Properties, Tokyo.

東京国立近代美術館（とうきょうこくりつきんだいびじゅつかん）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-kin-dai-bi-jut-sukan. 日本の近代美術を収蔵する美術館。㊁東京都千代田区 ㊂1952年（昭和27）開館。㊃National Museum of Modern Art, Tokyo. ㊄National Museum of Modern Art, Tokyo.

東京国立劇場（とうきょうこくりつげきじょう）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-gek-ijō. 伝統芸能の保存・育成・公演を目的とする国立の劇場。㊁東京都千代田区 ㊂1966年（昭和41）開場。㊃National Theatre, Tokyo. ㊄National Theatre, Tokyo.

東京国立西洋美術館（とうきょうこくりつせいようびじゅつかん）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-sei-yō-bi-jut-sukan. 西洋美術の収蔵・展示を行う国立美術館。㊁東京都台東区 ㊂1959年（昭和34）開館。㊃National Museum of Western Art, Tokyo. ㊄National Museum of Western Art, Tokyo.

東京国立博物館（とうきょうこくりつはくぶつかん）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan. 日本最古の総合博物館。㊁東京都台東区上野公園 ㊂1872年（明治5）創設。㊃Tokyo National Museum. ㊄Tokyo National Museum.

東京国立文化財研究所（とうきょうこくりつぶんかざいけんきゅうじょ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-bun-kazai-ken-kyū-jo. 文化財の調査・研究・保存・修復・公開を行う国の機関。㊁東京都台東区 ㊂1950年（昭和25）設立。㊃National Institute for Cultural Properties, Tokyo. ㊄National Institute for Cultural Properties, Tokyo.

東京国立近代美術館（とうきょうこくりつきんだいびじゅつかん）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-kin-dai-bi-jut-sukan. 日本の近代美術を収蔵する美術館。㊁東京都千代田区 ㊂1952年（昭和27）開館。㊃National Museum of Modern Art, Tokyo. ㊄National Museum of Modern Art, Tokyo.

東京国立劇場（とうきょうこくりつげきじょう）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-gek-ijō. 伝統芸能の保存・育成・公演を目的とする国立の劇場。㊁東京都千代田区 ㊂1966年（昭和41）開場。㊃National Theatre, Tokyo. ㊄National Theatre, Tokyo.

東京国立西洋美術館（とうきょうこくりつせいようびじゅつかん）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-sei-yō-bi-jut-sukan. 西洋美術の収蔵・展示を行う国立美術館。㊁東京都台東区 ㊂1959年（昭和34）開館。㊃National Museum of Western Art, Tokyo. ㊄National Museum of Western Art, Tokyo.

東京国立博物館蔵法隆寺献納宝物（とうきょうこくりつはくぶつかんぞうほうりゅうじけんのうほうもつ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan-zō-Hō-ryū-ji-ken-nō-hō-mot-su. 法隆寺から献納された宝物。㊁東京都台東区上野公園 ㊂1878年（明治11）献納。㊃Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum. ㊄Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum.

東京国立博物館蔵法隆寺献納宝物（とうきょうこくりつはくぶつかんぞうほうりゅうじけんのうほうもつ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan-zō-Hō-ryū-ji-ken-nō-hō-mot-su. 法隆寺から献納された宝物。㊁東京都台東区上野公園 ㊂1878年（明治11）献納。㊃Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum. ㊄Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum.

東京国立博物館蔵法隆寺献納宝物（とうきょうこくりつはくぶつかんぞうほうりゅうじけんのうほうもつ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan-zō-Hō-ryū-ji-ken-nō-hō-mot-su. 法隆寺から献納された宝物。㊁東京都台東区上野公園 ㊂1878年（明治11）献納。㊃Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum. ㊄Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum.

東京国立博物館蔵法隆寺献納宝物（とうきょうこくりつはくぶつかんぞうほうりゅうじけんのうほうもつ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan-zō-Hō-ryū-ji-ken-nō-hō-mot-su. 法隆寺から献納された宝物。㊁東京都台東区上野公園 ㊂1878年（明治11）献納。㊃Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum. ㊄Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum.

東京国立博物館蔵法隆寺献納宝物（とうきょうこくりつはくぶつかんぞうほうりゅうじけんのうほうもつ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan-zō-Hō-ryū-ji-ken-nō-hō-mot-su. 法隆寺から献納された宝物。㊁東京都台東区上野公園 ㊂1878年（明治11）献納。㊃Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum. ㊄Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum.

東京国立博物館蔵法隆寺献納宝物（とうきょうこくりつはくぶつかんぞうほうりゅうじけんのうほうもつ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan-zō-Hō-ryū-ji-ken-nō-hō-mot-su. 法隆寺から献納された宝物。㊁東京都台東区上野公園 ㊂1878年（明治11）献納。㊃Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum. ㊄Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum.

東京国立博物館蔵法隆寺献納宝物（とうきょうこくりつはくぶつかんぞうほうりゅうじけんのうほうもつ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan-zō-Hō-ryū-ji-ken-nō-hō-mot-su. 法隆寺から献納された宝物。㊁東京都台東区上野公園 ㊂1878年（明治11）献納。㊃Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum. ㊄Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum.

東京国立博物館蔵法隆寺献納宝物（とうきょうこくりつはくぶつかんぞうほうりゅうじけんのうほうもつ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan-zō-Hō-ryū-ji-ken-nō-hō-mot-su. 法隆寺から献納された宝物。㊁東京都台東区上野公園 ㊂1878年（明治11）献納。㊃Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum. ㊄Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum.

東京国立博物館蔵法隆寺献納宝物（とうきょうこくりつはくぶつかんぞうほうりゅうじけんのうほうもつ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan-zō-Hō-ryū-ji-ken-nō-hō-mot-su. 法隆寺から献納された宝物。㊁東京都台東区上野公園 ㊂1878年（明治11）献納。㊃Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum. ㊄Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum.

東京国立博物館蔵法隆寺献納宝物（とうきょうこくりつはくぶつかんぞうほうりゅうじけんのうほうもつ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan-zō-Hō-ryū-ji-ken-nō-hō-mot-su. 法隆寺から献納された宝物。㊁東京都台東区上野公園 ㊂1878年（明治11）献納。㊃Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum. ㊄Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum.

東京国立博物館蔵法隆寺献納宝物（とうきょうこくりつはくぶつかんぞうほうりゅうじけんのうほうもつ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan-zō-Hō-ryū-ji-ken-nō-hō-mot-su. 法隆寺から献納された宝物。㊁東京都台東区上野公園 ㊂1878年（明治11）献納。㊃Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum. ㊄Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum.

東京国立博物館蔵法隆寺献納宝物（とうきょうこくりつはくぶつかんぞうほうりゅうじけんのうほうもつ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan-zō-Hō-ryū-ji-ken-nō-hō-mot-su. 法隆寺から献納された宝物。㊁東京都台東区上野公園 ㊂1878年（明治11）献納。㊃Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum. ㊄Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum.

東京国立博物館蔵法隆寺献納宝物（とうきょうこくりつはくぶつかんぞうほうりゅうじけんのうほうもつ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan-zō-Hō-ryū-ji-ken-nō-hō-mot-su. 法隆寺から献納された宝物。㊁東京都台東区上野公園 ㊂1878年（明治11）献納。㊃Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum. ㊄Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum.

東京国立博物館蔵法隆寺献納宝物（とうきょうこくりつはくぶつかんぞうほうりゅうじけんのうほうもつ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan-zō-Hō-ryū-ji-ken-nō-hō-mot-su. 法隆寺から献納された宝物。㊁東京都台東区上野公園 ㊂1878年（明治11）献納。㊃Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum. ㊄Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum.

東京国立博物館蔵法隆寺献納宝物（とうきょうこくりつはくぶつかんぞうほうりゅうじけんのうほうもつ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan-zō-Hō-ryū-ji-ken-nō-hō-mot-su. 法隆寺から献納された宝物。㊁東京都台東区上野公園 ㊂1878年（明治11）献納。㊃Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum. ㊄Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum.

東京国立博物館蔵法隆寺献納宝物（とうきょうこくりつはくぶつかんぞうほうりゅうじけんのうほうもつ）㊀Tō-kyō-kok-ritsu-haku-butsu-kan-zō-Hō-ryū-ji-ken-nō-hō-mot-su. 法隆寺から献納された宝物。㊁東京都台東区上野公園 ㊂1878年（明治11）献納。㊃Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum. ㊄Treasures from Hōryūji Temple in the Tokyo National Museum.

[illegible]

佛說八師經 ❶(日) Butsu-setsu-hachi-shi-kyō. ❷|經 ❸佛 ❹[illegible]

佛說十八泥洹 ❶(日) Butsu-setsu-jū-hachi-dei-hon. ❷|經 ❸佛 ❹[illegible]

佛說十八梨 ❶(日) Butsu-setsu-jū-hachi-ri. ❷|經 ❸佛 ❹[illegible]

佛說十八梨經 ❶(日) Butsu-setsu-jū-hachi-ri-kyō. ❷|經 ❸佛 ❹[illegible]

佛說十八梨經 ❶(日) Butsu-setsu-jū-hachi-ri-kyō. ❷|經 ❸佛 ❹[illegible]

佛說十八泥洹 ❶(日) Butsu-setsu-jū-hachi-dei-hon. ❷|經 ❸佛 ❹[illegible]

佛說十八梨經 ❶(日) Butsu-setsu-jū-hachi-ri-kyō

法花玄論 ❶(日)Bap-pō-shō-ja-ron. ❷一卷 ❸存 ❹吉蔵(隋)ノ著 ❺(支)Fo-fa-shên-i. 四

法花伝記 ❶(日)Bap-pō-shin-tō-rei-ki-ki. ❷一卷 ❸存 天台僧景戒(弘仁天長之頃)之作 ❹寛文(寛永三年版)

法華経義疏 ❶(日)Bap-pō-shiu-gi. (支)Fo-fa-shên-i. ❷一卷 ❸存 ❹聖徳太子 ❺(支)Fo-fa-shên-i. 一

法華験記 ❶(日)Bap-pō-jim-ben-ki-zui-shū. ❷七卷 ❸存 ❹鎌倉 ❺平安(寛文・天・九年版) ❻(支)Fo-fa-shên-i. 一

法華文句 ❶(日)Bap-pō-sugo-roku. ❷一卷 ❸存 ❹唐 ❺(支)Fo-fa-shên-i. 一

法華文句 ❶(日)Bap-pō-sugo-roku. 智顗(隋)著 ❷一卷 ❸存 ❹唐 ❺(支)Fo-fa-shên-i. 一

法華玄義 ❶(日)Bap-pō-sō-den-shō. ❷一卷 ❸存 ❹唐 ❺(支)Fo-fa-shên-i. 一

法華の極中 ❶(日) Bap-pō-sō-no-dō-chū. ❷十六卷 ❸存 ❹唐 ❺(支)Fo-fa-shên-i. 一

法華経 ❶(日)Bap-pō-zō. ❷五卷 ❸存 ❹鳩摩羅什訳 ❺(支)Fo-fa-shên-i. 一

法華経 ❶(日)Bap-pō-shō-ja-ron. ❷一卷 ❸存 ❹(支)Fo-fa-shên-i. 一

法華経玄論 ❶(日)Bap-pō-shō-ja-ron. ❷一卷 ❸存 ❹(支)Fo-fa-shên-i. 一

法華経義疏 ❶(日)Bap-pō-shiu-gi. (支)Fo-fa-shên-i. ❷一卷 ❸存 ❹聖徳太子 ❺(支)Fo-fa-shên-i. 一

法華験記 ❶(日)Bap-pō-jim-ben-ki-zui-shū. ❷七卷 ❸存 ❹鎌倉 ❺平安(寛文・天・九年版) ❻(支)Fo-fa-shên-i. 一

法華文句 ❶(日)Bap-pō-sugo-roku. ❷一卷 ❸存 ❹唐 ❺(支)Fo-fa-shên-i. 一

法華玄義 ❶(日)Bap-pō-tai-i. ❷一卷 ❸存 ❹(支)Fo-fa-shên-i. 一

法華玄義釈籤 ❶(日)Bap-pō-tai-i-shō. ❷存 ❸仏教百科辞典之内 ❹日蓮(貞応) ❺一安貞元 A. D. 1800—1857) ❻(支)Fo-fa-shên-i. 一

法華玄論 ❶(日)Bap-pō-tai-mei-roku. ❷一卷 ❸存 ❹吉蔵著(隋)ノ作 ❺一弘安 A. D. 1202—1280) ❻(支)Fo-fa-shên-i. 一

法華玄論 ❶(日)Bap-pō-tai-mei-roku. 吉蔵著法華玄論 ❷三卷 ❸存 ❹唐 ❺石田茂作(内閣)所蔵(寛永)

法華論八部講究 ❶(日)Bap-pō-tsū-ron-hachi-dai-kō-kyū. ❷一卷 ❸存 ❹鎌倉(貞応 ❺一一一一明治 ❻ A. D. 1800—1885) ❼明治七 (A. D. 1874)版 ❽寛永(寛永・一一〇天〇)

法華的々の大意 ❶(日) Bap-pō-teki-teki-no-tai-i. ❷一卷 ❸存 ❹原田祖岳著 長谷寺 ❺明治七年 ❻文殊菩薩

法華経伝記 ❶(日) Bap-pō-den-zū-shō. ❷十八卷 ❸存 ❹遍照(仁治元一文永元 A. D. 1240—1321)撰述 ❺(支) 高僧伝 遍照発揮

法華経伝来系 ❶(日) Bap-pō-den-rai-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❹大日本仏教全書 ❺一一一一 ❻仏教伝来 ❼聖徳太子 ❽鎌倉時代 ❾仏教

❿(支)Fo-fa-pu-k'o-mieh-lun. ❷一卷 ❸存 ❹明治天皇 ❺(寛文・一一八一九・一一)(寛文・一一・一一四ふ・天七)

法華の聚住 ❶(日) Bap-pō-no-sō-fu. ❷一卷 ❸存 ❹高橋信次全集 ❺(支) 仏教日録

法華手引草 ❶(日)Bap-pō-hi-shū-kyō-hi-tetsu-gaku. (支)Fo-fa-fei-tsung-chiao-fei-chê-hsüeh. ❷五巻 ❸存 ❹(寛文・一一〇三九・一一三三)

法華経 ❶(日) Bap-pō-hyō-bya-ku. ❷存 大日本仏教全書(寛永)所収 ❸一一一一 ❹(寛永・一一一一一一一一明治 ❺ A. D. 1143—1212—)

法華不可思議論 ❶(日) Bap-pō-fu-ka-shaku-ron. ❷一卷 ❸存 ❹宗教哲学 (文化・一一一一明治 A. D. 1814—1891)著 ❺平安(寛文・寛永・一一〇三)(寛文・一一・一一一)(寛文・一一〇天・一一一)(寛文・寛文・寛永・一一一四)

法華不可説論 ❶(日)Bap-pō-fu-ka-metsu-ron. (支)Fo-fa-pu-k'o-mieh-lun. ❷一卷 ❸存 ❹明治天皇 ❺(寛文・一一八一九・一一)(寛文・一一・一一四ふ・天七)

法華不思議論 ❶(日)Bap-pō-fu-dan-shi-som-ben. ❷存 ❸仏教哲学 一一 ❹(支)(仏教・ち・七)

法華経入道門経 ❶(日)Bap-pō-fu-nyū-dō-mon-gyō. (支) Fo-fa-p'u-ju-tao-mên-ching. 鳩摩羅什訳 鳩摩羅什訳 不可思議法門経 法入道門経 仏法入道門三昧経 ❷三巻 ❸存 ❹三巻 ❺大正一一四・五一一九No. 474 鳩摩羅什 卍元・五 北122白 南122白 定117鼓 明北143方 北143方 鳩121鼓 天122白 北113鼓 北119北 南199夏 明南130方 Nj. 147 ❻支那撰 ❼天長二年 一一一一(A. D. 223—253) ❽鳩摩羅什訳の下を見よ。

法華経入道門三昧経 ❶(日) Bap-pō-fu-nyū-dō-mon-sam-mai-kyō. (支) Fo-fa-p'u-ju-tao-mên-san-mei-ching. 鳩摩羅什訳 鳩摩羅什訳 不可思議法門経 法入道門経 仏法入道門三昧 ❷三巻 ❸存 大正一一四・五一一九No. 474 鳩摩羅什 卍元・五 北122白 南122白 定117鼓 明北143方 北143方 鳩121鼓 天122白 北113鼓 北119北 南199夏 明南130方 Nj. 147 ❻支那撰 ❼天長二年 一一一一(A. D. 223—253) ❽鳩摩羅什訳の下を見よ。

法華物語 ❶(日) Bap-pō-mono-ga-tari. ❷存 ❸説話 ❹(支)(一一一一・一一八一八)

法華田毛集 ❶(日) Bap-pō-yu-rai-shū. ❷一卷 ❸存 鎌倉時代成立 一一五 ❹法華

❺仏教法華の大旨を簡単に記す。即ち教学の田毛・位相・位相・相貌等の各自を論じて四論を説め、正法五百年間は仏法自身に法力あり、末法五百年は仏法三十年間の間の教説めて末法に仏法は仏教は、それ自身の教説は、それ自身の教説は、それ自身の教説

地獄品、現乳哺品、大滅品、嘆無爲品、八王分舍利品。

（内容） 因緣品第一。本經製作の因緣は五欲に迷醉し生死に墮せる衆生に佛智慧眼を與へんとするにある。稱歎如來品第二、佛德の讃歎。降胎品第三。佛、兜術宮に處し天眼もて八大王を觀、善妙なる淨飯王の后摩耶に降胎せらる。此の品佛所行讃に無し。如來生品第四。佛誕生の諸歡喜を說く。梵志古相品第五。梵志が太子を相し家に在らば轉輪王となり出家せば佛と爲ると占ふ。此のこと佛所行讃は生品中に容る。阿夷決疑品第六。阿夷山の阿夷は天地の吉祥に太子の誕生を知り王宮に到り太子を相しその數を受くるまで生存し能はぬを悲泣す。入譬喻品第七。太子が起を得らるゝを說く。與衆婇女遊居品第八。婇女圍繞すと雖も太子の憂苦增長す。佛所行讃では難欲品第四現愛憎品第九。四門出遊を說く。佛所行讃では駆患品第三。閻浮樹蔭品第十。耕耘祭に於ける閻浮樹下の入定。佛所行讃は本經の出家品と合せ出城品と爲す。出家品第十一。太子決意して出家せらるゝを說く。車匿品第十二。車匿を遣歸せしめらる。佛所行讃では車匿還品。瓶沙王問事品第十三。瓶沙王が太子に歸城し僧事に從ふべきを勸告す。佛所行讃は此の間に入苦行林品。合宮愛悲品。推求太子品あり。爲瓶沙王說法品第十四。王の爲めに六情の獄離すべく王位に純樂無きを說かる。不然阿闍品第十五。阿闍（Arādadar nar-sarga）との問答を說く。降魔品第十六。金剛座に於ける愛慾と菩提心の爭鬪。及び成道の內景としての十二因緣。佛所行讃は成道の內景を阿惟三菩提品に別說す。度五比丘品第十七。初轉法輪に五比丘を度せらる。度寶稱品第十八。波羅奈城の寶稱長者を度せらる。廣度品第十九。廣く人々を救度せられしを說く。佛所行讃では瓶沙王諸弟子品、大弟子出家品をその意味に於て觀得る。現大神變品第二十。佛の諸神變現を說く。轉法輪品第十七。五比丘への轉法輪。昇忉利宮爲母說法品第二十一。忉利天上に於ける生母への說法。憶先品第二十二。佛がその前世を憶念せられしを說く。遊維耶離品第二十三。維耶離城に於ける說法。獄定光佛品第二十四。過去佛定光の德を歎ず。降象品第二十五。王舍城邊にて醉象を降化せらる。佛所行讃では守財醉象調伏品。猶その以前に化給孤獨品。父子相見品あるも本經には別に該品なし。復佛所行讃はこの後に菴摩羅女見佛品あり。魔勸捨壽品第二十六。魔王は佛にその捨壽を勸む。佛所行讃では神力住壽品。調達入地獄品第二十七。調達の墮地獄を說く。佛所行讃に無し。現乳哺品第二十八。諸力士に乳哺の大力を緣として智慧力を說く。佛所行讃に無し。大滅品第二十九。佛の入涅槃を說く。佛所行讃はこの前に離車辭別品あり。嘆無爲品第三十。一切の無常に依りて無爲が第一快なるを說く。佛所行讃はこの前に大般涅槃品ありて佛の遺誡を記す。八王分舍利品第三十一。佛舍利を八王に分つ。

思ふに本經及び佛所行讃はその後經なる傷頌に依りて佛傳を述べんとするものである。しかし其れは單なる佛傳ではなくして、その裡に佛の教を告げんとするのである。その歸結は無爲大涅槃が第一樂なることにあると言はねばならぬ。

❼（參考） 三寶紀第一〇、內典錄第四、譯經圖紀第三、開元錄第五、貞元錄第七（山邊習學）

佛本行讃經 ❶（日）Butsu-hon-gyō-san-kyō. （支）Fo-pen-hsing-tsan-ching. （英）Buddhacarita, or Life of Buddha, by Aśvaghoṣa, translated from the Sanskrit by E. B. Cowell, Oxford, 1893. 佛本行經、本行經、佛本行讃傳、佛本行讃經傳 ❷七卷 ❸存、大正四・五四No. 193、續藏七、卍二六・四、北262據、南997據、元994據、明北1316連、清1316連、麗936據、天936據、指944據、法971據、至1432伊、明南1076初、N. 1323 ❹寶雲譯 ❺劉宋元嘉年中（A. D. 424—453） ❻佛本行經の下を見よ。

佛本行讃傳 ❶（日）Butsu-hon-gyō-san-den. （支）Fo-pen-hsing-tsan-chuan. 佛本行經、本行經、佛本行讃經、佛本行讃傳 ❷七卷 ❸存、大正四・五四No. 193、續藏七、卍二六・四、北262據、南997據、元994據、明北1316連、清1316連、麗936據、天936據、指944據、法971據、至1432伊、明南1076初、N. 1323 ❹寶雲譯 ❺劉宋元嘉年中（A. D. 424—453） ❻佛本行經の下を見よ。

佛本行集經 ❶（日）Butsu-hon-gyō-jū-kyō. （支）Fo-pen-hsing-chi-ching. 本行集經 ❷六十卷 ❸存、大正三・六五五No. 193、續藏七—九、卍一四・八—九、北265合至續、南419合至續、元913合至續、明北676父至興、清676父至興、麗369宜至基、天936合至續、指767宜至基、法794宜至基、至1014樂至別、明南639父至興、N. 630 ❹隋闍那崛多（吉迦四—開皇二〇 A. D. 523—600）譯

❻本經は、六十卷に分たれ、北天竺の沙門闍那崛多（Jñānagupta）が、隋の開皇七年—十一年（又は十二年。A. D. 587—591 or —592）の間に、沙門僧曇・學士費長房「歷代三寶紀」の撰者）・劉憑等の筆受によつて譯出せられたもので、譯文に修辭上の文飾少く、往々句節に位置の倒錯を見る所に、甚だ注意すべきものがある。之をLalitavistaraに比するに、その一致部分中には、極めて逐字的契當が見られ、譯文の親切なる點に於て、護譯「方廣大莊嚴經」に比して、直譯的には寧ろ上位にあるを思はしめられる。よつて、その譯風が極めて叮重なる逐字的直譯であることが知られる（時に省譯せる場合には、梵本にはこれを三度いふ、等と註記せるも注意せられる。）無著阿僧祇劫の

修行說に應ずる悉達なる過去佛の佛統譜と大衆平章王と甘蔗王との兩古傳を綜合一聯して考案したる賢劫王統の叙述を先行として、兜率上生・托胎・誕生より、諸釋出家に至るまでの佛傳を、極めて豐富なる修飾と本生文學とを以て補綴し、これに所々異部の傳說を參照しつゝ記述した、佛傳文學中の最洗練なる科錄である事が見られる。唯、本經には、梵本並に西藏譯を缺逸するを遺憾とするが、含有する固有名詞並びに音寫語の如きは、Mahāvastu, Dīpavaṃsa, Mahāvaṃsa, Jātaka, Jātakanidāna, Lalitavistara, Buddhacarita, Divyādāna, etc. によつて、その大部分が還梵せられしし、本生話及び阿含より引用せられるもの等は、Mahāvagga, Nikāya, Jātaka 等によつて、その原文が、逐字的又は梗概的に想定せられ、Lalitavistara の如きは、殆んどその全卷が利用せらるゝ外、往々逐字的一致を見得るもの三四章あり、Buddhacarita の引文も亦五三散見し得る。從つて文學的或は言語學的研究の點に就いても、多大の便宜が惠まれて居る。

本經の梵題は、次の經說より推定して Śākyamuni buddhacarita 若しは Buddhacaritasaṃgraha. と解せられ、又法藏部の傳本なることも知られる。（これは尙、法藏部傳の四分律に記する佛傳中に、本經のみに傳へらるゝ雲童子本生の引用せられて居ることも、佛證の一つに供し得る。）說記に曰く。

○或問曰、當何名此經。答曰

（1）摩訶僧祇師（Mahāsaṅghika）名爲大事（Mahā-vastu）

（2）薩婆多師（Sarvāstivādin）名此經爲大莊嚴（Mahāvyūha or Lalitavistara）.

（3）迦葉維師（Kāśyapīyas）名爲佛生因緣（Jātaka-nidāna）

（4）曇無德師（Dharmagupta）名爲釋迦牟尼佛本行（Śākyamuni-buddhacarita）

（5）尼沙塞師（Mahīśāsaka）名爲毘尼藏根本（Vinayapiṭaka-mūlaṃ）.

右說記に示さるゝ五個の部派名は、「大集經」、「舍利弗問經」、「比丘三千威儀」、「毘婆沙」、「出三藏記」、「三論玄義」等に指示せらるゝ律本傳持の五部派に相當することは、此の際尤も注意を要する點である。佛滅後遺教に分裂を見、十八派二十部等の對立を見たるは事實とするも、これらの諸部派が悉く經律の異傳を有したものとは考へられぬ。恐らくは義淨も暗示してゐるやうに、その中の數派のみが、特有の聖典を存したものと想定せられる。而して律書の限りに於ては、印度大陸傳として支那に聞えしものは、右記五部派に關するものであり律本の支那・西藏の譯傳、亦この外に出てゐない。たゞこゝに存本としては、巴利傳の律及び本生が、この五部の外にありや、又その何れより發展せりやの問題が存するが、これに就いては、多少の卑見もないではないが、今かりに五部傳の外と決定するも、部派的にはその何れかと緣起關係の緊在すべきは、毫も疑ふ餘地なしと信ずる。

次に本經の特色に就いて考察して見ると、凡そ他の佛傳文學に異る著しい特色として、左の四點を擧げ得る。

一、最初に佛統譜を揭げ

二、次に王統譜を出し

三、多數の本生譯を含有し

四、各種の異傳を雜糅す

佛統譜は、四類の異傳を雜糅してゐる。その第一類は、目連の質疑に應ずるもので三十億の釋迦如來を第一群とし、次下同名多佛の十數群を經て、第十七位に示誨離如來を擧ぐるもので、別行異本と認め得るものに、宋施護譯の「諸佛經」（Bahubuddhasūtra）一卷があり、Mahāvastu の卷一、五七頁より六一頁に亙つて出るものである。第二類は、阿難の問に答ふるもので、帝釋輪如來より求脫如來に至る一百二世の各佛次第授記の佛統を擧ぐるもので、これまた Mahāvastu の中に見ゆるけれども、（卷三、二三頁以下）、記錄の目的は本經と異つて、かの佛歸鄕の際に次第行乞せられたる時、父淨飯王がこれを以てわが王統を尋かしむるものといへるに對し、佛はわが傳統は世俗的王統には非ず、然燈佛以來の佛統なりと答へられたとする古傳と、その覬を一にするもので、たゞその佛統を示すに、多佛經（Bahubuddha S.）なるものを利用したものに外ならない。こゝに同一の材料を使用しながら、兩書の編纂方針の異る所以を明かに顯示してゐる。而してこれは、恐らくは兩書が共通素材を依用したものなることは、Mahāvastu のこの記事の見出しが、Bahubuddhasūtra となつてゐることで知られる。第三類は、然燈佛の本生に始まり、以下過去七佛に遞略せしむる十五世の諸佛供養の經歷に、更に彌勒菩薩の下に修行までを出すを見れば、こは明かに未來佛までを含めるものであり、巴利傳の二十四佛（或は二十八佛）の傳統の類の佛統譜を用ひたものと見られる。而して Mahāvastu では、然燈佛の本生に關することのみが、迦葉が目連に對して說く形式で、出て來るけれども、その餘の諸佛に就いては言及するなく別に Maṅgala 佛に關することを記せど、この方は却つて本經に缺けてゐる。その然燈本生も、本經では實體・能作光二佛の下で、然燈比丘の修行發心授記を得たるを記すが、Mahāvastu には之を缺く。（これも本經の中に、こゝの記事を然燈菩薩本行經と呼んでゐるから、その援引の材料が推知せられる）。よつて思ふに、この第三類のみは全然 Mahāvastu に缺くものとなすべく、然燈本生の如きは、偶然の一致に近いものとも見られ、記述の目的にも挿入の場所にも、各々異りがある。而してこれに近き佛統譜を求むれば、可なり出沒は存するけれども、巴利傳の二十八佛說（明かに十五佛は一致する）が、最も近いと考へられる。第四類は、雲本生に始まり、然燈佛より中間佛を前と異にして過去七佛並に彌勒に遞略する十八世の佛統で、この方は Mahāvastu は二分せられて、雲本生は前記然燈本生の下に、十八世の佛統は第二類に記したものゝ續文に繼出してゐる。これを以て見るに本經と Mahāvastu との佛統譜には、可な

數字略號 ❶題目（書名） ❷卷數 ❸存否 ❹著者 ❺年代 ❻內容說明 ❼文書（註釋書參考書） ❽寫本（書寫年月） ❾所藏 ❿發行所

り共通點は存するけれども、共に、共通素材を持つてゐたといふに止まり、その間に異本的關係があるものとはいひ難く、かつその素材としては、本經に依る風り、四種若しくは五種を數ふることが出來るのである。（翁この他に、本經は迦葉維部・摩訶僧祇部・尼沙塞部等、陸婆多部の異說を參照してゐる。）而してこれを、更に餘他の佛傳に就いて考察する時は、然燈授記のことや、過去七佛等の下に修行せること、乃至「大莊嚴經」の如く單に過去佛の名を列擧せるもの等あるにはあるが、未だ本經の如く、一つの組織的大系の下に、佛統譜として揭ぐるものは、前記巴利傳（Jātakanidāna）とMahāvastu以外に存しない。

次に王統譜に就いて見るに、本經では、大衆平章王と、甘蔗王との二種の傳統をば巧みに一連として記載してゐる。これが元來二個の別傳たることは、前者が「長阿含」小緣經（D. 27 Aggaṇṇa S.）の中に、この世の起原を說明する爲に記述せられ（釋迦族の王統に關係なし）、後者は「長阿含」阿摩晝經（D. 3 Ambaṭṭha S.）の中に、釋迦族の祖先として記入せらるゝことによつても知られるが、後にこの兩個の傳說を利用して、釋迦族の王統を假作する風を生ずるに至つたもので、（兩傳を結合するに、「中阿含」大天檢林經（M. 83 Makhadeva S.）の傳說を利用する。）而もその假作に當つては古印度の各種の王統傳說が利用せられた爲に、作者を異にする各部派の間では、利用せる材料の異るに從つて、その間著しい相違を來す結果となつた。試みに甘蔗王より淨飯王に至る間を調べても、末端に期間の延長を計つたものは、記名十四世、無記名八萬二千世を擧ぐる說（巴利傳）と、四五世しか數へるもの（大部分）との如き、大差異を持つてゐる。從つて本經所記の王統の如きは、殆んど全同的な他の傳書を見ることは困難で、Mahāvastu の如きは最も差の大なる傳に屬する。今之を强ひて他に類傳を求むれば、大衆平章王より甘蔗王に至るまでのものは、（嚴密にはこの間も二期的發達を持つてゐる）巴利傳（Dīpavaṃsa. Mahāvaṃsa）。「衆許摩訶帝經」、「起世經」、「起世因本經」、「有部破僧事」の五を擧ぐべく、Mahāvastu の如きは、前半二十九王に對して五王を數ふるに過ぎない。次に甘蔗王以下に就いては、殆んど他傳との一致を決しがたい。而して、上記の一致を見るものといへども、佛傳として記載するものは、本經と衆許摩訶帝經のみであり、（その點では Mahāvastu も同趣）、他の佛傳では殆んど例のないことであるから、これ亦本經の特色としてよい。

第三に本生を含有すること。この特色は一般佛傳では發見し得ず、たゞ Mahāvastu と Jātakanidāna があるのみである。

第四、各種の異傳を含有すること。これも Mahāvastu に見らるゝ特色ではあるが、到底本經のそれに及ぶものではない。本經に於ては、明かにその主張者の名（摩訶僧祇・迦葉維・陸婆多・尼沙塞）の名を指示する場合と、單に別師の說といふものとある外何等の指定は存しないけれども、どうしても異部の傳說を取り入れたと思はるゝものが、全經の處々に散在してゐる。例へば、一方には摩訶波闍波提を以て佛の生母の如く說しつゝ、次下には摩耶夫人を生母とせること、或は出家處を一方に羅摩としつゝ後には阿尼彌迦とするの類などである。この二地の同異について、考證の可能はあると思ふが、そはこゝに言ふを要せぬ。兎もあれ、この記事を含む兩文が、明かに異傳である事を認めざるを得ぬ。殊にその最も著しい引用として注意せらるゝのは、殆んど、全經に亞い引用又は參酌を見る Lalitavistara との關係である。實にかくの如き內容は、その名稱に「集」字を置くに適ふと共に、又他に類例少き特色とすべきものであらう。

次に本經の內容を檢するに、全經別れて六十品となるが、大別して、前生期（佛傳前期）、今生期（佛傳本期）、弟子列傳の三部と爲すべく、前生期は、更に別つて佛統譜・昏姻譜・託胎傳の三となり、今生期は在昏期・出家期・成道期の三となる。而して弟子列傳は、實際には佛陀の傳道生涯を記すのを目的とするから、配列もほゞ教化の順位を取り、かつ弟子傳以外の事を記す品も五品ある、而して諸弟子の傳記は、多く出家因緣を主項目と爲し、これに前生譚を附するを常とするから、品名に因緣（avadāna）の語が附してある。この各項は、更に細別し得るけれども、ほゞ六十品の品名に盡きると思ふ。而して品名はそれ自體その內容を示唆してゐるから、此に解說を要せぬことゝ思ふ。次下內容の詳解に代へて、品題に科圖を異へておかう。

第一部　佛傳前記

第一　佛統譜　發心供養品第一、受決定記品第二。

第二　昏統譜　賢劫王種品第三。

第三　託胎傳　上託兜率品第四、降王宮品第五。

第二部　佛傳本紀

第一　在昏期　（イ）誕生　樹下誕生品第六、從園遊城品第七、相師占看品第八、阿私陀問瑞品第九。（ロ）習學　姨母養育品第十、習學技藝品第十一、遊戲觀園品第十二。（ハ）結婚　拘衞爭婚品第十三、常無納妃品第十四。（ニ）厭世（思想生活）　空屋勸厭品第十五、出遊老人品第十六、淨飯王夢品第十七、遊見病人品第十八、路逢死屍品第十九、耶輸陀羅夢品第二十。

第二　出家期　（イ）出家　捨宮出家品第二十一、剃髮染衣品第二十二、車匿等還品第二十三。（ロ）訪仙　觀諸異道品第二十四、王使往還品第二十五、問阿羅邏品第二十六、答羅摩子品第二十七、勸受世利品第二十八。（ハ）苦行　精進苦行品第二十九。

第三　成道期　（イ）成道　向菩提樹品第三十、魔怖菩薩品第三十一、菩薩降魔品第三十二。成無上道品第三十三。本生　昔與魔鬪品第三十四。（ロ）轉觀　二商奉食品第三十五、梵天勸請品第三十六。（ハ）傳道開始轉妙法輪品第三十七。

第三部　弟子列傳（傳道期）

（一）耶輸陀因緣品第三十八。（二）耶輸陀宿緣品第三十九。（三）富樓那出家品第四十。（四）那羅陀出家品第四十一。（五）憂毘耶出家品第四十二。×教化兵將品第四十三。（六）迦葉三兄弟品第四十四。（七）優波斯那品第四十五。×布施竹園品第四十六。（八）大迦葉因緣品第四十七。（九）政陀羅夫婦因緣品第四十八。（十）舍利目連因緣品第四十九。（十一）五百比丘因緣品第五十。×勝不信人行品第五十一。×說法儀式品第五十二。×尸棄佛本生地品第五十三。（10）優陀夷因緣品第五十四。（11）優波離因緣品第五十五。（12）羅睺羅因緣品第五十六。（13）難陀出家因緣品第五十七。（14）婆提唎迦等因緣品第五十八。（15）摩尼婆陀因緣品第五十九。（16）阿難因緣品第六十。

❼（參考）　三寶紀第一二、內典錄第五、譯經圖紀第四、開元錄第七、貞元錄第一〇（常盤大定・美濃晃順）

佛本行集經　❶（日）Butsu-hon-gyō-jik-kyō. 國譯佛本行集經　❷六十卷　❸存、國譯大藏經々部第一三—一四卷之內　❹常盤大定譯

佛本行集經　❶（日）Butsu-hon-gyō-jik-kyō. 國譯佛本行集經　❷六十卷　❸存、國譯一切經本緣部第二—三　❹常盤大定、美濃晃順共譯

佛本行集經要義　❶（日）Butsu-hon-gyō-jik-kyō-yō-gi.　❸存、大藏經要義第七　❹本多日生（—昭和六 A. D. 1931）編

佛本行略經　❶（日）Butsu-hon-gyō-ryak-kyō.　❷六卷　❸存　❹良定（天文二—寬永一六 A. D. 1532—1639. 抄）　❺寶永二刊（正大、一〇三四・一）（智、お・七・左・二九）正保三刊（龍大、二四一一・一一）

佛本生記　❶（日）Butsu-hon-shō-ki.（支）Fo-pen-sheng-chi.　❷一卷　❸菩提三藏　❼（參考）　東城傳燈目錄卷下

佛本生經　❶（日）Butsu-hon-shō-kyō.（支）Fo-pen-sheng-ching.　❷一卷　❸缺　❹後漢竺法蘭譯　❼（參考）　開元錄第一五　貞元錄第二五

佛本內傳　❶（日）Butsu-hon-nai-den.（支）Fo-pen-nei-chuan.　❷一帖　❼（參考）　慈覺大師在唐送進錄

佛名會法則　❶（日）Butsu-myō-e-hō-soku.　❷一帖　❸存　❹靈瑞編　❺德川時代刊　❾（寶龜院）

佛名經　❶（日）Butsu-myō-kyō.（支）Fo-ming-ching.　❷十二卷　❸存、大正一四・一一四 No. 440、鎌黃一、卍一一・五、北392己長、南403己長、元460己長、明北400己長、清400己長、麗391恃己、天392己長、指434恃己、法334短譯、至398恃己、明南393己長、Nj. 404　❹菩提流支譯　❺後魏正光年間（A. D. 520—524）　❻本經は菩提流支譯十二卷本にして、他に同名の失譯三十卷本がある。共に數千の佛名を列記しその受持を勸めるものである。

內容。本經は佛、祇樹給孤獨園に在りて、諸の大衆に對して過去未來現在の諸佛の名字を說かん、若し善男子善女人、諸佛の名を受持し讀誦すれば是の人、現世安隱にして諸罪を滅除し諸罪を消滅せん。復、未來に當に阿鞞多羅三藐三菩提を得べし」とて數千の三世諸佛名を列記せらるゝものである。

故に本經の解說に於ては佛名と佛名の間に記さるゝその受持讀誦の功德を擧げることゝする。即ち經に依れば、必遠離一切業障・永滅諸罪・超越世間不入惡道・不復作五逆罪・當得宿命・不久轉法輪・必得不退菩提・得脫三惡道・畢竟不退阿鞞多羅三藐三菩提・一切諸魔不能壞・畢竟得大無畏・橫取無量無邊功德藏・畢竟不入地獄不入畜生不生邊地不生貧窮家不生下賤家當生天人豪貴之處當得一切世間尊重供奉乃至得大涅槃。等と說かれる。

佛名を擧げる經として最も簡單な形體のものは八佛名號經の如きであるが、多數の佛名が依りて以て「如」の思想を現はし「如」の顯現などゝ思想的哲學的に考へるよりは多數の佛名の讀誦に依る呪文的効果を要求してゐるものと思はれる。日本に於ては佛名懺悔又は御佛名、佛名會とも言ひ、十二月十五日より十七日まで三夜（後には十九日より三夜、終には一夜）過現未の三千佛の御名を稱へて罪障を懺悔する行事が古くより朝廷及び諸國にて行はれ、初め佛名經を用ひ延喜十八年三千佛名經に改めてゐる。一萬三千佛の圖像を揭げ導師初後に於て南無歸命頂禮萬三千佛名と稱へ、承和五年僧靜安教に依りて修してより宮中の恒例となり、延喜の頃諸國に盛んに行はれたが室町時代に至つて中絕した。

❼（參考）　三寶紀第九、內典錄第四、譯經圖紀第四、開元錄第六、貞元錄第九　❺崇祐一六刊　❾（龍大、別置）　（山邊習學）

佛名經　❶（日）Butsu-myō-kyō.（支）Fo-ming-ching.　大乘蓮華馬頭羅刹經、實積菩薩問報應沙門經、馬頭羅刹佛名經、大佛名經　❷三十卷　❸存、大正一四・一八五 No. 441、鎌黃二、卍續一・一・一—三、麗1430摩至楚　❹失譯

❻本經は菩提流支譯十二卷本の佛名經に準據し、それを增廣せるもので、全三十卷を各卷極めて類型的に把握することが出來る。即ちそれは（一）佛名列記。（二）禮十二部尊經大藏法輪。（三）敬禮十方諸大菩薩。（四）敬禮摩訶般若一切賢聖。（五）禮三寶次懺悔。（六）大乘蓮華寶達問答報應沙門品である。（一）は佛名を多數列記しその受持讀誦を勸め功德を述ぶる點、十二卷本佛名經に等しい。（二）各經典名の列記。（三）各菩薩名の列記。（四）各摩訶般若の名を列記す。（五）三寶は一切衆生の良友であり福田にして能く歸向する者は則ち無量の罪を滅し無量の福を長養する。復、懺悔は必ず先づ三寶を敬禮するところに成ずるのである。（六）大乘蓮華寶達問答報應沙門品はその前に三部尊經報應經此經有二十八品略此一品流行（大正一四・一九〇a）とあり、本經に載せらるゝものは寶達の三十二地獄歷訪にしてそれが各卷に別けて記されてゐる。

斯くて本經は佛名の受持讀誦に依りて懺悔を期求するものである。　（山邊習學）

佛名經　❶（日）Butsu-myō-kyō.（支）Fo-ming-ching.　❷一卷　❻舊華嚴經の抄圖紀第四、開元錄第六、貞元錄第九　❺崇祐一六刊　❾（龍大、別置）　（山邊習學）

出。❼(叅考) 法經錄第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第二六、貞元錄第二六

佛名經 ❶(日) Butsu-myō-kyō. (支) Fo-ming-ching. ❷三卷 ❸失譯 ❼(叅考) 法經錄第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、武則錄第一一

佛名經 ❶(日) Butsu-myō-kyō. (支) Fo-ming-ching. ❷十卷 ❸失譯 ❼(叅考) 法經錄第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、武則錄第一一

佛名經 ❶(日) Butsu-myō-kyō. (支) Fo-ming-ching. ❷十六卷 ❺曇僧經。❼(叅考) 靜泰錄第四、開元錄第一八、奈良朝現在一切經疏目錄1813

佛名經體章 ❶(日) Butsu-myō-kyō-tai-shō. ❷一卷 ❹曼碩述 ❻安永九(A. D. 1780)

❺淨土眞宗教典志第二に云く、「安永九年冬。日向直純寺曼碩作。立二十門、稱ニ六字佛名爲ニ三經體一」云々。

佛名懺悔傳 ❶(日) Butsu-myō-sanzen-den. ❷一卷 ❹唐飛錫(一天寶元A. D. 742一)撰 ❼(叅考) 東域傳燈目錄卷下

佛名導師作法 ❶(日) Butsu-myō-dō-shi-sa-hō. ❷三卷 ❸存 ❹曇秀記

❹(叡山文庫)

佛名法則 ❶(日) Butsu-myō-hō-soku. ❷一帖 ❸存 ❹德川時代寫 ❹(寶龜院)

佛名禮懺儀規 ❶(日) Butsu-myō-rai-san-gi-ki. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(正大、一〇八・五一)

佛命阿難詣最勝長者經 ❶(日) Butsu-myō-a-nan-kei-sai-chō-chō-jō-kyō. (支) Fo-ming-a-nan-i-zui-shang-chang-che-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❺出曜經第八卷の抄出。 ❼(叅考) 出三藏記第四、法經錄第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛滅度後棺斂葬送經 ❶(日) Butsu-metsu-do-go-kwan-ren-sō-sō-kyō. (支) Fo-mieh-tu-hou-kuan-lien-tsang-sung-ching. 比丘師經、棺斂葬送經 ❷一卷 ❸存、大正一二・一一四No. 392、縮辰一〇、卍八・一〇、北575爭、南686爭、元783爭、明北1234食、清1314食、麗685寬、天575爭、指840寬、法862芥、至1109和、明南758富、N. 134 ❺西晉代(A. D. 265—316)失譯

❺畢氏國での話、阿難が大衆に向つて佛滅度せられし後佛の尊身を如何なる禮法を以て棺に斂め葬送すべきやと云ふことを相談した。大衆答へて曰ふ、佛の葬送は當に飛行皇帝の送喪の儀の如くすべきである。それは劫波育髮を以て身を纏ひ、香油を注ぎ香木を積み火を放ちて闍維し終れば、香汁を以て舍利を洗ひ金甕の中に收め、塔を建て、供養するのである。佛は無數劫このかた六度を行じ群生を拯濟しておる、併し末世穢濁の民は煩惱の命あり、この鵝を讃はんとて佛は舍利と鉢とを留めて衆生を安薬ならしむ、故にもし佛廟を作るならば當に轉輪聖王の如くすべきである。これを聞いて阿難は佛鉢について次の如き物語りの一節をのべる。—佛の鉢は滅後東方に渡つて大切に守られてゐたが、その明君が崩御して蛇蝎なる國王が嗣ぎ謀も佛鉢を尊敬するものがなくなつた、天龍がこの有樣を悲しんで鉢を持つて海に還つて供奉した。王は驚いて賞金を出して佛鉢を探し求めたが出て來ない。その時一賤人ありて偽りて比丘となつて王の宮に行き自分がその佛鉢のある處を知つてゐると告げた。王は大變喜んで鉢の所在を尋ねた。比丘云ふ、先づ金を以て來れと、王はそこで賞金一千圓を與へた。比丘は、その鉢は沙門が盜んだのであると答へたので、王は即ち布令を出して諸沙門を拷問して酷烈なる毒を呑ました。人々はこれを見て王を怨んだ時、比丘は王のために沙門の二百五十戒の中の主なる五戒を說いた。王はこれを聞いて自分の破戒を反省すると同時に、今の比丘、沙門達の如何にも墮落し切つてゐる有樣を嘆いて淸淨の佛廟を建てたと云ふ。佛阿難に告げたまふ、吾れ滅度の後と雖も鉢と舍利とを留めむ。若し賢者ありて心を專して奉愛せば終に皆天に昇らむと。阿難はこれを聞いて佛鉢の神德不思議を嘆じ一座の者も感激して退座す。

❼(叅考) 出三藏記第三、法經錄第三、武周錄第一一、開元錄第二、貞元錄第四

(吉田龍英)

佛母經 ❶(日) Butsu-mo-kyō. (支) Fo-mu-ching. ❷一卷 ❸存、大正八五・一四六三No. 2919

❺スタイン蒐集燉煌寫本の一。尾欠の斷片であるが、偈經と認めらるべきもので、現存の部分には佛の入涅槃に際し、憂波梨昇天して佛母に告げ、佛母夢告の譯あり、佛母沙羅樹間に下り、號哭して平傷の法をも留めざるやと歎く、佛、金棺の中より出で母の爲に諸行無常偈を說くとしてある。

❹燉煌本(大英博物館 S. 2054)

(椎名文雄)

佛母孔雀尊經科式 ❶(日) Butsu-mo-ku-jaku-son-kyō-kwa-shiki. (支) Fo-mu-k'ung-ch'iao-tsun-ching-k'o-shih. 佛母孔雀尊經科儀 ❷一卷 ❸存、卍續二乙・二・一 ❹浙江嘉興府嗣總僧會司下青佩寶閣禪寺沙門慧日 ❺明嘉靖三〇(A. D. 1551)年月

❺孔雀明王經の功德を讃歎した文で、法會の式場に於て、歎德文として讀み上げる文體を爲してある。その內容は、第一に釋迦如來・孔雀如來・阿難陀尊者が、道場に降臨せられて、行者の願念を明證せられんことを請ひ、第二に孔雀明王經の功德を述べ、第三に世界の主としての四天王を讚し、第四に五方五佛を歎じ、第五に懺悔・離病・除怖・供養・除罪等を述べ、第六に七佛を讚し、第七に二十八宿・九曜・三寶の德を讚歎してある。之れを要するに孔雀明王曼荼羅を讚歎したことに成つてある。孔雀明王を孔雀明王佛若しくは孔雀如來と呼んで居ることは、他に殆んど類例を見ず、獨り此の式文に於て見るのみである。

(神林隆淨)

佛母孔雀明王書像壇場儀軌 ❶(日) Butsu-mo-ku-jaku-myō-ō-gwa-dan-jō-gi-ki. (支) Fo-mu-k'ung-ch'iao-ming-wang-hua-hsiang-t'an-ch'ang-i-kui. 大孔雀明王畫像壇場儀軌、孔雀明王儀軌 ❷一卷 ❸存、大正一九・四三九No. 983A、縮閏六、卍二六・一〇、明北1392杜、清1392杜、麗1401貴、至855淡、明南1193爭、N. 1399 ❹唐不空(神龍元—大曆九A. D. 705—774)譯 ❺大孔雀明王畫像壇場儀軌の下を見よ。 ❹文和二寫 ❹(寶壽院)

佛母出生三法藏般若波羅蜜多經 ❶(日) Butsu-mo-shus-shō-san-hō-han-nya-ha-ra-mit-ta-kyō. (支) Fo-mu-ch'u-sheng-san-fa tz'ang-pan-jo-po-lo-mi-to-ching. (梵藏)大般若經第四會參照。三法藏經 ❷二十五卷 ❸存、大正八・五八七No. 223、縮月七、卍一五・六、北1296宅至阜、南1301修至率、元1291修至率、明北922履薄、清922履薄、麗1449韓至須、天1381修至率、至26龍至火、明南958似闕、N. 927 ❹施護譯 ❺宋太平興國五以後(A. D. 980—)

❺本經は現存梵本八千頌般若と最も一致する。然し梵本寫經には彌勒の現觀莊嚴論頌を織り込むであるが、本經にそれが無いのが相違する重なる點である。漢譯に於ては次の諸經と相應し、所謂同本異譯とせられる。即ち

一、道行般若經十卷 後漢、支婁迦讖譯。二、大明度經六卷 吳、支謙譯。三、摩訶般若鈔經五卷 符秦、曇摩蜱佛念譯。四、小品般若波羅蜜經二十五卷 姚秦、羅什譯。五、大般若經第四分十八卷 唐、玄奘譯。六、大般若經第五分十卷 唐、玄奘譯。

然し、全く同一と云ふ譯ではなく、同本異譯と稱せられ乍らも、その中に特質を含み、從つて、その特殊性を示してゐるのであるから、夫等相互の比較研究はその成立或は存在性を知る上に必要である。各品の內容に就いては小品般若經の項參照。

(梶芳光運)

佛母準提私記 ❶(日) Butsu-mo-jun-dei-shi-ki. ❷一册 ❸存 ❹豪潮(寬延二—天保六A. D. 1749—1835)改訂 ❹文政九刊 ❹(京大、日大未・三一九)

佛母小字般若經 ❶(日) Butsu-mo-shō-ji-han-nya-kyō. (支) Fo-mu-hsiao-tzu-pan-jo-ching. 聖佛母小字般若波羅蜜多經、聖佛母小字般若經 ❷一卷 ❸存、大正八・八五二No. 253、縮月八、卍一五・二北1099將、南1115將、元1109將、明北792忠、清792忠、麗1077杜、天1038將、法1216千、至37帝、明南781場、N. 727 ❹宋天息災(一成平三A. D. 1000)譯 ❺聖佛母小字般若波羅蜜多經の下を見よ。

佛母大孔雀明王經 ❶(日) Butsu-mo-dai-ku-jaku-myō-ō-kyō. 國譯佛母大孔雀明王經 ❷三卷 ❸存、國譯密教經軌部第五 ❹槿本賢曉譯

佛母大孔雀明王陀羅尼 ❶(日) Butsu-mo-dai-ku-jaku-myō-ō-da-ra-ni. 佛母大孔雀明王經卷上に說かれた諸陀羅尼中の第五首を別出したもの。金曜孔雀王が山林に遊戲して捕獲惡鬼に縛せられた時、此を誦して繫縛を解脫した時の眞言である。修驗道に於ては此を讀誦することが多い。又同じく修驗聖典に出だす佛母大孔雀明王心陀羅尼は右の經の第七首の陀羅尼である。

(服部如實)

佛母大金曜孔雀明王經 ❶(日) Butsu-mo-dai-kon-yō-ku-jaku-myō-ō-kyō. (支) Fo-mu-ta-chin-yao-k'ung-ch'iao-ming-wang-ching. (梵藏)孔雀王呪經(僧伽婆羅譯)參照。佛母大孔雀明王經、孔雀明王經、大孔雀明王經、孔雀經 ❷三卷 ❸存、大正一九・四一五No. 982、縮閏六、卍一〇・八、北1368悅、南1372時、元1301時、明北303知、清303知、麗1319時、天1352時、法1085府、明南213次、N. 307 ❹唐不空(神龍元—大曆九A. D. 705—774)譯

❺この經は上中下の三卷より成り、尙この外に序文と讀誦佛母大孔雀明王經前啓請法とがある。序文の作者は明記されてない。啓請法は本文の一部で、矢張不空譯である。序文には不空三藏が五天を周遊して唐に歸られた後に此の經を譯して三卷と爲し、佛母大金曜孔雀明王經と名づけた由來を記し、尙又翻字にて、此の經には大神力あり、願求する者皆驗あり、五天の地、南海十洲、北方は吐貨羅(Tokhara)等の二十餘國では、道俗を問はず、皆共に瞻敬し、讀誦願求して成な福利を蒙つて居る。舊譯の經には文に闕くる所があつて、神洲には多く流布されてないから、厄難に遭ふても讀誦する者が稀れである。今は諸部の梵本を綜尋し譯して三卷となし、尙密像壇場軌式をも記してある旨を說いてある。

次に啓請法に於ては、先づ三寶と七佛とに歸依し、慈氏等の諸大菩薩を敬禮し、我今摩訶摩瑜利(Mahāmayūra大孔雀)佛母明王經を讀誦せん、我が求むる所の願願を皆な如意滿足せしめよ、所有の一切の諸天靈祇、或は地上に居する諸神、或は虛空に處する天神、及び諸の魔魅人や非人等、皆な此の道場に來て、我が佛母大孔雀明王經を讀誦するを聽き、慈愍の心を捨て成な惡心を起せ、佛法僧に於て、淸淨の信を生ぜよ、我れ今香花飲食を施設せん、願くば歡喜を生じて、成な我が言を聽けと言つて、次に神呪が說かれてある。

同經卷上に於て、說かれてあるのは下の通りである。世尊が室羅伐(Śrāvastī 舍衛)城の逝多(Jeta)林給孤獨園に居られた時に、莎底(Śvati)と名づくる比丘が居つて、出家して未だ間もないので蘇を破り、淫欲の事を營んで居つた。その時に大黑蛇が朽木の孔から出でて、かの比丘の右足の拇指を螫した。毒氣は身に遍く行き渡り、地に倒れて悶絕し、口中からは沫を吐き、兩目は上に翻つた。之を見た阿難は疾く佛の所に往て、莎底比丘が蛇の毒に中り、大苦惱を受けて居ることを述べた。その時、佛は摩訶摩瑜利佛母明王大陀羅に大威力あり、能く一切の諸毒と怖畏と畏懼とを滅し、一切有情を攝受し覆育して、安樂を得しむるものであることを阿難に告げ、且つ彼をして此の神呪を誦して、かの比丘を救護せよと言はれ、その次に陀羅尼が說かれてある。

世尊が阿難陀(Ānanda)に告げて言はるるには、昔靈山の南側に、金曜の孔雀が住んで居り、晨朝毎に、常に佛母大孔雀明王陀羅尼を誦持し、晝は必ず安隱であり、暮時に讀誦すれば、夜必ず安隱であつた。と告げて、その次に佛母大孔雀明王陀羅尼が說かれてある。又佛は阿難陀に對して、その功德を述べて下の如く言はれた。人若し業落に入らんとする時にも、此の大孔雀明王心陀羅尼を憶念すべきであり、曠野の中に於ても、道中に於ても、王宮に入らんとする時でも、刼賊に逢ふ時、鬪諍の時、水火難の時、惡獸等に螫された時、毒に中つた時、諸の怖畏のある時、風黃痰癊の時、乃至有ゆる苦惱の時に、この心陀羅尼を憶念すべし。一切の憂惱悉く消散せんと。又次に東方に大天王あり、持國と名づく、此は彥達嚩(Gandharva)の主にして、無量百千の彥達嚩を以て眷屬と爲し、東方を守護して居る。彼に子孫・兄弟・軍將・大臣・雜使あり、是の如くの衆は、亦此の佛母大孔雀明王陀羅尼を以て、某甲並に諸の眷屬を擁護し、憂惱を除き、壽命百歲を保つことが出來ると說いてあり。次に南方增長天、西方廣目天、北方多聞天も亦此の心呪を以て、行者を擁護する意が明されてある。

中卷には諸國諸城に藥叉(Yakṣa)が住し、皆佛法を護持し、慈心を懷き、かれ等も亦佛母大孔雀明王の眞言を以て、常に某甲を擁護し、攝受饒益して安隱を得せしめ、それが爲に所有の厄難、皆悉く消除せらるる。或は刀杖の損傷も、或は中毒・天祿・水火の災惱、或は天龍諸鬼等の害をも悉く皆遠離すとあり、又東西南北の四方に、四藥叉大將あり、皆佛母大孔雀明王を以て某甲並に眷屬を擁護して壽命百年にして諸願皆滿足せしめ給ふと說かれてある。その他諸鬼神や諸病は、この經を讀誦することに依て、皆な除くことを得、又十二大夜叉(Pīśāca)等の鬼女も大神力あり、大光明を具して、形色圓滿にして、帝釋天が阿蘇羅(Asura)と戰ふ時に、大威力を出して帝釋天に加勢す、かれ等は安佛母大孔雀明王の眞言を以て、我某甲並に眷屬を擁護し、壽命百年を得せしむ。その他八大女鬼、七大女鬼、五大女鬼、八大羅刹(Rākṣasī)女・十大羅刹女・十二大羅刹女・十二天母・七十三大羅刹女等皆佛母大孔雀明王の眞言を以て、我某甲並に眷屬を擁護して壽命百年を得せしむ。又大海龍王・海子龍王等は或は甘雨を降して苗稼を成熟す、曾て如來に遭ふて三歸五戒を受け、大勢力ありて常貴自在である。これ等は皆此の佛母大孔雀明王の眞言を以て我某甲並に眷屬を擁護すと說かれてある。

卷下には過去七佛も亦佛母明王の眞言を以て行者を守護し、その他河の神も、山の神も、諸星宿も、諸大仙も、諸藥神も、皆此の佛母大孔雀明王を以て、我某甲並に諸の眷屬を守護し、壽命百年にして諸の毒害を離れしむ。又鬼魅人非人等の諸惡毒害も、一切の不祥も、怨敵恐怖や種々の諸毒、及び呪術一切の厭禱も、皆此の摩訶摩瑜利佛母明王に逢越することは出來ない。常に一切の不善業を遠離することを得て、大吉祥を得、衆聖に加持せられて、求むる所皆滿足することを得、若し人建に此の大孔雀佛母明王の名字を稱念するものは、之れに依て自身及び他身を護ることを得、或は繩索を結んで身上に帶持する者は、死罪に合ふとも、罰物を以てその罪を贖することを得、一切の苦難は、悉く皆消散せん。この人は又王賊・火・惡毒・刀杖の侵害する所とならず、人天鬼神も敬て違越することなく、諸の恐怖を離れて、福德增長し、壽命延長なるを得と說いてある。

❼(注釋) 解題一卷、晉義二卷(神林隆淨)

佛母般泥洹經 ❶(日) Butsu-mo-hatsu-nai-on-kyō. (支)Fo-mu-pan-ni-yuan-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❼(參考) 出三藏記第四

佛母般泥洹經 ❶(日) Butsu-mo-hatsu-nai-on-kyō. (支) Fo-mu-pan-ni-yuan-ching. ❷一卷 ❸存、大正二・八六九 No. 145、縮灰四、卍一四・二、北742思、南756思、元742思、明北647慶、清647慶、麗760若、天741思、楷704若、法731若、至578續、明南625條、Nj. 651 ❹慧簡譯 ❺劉宋大明元以後(A. D. 457—)

❻本經は世尊の養母大愛道比丘が、世尊の入滅を見るに忍びず、佛に先立つて入涅槃し、その遺骸を佛自ら供養せられ、茶毗に附されたことを說いたもので、本經の名の存する所以である。

本經は增一阿含第五二品の第一經の別譯であつて、異譯に西晉、白法祖譯の大愛道般泥洹經が存する。その內容いづれも大體に於て合致するものである。

❼(參考) 三寶紀第一〇、內典錄第四、譯經圖紀第三、開元錄第五、貞元錄第八 (林五邦)

佛母般泥洹經 ❶(日) Butsu-mo-hatsu-nai-on-kyō. (支) Fo-mu-pan-ni-yuan-ching. 大愛道般泥洹經 ❷一卷 ❸缺 ❹宋沮渠京聲(—大明八 A. D. 464)譯 ❼(參考) 開元錄第一五、貞元錄第二四

佛母般若圓集要義論 ❶(日) Butsu-mo-han-nya-en-jū-yō-gi-ron. (支)Fo-mu-pan-jo-yuan-chi-yao-i-lun. 佛母般若波羅蜜多圓集要義論、圓集要義論 ❷一卷 ❸存、大正二五・九一二No. 1518、縮暑一一、卍二五・一〇、北1327公、南1331茂、元1322茂、明北1302星、清1302星、麗1484最、天1312茂、至1376帳、明南1442書、Nj. 1309 ❹大域龍菩薩造、施護等譯 ❺宋太平興國五以後(A. D. 980—) ❻佛母般若波羅蜜多圓集要義論の下を見よ。

佛母般若九頌精義論 ❶(日) Butsu-mo-han-nya-ku-ju-shō-gi-ron. (支) Fo-mu-pan-jo-chiu-sung-ching-i-lun. 聖佛母般若波羅蜜多九頌精義論、九頌精義論 ❷二卷 ❸存、大正二五・八九八No. 1516、縮暑二、卍二六・一、北1337騎、南1342騎、元1332溪、明北1305右、清1305右、麗1504九、天1322溪、明南1445陵、Nj. 1316 ❹宋法護(乾德元—嘉祐三 A. D. 963—1058)譯 ❻聖佛母般若波羅蜜多九頌精義論の下を見よ。

佛母般若觀想儀軌經 ❶(日) Butsu-mo-han-nya-kwan-sō-gi-kī-kyō. (支) Fo-mu-pan-jo-kuan-hsiang-i-kuei-ching. 佛母般若波羅蜜多大明觀想儀軌、佛母般若波羅蜜多大明觀想儀經 ❷一卷 ❸存、大正二〇・六一四No. 1152、縮成六、卍一六・六、北1309執、南1314輕、元1304輕、明北1030澄、清1030澄、麗1462羅、天1291輕、至39帝、明南963斯、Nj. 1035 ❹施護譯 ❺宋太平興國五以後(A. D. 980—) ❻佛母般若波羅蜜多大明觀想儀軌の下を見よ。

佛母般若波羅蜜多圓集要義釋論 ❶(日) Butsu-mo-han-nya-ha-ra-mit-ta-en-jū-yō-gi-shaku-ron. (支)Fo-mu-pan-jo-po-lo-mi-to-yuan-chi-yao-i-shih-lun. (梵) Ārya-prajñāpāramitāsaṃgraha-kārikā-vivaraṇa(藏傳)(藏)Phags-pa ces-rab kyi pha-rol tu phyin-ma bsdus-pahi tshig-leur-byas-pahi rnam-par bśad-pa. 圓集要義釋論 ❷四卷 ❸存、大正三五・九〇〇No. 1517、縮往一〇、卍二五・一〇、北1334公、南1339茂、元1319茂、明北1303星、清1303星、麗1485最、天1309茂、至1377帳、明南1443書、Nj. 1310 ❹三寶尊菩薩造、施護等譯 ❺宋太平興國五以後(A. D. 980—)

❻本頌は大域龍所造の佛母般若波羅蜜多圓集要義論を釋したものである。頌を擧げて一文一句、一一の語に就いて細釋する。その釋し方の丁寧なること、例せば「無二」とは二相有ること無きを名けて無二と爲す、「自」とは己の義、「此の」とは是の如きの義といふやうに、解釋としては殆んど餘蘊なきものである。

最初に十六種空、次に十分別散の止觀、次に過計、依他、圓成の三性の詳釋、これらによりて般若空性の妙諦眞義を闡明するものである。

本論は藏傳による梵名は Ārya-prajñāpāramitā-saṃgraha-kārikā-vivaraṇa なるものゝ如く、作者の三寶尊の梵名は triratnadāsa であつたやうである。この人の傳記は詳かならず。 (泉芳璟)

佛母般若波羅蜜多圓集要義釋論 ❶(日) Butsu-mo-han-nya-ha-ra-mit-ta-en-jū-yō-gi-shaku-ron. 圓譯佛母般若波羅蜜多圓集要義釋論 ❷四卷 ❸存、圓譯一切經釋經論部第八 ❹泉芳璟譯

佛母般若波羅蜜多圓集要義論 ❶(日) Butsu-mo-han-nya-ha-ra-mit-ta-en-jū-yō-gi-ron. (支) Fo-mu-pan-jo-po-lo-mi-to-yuan-chi-yao-i-lun. (梵) Prajñāpāramitāsaṃgrahakārikā (藏傳) (藏) Phags-pa ces-rab kyi pha-rol tu phyin-ma bsdus-pahi tshig-leur-byas-pa. (頌のみ) 佛母般若圓集要義論、圓集要義論 ❷一卷 ❸存、大正二五・九一二No. 1518、縮暑一一、卍二五・一〇、北1327公、南1331茂、元1322茂、明北1302星、清1302星、麗1484最、天1312茂、明北1309執、南1314輕、元1304輕、明北1030澄、清1030澄、麗1462羅、天1294輕、至39帝、明南963斯、Nj. 1035 ❹施護譯 ❺宋太平興國五以後(A. D. 980—)

❻これは佛母般若とも稱せらるゝ八千頌般若を解釋せんがために、大域龍の造る所、明譯する所、施護 dānapāla は烏塡義 udyāna 人の天息災と太平興國五年(A. D. 985) 支那に至り、多くの經論を譯出してゐる。 (泉芳璟)

佛母般若波羅蜜多圓集要義論 ❶(日) Butsu-mo-hann-nya-ha-ra-mit-ta-en-jū-yō-gi-ron. 圓譯佛母般若波羅蜜多圓集要義論 ❷一卷 ❸存、圓譯一切經釋經論部第八 ❹泉芳璟譯

佛母般若波羅蜜多大明觀想儀軌 ❶(日) Butsu-mo-han-nya-ha-ra-mit-ta-dai-myō-kwan-sō-gi-kī. (支) Fo-mu-pan-jo-po-lo-mi-to-ta-ming-kuan-hsiang-i-kui. 佛母般若波羅蜜多大明觀想儀經、佛母般若觀想儀軌經 ❷一卷 ❸存、大正二〇・六一四No. 1153、縮成六、卍一六・六、北1309執、南1314輕、元1304輕、明北1030澄、清1030澄、麗1462羅、天1294輕、至39帝、明南963斯、Nj. 1035 ❹施護譯 ❺宋太平興國五以後(A. D. 980—)

❻佛母般若菩薩の觀想法を明してある。先づ同佛母尊の大明呪を出し、次に淨菩提心地に提字を觀じ、提字轉じて般若佛母尊となると說き、次に同尊の形像を明し、又大明呪を觀想しながら、之を誦持し、一月・六月乃至一個年修習することに依り、悉地を得て、聞持具足し、空三摩地を證すと說いてある。 (神林隆淨)

佛母般若波羅蜜多大明觀想儀軌經 ❶(日) Butsu-mo-han-nya-ha-ra-mit-ta-dai-myō-kwan-sō-gi-kī-kyō. (支) Fo-mu-pan-jo-po-lo-mi-to-ta-ming-kuan-

hsiang-i-kuei-ching. 佛母般若波羅蜜多大明觀想儀軌、佛母般若觀想儀軌經 ❷一卷 ❸存、大正二〇・六一四No. 1125、縮成六・卍一六・六、北1309軌、南131+經、元1304經、明北1030投、清1030投、麗1462翻、天1274經、至39帝、明南953版、Nj. 1035 ❹施護譯 ❺宋太平興国五以後(A. D. 980—) ❻佛母般若波羅蜜多大明觀想儀軌の下を見よ。

佛母寶德藏般若波羅蜜經 ❶(日)Butsu-mo-hō-toku-zō-han-nya-ha-ra-mitsu-kyō. (支)Fo-mu-pao-tê-tsang-pan-jo-po-lo-mi-ching. (梵)Ratna-guṇa-saṁcaya-(gāthā)(古刊本)Prajñā-pāramitā-saṁcaya-gāthā (藏傳)(藏)bhagaṁ-pa ces-rab kyi pha-rol-tu phyin-pa shud-pa tshigs-su-bcad-pa. 寶德藏經 ❷三卷 ❸存、大正八・六七六No. 229、縮月八、卍一五・五、北1207高、南1233兵、元1217高、明北659臨、清859臨、麗1205藏、天1.04高、法1313虞、至37火、明南953版、Nj. 864 ❹宋法賢(一成平四A. D. 1001)譯 ❺八千頌般若品の要旨を佛陀の形で現はしたものである。その中、帝釋品第二より魔品第十一迄を華嚴の十地及び十波羅蜜に當ぶめてある。即ち、

帝釋品第二——歓喜地構布施波羅蜜佛陀
持無量功德建塔品第三——無垢地構持戒波羅蜜佛陀
功德品第四——發光地構忍辱波羅蜜佛陀
編量品第五——焰慧地構精進波羅蜜佛陀
隨喜功德品第六——難勝地構定波羅蜜佛陀
地獄品第七——現前地構智慧波羅蜜佛陀
清淨品第八〈——遠行地構方便波羅蜜佛陀
獄品第九〉——不動地構願波羅蜜。
稱讚功德品第十——善慧地構力波羅蜜佛陀
魔品第十一——法雲地構智慧波羅蜜佛陀

大般若初會もかく華嚴の十地の影響を受けてゐるが、更に師子賢の現觀莊嚴論等も同様であるから、般若經に說かるる十地は忘れられて、いつしか華嚴の十地が重要視さるるに至つたのである。 (梶芳光運)

佛母曼拏羅念誦要法集 ❶(日)Butsu-mo-man-da-ra-nen-ju-yō-hō-shū. 佛眼佛母念誦集、佛母念誦法要集 ❷二卷 ❸存、大日本佛教全書第三七智證大師全集第三、日本大藏經天台宗密教章疏第一 ❹圓珍(弘仁五—寛平三A. D. 814—891)說 寛平四、年七八寅) ❺佛母曼荼羅供養の作法次第を明せるもの。初めに佛母眞言法要を修習する者の心得を示し、而して燒香・合掌・禮佛眞言・金剛持眞言・三部心印・被甲護身印・一切頂輪王根本心眞言・七曜眞言・八大菩薩眞言・八大明王眞言と次第して諸眞言・印密印を抄出し其の功能を述べてゐる。 ❼(參考) 眼釋目錄 ❽(高山寺)

(渡邊最昌)

佛門衣服正儀編 ❶(日)Butsu-mon-i-fuku-shō-gi-hen. ❷二卷 ❸存、日本大藏經第三五戒律宗章疏第二、大日本佛教全書第七三服具叢書第一 ❹風潭(承應三—元文三A. D. 1654—1738)述 ❺享保一一(A. D. 1726)

❻本書の內容は、上卷には三衣を明し、下卷には三衣以外の坐具編彩等を明せり。夫れ佛門の着衣は、三世の諸佛應法の衣にして、資身長道上最も必要と爲す、故に其の體色量共必ず佛制に基くべく、其の三衣六物の制法を明し示す書本不尠。然るに日支の古德通じて佛制を誤解し、正儀を缺くを以て、廣く大小經律論の所說を引證し、所信の說明を示せり、依て佛門衣服正儀編と題せるにあり、蓋し過ぎたるは不及にあり、依て取捨の眼識を要すべきである。 ❼享保一一刊(谷大、餘大・七〇〇×龍大・二〇七四・五〇)享保一七刊(龍大・二〇七四・五一、五二、五七)刊本(晋、む・七・左・二三)(正大、一一八九・三四—三五) (北川智海)

佛門衣服正儀編圖卷 ❶(日)Butsu-mon-i-fuku-shō-gi-hen-zu-kwan. ❷一卷 ❸存、日本大藏經第三五戒律宗章疏第二、大日本佛教全書第七三服具叢書第一 ❹風潭(承應三—元文三A. D. 1654—1738)撰 ❺享保一一(A. D. 1725) ❻本書の內容は、初めに僧伽梨衣の九品の不同、並に馬齒鳥足縫方及び釣紐の施し方等を知り難く、依て一々圖に示し以て其要點を明せり。次に坐具等の資具不殘圖を示し、說明を施し、又僧衣量度尺の圖は天竺支那日本三國所用の古尺十七種を示しあり、故に佛門衣服の研究上大に參考に足る圖卷なるべし。

但し大正五年四月二十六日印施本には、僧衣量度尺圖以外に菩提樹下金剛座初成佛像畫等の圖像を附せり。享保年間の刊行本には無之して、上卷の本文の初めに圖を出せり、參考に附記す。 (北川智海)

佛門衣服正儀編評釋 ❶(日)Butsu-mon-i-fuku-shō-gi-hen-hyō-shaku. ❷二卷 ❸存、嵐雲草者全集第三斠 ❹嵐雲(享保三—文化元A. D. 1718—1804) ❻此の評釋は草者が寛延三年此の編を講せし頃の作であらう、正儀編の撰料者風潭の說を批判し、其の是非を評決して、釋門の正儀を釋明せる所至つて多く、草者の風骨が全編に現れてゐる。 ❼自筆本(河內高貴寺)

(高見寛恭)

佛門衣服正儀編餘 ❶(日)Butsu-mon-i-fuku-shō-gi-hen-yo. ❷一卷 ❸存、佛門衣服正儀編之內 ❹刊本(正大、一一八九・三六、六四)

佛門警鐘 ❶(日)Butsu-mon-kei-shō. ❷一卷 ❸存 ❹小泉了諦著 ❺明治二六刊 ❻(正大、一〇九・二〇七×帝國、一九・三六九)

佛門眞理要錄 ❶(日)Butsu-mon-shin-ri-yō-roku. ❷一冊 ❸存 ❹町元春述、大矢鄧嶽校 ❺般若心經の註釋書。 ❼(參考) 禪籍目錄

佛門に入りて ❶(日)Butsu-mon-ni-irite. ❷一卷 ❸存 ❹宮島達州著 ❺昭和五刊 ❻東京大雄園

佛門立志史論 ❶(日)Butsu-mon-ris-shi-shi-ron. ❷一卷 ❸存 ❹飯沼亮俊著 ❺明治二七刊 ❻(帝國、一八・四四〇)

佛門立志傳 ❶(日)Butsu-mon-ris-shi-den. ❷一冊 ❸存 ❹中山理賢著

❺明治二二刊 ❻(龍大、二九六二・一二)(高大、一・二一)

佛問阿須倫大海有減經 ❶(日)Butsu-mon-a-shu-rin-dai-kai-u-gen-kyō. (支)Fo-wen-o-hsu-lun-ta-hai-yu-chien-ching. 海有八事經 ❷一卷 ❸失譯 ❹中阿含經第八卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

佛問四童子經 ❶(日) Butsu-mon-shi-dō-ji-kyō. (支)Fo-wen-sei-tung-tai-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹大集經第十二卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六

佛問淳陀長者受樂淨行經 ❶(日)Butsu-mon-jun-da-chō-ja-ju-raku-jō-gyō-kyō. (支)Fo-mên-shun-t'o-chang-chê-shou-lo-ching-hsing-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、武則錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

佛耶照觀義 ❶(日) Butsu-ya-shō-kwan-gi. 佛者の目醒し ❷一冊 ❸存 ❺明治二〇刊 ❻(龍大、二〇九九・九四)

佛遊天竺記 ❶(日)Butsu-yū-ten-ji-ku-ki. (支)Fo-yu-tien-chu-chi. ❷一卷 ❸缺 ❹東晉法顯譯 ❼(參考) 出三藏記第二、開元錄第一五、貞元錄第二五

佛遺教經 ❶(日)Butsu-yui-kyō-gyō. (支)Fo-i-chiao-ching. 佛垂般涅槃略說教誡經、佛臨般涅槃略說教誡經、佛遺教經、佛垂涅槃教誡經、佛臨涅槃略誡經、佛垂涅槃略誡經 ❷一卷 ❸存、大正一二・一一〇No. 389、縮辰一〇、卍八・一〇、北470芋、南184羊、元478羊、明北118貧、清118貧、麗460苦、天476羊、指415諏、法458諏、明南477行、Nj. 122 ❹鳩摩羅什譯 ❺姚秦弘始四—弘始一四(A. D. 402—412) ❻佛垂般涅槃略說教誡經の下を見よ。

佛遺教經 ❶(日)Butsu-yui-kyō-gyō. (支)Fo-i-chiao-ching. 御註佛遺教經 ❷一卷 ❸存 ❹唐太宗(—貞觀二三A. D. 649)註 ❾刊本(谷大、餘大・一二一一)

佛遺教經 ❶(日)Butsu-yui-kyō-gyō. 補註佛遺教經 ❷一冊 ❸存 ❾(晋、ら・六・左・一八)

佛遺教經 ❶(日)Butsu-yui-kyō-gyō. 和譯佛遺教經 ❷一卷 ❸存 ❹澤柳政太郎(—昭和二A. D. 1927)譯 ❺明治二四刊 ❾(正大、一一七五・三五)(京專)(帝國、四〇・六六) ❿東京哲學書院

佛遺教經 ❶(日)Butsu-yui-kyō-gyō. 和譯佛遺教經 ❸存、聖典十種之內 ❹秋山悟庵譯 ❺明治四四刊 ❾(駒大)

佛遺教經科 ❶(日) Butsu-yui-kyō-gyō-kwa. (支)Fo-i-chiao-ching-k'o. ❷一卷 ❹宋允堪(—嘉祐六A. D. 1061)作 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第二

佛遺教經解 ❶(日) Butsu-yui-kyō-gyō-ge. (支)Fo-i-chiao-ching-chieh. 遺教經解 ❷二卷 ❸存、卍續一・五九・二 ❹明智旭(萬曆二七—永曆九A. D. 1599—1655)

❻本書は其の名の示すが如く、佛陀最後の說法を記せるといふ佛遺教經の解說書であり、四十二章經及び溈山警策と並んで佛祖三經指南の卷中であるが、而も主として宋の淨源論疏節要、雲棲沙門補註を參照し、之に憑つて解を作つたものである。先づ佛遺教經及び佛垂般涅槃略說教誡經を說明し、譯者姚秦三藏法師鳩摩羅什を簡單に記して本文に入り、馬鳴の論に據つて大きく七段に分科して解說を試みてゐる。

(一)、序分——釋迦牟尼佛以下略說法要までを一段とし、語を遙らて解釋し、眞心出家の留意を促す。

(二)、修習世間功德分——應端心以質直爲本までにて、世間の功德を修習すべき事を說くが故に斯く名づけ、更に七分す。

一、誡邪業……第一安穩功德住處まで初に禁戒を說き、戒は偉大なる力用があり、戒即佛にて戒こそ如來の法身なりといひ、次に持戒で、總別二相より說め、更に贊戒にして戒は定・慧を生じ、佛慧を現成すといひ、第一安穩を以つて結勸として居り、四種邪業を誡しむ。

二、誡制根心……折伏次心まで、法・喻・結と法・喻・較得失・結勸と分類して解說し、臨濟の一念緣起無生を引用して神情蕩逸を戒しむ。

三、誡多求……錫其力まで三喻と解す。

四、誡睡眠……無相異まで正誡睡眠・令觀察對治・令生慚愧に三分し、更に詳解して凡人に睡眠の怖るべきをいふ。

五、誡瞋恚……非所應まで を令護三業・贊忍勝力・出瞋重患・較顯非宜に分段し、華嚴の一念瞋心起百萬障門開を引き、細分詳說す。

六、誡貪高……行乞邪までを逐一解釋

し、憍慢を誡しむ。

七、誠諂曲……維摩詰の直心是道場等を以つて諂曲の道心と違背するをいふ。

(二)、成就出世間大人功德分——名不戲論までにて出世間の功德を成就する所謂大人の學を說くが故に斯く題し、八段とす。

一、少欲功德……名少欲までは苦の根源たるや欲であり、少欲に五功德があると說くとす。

二、知足功德……名知足までを限つて再說す。

三、遠離功德……名遠離までを明遠離之功・明樂衆之患と分段して詳解す。

四、精進功德……名精進までを理事二面より解釋す。

五、不忘念功德……名不忘念までを正念の功德を說くとなす。

六、禪定功德……名爲定まで、圓覺の無礙淸淨慧皆依禪定を以つて解す。

七、智慧功德……爲智慧まで、法・喩・結に三區分して解說す。

八、究竟功德……戲論の二種を說いて解釋を試む。

(四)、顯示畢竟甚深功德分——非尋過也までは如來の利生說法卽ち三乘一乘無量の法門は以上の如く既に究竟せりと解釋し、且つ斯く分科名命す。

(五)、顯示入證決定分——決定無疑までは諸比丘が佛陀の正法たる苦集滅道の四諦を實踐する事に依り、悟地に證入可能なりと卷も疑ひ無きを決定したるものとて斯く名づけ、且つ解釋してゐる。

(六)、分別未入上上證爲斷疑分——不歡喜までを一段とし、未だ上上證に入らざる者が佛の滅度を見て疑を懷くを斷ぜしめんが爲のものと見、汝等比丘以下を釋疑・重示無常之相と分ちて兩も全體を一一解釋す。

(七)、離種種自性淸淨無我分——終りまでにして佛陀は淸淨無我の涅槃に入らんとする最後であり、涅槃の諸行無常是生滅法を引用して解說を終る。

以上の如く本指南は佛遺敎經本文の忠實なる解釋書に過ぎない。

❶刊本(谷大・餘大・九三四)明治一八刊(正大、一一七六・四九、五一)　(吉田龍英)

佛遺敎經指南　❶(日) Butsu-yui-kyō-kyō-shi-nan. 增冠佛遺敎經指南 ❷一卷 ❸存 ❹刊本(谷大・餘大・五六・一三四七)明治一七刊(正大、一一七六・一九・四八)

佛遺敎經疏　❶(日) Butsu-yui-kyō-kyō-sho. (支)Fo-i-chiao-ching-su. ❷二卷 ❸宋智圓(太平興國元—乾興元 A. D. 976—1022)述 ❼(參考) 新編諸宗敎藏總錄第二

佛遺敎經疏科　❶(日) Butsu-yui-kyō-kyō-sho-kwa. (支)Fo-i-chiao-ching-su-ko. ❷一卷 ❸宋智圓(太平興國元—乾興元 A. D. 976—1022)述 ❼(參考) 新編諸宗敎藏總錄第二

佛遺敎經助宣記　❶(日)Butsu-yui-kyō-kyō-jo-sen-ki. (支)Fo-i-chiao-ching-chu-hsuan-chi. ❷二卷 ❸缺 ❹宋仁岳(淳化三—治平元 A. D. 992—1064)述 ❼(參考) 新編諸宗敎藏總錄第二

佛遺敎經節要科　❶(日)Butsu-yui-kyō-kyō-setsu-yō-kwa. (支) Fo-i-chiao-ching-chieh-yao-ko. ❷一卷 ❸宋淨源(大中祥符四—元祐三A. D. 1011—1088)述 ❼(參考) 新編諸宗敎藏總錄第二

佛遺敎經註　❶(日) Butsu-yui-kyō-kyō-chū. (支)Fo-i-chiao-ching-chu. 遺敎經補註、佛遺敎經補註 ❷一卷 ❸存、卍續一・五九・一 ❹宋守遂(一宣和頃A. D.1119—1125)撰、明了童補註 ❺遺敎經補註の下を見よ。 ❻寬文三刊 ❼(正大、一一九七・五)(京大、藏・一四シ・三)

佛遺敎經註　❶(日) Butsu-yui-kyō-kyō-chū. (支)Fo-i-chiao-ching-chu. ❷一卷 ❸宋尤埴(一嘉祐六 A. D. 1061)述 ❼(參考) 新編諸宗敎藏總錄第二

佛遺敎經通俗講義　❶(日) Butsu-yui-kyō-kyō-tsū-zoku-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹太田敎豐著 ❺明治二七刊 ❼(正大、一一七六・三八)(帝國、一九・四九一)

佛遺敎經附舍利會法則　❶(日) Butsu-yui-kyō-kyō-tsu-bu-tari-sha-ri-e-hō-soku. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❼(寶龜院)

佛遺敎經統要鈔　❶(日)Butsu-yui-kyō-kyō-tō-yō-shō. (支)Fo-i-chiao-ching-tung-yao-chao. ❷二卷 ❹宋尤埴(一嘉祐六 A. D. 1061)述 ❼(參考) 新編諸宗敎藏總錄第二

佛遺敎經補註　❶(日)Butsu-yui-kyō-kyō-fu-chū. (支) Fo-i-chiao-ching-pu-chu. 佛遺敎經註、遺敎經補註 ❷一卷 ❸存、卍續一・五九・一 ❹宋守遂註、明了童補註 ❺遺敎經補註の下を見よ。

佛遺敎經論疏節要　❶(日) Butsu-yui-kyō-kyō-ron-sho-setsu-yō. (支)Fo-i-chiao-ching-lun-su-chieh-yao. 遺敎經節要 ❷一卷 ❸存、大正四〇・八四四No. 1820、卍三四・一〇 ❹宋淨源(大中祥符四—元祐三 A. D. 1011—1088)節要、明袾宏(嘉靖一一—萬曆四〇 A. D. 1532—1612)補註 ❺宋の晉水沙門淨源が佛遺敎經の本文の要所々々に觸れて釋を施したものであるが、彼以前に本經に對する論や疏があつて此を攝つて此の註をなしたといふので是く題する。

(一)、總敍經義——全體的に佛遺敎經の意義を述べて律を扶けて以つて定を設するものなりといふ。

(二)、別釋經文——一々本文に就いて解釋す。

一、釋名題——佛遺敎經・佛垂涅槃略說敎誡經の題目を釋す。

二、出譯人——譯者鳩摩羅什の名を擧げて簡單に紹介す。

三、解文義——本文の解釋に入るが、馬鳴の論に依つて七段に分け、語を逐うて註釋してゐる。卽ち

1、序分……略說法要までを一段とし、詳しく法師成就畢竟功德・菩薩成就畢竟功德・如來成就畢竟功德・大總相成就畢竟功德・因果自相成就畢竟功德

德・分別總相成就畢竟功德に六分して說く。

2、倫智世間功德分……以貪直爲本までを世間の功德を倫智する一段とし、更に對治邪業功德(依根本淸淨戒・方便遠離淸淨戒・結示二戒能生定慧・別伸五勸修戒利益)・對治修智止苦功德(根欲放逸苦對治・多食苦對治・睡眠苦對治)・對治修智滅煩惱功德(對治瞋恚煩惱・對治貪欲煩惱・對治諂曲煩惱)と區分に區分を重ね、一々の條下に於て一層詳しく分類し意義の闡明に努めてゐる。

3、成就出世間大人功德(分)……是名不戲論までを一分とし、此段は出世間の學人の功德を說けるものとし、無求功德(知覺障相・知覺治相・知覺因果智起相・知覺無諸障畢竟相・知覺畢竟成就相)・知足功德(對治苦因果・說淸淨因果・示現三種差別)・遠離功德(自性遠離門體出故・修習遠離門方便出故・受用諸見門常樂故)・不疲倦功德(就法門明不退・約喩顯精意)・不忘念功德(明不忘・辯勸修・示得失)・禪定功德(明定・勸修・示益)・智慧功德(正明智慧破障・喩顯四種功德)・究竟功德(正明戲論・勸修遠離)の八科となして更に細目を分ち、其の各々を更に分類して歷數徹底せる註解を加へてゐる。

4、顯示畢竟甚深功德分……非尋過也までは佛說甚深微妙の法は斯くの如く究竟せりとて一段となし、更に略明(菩薩常修功德・如來說法功德)、廣釋(常修功德・說法功德)と分類を重ねて解明す。

5、顯示入證決定分……決定無疑までを一段とし、諸比丘は因諦の理が佛地へ證入せしめる所以に對して毫も疑無きを決定せるもので、例の如く方便顯發門、法輪成就門、分別說法門(經家叙・正分別)と分科して究明す。

6、分別未入上上證爲斷疑分……不歡喜までは未だ上上の證に入らざる人の疑を斷じて無常相を說くとし、顯示未入上上法(約未辨・約已辨)・爲斷彼彼疑(經家叙・正斷疑)、重說有爲無常相(正示有爲・引已作證)の三段より細々と分類して正しく意義を鮮明にせんとしてゐる。

7、離種種自性淸淨無我分……終末までにて、中道卽ち無餘涅槃眞無我法を顯示する一分とし、對治自性障(正明實慧・勸勤修習・三界無常)・明淸淨無我(勸止三業・示將歸滅・正顯遺訓)と分類を重加して註解是れ努めてゐる。

以上の如く節要は佛遺敎經の本文に深く注意し、忠實に兩も煩雜までに詳しく分類して眞實義の徹底に努めてゐる。更に雲棲沙門袾宏の補註は能く其の面目を發揮してゐる。

❼(參考) 新編諸宗敎藏總錄第二 ❽承應三刊(高大、寄・一・二三)(京專)文久二刊(正大、一一七六・二二)　(吉田龍英)

佛遺敎經論疏節要　❶(日) Butsu-yui-kyō-kyō-ron-sho-setsu-yō. 冠註佛遺敎經論疏節要 ❷四册 ❸存 ❹刊本(高大、寄・一・二三)

佛遺敎經論疏節要　❶(日) Butsu-yui-kyō-kyō-ron-sho-setsu-yō. 補註頭書佛遺敎經論疏節要 ❷二卷 ❸存 ❹延寶六刊(京大、藏・一四ク・二)(正大、一一七六・二二)

佛遺敎經論疏節要補註　❶(日) Butsu-yui-kyō-kyō-ron-sho-setsu-yō-fu-chū. (支)Fo-i-chiao-ching-lun-su-chieh-yao-pu-chu. ❷二卷 ❸存、大正四〇・八四四No. 1820、卍三四・一〇 ❹宋淨源(大中祥符四—元祐三A. D. 1011—1088)節要、明袾宏(嘉靖一一—萬曆四〇A. D.1532—1612)補註 ❺佛遺敎經論節要として大正藏經第四十に敎められる。同項の下を見よ。 ❻承應三刊(帝國、八二・一六〇)(京專)文久二刊(正大、一一七六・二三)

佛遺敎經和解　❶(日) Butsu-yui-kyō-kyō-wa-ge. ❷一册 ❸存 ❹神谷大周(一大正九A. D. 1920)述 ❼(京專)

佛遺日摩尼寶經　❶(日)Butsu-yui-nichi-ma-ni-hō-kyō. (支)Fo-i-jih-mo-ni-pao-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、三寶紀第四、內典錄第一

佛遺日摩尼寶經　❶(日) Butsu-yui-nichi-ma-ni-hō-kyō. (支) Fo-i-jih-mo-ni-pao-ching. 遺日摩尼寶經、遺日摩尼寶經、古品遺日說般若經、大寶積經、摩訶衍寶嚴經、古品遺日說般若經 ❷二卷 ❸存、大正一二・一八九No. 350、鎌塩一二、卍六・五、北56推、南53推、元50推、明北53推、清53推、麗53裳、天54推、指44裳、法52裳、至120有、明南50推、NJ 57 ❹後漢支婁迦讖譯 ❺延和元—中平三(A. D. 147—186) ❻遺日摩尼寶經の下を見よ。 ❼(參考) 開元錄第一、貞元錄第一

佛理頓入集　❶(日) Butsu-ri-ton-nyū-shū. ❷一卷 ❸存 ❹堯念記 ❺文化七寫 ❾(叡山文庫)

佛立敎徒常識讀本　❶(日) Butsu-ryū-kyō-to-jō-shiki-doku-hon. ❸存 ❺昭和七刊 ❾東京本門佛立講東京第二支部

佛林慧日禪師語錄　❶(日) Butsu-rin-e-nichi-zen-ji-go-roku. ❸存 ❹恭翁運良(文永四—曆應四 A. D. 1267—1341) ❼(參考) 禪籍目錄

佛林慧日禪師塔銘幷序　❶(日) Butsu-rin-e-nichi-zen-ji-tō-mei-narabini-jo. 越之中州黃龍山興化護國禪寺開山勅謚佛林慧日禪師塔銘並序と云ひ、恭翁運良和尙の塔銘並に序である。初に其の資性、參禪の經過を叙し、法燈國師に參じ狗子話にて大悟せるを記し、最後に後光厳帝、後小松帝よりの賜號、及び五言警句の塔銘を載せてゐる。　(後藤大用)

佛臨涅槃記法住經　❶(日) Butsu-rin-ne-han-ki-hō-jū-kyō. (支)Fo-lin-nieh-p'an-chi-fa-chu-ching. (梵) Mahāparinir-

rvana-sūtra(藏傳)(蒙)hphags-pa yons-su mya-ḍa-las-ḥdas-pa chen-poḥi mdo 記法住經、無量壽佛樂儀軌、法住經 ❷一卷 ❸存、大正一二・一一二No.390、紹辰一〇、卍八・一〇、北502登、南516登、元515登、明北119食、清119食、麗490羊、天511登、指458羊、法479羊、至441緣、明南559貫、大藏經要義第四、Nj.123 ❹玄奘(仁壽二—麟德元A.D.602—664)譯 ❺唐永徽二(A.D.652)

❻拘尸城外娑羅雙林に於て佛涅槃せんとする時阿難は悲慕感絶して、佛の三無數劫の勤苦所得である正法が、滅後どうなるかを琴ねた。その時佛は正法の此の世に住すること千年、是より後隱沒することを述べ、滅後第百年は聖法堅固、第二百年は寂靜堅固、第三百年は正行堅固、第四百年は遠離堅固、第五百年は法義堅固、第六百年は法數堅固、第七百年は利養堅固、第八百年は爭堅固、第九百年は事業堅固、千年には斂論堅固、これ以後は三寶を信ぜず誹謗輕毀して正法滅するであらう、しかしその時佛の本願力によつて護法の諸菩薩この世に出で諸有情のために大いに饒益せんと說く。

❼(參考) 譯經圖紀第四、開元錄第八、貞元錄第一一 (吉田龍英)

佛臨涅槃記法住經抜萃 ❶(日) Butsu-rin-ne-han-ki-hō-jū-kyō-bas-sui. ❸存 ❹(龍大、二一六・二)

佛臨涅槃記法住經要義 ❶(日) Butsu-rin-ne-han-ki-hō-jū-kyō-yō-gi. ❸存、大藏經要義第四之內 ❹本多日生(一昭和六A.D.1931)

佛臨般涅槃經 ❶(日) Butsu-rin-hatsu-ne-hatsu-gyō. (支)Fo-lin-pan-nieh-p'an-ching. 佛垂般涅槃略說教誡經、佛垂涅槃教誡經、佛臨般涅槃略說教誡經、佛垂涅槃經、佛遺教經、佛臨涅槃略誡經、佛垂涅槃略誡經 ❷一卷 ❸存、大正一二・一一一〇No.389、紹辰一〇、卍八・一〇、北470羊、南484羊、元478羊、明北118食、清118食、麗460苦、天476羊、指415諸、法455諸、明南477行、Nj.122 ❹後秦鳩摩羅什(建元二—義熙九A.D.344—413)說義熙年中寂)譯 ❺佛垂般涅槃略說教誡經の下を見よ。

佛臨般涅槃略說教誡經 ❶(日) Butsu-rin-hatsu-ne-han-ryaku-setsu-kyō-kai-kyō. (支) Fo-lin-pan-nieh-p'an-liao-shuo-chiao-chieh-ching. 佛垂般涅槃略說教誡經、佛臨般涅槃經、遺教經、佛遺教經、佛臨涅槃略誡經、佛垂涅槃略誡經 ❷一卷 ❸存、大正一二・一一〇No.389、紹辰一〇、卍八・一〇、北470羊、南484羊、元478羊、明北118食、清118食、麗460苦、天476羊、指415諸、法455諸、明南477行、Nj.122 ❹後秦鳩摩羅什(建元二—義熙九A.D.344—413)說義熙年中寂)譯 ❺佛垂般涅槃略說教誡經の下を見よ。

佛層一斑 ❶(日)Butsu-reki-ip-pan. ❷一冊 ❸存 ❹藤美澄准編 ❺明治一六刊 ❻(龍大、研史)(谷大、餘小・一二)

佛層圖說 ❶(日) Butsu-reki-zu-setsu. ❷一冊 ❸存 ❹圓照 ❺(龍大、二七三・三三)

佛彌化出菩薩經 ❶(日) Butsu-ren-he-shutsu-bo-satsu-kyō. (支) Fo-lian-hua-ch'u-p'u-sa-ching. ❷一卷 ❹失譯

佛隴道場記 ❶(日)Butsu-rō-dō-jō-ki. (支)Fo-lung-tao-ch'ang-chi. 天台智者大師佛隴道場記 ❷一卷 ❹唐樂肅(天寶一〇—貞元九 A. D. 751—793)述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一

龍草分 ❶(日) Fumoto-no-kusa-wake. ❸存、禪門法語全集第三、禪門法語集卷下 ❹鈴木正三(天正七—明暦元 A. D. 1579—1655)

❺本書は著者が禪の修行者に對して淺きより深きに入る道程を敎へたものであつて、其道程は恰も山に登るに麓の草より分け上りて頂上を極むるが如しとの意味にて、行者の圖心事十七ケ條を鄭寧に示されたるものである。即ち第一は剃髮受戒の時心を著くべき事、第二は三寶を敬禮すべき事、第三は義を守りて修行すべき事、第四は行脚に功德ある事、第五は一言一句も守るべき事、第六は乞食に得失ある事、第七は學文に得失ある事、第八は無常を觀ずべき事、第九は願力を以て修行すべき事、第十は捨身を守るべき事、第十一は自己を忘るべからざる事、第十二は修行に多途あり邪正を知るべき事、第十三は實有の見を離るべき事、第十四は亡者を弔ふに得失ある事、第十五は非人に物を施す事、第十六は寺主は欲心を離るべき事、第十七は檀那對談の事。

❹刊本(谷大、餘大・三二九四) (岡田宜法)

振捨テノ哥 ❶(日) Furi-sute-te-no-uta. ❸存、華園文庫卷1之內

故郷話 ❶(日)Furu-sato-banashi. ❷一冊 ❸存 ❹喜輪 ❺文政六刊 ❻(駒大)

分陀利經 ❶(日) Fun-d-ri-kyō. (支)Fen-t'o-li-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第三

分然洹國迦羅越經 ❶(日) Fun-nen-on-gokū-ka-ra-otsu-kyō. (支)Fen-jan-yuan-kuo-chia-lo-yueh-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第三、法經錄第三、仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一五、貞元錄第二五

分別緣起經 ❶(日) Fun-betsu-en-gi-kyō. (支)Fen-pieh-yuan-chi-ching. 分別緣起初勝法門經、初勝法門經 ❷二卷 ❸存、大正一六・八三七No.717、紹宙七、卍九・三、北160身、南157身、元156身、明北136軽、清136軽、麗159此、天158身、指147此、法156蓋、至237登、明南163歌、Nj.140 ❹玄奘(仁壽二—麟德元 A. D. 652—664)譯 ❺唐永徽元(A. D. 650) ❻分別緣起初勝法門經の下を見よ。

分別緣起經疏 ❶(日) Fun-betsu-en-gi-kyō-sho. (支) Fen-pieh-yuan-chi-ching-su. ❷一卷 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷上

分別緣起初勝法門經 ❶(日)Fun-betsu-en-gi-sho-shō-hō-mon-gyō. (支) Fen-pieh-yuan-chi-chu-shang-fa-mo-ching. 緣起法門經、初勝法門經、分別緣起

經 ❷二卷 ❸存、大正一六・八三七No.717、紹宙七、卍九・三、北160身、南157身、元156身、明北136軽、清136軽、麗159此、天158身、指147此、法156蓋、至237登、明南163歌、Nj.140 ❹玄奘(仁壽二—麟德元A.D.652—664)譯 ❺唐永徽元(A.D.650) ❻此經は緣生初勝分法本經と同本異譯である。一經の內容は、一時諸の大苾芻衆が安適堂に集會して、佛陀は十二因緣を說くに當つて、何故に最初に無明を置かれたのであるか、何の珠勝あるが故に一切の緣の中に於て無明を緣性としたまうたのであるか、此の疑問を契機として、佛がその疑問を一掃せん爲め、無明に十一種の珠勝點ある所以を說かれるのが一經の要旨である。十一種の珠勝とは、一に所緣珠勝とは、無明の緣ずる法には過患も雜染も功德も淸淨もあり、乃至一切の因、一切の果はすべて無明に依るが故に所緣珠勝と云ふのである。二に行相珠勝とは、無明は一切の眞實を隱覆して妄法を顯現する行相に於て他の如何なるものよりも珠勝なるを行相珠勝と名ける。三に因緣珠勝とは、無明は能く一切の根本依處となるを指すのである。四には等起珠勝、之は現在の自體を逢はすのも、又た未來の苦果を招くのもすべて無明の等起緣に依るが故なるを特に等起珠勝と名けるのである。五に轉異珠勝とは、無明には隨眠轉異、纏縛轉異、相應轉異、不共轉異の四種の轉異あつて珠勝なるが故に、之を轉異珠勝と云ふのである。六に邪行珠勝とは無明は諸蘊の中に於て皆能く增益と損減と二種の邪行を起すが故に、邪行珠勝である。七に相狀珠勝とは無明には微細自相珠勝と遍於可愛非愛俱非境界共相珠勝の二種の珠勝の相があるからである。八に作用珠勝とは、無明は皆く一切の流轉所依の事業を作り、又た一切の寂止能障の事業を作るに依つて、作用珠勝と名けるのである。九に障礙珠勝とは無明は勝法を障礙し廣法を障礙するからで、十に隨縛珠勝とは無明は無始以來有情に隨逐し、唯だ諸佛を除いて餘は皆その隨縛を脫することが出來ないから隨縛珠勝なのである。十一に對治珠勝とは少分有量法界の妙智と、全分無量法界の妙智と此の二つ妙智あつて能く無明を對治するが故に斯く名けるのである。以上凡そ十一種の珠勝は、十二因緣の最初に無明を置く所以であると共に、又た一切緣の中で特に無明を緣性となす理由である。斯の樣に無明に關して細說したのが此經であるから少くとも無明に就て知るところあらんと欲する者は、一讀して以て參考に資すべきである。因みに此經に大因緣法門經の引用されてをることは注意を要する點である。

❼(參考) 內典錄第五、譯經圖紀第四、開元錄第八、貞元錄第一一 (清水谷恭順)

分別緣生經 ❶(日) Fun-betsu-en-shō-gyō. (支) Fen-pieh-yuan-sheng-ching. ❷一卷 ❸存、大正一六・八四四No.718、紹宿七、卍一五・七、北1293菴、南1299緣、元1289緣、明北926履、清926履、麗1435遵、天1279緣、至1130陰、明南952清、Nj.931 ❹法天譯 ❺宋開寶六以後(A.D.973—)

❻本經の主旨は十二因緣法の逆觀を分別するに在る。

內容。佛、鳥盧尾螺の池邊、泥連河の側、菩提樹下に在し成佛して久しからざるとき世間の苦樂能く免るゝ者無きことを思念し給ふ。時に大梵天王佛の威力を以ての故にその思念を知りて問ふや、佛爲めに緣生の法を分別し給ふ。即ち十二の支分は無明、行、識、名色、六處、觸、受、愛、生、老、死にして、それが緣生の關係を有し、無明とは一切法に於て智無く、識無く能く了知せず無明の纏晴に覆閉せらるゝこと。行に三種あり謂く身口意。識は六識、名は受想行識。色は四大。六處は眼處耳處鼻處舌處身處意處。觸は眼觸耳觸鼻觸舌觸身觸意觸。受は樂受苦受不苦不樂受。愛は欲愛色愛無色愛。取は欲取見取戒禁取我語取。有は欲有色有無色有。生は蘊處界命根等の常に遷易する法。老……。死……。と分別せられてゐる。斯くて若し諸衆生緣生の法を分別し了知すれば是の人當に五分法身を具足し得と說かる。

分別緣起初勝法門經 ❶(日)Fun-betsu-en-gi-sho-shō-hō-mon-gyō. 國譯分別緣起初勝法門經 ❷二卷 ❸存、國譯一切經經集部第一四 ❹清水谷恭順譯

分別誡譯 ❶(日)Fun-betsu-kai-yaku. (支)Fen-pieh-chieh-i. ❷一卷 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2779

分別經 ❶(日)Fun-betsu-kyō. (支) Fen-pieh-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四

分別經 ❶(日)Fun-betsu-kyō. (支) Fen-pieh-ching. ❷一卷 ❹疑僞經。❼(參考) 法經錄第四、仁壽錄第四、靜泰錄第四

分別經 ❶(日)Fun-betsu-kyō. (支) Fen-pieh-ching. ❷一卷 ❸存、大正一七・五四一No.736、紹宿八、卍一四・一〇、北238無、南236無、元230無、明北693歌、清693歌、麗8314甚、天823無、指777甚、法816甚、至1063半、明南706歌、Nj.697 ❹竺法護譯 ❺西晉泰始二—建興元(A.D.266—313)

❻本經は佛、祇樹給孤獨園に在して阿難及び諸比丘に六惡、三苦、六恣、事佛の三業等を說き、次いで阿難の問ひに答へらるゝものであるが、其の所說を觀るに、「佛滅千歲像法の頃」「眞丹(支那)の土」に於て魔事盛んにして正道は閉塞せられ經法有りと雖も學ぶもの少く、學ぶもの在るも行ずるは少く、俗行を習ひ妻子を著(好衣服を求め、世辭を學び世を迎ひ禮を餐れ、群黨相隨ひ世譽を求むるもの多き」ために、それを歎ける者が、その全てを阿難の問ひとし、自己の批判を佛の答として說けるものが本經である。

❼(參考) 三寶紀第六、內典錄第二、譯經圖紀第二、開元錄第二、貞元錄第三、第四 (山邊習學)

分別經 ❶(日)Fun-betsu-kyō. (支) Fen-pieh-ching. 阿難分別經 ❷一卷 ❸存、大正一四・七五八No.495、紹宿六、卍一四・二、北721言、南783言、元777言、明

北653慶、清653慶、慶777思、天770言、指732思、法763思、至1067識、明南652義、Nj. 637 ❹法堅譯 ❺乞伏秦太初中(A. D. 432—437) ❻阿羅分別經の下を見よ。

分別功德經 ❶(日) Fun-betsu-kudoku-kyō. (支) Fēn-pieh-kung-tê-ching. 分別功德論、分別功德論經、略一阿含經疏 ❷五卷或四卷、三卷 ❸存、大正二五・三〇No. 1507、續藏四、卍二五・六、北975潤、南991潤、元937潤、明北1253筆、清1283筆、麗980潤、天984潤、指937潤、法955潤、至1433疑、明南1429渉、Nj. 139) ❹後漢代(—A. D. 220)失譯 ❺本書は略一阿含經を文に隨つて註釋せんと試みたものである。序品最初の偈頌より始めて、弟子品の過半、釋王比丘に至つて中止してゐる。解說丁寧懇切を極め、博引旁證甚だ努めたるは作者の學殖の凡庸ならざるを看取するに十分である。殊に弟子品に相當する所は、釋尊の主要なる弟子に關する逸事傳說を何くれとなく集錄してゐるから、一方から見れば、是れ全く立派なる佛弟子列傳である。題名の分別功德といふのも恐らく佛弟子の功績を列擧するといふ意味であらう。今便宜のため左に其の要目を揭出する。

(1)阿羅の所聞所知を香象に喩ふること。(2)迦葉帝釋の命を救ふ話。(3)阿修羅と其の子大海に立つ話。(4)四種不可思議の解說。(5)阿羅の等智樹葉の數を知る話。(6)善薩比丘と女善薩の戀物語。(7)比丘身を觀じて得道せし話。(8)阿羅の絲迦葉を恨む話。(9)捨身餓虎の話。(10)祇園精舍創建の話。(11)惡比丘佛を陷れんとせし話。(12)薄福の比丘梵摩達の話。(13)戒を全うして水を飲まざりし比丘の話。(14)須羅陀比丘非望を懷ける梵志を化する話。(15)比丘死女の毛髮によりて悟る話。(16)婆吉利比丘自殺して道を得し話。(17)阿羅涅槃に入る話。(18)阿羅の背上に瘡を生ぜし話。(19)長者の奴愚鈍なる話。(20)蓮華色比丘尼佛を避けんとせし話。(21)念天によりて涅槃を得し話。(22)比丘の禪定雷聲を耳にせざる話。(23)阿育王地獄を作る話。(24)阿育王の弟死を念じて道を得る話。(25)諸弟子に就て第一の德を列ぬ。(1)拘絺。(2)優陀夷。(3)摩訶迦。(4)舊肘。(5)婆破。(6)牛脚。(7)善勝。(8)優留毘迦葉。(9)江迦葉。(10)馬師。(11)身子。(12)目連。(13)二十億耳。(14)阿那律。(15)離越。(16)他羅婆摩。(17)小陀羅婆。(18)和吒婆羅。(19)迦旃延。(20)舍頭波歎。(21)究頭盧。(22)諦。(23)朋耆奢。(24)拘絺羅。(25)難提。(26)施羅。(27)金毘羅。(28)犍宇比丘等。(29)孤疑離越。(30)陀多宋。(31)尼婆。(32)優多羅。(33)盧醯翼。(34)優訶摩。(35)一心。(36)曇摩留支。(37)迦葉。(38)婆拘羅。(39)滿願子。(40)優波難。(41)婆迦利。(42)難陀。(43)婆陀。(44)斯尼。(45)天須菩提。(46)難陀迦。(47)須摩那。(48)尸婆羅。(49)優波先。(50)婆陀先。(51)摩訶迦旃延。(52)優頭槃。(53)拘摩羅迦葉。(54)面王。(55)經云。(56)般地。(57)祇利般地。(58)釋王。

以上列擧せし外、尙ほ若干の員數あるが故に、無慮六十人の弟子に就て其の特徵を評說したことになる。而してこれからの說話の多くは他の諸經典に出づるものと重複せることは勿論なれども、其の傳說には多少の異あるものと認められ、或は殆んど他に見られない本書獨特の傳說も見られる。これらの點に就ては後賢の比較研讀を切望する次第である。

本書が大乘的の立場から解釋を施せるものなることは、念戒の下に膝上の花と頭上の花を以て比較せるが如き、婆陀先比丘の下、江河女神が羅漢を願はず、無上正眞の道を求めて一切を度せんといふが如き、其他處々の口吻より明かに察せられる。本書の作者は略一阿含の如き、阿含としては最も大乘的傾向を有する經典を、全く大乘の立場から註したものであつて、未完成の感はあるが、恐らく龍樹の智度論と相並んで興味ある教學上の論書たるを失はない。

本書は失譯として後漢錄に敎められたとなつてゐる。開元錄第一に此の記事見え、歷代三寶紀第二によれば後漢中平二年(A. D. 185)以後に於て此の經の譯成れりとある。譯語から見てもこれは相當に古いものなることが知られる。「十二率流」、「無釋地獄」、「三尊」、「衆祐」等の語は古經の僞を惡ばしむるものである。卷末の記には譯者を略一阿含のそれと同一人なるが如く思料せるも、現行の略一阿含の文とは必ずしも一致しない所を見ると、この推測には未だ遽かに贊同し難いものがある。

❷(參考) 三寶紀第二、開元錄第一、貞元錄第二 (皇芳瑤)

分別功德論 ❶(日) Fun-betsu-kudoku-ron. 國譯分別功德論 ❷五卷 ❸存、國譯一切經釋經論部第八 ❹皇芳瑤譯

分別觀經 ❶(日) Fun-betsu-kwan-kyō. (支) Fēn-pieh-kuan-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹(參考) 出三藏記第四、法經錄第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、武周錄第一一

分別業報略經 ❶(日) Fun-betsu-gō-hō-ryak-kyō. (支) Fēn-pieh-yeh-pao-lüeh-ching. 分別業報略、大勇菩薩分別業報略集、業報略經、分別業報略集 ❷一卷 ❸存、大正一七・四四六No. 723、續藏八、卍二六・七、北1044畫、南1057畫、元1056畫、明北1342塡、清1342塡、麗1051畫、天1045畫、指1005畫、法1033畫、至1494桓、明南1137茶、Nj. 1349 ❹大勇菩薩撰、僧伽跋摩譯 ❺劉宋元嘉一一—一九(A. D. 434—442)

分別功德論 ❶(日) Fun-betsu-kudoku-ron. (支) Fēn-pieh-kung-tê-lun. 分別功德經、分別功德論經、略一阿含經疏 ❷五卷或四卷、三卷 ❸存、大正二五・三〇No. 1507、續藏四、卍二五・六、北975潤、南991潤、元937潤、明北1253筆、清1283筆、麗980潤、天984潤、指937潤、法955潤、至1433疑、明南1429渉、Nj. 139) ❹後漢代(—A. D. 220)失譯 ❺(參考) 出三藏記第四、武周錄第一一 ❻本書は略一阿含經を文に隨つて註釋せんと試みたものである。序品最初の偈頌より始めて、弟子品の過半、釋王比丘に至つて中止してゐる。解說丁寧懇切を極め、博引旁證甚だ努めたるは作者の學殖の凡庸ならざるを看取するに十分である。殊に弟子品に相當する所は、釋尊の主要なる弟子に關する逸事傳說を何くれとなく集錄してゐるから、一方から見れば、是れ全く立派なる

分別業報略と云はれてをつたもので、大勇菩薩の撰と傳へてをるけれども撰者の傳は未だ明かでない。

此經の內容は地獄・餓鬼・畜生・人・天(此中に阿修羅をも含める)の五趣の業報を分別したものであつて、善惡の業報を要領よく略述してをる點では他に類例を見ない珍しい經文である。

❷(參考) 出三藏記第二、三寶紀第一〇、內典錄第四、譯經圖紀第三、開元錄第五、貞元錄第七

分別業法略經 ❶(日) Fun-betsu-gō-hō-ryak-kyō. 國譯分別業報略經 ❷一卷 ❸存、國譯一切經經集部第一四 ❹清水谷恭順譯

分別業報略集 ❶(日) Fun-betsu-gō-hō-ryaku-shū. (支) Fēn-pieh-yeh-pao-lüeh-chi. 分別業報略經、分別業報略、大勇菩薩分別業報略集、業報略經 ❷一卷 ❸存、大正一七・四四六No. 723、續藏八、卍二六・七、北1044畫、南1057畫、元1056畫、明北1342塡、清1342塡、麗1051畫、天1045畫、指1005畫、法1033畫、至1494桓、明南1137茶、Nj. 1349 ❹大勇菩薩撰、僧伽跋摩譯 ❺劉宋元嘉一一—一九(A. D. 434—442)

分別聖位經 ❶(日) Fun-betsu-shō-i-kyō. (支) Fēn-pieh-shêng-wei-ching. 略述金剛頂瑜伽分別聖位修證法門、略述金剛頂修證法門、聖位經、金剛頂瑜伽分別聖位修證法門 ❷一卷 ❸存、大正一八・二八七No. 870、續圓二・卍二七・一、明北1426鐵、清1426鐵、麗1317佐、至804歷、明南1299優、Nj. 1433 ❹唐不空(神龍元—大曆九A. D. 705—774)譯 ❺略述金剛頂瑜伽分別聖位修證法門の下を見よ。 ❻長久二年(寶善提院)寫本(京專)

分別善惡所起經 ❶(日) Fun-betsu-zen-aku-sho-ki-kyō. (支) Fēn-pieh-shan-è-so-chi-ching. 善惡所起經、正法念經 ❷一卷 ❸存、大正一七・五一六No. 729、續續六、卍一四・一〇、北813無、南927無、元821無、明北651敎、清681敎、麗817茶、天814無、指774茶、法502茶、至1049率、明南697敎、Nj. 635 ❹後漢安世高(—建和二—建寧三A. D. 148—170—)譯 ❺本經の主旨は、善惡を分別して、善を作せば善を得、惡を作せば惡を得ると說かるゝに在る。

內容。佛、舍衞國祇洹阿難邠坻所在し、五道生死の衆生の爲めに、(1)不殺の五戒。(2)不貪の五善。(3)不犯女不邪婬の五善。(4)不兩舌惡口綺語の五善。(5)不飲酒の五善。乃至。(7)不鼻逮の五善。(8)爲善の五善。(9)不殺生無慈の五惡。(10)偸盜等の五惡。(11)犯婦女の五惡。(12)兩舌等の五惡。(13)飲酒の三十六失。乃至。(18)詐誘賢者の五惡を說き給ひ、善を求むれば善を得、善を求めざれば善を得ず。病を求むれば病を得。病を求めざれば病を得ず。鏡の色を求むれば醜惡の色を得……斯くて、甜を種れば甜の實を得、稻を種れば稻を得、豆を種れば豆を得る如く、人善を作せば善を得、惡を作せば惡を得と說かれる。

次いで此の趣意が偈頌に依りて再說せられてゐる。

❷(參考) 三寶紀第四、內典錄第一、譯經圖紀第一、開元錄第一、貞元錄第一、第二 (山邊習學)

分別善惡所起經 ❶(日) Fun-betsu-zen-aku-sho-ki-kyō. (支) Fēn-pieh-shan-è-so-chi-ching. 十善惡經 ❷一卷 ❸欠 ❹後漢安世高(—建和二—建寧三A. D. 148—170—)譯 ❺(參考) 武周錄第一二、開元錄第一五

分別善惡報應經 ❶(日) Fun-betsu-zen-aku-hō-ō-gyō. (支) Fēn-pieh-shan-è-pao-ying-ching. (梵) Karma-vibhaṅga (藏傳) (E) Kamma-vibhaṅga-sutta (M. 135) (藏) las kyi rnam-par-bgyur-ba shes-bya-ba-chos kyi-gshuṅ. 善惡報應經 ❷二卷 ❸存、大正一・八九五No. 81、續昆八、卍一五・二、北1106詩、南1122詩、元1116詩、明北778鐵、清778鐵、麗1105鐵、天1102詩、法1235兵、至1138失、明南783力、Nj. 783 ❹天息災(—成平三A. D. 1000)譯 ❺宋太平興國五—成平三(A. D. 980—1000) ❻鷄雞經の下參照。

分別布施經 ❶(日) Fun-betsu-fu-se-kyō. (支) Fēn-pieh-pu-shih-ching. (E) Dakkhiṇā-vibhaṅga-sutta (M. 142) 布施經 ❷一卷 ❸存、大正一・九〇三No. 84、續昆八、卍一五・七、北1292竜、南1298鐵、元1293鐵、明北925薄、清925薄、麗1437潤、天1278鐵、至510維、明南951清、Nj. 930 ❹施護譯 ❺宋太平興國五以後(A. D. 980—) ❻この經典は中阿含一八〇經羅摩彌經(大正一・七二一)、M. 142 Dakkhiṇā-vibhaṅga の同本單行經であつて、佛陀の姨母摩訶波闍波提が金鍾の衣を佛に奉らんと乞ひ、佛これを僧伽に施せよと敎へ、續いてこれに關して、十四種の施田、七種の施衆、四種の清淨不淨施を說き給ふたのである。中阿含では七施衆、十四私施、四種布施三淨施となつて居り、本經は十四種敎量布施、七種布施大衆、四種不施清淨となつて居り、その順序は本經とM.と同じいが、內容はみなそれ〻異つてゐる。左の表に依つて見ると本經が最も異つてゐる。

十	M	佛、獨覺、阿羅漢、阿羅漢向、不還、不還向、一來、一來向、預流、預流向、外離欲、凡夫、凡夫破戒人、畜生。
四	中	佛、獨覺、阿羅漢、阿羅漢向、不還、不還向、一來、一來向、預流、預流向、離欲外仙人、精進人、不精進人、畜生。
施	分別	佛、獨覺、阿羅漢、阿羅漢向、不還、不還向、一來、一來向、預流、預流向、離染人、持戒人、破戒人、病苦人。

編字號 ❶題名(書名) ❷卷數 ❸存 ❹缺 ❺著書 ❻代年作著 ❼內容說解 ❽文書(註釋書參考書) ❾月年の刊寫 ❿現所藏(寫經所) ⓫(名寺)(名庫書) ⓬發行所

七 M 施 中 分別 (1)佛在世の二款圍、(2)佛滅後の二款圍、(3)比丘衆、(4)比丘尼衆、(5)若干の二款圍、(6)若干の比丘衆、(7)若干の比丘尼衆。

M 四 中 (1)佛在世の二款圍、(2)佛滅後の二款圍、(3)比丘衆、(4)比丘尼衆、(5)若干の比丘衆、(6)若干の比丘尼、(7)不精進衆。

(1)佛在世の二款圍、(2)佛滅後の比丘衆、(3)佛滅後比丘尼衆、(4)佛滅後の二款圍、(5)佛滅後遵行化比丘衆、(6)佛滅後遵行化の比丘尼衆、(7)佛滅後遵方行化の二款圍。

淨 施 (1)施主淨非受者、(2)受者淨非施主、(3)非施主淨非受者淨、(4)施主受者淨。

(1)施主淨非受者、(2)受者淨非施主、(3)非施主淨非受者淨、(4)施主受者淨。

施 分別 (1)能施清淨即無受者、(2)所施清淨即無受者、(3)能受清淨即無施者、(4)所受清淨即無施者。

(赤沼智善)

分別布施經 ❶(日) Fun-betsu-fa-se-kyō. 現代宣譯分別布施經 ❸存、現代宣譯根本佛教聖典叢書第三 ❹鳥越道眼譯

分別部執義 ❶(日) Fun-betsu-bu-shu-gi. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(正大、一一九〇・八九)

分別六合釋 ❶(日)Fun-betsu-rikugō-shaku. 冠註分別六合釋 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第三〇六離合釋章疏 ❹法住(享保八—寛政一二 A. D. 1723—1800) ❺寛政九(A. D. 1797) ❻本書は慈恩基法師撰六離合釋を分別註釋せるものにして、印度の文法書である。古來註釋されたること頗る多く、本書又六離合釋を分別し冠註所釋せるものである。内容は五門を以て分別し、第一に生起、第二に位次、第三に宗趣、第四に題目、以上を以て序論とし、第五に入文解釋して、歌師寺高範大德の講筵に侍して遺漏なく相傳せるものなることを記して、六合釋を懇切に註解せるものである。 ❾原本(豐山長谷寺)安永九刊(龍大、二七二三・六)(正大、一〇六・一三四、一三七)(智、な・一・中・二九)寛政九刊(正大、一〇六・一三三)(龍大、二七二三・八—九)(谷大、餘大・一六四二)(正大、一〇六・五四—五六、一三九)

分別六合釋引據 ❶(日)Fun-betsu-rikugō-shaku-in-kyo. ❷一卷 ❸存 ❹證昇 ❾寫本(谷大、餘大・三六〇三)

分別六合釋記 ❶(日) Fun-bet u-rikugō-shaku-ki. ❷一冊 ❸存 ❹亮憲 ❾寫本(龍大)

分別六合釋筆記 ❶(日)Fun-betsu-rikugō-shaku-hik-ki. ❷一冊 ❸存 ❹寶雲(寛政三—弘化四 A. D. 1791—1847) ❾寫本(龍大、二七二三・一二)

分別六常經 ❶(日)Fun-betsu-rokujō-kyō. (支)Fēn-pieh-liu-ch'ang-ching. ❷一卷 ❸缺 ❼(參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一五、貞元錄第二五

分別六情經 ❶(日)Fun-betsu-rokujō-kyō. (支) Fēn-pieh-liu-ch'ing-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第三、法經錄第一、開元錄第四、貞元錄第六

分別瑜伽論抄 ❶(日) Fun-betsu-yu-ga-ron-shō. (支) Fēn-pieh-yü-ch'ieh-lun-ch'ao. ❷二卷 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄3306

分明罪福經 ❶(日)Fun-myō-zai-fuku-kyō. (支) Fēn-ming-tsui-fu-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、佚四

分明罪福經 ❶(日) Fun-myō-zai-fuku-kyō. (支) Fēn-ming-tsui-fu-ching. ❷一卷 ❹缺 ❹後漢安世高(—建和二—建寧三 A. D. 148—170—)譯 ❼(參考) 開元錄第一五、貞元錄第二五

分恕檀王經 ❶(日)Fun-wa-dann-ō-kyō. (支)Fēn-hō-t'an-wang-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第三

分恕檀王經 ❶(日)Fun-wa-dann-ō-kyō.(支) Fēn-hō-t'an-wang-ching. ❷一卷 ❹缺 ❹宋沮渠京聲(—大明八 A. D. 464)譯 ❻第二譯。 ❼(參考) 開元錄第一五、貞元錄第二四

分韻鴉更集 ❶(日) Bun-in-a-kō-shū. ❼(參考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄 ❹九華 ❼(參考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

分衛經 ❶(日)Bun-e-kyō. (支)Fēn-wei-ching. 過去世佛分衛經 ❷一卷 ❸存、大正四・四五二No. 187、鎌宣六、卍二二・五、北5323行、南596行、元530行、明北465登、清465登、麗534登、天531行、指476登、法510登、至473梁、明南535賢、Nj. 469 ❹竺法護譯 ❺西晉太始二—建興元(A. D. 266—313) ❻過去世佛分衛經の下を見よ。

分衛經 ❶(日)Bun-e-kyō. (支)Fēn-wei-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹東晉祇多蜜譯 ❼(參考) 開元錄第一五、貞元錄第二五

分衛比丘經 ❶(日) Bun-e-bi-ku-kyō.(支) Fēn-wei-pi-ch'iu-ching. 比丘分衛經 ❷一卷 ❹失譯 ❻生經第一卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

分衛方法 ❶(日) Bun-ei-hō-hō. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(正大、一一八八・五四)

分教開宗義私記 ❶(日)Bun-kyō-kai-shū-gi-shi-ki. ❷二卷 ❼(參考) 華嚴宗經論章疏目錄

分毫字 ❶(日) Bun-gō-ji. ❷一卷 ❸存、弘法大師全集第一四 ❹傳、空海(寶龜五—永和二 A. D. 774—835) ❻此の書表題下五筆和尚御作とあれども眞撰には非ず。字形の類似せる漢字を擧げ、

分韻雙璧 ❶(日) Bun-in-sō-heki. ❼(參考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

其書及び語義を綜別せる一種の字書である。 (高見寛孝)

分三經 ❶(日)Bun-san-kyō.(支)Fēn-san-ching. ❷一卷 ❼(參考) 靜泰錄第四

分受學海 ❶(日) Bun-ju-gak-kai. ❷二卷 ❸存 ❹準如 ❺安永七刊 ❾正大、一一八五・四八)

分宗異義 ❶(日) Bun-shū-i-gi. ❹無著道忠(承應二—延享元 A. D. 1653—1744) ❼(參考) 禪籍目錄

分身舍利經 ❶(日) Bun-shin-shari-kyō. (支)Fēn-shēn-shē-li-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第三

分題義解 ❶(日) Bun-dai-gi-ge. (支) Fēn-t'i-i-chieh. 阿彌陀經分題義解 ❷一卷 ❸缺 ❹宋希陰述 ❻淨土眞宗經典志第三に云く「元照弟子希陰作。但私集鈔作と希深法師義解分說一卷」云々。

分覺集 ❶(日)Bun-to-shū. (支) Fēn-tang-chi. ❷二十五冊 ❸存 ❹宋井度 ❼(參考) 禪籍目錄

分八舍利經 ❶(日)Hun-hachi-shari-kyō. (支)Fēn-pa-shē-li-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 法經錄第三、仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第二、第一五、貞元錄第四

分部圖 ❶(日)Bun-bu-zu. (支) Fēn-pu-t'u. ❷一卷 ❼(參考) 智證大師請來目錄

分略四恩論 ❶(日) Bun-ryaku-shi-on-ron. ❷二十六卷或三十卷 ❸存 ❹月感(慶長五—延寶二 A. D. 1600—1674) ❻淨土眞宗教典志第二に云く「明曆中。月感於雲州講居、作未〻檢大槩鈔屋引之」云々 ❾寛永二刊

汾陽善昭禪師語要 ❶(日)Fun-yō-zen-shō-zen-ji-go-yō. (支) Fēn-yang-shan-chao-ch'an-shih-yü-yao. ❸存、卍續二・二三・五、續古尊宿語要第一 ❹宋汾陽義昭語 ❻汾陽善昭禪師語錄の下參照。

汾陽善昭禪師語錄 ❶(日)Fun-yō-zen-shō-zen-ji-go-roku. (支) Fēn-yang-shan-chao-ch'an-shih-yü-lu. 無德和尚語錄 ❸存、卍續二・二三・二古尊宿語錄第一〇 ❹宋汾陽善昭語、楚圓編 ❻古尊宿語錄卷十に收められたものは、別項三卷本の汾陽善昭禪師語錄中に收められた問堂語、上堂語要、六祖頌等を收め、其の前後に汾陽善昭の行業を述べたもので、上堂語中には三玄三要、汾陽の三訣、五位頌の提唱等が揭出されて居る。

續古尊宿語要卷一に收められた語要も同じく三卷本に依るもので行業を除き上堂示衆語數十篇と示衆偈二篇、偈頌三首とを收めたもので、何れも三卷本に收められた語要に依り只だ語句に出入前後があるのみである。 (大久保堅璃)

汾陽善昭禪師語錄 ❶(日)Fun-yō-zen-shō-zen-ji-go-roku. (支)Fēn-yang-shan-chao-ch'an-shih-yü-lu. 汾陽無德禪師語錄、無德和尚語錄、汾陽無德和尚語錄、汾陽錄 ❷三卷 ❸存、大正四七・五九四No. 1992、卍續二・二五・一 ❹汾陽善昭語、楚圓集 ❺宋建中靖國元年陳政印行以前に舊版があり、陳政の重錄を見た譯である。次に卷首に收められた、元至大三年三月開元寺古林清茂元至大四年開燧後一日蘭巖德海等の重刊疏、龍山起予の重刊序、元至大四年春天台子聰の重刊序、禾城本覺如芝の重刊序に依つて、元至大四年(A. D. 1311)の重刊を知ることが出來る。我が國の刊本としては寶永六年本が流通して居る。

全三卷、上卷に汾陽太平寺太子院の開堂語を始めとして上堂、小參の語要を收め、中卷に汾陽が詠史に擬して古則を頌した禪門頌古の權輿として叢林に傳唱される頌古並に代別を收め、下卷には參學儀、四宗頌漸義の略序、廣智歌十五家門風、佛道訣、是非歌、法身歌、六根圓明頌、六相頌、南行遙牧童歌、哮吽同時頌、三玄三要頌、十二時歌等の歌頌を收めたものである。

汾陽の提撕する所は、上卷に收められた三句、三玄、三要、三決、三玄語、四賓主、王子話乃至洞山五位頌の提唱等に其の要を見ることが出來る。勳世と題して云ふ「近見人多說。是非不〻能。識〻口道相依。言他短處。君還短長短。誰人自得知」と以て箴とすべきである。

❺寶永六刊 ❾(帝國、八二一・一九七) (大久保堅璃)

汾陽錄 ❶(日)Fun-yō-roku.(支)Fēn-yang-lu. 汾陽無德禪師語錄、汾陽善昭禪師語錄、汾陽無德和尚語錄、無德和尚語錄 ❷三卷 ❸存、大正四七・五九四No. 1992、卍續二・二五・一 ❹汾陽善昭語、楚圓集

❸宋建中靖國元(A. D. 1101) ❹汾陽無德禪師語錄の下を見よ。

芬陀利迦經卷尺 ❶(日)Fun-da-ri-ka-kyō-kwan-jaku. ❷一卷 ❸存 ❹明應四寫 ❺(寶龜院)

芬陀利經 ❶(日)Fun-da-ri-kyō. ❷一冊 ❸存 ❹寫文一二刊 ❺(龍大'二一一二・一二)

忿怒王儀軌品 ❶(日)Fun-nu-ō-gi-ki-hon.(支)Fèn-nu-wang-i-kuei-p'in. 大方廣曼殊室利童眞菩薩華嚴本教讚圓曼德迦忿怒王眞言阿毘遮時迦儀軌品 ❷一卷 ❸存、大正二一・七七 No. 1216、縮四一三、卍二七・一、明北1417藏、清1417藏、明南1186學、Nj. 1424 ❹大方廣曼殊室利童眞菩薩華嚴本教讚圓曼德迦忿怒王眞言阿毘遮嗜迦儀軌品の下を見よ。

忿怒金翅鳥大輪明王儀 ❶(日)Fun-nu-kon-shi-chō-dai-rin-myō-ō-gō. ❷一輯 ❸存、大正圖像第七 ❹醍醐寺)

忿怒大威德儀軌品 ❶(日)Fun-nu-dai-i-toku-gi-ki-hon.(支)Fèn-nu-ta-i-kuei-p'in. 大乘方廣曼殊室利菩薩華嚴本教圓曼德迦忿怒王眞言大威德儀軌品、曼殊室利菩薩華嚴本教圓曼德迦忿怒王眞言威德儀軌品第三十、阿毘遮時迦儀軌品、大威德儀軌品 ❷一卷 ❸存、大正二一・七六 No. 1215、縮四一三、卍二七・一、明北1416藏、清1416藏、明南1184寫、Nj. 1423 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❺大乘方廣曼殊室利菩薩華嚴本教圓曼德迦忿怒王眞言大威德儀軌品の下を見よ。

奮迅王經 ❶(日)Fun-jin-ō-kyō.(支)Fèn-hsün-wang-ching. 奮迅王問經、奮迅王所問經 ❷二卷 ❸存、大正一三・九三五 No. 421、縮玄九、卍七・二、北79殷、南77殷、元76殷、明北79殷、清79殷、麗77殷、天78殷、指67殷、法76殷、至148問、明南76殷、Nj. 83 ❹羅曇毅若流支譯 ❺元魏興和四(A. D. 542)

奮迅王問經 ❶(日)Fun-jin-ō-mon-gyō.(支)Fèn-hsün-wang-wèn-ching.(梵)Vikurvaṇa-rāja-paripṛcchā.(藏傳)(藏)hphags-pa shus-pa shes-bya-ba theg-pa chen-poḥi mdo. 奮迅王所問經、奮迅王經 ❷二卷 ❸存、大正一三・九三五 No. 421、縮玄九、卍七・二、北79殷、南77殷、元76殷、明北79殷、清79殷、麗77殷、天78殷、指67殷、法76殷、至148問、明南76殷、Nj. 83 ❹羅曇毅若流支譯 ❺元魏興和四(A. D. 542)

奮忠舒難錄 ❶(日)Fun-chū-jo-nan-roku. ❷一卷 ❸存 ❹朝鮮洪翼著 ❼(參考) 朝鮮佛教總書刊行豫定書目

文永七年宸筆御八講記 ❶(日)Bun-ei-shichi-nen-shin-pitsu-yō-hak'-kō-ki. ❸存、續群書類從第二六 ❹花山院通雅(貞永元—建治二 A. D. 1232—1276)

❺文永七年(A. D. 1270)は土御門天皇四十回忌辰に當る。仍て後嵯峨法皇は宸筆八講を同年十月一日より十二日迄龜山殿寢殿に於て修し給ふた。本書は其の時の記錄である。著者は此の八講に親しく奎仕した右大臣花山院通雅である。本書はその前半にそれより以前の宸筆八講即天曆、長保、治曆、長治、安元、久壽の諸年代に修せられたものを列記して文永七年のそれと比較してある。是れその殿修の樣式をこれ等數種の先例に徵し其の故實に基いて慣重に取り行はれた事を證すべく以て其の盛典の意義の重大性を察する事が出來る。而して本書の後半には十月一日より十二日迄の日々の行事を記述してゐる。その叙述方法が他の同種の記錄に比して稀に見る入念さと精細さとを備へてゐる事は著者の周到な用意と緻密な頭腦とを現はすものとして亦注意すべきである。尙著者は右大臣花山院定雅の子で文永五年十二月二日内大臣に同六年四月二十三日右大臣となり、同八年三月十日に辭職し、更に建治元年八月二十七日には太政大臣に陞つた。同二年三月二十九日辭職して出家し空涅と號したが同年五月四日年四十五を以て薨じた人である。

(高倉永輝)

文永十一年行人中下知同請文 ❶(日)Bun-ei-jū-ichi-nen-gyō-nin-chū-shi-chi-onajiku-nake-bumi. ❸存 ❹德川時代寫 ❺(寶龜院)

文永十一年衆中契狀信長公以來御朱印相續覺書 ❶(日)Bun-ei-jū-ichi-nen-shū-chū-kei-jō-nobu-naga⁻kō-i-rai-go-shu-in-o-toku-oboe-gaki. ❸存 ❹德川時代寫 ❺(寶龜院)

文永八年金剛峯寺法度書 ❶(日)Bun-ei-hachi-nen-kon-gō-bu-ji-hat-to-gaki. ❷一帖 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(寶龜院)

文英韓長老詩文稿 ❶(日)Bun-ei-kan-chō-rō-shi-bun-kō. ❷一冊 ❸存 ❹文英清韓 ❼(參考) 禪籍目錄

文應皇帝外紀 ❶(日)Bun-ō-kō-tei-ge-ki. ❷一卷 ❸存、續群書類從第八 ❹虎關師錄(弘安元—貞和二 A. D. 1278—1345) ❺曆應二(A. D. 1339)

❻文應皇帝は龜山天皇を指し奉る。本書は龜山上皇の佛門に歸依し給ひし御事蹟に就き記述したものである。撰文者は元亨釋書の編者で有名な虎關師錄である。師錄は龜山上皇の御信依篤く師錄も亦屢々上皇の離宮に伺候して親しく禪問に奉答した事があつた。瑞龍山南禪寺は元龜山上皇の離宮で永仁元年これを禪寺とし無關普門を開山とし給ふた。曆應二年師錄六十二歲にして同寺第十五世住持となつた時、上皇の鴻恩を追慕し奉つて此の一文を撰したものである。

(高倉永輝)

文格祕要集 ❶(日)Bun-kaku-hi-yō-shū. ❹絕海中津(延元元—應永一二 A. D. 1336—1405) ❼(參考) 禪籍目錄

文學上に於ける弘法大師 ❶(日)Bun-gaku-jō-ni-o-ke-ru-kō-hō-dai-shi. ❷一卷 ❸存 ❹幸田露伴著 ❹(京專)

文龜元等主三昧鈔 ❶(日)Bun-ki-gwan-ō-shu-sam-mai-shō. ❷一卷 ❸存 ❹良儀記 ❹寫本(曼殊院)

文龜二年曼荼羅供記 ❶(日)Bun-ki-ni-nen-man-da-ra-ku-ki. ❸存、續群書類從第二六 ❹澄惠(永享四—永正一三 A. D. 1432—1516)

❺本書は文龜二年(皇紀二一六二)に修せられた曼荼羅供の記錄である。同年は後花園天皇三十三回聖忌相當につき後柏原天皇施主となり給ひ奉行は傳奏中納言中山宣親、職事廣橋左中辨守光朝臣の二人が擔務し、大阿闍梨報恩院大僧正賢深を導師として曼荼羅供が殿修せられた。本書はその時の記錄である。後花園天皇は文明二年十二月二十七日に扇じ給うたから十二月二十七日が御命日に當るが年末の故に日數を繰り上げ十九日に執行せられたものである。此の行事は先々帝の御法會であるだけに其の執行には慣重なる準備と考證が行はれた。即ち其年十月九日中山中納言は長橋局から宣旨を被り直ちに翌十日より其先例考證の爲め比叡山に登り諸長老につき勘問をなし其他幾多關係の諸文獻を收拾した事が記錄せられてゐる。而して本書の後には曼荼羅供願文、同眞語、同表白並諸職宣旨等が附記せられてゐる。著者は權僧正澄惠であり、續群書類從所收のものは寛永五年五月法印大僧都寛濟が原本に當時の導師大僧正賢深が加筆せるものに依り謄寫し更に正史より轉寫の願文宣旨等を附記したものである。

(高倉永輝)

文鏡祕府論 ❶(日)Bun-kyō-hi-fu-ron. ❷六卷 ❸存、弘法大師全集第八 ❹空海(寶龜五—承和二 A. D. 774—835) ❺弘仁年中(A. D. 810—823)

❻六朝唐代の詩文を論じた書。屏語・調聲・八種顯・四聲論・十七勢・十四例・六義・十體・八階・六志・二十九種對文・三十種病累・十種疵論・文意論・對屬の十五類に分つて論じてゐる。沈約の四聲譜、劉善經の四聲指歸、陸機の文賦、鍾嶸の詩品、劉勰の文心雕龍、王斌の四聲論、王昌齡の詩格、僧皎然の詩式、同の詩議、崔融の唐朝新定詩格、元競の詩體屬、筆札、文筆式等について異同を校勘し、評論してゐる。弘法大師は弘仁十一年中夏に本書を抄綴して文筆眼心鈔一卷を作つてゐる。

❼(注釋) 箋十八卷(維寶)。冠注十五卷(行願)。(參考) 諸宗章疏錄第三 ❹平安朝時代寫(仁和寺地卷缺)・長寛三寫(高山寺)・嘉元三寫(寶龜院・天地東三卷)・鎌倉中期寫(寶壽院)寫文一、刊(正大一四三一・二五七、二一四)(立大、A二〇・五九)(高大、一・五二)(京專)

(小田慈舟)

文鏡祕府論箋 ❶(日)Bun-kyō-hi-fu-ron-sen. ❷十八卷 ❸存 ❹維寶(貞享四—延享四 A. D. 1687—1747)述 ❼(參考) 眞言宗全書刊行豫定書目

文化を顯虛せる淨土教發達の史實 ❶(日)Bun-kwa-o-ken-kyo-se-ru-jō-do-kyō-hat-tatsu-no-shi-jitsu. ❷一冊 ❸存 ❹醍醐惠瑞著 ❹大正八刊 ❹(高大、一・二一)

文化史上に於ける伎行者 ❶(日)Bun-kwa-shi-jō-ni-o-ke-ru-gi-gyō-ja. ❷一冊 ❸存 ❹牛窪弘雋著 ❹昭和三刊 ❹(高大、一・五五)

文化の權威 ❶(日)Bun-kwa-no-ken-i. ❷一卷 ❸存 ❹椎尾辨匡著 ❹大正九刊 ❹京都除文館

文化の母 ❶(日)Bun-kwa-no-haha. ❷三冊 ❸存 ❹長谷寶秀著 ❹(京專)

文藝と宗教 ❶(日)Bun-gei-to-shū-kyō. ❷一卷 ❸存 ❹加藤直士著 ❹明治四〇刊 ❹(帝國・三二五・三四)

文獻通考、經籍考 ❶(日)Bun-ken-tsū-kō, kyō-jaku-kō.(支)Wén-hsien-t'ung-k'ao, ching-chi-k'ao. ❷二卷 ❸存 ❹宋馬端臨撰 ❹寫本(京大、藏・二一フ・二)

文治五年眞言院御修法胎藏界日記 ❶(日)Bun-ji-go-nen-shin-gon-in-hō-tai-zō-kai-nik-ki. ❸存、續群書類從第二五

❺眞言院は大內裏にある朝廷の御修法所である。承和六年僧空海が唐の內道場に准じ眞言院を宮中に設き鎭護國家、五穀豐饒の祈請をなさん事を奏請した事により勅して勅解由司廳を眞言院となした事に始まり、空海が是處に始めて後七日の修法を行つた。爾後これが恒例となり毎年正月東寺の長者が此院に於て御修法を行ひ胎藏、金剛兩界行法はこれを隔年に行はれる事になつた。然るに後同院は屢々風害又は火災等の爲め燒亡せられ御修法も亦興廢があつた。安元三年(皇紀一八三七)四月には同院は亦兩界曼荼羅と共に燒失し翌治承二年には再び造營して修法が再興せられたが當時源平爾氏抗爭の時代の爲御修法は又々廢絕した。文治五年(皇紀一八四九)は治承二年から十二年目に當り既に天下も略々平定に歸したので眞言院に於て再び御修法が勤修せられた事が察せられる。本書は其の時の後七日御修日記であつて醍醐座主で當時東寺二長者なる權僧正勝賢が大阿闍梨として勤修した。本日記は前年十二月二十八日より正月十五日迄を記錄してゐるが其の內御修法は正月八日より十四日迄の七日間である。

(高倉永輝)

文治二年神宮大般若經轉讀記 ❶(日)Bun-ji-ni-nen-jin-gū-dai-han-nya-kyō-ten-doku-ki. 神宮大般若經轉讀記、使乘坊參宮記 ❸存、續群書類從第二六 ❹慶俊

❺本書は、『使乘上人奉納大般若伊勢神宮記』と『東大寺衆徒參詣伊勢大神宮記』とを併せ錄するもの。各項の下に解說あり。

(不破幹雄)

文章肝心鈔 ❶(日)Bun-shō-kan-jin-shō. ❷一卷 ❹空海(寶龜五—承和二 A. D. 774—835)

く

苦侯羅 ❶(日)He-yu-kyō. (支) Pu-yü-ching. ❷1巻 ❸仏 ❹経 ❺元魏 ❻(参考) 出三藏記集巻三、出經後錄巻三、仏祖歷代通載巻五、開元釋教錄巻四、巻一五、貞元釋教錄巻六、巻11五

遺論以知者 ❶(日)He-bi-i-chi-go. ❷1巻 ❸仏、勝鬘法自性義章下、勝林法自性義、白豪相自性義之内 ❹白豪相義(又単に一明師五A. D. 1685—1763) ❺貞享四(A. D. 1754)

❻本書は日本の著述、筆者本の著述とも言いたものである。白豪相義は五百年前田の勝鬘経の一言にはれ、勝の中説を以て日すべき説である。勝鬘は説法に徹底して聖切なる教示を説明し、勝に説法に徹底して聖切なる教示を説明しまずり、仏の手助をも説られたる法語を授ると多く信門多十者方の中を説られたる法の1人にして手文まで其の内の1である。

1国1城の主たる者は第1に王位を守護し、国民を安んじ、所領を保重する任とし、王位を守護せんには身命財産を惜まるべく、衆生の所願は人数を出し内裏と幕力を表べ、勝ぶるを根本となすべく、元敵を出し国民、ここを基は十を以てなすべき、敵ぶる。若し其れ先日の勝鬘見性の説あらば先づ第1に此の説に住して以て仏法勝鬘不死の安心を説くべし。大勝鬘の力用を説明すべきこと、此の説は仏説の説示は明白仏説

文蔵心鈔 ❶(日) Bum-pitsu-gen-shin-shō. 校訂標註文蔵心鈔 ❷1巻 ❸仏 ❹(参考)

文蔵心鈔講文 ❶(日) Bum-pitsu-gen-shin-shō-shaku-mon. ❷1巻 ❸仏 ❹日蓮 ❺(参考)

文蔵問答鈔 ❶(日) Bum-pitsu-mon-dō-shō. ❷1巻 ❸仏 ❹日蓮(本書七一末至1巻A. D. 1435—1519)頃 ❺延徳元年 ❻(参考)1〇九・11四七・11四七)(参考)

文禄年間語録 ❶(日) Bum-roku-nen-zen-ji-go-roku. (支) Wén-mu-nien-ch'an-shih-yü-lu. ❷1巻 ❸仏 ❹沈文錫、文禄年間 ❺(参考) 臨済日録

文明九年鶴山新本宗門法文書 ❶(日) Bum-mei-ku-nen-ei-zan-tai-hon-shū-kwan-kei-mon-jo. ❷1巻 ❸仏 ❹(参考)(文禄)日〇・三11八)

文明研鑽談 ❶(日) Bum-mei-ken-zatsu-dan. ❷中臣宣明(正安11—永和元A. D. 1300—1375) ❸(参考) 日本歴代叢書巻四、臨済日録

文明史上に於ける弘法大師 ❶(日) Bum-mei-shi-jō-ni-o-ke-ru-kō-hō-dai-shi. ❷1巻 ❸仏 ❹沖本克己 ❺(参考)

文明七年天台座主補任式 ❶(日)Bum-mei-shichi-nen-ten-dai-za-su-bu-nin-shiki. ❷1巻 ❸仏、建仁寺蔵記録巻11七 ❹(参考) ❺文明九年(A. D. 1477)

❻天台宗は文明七年(建記11一三至)四月十日寺蔵記録巻三号大師座台帳の巻百六十一号天台座主補任式の記録である。巻頭は慶長四十四年寺蔵記録巻となり巻末で天台座主十四年寺蔵記録巻となり巻末で天台座主に補任し四天王寺四箇年に補任し本座十一年目の慶明通11年四月補任し本座十一年目の慶明通11年四月四日を以て入滅して居る。本書記録は天台座主に天台座主を以て補任の天台座主補任は共に文明三年四月三日に補任したとして居るが本書は慶明の如く文明七年とせず。其の所れに正しき説は前は法華の名聞にあるが本書は慶明と名聞は法華の名聞にあるが本書は慶明と名聞は法華の名聞にあるが本書は慶明と名聞

平安天皇誓願文　❶(日) Hei-zei-tenn-ō-kwan-jō-mon. 大師作。誓願文。❷1卷　❸作　❹天皇ヲ入ル。1 No. 2461　日本天皇誓願文。日本国王誓願文。日本国王誓願文。❺弘仁1年(A. D. 774—835)　❻弘仁1年(A. D. 812)　❼大師作。誓願文。天皇ヲ入ル。❽(参考)　既出。❾(参考)　天文元年(文大)。日本文徳・四11四)天皇宣下。(国文大)。

平石知恵語録　❶(日) Hei-seki-o-shō-go-roku. (支)P'ing-shih-ho-shang-yü-lu. 平石和尚語録。❷1卷　❸作。「卍」1・11ヤ・11　❹天平石和尚(一説天1ヤA. D. 1357)歟。❺(説)1ヤ(・1)。

平石知恵禅師語録　❶(日)Hei-seki-nyo-tai-zen-ji-go-roku. (支)P'ing-shih-ju-chih-ch'an-shih-yü-lu. 平石如智禅師語録。❷1卷　❸作。「卍」1・11ヤ・11　❹天平石和尚(一説天1ヤA. D. 1357)歟。❺(説)1ヤ(・1)。

平太郎熊野参詣記　❶(日) Hei-ta-rō-kuma-no-san-kei-ki. ❷1卷　❸作　❹(説)天(宗大・11天ヤ天)

平太郎書簡談　❶(日)Hei-ta-rō-ji-seki-dan. ❷天卷　❸作　❹(説)天(宗大・11天九五)

平太郎記　❶(日) Hei-ta-rō-ki. ❷1卷　❸作　❹(説)天(宗大・11天九五)

平家天皇誓願文　❶(日) Hei-zei-tenn-ō-kwan-jō-mon. 大師作。誓願文。❷1卷　❸作。「卍」1・11ヤ・11　❹天皇ヲ入ル。1 No. 2461　日本天皇誓願文。日本国王誓願文。日本国王誓願文。❺弘仁1年(A. D. 774—835)　❻弘仁1年(A. D. 812)　❼大師作。誓願文。天皇ヲ入ル。❽(参考)　既出。❾(参考)　天文元年(文大)。日本文徳・四11四)天皇宣下。(国文大)。

平家宇の素術　❶(日)Hei-sen-ji-no-bi-jutsu. ❷作。「卍」1・11ヤ・11

平太郎縁起　❶(日) Hei-ta-rō-en-gi. ❷1卷　❸作　❹(説)天(宗大・11天ヤ天)

平太郎縁起法談　❶(日) Hei-ta-rō-en-gi-hō-dan. 盛分覚等大師縁起法談。❷1卷　❸作　❹盛分覚等(貞享天一説享保元A. D. 1661—1746)。❺(説)1ヤ(・1)。

平太郎熊野参詣記　❶(日) Hei-ta-rō-kuma-no-san-kei-ki. ❷1卷　❸作　❹(説)天(宗大・11天ヤ天)

平太郎書簡談　❶(日)Hei-ta-rō-ji-seki-dan. ❷天卷　❸作　❹(説)天(宗大・11天四九)

平太郎宗教　❶(日) Hei-ta-rō-shō-gyō. ❷1卷　❸作　❹「平」は現在所蔵の本を記す。❺(説)天(宗大・11天ヤ四)

平太郎縁記　❶(日) Hei-ta-rō-den-ki. ❷1卷　❸作　❹(説)天(宗大・三九五1)

平田弟子問答　❶(日) Hei-den-o-shō-go-roku. 平田卷　❷1卷　❸作　❹平田篤胤(一説安永A. D. 1364)歟　❺(参考)　此書は平田門人の天保三年(文大)「平田門人問答」と題して刊行せられたものである。❻(説)天(宗大・11四11)

平田弟子問語録　❶(日) Hei-den-o-shō-go-roku. 平田卷　❷1卷　❸作　❹平田篤胤(一説安永A. D. 1364)歟　❺(参考)　此書は平田門人の天保三年(文大)「平田門人問答」と題して刊行せられたものである。❻(説)天(宗大・11四11)

平田弟子問答　❶(日) Hei-den-o-shō-den. ❷1卷　❸作。「卍」1・11ヤ・11　❹平田篤胤の弟子問答の書である。和に講説を記録し、又、完全なる「古伝」を説き、後期の国学は、殆ど、平田学、及び、平田学の影響を受けしものなり。平田学は、実に、幕末に、勢力を、なしたるなり。新。　(東京大学)

平田宗教語録　❶(日)Hei-den-ji-zaki. ❷1卷　❸作　❹(説)天　平田篤胤

平田録　❶(日)Hei-den-roku. 平田和尚録。❷1卷　❸作　❹平田篤胤(一説安永A. D. 1364)歟　❺(参考)　日本思想体系本平田篤胤集日録

平等禅師録　❶(日)Hei-man-da-ra. ❷1巻　❸作　❹番川音代言　❺(説)(説)

平和的宗教　❶(日)Hei-wa-teki-shū-kyō. ❷1卷　❸作　❹幸徳秋水(明治天皇一説明治A. D. 1851—1929)歟　❺天文11刊　❻明治天皇社会主義

丙医説教集　❶(日) Hei-shin-sek-kyō-shū. ❷1卷　❸作　❹(説)天(宗大・1○天天・1三四)

閉水作法　❶(日) Hei-sui-sa-hō. ❷1巻　❸作　❹(説)天(説)

閉眼法門　❶(日)Hei-gen-hō-mon. ❷1卷　❸作　❹作者不詳記　❺(説)天(説)

閉蛇法義　❶(日) Hei-tetsu-tetsu-hō-gi. ❷1卷　❸作　❹金剛宗教の教説したもの。❺天正三説　❻(宗大・宗大・11四11)

弊帝宇　❶(日) Hei-shuku-kyō. (支) Pi-hsiu-ching. (巴) Pāyāsi. D. 23. ❷作。「卍」1・四11 No. 1)

弊宿集　❶(日) Hei-zō-shū. ❷1卷　❸作　❹中世日蓮宗　❺(説)天(宗大・11四く・1)

弊魔試目連経　❶(日)Hei-ma-shi-moku-ren-gyō. (支) Pi-mo-shih-mu-lien-ching. (巴)Māratajjaniya-sutta (M. 50) 魔試目連経。❷1卷　❸作。「大正1・八六ヤ No. 67」編入八。「卍1・四・1」。「弘698法」「開712法」「天704法」「開宗570録」「元570録」「開674」「天699法」「弘650法」「元687法」「開934録」「開元581録」Nj. 574　❹天竺録　❺天竺録11一説録11(A. D. 223—253)

❻この経典は中阿含1・三1・1経(大正1・六11〇)」M. 50 Māratajjaniya S. 魔試目連(大正1・八六四六頁)の原文を漢訳したものである。「日蓮宗スンスンストーンをキッカケ」「カタール」前野氏に会ひ」「鎌倉を出発行中」「西中八人ひとに面談を見ひ」「ひ八」「田中」「ひ」「そのあ」「面談に有」「ひ」「ひ」「ひ

（貴）孝雪°　林合元孝°　大林°　弘道三孝（貴）
雪信°　鳥居雪十孝（貴）藍堂°　深雪元孝（用）°
原雪註一孝（用）石秀°　宗智三孝（用）藍田°　弘
雪藍註一孝（用）孝知°　雪鶴一孝（用）孝雄°
雪鶴三孝（用）孝徳°　雪道一孝（用）貫之°　雪
道二孝（用）孝信°　雪道二孝（用）孝郎°　雪道
一孝（用）孝宣°　雪註孝雄（用）雪一孝°　孝雪
註一孝°　孝治°　雪解一孝°　孝天°

⑭〔書家〕　①室安三用（帝国）貫之元用（立大°A五〇・四四）定家元用（富大）定信元用（富大）安貞元用（富大）（正大°一・二三・六）明治二十用（富大）（安大°一・二五（・七））（大久保藤雪傳）

雪舟遺稿　①（日）Heki-gan-shū.　新潮雪舟遺稿　②一冊　③存　④明治二十年　⑤帝国°大六・一二二）

雪舟遺稿　①（日）Heki-gan-shū.　新潮雪舟遺稿　②一冊　③存　④雪舟遺稿註　⑤大正元年　⑥東京大倉書店

雪舟遺稿　①（日）Heki-gan-shū.　現代雪舟遺稿　②三冊　③存　④中島敦氏　⑤大正九年　⑥東京大倉書店

雪舟遺稿　①（日）Heki-gan-shū.　雪舟遺稿　②一冊　③存　④雪舟遺稿註　⑤大正元年　⑥名古屋文光堂

雪舟遺稿　①（日）Heki-gan-shū.　雪舟遺稿　②一冊　③存　④山田孝雄（文久三—昭和二年A. D. 1863—1928）　⑤大正一二年　⑥東京宝文館

雪舟一雪舟談　①（日）Heki-gan-shū-ik-ke-en-dan.　国宝雪舟遺稿一雪舟談　②五冊　③存　⑤文化八年　⑥（富大）

雪舟伝山分　①（日）Heki-gan-shū-kyō-san-shō.　雪舟遺稿伝山分　②十冊　③存　④宋山　⑥〔参考〕　雪舟日録

雪舟天竺分　①（日）Heki-gan-shū-ketsu-shō.　雪舟遺稿天竺分°　雪舟遺稿正的正口録　②三冊　③完全　④存　⑤大永年間（一五二一—二四A. D. 1505）　⑥〔参考〕　雪舟日録

雪舟孝考法　①（日）Heki-gan-shū-kō-jutsu.　②五冊　③存　④能阿　⑥〔参考〕　雪舟日録

雪舟孝考図説補　①（日）Heki-gan-shū-kō-shō-zoku-ho.　②一冊　③存　④雪舟遺稿孝考図説補一（享保元年A. D. 1653—1744）　⑥〔参考〕　雪舟日録

雪舟遺稿講義　①（日）Heki-gan-shū-kō-gi.　②二冊　③存　④今井弘雄著　⑤大正二年　⑥（富大）

雪舟遺稿講話　①（日）Heki-gan-shū-kō-wa.　②一冊　③存　④新潮雪舟遺稿講話　⑤明治二十九年（一八九六）（富大）

雪舟遺稿講話　①（日）Heki-gan-shū-kō-wa.　②一冊　③存　④雪舟遺稿講話　⑤大正元年　⑥東京大倉書店

雪舟遺稿講話　①（日）Heki-gan-shū-kō-wa-tsuketari-fu-kwan-zu-zen-gi-kō-wa.　②二冊　③存　④大内青巒（弘化二—大正十年　A. D. 1845—1918）著　⑤明治三九年　⑥東京博文館

雪舟遺稿講話

①（日）Heki-gan-shū-kō-wa-tsuketari-fu-kwan-zu-zen-gi-kō-wa.　②二冊　③存　④大内青巒（弘化二—大正十年　A. D. 1845—1918）著　⑤明治三九年　⑥東京博文館

雪舟国風素描　①（日）Heki-gan-shū-koku-shitsu-tō.　②十冊　③存　④未来社版（一安永二年A. D. 1773）　⑥〔富大〕

雪舟詩分　①（日）Heki-gan-shū-sai-gin.　②五冊　③存　④大林堂　⑥〔参考〕　雪舟日録

雪舟伝山分　①（日）Heki-gan-shū-kyō-san-shō.　雪舟遺稿伝山分　②十冊　③存　④宋山　⑥〔参考〕　雪舟日録

雪舟天竺分　①（日）Heki-gan-shū-ketsu-shō.　雪舟遺稿天竺分°　雪舟遺稿正的正口録　②三冊　③完全　④存　⑤大永年間（一五二一—二四A. D. 1505）　⑥〔参考〕　雪舟日録

雪舟孝考法　①（日）Heki-gan-shū-kō-jutsu.　②五冊　③存　④能阿　⑥〔参考〕　雪舟日録

雪舟孝考図説補　①（日）Heki-gan-shū-kō-shō-zoku-ho.　②一冊　③存　④雪舟遺稿孝考図説補一（享保元年A. D. 1653—1744）　⑥〔参考〕　雪舟日録

雪舟遺稿講義　①（日）Heki-gan-shū-kō-gi.　②二冊　③存　④今井弘雄著　⑤大正二年　⑥（富大）

雪舟遺稿講話　①（日）Heki-gan-shū-kō-wa.　②一冊　③存　④新潮雪舟遺稿講話　⑤明治二九年（一八九六）（富大）

雪舟遺稿講話　①（日）Heki-gan-shū-kō-wa.　②一冊　③存　④大内青巒（弘化二—大正十年　A. D. 1845—1918）著　⑤明治三九年　⑥東京博文館

雪舟国風素描　①（日）Heki-gan-shū-koku-shitsu-tō.　②十冊　③存　④未来社版（一安永二年A. D. 1773）　⑥〔富大〕

雪舟詩分　①（日）Heki-gan-shū-sai-gin.　②五冊　③存　④大林堂　⑥〔参考〕　雪舟日録

雪舟耳林分　①（日）Heki-gan-shū-ji-rin-shō.　雪舟遺稿耳林分　②二冊　③存　④夏合元孝（安永八—弘化四A. D. 1779—1847）著　⑤弘化三年　⑥〔富大〕

雪舟山雪集　①（日）Heki-gan-shū-s'u-sho.　合山山雪雪舟遺稿　②十冊　③存　④合山　⑤寛文五年　⑥〔富大°二六七二・一四〕

雪舟遺稿雪舟分　①（日）Heki-gan-shū-shu-den-shō.　雪舟遺稿雪舟分　②十冊　③存　④宋雪大和尚　⑤天文四年　⑥〔富大°一・二五（・三）〕（立大°A五〇・四四）（谷大°巻大・五八七）（富大）

雪舟頌古　①（日）Heki-gan-shū-ju-ge.　②一冊　③存　④武昭（関雪慶）　⑥宮本（富大）

雪舟頌古　①（日）Heki-gan-shū-ju-ko.　②一冊　③存　④雪舟頌古の頌古の下巻部°　⑤明治二八年　⑥（富大）

雪舟頌古録　①（日）Heki-gan-shū-ju-ko-shō-dai.　雪舟頌古百則録或°頌古雪舟頌古録或°頌古録或°雪舟頌古録或°頌古録或°雪舟頌古録或°　②二冊　③存　④山田孝雄（天保二—一明治四年）A. D. 1833—1769）著°　雪舟遺稿　⑥雪舟頌古百則頌古の下巻部°

雪舟遺稿正的正口分　①（日）Heki-gan-shū-shō-teki-shō-ku-shō.　雪舟遺稿正的正口分°　雪舟遺稿正的正口録°　雪舟遺稿正的正口録°　雪舟遺稿正的正口録°　雪舟遺稿正的正口録°　②三冊　③完全　④存　⑤大永年間（一五二一—二四A. D. 1505）　⑥〔参考〕　大日本史史料　雪舟遺稿

雪舟遺稿分　①（日）Heki-gan-shū-shō.　②一冊　③存　④宋雪大和尚（寛安元—享保一六A. D. 1648—1735）著　⑤寛文元年　⑥（富大）

雪舟耳林分　①（日）Heki-gan-shū-ji-rin-shō.　雪舟遺稿耳林分　②二冊　③存　④夏合元孝（安永八—弘化四A. D. 1779—1847）著　⑤弘化三年　⑥（富大）

雪舟山雪集　①（日）Heki-gan-shū-s'u-sho.　合山山雪雪舟遺稿　②十冊　③存　④合山　⑤寛文五年刊　⑥（富大°二六七二・一四）

雪舟遺稿雪舟分　①（日）Heki-gan-shū-shu-den-shō.　雪舟遺稿雪舟分　②十冊　③存　④宋雪大和尚　⑤天文四年刊　⑥（富大°一・二五（・三）（立大°A五〇・四四）（谷大°巻大・五八七）（富大）

雪舟頌古　①（日）Heki-gan-shū-ju-ge.　②一冊　③存　④武昭（関雪慶）　⑥宮本（富大）

雪舟頌古　①（日）Heki-gan-shū-ju-ko.　②一冊　③存　④雪舟頌古の頌古の下巻部°　⑤明治二八年刊　⑥（富大）

雪舟頌古録　①（日）Heki-gan-shū-ju-ko-shō-dai.　雪舟頌古百則録或°頌古雪舟頌古録或°頌古録或°雪舟頌古録或°頌古録或°雪舟頌古録或°　②二冊　③存　④山田孝雄（天保二—一明治四年）A. D. 1833—1769）著°　雪舟遺稿　⑥雪舟頌古百則頌古の下巻部°

雪舟正的正口分　①（日）Heki-gan-shū-shō-teki-shō-ku-shō.　雪舟遺稿正的正口分°　雪舟遺稿正的正口録°　雪舟遺稿正的正口録°　雪舟遺稿正的正口録°　雪舟遺稿正的正口録°　②三冊　③完全　④存　⑤大永年間（一五二一—二四A. D. 1505）　⑥〔参考〕　大日本史史料　雪舟遺稿

雪舟分　①（日）Heki-gan-shū-shō.　②一冊　③存　④宋雪大和尚（寛安元—享保一六A. D. 1648—1735）著　⑤寛文元年　⑥（富大）

雪舟分　①（日）Heki-gan-shū-shō.　②五冊　③存　④宋雪大和尚　⑥（富大）

雪舟分　①（日）Heki-gan-shū-shō.　②十冊　③存　④宋雪大和尚　⑥（富大）

雪舟法　①（日）Heki-gan-shū-hō.　白雪雪舟遺稿　②一冊　③存　④宋雪大和尚（寛安元—享保一六A. D. 1648—1735）著°　本田孝雄編　⑤大正元年刊　⑥（富大）（立大°一・二五（・六））

雪舟不二分　①（日）Heki-gan-shū-fu-ni-shō.　雪舟遺稿不二分°　不二分°　雪

舟遺稿°雪舟遺稿分°雪舟不二分　②十冊　③存　④宋雪大和尚（寛安元—享保一六A. D. 1648—1735）著　⑥〔参考〕　大日本史史料　雪舟遺稿

雪舟遺稿雪舟分　①（日）Heki-gan-shū-ben-teki.　②一冊　③存　④宋雪大和尚（寛安元—享保一六A. D. 1648—1735）著　⑥〔参考〕　雪舟日録

雪舟遺稿略伝　①（日）Heki-gan-shū-ryaku-ge.　雪舟遺稿略伝上巻部　②二巻　③存　④武昭（関雪慶）　⑤寛永四年刊　⑥（富大）

雪舟遺稿漫録　①（日）Heki-gan-shū-rem-peki.　②三巻（下巻欠）　③存　④宋雪大和尚（富大）

雪舟遺稿謀録　①（日）Heki-gan-jo-gi-mō.　②一巻　③存　⑥〔参考〕　雪舟日録

雪舟秒　①（日）Heki-gan-shō.　②九巻　③存　④日蓮宗聖人　⑥〔参考〕　雪舟日録

雪舟秒　①（日）Heki-gan-shō.　②十巻　③存　④神道流儀（文保二—一三二六年A. D. 1318—1401）著　⑥〔参考〕　日本思想体系　雪舟日録

雪舟分　①（日）Heki-gan-shō.　雪舟遺稿分°雪舟遺稿分　②十巻　③存　④中世神道（延文六—一三六一年A. D. 1342—1406）著　⑥〔参考〕　日本思想体系　雪舟日録

雪舟大空秒　①（日）Heki-gan-tai-kū-shō.　雪舟遺稿大空秒°雪舟遺稿正的正口録　②三巻完全　③存　④大永年間（一五二一—二四A. D. 1505）　⑥〔富大〕

雪舟孝考語　①（日）Heki-gan-ja-ku-go-ben-chū.　②五巻　③存　⑥〔参考〕　雪舟日録

碧巌録講話 ❶(日) Heki-gan-roku-kō-wa. ❷1巻 ❸存 ❹憲法発布(慶応三—一大正1○A. D. 1850—1921)著 ❺大正三刊 ❻法蔵館(京都)

碧巌録講話 ❶(日) Heki-gan-roku-kō-wa. ❷11巻 ❸存 ❹高井紀和治〔?〕 ❺東京大正八—九刊 ❻東京真言宗日本支部

碧巌録講話 ❶(日) Heki-gan-roku-kō-wa. ❷11巻 ❸存 ❹鷲尾順敬(一大正八 A. D. 1919) ❺大正1—1刊 ❻東京東方書院

碧巌録私記 ❶(日) Heki-gan-roku-shi-ki. ❷三巻 ❸存 ❹道元 ❺〔参考〕 櫻井日奏

碧巌録耳林抄 ❶(日)Heki-gan-roku-ji-rin-shō. 碧巌録耳林抄 ❷1巻 ❸存 ❹本覚国師(安永八—弘化四A. D.1779—1847)著 ❺明和8刊 ❻〔参考〕

碧巌録抄 ❶(日) Heki-gan-roku-shō. ❷1巻 ❸存 ❹明治1四刊(高大)

碧巌録抄 ❶(日) Heki-gan-roku-shō. ❷11三巻 ❸存 ❹〔参考〕(高大)(京大)〔1•11五イ•六〕(宮大)〔1•11三•11〕(慶大)〔11六三11•11四〕(帝国)〔三三•1六三〕〔1〇九•1八八〕 ❺東京愛敬社

碧巌録抄聞書抄 ❶(日)Heki-gan-roku-shu-den-shō. 碧巌録抄聞書抄 ❷十巻 ❸存 ❹貞享天和年間 ❺天文四刊(慶大〔11六三11•1八〕)(京大〔慶大•五八三〕)(宮大〔八五〇•四三〕)(京大〔1•11五イ•三〕)(帝国〔111三•1111〕〔1〇九•1五五〕)

碧巌録頌古解説 ❶(日) Heki-gan-roku-ju-ko-ryaku-ge. 碧巌録頌古解説 ❷四巻 ❸存 ❹非歴堂 ❺貞享四刊 ❻(京大〔慶大•11八八〕)(高大)

碧巌録集註 ❶(日) Heki-gan-roku-shuc-chū. ❷十巻 ❸存 ❹〔参考〕 櫻井日奏

碧巌録十則詩案 ❶(日) Heki-gan-roku-jis-soku-kō-gi. ❸存 ❹大内青巒(弘化11—一大正七A. D. 1845—1918)著 ❺明治三八刊 ❻東京文明館

碧巌録序者書 ❶(日)Heki-gan-roku-jo-shu-sho. ❷1巻 ❸存 ❺延享天宝間 ❻(慶大〔11六七11•11三〕)

碧巌録抄 ❶(日) Heki-gan-roku-shō. ❷五巻 ❸存 ❹泰翁玄昶(宝暦11—寛政元A. D. 1653—1744) ❺〔参考〕 櫻井日奏

碧巌録抄 ❶(日) Heki-gan-roku-shō. ❷十巻 ❸存 ❹鈴木守静 ❺寛文元刊 ❻(高大)

碧巌録抄 ❶(日) Heki-gan-roku-shō. 碧巌録抄11抄、碧巌録抄11抄、碧巌録抄11抄、碧巌録抄11抄、不11抄 ❷十巻 ❸存 ❹竜関方象(宝安元—寛永三1 A. D. 1361—1424)著 ❺寛安三刊 ❻(京大〔慶大•四11111八〕)(京大〔1•11五イ•四〕)(宮大〔1•11五イ•中•五〕)(帝国〔八111•三〇五〕)(慶大〔11六三11•111111〕)

碧巌録抄 ❶(日) Heki-gan-roku-shō. 碧巌録抄山抄 ❷十巻 ❸存 ❹貞永山 ❺貞永1八刊 ❻(慶大〔11六三11•1九〕)

碧巌録註解 ❶(日) Heki-gan-roku-shō-ge. 現代語碧巌録註解 ❷1巻 ❸存 ❹井上秀天著 ❺大正七刊 ❻(高大)

碧巌録新抄 ❶(日)Heki-gan-roku-shin-shō. ❷五巻 ❸存 ❹高泉 ❺元禄11刊 ❻(高大)

碧巌録之抄 ❶(日) Heki-gan-roku-no-shō. ❷四巻 ❸存 ❹高泉 ❺(高大)

碧巌録の現代的解説 ❶(日)Heki-gan-roku-no-gen-dai-teki-kai-setsu. ❷1巻 ❸存 ❹井上秀天著 ❺大正1五刊 ❻東京大倉図

碧巌録抜抄 ❶(日)Heki-gan-roku-bas-shō. ❷11巻 ❸存 ❹〔参〕(ナ•ヤ•カ•11三)

碧巌録秘抄 ❶(日) Heki-gan-roku-hi-shō. 碧巌録秘抄 ❷十巻 ❸存 ❹白隠慧鶴(元禄11—明和五A. D. 1685—1768)著 ❺大正五刊 ❻(慶大〔11六三11•11六〕)

碧巌録不二抄 ❶(日) Heki-gan-roku-fu-ni-shō. 碧巌録不11抄、碧巌録不11抄、碧巌録不11抄、不11抄 ❷十巻 ❸存 ❹竜関方象(宝安元—寛永三1 A.D. 1361—1424)著 ❺明暦三刊 ❻(高大)

碧巌録辨註 ❶(日) Heki-gan-roku-ben-chū. ❷1巻 ❸存 ❺寛保元禄 ❻(高大)

碧巌録方語解 ❶(日)Heki-gan-roku-hō-go-ge. ❷1巻 ❸存 ❹鳳潭天徳寺 ❺明治1六刊 ❻(慶大〔法史〕)(高大)(帝国〔1四1•1七11〕) ❼東京東江書院

碧巌録集明解 ❶(日) Heki-gan-roku-mu-myō-ge. ❷十巻 ❸存 ❹幸徳秋水 ❺明治11刊 ❻(高大)(京大〔慶大•11八八五〕)

碧巌抵掌 ❶(日)Heki-gen-ko. ❷1巻 ❸存 ❹〔参考〕 櫻井日奏

碧霞狐妖問行状 ❶(日) Hek-ko-o-shō-gyō-jō. ❷1巻 ❸存 ❹〔参考〕 櫻井日奏

碧霞禅師語録 ❶(日) Hek-ko-zen-ji-go-roku. ❷1巻 ❸存 ❹仏眼定禅師〔?〕 宗峰妙超 ❺〔参考〕 櫻井日奏

碧山日錄 ❶(日) Heki-zan-nichi-roku. ❷五巻 ❸存〔?〕 ❹東福寺蔭涼軒11五 ❺寛正六著 ❻寛正三—一応仁11(A.D. 1459—1468)

❼寛正第三年六月六日ヨリ九月廿三日ニ11月十11月三十日迄の間、碧日録しるせるもの。〔巻1巻〕には天下騒動、和会議論等、乙銭記、徳政令、日野勝光、畠山義就、畠山政長、畠山義就、畠山政長、畠山義就、畠山政長

【イ】

新羅は天長八年三月十五日（A. D. 1464）北安（渤海北面城）の使臣に託れ、金宗王に仕へて賀物があつたことを知らせ、国王に下賜の物品を贈り、山川草木大地に徳を施し、衣冠に国風の教化を示し、礼儀は唐の制度を学び、文章は漢の風を受け、大聖君に高麗の高麗にまさるべき作人としたので其の家風は大聖高麗に劣らずして、明治四十三年十一月一日（A. D. 1534）巻七十一、頁四十四年に以下同様としたのである。行政機関官吏代代に其の花を咲かせた宗匠で、治世者は初期に「風雅を明」、金剛山に「人物を求」、日本に「文学」、北門に「文学」、不審人者、其機関は本来、「可謂一倉之奇」、「国使者之宗也」とあるのは、さぞ新羅の人々たちを訪ねたものである。

治世年間は、宗教和歌の出版文学書籍の出版で最も多くの学者を図つて、数つた学者は、其の国家書籍の著作は、書籍に書籍されて居るものである。（天文後期頃）

別松奉法語 ❶(日)Heki-shō-dō-hō-go. ❷1巻 ❸存 ❹新発和歌（天長八—嘉祥1 三A. D. 1464—1534）歌 ❺〔参考〕 藤棒日章、明治学校編纂平行表文書目

別和語法 ❶(日)Heki-zen-heki-go. ❷1巻 ❸存 ❹三宝法江山国 ❺文化九年 ❻〔高大〕

別蒙顕柴雑 ❶(日)Heki-sō-ran-sai-hen. ❷1巻 ❸存 ❹詩歌俳句（寛永1—1 A. D. 1597—1675）歌 ❺〔参考〕 藤棒日章

別唐語録 ❶(日)Heki-tan-go-roku. ❷11巻 ❸存 ❹明治語文 ❺〔参考〕 藤棒日章

別四記 ❶(日)Heki-shi-kyō. (支)Pei-ssū-ching. ❷1巻 ❸存 ❹天書 ❺〔参考〕 田三郎記事四、三宝記事五、内事事事1、天同事事1、同天事事11、事1五、以天事事三、事11五

別記 ❶(日)Bek-ki. 宗教説々三宝和尚 ❷1帖 ❸存 ❹実録（宝亀11—永寿元A. D. 1105—1169） ❺紀仁三宝 ❻〔高大〕巻・1・1六）

別記 ❶(日)Bek-ki. ❷1帖 ❸存 ❹医説（一弘安元 A. D. 1261） ❺家書天宝 ❻〔今西三郎記〕

別記口決 ❶(日) Bek-ki-ku-ketsu. ❷1帖 ❸存 ❹説教（保延四—建久七A. D. 1138—1195） ❺足利中期頃 ❻〔今西三郎記〕

別記大無事 ❶(日)Bek-ki-shi-dai-no-koto. ❷1帖 ❸存 ❹足利初期頃 ❺〔今西三郎記〕 ❻〔参考〕

別教学会議 ❶(日) Bek-kyō-kai-gi. ❷1巻 ❸存 ❹同学十家会11 ❺宗教（寛政1〇—寛政四A. D. 1789—1792） ❻〔参考〕（寛大・寛大・七九・）

別行 ❶(日) Betsu-gyō. 別行録、別行録、別行録、別行録、七巻録、諸宗記七巻録、巻法七巻録 ❷七巻 ❸存、大正七八・1・11五 No. 2476 ❹貞山（天保元—天治11A. D. 1057—1125）説 ❺未人元（A. D. 1117）

❻法華経の別行経・手観経・印明・経子・三形・実践・実践・分経巻を説記した巻、又巻法華経の別行経を説記した巻

別行経 ❶(日)Bek-kyō-kai-gi. ❷1巻 ❸存 ❹説教（一弘安元 A. D. 1261） ❺家書天宝 ❻〔今西三郎記〕

別行経 ❶(日)Bek-ki. ❷1帖 ❸存 ❹説教（一弘安元 A. D. 1261） ❺家書天宝 ❻〔今西三郎記〕

別行録 ❶(日)Betsu-gyō. 別行録、別行録、別行録、別行録、七巻録、諸宗記七巻録、巻法七巻録 ❷七巻 ❸存、大正七八・1・11五 No. 2476 ❹貞山（天保元—天治11A. D. 1057—1125）説 ❺未人元（A. D. 1117）

❻法華経の別行経・手観経・印明・経子・三形・実践・実践・分経巻を説記した巻、又巻法華経の別行経を説記した巻、別行経巻、別行経巻、別行経

-ko-ryo. ❹一巻 ❺存、眞宗全書第六二
❻僧授(享保四—寶暦六 A. D. 1719-1756)述
❼善導の「玄義分」大門第六和會經論中、第五會通別時章を講述せるものである。
(荻生隆三)

別時念佛三昧八誓和解 ❶(日) Betsu-ji-nen-butsu-zam-mai-has-sei-wa-kai. 別時念佛八誓 ❸存 ❹忍澂(正保二—正德元 A. D. 1645—1711)述 ❺大正一〇刊
❾(龍大、研眞)

別時念佛三昧法諺註 ❶(日) Betsu-ji-nen-butsu-zam-mai-hō-gen-chū. ❷一巻 ❸存 ❹忍澂(正保二—正德元 A. D. 1645—1711)述 ❺明和六刊 ❾(京大、藏・二四(へ・三)〇正大、一五五七・二五—二六)

別受行否 ❶(日) Betsu-ju-gyō-hi. 菩薩戒別受行否鈔、別受行否抄 ❷一巻 ❸存、日本大藏經第三五戒律宗章疏第二 ❹良遍(建久五—建長四 A. D. 1194—1253)述 ❻菩薩戒別受行否鈔の下を見よ。 ❼(塗考) 諸宗章疏錄第二

別授菩薩戒略作法 ❶(日) Betsu-ju-bo-satsu-kai-ryaku-sa-hō. ❷一巻 ❸存 ❹寶永(京大、藏・二四ル・七一)

別接通一生破無明唐決評 ❶(日) Bet-sō-tsū-itt-sō-ha-mu-myō-tō-kotsu-hyō. ❷一巻 ❸存 ❹豪實抄 ❾(無動寺)

別接通約辨 ❶(日) Bet-sō-tsū-yaku-ben. ❷一巻 ❸存 ❹敬彦 ❾刊本(谷大、餘大・一九三二)

別請論義草案 ❶(日) Bet-shō-ron-gi-sō-an. ❷二巻 ❸存 ❾寫本(正大、一三七・五七)

別說罪要行法 ❶(日) Bet-setsu-zai-yō-gyō-hō. (支) Pieh-shuo-tsui-yao-hsing-fa. 說罪要行法 ❷一巻 ❸存、大正四五・九〇三 No. 1903、鎌倉六、卍三〇・八、北1082群、南1104群、元1093群、明北1499相、清1541俊、麗1091丞、天1085群、法1074英、至1563起、明南1483功、Nj. 1536 ❹義淨(貞觀九—先天二 A. D. 635—713)撰 ❺唐天册萬歲元—先天二(A. D. 695—713) ❻說罪要行法の下を見よ。 ❼(塗考) 東域傳燈目錄卷下

別章 ❶(日) Bet-shō. 諸章肝要集聞書 ❷一巻 ❸存 ❹澄尊記 ❾寫本(正教藏)

別章行法次第 ❶(日) Bet-shō-gyō-hō-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❾文保二寫(金剛三昧院寫本(寶龜院))

別章雜記 ❶(日) Bet-shō-zak-ki. ❷五十七卷 ❸存、大正圖像第三 ❹心覺(永久五—治承四 A. D. 1117—1180)撰 ❻諸尊法、諸經法を類聚した書。梵讃・密號・種子・三形・尊像圖・曼荼羅・印言・作法・觀想等を詳記してゐる。著者は元三井寺の住僧で、後東密に轉じ、東台兩密野澤諸流の深底を窮めた巨匠で、本書は寬助の別行鈔、覺意の成蓮鈔、勝定房惠什の圖像鈔、實運の玄祕鈔、菩提院流の諸鈔等を集錄し、更に自ら增補したものであり、その裏書には詳しく經軌章疏或は先德の抄を引き、疑點を問答し、或は先蹤を記してゐる。又曼荼羅・圖像の異相を集解するについても苦心を拂つた迹が歴然としてゐる。

内容目次は胎大日・寶幢・開敷華王・阿彌陀・天鼓雷音・金大日・阿閦・寶生・無量壽・不空成就八巨十兩界五佛、佛眼・阿閦・寶生・藥師・義名稱吉祥王・阿彌陀・釋迦・定光・大日・不空成就・光明眞言・普通諸佛・諸菩薩・緣覺・聲聞・大佛頂・尊勝・一字金輪・熾盛光佛頂・法花經・六字經・童子經・寶樓閣・無垢淨光・壽命經・理趣經・寶篋印經・無邊門陀羅尼經・般若心經・守護經・菩提場經・請雨經・孔雀經・仁王經・聖觀音・千手・如意輪・馬頭・十一面・白衣・葉衣・准胝・青頸・阿摩齊・水月・不空羂索・多羅・毘俱胝・得大勢・五字文殊・八字文殊・六字文殊・一髮文殊・虛空藏・五大虛空藏・菩賢・金剛薩埵・金剛藏王・延命・菩賢延命・蓮鞨・地藏・滅惡趣・持世・金剛王・五祕密・大勝金剛・隨求・般若・馬鳴・龍樹・香王・藥王・大悲生・不動・降三世・軍荼利・大威德・金剛藥叉・愛染王・轉法輪・烏芻沙摩・圓滿金剛・隨心金剛・忙莽鷄・無能勝・大輪金剛・步擲金剛・大元明王・北斗・聚天・水天・辨才天・伎藝天・吉祥天・寶藏天・琰魔王・四天・妙見・義殿利・金翅鳥・阿梨帝母・訶梨帝愛子・呪詛經・氷迦羅天・大黑天・深沙・地天・梵天・馬摩羅天・大自在天・帝釋天・那羅延天・羅刹天・風天・婆沙波陀夜天・摩利支天・毘沙門天・最勝太子・附慎獨藥叉・大青面金剛・十二天・金剛童子・神供・五十天供・施餓鬼の百三十五尊法であり、圖像は三百有餘葉ある。

仁和寺所藏の國寶別尊雜記五十七卷は大部分著者の草本と推定せらるゝもので、傳に第十卷法華法、第十六卷寶樓閣經法等十卷が後の轉寫本である。此本は元仁和寺塔頭心蓮院の舊藏で雲樣も優れてゐるから、諸尊法研究書としてのみならず、佛教美術品としても、斯界の學者の推奬する所である。夫村西崖氏大正九年にその圖像曼荼羅のみを玻璃版として出版し、佛教圖像集古中に收めた。

❹寫本(仁和寺)(高大、寄・一・六六)(寶龜院)(小田慈舟)

別尊雜記圖像 ❶(日) Bet-son-zak-ki-zu-zō. ❸存 ❹刊本(京大・印書・M六)

別尊傳授集 ❶(日) Bet-son-den-ju-jū. ❷三巻 ❼(塗考) 密乘傳授目錄、自在金剛集第八

別尊法 ❶(日) Bet-son-hō. ❷四巻 ❸存 ❹興然(保安元—建仁三 A. D. 1120—1203) ❼(塗考) 眞言宗全書刊行豫定書目

別尊要記 ❶(日) Bet-son-yō-ki. ❷四帖 ❸存 ❹成蓮等記 ❺弘安四寫 ❾(高大、寄・一・六四)(金剛三昧院)

別傳和尚行實 ❶(日) Betsu-den-o-shō-gyō-jitsu. ❷一巻 ❸存 ❼(塗考) 禪籍目錄

別傳心法議 ❶(日) Betsu-den-shim-pō-gi. (支) Pieh-chuan-hsin-fa-i. ❷一巻 ❸存、卍續二・六・二 ❹宋戒珠(雍熙二—熙寧一〇 A. D. 985—1077)撰 ❻本書は法海慧要和尚に得法した潙山の羅之戒珠和尚が或者が三乘教外に別傳せる心法を以て眞道と稱するは非たりとして、三乘教の所演は唯一心にあり、一心の法は教の本なりとして或者の說を駁したものである。高麗の僧統義天が跋文に於て、古の禪者は敎教習禪、今の禪者は雜教說禪であり、說禪者は其の名を執して其の實を遺し、習禪者は其の說に因つて其の旨を得と云ひ、中華說禪の者に異論多きが中に戒珠あつて古聖精醇の道を說くは正しく護法の善陸なりとして居るのは、當時の禪界の風潮と對比して適評と云ふべきであらう。巻末に戒珠得法の師である慧要禪師を祭る文を附載して居る。

戒珠は長樂(福建福州府長樂縣)の黃氏に生れ、篤學日に萬言を誦し能文を以つて鳴つた人で、愍要に得法し黃檗に住し、宋神宗熙寧十年九月二十三日(A. D. 1077)壽九十三、臘七十三を以つて潙山に於て示寂したものである。

❾寫本(京大、藏・二四テ・七)(大久保堅瑞)

別當大師戒牒 ❶(日) Bet-tō-dai-shi-kai-chō. ❸存 ❾寫本(京大、日大未・二六一)

別當大師略傳 ❶(日) Bet-tō-dai-shi-ryaku-den. ❷一巻 ❸存 ❹曼深撰 ❺元祿七(A. D. 1694) ❾正本(眼山文庫)

別批 ❶(日) Bep-pi. ❹乘覺 ❺本朝古疏撰述部書目に云く「或抄云:中道坊流」云々。

別峯雲禪師語要 ❶(日) Bet-pō-un-zen-ji-go-yō. (支) Pieh-feng-yün-ch'an-shih-yü-yao. ❷一巻 ❸存、卍續二・二四・一 ❻護國比叡景元禪師の法嗣、南岳下十六世別峯雲禪師の上堂示衆の語要、秉拂小參、拈古頌賛等を神めたものである。語に曰く「佛語心爲宗。無門爲法門。心不在內。不在外。不在中間。法離見聞。非耳目之所到。迹異如何體會。先聖見備無門慈慮。遂向第二頭道。應無所住。而生其心。心如虛空。無有邊際。本來無住。然後從無住本。立一切法。立處皆眞。當體空寂。若定執有心有法。正是一層在眼。空花亂墜。」云々とある。

(大久保堅瑞)

別峯殊禪師行道記 ❶(日) Bet-pō-shu-zen-ji-gyō-dō-ki. ❷一巻 ❸存、續群書類從第九 ❹大方道遐撰 ❺永樂三(A. D. 1405)
❻別峯大殊禪師の行道を記せる短篇である。其の門人が朝貢の人に托して行實を明の撰者に送りしに依つて本書を草せるものである。內容奇異神祕の事頗る多く、其の行道不思議の事蹟に富めるを知ることが出來る。巻末に曰はく、噫、予日本禪宗の學を聞くに、聖一國師の無準の道を東福に唱へしより、中興と謂ふべし。五傳して師に至り、愈々昌盛となれるを見る。師は法を和州の興聖、勢州の清水、播州の臨濟、備州の定林、河州の光通、紀州の西光に說く、厥の蹟の茂りて泯ぜず、俱に叢林となる、斯れ乃ち師の餘事なりと。以つて其の行道を知るべきである。

(後藤大用)

別峯祖珍禪師語要 ❶(日) Bep-pō-zo-chin-zen-ji-go-yō. (支) Pieh-feng-tsu-chen-ch'an-shih-yü-yao. 法石和尚語要 ❷一巻 ❸存、卍續二・二四・一 ❻古寶祐禪師 ❹宋別峯雲珍語要第四 ❹宋別峯雲珍語
❻本書の別名を法石和尚語要と云ふ。上封の佛心本才禪師の法嗣として南岳下十五世黃龍下四世の法統を繼ぎ、福州鼓山に住して、黃龍の家風を宣揚した法石和尚別峯雲珍禪師の鼓山、崇福、永天等に於ける上堂示衆の語要、立塊佛事の香語等を神めたものである。語に云ふ「大道只在目前。要且目前絲毫。狀識大道眞體。不離聲色言語。」亦曰く「佛不遠人。即心而證。法無所著。觸境皆如。」と、正に黃龍の佛法を正傳せるものと云ふべきであらう。

(大久保堅瑞)

別峯實印禪師語要 ❶(日) Bep-pō-jin-in-zen-ji-go-yō. (支) Pieh-feng-pao-yin-ch'an-shih-yü-yao. ❸存、卍續二・二四・一 ❻古寶祐禪師語要第六 ❹宋別峯實印(大觀三—紹熙元 A. D. 1109—1190)語
❻華藏密印安民禪師の法嗣、南岳下十六世慈辯禪師別峯實印和尚の徑山、靈隱等に於ける上堂語、普說、小參、法語、頌古、立地佛事などの語要を神めたものである。

別峯は嘉州(四川嘉定州)の李氏に生れ、德山清素に依つて出家し、華藏の安民に得法したもので、眉興上殿して孝宗帝に奏對し、詔して杭州徑山、靈隱に遊住し、南宋光宗帝紹熙元年十二月七日(A. D. 1190)壽八十二、臘六十四を以て順世した。悶悟克勤の法孫に當り門下に退巷道奇和尚を打出した。其の普說の語に云く「別峯箇裏。無可與兄弟商量。無可與兄弟探究。是非輪素。得失迷悟。盡是兄弟擔帶得來。自起自倒。別峯一毫不曾勤著。有志之士。切宜細意。」とある。

(大久保堅瑞)

別牧純禪師語錄 ❶(日) Betsu-boku-jun-zen-ji-go-roku. (支) Pieh-mu-ch'un-ch'an-shih-yü-lu. ❷一冊 ❸存 ❹清別牧純語、福月等編 ❺康熙年間刊 ❾(駒大)

別本心經 ❶(日) Bet-pon-shin-gyō. ❸存、燉煌石室遺書第三

別譯雜阿含經 ❶(日) Betsu-yaku-za-a-gon-kyō. (支) Pieh-i-tsa-a-han-ching. 雜阿含經 ❷十六卷(三六四經) ❸存、大正二・三七四 No. 100、館辰五、卍二三・九、北635息澗、南659息澗、元661息澗、明北542鎬因、清542鎬因、麗658不息、天656息澗、指518不息、法643不息、至591籍其、明南537智藏、Nj. 546 ❹秦代(A. D. 350—431)失譯 ❻雜阿含經の下を見よ。
❼(塗考) 法經錄第三、開元錄第四、貞元錄第六 ❺延寶七刊 ❾(高大、寄・一・二三)

別譯雜阿含經要義 ❶(日) Betsu-yaku-za-a-gon-kyō-gi. ❸存、大藏經要義第六 ❹本多日生(—昭和六 A. D. 1931)

別理隨緣二十問 ❶(日) Betsu-ri-zui-en-ni-jū-mon. (支) Pieh-li-sui-yüan-

ērh-shih-wēn. ❹〔巻〕 ❺宋代の書〔書道史一宋代〕A. D. 960—1028〕綱 ❻〔参考〕新羅海印寺の高麗版大蔵経目録

別尊雜記集聖教 ❶〔日〕Betsu-ri-zui-em-bi-shaku. ❷〔巻〕 ❸仏 ❹平安時代 ❺寛平〔寛治〕

別尊密教集記 ❶〔日〕Betsu-mi-ku-kyō. (支) Pieh-mi-hou-ching. ❷〔巻〕 ❸仏 ❹平安時代 ❺空海〔弘法大師〕 ❻〔参考〕 田中塊堂記参四〔「仏教美術」〕

別尊雜記 ❶〔日〕Betsu-yu-kyō. (支) Pieh-yü-ching. ❷〔巻〕 ❸仏 ❹平安時代 ❺空海〔弘法大師〕 ❻〔参考〕 田中塊堂記参四〔「仏教美術」〕 国史大系書目〔「国史大系」〕

別王経 ❶〔日〕Betsu-ō-gyō. (支) Pieh-wang-ching. 新撰仏教聖典 ❷〔巻〕 ❸仏 ❻〔参考〕 田中塊堂記参四

別密集記 ❶〔日〕Betsu-mi-ku-kyō. (支) Pieh-mi-hou-ching. ❸仏 ❹〔巻〕〔大正三・七六 No. 154, 10〕 ❺初唐時代 ❻西暦六世紀(A. D. 285)

別尊雜記 ❶〔日〕Betsu-yu-kyō. (支) Pieh-yü-ching. ❸仏 ❹〔巻〕〔大正三・九六 No. 154, 41〕 ❺初唐時代 ❻西暦六世紀(A. D. 285)

波羅蜜多経 ❶〔日〕Pa-ru-sha-kyō-zan-gyō. (支) Po-su-chiao-ts'an-ching. ❷〔巻〕 ❸仏 ❹〔大正三四・一一六〕 No. 2141 B 〔「国書刊行会」〕 ❺〔巻〕 ❻〔参考〕 [illegible]

ものである。書写者は[illegible]である。

この[illegible]は[illegible]氏が[illegible]年[illegible]月に[illegible]したもの[illegible]この[illegible]は[illegible]氏が[illegible]年[illegible]月に[illegible]したもの[illegible]氏は[illegible]と[illegible]氏[illegible]氏[illegible]氏

遍智院僧正は成賢と称し民部卿中納言成範の子である。建久三年三月十二日第二十四世醍醐寺座主となり四年權律師に任じ、建永元年十月更に座主に再任、承元二年大僧都に轉じた。時で僧正となり寛喜三年九月十九日壽七十を以て入寂した。（高倉永輝）

遍智院法印灌頂資記 ❶(B)Hen-chi-in-hō-in-kwan-jō-shi-ki. ❸存、續群書類從第二六

❺本書は遍智院の法印灌頂傳授の記錄である。遍智院は醍醐寺の支院で寛治年間に僧都義範の開基に成るものである。文治二年十月八條院女御暐子内親王の御所願所となつた。併し延元元年七月には南北兩朝の戰亂にて兵燹の厄に罹り他の諸院と共に幾失し以後再興を見なかつた。本書は同院の尙隆盛期の頃の法印灌頂資記で建治三年（皇紀一九三七）十二月十三日宰相阿闍梨宗淳を以て初まり弘安九年（皇紀一九四六）六月親鑒律師迄十九人を記錄し以下は欠文となつてゐる。（高倉永輝）

遍明鈔 ❶(B)Hen-myō-shō. 大日經疏遍明鈔、大疏遍明鈔、大日經大疏遍明鈔 ❷二十一卷 ❸存 ❹道範(元暦元—建長四A. D. 1184—1252)說建長四、年七五寂) 述 ❺大日經疏遍明鈔の下を見よ。 ❾錄倉、足利時代及建武三寫(寶善提院)寫本(帝國、二一九・一八)

福衫右袵左袵辨 ❶(B)Hen-san-u-in-sa-n-in-ben. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

福衫兩寺問答記 ❶(B)Hen-san-ryō-ji-Bon-dō-ki. ❷一卷 ❸存、勅會曼荼羅供次第附錄 ❹天保四寫 ❾(谷大、餘大・三一九一)

編年通論 ❶(B)Hen-nen-tō-ron. (B)Pien-nien-t'ung-lun. 隆興編年通論 ❷二十九卷 ❸存、卍續二乙・三・三—四 ❹宋釋琦 ❺隆興編年通論の下を見よ。 ❾寛文一〇刊 ❾(駒大)

變化本起經 ❶(B)Hen-ge-hon-gi-kyō. (支)Pien-hua-pen-chi-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❺長阿含經中本起上卷の抄出。 ❼(參考) 法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、武周錄第一一、開元錄第一六、貞元錄第二六

變悔喩經 ❶(B) Hen-ge-yu-kyō. (支)Pien-hui-yu-ching. ❸存、生經第四(大正三・九九No. 154, 41)

變成男子法 ❶(B)Hen-jō-nan-shi-hō. ❷一帖 ❸存 ❾德川時代寫 ❾(寶龜院)

變相五重名相略記 ❶(B)Hen-sō-go-jō-myō-sō-ryak-ki. ❷一卷 ❸存 ❾弘化三寫 ❾(谷大)

卜一山記 ❶(B) Ben-ichi-san-ki. 卜一祕記 ❸存、續群書類從第二七

❺卜一山は大和國宇田郡(現今宇陀に作る)にあり室生山と稱す。卜一山はその祕密號である。本書は同山の靈地なる所以眞言の根本道場なる因緣を說き弘法大師以來の東寺長者等が其の經營に務めた事情を記叙し、次に卜一山龍穴の神祕靈驗の顯然なる情況を附言してゐる。即室生寺の根本緣起を記述したものである。著者並に著作年代は詳かでないが續群書類從所收のものは正平八年十月權僧正隨圓が南都元興寺に於て原本より謄寫したものを以て緣本としてゐる。

卜狀 ❶(B)Ben-jō. ❹圓瑜(弘仁五—寛平三A. D. 814—891) ❼(參考) 本朝台嶺撰述害部書目

便宜抄 ❶(B)Hen-gi-shō. ❹西譽聖聽(貞治五—永享一二 A. D. 1361—1443) ❼(參考) 淨土正依經論書籍目錄

便賢者坑經 ❶(B)Ben-ken-ja-kō-kyō. (支)Pien-hsien-che-k'eng-ching. ❷一卷. ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第三、法經錄第三、仁壽錄第三、靜泰錄第三、武周錄第一一、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二四

便打語錄 ❶(B) Ben-da-go-roku. 東嶽永陵禪師語錄 ❷一冊 ❸存 ❹永陵語 ❼(參考) 禪籍目錄

便蒙魚山假譜大全 ❶(B) Ben-mō-gyo-zan-ke-fu-tai-zen. ❷一冊 ❸存 ❹松帆諦圓編 ❺大正一四刊 ❾(高大・一・四九)

辨一念義 ❶(B)Ben-ichi-nen-gi. ❷一卷 ❸存 ❹妙瑞述 ❺文政七寫 ❾(正大、一五七・五九)

辨榮聖者遺稿要集光明の生活 ❶(B)Ben-ei-shō-ja-i-kō-yō-shō-kō-myō-no-sei-kwatsu. ❷一卷 ❸存 ❺大正一三刊 ❾(龍大、二六八四・一六二)

辨榮聖者光明大系無邊光 ❶(B)Ben-ei-shō-ja-kō-Myō-tai-kō-mu-hen-kō. ❷一冊 ❸存 ❹辨榮(安政六—大正九A. D. 1859—1921) ❺昭和五刊 ❾東京ミオヤの光社

辨榮聖者道詠集 ❶(B)Ben-ei-shō-ja-dō-e-shū. ❷一冊 ❸存 ❹田中木叉編 ❺大正一五刊 ❾東京ミオヤの光社

辨麁方錄 ❶(B) Ben-Ki-hō-roku. ❷一卷 ❸存 ❹天俊(—寛政元A. D. 1789) ❺安永二(A. D. 1773)

❺淨土眞宗教典志第二に曰く「安永二年癸巳。淨和天俊作。辨麁方者謂之諸日溪所譏」云々。 ❾安永二刊 ❾(龍大、一七四・一〇)(谷大、宗大・四五五)

辨疑 ❶(B)Ben-gi. ❷一卷 ❹運歌(慶長一九—元祿六A. D. 1614—1693)述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第三

辨行信狀記附成就文記 ❶(B) Ben-gyō-shin-jō-ki-tsuketari-jō-ju-mon-ki. ❷一冊 ❸存 ❹持淨(—安政三A. D. 1856—) ❾寫本(龍大、一五〇二・六一)

辨愚問請訣 ❶(B) Ben-gu-mon-shō-ketsu. ❷一冊 ❸存 ❹愚海 ❾寫本(龍大、研眞)

辨官客承附萬元五大論 ❶(B) Ben-kwan-kyaku-shō-tsuketari-man-gen-go-dai-ron. ❷一卷 ❸存 ❹玄樣奧龍(享保五—文化一〇A. D. 1720—1813) ❾刊本(駒大〈哲・之・五・中・二九〉寫本(帝國、二三九・九七)

辨御消息集 ❶(B)Ben-go-shō-soku-shū. ❷一卷 ❸存、眞宗大系第二三、異義集(了祥稿本)第二 ❹了祥(天明八—天保一三A. D. 1788—1842)

❺本書は御消息集の一部々々を講じたものではなく、若干の文に就てその史實をたづね此を評辨したものである。（安井廣度）

辨光明眞言名加持土沙義 ❶(B) Ben-kō-myō-shin-gom-myō-ka-ji-do-sha-gi. ❷一卷 ❸存 ❹光謙(承應元—元文四A. D. 1632—1739) ❺享保四刊 ❾(谷大、餘大・三〇七四)

辨光明眞言名加持土沙義駁 ❶(B) Ben-kō-myō-shin-gom-myō-ka-ji-do-sha-gi-hakn. ❷一卷 ❸存 ❺享保四刊 ❾(谷大、餘大・三〇七四)

辨西方要法眞僞造疑 ❶(B) Ben-sai-hō-yō-hō-shin-gi-zō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹基辨(享保三—寛政三 A. D. 1718—1791)述 ❾寫本(京六、藏・一二(・一))

辨才天 ❶(B) Ben-zai-ten. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第四〇阿妥縛抄第六 ❹永投(元久二—弘安五A. D. 1205—1282)

辨才天印一明大事 ❶(B) Ben-zai-ten-in-ichi-myō-dai-ji. ❷一紙 ❸存 ❺大永四寫 ❾(寶龜院)

辨才天講式 ❶(B) Ben-zai-ten-kō-shiki. ❷一卷 ❸存、弘法大師全集第一四(儀作部)

❺講式と稱するけれども普通の講式の體裁になつて居ない、說く所の內容も如何はしい點がある。題下に大師御作と註し、弘法大師撰海の作として居るけれど儀作たること明かである。（吉祥眞雄）

辨才天作法 ❶(B) Ben-zai-ten-sa-hō. ❷一帖 ❸存 ❺寶曆二寫 ❾(寶善提院)

辨才天祭文 ❶(B)Ben-zai-ten-sai-mon. 白紙祭文 ❷一冊 ❸存 ❺長享元寫 ❾(金剛三昧院)

辨才天女法 ❶(B)Ben-zai-ten-nyo-hō. ❷一帖 ❸存 ❺文化一二寫 ❾(寶龜院)

辨才天念誦次第 ❶(B) Ben-zai-ten-nen-ju-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

辨才天祕密要集 ❶(B) Ben-zai-ten-hi-mitsu-yō-shō. 如意寶珠祕密記 ❷一卷 ❸存 ❹道光上人口傳、運海記 ❾(叡山文庫)

辨才天御歌御圖 ❶(B) Ben-zai-ten-mi-uta-mi-kuji. ❷一卷 ❸存 ❹實遍撰 ❺安政四寫 ❾(眞如藏)

辨才天利益讚嘆抄 ❶(B)Ben-zai-ten-ri-yaku-san-tan-shō. ❷五卷 ❸存 ❾刊本(谷大、餘大・二七二五)(京大、一・二一(・一)(正大、一〇三三・四五)

辨財天講式 ❶(B) Ben-zai-ten-kō-shiki. ❷一卷 ❸存 ❹最投(神護景雲元—弘仁一三A. D. 767—822)撰 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

辨財天講式 ❶(B)Ben-zai-ten-kō-shiki. ❷一軸 ❸存 ❹貞慶(久壽二—建保元A. D. 1155—1213)撰 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

辨財天講式誦經作法 ❶(B) Ben-zai-ten-kō-shiki-zu-kyō-sa-hō. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(正大、一四八・一四〇)

辨財天三經略疏 ❶(B) Ben-zai-ten-sa-n-kyō-ryaku-sho. ❷四卷 ❸存 ❹潮音道海(寛永五—元祿八 A. D. 1628—1695)述 ❺貞享四刊 ❾(京大、日大未・九五)(谷大、餘大・二四四三)(龍大、二四一九・二二—一三)

辨財天修儀作法 ❶(B) Ben-zai-ten-shu-gi-sa-hō. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(谷大、餘小・三五)

辨財天修儀私訣 ❶(B) Ben-zai-ten-shu-gi-shi-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹謙忠述 ❺寛文九寫 ❾(谷大、餘大・七八八)

辨財天女講式 ❶(B)Ben-zai-ten-nyo-kō-shiki. ❷一卷 ❸存 ❹不々庵主 ❺文政一〇刊 ❾(谷大、餘大・二九七八)

辨財天の信仰 ❶(B) Ben-zai-ten-no-shin-kō. ❷一冊 ❸存 ❹大山公淳著 ❺昭和四刊 ❾(高大、一・五七)

辨財天祕法 ❶(B) Ben-zai-ten-hi-hō. ❷一帖 ❸存 ❾德川時代寫 ❾(寶善提院)

辨財天法 ❶(B)Ben-zai-ten-hō. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❾(寶善提院)(寶龜院)

辨斥魔敎論 ❶(B) Ben-shaku-ma-kyō-ron. ❷二卷 ❸存 ❹日賀田榮著 ❺明治一九刊 ❾(龍大、二八一四・三七)

辨宗說 ❶(B)Ben-shū-setsu. (支) Pien-tsung-shuo. ❸存 ❹元行秀(報恩) ❼(參考) 禪籍目錄

辨述名體鈔 ❶(B) Ben-jutsu-myō-tai-shō. ❷一卷 ❸存、眞宗法語帖外聖教、假名聖教八八部之內、眞宗法要拾遺第四、眞宗假名法典卷中、異義集(了祥稿本)第四、異義集第一三、眞宗帖外聖教第三、眞宗聖教大全附錄之內 ❹存覺(正應三—應安六A. D. 1290—1373)

❺著作者、存覺の「淨典目錄」に「辨述名體鈔一卷」、「已上依ニ覺性了源望ニ草レ之」とあり、諸目錄之を受けてゐるが、「月茶聖教目錄」には「但當時無ニ依用」の註が加へられてゐる。從つて又之を傳へざる諸目錄もあり、僧祐の「眞宗法要藏外諸書管窺錄」によれば、「古本評に曰く、此書は淡谷佛光寺流義章鈔の光明本の爲にあらはしたまへりと云云」とし、「始終文義筆格、眞撰に相違あるべからず、文既に光明本を判じて、當流學者の巧出と云云。故に此書に依て光明本は眞師のさだめたまへるものには非ず」と云ふこと明白也。近世吉門僧中みだりがはしく光明本をもてはやして肝利之資とする人よくこの書をよみて思惟あるべきことなり」等と述べてゐるから、先づ存覺のものとして疑ないであらう。

さて本鈔一卷の內容は既に管窺の言により知られる如く、眞宗の本尊は名號（南無阿彌陀佛、南無不可思議光如來、歸命盡十方無碍光如來）本尊が正しく、其の他は血脈の傳統高祖の光明本尊あれどこれは學者の作りたるものを始めに斷定して然る後、兩者の內容と理由を一々檢討略述してゐ

數❶ 號❷ 學❸ 校❹ (名❺)(名❻)題❼ 名❽ (書❾)說❿ 解⓫ 者⓬ 內⓭ 代⓮ 年⓯ 作⓰ 著⓱ 書⓲ 說⓳ 解⓴ 者㉑ 內㉒ 代㉓ 年㉔ 作㉕ 著㉖ 書㉗ 說㉘ 解㉙ 者㉚ 內㉛ 代㉜ 年㉝ 作㉞ 著㉟ 書㊱ 說㊲ 解㊳ 者㊴ 內㊵ 代㊶ 年㊷ 作㊸ 著㊹ 書㊺ 說㊻ 解㊼ 者㊽ 內㊾ 代㊿ 年(1) 作(2) 著(3) 書(4) 說(5) 解(6) 者(7) 內(8) 代(9) 年(10) 作(11) 著(12) 書(13) 說(14) 解(15) 者(16) 內(17) 代(18) 年(19) 作(20) 著(21) 書(22) 說(23) 解(24) 者(25) 內(26) 代(27) 年(28) 作(29) 著(30) 書(31) 說(32) 解(33) 者(34) 內(35) 代(36)

る。蓋し題號の「名體鈔」なる目は、初めに題號の體について詳說し、其の名號の體を辨ずる所より來れるもので、この說述が著者の主張の主點である。

❼(參考) 淨土眞宗聖教目錄、淨典目錄、假名聖教目錄、月笠聖教目錄、眞宗法要藏外諸書管窺錄等 ❽享保四刊(龍大、研眞)(谷大、宗大・一八八)惠空寫傳本(龍大、研眞)刊本(谷大、宗小・七〇、宗洋・三四四)寫本(谷大、宗甲・一七)明治三三刊(龍大、一〇三・四一)明治四四刊(龍大、一〇三・一五)

(秃譯住)

辨述名體鈔引文解

❶(日)Ben-jutsu-myō-tai-shō-in-mon-kai. ❷四卷 ❸存 ❹喰承遠 ❺文政年間寫 ❻(谷大、宗大・三〇四三)

辨述名體鈔所出繪像

❶(日)Ben-jutsu-myō-tai-shō-shutsu-zō. ❷二卷 ❸存、異義集(了詳稿本)第七「存覺」の著、辨述名體鈔に記する所による光明本の繪像について、「南部本誓寺光明本」と校合せるもので、△印を以て本誓寺本との校合を示せば左の如くである。

△勢至香薰 △龍樹菩薩 菩提流支三蔵 南無阿彌陀佛 △彌陀尊像

△南無不可思議光佛 歸命盡十方無碍光如來 △釋迦尊像

△曇鸞和尚 △道綽禪師 △善導和尚 △懷感法師 少康法師

△法照禪師 本誓本「性信眞佛是心信海」

△聖德太子 △惠心僧都 △源空聖人 △親鸞聖人 △信空聖人 △聖覺法印

❾寫本(谷大、宗甲・一七七)

(秃譯住)

辨諸神本懷集

❶(日)Ben-shō-jin-hon-mō-sō-shū. ❷一卷 ❸存、眞宗大系第二七 ❹了詳(天明八—天保一三A. D. 1788—1842)

❺存覺の著「諸神本懷集」について、著者了詳の最も得意とする彼一流の歷史的考證をほしいまゝにし、先づ本懷集の文獻的考察より筆を起し、章を「製作考覈」、「本文顯神」、「山王古社の事」、「稻荷の事」、「鹿門の事」、「五所同體の事」、「少宰御前等の事」、「素盞嗚神親の事」、「八幡の事」、「天神の事」、「總實邪正分別」の十章に分ち、精細に本神講を通じて眞宗の神祇觀を考察してゐる。然して本鈔はもと同師撰述の「御影物語」中に出でしものである。

(秃譯住)

辨正往生極樂文論

❶(日)Ben-ō-jō-gokuraku-mon-ron. ❷一卷 ❸存 ❹刊本(谷大、宗大・二五七七)

辨正刊邪論

❶(日)Ben-shō-kan-ja-ron. ❷一卷 ❸存

❹淨土眞宗教典志第二に云く「作者未だ詳。彈ず他流徒執の戒行を勸め修一段の請我門。天和四年正月梓」云々。

❺天和四刊 ❻(谷大、宗大・二四〇〇)

辨正返破論

❶(日)Hi-n-shō-hen-pa-ron. ❷四卷 ❸存 ❹輪超遠 ❺寛文九刊 ❻(龍大、二六八四・一八一)

辨正錄

❶(日)Ben-shō-roku. ❷存 ❸龍溪性潛(慶長七—寛文一〇A. D. 1602—1670) ❹(參考) 禪籍目錄

辨定和尚行實

❶(日)Ben-jō-o-shō-gyō-jitsu. 國入辨定和尚行實 ❷一卷 ❸存 ❹喜永六刊 ❻(正大、一五一六・二五五—二五六)

辨禪見解邪正論

❶(日)Ben-zen-ken-ge-ja-shō-ron. (支)Pien-ch'an-chien-chieh-hsieh-cheng-lun. ❷一卷 ❸存 ❹(參考) 惠運禪師請來教法目錄、禪籍目錄

辨草紙

❶(日)Ben-zō-shi. ❷一卷 ❸存 ❹昌證撰 ❻(日光文庫)

辨俗難篇

❶(日)Ben-zoku-nan-pen. ❷二卷 ❸存 ❹素鈍(享保一四—文化八A. D. 1729—1811) ❻寫本(龍大、一六四・一五)

辨達磨論

❶(日)Ben-dara-ma-ron. ❸存 ❻(駒大)

辨斷鬼神二教合璧論

❶(日)Ben-dan-ki-jin-ni-kyō-gap-paki-ron. ❷五卷 ❸存 ❹孝道遠 ❺寶曆四刊 ❻(龍大、二八一三・四七)

辨致請篇

❶(日)Ben-chi-shō-hen. ❸存、昨夢稿之內 ❹僧璞(享保四—寶曆一二A. D. 1719—1762) ❻寫本(龍大、一〇四・二三)

辨天修儀法

❶(日)Ben-ten-shu-gi-hō. ❸存 ❹謙忠記 ❻(明德院)

辨天尊勤行式

❶(日)Ben-ten-zon-gyō-shiki. ❷一卷 ❸存 ❹玄航誌 ❺明治二一寫 ❻(明德院)

辨天毘沙門大黑教印

❶(日)Ben-ten-bi-sha-mon-dai-koku-kyō-in. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫

辨天表白

❶(日)Ben-ten-hyō-byakku. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

辨天略疏

❶(日)Ben-ten-ryaku-sho. ❷二冊 ❸存 ❻刊本(哲、く・一・右・一五)

辨道書目提要

❶(日)Ben-dō-sho-moku-tei-yō. ❷一卷 ❸存、眞宗全書第七四 ❹義鶴撰定(文化一一—明治二四A. D. 1814—1891) ❺明治二(A. D. 1869)

❻著者は明治初年淨土宗管長となれる人、當時九州に基督教徒の事件あり、これ本書を編纂せし動機であらう。儒道基等の諸教と佛教との同異點等を述べたる漢和古今の書目を列ね、簡單なる解題を附してゐる。序に、「切者、社友、古今學風の變遷を審にせんことを請ふ、仍て先づ其書目を錄し、以て今日の驚策に備ふ」といつてゐる。以て其の內容を推知すべきである。畢竟るところ百十七部、漢法本內傳、亦子、神道論を初め、原人論、弘明集、十七憲法、三教指歸、出定後語、獨裁邪鋼編、護國新論等に及ぶ。佛教徒の國家觀、儒道二教觀、基教觀、對排佛說觀等を調査する史料を知るに好適である。

(柏原祐義)

辨道清規

❶(日)Ben-dō-shin-gi. ❷一卷 ❸存 ❹關英道隆(建保元—弘安元A. D. 1213—1278) ❼(參考) 大日本佛教全書綴刊豫定書目

辨道話

❶(日)Ben-dō-wa. ❷一卷 ❸存、國文東方佛教叢書第一輯宗義部 ❹道元(正治二—建長五A. D. 1200—1253) ❺寫寫三(A. D. 1231)中秋日 ❻辨道話一卷は寫寫三年の示衆である。而

してこの年は道元禪師が立教開宗の第一歩とも見るべき菩勸坐禪儀御撰述後僅かに三年であつて、兩書共に坐禪の本義を宣闡したものであるから、兩者は恰も姉妹の關係に於て愈々益々立教開宗の旗幟を鮮明に遊ばされたものと信ずる。從つて菩勸坐禪儀は、其形式上の注意に於ても、坐禪の內容を說かせられる上に於ても、蓋し前後に見ない完備せるもので、兩もの其文體に於ても換して他の追隨を許さぬものがある。故に坐禪其者を遇するに他の禪宗各派と大に異なる點に本書を立教開宗の第一歩と信ずる者である。然し立教は兎も角、開宗と云ふ文字は道元禪師には適當ではない、何となれば辨道話などに宗名を立つることを甚だしく誡められて居るからである。斯やうな菩勸坐禪儀の大精神を別明に區逸され、愈々それを民衆化するために批判的な態度で述べさせられたものと拜察する。されば其組織から見るも、實に愛々として諸方面に對する論斷が下されて居る。一般的に之を見る時は、第一段に於て坐禪に關する根本的な立場や、坐禪の本質やを說かせられ、兩して第二段に於ては更に十八問答を設けて、坐禪の內容を容易に知らしめんとの老婆心を拔渥したものであるが、余の見込を以てすれば炙の如く考へる。即ち第一は坐禪の總論であり、第二は坐禪の別論である。總論は更に六段に分たれやう。(イ)總序、(ロ)傳法論、(ハ)辨道論、(ニ)傳法分派史的敍述、(ホ)坐禪論、(ヘ)修證一如論これである。第二の坐禪別論は更に十八段に分たれる、所謂前に述べた十八問答である。この十八問答の中には、極めて具體的に坐禪を菩勸する理由や、坐禪の正門である ことや、坐禪中心主義からして看經や念佛を否定し、行の中心主義よりして教理の深淺に對する批判や、三學と禪中心の關係や、四威儀と坐禪中心の教說や、修禪と本證妙修の關係、上代の祖師と坐禪、死生觀と禪の關係、坐禪と俗務の關係、末法思想の否定、即心是佛の認識と修禪、悟道と純禪の交涉、本朝に於ける優劣等に關する教說がある。而して終に結論的な態度に於て、佛法傳來と修禪の關係や、菩勸坐禪儀の推稱や、佛道弘道の是非等を述べられるから、廣括的には尨大なる佛教思想を要約したものとも云はれやう。

❼注釋書は正法眼藏の書名下を見よ ❽天明八刊 ❾(京大、一・二五(・五)(雷國、一〇六・四三)

(岡田宜法)

辨殿尼御前御書

❶(日)Ben-dono-ama-go-ze-n-go-sho. ❷一篇 ❸存、日蓮聖人御遺文之內 ❹日蓮(貞應元—弘安五A. D. 1222—1282) ❺文永一〇(A. D. 1273)九月 ❻辨殿(の御書の下を見よ。

辨殿御消息

❶(日)Ben-dono-go-shō-soku. ❷一篇 ❸存、日蓮聖人御遺文之內 ❹日蓮(貞應元—弘安五A. D. 1222—1282) ❺文永九(A. D. 1272)七月 ❻辨殿(の御書の下を見よ。 ❾(甲府、信立寺)

辨殿への御書

❶(日)Ben-dono-e-no-go-sho. ❷三篇 ❸存、日蓮聖人御遺文之內、日蓮聖人全集第五 ❹日蓮(貞應元—弘安五A. D. 1222—1282) ❻「日蓮聖人御遺文」中より六老僧の第一辨殿御ち日昭に與へた消息「辨殿御消息」(三長鈔、又は與日昭書、(辨殿尼御前御書)、與日昭母書)、「辨殿御消息」(兵部殿鈔又は與日昭書)の三書を採めたもの。三書共極めて短篇である。

始の「辨殿御消息」は文永九年七月佐渡から日昭、大進阿闍梨、三位房へ寫てたもので、「眞實見聞鈔」(其の項を參照)の訓狀である。內容は本鈔が重大な秘書で未だ弟子に傳へない深義の法門を記してあるから、互に師弟となつて善く研鑽せよと說へてある。

「尼御前御書」は文永十年九月佐渡から日昭及び其の母に與へたもので、尼の不退轉の信心を歎へ、且つ日昭に大師講の再興を命じ參考書の送附を託したものである。

終の「辨殿御消息」は建治二年七月身延から日昭に與へて、退轉者への訓戒を囑し參考書の送附とを依頼したものである。

(馬田行啓)

辨內外二境辨

❶(日)Ben-nai-ge-ni-kyō-ben. ❷二卷 ❸存、性慶義璃(一元祿頃A. D. 1688—1703—)❹內外二境辨を破斥したもの。 ❺寶永二刊 ❻(谷大、龍大・五三九)(龍大、二六五五・五三)(哲、え・五・左・三二)

辨內外二境辨問詰錄

❶(日)Ben-nai-ge-ni-kyō-ben-mon-kitsu-roku. ❷三卷 ❸存 ❹惠觀述 ❺內外二境辨問詰錄を破斥したもの。 ❺寶永二刊 ❻(谷大、龍大・五四〇)(龍大、二六五五・五四)(哲、え・五・中・一四)(貴如藏)

辨內外二境辨問詰錄附靈空和尚筆記並內外二境辨

❶(日)Ben-nai-ge-ni-kyō-hem-mon-kitsu-roku-tsuke-tari-rei-ku-o-shō-hik-ki-narabini-naige-ni-kyō-ben. ❷三卷 ❸存 ❹惠觀撰 ❺寶永二刊 ❻(立大・A一二・四二六)

辨日餘笑

❶(日)Ben-nichi-yo-shō. 修驗辨日餘笑 ❷一卷 ❸存 ❻刊本(哲、け・五・中・二六)

辨非集

❶(日)Hem-pi-shū. (支)Pien-fei-chi. ❷一卷 ❸存、卍續二・八・五 ❹宋龐蘊述 ❺本書は解空法師金剛通論を撰したるを更に細釋せるものである。內容は金剛通論の解釋にして隨文會釋し、博引佛證宋代行はれし諸書を竄ひ得る好資料である。

❼(參考) 諸宗章疏錄第二、華嚴宗經論章疏目錄 ❻寫群版(京大、藏・一〇ケ・三)

(橋本凝胤)

辨僻譚

❶(日)Ben-pe-ki-tan. ❷二卷 ❸存 ❹幻々道人 ❺出定笑語を破したもの。 ❻寫本(谷大、龍大・二三二四)

辨々道書

❶(日)Ben-b n-dō-sho. ❷一冊 ❸存 ❺元文二刊 ❻(高大、寄・一・二四)

辨々謗比丘作樂供佛章

❶(日)Bem-bem-bō-bi-ku-sa-raku-ku-butsu-shō. ❸存 ❺寶永二刊 ❻(正大、一一八

七・二二×(龍大×谷大・餘大・二一七一)

辨辨惑 ❶(日)Ben-ben-waku. 辨辨惑指南 ❷二卷 ❸存 ❹獨庵玄光(寛永七—元祿一一 A. D. 1630—1698) ❺元祿五刊 ❻(駒大)

辨辨惑指南 ❶(日)Ben-ben-waku-shi-nan. 辨辨惑 ❷二卷 ❸存、經山獨庵撰護法集之内 ❹獨庵玄光(寛永七—元祿一一 A. D. 1630—1698) ❺辨惑指南を破したるもの。尙ほ辨惑指南の下參照。 ❻刊本(谷大、餘大・八五五)×京大、一・二五ケ・五)×(高大、寄・一・五七)×(京專)

辨々惑通衢 ❶(日)Ben-ben-waku-tsū-ro. ❷二卷 ❸存 ❹寂本(寛永八—元祿一四 A. D 1631—1701)述 ❺元祿一二(A. D. 1699) ❻辨惑指南の下參照。 ❼(參考) 禪籍目錄、眞言宗全書刊行豫定書目

辨無得道論 ❶(日) Ben-mu-toku-dō-ron. ❷二卷 ❸存、淨土宗全書第八 ❹享保元(A. D. 1716) ❺日蓮出興して、淨土宗の教說を爾前無得道論、或は諸宗無得道論として成佛得道し得ざるものと排破せり、本書にも「然自ヲ日蓮者出ヒ妄說、誇ヲ眞宗ト其徒永樂寺ト詐誇、四百餘年至ヒ今弗ノ衰」云々と云へるを見ても首肯される。德川時代の初め、身延山の日遠なるもの、無得道論を作り直南より特に淨土立宗の根本宗典たる選擇集を詐誇せり、故に作者即ち護宗の熱窟を以て本書を作り、その惑迷を辨成し、以て本集開顯の意義を發揮せり、故に「身延日遠所著專破我選擇集者讀其一二句敍懺悔愛眉請客是古德所謂天魔說者」と云へり。奥書に依り、寶永三年の述作日時を記入せり。

著者岸了は、入蓮社過響到彼と號し、又自ら仰阿と稱す、尾張の人、眼山の室に入りて剃髮受業し、法を江戸小石川傳通院に於て嗣じ、初め東漸、大光、光明の諸寺に住し、正德五年京都知恩院第四十四世と成る、享保元年(A. D. 1716)寂す、壽缺く、著作に本書及び大經要義十卷あり、略傳は淨土總系譜、蓮門經藏錄參照。

内容を見るに、本書一部二卷を三科にし、題目、序文、本文の各說に辨ぜり。先づ無得道論の淵起を示し、無量義經所說の四十餘年未顯眞實の義窟を會通して、爾前諸經の妄語なる言の當らざる所由を擧げ、次に序文を辨ずるに先づ我宗所立の念佛無間の邪解を摘脊め、法然上人の選擇集所明の顯西方の業行は、その窟樂に從つて勸說せり、從つて本宗の念佛をば彌陀の本願及び釋尊の付屬の法旨に順じて正中の正となせる理合を示し、更に噤々として、淨土宗の眞意を闡示し往生教を曲解せる誤謬を說く詳言せり。

次に本文を辨ずるに、日遠の難破せる條目、悉引ノ文迷ヒ惑諸人ノ事、以ニ法華一云ニ歷劫一事、雖行千中無一事、捨ニ樂邊ニ背此土教主釋尊一事之事、骨釋尊本意事、彌陀不ヲ以ニ餘行一、誇ヲ往生本願ト唯以ニ念佛一爲ヲ往生本願ニ事、念佛與ニ法華等之行相對而立ニ難易勝劣一之誤事、選擇上云名號者是萬德所歸、悉捨餘行偏用ニ稱名一誤事、念佛名ニ大利無上一、法華等諸餘行名ニ小利有上一事、法華與ニ無量壽經一住滅之前後誤事、彌陀之光明唯攝ニ取念佛行者一事、念佛行者必可ヲ具ニ足三心一事、詩ニ證無上乘行者一云ニ詳誠一事、念佛行者可ヲ行ニ用四修法一事、來迎唯讃ニ歎念佛之行一事、唯付ニ念佛一事、觀經讀誦大乘言攝ニ法華一爲ニ劣義利勝一事、六萬恒沙諸佛不ヲ證ニ誠餘行一、證ニ誠念佛一、念佛本願餘非ニ本願一誤事の選擇集所明の要義廿條條を擧示して、彼此の難辨を共出して逐條的に一々を辨ずして去つて居る。

本書は護教の立場より非常な熱意を以つて成れるもの、能く日宗所破の當らざる旨を指摘し、却て毛を吹いて疵を求むるの觀なりと反駁せる選擇集に就ての淨日論難の代表的作品である。

❺寶永三刊 ❻(立大、A〇五・一四)×(龍大、二八一二・二二〇)×(谷大、餘大・二九三一)

辨翼贊遺事 ❶(日) Ben-yoku-san-i-ji. ❷一卷 ❸存、眞宗全書第六 ❹日淡法霖(元祿六—寛保元 A. D. 1693—1741) ❺淨土宗鎭西派の義山、骨て舜昌の法然上人繪詞傳に就いて御傳翼贊遺事を著し、その中に親鸞を以て帝西の一流に擬してゐるが、法霖これを憤し、その誤を正して辨斥したるものが本書である。法然上人は廢立、助正、傍正の三義を立て、就中、第一義によつて諸行を廢して念佛を立てゝゐられるが、舜昌の繪詞傳は助正義を立てゝ廢立義を經んじ、なほ多念の稱名を重要視してゐる、これ甚しき誤りである。また帝西は一念義を主張するも、親鸞は非一念非多念義を唱ふるを以て斷じて帝西の眞流にあらずといふ事を詳述してゐる。

❼(參考) 淨土眞宗教典志第二 ❽寫本(龍大) (柏原祐義)

辨蘭盆三位六別 ❶(日)Ben-ran-bon-san-mi-roku-betsu. ❷一卷 ❸存 ❹晦庵 ❺元祿二寫 ❻(谷大、餘大・二七二七)

辨惑觀心抄 ❶(日)Ben-waku-kan-shin-shō. ❷一卷 ❸存 ❹大石日應述 ❺明治二七刊 ❻(谷大、餘洋・三五八)(立大、B〇四・六四)×(帝國、九・二八五)

辨惑指南 ❶(日)Ben-waku-shi-nan. ❷四卷 ❸存 ❹淨嚴(寛永一六—元祿一五 A. D. 1639—1702)述 ❺元祿四(A. D. 1691) ❻卷一、二卷に密教々義中初心者の迷ひやすきもの十七條を選びて釋す。其の多分は法相、三論、天台、華嚴、禪等顯教大乘諸宗の說と比較對照して其相違點を明にし、諸宗の說を抑下せるものなり。卷三に興教大師の顯密不同頌を註し、卷四に同大師の五輪九字秘釋中顯密不同を說ける文處を載せて註し、以て顯密二教の相違を詳述す。禪宗の學徒肥前玄光本書を破斥して辨辨惑指南二卷を作る。元祿十二年雲石愛寂本辨々惑通衢二卷を著して、指南に五惜を擧げ辨辨惑指南に七矢を列ねて兩書を評し、特に後者の說を破す。又長愛は對客談叢を著はして玄光を難じ、苦琴は詳疑評釋集二卷を記して玄光等の說を貶斥し、專ら指南を

数字略號 ●題名(書名) ●数數 ●存存 ●著者 ●著書 ●著作年代 ●内容説明 ●主書(註釋書參考書) ●筆者 ●月・年の刊 ●筆者所現(書庫名) ●發行所

救ふ。これに對し、玄光門下より法源、聖僊、梅峯等出でて論陣を張る。法源の評評辨辨惑二卷、聖僊の法門禦寇編等世に行はる。

❹刊本(谷大、餘大・一一五七)(哲、け・四・有・四)(高大、寄・一・四八)(京專)×(龍大、二六六二・三七)×(正大、一四二・六〇)(帝國、一八九・一二九)

辨惑指南評註準質 ❶(日) Ben-waku-shi-nan-hyō-chū-jun-shichi. ❷一卷 ❸存 ❹妙瑞 ❺(參考) 眞言宗全書刊行豫定書目

辨惑直指 ❶(日)Ben-waku-jiki-shi. ❷二卷 ❸存 ❹道慶述 ❺寶永六刊 ❻(龍大、研佛)

辨惑章 ❶(日) Ben-waku-shō. ❷二卷 ❸存 ❹宗覺 ❺寶永三刊(谷大、餘大・八五四)(哲、え・六・右・二二)寶永五刊(龍大、二六一二・二九)(駒大)

辨惑箋 ❶(日)Ben-waku-sen. 評評辨辨箋 ❷二卷 ❸存 ❹法源 ❺辨惑指南の下參照。 ❻(參考) 禪籍目錄

辨惑編 ❶(日) Ben-waku-hen. ❷一冊 ❸存 ❹大我(寶永六—天明二A. D. 1709—1782) ❺刊本(龍大、二六八四・一五〇)×(哲、え・八・右・一八)

辨惑夜話 ❶(日)Ben-waku-ya-wa. ❷一卷 ❸存 ❹寬雄 ❺寬政元(A. D. 1789)

❻淨土眞宗教典志第二に云く「寬政元年七月。近江東光寺寬雄作。評近來異諍」云々。顯生歸命辨を破したもの。

❼寬政元刊(龍大、一七五・七九)(谷大、長保・七四)明治四〇寫(谷大、宗大・一〇二二)

辯意長者子經 ❶(日) Ben-i-chō-ja-shi-kyō. (支)Pien-i-chang-che-tzu-ching. (梵)Pratibhāna-mati-pariprcchā (藏傳) (藏) bphags-pa spobs-pahi blo gros-kyis shus-pa shes-bya-ba theg-pa chen-poi mdo. 辯意長者子所問經、辯意長者子問經 ❷一卷 ❸存、大正一四・八三七 No. 544、縮宙八、卍一五・一、北861寬、南874寬、元869寬、明北734當、清764當、麗561無、天861寬、指817無、法818無、至1095止、明南744當、Nj. 769 ❹法場譯 ❺後魏宣武帝代(A. D. 500—515)

❻本經は五冒の偈頌及び長行とより成り、その主旨は在家の比丘辯意長者への教誨に在る。

内容。佛、祇樹給孤獨園に在せしとき辯意長者の所問に應じて、(一)天に生るゝの五事。(二)人中に生ずるの五事。(三)地獄に入るの五事。(四)餓鬼に墮するの五事。(五)畜生に墮するの五事。(六)修敎を得るの五事。(七)踐奴に生ずるの五事。(八)人中に生じ口氣香潔にして身常に安く人に愛めらるゝの五事。(九)人中に生じ常に諍訟を被り形體醜惡にして常に不安なるの五事。(一〇)生ずる處常に佛法衆會に與る(乃至)の五事を說き給ふ。

長者はかくて法忍を得、型日佛を招いて飯食を供養す。その席へ前後して二人の乞兒來り、前兒は飯食を與へられずして惡念を懷き、後兒は之れを與へられ歡喜して報恩の念を感ずる。その因緣に依りて後、後兒は國王となり前兒はその車に輕殺せらるゝ。此の因緣譚が本經に對して有する意味は、布施の功德の大なることを告ぐる點にあると思はれる。

辯僞錄 ❶(日) Ben-gi-roku. (支) Pien-wei-lu. 元至元辨僞錄 ❷五卷 ❸存、大正五二・七五一 No. 2116、縮露一一、卍三五・四、明北1600鳳、明南1503當、Nj. 1607 ❹祥邁撰 ❺元至元二八(A. D. 1291) ❻南宋理宗の寶祐三年、道士丘處機、李志常等が、西京天城尖子廟を發つて文城觀とし、釋迦佛像、白玉の觀音令利寶塔を毀滅し、梵刹四百八十二箇所を占領して、老子八十一化圖を傳襲した。斯る法難が其の後も尙ほ全滅しなかつたので、至元二十八年に祥邁が勅を奉じて辨僞錄五卷を著はした。 (石橋誠道)

辯顯密二教論 ❶(日)Ben-ken-mi-tsu-ni-kyō-ron. 顯密二教論、二教論 ❷二卷 ❸存、大正七七・三七四 No. 2427、弘法大師全集第三事相部 ❹空海(寶龜五—承和三 A. D. 774—835)

❺本書は顯教と密教との別を判釋したもので、十住心の堅の判教に對して、顯密二教の優劣を對照したもので、之れを横の判教と稱する。玆で謂ゆる顯教とは法相・三論・花嚴・天台の四家大乘教に當る。此等四家大乘の至極の教理をば、密教に對比する時に、遙に劣扇なる點を明かにすることが本論の眼目と成つてゐる。この文には正宗文のみ有つて、序文も流通もない。この正宗文を古人は五段に分類して、

第一、總標綱要分

(本文)夫佛有ニ三身一、教則二種。

第二、總釋開宗分

(本文)應化開說……祕典實說。

第三、略示證說成義分

(本文)顯教契經……非ヲ謂ニ果人一也

第四、廣說問答料簡分

(本文)何以得ヲ知……皆不ヲ解不ヲ知

第五、問答決疑成宗分

(本文)問若如所說……(卷下の終)因ヲ應攝而已

次に又第四の廣說問答料簡分を五分して

第一、發問總標證說分

(本文)何以得ヲ知……具列如ヲ後

第二、勸進依證信解分

(本文)求佛之容……座聽ニ其趣一

第三、示說顯密優劣分

(本文)譬使鳴ニ顯鐘一……座有ヲ稗ニ於童幼一

第四、問答決疑顯義分

(本文)問曰古傳法者……摩ニ金剛一以擬ヲ迷

第五、依請廣示證說成義分

(本文)問者曰唯唯欽ヲ聞……(卷下の終)皆不ヲ解不ヲ知

次に又第四の問答決疑顯義を更に六分す。

第一、問答密教利益多少分齊

(本文)問曰古傳法者……合爲ニ一手鍵一

第二、重問答顯密二教差別之由

(本文)問顯密二教……是名ヲ祕也

第三、就ニ密教一更亦問難決答

数字略號 ●題名(書名) ●数數 ●存存 ●著者 ●著書 ●著作年代 ●内容説明 ●主書(註釋書參考書) ●筆者 ●月・年の刊 ●筆者所現(書庫名) ●發行所

【〜】

（漢文）巨細を尽さず……簡略。文章以別、人倫明白、

巻頭、外人更文官家図

（漢文）巨細を尽さず……巨細、……云云、巻。図書、

巻末、図書図

（漢文）巨細を尽さず……略、……巻、……巻、図書、……（巻下の条）

mitsu-ni-kyō-ron-shō. ❹巻ゟ

顕密教二教論文会記 ❶(日) Ben-kem-mitsu-ni-kyō-ron-sen-gen-ki. 二教論顕密文記 ❷六巻 ❸作 ❹宗叡僧 ❺正嘉元(A. D. 1715)
❻教論文会記、引合教義鈔、蓮華胎蔵、所依経論、所依経釈、所被教機、名体所属、三分有無、所詮名義、仏菩名義、人文所摂の十段に分ちて二教論を述ず。

顕密教二教論大綱分 ❶(日) Ben-kem-mitsu-ni-kyō-ron-tai-kō-shō. ❷一巻 ❸作 ❹宗賢(勝尾住一真法定 A. D. 1305—1352)僧 ❺弘安三年 ❻(冷大"冷四・三六)

顕密教二教論号義抄 ❶(日) Ben-kem-mitsu-ni-kyō-ron-taku-gi-roku. ❷三巻 ❸作 ❹頼瑜

顕密教二教論研尖記 ❶(日) Ben-kem-mitsu-ni-kyō-ron-tan-kai-ki. 二教論研尖記 ❷四巻 ❸作 ❹高僧(定文尤一文永定 A. D. 1204—1268)僧

顕密教二教論面授 ❶(日) Ben-kem-mitsu-ni-kyō-ron-dan-jin. 二教論面授 ❷六巻 ❸作 ❹覚鑁(一宗興法 A. D. 1715)僧

顕密教二教論注詮 ❶(日) Ben-kem-mitsu-ni-kyō-ron-chū-sen. ❷二巻 ❸作 ❹宗叡

顕密教二教論鬼問分 ❶(日) Ben-kem-mitsu-ni-kyō-ron-chō-mon-shō. ❷一巻(冷東"冷東)二宗相二教 A. D. 1095—1143)

顕密教二教論鬼問鈔 ❶(日) Ben-kem-mitsu-ni-kyō-ron-tsū-ge. 顕密二教論鬼問鈔 ❷二巻 ❸作 ❹伝能僧侶 ❺寛永一天保(元 A. D. 1639—1702)僧 ❻刊本(正天"一四三一・一一四)

顕密教二教論計量 ❶(日) Ben-kem-mitsu-ni-kyō-ron-hi-mō. 顕密二教論計量 ❷三巻 ❸作 ❹伝者(慶安二一文化 A. D. 1745—1816)
❺天明七刊 ❻(冷大"一・一四八(・一二)(冷大"寛大・一〇五七)(寛大"二五六一・二五六)

顕密教二教論計量再訓 ❶(日) Ben-kem-mitsu-ni-kyō-ron-hi-mō-sai-kun. ❷二巻 ❸作

顕密教二教論計量別記 ❶(日) Ben-kem-mitsu-ni-kyō-ron-hi-mō-bek-ki. 二教論計量別記 ❷一巻 ❸作 ❹伝者(慶安二一文化 A. D. 1745—1816)
❺刊本(冷大"寛大・一〇五七)

顕密教二教論問題 ❶(日) Ben-kem-mitsu-ni-kyō-rom-mon-dai. 顕密二教論問題 ❷五巻(冷大巻 ❸作 ❹覚鑁"明覚法僧
❺二教論に文義について異説の存するものを抜出して問答解釈す。論者は主に顕教三乗は仮説の口説、論者は下に顕教一乗は真説の口説、論者は下に顕教一乗は真説の口説、論者は下に顕教一乗は真説の口説である。
❻天保二年 ❼(冷大"寛大・一一八二〇)

顕密教二教論略説 ❶(日) Ben-kem-mitsu-ni-kyō-ron-ryaku-ge. 顕密二教論略説 二教論略説 真言顕密二教論略説 ❷五巻(冷大巻 ❸作 ❹伝者(正保二一文保二 A. D. 1645—1717)僧 ❺元禄一〇(A. D. 1697)
❻二教論を主宗に教説大綱、顕密因果、所立大義、所被機類、所立教理、所依経論の教説を述べて、次に顕密教理を論じ、本文に分科を具して簡明なる註解を施す。
❼元禄一〇刊 ❽(冷大"冷東)

顕密教論 ❶(日) Ben-shō-ri-ron. (梵)Pien-chêng-li-lun. 顕正論 ❷八巻 ❸作 ❹天竺玄二・四八九No. 2110" 編纂八"卍三〇・五一六" 宇1078明" 帝1094明" 天1089明" 明年1494日" 応1517寺" 唐1083道" 天1097明" 帝1037道" 治1065道" 宋1554禅" 明治1474医" Nj. 1501 ❺唐法琳(天竺四一六世紀一四A. D. 572—640)僧 ❻(梵本) 仏教聞来日僧

顕正論 ❶(日) Ben-shō-ron. (梵) Pien-chêng-lun. 顕正論 ❷八巻 ❸作 ❹天竺玄二・四八九No. 2110" 編纂八"卍三〇・五一六" 宇1078明" 帝1094明" 天1089明" 明年1494日" 応1517寺" 唐1083道" 天1079明" 帝1037道" 治1065道" 宋1554禅" 明治1474医 ❺唐法琳(天竺四一六世紀一四A. D. 572—640)僧
❻法の衰滅の後、邪正混合して、仏人之を文を作りて邪教に説ふものあり、武徳元年の頃、日月とは、僧して邪教を説法し、次に三宗を説き、三乗を説いて邪教を説き、仏教は中だ明白ならしめられた。故ゆえに法華大に説くべき所、正法を説く人を表して、大に本問を問ひ出した。
❼(梵本) 内務省蔵本、四天竺玄八"四天竺玄八"四天竺玄一一一一一 奈良時代写 切経尾日僧2867
❽天禄一〇刊(内閣)(冷東"冷東)(冷大"冷東・一七六)(冷大"冷・一・一八四)

(石橋智薫)

顕正論記 ❶(日) Ben-shō-ron-ki. ❷一巻 ❸作 ❹大谷(安永二一寛永三 A. D. 1773—1850) ❺寛永(冷大"冷大・一八八八)(冷大"二八二・二一〇)

顕正論講義 ❶(日)Ben-shō-ron-kō-gi. ❷一巻 ❸作" 故行信僧侶著述の書を内 ❹寛永(寛永三一文化一三 A. D. 1750—1816)僧 ❺明治四三年 ❻(冷大"冷大・一三五二)

顕正論講説 ❶(日)Ben-shō-ron-kō-jotsu. 故行信僧侶著引用顕正論講説 ❷一巻 ❸作 ❹大谷(安永二一寛永三 A. D. 1773—1850)僧" 幻雲(一文永二一 A. D. 1862)僧 ❺寛永(冷大"寛永・五三)

顕密因果集二教論 ❶(日)Ben-sō-zui-hitsu-narabini-ni-hitsu. ❷二巻 ❸作 ❹(冷東)

顕密綱要 ❶(日) Ben-dan-otsu-jō. ❷一巻 ❸作" 日本大蔵経第三大乗経疏部 ❹天禄の内外は、初めに教説は即ち以て正と説きて、次に教を以て信ずべきを示し、次に教中説教を説き、次に三宗を説き、三乗を説いて教説を説法し、次に三宗を説き、三乗を説いて教説を説法し、次に三宗を説き、三乗を説いて教説を説法し

七摩訶之巻……巻七十二・七十三頁
八法華之巻……巻七十四・七十五頁
巻末紀年表頁……巻七十六・七十七頁

巻五教巻分全巻目

巻分全十八……巻七十八・七十九頁
皆定三種……巻八十頁
教人……巻八十一頁

巻六教巻中巻目（以下二巻は巻毛所子）

五味……巻八十二頁
巻十巻……巻八十三頁

巻七教巻上巻目

巻上巻三巻……巻八十四頁
(一)正行巻上六種……巻八十五頁
(二)安楽巻巻上……巻八十六頁
(三)往還巻巻上……巻八十七頁
結勧……巻八十八頁

教中宗義項の注釈に対しては、日蓮に会ってはじめて中国分宗義を説いたが、それは嘉祥大師（A. D. 558）によって説かれ、次で天台大師によって、教中宗義三巻（A. D. 661）として説かれたとされている。其外諸宗の宗義は、既外諸宗の注釈にあるとされているが、実際は全部の書に対して、それは実際に必ずしも実践されたものとは思はれない。現今では実際に実践の証拠が外子に見出されない（但し西蔵語の記録は外子）。又十八宗義は天台宗の教理の一部分であるとされ、外道宗教（印度哲学体系大系）に対して説かれたもの。実際にあるものは唯識宗の中宗義分類宗義三巻・天台宗の中宗義分類宗義三巻・天台宗の教中宗義分類宗義三巻であるが、前三巻は説かない。

辨中邊論疏 ❶(日) Ben-chū-ben-ron-sho. (支) Pien-chung-pien-lun-su. 辨中邊論疏 ❷三巻 ❸巻 ❹光定（一説智証） A. D. 627—649—）撰 ❺〔参〕 東寺観智院目録巻下

辨中邊論疏 ❶(日) Ben-chū-ben-ron-sho. 中邊疏 ❷三巻 ❸巻 ❹無記撰 ❺〔参〕 東寺観智院目録巻下

辨中邊論疏 ❶(日) Ben-chū-ben-ron-sho. (支) Pien-chung-pien-lun-su. 辨中邊論疏記 ❷三巻 ❸巻 ❹光一 大正四四・一 No. 1835 卍続一・七五・一 ❺吉蔵撰（或説天一—未詳 A. D. 632—682）撰 ❻辨中邊論疏の下を見よ。 ❼〔参〕 西宗教学巻巻一 奈良時代巻 切紙類目録2338—2340

辨中邊論疏 ❶(日) Ben-chū-ben-ron-sho. (支) Pien-chung-pien-lun-su. 中邊疏 ❷四巻 ❸巻 ❹無記撰 ❺〔参〕 東寺観智院目録巻下

辨中邊論疏 ❶(日) Ben-chū-ben-ron-sho. (支) Pien-chung-pien-lun-su. ❷四巻 ❸巻 ❹吉蔵撰（或説天一—未詳 A. D. 617—）撰 ❺〔参〕 奈良時代巻 切紙類目録2345

辨中邊論義略纂 ❶(日) Ben-chū-ben-ron-shō-in-gwa-kai-ji-shō. (支) Pien-fan-shêng-yin-kuo-chieh-ti-chang. ❷二巻 ❸巻 ❹慈恩（西天竺—未詳 A. D. 717—777）撰 ❺〔参〕 東寺観智院目録

辨中邊論十四問題 ❶(日) Ben-rei-shi

天竺教理の目録巻下」、西宗教学巻巻一」、法相宗教学巻」、奈良時代巻 切紙類目録2341

辨中邊論疏 ❶(日) Ben-chū-ben-ron-sho. (支) Pien-chung-pien-lun-su. 中邊疏 ❷巻 ❸巻 ❹光定（一説智証） A. D. 627—649—）撰 ❺〔参〕 東寺観智院目録巻下

辨中邊論疏 ❶(日) Ben-chū-ben-ron-sho. 中邊疏 ❷三巻 ❸巻 ❹無記撰 ❺〔参〕 東寺観智院目録巻下

辨中邊論疏 ❶(日) Ben-chū-ben-ron-sho. (支) Pien-chung-pien-lun-su. 辨中邊論疏記 ❷三巻 ❸巻 ❹光一 大正四四・一 No. 1835 卍続一・七五・一 ❺吉蔵撰（或説天一—未詳 A. D. 632—682）撰 ❻辨中邊論疏の下を見よ。 ❼〔参〕 西宗教学巻巻一」、奈良時代巻 切紙類目録2338—2340

辨中邊論疏 ❶(日) Ben-chū-ben-ron-sho. (支) Pien-chung-pien-lun-su. 中邊疏 ❷四巻 ❸巻 ❹無記撰 ❺〔参〕 東寺観智院目録巻下

辨中邊論疏 ❶(日) Ben-chū-ben-ron-sho. (支) Pien-chung-pien-lun-su. ❷四巻 ❸巻 ❹吉蔵撰（或説天一—未詳 A. D. 617—）撰 ❺〔参〕 奈良時代巻 切紙類目録2345

辨中邊論義略纂 ❶(日) Ben-chū-ben-ron-shō-in-gwa-kai-ji-shō. (支) Pien-fan-shêng-yin-kuo-chieh-ti-chang. ❷二巻 ❸巻 ❹慈恩（西天竺—未詳 A. D. 717—777）撰 ❺〔参〕 東寺観智院目録

辨中邊論疏記 ❶(日) Ben-chū-ben-ron-juk-ki. (支) Pien-chung-pien-lun-shu-chi. 辨中邊論疏 ❷三巻 ❸巻 ❹光一 大正四四・一 No. 1835 卍続一・七五・一 ❺吉蔵撰（或説天一—未詳 A. D. 632—682）撰 ❻辨中邊論疏の下を見よ。 ❼〔参〕 西宗教学巻巻一」、奈良時代巻 切紙類目録2338—2340

❹光定の著作年代は辨中邊論の撰述された貞観元年（A. D. 661）以後であるとされた。而し乍ら本中に大乗荘厳論三巻を引用してあるとの話から、大師在唐の間（貞観三年）以後の著作であるものであらう。

本書は辨中邊論の現存する唯一の注釈である。「完備の結論的中宗分類宗義三巻」と共に、中邊論体系に対して、各宗の宗義を説いてある。其の中に対して、各宗は第七十三巻の第七巻に「教中宗義」として説かれている。其外諸宗の宗義は、「教中宗義」に対して、「教中宗義」は「教中宗義」の「教中宗義」に対して、「教中宗義」は「教中宗義」の「教中宗義」に対して、「教中宗義」は「教中宗義」の

ホ

反古集　❶(日)Ho-go-shū. 反故集・石手反故集　❷二巻　❸存　❹井原西鶴作　❺元禄十二(西暦一六九九)年刊

反古草紙　❶(日)Ho-go-no-ri-gami-shi-tsu. 反故紙・反故草紙　❷一巻　❸存　❹宝永七(西暦一七一〇)年刊

反古裏書　❶(日)Ho-go-no-ura-gaki. 反古裏・反古裏書・越宗和尚法記・慶古裏・慶古記　❷一巻　❸存　❹越宗瑞仙著　❺文亀年間(西暦一五〇一―一五〇四)成

反古裏書　❶(日)Ho-go-no-ura-gaki. 反古裏・反古裏書・越宗和尚法記・慶古裏・慶古記　❷一巻　❸存　❹越宗瑞仙著　❺文亀年間(西暦一五〇一―一五〇四)成

反故裏書　❶(日)Ho-go-no-ura-gaki. 反古裏・反故裏書・越宗和尚法記・慶古記・慶古裏・越宗瑞仙法語・越宗瑞仙法語・越宗瑞仙法語

日本國佛教諸宗目

法華經 ❶(日) Ho-kon. ❷五卷 ❸月光菩薩譯(一五六六 A. D. 1533) ❹〔參考〕日本國佛教諸宗目、國書目錄

法華經義疏 ❶(日)Ho-shitsu-i-kō. ❷二卷 ❸作 ❹李耳三寶 ❺(南天)

法華經疏 ❶(日)Ho-shitsu-shō. (支)P'u-shih-chi. ❷十卷 ❸作 ❹天文五年(一五三六 A. D. 1344)撰、慶長寺藏 ❺〔參考〕國書目錄 ❻國文研究室所藏(寺院・ひ・一五) 未詳二所 (寺)ア・二・中・二六)(支大"慶・二四ゑ・四)(支大"慶大・二八)(南天)(寺院"八二一・一六四)寺本(寺院"八二一・四六)(西國)

法華經疏 ❶(日)Ho-shitsu-shū-sho. (支)P'u-shih-chi-su. 法華經疏 ❷二卷 ❸作 ❹天文五年(一五三六 A. D. 1344) ❺町本三所 ❻(南天)(谷大"慶大・二七七四)(慶大"二〇五一・一五) ❼法華小三昧懺儀

法華經疏課誦 ❶(日) Ho-shitsu-shū-sho-yoku-kō. ❷二卷 ❸作 ❹〔參考〕國書目錄

法華經疏抄 ❶(日)Ho-shitsu-shū-shō. ❷二卷 ❸作 ❹寺本(谷大"慶中・二三)"慶大・三三七九)

法華經疏鈔 ❶(日)Ho-shitsu-shū-shō. ❷七卷 ❸作 ❹中原書寫 ❺〔參考〕國書目錄

法華經參問校考館抄 ❶(日)Ho-shitsu-sho-mon-shi-man-ryaku-shō. ❷一卷 ❸作 ❹北山文庫所藏 ❺寺本(南天)

法華經疏 ❶(日)Ho-shitsu-sho. (支)P'u-shih-su. 法華經疏 ❷作 ❸天文五年(一五三六 A. D. 1344) ❹寺本(西國)

法華經疏記 ❶(日) Ho-shitsu-sho-ge. ❷作方中正(慶安六一寶曆三 A. D. 1373—1451) ❸〔參考〕日本國佛教諸宗目、國書目錄

法華經疏請參 ❶(日) Ho-shitsu-sho-ji-kō. ❷二卷 ❸作 ❹寺本(慶天"体參)

法華經抄 ❶(日)Ho-shitsu-shō. ❷三卷 ❸作 ❹作者不詳(文保三一寶永)○A.D. 1354—1413) ❺〔參考〕國書目錄

法華經疏口訣 ❶(日)Ho-shitsu-hi-shi-ku-ketsu. ❷一卷 ❸作 ❹〔參考〕國書目錄

法華經文句聞書 ❶(日) Ho-shitsu-mon-shū-kō-to. ❷一卷 ❸作 ❹寺本(慶天"体參)

法華經問答 ❶(日)Ho-shitsu-mon-jin. ❷六卷 ❸作 ❹〔參考〕國書目錄

法華經 ❶(日)Ho-baku. ❷七卷 ❸寫本 ❹〔參考〕日本國佛教諸宗目、國書目錄

法華折疑論 ❶(日) Ho-ben-setsu-gi-ron. ❷一卷 ❸作 ❹日蓮宗僧 ❺寶永三年 ❻(支大"人〇五・一一〇)

法華經 ❶(日)Ho-yō. ❷作方中正(慶安六一寶曆三 A. D. 1373—1451) ❸〔參考〕日本國佛教諸宗目、國書目錄

蒙古覽 ❶(日)Ho-go-no-ura. 反古覽、反古覽、反古新書、蒙古新書、蒙古覽 ❷一卷 ❸作、蒙古新書、蒙古覽、蒙古覽 ❹文政二年(一八一九)

蒙古覽 ❶(日)Ho-go-no-ura. 反古覽、反古新書、蒙古覽、蒙古覽 ❷一卷 ❸作、蒙古新書、蒙古覽、蒙古覽 ❹文政二年(一八一九) ❺寫本(西國

❹写本 ❺写本六冊 ❻(紙四種)

若護索羅記知見別集分 ❶(日) Bo-satsu-kai-gi-ki-chi-kem-bes-shi-shō. ❷三卷 ❸存 ❹鎌倉後

❶山本良覺の中興撰述云、天台の菩薩戒義記の原文を抜粋して、四家解釋、正依法華等、他宗教家の原義を記述したもの。 ❺櫻谷法華二冊 ❻(紙四種)

若護索羅記名目 ❶(日) Bo-satsu-kai-gi-ki-myō-moku. ❷一卷 ❸存

若護索羅疏 ❶(日)Bo-satsu-kai-gi-sho. (支) Pu-sa-chieh-i-su. 菩薩戒義疏、菩薩戒義疏、菩薩戒義疏、菩薩戒義記、菩薩戒義疏 ❷二卷 ❸存、大正四〇・六六三 No. 1811、卍續一・六九・三、卍三三・二、卍續一・六九・三、明本1547原、洛1508乾、宋1620中、明本1535原、洛土宗全書第一五、Nj. 1554 ❹隋智顗(天台四祖一四歳一七A. D. 538—597)記、無四(天竺二一四歳六A. D. 561—632)記 ❺菩薩戒の菩行三種法門を解釋した天台宗の一巻十二門中、第十六菩薩心戒門の一門を抜出して、上下二巻とし、中、更に其の下巻の一部を別行して菩薩戒義疏と題した者を指す。天台の立場より菩薩戒を所詮圓頓戒大乘戒の名に於ける所詮圓頓戒大乘戒の原典である。

入文文句の第二に、先づ開章の三段を設けて一部の中間に大乘戒の解説を挿入する所詮圓頓戒、菩薩戒と称するも大乘戒の解説を挿入する所詮圓頓戒、梵網戒の中間に入法の名称を冠したもの。第一は、菩薩戒の名義を釋し、大乘の三聚浄戒を名、体、作、相、摂、攝、摂、攝、摂、攝

-mom-ben. (支)Pu-sa-chieh-ching-i-su-fa-yao-sen-pien. 梵網菩薩戒經義疏發隱問辯 ❷二卷 ❸存、卍續一・五九・五 ❹明株宏(嘉靖一二—萬曆四〇 A. D. 1532—1612 一說萬曆四三、年八一)述 ❺梵網菩薩戒經義疏發隱問辯の下を見よ。 ❻寛文六刊 ❼(京大、藏・三ホ・三)

菩薩戒經刪補疏會本 ❶(日)Bo-satsu-kai-kyō-san-pa-ri-hon. 菩薩戒經疏會本、菩薩戒經疏刪補會本 ❷二卷 ❸存 ❹明曠(—大曆一二 A. D. 777—)補、慈恵分會 ❺享和元刊 ❻(谷大、餘大・二九九二)(京大、藏・二四ホ・三)

菩薩戒經刪補疏分陰錄 ❶(日)Bo-satsu-kai-kyō-sam-pi-sho-bun-i-roku. ❷二卷 ❸存 ❹良嚴述 ❺寫本(谷大、餘大・一五二九)

菩薩戒經疏 ❶(日)Bo-satsu-kai-kyō-sho. (支)Pu-sa-chieh-ching-su. 天台菩薩戒疏、梵網經疏、戒疏刪補、菩薩戒疏、天台菩薩戒明曠疏、梵網菩薩戒經疏刪補、梵網註疏 ❷三卷 ❸存、大正四〇・五八〇 Zo. 1512、卍續一・五九・三 ❹明曠刪補 ❺唐大曆一二(A. D. 777) ❻天台菩薩戒疏の下を見よ。

菩薩戒經疏 ❶(日)Bo-satsu-kai-kyō-sho-chieh-ching-su. 梵網菩薩戒經疏註、梵網經疏註、菩薩戒疏注 ❷五卷 ❸存、卍續一・五九・三—四 ❹宋與咸(—隆興元 A. D. 1163)述 ❺梵網菩薩戒經疏註の下を見よ。 ❻刊本(正大、一一八二・四三)

菩薩戒經疏會本 ❶(日)Bo-satsu-kai-kyō-sho-e-hon. 菩薩戒經疏會本、菩薩戒經疏刪補會本 ❷二卷 ❸存 ❹唐明曠(—大曆一二 A. D. 777—)刪補、慈恵分會 ❺刊本 龍大、二四二四・八〇(正大、一一八二・四二)、立大、A一一・四五)

菩薩戒經疏山家釋 ❶(日)Bo-satsu-kai-kyō-sho-san-ke-shaku. 菩薩戒經義疏山家釋、菩薩戒經會疏山家釋、菩薩戒疏山家釋 ❷八卷 ❸存 ❹圓耳眞流(正德元 A. D. 1711—) ❺享和二刊 ❻(谷大、餘大・六四〇)(正大、一一八二・二〇)(立大、A一二・三九二)(叡山文庫)

菩薩戒經抄 ❶(日)Bo-satsu-kai-kyō-shō. (支)Pu-sa-chieh-ching-chao. ❷一卷 ❸缺 ❹(參考) 法經錄第五、仁壽錄第五、靜泰錄第五

菩薩戒經箋解 ❶(日)Bo-satsu-kai-kyō-sen-ge. 瑜伽戒本箋解 ❷三卷 ❸存、日本大藏經第二一大乘律章疏餘 ❹行性 ❺延寶八(A. D. 1680)七月日

❻本書の內容は、瑜伽戒本の序文並同戒本に對し、廣く三藏及び諸師の釋義の文を引用し以て隱文解釋を爲し、菩薩戒箋解と題し、戒本の文に達し、戒品を圓に以て疊路を開かしむにあり、此本に再治未再治の兩本あり其の再治本に勘文を附せり。

❺延寶九刊 ❻(谷大、餘大・三四三四)(龍大、二四二四・一〇)(正大、一一八二・九二)

(北川智海)

菩薩戒經箋解勘文 ❶(日)Bo-satsu-kai-kyō-sen-ge-kan-mon. 瑜伽戒本箋解勘文 ❷三卷 ❸存 ❹玄道述 ❺貞享三刊 ❻(谷大、餘大・二二三)

菩薩戒遺偈鈔 ❶(日)Bo-satsu-kai-yui-sho. 菩薩戒通受遺疑鈔 ❷一卷 ❸存、大正七四・四八 Zo. 2353、日本大藏經第三五戒律宗章疏第二 ❹覺盛(建久五—建長元 A. D. 1194—1249)述 ❺菩薩戒通受遺疑鈔の下を見よ。 ❻(參考) 諸宗章疏錄第二、大日本佛教全書續刊豫定書目

菩薩戒諸註 ❶(日)Bo-satsu-kai-sha-cho. 梵網菩薩戒經諸註 ❷一卷 ❸存 ❹淨厳(寛永一六—元祿一五 A. D. 1639—1703)述 ❺明治一三刊 ❻(高大、寄・一・二三)(京專)(帝國、一四一・一六六)

菩薩戒御發願文 ❶(日)Bo-satsu-kai-go-hatsu-gan-mon. ❷一卷 ❸存、傳教大師全集第一(新) ❹最澄(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822)

❺傳教大師、菩薩の願願大乘を弘めんとする發願文なり。文、一紙に過ぎず。一乘戒建願記の末文と大同小異の構文なり。古來廣く傳へられたるものゝ如く、奥書に「往古は山門の戒壇に於て、受戒の者へ此の一紙を賜ふ、大師御作の文と申し傳ふるなり。」と誌すも、大師の親撰と斷ずること能はず、恐者僞撰。

(愛入亮忠)

菩薩戒綱要鈔 ❶(日)Bo-satsu-kai-ko-yō-shō. ❷一卷 ❸存、大正七四・九八 2358 B

❻本書の內容は十門を立て律義の要文を明せり。一に三國傳來、二に諸戒大綱、三に請戒差替、四に通別受法、五に橋律儀戒、六に攝善法戒、七に饒益有情戒、八に別受行相、九に通別懺法、十に問答分別を明す。以上十門の內、第九の通別懺法及第十の問答分別は、興正菩薩の所立に依れり、其他の八門は普通を明す、蓋し其の通受再興を明す中に於て、東大寺法華堂に於て自誓受戒とあるも大佛殿にありて法華堂に於ては唯好相を祈り得たる所にあり、又別受再興を明す中に於て、家原寺にありて十人受を行とあるは五人受の誤りならん乎。十人受を行ふには東大招提兩寺に如法實壇現存せるに、何ぞ捨て彼の地に於て行ふ理あるや、十人受の戒壇に於ては五人受の法を行ふ事能はざるより、他國に屬する彼の地を撰定し行じたるに外ならず。又本書の作者年代共未詳なるも、書中に凝然大德の撰書を引用あるを以て、其の以後の撰出なるべし、何づれにあるも未だ大悲興正の律法再興の深意を了解なき者の作ならん乎、律儀は能く行ふ者に限り了得し、邪ぶのみの者に於ては、絶對に知る事能はざる處である。

❼寫本(谷大、餘大・三四一九)

(北川智海)

菩薩戒羯磨文 ❶(日)Bo-satsu-kai-kom-ma-mon. (支)Pu-sa-chieh-chieh-mo-wen. 菩薩羯磨、菩薩羯磨文 ❷一卷 ❸存、大正二四・一一〇四 Zo. 1499、續列二、卍一七・二、北537念、南531念、元544念、明北1092篤、清1092篤、藤541克、天544念、指501克、法535克、至1189母、明南1232職、Nj. 1097 ❹彌勒菩薩說、玄奘(仁壽二—麟德元 A. D. 602—664)譯 ❺唐

貞觀二三(A. D. 649)

❻『菩薩戒羯磨文』一卷は『瑜伽論』所說の大乘戒である四種他勝處法を授くる行儀を記したものである。第一受戒羯磨は正しく授戒の作法を說けるもので、出家たると在家たるとを問はず、大乘の三聚淨戒を受けんとせば、智德ある戒師の所に至りて受戒を請ひ、自ら戒に於て殷重の心を起し、佛像の前にも乞戒す。戒師は受者に向ひて三聚淨戒の功德を述べて戒を授くる儀を行ふ。次に佛菩薩に對して授戒し終れることを告白し、其證明を請ひ、佛菩薩は授戒に依る現相を見て受者を眷念したまふ。次ぎに戒律儀として四種他勝處法たる自ら讚じて他をそしること。財又は法を慳みて與へざること。瞋恨して他の來り謝するを受入れざること。大乘の菩薩藏を誇ることを說き、決して毀犯することなかれと敎へ、若し犯したる場合に小乘律と異る點を明かす。次ぎに菩薩戒の優秀なる所以を述べ、諸佛菩薩を頂禮して退場することを記す。更に戒師の賛格、受者の用意、適當なる戒師なき時の自誓受の行儀を說く。第二懺罪羯磨はもし戒律儀を違犯したる時、それが上品の罪によるものならば更に改めて受戒すべく、中品の罪によるものならば三師に對して發露懺悔する作法を示し、下品の罪によるものならば一師に對する作法を說き、もし所對の師なき時は自誓を以て將來を誡むべきを說く。第三得捨差別は捨戒の二緣、菩提を得るまで菩薩戒を捨てざること、生涯が轉變する毎に受くるもそれは新受でないことを明かす。

此一文は玄奘三藏が菩薩戒を授くる際に『瑜伽論』の中から適宜に抄出して編綴したものであらう。故に取り出されたのは『論』の第四十卷の終部であるが、之の順序は著しく彼と異り編綴の跡が明らかである。此點に於てはかの『菩薩戒本』は亦『論』の抄出であるけれども、四種他勝處法と四十二違犯例、及び懺悔の部だけを大體に『論』のまゝに取つたものと異るのである。

玄奘三藏が之を編したのは、靖邁の序文によつて唐の貞觀二十三年なるを知るのであるが、そして「皇上天下を御するの始月」とあるに依るに、高宗は二十三年五月に即位し、年號を永徽と改めたのであるから、正しくは永徽元年といふべきである。『大慈恩寺三藏法師傳』第七には其翌年春正月に、瀛州刺史賈敦頤、瀛州刺史李道裕、穀州刺史杜正倫、恒州刺史趙敬因等が、玄奘三藏から菩薩戒を受け、歡喜無量であつたことが記されてゐる。蓋し此『菩薩戒羯磨文』を用ひたのであらう。

❼(參考) 內典錄第五、譯經圖紀第四、開元錄第八、貞元錄第一一 ❽寶曆一一寫

(大野法道)

菩薩戒羯磨文 ❶(日)Bo-satsu-kai-kom-ma-mon. 國譯菩薩戒羯磨文 ❷一卷 ❸存、國譯一切經律部第一二 ❹大野法道譯

菩薩戒羯磨文釋 ❶(日)Bo-satsu-kai-kom-ma-mon-shaku. (支)Pu-sa-chieh-chieh-mo-wen-shih. ❷一卷 ❸存、卍續一・六一・三 ❹明智旭(萬曆二七—永曆九 A. D. 1599—1655)釋

❻明の智旭は明天台學の雄であり淨禪一致論者であるが、本書には特に禪を主張せるなく專ら戒儀について釋をなす。菩薩戒羯磨文は、瑜伽師地論本地分中菩薩之戒品であり。これを受戒羯磨第一、懺悔羯磨第二、得捨差別第三の三つに分つ。本書この三科につきて戒儀を說明するものと內容科段は次の如くである。

一、受戒羯磨。明從師受(A)。明像前受(B)。

(A)啓白請證(a)、正受戒法(b)、總結畢儀(c)、揀擇非器(d)。

(a)—(一)求許、(二)正白(求受者白—白儀・白辭・白我淨心・授法者白—審問・啓白)、(三)明後獲益。

(b)(一)戒相(標微。別釋—讚毀他戒・慳惜財法戒・瞋不受悔戒・說相似法戒。結成)。(二)犯相(出過。簡別)。(三)簡異小乘(明不失。明失已容受)。(四)結歎功勝(明勝。例明)。

(d)(一)不從受。(二)不爲說。

二、懺罪羯磨第二。誡令勿犯(A)。說犯應懺(B)。

(A)總誡疾除(a)。別示二懺(b)。

(b)(一)對首懺(明對懺—明所對人・明懺法差別、(イ)懺上品罪犯、(ロ)懺中品罪懺、(ハ)懺下品罪犯、(二)自誓懺。

三、得捨差別第三。明捨戒差別(A)。明得戒差別(B)。(「イ」永得。「ロ」轉生重受長)

(佐藤密雄)

菩薩戒羯磨文釋文抄 ❶(日)Bo-satsu-kai-kom-ma-mon-shaku-mon-shō. 菩薩戒本釋文鈔 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第二一大乘律章疏餘 ❹觀尊(建仁元—正應三 A. D. 1301—1290)述 ❺文永二(A. D. 1265)五月十二日

❻本書の內容は、彌勒菩薩の所說菩薩受戒羯磨の文を三門分別を以て註釋せり。一に受戒羯磨の文を明し、二に懺罪羯磨の文を明し、三に得捨差別を明す。我國は大悲興正の二菩薩以來、通受戒は專ら此の羯磨を依用せり、但し彼の妙立靈空始め安樂律院一派は、瓔珞經の所說羯磨を依用せり、其南都北嶺の異と爲すのみ。

❼刊本(正大、一一八二・一四〇)(京專)

(北川智海)

菩薩戒羯磨文釋文鈔 ❶(日)Bo-satsu-kai-kom-ma-mon-shaku-mon-shō. 科註菩薩戒羯磨文釋文鈔 ❷一卷 ❸存 ❹刊本(高大・寄・一・二三)

菩薩戒作法 ❶(日)Bo-satsu-kai-sa-hō. 佛祖正傳菩薩戒作法 ❷一卷 ❸存 ❹孤雲懷奘(建久八—弘安二 A. D. 1197—1279) ❺(參考) 譯藤目錄

菩薩戒私記 ❶(日)Bo-satsu-kai-shi-ki. ❷一卷 ❸安然(永和八—延喜年間 A. D. 841—901)述

❻本朝台祖撰述密部書目に云く「或云菩提戒廣云々。

❼(參考) 諸宗章疏錄第二、山家祖德撰述篇目集卷上

菩薩戒自在經 ❶(日)Bo-satsu-kai